

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第123集

# 馬立Ⅰ・太田遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

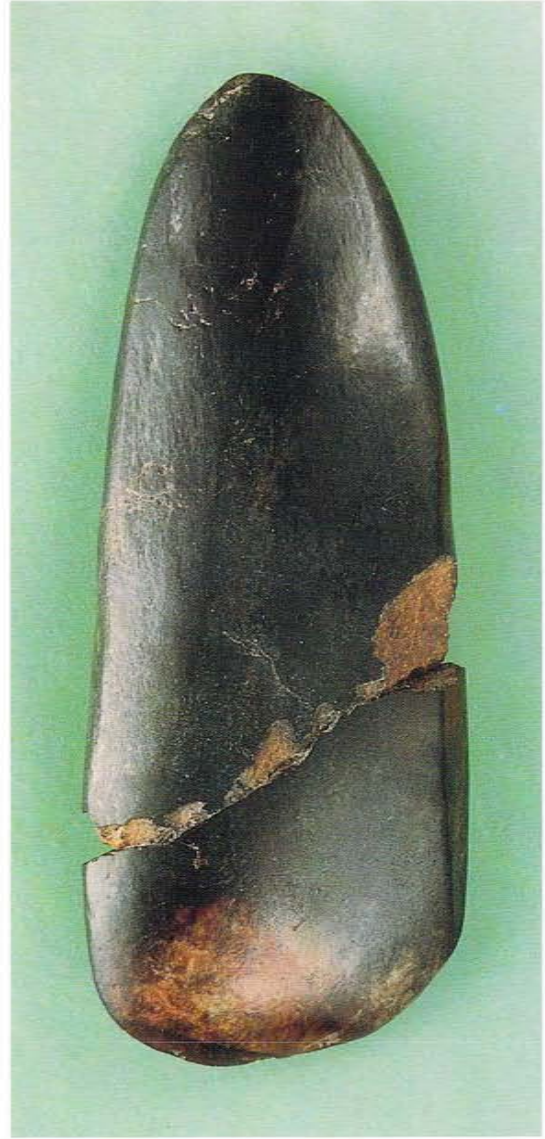
第1分冊  
(本文・図版・表)

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

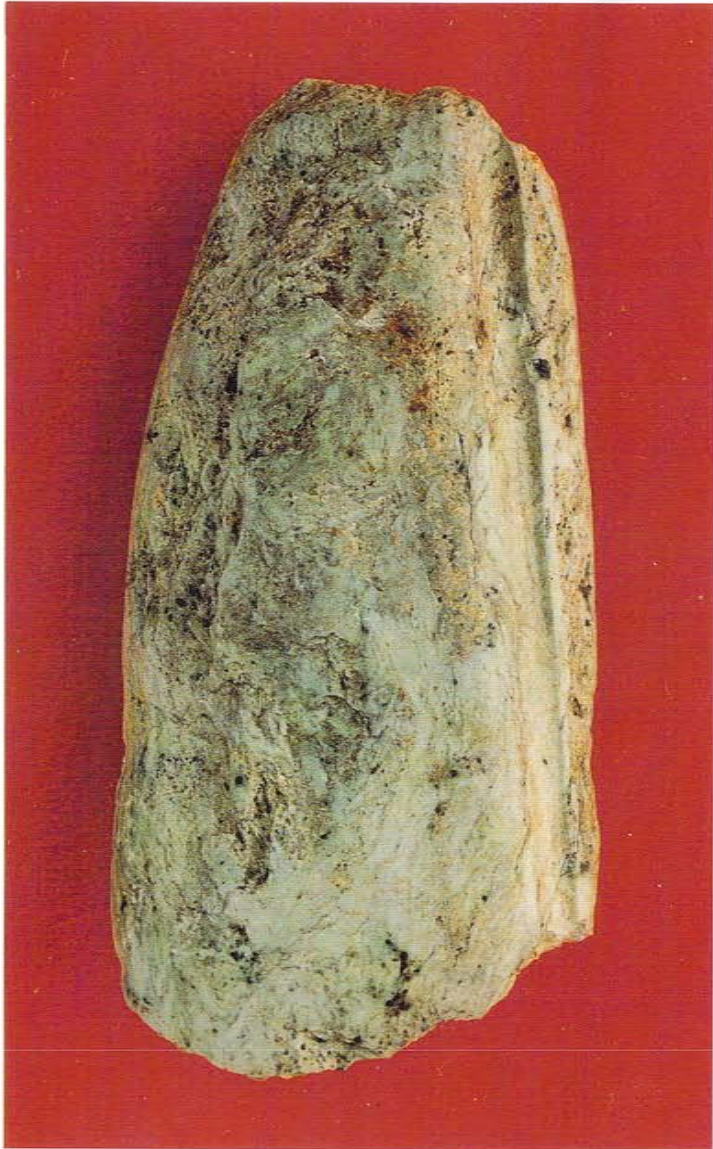
# 馬立 I ・ 太田遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

第 1 分冊  
(本文・図版・表)



縄文時代早期の磨製石斧（馬立 I 遺跡 F II j 6 住居跡出土 遺物番号310）



縄文時代早期の擦切石斧（馬立 I 遺跡 G II e3-1 住居跡出土 遺物番号851）

## 序

本県には縄文時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地があり、7,000箇所にあふ遺跡が確認されております。これら先人の残した文化財を保護し、保存していくことは県民に課せられた責務であります。

一方、広大な面積を有する本県の大部分は山地であり、地域開発に伴う交通網の整備も重要な一施策であります。特に東北縦貫自動車道の建設は、産業経済開発の大動脈として多方面からの期待を担うものであります。

このような埋蔵文化財の保護・保存と開発との調和も今日的課題であり、当岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センターの創設以来岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によって止むを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、記録保存する措置をとってまいりました。

東北縦貫自動車道八戸線に関連する遺跡は、安代町から青森県境まで53遺跡があり、二戸市に所在する6遺跡については昭和60・61年に野外調査を終了し、発掘調査報告書の作成をすすめてまいりました。

本報告の馬立I遺跡は、二戸市南西の丘陵縁辺部に立地し、昭和61年の発掘調査によって縄文・弥生時代の竪穴住居跡等が多数発見されました。特に縄文時代早期の遺構と遺物は、集落の変遷や土器編年の手懸りとなる貴重な資料であります。

この報告書が広く活用され、斯学の研究のみならず埋蔵文化財に対する理解の一助になれば幸いです。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に御援助、御協力を賜りました日本道路公団仙台建設局一戸工事事務所、二戸市・浄法寺町教育委員会をはじめ、関係各位に衷心より謝意を表します。

昭和63年3月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 中 村 直

## 例 言

1. 本報告書は、岩手県二戸市福田字馬立13ほかに所在する馬立Ⅰ遺跡と、二戸市福田字野場塚1ほかに所在する太田遺跡の発掘調査結果を収録したものである。  
遺跡台帳番号は、馬立Ⅰ遺跡 JE18-2289、太田遺跡 JE18-2287である。
2. 本遺跡の調査は東北縦貫自動車道八戸線建設に伴う緊急発掘調査である。調査は日本道路公団仙台建設局と岩手県教育委員会事務局文化課との協議を経て、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 2遺跡の発掘調査面積、調査期間、整理期間は次のとおりである。  
馬立Ⅰ遺跡 発掘調査面積 8,810㎡ 調査期間 昭和61年5月12日～10月31日。  
整理期間 昭和61年11月1日～昭和63年3月31日  
太田遺跡 発掘調査面積 890㎡ 調査期間 昭和61年4月14日～5月11日  
整理期間 昭和61年11月1日～11月30日
4. 遺跡の発掘担当者は次のとおりである。  
馬立Ⅰ遺跡 田鎖壽夫、石川長喜、平井 進、玉川英喜、酒井宗孝  
太田遺跡 石川長喜、田鎖壽夫
5. 発掘調査に際して、二戸市教育委員会、浄法寺町教育委員会の御協力をいただいた。
6. 本遺跡から出土した石器の石質鑑定は、佐藤二郎氏（佐藤地質工学研究所）に依頼した。縄文時代早期貝殻文系土器の貝殻文施文手法について、名久井文明氏（岩手県立博物館）から御助言をいただいた。
7. 本報告書の執筆分担は次のとおりである。  
馬立Ⅰ遺跡 調査に至る経過……昆野 靖、遺跡の立地と環境……酒井宗孝  
検出された遺構……田鎖壽夫、石川長喜、平井 進、玉川英喜  
出土した遺物・まとめ……田鎖壽夫  
太田遺跡 石川長喜  
報告書の編集・校正 田鎖壽夫
8. 野外調査にあたって、二戸市、浄法寺町、一戸町の方々の協力を得た。
9. 発掘調査に伴う諸記録及び出土遺物等は、馬立Ⅰ遺跡にはMDⅠ-86、太田遺跡にはOT-86の遺跡略号を付して岩手県立埋蔵文化財センターに保管されている。
10. 本報告書の図版で使用した記号、スクリーン・トーンの表示及び縮尺率等についての説明は、「Ⅲ. 調査の経過と方法」に記している。

# 本文目次

序  
例言

I	調査に至る経過	2
II	遺跡の立地と環境	
1	地形と地質	3
2	周辺の遺跡	11
III	調査の経過と方法	15
IV	馬立 I 遺跡	
1	検出された遺構と遺物	
(1)	竪穴住居跡	25
(2)	住居跡状遺構	196
(3)	炉・焼土遺構	201
(4)	ピット	204
(5)	土器埋設遺構	222
(6)	陥し穴	227
(7)	近世炭窯	241
2	遺構外出土遺物	
(1)	縄文土器	257
(2)	土製品	261
(3)	土偶	261
(4)	石器	261
3	まとめ	
(1)	検出された遺構とその時代・時期の特定について	374
(2)	縄文時代早期の住居跡と伴出土器について	374
(3)	縄文時代後期初頭から前葉の住居跡と伴出土器について	379
V	太田遺跡	
1	調査の結果	423
2	まとめ	423

## 図 版 目 次

<p>第1図 岩手県全体図…………… 1</p> <p>第2図 遺跡の位置と周辺の地形図……………5・6</p> <p>第3図 馬立Ⅰ・太田・馬立Ⅱ遺跡 地形断面図……………7・8</p> <p>第4図 地形分類図…………… 9</p> <p>第5図 土層断面柱状図……………10</p> <p>第6図 周辺の遺跡分布図……………13・14</p> <p>第7図 馬立Ⅰ・太田遺跡グリット 配置図……………17・18 馬立Ⅰ遺跡</p> <p>第8図 遺構配置図……………23・24</p> <p>第9図 D I h 9 住居跡平面他……………26 D I h 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1)</p> <p>第10図 D I i 6 住居跡群平面他……………28</p> <p>第11図 D I i 6 住居跡群出土遺物……………29 (遺物番号2～21)</p> <p>第12図 D II d 10 住居跡平面他……………31</p> <p>第13図 D II d 10 住居跡出土遺物……………32 (遺物番号22～26)</p> <p>第14図 D II g 3 住居跡平面他……………33 D II g 3 住居跡出土遺物 (遺物番号27)</p> <p>第15図 E I h 7 住居跡平面他……………35 E I h 7 住居跡出土遺物 (遺物番号28～40)</p> <p>第16～17図……………36・37 E I h 7 住居跡出土遺物 (遺物番号41～124)</p>	<p>第18図 F II j 3 - 1 住居跡平面他……………39</p> <p>第19図 F II j 3 - 2 住居跡平面他……………40 F II j 3 住居跡群出土遺物 (遺物番号125～134)</p> <p>第20図 F II j 3 住居跡群出土遺物……………41 (遺物番号135～146)</p> <p>第21図 F II j 6 住居跡平面他……………43</p> <p>第22～32図……………44～54 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号147～316)</p> <p>第33図 G I e 8 - 1・2 住居跡平面他 …… 57</p> <p>第34～36図……………58～60 G I e 8 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号317～366)</p> <p>第37図 G I e 9 - 1 住居跡平面他……………62</p> <p>第38図 G I e 9 - 2 住居跡平面他……………63</p> <p>第39～44図……………64～69 G I e 9 住居跡群出土遺物 (遺物番号367～480)</p> <p>第45図 G I e 10 - 1・2 住居跡平面他……………71</p> <p>第46図 G I e 10 - 1 住居跡出土遺物 …… 72 (遺物番号481)</p> <p>第47図 G I g 7 住居跡平面他……………73 G I g 7 住居跡出土遺物 (遺物番号482～485)</p> <p>第48図 G I g 9 住居跡平面他……………75</p> <p>第49～52図……………76～79 G I g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号486～574)</p>
--	--



第53図	G I h 8 住居跡平面他……………80	第73～74図……………106・107	
	G I h 8 住居跡出土遺物	G II c 3 住居跡出土遺物	
	(遺物番号575～580)	(遺物番号769～799)	
第54図	G I h 9 - 1 住居跡平面他……………83	第75図	G II e 3 - 1・2 住居跡平面他……………109
第55図	G I h 9 - 1 住居跡断面他……………84	第76～79図……………110～113	
	G I h 9 - 1 住居跡出土遺物	G II e 3 - 1 住居跡出土遺物	
	(遺物番号581～589)	(遺物番号800～854)	
第56～59図……………85～88		第79図	G II e 3 - 2 住居跡出土遺物 …… 113
	G I h 9 - 1 住居跡出土遺物	(遺物番号855～863)	
	(遺物番号590～664)	第80図	G II e 10 住居跡平面他 …… 115
第60図	G I h 9 - 2 住居跡平面他……………89	G II e 10 住居跡出土遺物	
第61図	G I h 9 - 2 住居跡柱穴断面……………90	(遺物番号864～869)	
	G I h 9 - 2 住居跡出土遺物	第81図	G II f 2 - 1・2 住居跡平面他……………117
	(遺物番号665～666)	第82～89図……………118～125	
第62図	G I h 10 - 1 住居跡平面他 …… 92	G II f 2 - 1 住居跡出土遺物	
第63図	G I h 10 - 2 住居跡平面他……………93	(遺物番号870～1043)	
	G I h 10 - 1・2 住居跡出土遺物	第89～90図……………125・126	
	(遺物番号667～672)	G II f 2 - 2 住居跡出土遺物	
第64図	G I h 10 - 2 住居跡出土遺物……………94	(遺物番号1044～1072)	
	(遺物番号673～690)	第91図	G II g 1 - 1 住居跡平面他 …… 128
第65図	G I i 8 住居跡平面他……………96	G II g 1 - 1 住居跡出土遺物	
第66～67図……………97・98		(遺物番号1073～1083)	
	G I i 8 住居跡出土遺物	第92図	G II g 1 - 2 住居跡平面他 …… 129
	(遺物番号691～737)	G II g 1 - 2 住居跡出土遺物	
第68図	G I i 9 住居跡平面他……………99	(遺物番号1084～1085)	
第69図	G I i 9 住居跡出土遺物 …… 100	第93図	G II g 1 - 2 住居跡出土遺物 …… 130
	(遺物番号738～759)	(遺物番号1086～1091)	
第70図	G II b 2 住居跡平面他 …… 102	第94図	G II g 1 - 3 住居跡平面他 …… 132
	G II b 2 住居跡出土遺物	G II g 1 - 3 住居跡出土遺物	
	(遺物番号760～768)	(遺物番号1092)	
第71図	G II b 10 住居跡平面他 …… 104	第95図	G II g 3 住居跡平面他 …… 133
第72図	G II c 3 住居跡平面他 …… 105	第95～97図……………133～135	

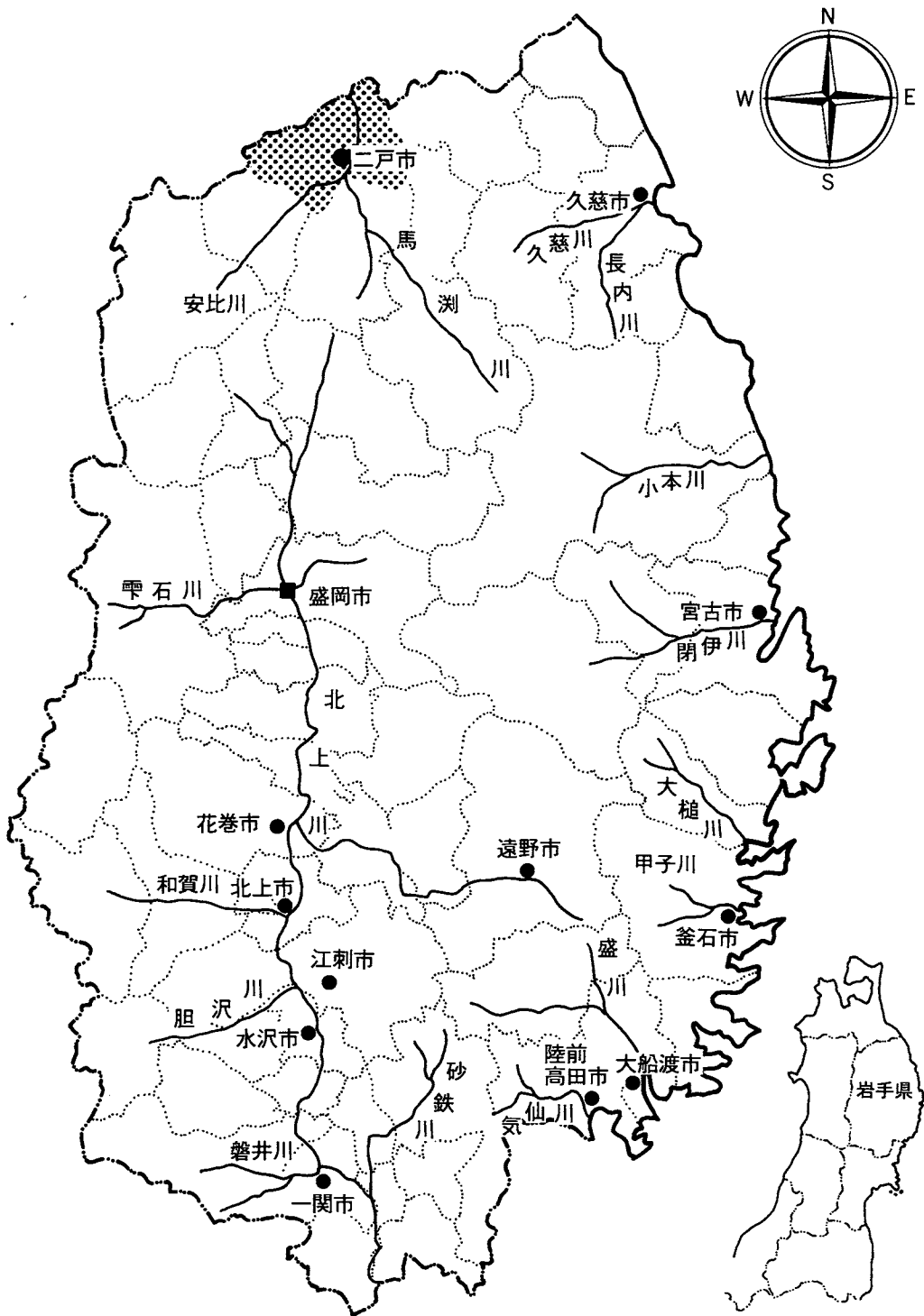
	G II g 3 住居跡出土遺物 (遺物番号1093~1137)		第120~123図……………164~167
第98図	G II g 5・G II g 6 住居跡平面他 …… 138		G II i 7 住居跡出土遺物 (遺物番号1438~1512)
第99~100図……………	139・140	第124図	G II j 4 住居跡平面他……………168
	G II g 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1138~1168)		G II j 4 住居跡出土遺物 (遺物番号1513~1515)
第100~104図……………	140~144	第125図	G II j 7 住居跡炉平面他……………170
	G II g 6 住居跡出土遺物 (遺物番号1169~1245)		G II j 7 住居跡出土遺物 (遺物番号1516~1518)
第105図	G II g 9 住居跡平面他……………145	第126図	G II j 8 住居跡炉平面他……………171
第106~108図……………	146~148		G II j 8 住居跡出土遺物 (遺物番号1519)
	G II g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1246~1296)	第127図	G III b 1 住居跡平面他……………172
第109図	G II h 1 住居跡平面他……………150	第128図	H I a 6 住居跡平面他……………174
	G II h 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1297~1306)	第129図	H I a 6 住居跡出土遺物……………175
第110図	G II h 1 住居跡出土遺物……………151		(遺物番号1520~1539)
	(遺物番号1307~1322)	第130図	H I c 7 - 1 住居跡平面他……………177
第111図	G II h 5 住居跡平面他……………153	第131図	H I c 7 - 2 住居跡平面他……………178
	G II h 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1323~1330)	第132~135図……………	179~182
第112~113図……………	154・155		H I c 7 - 1・2 住居跡出土遺物 (遺物番号1540~1643)
	G II h 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1331~1364)	第136図	H I c 10住居跡平面他……………184
第114図	G II h 9 住居跡平面他……………156	第137~138図……………	185・186
第115~116図……………	157・158		H I c 10住居跡出土遺物 (遺物番号1644~1695)
	G II h 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1365~1411)	第139図	H II a 2 - 1 住居跡平面他……………187
第117図	G II i 2 住居跡平面他……………160		H II a 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1696~1702)
第118図	G II i 2 住居跡出土遺物……………161	第140図	H II a 2 - 2 住居跡平面……………190
	(遺物番号1412~1437)		H II a 3 住居跡平面他
第119図	G II i 7 住居跡平面他……………163	第141~143図……………	191~193
			H II a 2 - 2 住居跡出土遺物

	(遺物番号1703~1736)	
第143図	H II a 3 住居跡出土遺物……………193	
	(遺物番号1737~1754)	
第144図	H II a 5 住居跡炉平面他……………194	
	H II a 5 住居跡出土遺物	
	(遺物番号1755~1765)	
第145図	H II f 3 住居跡平面他……………197	
	H II f 3 住居跡出土遺物	
	(遺物番号1766~1781)	
第146図	H III b 1 住居跡平面他……………198	
	H III b 1 住居跡出土遺物	
	(遺物番号1782~1785)	
第147図	H III b 1 住居跡出土遺物……………199	
	(遺物番号1786~1806)	
第148図	G II g 3 住居跡状遺構平面他………200	
	G II g 3 住居跡状遺構出土遺物	
	(遺物番号1807~1814)	
第149図	炉・焼土遺構平面他……………203	
第150図	G II h 6 焼土遺構出土遺物……………204	
	(遺物番号1815~1824)	
第151~158図	……………213~220	
	ピット平面・断面	
第159~160図	……………221・222	
	ピット出土遺物	
	(遺物番号1825~1842)	
第161図	土器埋設遺構平面・断面……………224	
第162~163図	……………225~226	
	土器埋設遺構遺物	
	(遺物番号1843~1848)	
第164~170図	……………243~249	
	陥し穴平面・断面	
第171~176図	……………250~255	

	陥し穴出土遺物	
	(遺物番号1849~1951)	
第177図	G II i 4 炭窯平面・断面……………256	
第178~211図	……………264~297	
	遺構外出土遺物 (縄文時代早期)	
	(遺物番号1952~2436)	
第212~213図	……………298・299	
	遺構外出土遺物 (縄文時代前期)	
	(遺物番号2437~2464)	
第214~260図	……………300~346	
	遺構外出土遺物 (縄文時代後期)	
	(遺物番号2465~3045)	
第260~262図	……………346~348	
	遺構外出土遺物 (土製品・土偶)	
	(遺物番号3046~3099)	
第263~287図	……………349~373	
	遺構外出土遺物 (石器)	
	(遺物番号3100~3431)	
第288図	縄文時代早期住居跡の占地……………377	
	<b>太田遺跡</b>	
第289図	太田遺跡出土遺物……………423	

## 表 目 次

表 1 ~ 3	竪穴住居跡一覧表	382 ~ 384
表 4	ピット一覧表	385
表 5 ~ 6	陥し穴一覧表	386 · 387
表 7 ~ 39	石器計測一覧表	388 ~ 420



第1図 岩手県全体図

## I 調査に至る経過

東北縦貫自動車道八戸線は二戸郡安代町で青森線と分岐し、浄法寺町、二戸市、一戸町、九戸村、軽米町を経て青森県八戸市に至る延長68kmの高速自動車道である。このうち、本県にかかる第7次及び第8次施行命令区間は54.3kmであり、一戸インターチェンジ以北の第7次施行命令区間に所在する遺跡の発掘調査は昭和58年までに終了している。

二戸郡安代町から浄法寺町、二戸市、一戸町に至る27.6kmは、昭和53年11月に第8次施行命令区間となり、岩手県教育委員会はこの間に所在する埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについて日本道路公団と協議を重ねた。その結果、浄法寺町に所在する天台宗の古刹である天台寺及びその周辺の地域が天台寺緑地保全区域に指定されていることから、路線はこれを選んで設定されることとなった。

昭和54年10月、岩手県教育委員会文化課は日本道路公団の協力を得て、実施計画路線に沿った幅500mについて埋蔵文化財包蔵地の分布調査を行い、さらに両者で協議を行った。

ついで昭和56年5月に路線が公表されたことに伴い、文化課によって道路用地内の分布調査が実施され、約30遺跡が確認された。翌57年には安代町所在の5遺跡について発掘調査範囲の確認が行われた。

昭和58年に至り、安代町に所在する遺跡の発掘調査が文化課の調整を経て当埋蔵文化財センターに委託された。湯の沢Ⅲ・繫沢Ⅱ・石神Ⅱ・関沢口遺跡の4遺跡である。そのほか、文化課によって浄法寺町に所在する12遺跡の現地確認調査が実施された。

昭和59年には、安代町に所在する関沢口、水神の2遺跡と浄法寺町所在の柿ノ木平Ⅲ、五庵Ⅰ、五庵Ⅱ、海上Ⅰ、海上Ⅱ、大久保Ⅰ、沼久保、桂平、飛鳥台地Ⅰの9遺跡について発掘調査が委託された。また、文化課によって二戸市、一戸町所在の各6遺跡の発掘調査範囲の確認が行われたほか、新たに発見された浄法寺町の五庵Ⅲ、広沖遺跡についての現地確認調査が実施された。これにより浄法寺町所在の発掘調査対象遺跡は14遺跡となった。

昭和60年は、前年からの継続調査となった沼久保、桂平、飛鳥台地Ⅰの3遺跡のほか、浄法寺町に所在する田余内Ⅰ、田余内Ⅱ、五庵Ⅲ、安比内Ⅰ、広沖の5遺跡と二戸市所在の西久保、大久保の2遺跡、一戸町所在の堀切、竹林、親久保Ⅲの3遺跡の発掘調査が委託された。

昭和61年には、二戸市大久保・太田・馬立Ⅰ・馬立Ⅱ・青ノ久保の5遺跡と一戸町親久保Ⅰ・親久保Ⅱ・親久保Ⅲ・親久保Ⅳの4遺跡、あわせて9遺跡の発掘調査が委託された。これにより第8次施行命令区間に所在する26遺跡すべてについて調査することとなった。

## II 遺跡の立地と環境

### 1. 地形と地質

馬立 I 遺跡、太田遺跡は、二戸市南端に位置する。今回調査の対象となった地域は北緯40°13′、東経141°14′37″付近で、国土地理院発行の5万分の1地形図では「浄法寺」(NK-54-18-15)、2万5千分の1地形図では「浄法寺」(NK-54-18-15-2)の図幅に含まれる。

二戸市は、青森県境に接する岩手県の北端にあり、東を北上山地、西を奥羽山脈に挟まれ、両山地を分ける形で、馬淵川が北流している。奥羽山脈は青森県から福島・栃木県境までの総延長約500kmに及ぶ、まさに東北地方に脊梁をなす山脈である。新第3系と火山岩類を主体とした褶曲山地で山体は険しく、これに那須火山帯が併走するため、現在活動を続けている火山も多い。これに対して、北上山地は、古生層・中生層とこれを貫くように介在する花崗岩類からなる隆起準平原で、馬淵川を挟んでその地質構造は大きく異なる。

遺跡の所在する福田地区は、広義の奥羽山系に属し、山脈の北部東側にあたる。地形分類上では、隣接する浄法寺町を中心に広がる火山性丘陵地に分類される。この火山性丘陵は、300~400mの比較的良好な定高性をもっており、中央部には馬淵川水系最大の支流である安比川が北東に流れている。丘陵地はさらに安比川を境にして、稲庭岳山麓丘陵と七時雨山山麓丘陵とに区分される。当地区は七時雨山山麓丘陵に含まれる。丘陵は安比川及び河川によって開析を受けており、沢筋に沿って細長い谷底平野が樹枝状に分布している。安比川沿いには数段の河岸段丘が観察されるが、馬淵川流域と比べて、その発達は不良である。支流の沢沿いはさらに小規模な段丘が丘陵の縁辺に貼り付く程度である。

太田遺跡、馬立 I 遺跡は安比川支流である沢内川西岸の小規模な段丘上に立地する。周辺は標高350m前後の山々が真近に迫り、近接する山田集落は、狭い谷底平野に営まれる典型的な山間地集落の様相を呈する(第2・3図参照)。

第4図に周辺の地形分類図を示した。以下、これらについて若干の説明をする。

A面、周辺部で最も高い段丘面で、馬立 I 遺跡調査区の大半と馬立 II 遺跡調査区の一部を載せる。日本道路公団の試錐調査では、ローム層下位に層厚9m前後に及ぶ凝灰質の二次的シルス層が堆積し、火山灰砂段丘の性格をもつ。馬淵川流域での福岡段丘(洪積世低位段丘)に相当するものと考えられる。沢内川流域では、馬立 I・II 遺跡周辺と相ノ沢集落の周辺で比較的明瞭な面が観察されるが、これらの他は尾根の先端部に貼り付く小規模なものとなる。標高は265~255mで、全体に開析が進み、段丘面は緩い傾斜をもつ。下位の面との標高差は約10mで

ある。基盤となるシラス層は、馬立 I 遺跡の調査区西側南端部では検出された陥し穴の底面で観察された。現状は、ほとんどが山林で、一部で畑地として利用されている。

B面、緩傾斜地形を一括した。標高的にはA面と同じであるが丘陵の縁辺からなだらかに高度を下げ、明瞭な段丘崖はみられない。調査区以西の上流部では広く分布し、下位の沖積地との区別がつきにくくなる。山田集落や大久保遺跡はこの面に立地する。上流部は牧草地として利用されている。

C面、沖積古期面である。標高は250m前後で山田集落以東では小規模な段丘地形を呈し、宅地や畑地として利用されている。太田遺跡は沢内川と北部から流れ込む小さな沢との合流点に形成されたこの段丘面に立地している。今回の調査では遺構は検出されず、若干の縄文土器が出土したのみであった。調査区の背後には、細長くA面が分布することから、遺跡の主体はこのA面及び沢の上流域にあったと考えられる。

D面、沖積新期面である。小さな沢による開析地を含めた。沢内川流域では水田として利用され、沢筋の多くは牧草地となっている。

馬立 I 遺跡の調査区は、前述の低位段丘相等面と丘陵縁辺の緩斜面部で、全体は緩い南向き斜面をなしている。東西の両端には深い沢が入り、現在も豊富な湧水がある。中央部には浅い沢筋が通るため、この部分は埋積谷地形を呈している。調査区はこの埋積谷を挟んで、西側尾根部・埋積谷部・東側尾根部の3地区に区分される。

西側尾根部は、低位段丘面にあたり、縄文時代中期・後期の竪穴住居跡やピット・陥し穴が検出された。しかし、遺構の密度は少ない。埋積谷部では軸方向を同じにする陥し穴が谷底に沿う形で検出された。東側尾根部は、丘陵縁辺部とこれに連続する低位段丘面で、縄文時代早期・後期・弥生時代の住居跡が多数検出された。このうち、丘陵縁辺部と段丘との接する緩斜面部分では特に密集して検出され、それぞれの住居跡間に重複がみられた。

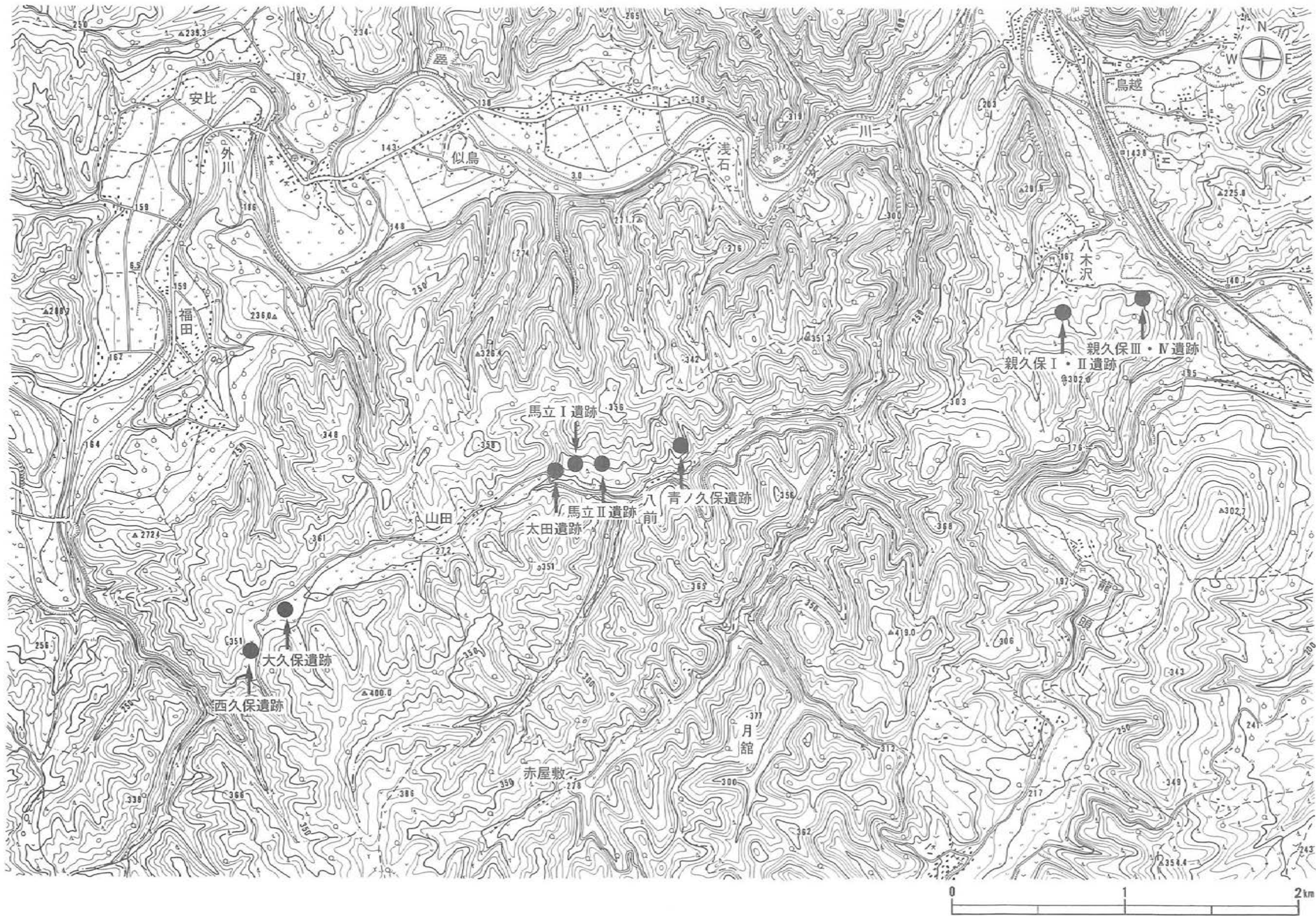
道路公団の試錐調査資料によれば、本遺跡の基盤は、末の松山層の凝灰質砂岩で、この上位に二次的シラス層、ローム層が堆積している。調査区内では、東側尾根部GⅢg1グリット付近に深掘りを行ない、これを基本層序とした。しかし、地形面によって各土層の堆積状況が異なり、前述の3地区では各層相は一致しない。

I層 黒色～黒褐色土(7.5YR2/1-3/2)、層厚30～40cm、中礫浮石を含む。東側尾根部の沢沿いでは厚く、中位に中礫浮石の純層が堆積する。また下位には南部浮石を含む。

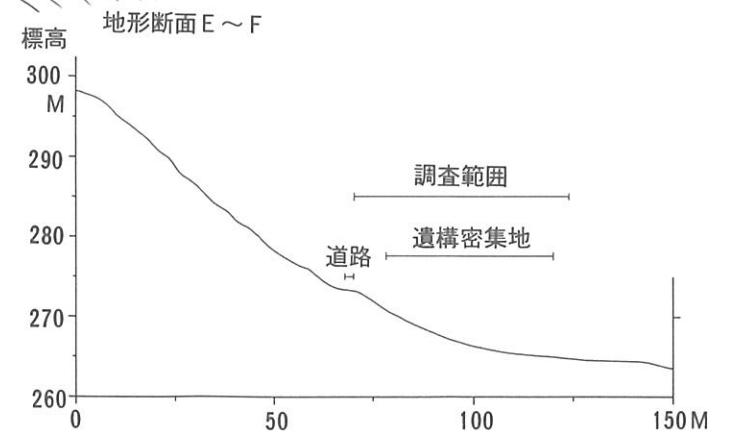
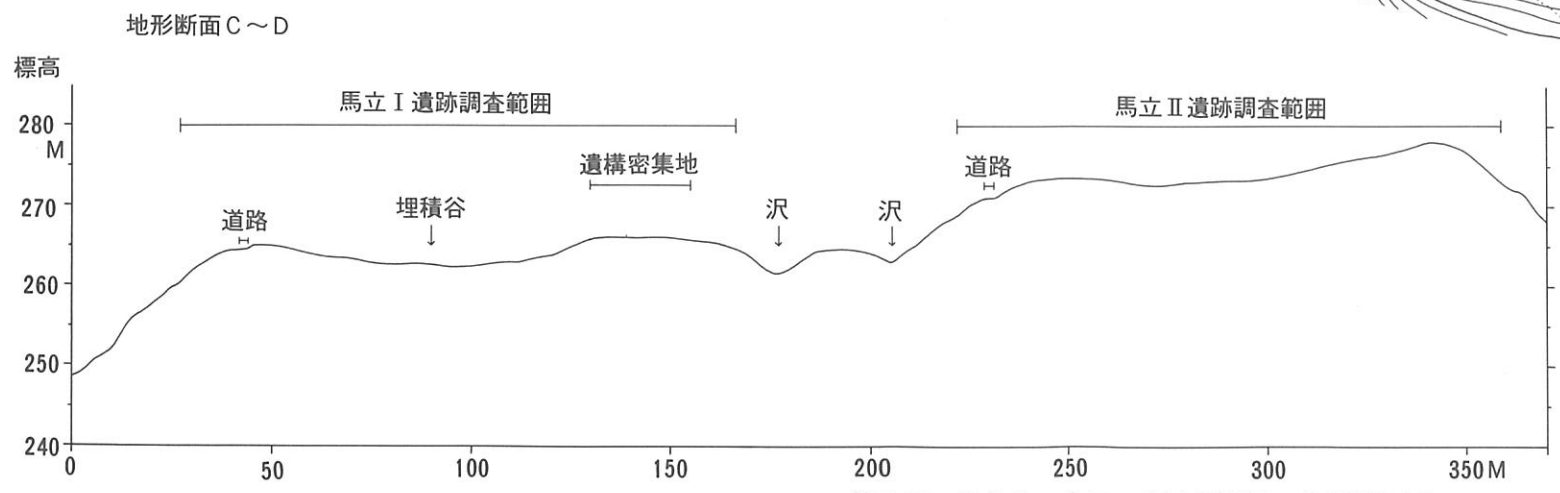
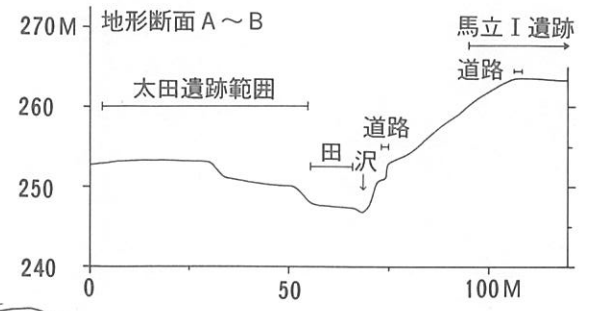
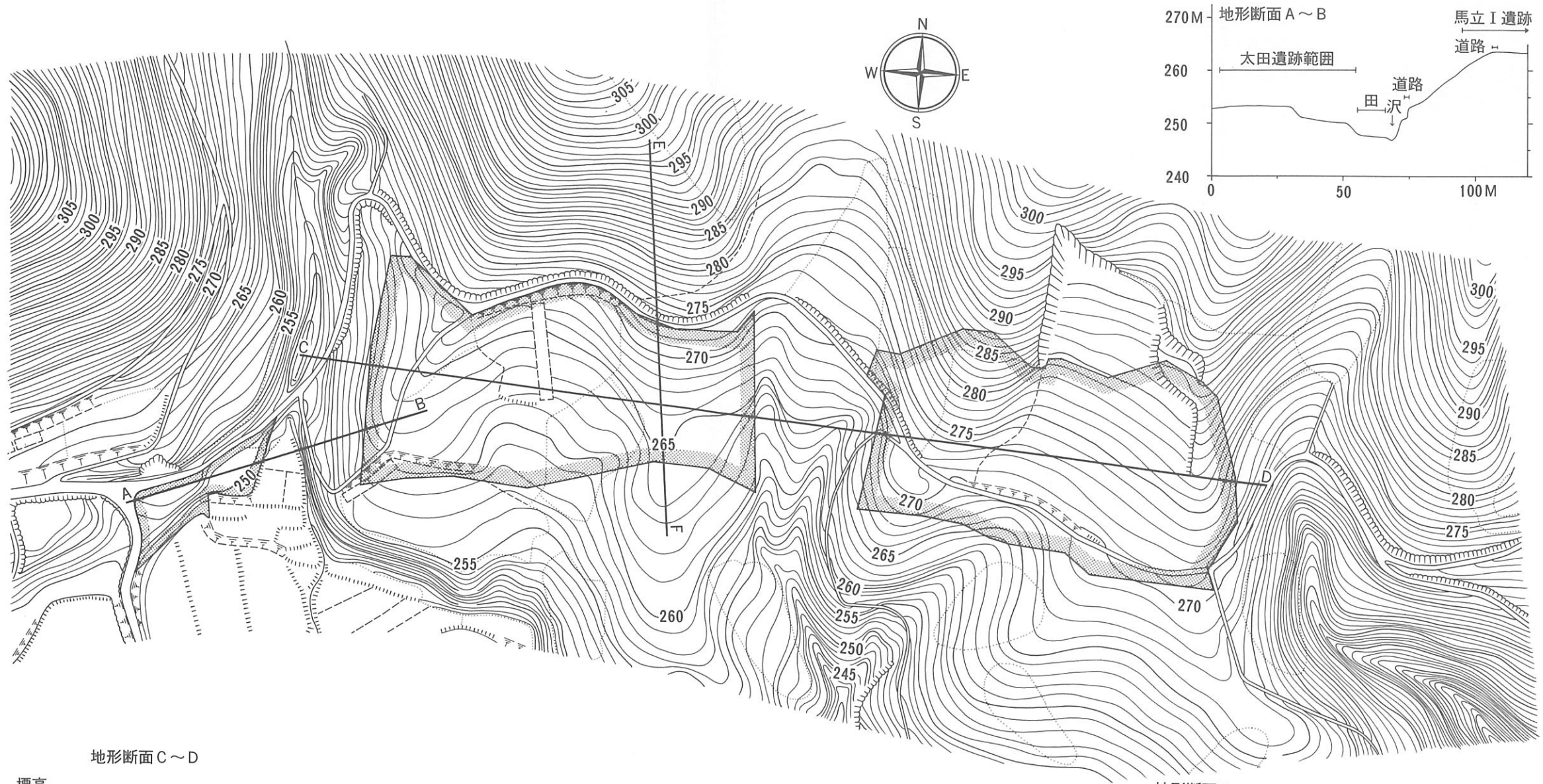
上部は縄文時代後期の土器を多量に包含する。

II層 暗褐色土(7.5YR3/4)、層厚10～25cm、南部浮石を含む。下位のIII層との漸移層と考えられる。下部から縄文時代早期の土器が出土する。なお、埋積谷部ではこの

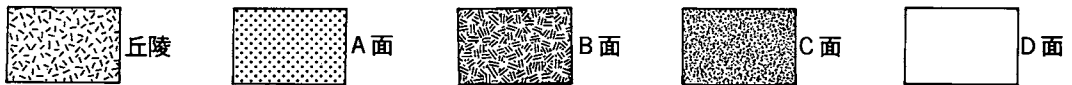
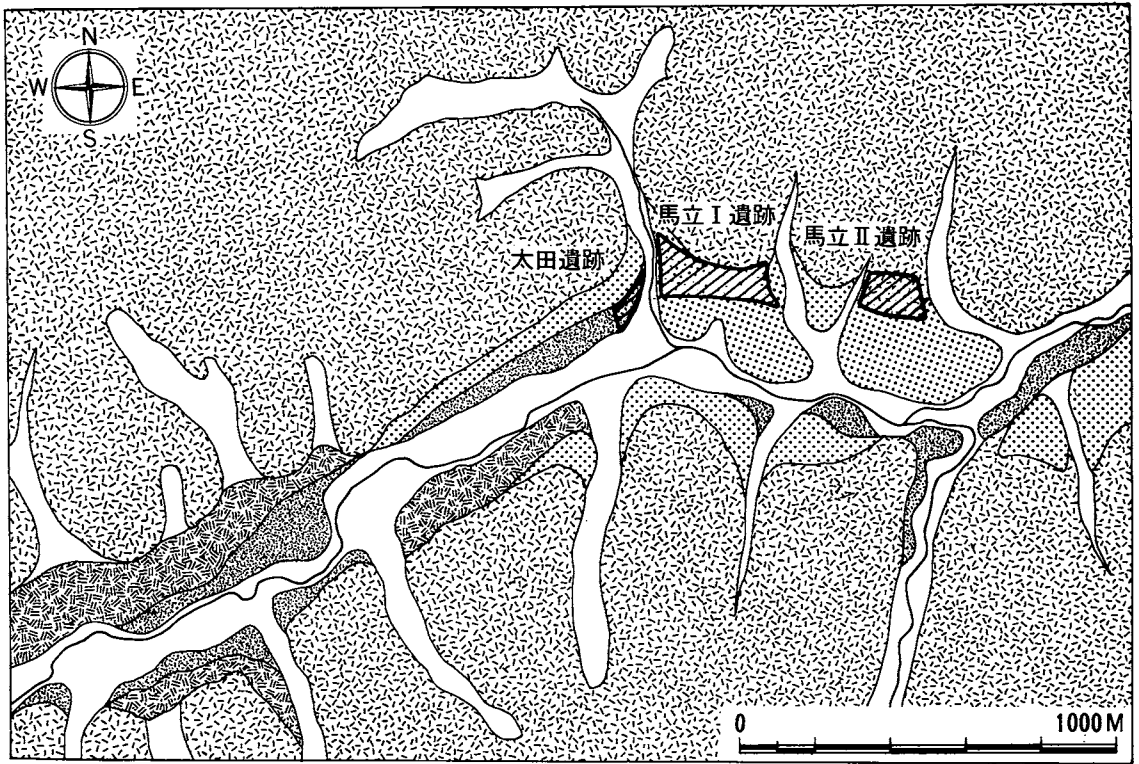




第 2 図 遺跡の位置と周辺の地形図



第3図 馬立 I・太田・馬立 II 遺跡の地形断面図



第4図 地形分類図

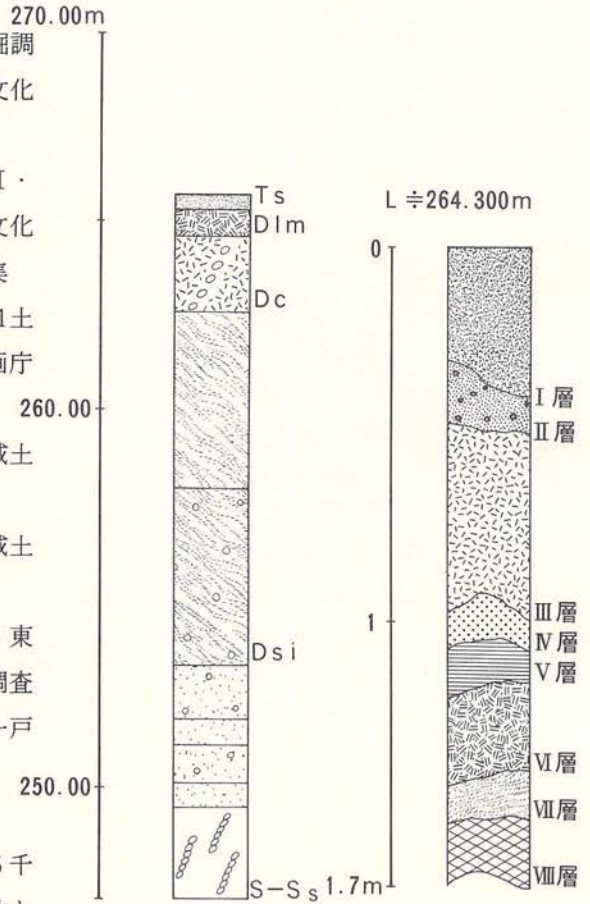
上位に黒味の強い土層が厚く堆積する。

- Ⅲ層 明褐色土 (7.5YR5/8)、層厚40~50cm、新鮮なローム層で、馬淵川流域、軽米地方に於ける八戸火山灰に相当するものと考えられる。埋積谷部分では、Ⅱ層とこの層間に地すべりがみられ、陥し穴の底部に約30cmのズレが観察された。
- Ⅳ層 にぶい橙色土 (7.5YR6/4)、層厚15cm、砂質で部分的に層を形成する。
- Ⅴ層 明褐色土 (7.5YR5/8)、層厚25cm、粘性をもつローム層で、水分を含む。
- Ⅵ層 褐色土 (7.5YR4/6)、層厚10cm、粘性があり、堅くしまる。
- Ⅶ層 明褐色土 (7.5YR5/6)、層厚10cm、粘性があり、堅くしまる。
- Ⅷ層 褐色土 (7.5YR4/4)、層厚不明、礫を含む。粘性があり、堅くしまる。

〈引用・参考文献〉

- (1) 石川長喜他 (1986) : 五庵 I 遺跡発掘調査報告書、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第97集
- (2) 栃沢満郎他 (1985) : 海上 I・海上 II・大久保 I 遺跡発掘調査報告書、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第90集
- (3) 多田元彦他 (1974) : 縮尺20万分の1土地分類図付属資料 (岩手県)、経済企画庁総合開発局
- (4) 阿部文夫 (1979) : 北上山系開発地域土地分類基本調査 (浄法寺)、岩手県
- (5) 石野公一 (1972) : 北上山系開発地域土地分類基本調査 (一戸)、岩手県
- (6) サンコーコンサルタントKK (1986) : 東北自動車道八戸線二戸地区構造物土質調査土性縦断面図、日本道路公団仙台建設局一戸工事事務所

なお、地形分類図の作成にあたっては、5千分の1地形図の検討と空中写真の判読を主体とした。



a. 日本道路公団B<sub>1</sub>-73 b. 馬立 I 遺跡G III g、S T A 209+90地点 グリット深掘。

第 5 図 土層断面柱状図

## 2. 周辺の遺跡

岩手県埋蔵文化財包蔵地一覧（昭和61年7月発行）によれば、太田・馬立Ⅰ遺跡の周辺地域（二戸市・一戸町・浄法寺町）には423遺跡が登録されている。このうち、近年の道路網整備を中心とする開発事業によって発掘調査された遺跡は約70遺跡に及び、縄文時代早期～近世に至る多くの考古学資料が蓄積されてきている。第6図にはこれらのうち58遺跡の分布を示した。以下、時期別にその概略を述べることにする。

### 縄文時代

早期の資料は県中央部、県南部に比べて多い。二戸市長瀬B遺跡、家の上遺跡、一戸町小井田Ⅲ遺跡、浄法寺町飛鳥台地Ⅰ遺跡、五庵Ⅰ遺跡からは住居跡が検出されており、一戸町平船Ⅲ遺跡や当遺跡と同地内にある大久保遺跡からも良好な資料が得られている。これらのほとんどは貝殻文系土器を主体とするが、飛鳥台地Ⅰ遺跡の住居跡はこれに先行する日計式押型文を伴う。馬立Ⅰ遺跡からはこれまでの総数を上回る16棟の住居跡が検出されており、該期の集落跡の研究に大きな指標となる。

前期の資料は各地域で出土している。前葉では飛鳥台地Ⅰ遺跡や二戸市中曽根遺跡から大型住居跡を含む集落跡が確認されており、後葉では浄法寺町沼久保遺跡や二戸市上里遺跡から住居跡が検出されている。中曽根遺跡や沼久保遺跡からは大木系土器の出土がみられ、この分布域の北限として興味深い資料と言えよう。

中期前葉の資料は少なく、上里遺跡で数棟の住居跡が検出されているだけであるが、中葉になると、二戸市荒谷A遺跡や一戸町馬場平Ⅱ遺跡で大規模な集落跡が確認されている。この時期には、大木系土器が北に広がり、馬場平Ⅱ遺跡は文化圏の変遷が顕著に窺われる遺跡である。後葉～末葉では、一戸町田中1・2・3・4・5遺跡、子守A遺跡、二戸市上村遺跡、荒谷A・B遺跡、沢内B遺跡などで住居跡が検出されており、これらの中には該期に特有な複式炉を有する住居跡も多い。また、馬立Ⅰ遺跡、馬立Ⅱ遺跡からもこの時期の住居跡が検出されている。

後期前葉では、一戸町親久保Ⅱ遺跡、二戸市長瀬A遺跡、沢内B遺跡などで住居跡が検出されている。しかし、いずれも1～5棟前後の小規模な集落である。これに対し、馬立Ⅰ遺跡・馬立Ⅱ遺跡では総数で30棟を越える住居跡が検出されており、大規模な集落跡と言える。また、特殊な遺構では、配石群や土拵群が検出された二戸市下村B遺跡がある。中葉～後葉には浄法寺町桂平遺跡、沼久保遺跡、五庵Ⅰ・Ⅲ遺跡、一戸町堀切遺跡、竹林遺跡、などがあるが、いずれも比較的小規模な遺跡が多い。

晩期では多量の遺物を出土した、二戸市雨滝遺跡・一戸町蒔前遺跡が有名であるが、遺構の検出例は以外に少なく、浄法寺町五庵Ⅲ遺跡、一戸町堀切遺跡から中葉期の住居跡が各1棟検

出されているにすぎない。

#### 弥生時代

遺物は各地域で出土している。住居跡が検出された遺跡は、二戸市大淵遺跡、長瀬D遺跡、一戸町小井田Ⅲ遺跡、上野B遺跡、浄法寺町五庵Ⅲ遺跡、沼久保遺跡がある。馬立I遺跡からは4棟の住居跡が検出されたが、他の遺跡でも1～数棟と規模的には小さい。また、北海道との交流が窺われる北海道系土器も二戸市長瀬B遺跡、大久保遺跡、西久保遺跡、一戸町親久保Ⅱ遺跡から数点出土している。

#### 古代

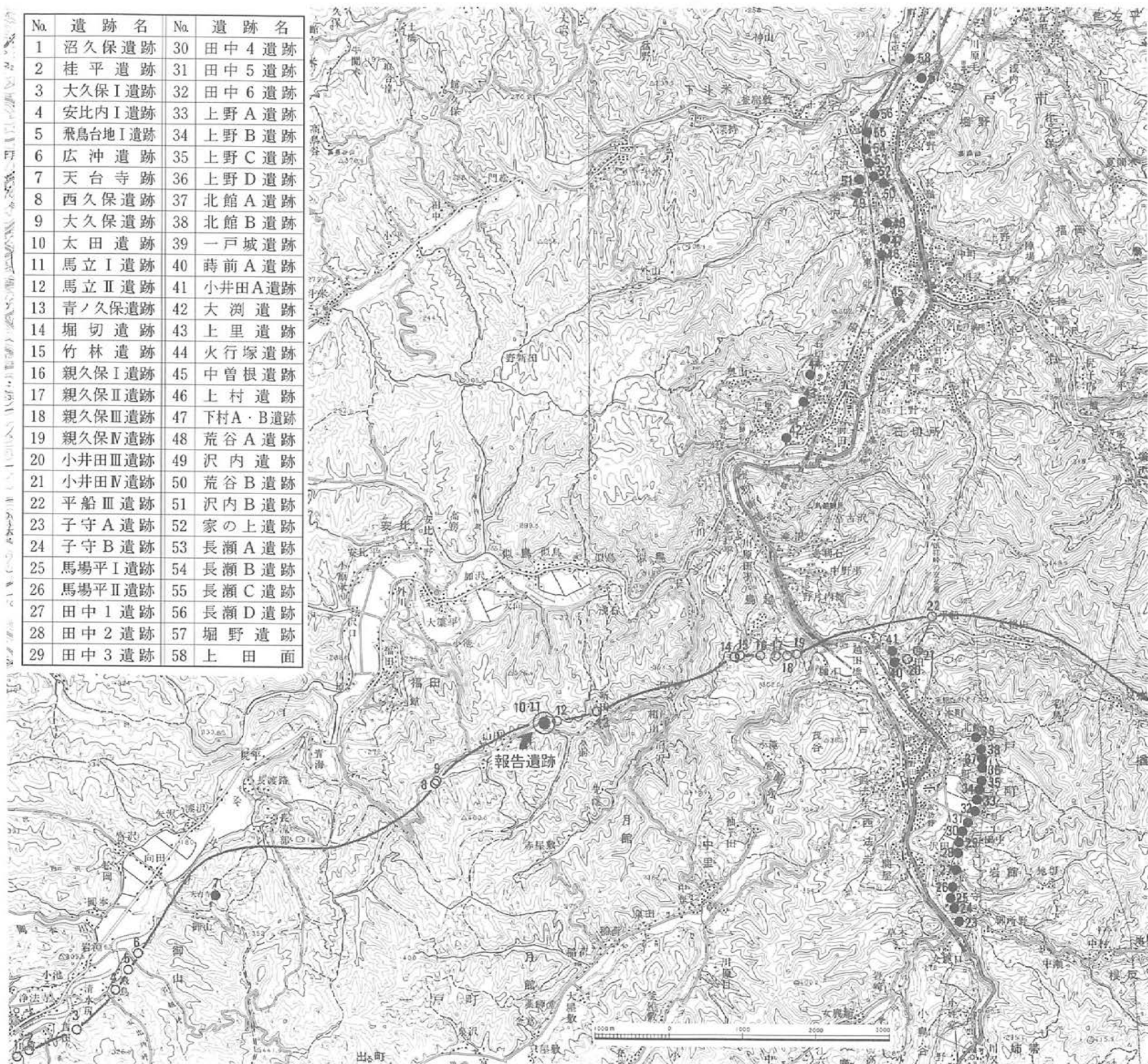
奈良時代の遺跡は馬淵川流域の二戸市・一戸町に広く分布し、図に掲げた大半の遺跡から集落跡が検出されている。特に古代蝦夷の地とされる爾薩体（仁左平）の地名をもつ二戸市では長瀬遺跡群、中曽根遺跡、掘野遺跡など大規模な集落跡が存在する。しかし、浄法寺町の各遺跡からは遺構、遺物とも検出されていない。これに対して、浄法寺町内には平安時代の遺跡が多く、特に飛鳥台地I遺跡では、長期にわたる大集落が営まれている。同町には、神亀5年（728）行基による創建とされる古利天台寺があり、これらの遺跡との関係が興味深い。一戸・二戸地区では、奈良時代の遺跡に対して、平安時代のそれは、比較的少なかったが、近年二戸市駒焼場遺跡から、大溝を伴う大規模な集落跡が検出されている。近隣の遺跡では、馬立I遺跡と同様に沢内川左岸の小規模な尾根上に立地する青ノ久保遺跡があり、奈良時代、平安時代の住居跡がそれぞれ5棟検出されている。

そのほか、遺跡の所在する福田地区周辺には、弘仁2年（811）文室線麻呂の蝦夷征伐に関わる部族名ではないかと言われる長流部<sup>なかつらべ</sup>や前述の仁左平のほか、律令体制の崩壊とともに台頭し、奥六郡の司長となる安倍氏<sup>あづまび</sup>発生の地とされる安比<sup>あづま</sup>など、東北古代史に関係する地名も多い。

#### 〈引用・参考文献〉

- (1) 石川長喜他（1986）：五庵I遺跡発掘調査報告書、岩手県文化振興事業団文化財調査報告書第97集
- (2) 高田和徳（1981）：一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書I～IV、一戸町教育委員会
- (3) 高橋富雄（1980）：天台寺研究の現状と課題、天台寺研究創刊号

No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	沼久保遺跡	30	田中4遺跡
2	桂平遺跡	31	田中5遺跡
3	大久保I遺跡	32	田中6遺跡
4	安比内I遺跡	33	上野A遺跡
5	飛鳥台地I遺跡	34	上野B遺跡
6	広沖遺跡	35	上野C遺跡
7	天台寺跡	36	上野D遺跡
8	西久保遺跡	37	北館A遺跡
9	大久保遺跡	38	北館B遺跡
10	太田遺跡	39	一戸城遺跡
11	馬立I遺跡	40	蒔前A遺跡
12	馬立II遺跡	41	小井田A遺跡
13	青ノ久保遺跡	42	大淵遺跡
14	堀切遺跡	43	上里遺跡
15	竹林遺跡	44	火行塚遺跡
16	親久保I遺跡	45	中曽根遺跡
17	親久保II遺跡	46	上村遺跡
18	親久保III遺跡	47	下村A・B遺跡
19	親久保IV遺跡	48	荒谷A遺跡
20	小井田III遺跡	49	沢内遺跡
21	小井田IV遺跡	50	荒谷B遺跡
22	平船III遺跡	51	沢内B遺跡
23	子守A遺跡	52	家の上遺跡
24	子守B遺跡	53	長瀬A遺跡
25	馬場平I遺跡	54	長瀬B遺跡
26	馬場平II遺跡	55	長瀬C遺跡
27	田中1遺跡	56	長瀬D遺跡
28	田中2遺跡	57	堀野遺跡
29	田中3遺跡	58	上田面



第6図 周辺の遺跡分布図

### Ⅲ 調査の経過と方法

#### 1. 調査経過の概要

4月～5月

太田遺跡の発掘調査を開始したのは昭和61年4月14日である。当初の発掘行程によれば太田遺跡調査終了後に馬立Ⅰ遺跡の調査に入る予定であった。しかし、太田遺跡の調査を開始して間もなく、上面を削平した後に盛土をした形跡があること、土器をほとんど採集できなかったことから遺構の検出は期待できないものと判断した。このことから馬立Ⅰ遺跡の発掘調査を並行して進めることとした。

馬立Ⅰ遺跡の発掘調査に先立ち、遺跡の性格を把握するため、調査区内の土器分布状況を観察した。調査区西側尾根から南東側斜面は畑地になっており、この範囲には主に縄文時代後期の土器が散乱していた。また東側尾根の南西側斜面下部は重機によって畑地造成されており、この範囲には縄文時代早期の土器が集中的に四散していた。このことから西側尾根を中心とする範囲には後期の遺構が、東側尾根を中心とする範囲には早期の遺構が検出されるものと予想された。その他の範囲はいずれも原野となっており、現状では土器分布状況を把握することは困難であった。

以上のことから、まず原野の刈払い、雑物を撤去した後、30m毎の大区画を設定し、区画毎に遺物の収集を図るとともに、原野を対象に斜面の上方から下方に粗掘りを開始することとした。

6月～8月

粗掘りが進行するにつれて、西側尾根を中心として遺構が検出された。また東側尾根を中心として縄文時代後期の土器が多量に出土するとともに、遺構がかなり密集している状況がうかがえた。粗掘りがほぼ終了した段階で、作業員を遺構精査、実測、遺構検出の3班に編成し、並行して作業を進行させることとした。

遺構が密集する東側尾根周辺の作業が進行するにつれて、土捨て場の確保にせまられた。土捨て場は遺構が検出されていない南西側斜面最上部と下部及び最南東端に設定したが、人力によって運搬するには距離があり過ぎるため、ベルトコンベアーを導入し、作業の効率化を図った。

9月～10月

調査員3名の増員を受けて、調査区東側の本格的な遺構精査、実測に入った。効率的に作業



を進めるため、作業員を精査、実測からなる4班に再編成し、4名の調査員がそれぞれ担当した。また、1名の調査員は全体を総括的にみて、各班の作業員の増減やタワーの移動指示及び写真撮影を担当した。調査は同年10月31日で終了した。

## 2. 調査の方法

### (1) 座標軸の設定と大区画名について

太田遺跡と馬立I遺跡は隣接して位置する。そのため両遺跡に共通する座標軸を設定した。馬立I遺跡調査対象区域内にある東北縦貫自動車道建設予定の基準測量杭STA210+00を座標原点としてSTA210+60と結ぶ直線と、座標原点を通り前者の直線と直交する線を座標軸とした。 STA210+00 (×) 24155, 7754 STA210+60 (×) 24154, 8015  
(Y) 34920, 8652 (Y) 34980, 8337

そして座標原点から四方向に30m毎に調査対象区域全体を大区画し、西から東にA・B・C…のアルファベットを、北から南へI・II・III…のローマ数字を付した。

大区画名は両者の組合せによって、例えばA I区・B I区……のように表わした。

### (2) 遺構の呼称について

前述した30m×30mの大区画をさらに10等分し、3m×3mの小区画にし、西から東にa～jのアルファベットを、北から南に1～10のアラビア数字を付した。これらの小区画名は、大区画名を前に付すことによって、例えばA I d 1・B II c 9……のように表わした。

遺構名はこの各小区画に検出されたものに遺構の種別をつけ、例えばA I a 1住居跡・B II b 2ピット・C III c 3陥し穴と呼称した。また小区画に同種類の遺構が検出された場合は、アラビア数字を付け足すことによって例えば、G II g 2-1住居跡・G II g 2-2住居跡と呼称した。

### (3) 精査・実測方法と写真撮影

精査の方法として、住居跡は4分法、ピット・陥し穴は2分法を原則として、移植ペラ及び竹ペラを用いて行った。

実測図の作成は精査の各段階で、必要に応じて行った。原則として20分の1の縮尺としたが小規模な焼土遺構などは10分の1の縮尺とした。

平面形の実測図には小区画の基点を記入した。さらに東側尾根中心として遺構がかなり密集しているところについては、座標原点を0として座標軸の4方向にそれぞれ1m毎に1・2・3…のアラビア数字を付し、これに方位の略号E・W・N・Sをつけて、例えばE60・N20のように表わし、遺構の位置関係を再度確認できるようにした。



第7図 馬立I・太田遺跡グリッド配置図

遺構外から出土した遺物の取り上げは、一括して出土したものや集中して出土したものについて小区画毎に、その他は大区画毎に取り上げた。

写真撮影は精査の各段階で、必要に応じて撮影した。

### 3. 室内整理

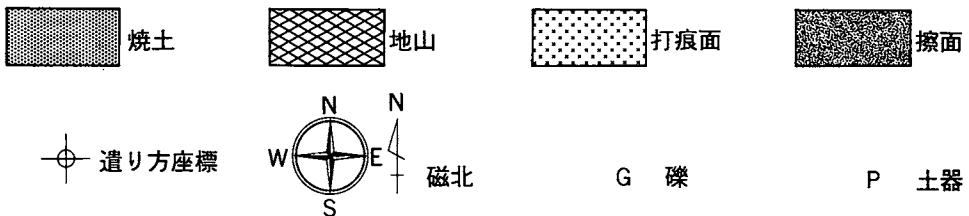
室内整理は2ヶ年にわたって行った。各年度毎の主な内容は下記のとおりである。

- 昭和61年11月1日～昭和62年3月31日  
土器洗浄・注記、土器接合・復元、遺構図面の点検・合成、遺構図面のトレース、遺構図版の作成、遺構写真の整理、遺構写真図版の作成、石器の仕分け・登録、遺構の原稿執筆
- 昭和62年4月1日～昭和63年3月31日  
復元、土器の仕分け・登録、遺物の実測・トレース、遺物図版の作成  
遺物写真図版の作成、遺物の原稿執筆、報告書の編集・校正

### 4. 図版・写真図版の掲載について

遺構、遺物の縮尺率については、個々の図版に記した。土器のうち、口径・底径・器高の計測可能なものは実測図の左上にその計測値（cm）を記した。（ ）の数値は反転実測による推定値である。遺物の写真は縮尺不定で掲載した。遺物には一連の番号を付し、図版と写真図版に掲載した遺物にこの番号を付した。

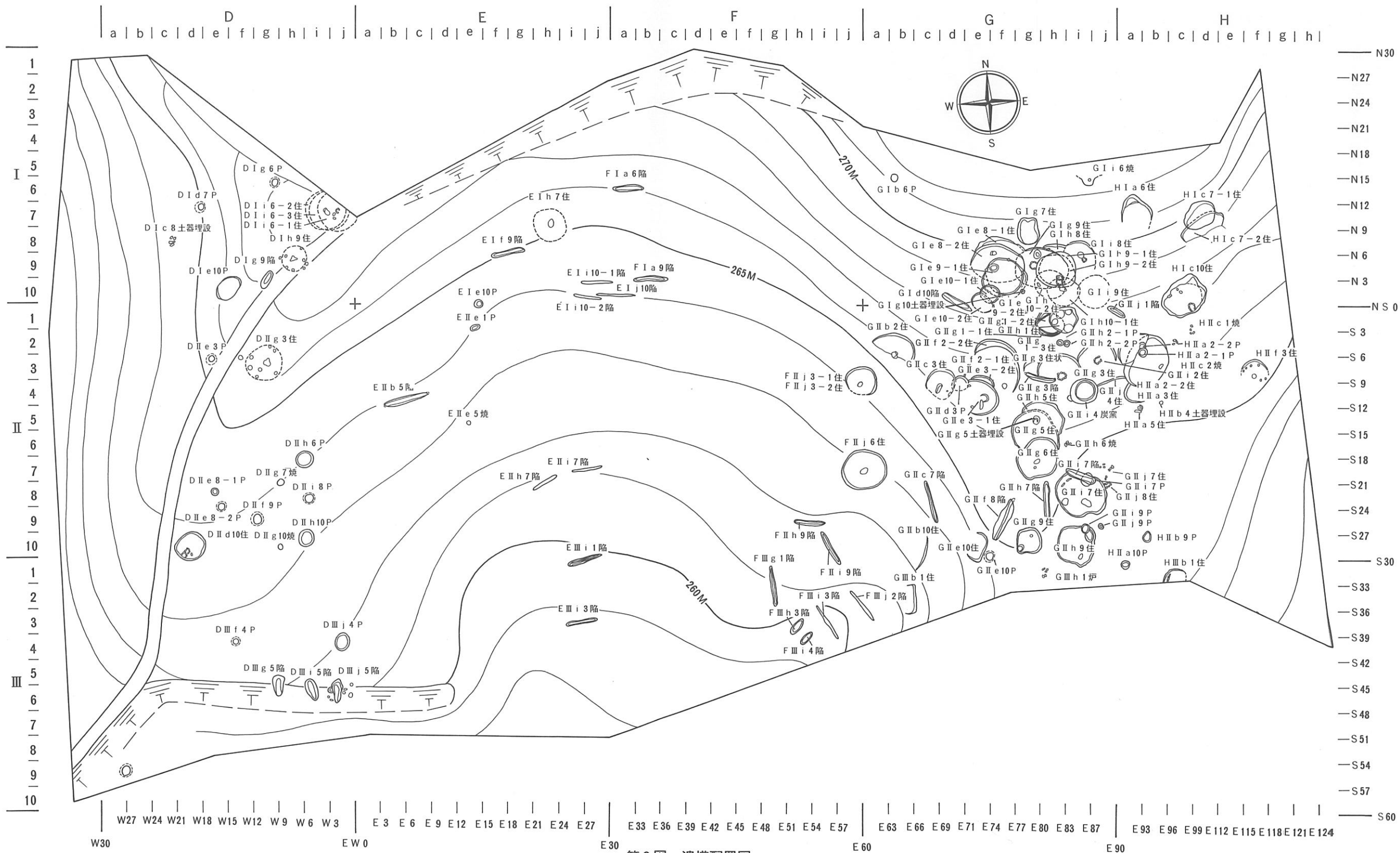
図版中の略号やスクリーン・トーンでの図示は下記のとおりである。



P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>・P<sub>3</sub> 柱穴

## Ⅳ 馬立<sup>まだち</sup>Ⅰ遺跡

所在地 二戸市福田字馬立13ほか  
委託者 日本道路公団仙台建設局 一戸工事事務所  
発掘調査期間 昭和61年5月12日～10月31日  
調査対象面積 8,810㎡  
発掘調査面積 8,810㎡  
遺跡番号・略号 JE18-2289・MDⅠ-86  
調査担当者 田鎖壽夫・石川長喜・平井 進・玉川英喜  
酒井宗孝  
協力機関 二戸市教育委員会



第8图 遺構配置図

## 1. 検出された遺構と遺物

当遺跡から検出された遺構は、縄文時代竪穴住居跡55棟（建て替えを含む）、弥生時代竪穴住居跡4棟、住居跡状遺構1棟、炉・焼土遺構8基、ピット27基・土器埋設遺構4基・陥し穴29基、近世炭窯1基である。

これらの遺構と伴出した遺物について以下に記述する。なお、遺構の時期特定についての集約は「まとめ」の項に記す。

### (i) 竪穴住居跡

#### D I h 9 住居跡

##### 遺 構（第9図、写真図版6）

調査区の北西部にあり、西側尾根の上部に位置する。この遺構は炉と柱穴の検出をもって住居跡と認定したものである。平面形、規模は、炉と柱穴の位置関係から直径3m前後の円形を呈する住居跡と推定される。

炉は地床炉で床面の中央部に位置する。焼土は72×45cmの東西に長い不整形をなし、焼成層厚は混土を含めて10cmである。

柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>9</sub>を検出している。これらのうちP<sub>1</sub>、P<sub>6</sub>、P<sub>7</sub>は中心から半径1.5mの弧線上にのり、P<sub>2</sub>、P<sub>5</sub>、P<sub>9</sub>が前述したものより若干内側の弧線上にのり、P<sub>3</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>8</sub>は半径約3.5mの弧線上にのり。

##### 出土遺物（第9図、写真図版79）

床面相当から1の磨石1点が出土している。形状は楕円状を呈し、両面に1個ずつの凹みをもつものである。

##### 遺構の時期

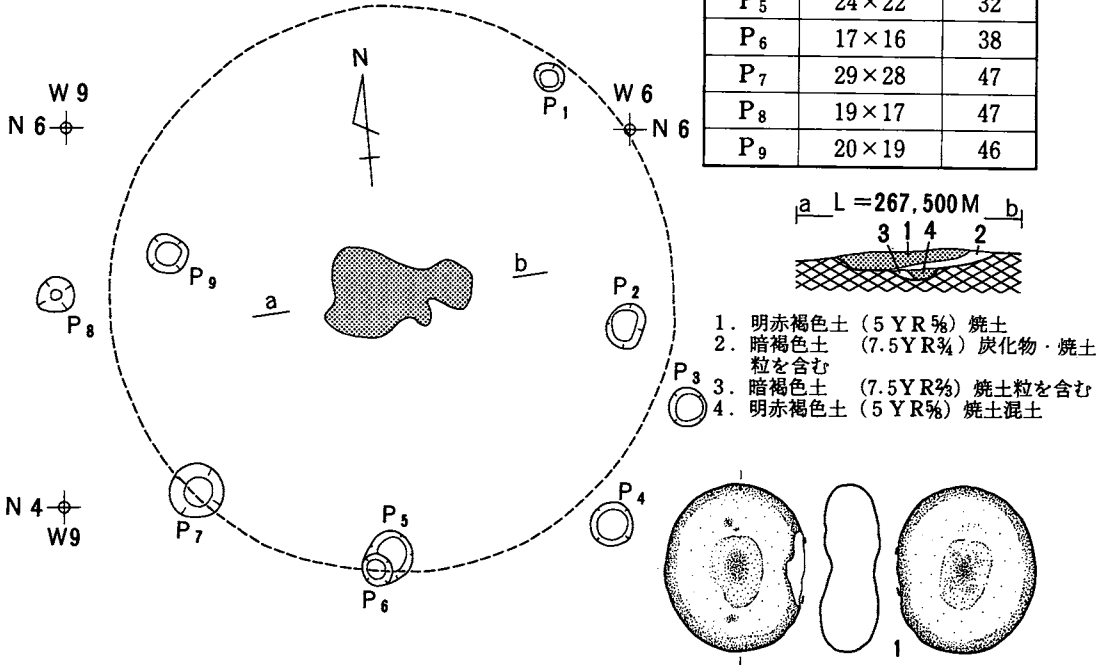
周辺に検出された住居跡の時期及び周囲から得られた土器から推定して、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられるものと思われる。

#### D I i 6 住居跡群

##### 遺 構（第10図、写真図版4～5）

調査区の北西部にあり、西側尾根の上部に位置する。北端部が調査区外に続いている。当住居跡は炉1、炉2の検出によって確認されたものであるが、壁、床面については、重複や林道下にはいつているため未確認の部分が多い。炉が2基検出されたほかに、出入口に伴うと考え

柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	15×14	19
P <sub>2</sub>	24×19	21
P <sub>3</sub>	20×19	24
P <sub>4</sub>	23×20	30
P <sub>5</sub>	24×22	32
P <sub>6</sub>	17×16	38
P <sub>7</sub>	29×28	47
P <sub>8</sub>	19×17	47
P <sub>9</sub>	20×19	46



第9図 D I h 9 住居跡 (平面・炉断面 S=1/40) 1、約¼  
D I h 9 住居跡出土遺物 (遺物番号 1)

られる柱穴が重複しているところから、少なくとも3棟以上の住居跡が重複しているものと思われる。新しいものからD I i 6-1住居跡、D I i 6-2住居跡、D I i 6-3住居跡として記述する。

#### D I i 6-1 住居跡

3棟の住居跡の中では東に位置する。炉1とピット、それに貼り床範囲から1棟と考えたものである。平面形、規模については、炉1と貼り床範囲、ピットの位置関係から直径4.8m前後の円形を呈するものと推測される。埋土は褐色混土の単層である。

壁は未確認である。床面は南東部で貼り床を確認したのみである。貼り床は2.2×1.2mの東西に長軸をもつ楕円形を呈し、褐色混土で堅くしまっていた。ピットは床面の西部に位置し、炉2の東半を破壊している。平面形は円形を呈し、その規模は68×50cm、深さ14cmである。断面形は浅い摺鉢状をなす。埋土は黒褐色混土の単層である。

炉は石囲い炉で、床面のほぼ中央部に位置する。その規模は辺50×40cmで、東側を開く「コ」の字状に長大な亜角礫を埋置している。炉内に焼成痕は認められない。

### D I i 6 - 2 住居跡

炉2と柱穴配置から1棟の住居跡と認定したものである。3棟のなかでは西に位置する。平面形は、柱穴の位置関係から直径4.8m前後の円形を呈するものと推定される。床面はD I i 6 - 1 住居跡床面より6cmの段差をもって低くなるが、壁は確認できなかった。

炉は埋設土器を伴う地床炉で床面中央に位置する。その規模は52×30cmの円形を呈するものと推定されるが、D I i 6 - 1 住居跡のピットによって破壊されている。炉の中央部には土器が直立に埋設されている。焼成最大層厚は10cmに及ぶ。

柱穴はP<sub>1</sub>、P<sub>3</sub>、P<sub>7</sub>、P<sub>8</sub>、P<sub>9</sub>、の5柱穴から構成される。P<sub>1</sub>とP<sub>3</sub>はそれぞれ2本一対の柱痕からなり、出入口に伴う施設と考えられる。埋土は黒褐色土、暗褐色土である。P<sub>7</sub>~P<sub>9</sub>の埋土はいずれも褐色土である。

### D I i 6 - 3 住居跡

3棟のなかでは中央に位置する。D I i 6 - 2 住居跡に先行する住居跡と考えられ、出入口の施設と思われる柱穴が重複するところから1棟と認定したものである。

平面形、規模はD I i 6 - 2 住居跡とほぼ同一であると推定されるが、壁、床面については未確認である。

柱穴はP<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>5</sub>の3柱穴から構成される。P<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>はそれぞれ2個一対の柱痕からなり、出入口に伴う施設と考えられる。

#### 出土遺物 (第11図、写真図版79)

2~7の土器と8~21の石器が出土している。これらのうち2は炉から、5は柱穴の埋土から、その他は床面から出土したものである。2は深鉢形土器の底部破片で、体部に網目状圧痕文が施されている。底面には網代跡痕が認められる。3は壺形土器の、5・7は深鉢形土器の体部破片で、方形状の沈線区画文が施されている。6は小型土器の底部破片である。

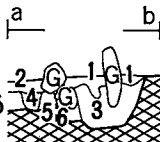
石器のうち、12は両端に打痕と剝離が認められるところから楔形石器と思われる。8~11・13~20は剥片石器である。21は棒状擦石で、2稜辺部に擦痕の認められるものである。

#### 遺構の時期

柱穴の埋土及び床面から出土した遺物から、縄文時代後期前葉に位置づけられる。

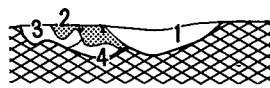


L = 268.300M

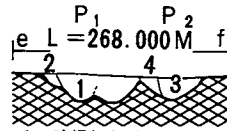


1. 黒褐色土 (10YR 2/3)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4)
3. 褐色土 (10YR 4/6)
4. 明黄褐色土 (10YR 4/8)
5. 褐色土 (10YR 4/6)
6. 黄褐色土 (10YR 5/6)

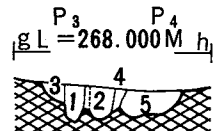
L = 268.200M



1. 黒褐色土 (10YR 2/2)
2. 赤褐色土 (5YR 4.8)
3. 褐色土 (10YR 4/4)
4. 褐色土 (10YR 4/6)

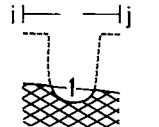


1. 暗褐色土 (10YR 3/4)
2. 褐色土 (10YR 4/4)
3. 黒褐色土 (10YR 2/2)
4. 暗褐色土 (10YR 3/3)

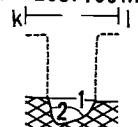


1. 黒褐色土 (10YR 2/2)
2. 黒褐色土 (10YR 2/3)
3. 黒色土 (10YR 2/1)
4. 暗褐色土 (10YR 3/4)
5. 黒褐色土 (10YR 2/3)

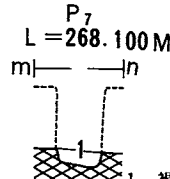
L = M268.100M L = 268.100M



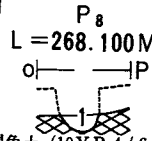
1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。



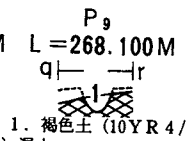
1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。



1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土

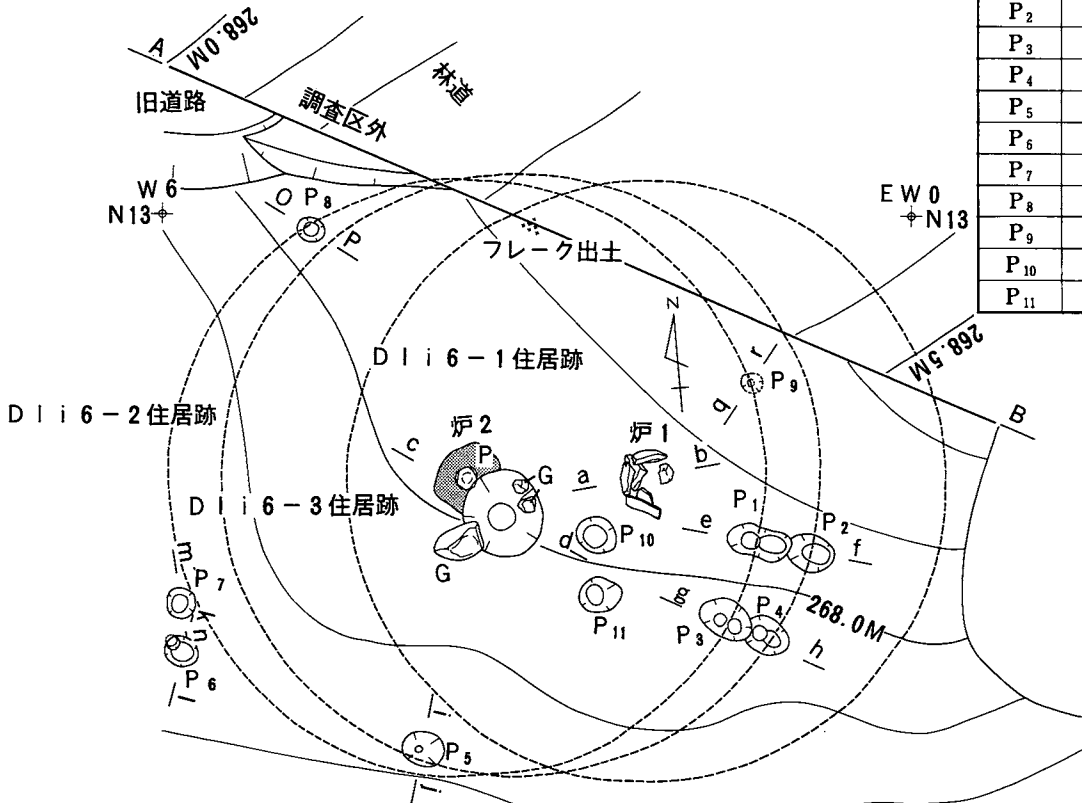


1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土。

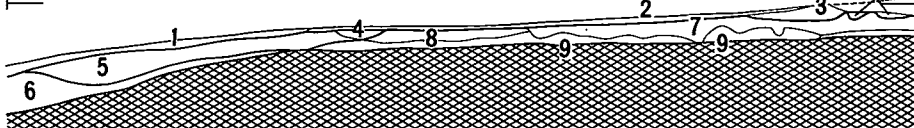


1. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。

柱穴No.	開口口径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	51×25	26.27
P <sub>2</sub>	38×30	25
P <sub>3</sub>	44×30	37.35
P <sub>4</sub>	36×28	34.33
P <sub>5</sub>	33×25	26
P <sub>6</sub>	26×23	46
P <sub>7</sub>	23×22	42
P <sub>8</sub>	22×19	23
P <sub>9</sub>	16×17	11
P <sub>10</sub>	33×28	19
P <sub>11</sub>	32×28	24

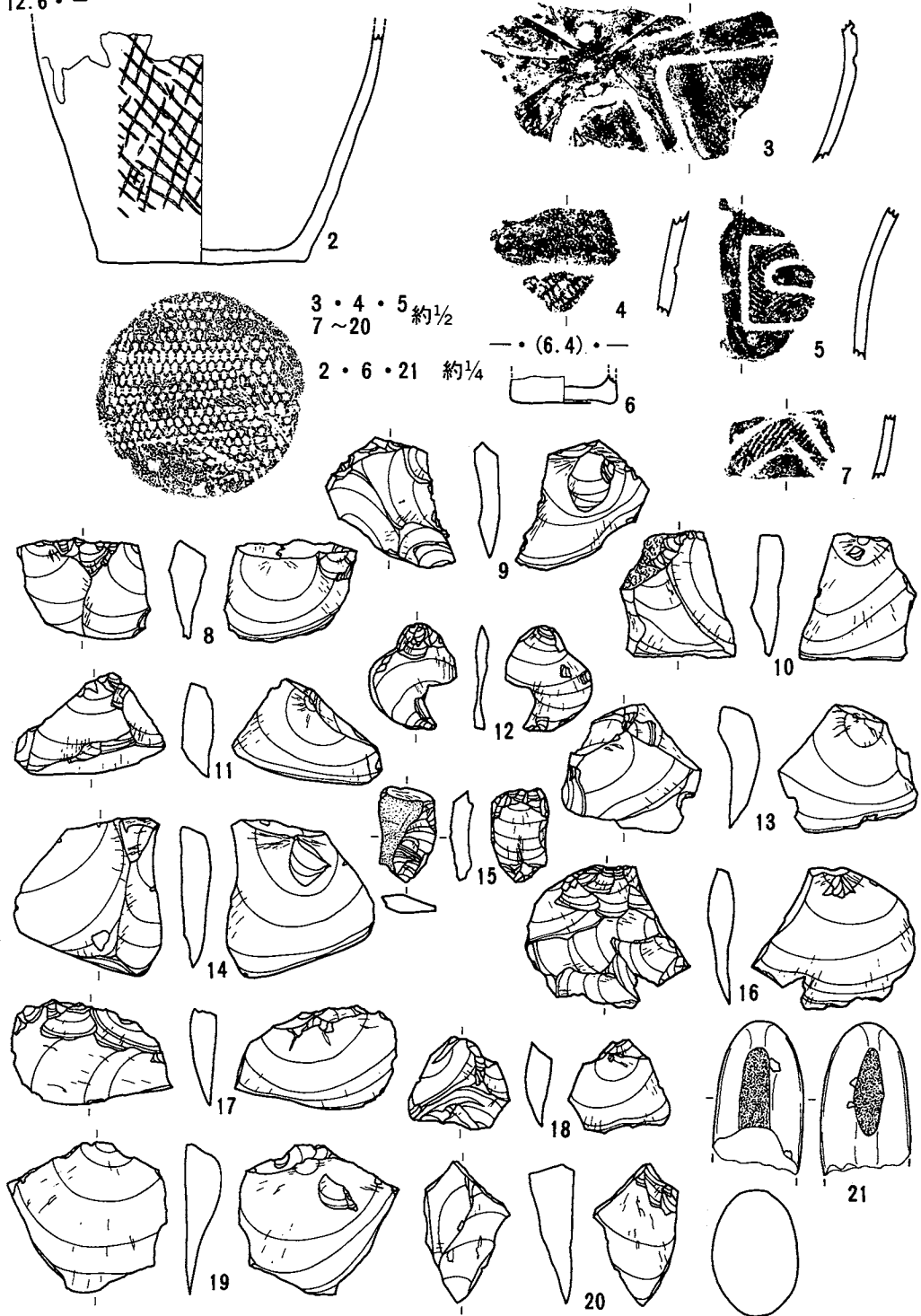


L = 268.500M



1. 褐色土 (10YR 4/4) 道路、堅い。
2. 黒褐色土 (10YR 3/2) 道路、堅い。
3. 褐色土 (10YR 4/6) 盛土、堅い。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、堅い。
5. 褐色土 (7.5YR 4/4) 旧道路盛土、堅い。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2) 旧道路盛土、堅い。
7. 黒褐色土 (10YR 2/3) 旧表土、堅い。
8. 黒褐色土 (10YR 2/2) 中硬を含む、堅い。
9. 褐色土 (10YR 4/4) 堅い。

第10図 D i i 6 住居跡群 (平・断面 S = 1/60, ピット断面 S = 1/40)



第11圖 D I i 6 住居跡群出土遺物 (遺物番号 2 - 21)

## D II d 10住居跡

### 遺構（第12図、写真図版7）

調査区の西部にあり、西側尾根の中央部に位置する。上半は耕作土のため削剥されていた。また床面の南部と北部がタバコ乾燥小屋の柱穴によって破壊されている。平面形はほぼ円形を呈する。規模は開口部径3.4×3.27m、床面部径3.18×3.1mである。埋土は9層に細分されるが、中礫浮石を含む暗褐色混土が主体となる。壁際には崩壊土が僅かに認められた。

床面は南側が若干下がるがほぼ平坦であり、東部に70×60cmの円形に炭化物が散在していた。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最大32cmである。

炉は複式炉で南西部に位置する。前庭部が南壁に接している。その規模は110×50cmの長方形で前庭部が8cmほど低くなっている。構成礫は縦位あるいは横位に設置され、一部横位2段の部分も認められる。焼土はほとんど確認されていない。炉の東側の壁際に台石とみられる礫が設置されていた。

柱穴は東壁のP<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>を検出したのみである。西側については数回にわたって床面を掘り下げたが確認されなかった。柱穴は、直径17cm、16×14cmの円形で、深さが24cm、32cmである。P<sub>2</sub>の底面中央部には酸化鉄が集積していた。

### 出土遺物（第13図、写真図版80）

22～24の土器と25・26の石器が出土している。これらのうち22が床面から、その他は埋土から出土したものである。

22は器高25cmの壺形土器である。器形は体部中位が張り、頸部下に3個の環状把手をもつ。文様は体部上半に磨消縄文による波濤文が施文されている。23は深鉢形土器の口縁部破片で、24は底部破片である。

石器のうち、25は楕円状を呈する磨石で、両面に1個ずつの凹みをもつものである。26は剥片石器である。

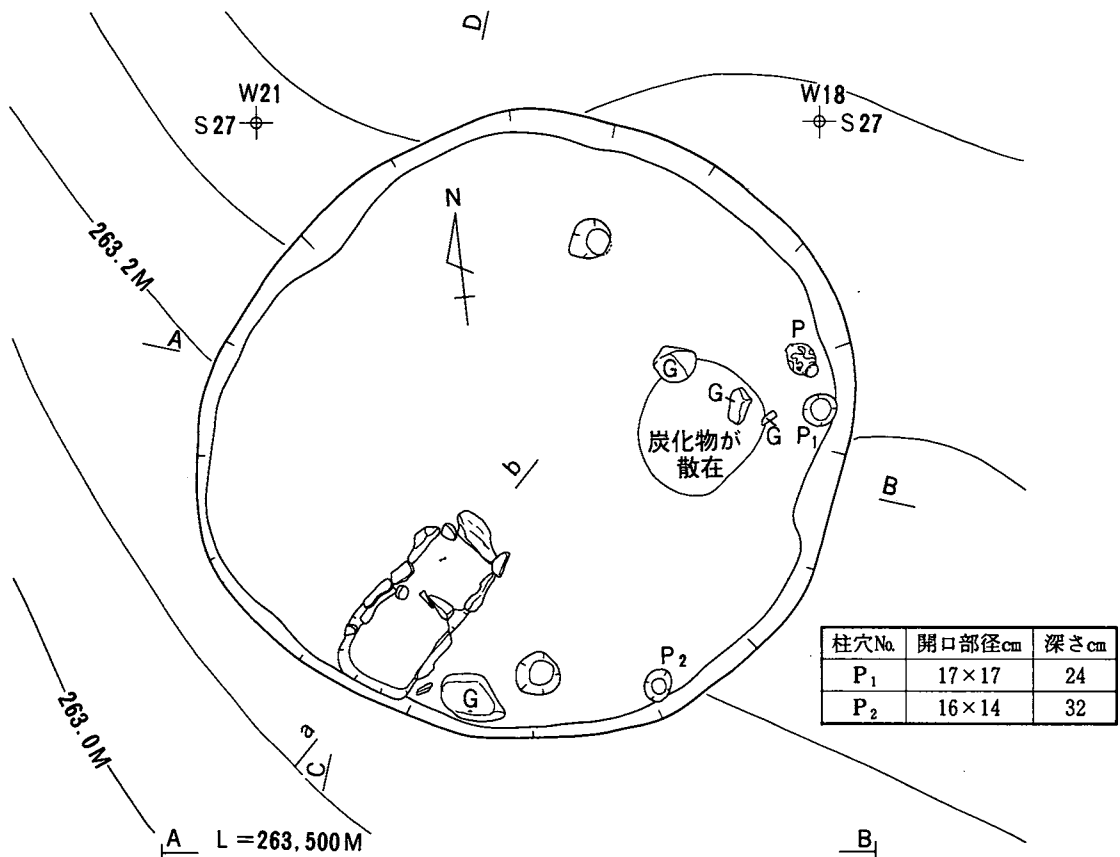
### 遺構の時期

床面から出土した遺物から縄文時代中期末葉に位置づけられる。

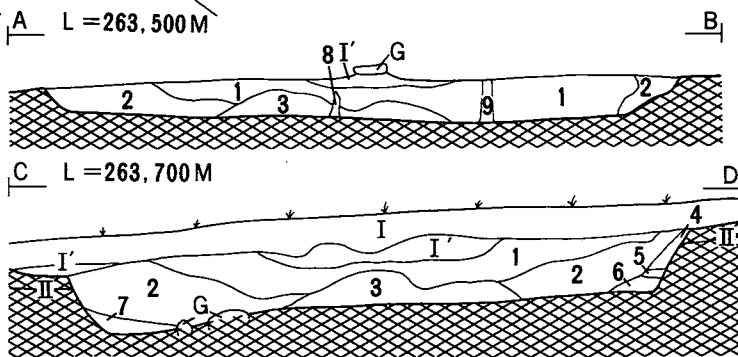
## D II g 3住居跡

### 遺構（第14図、写真図版6）

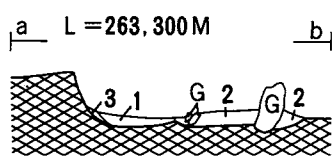
調査区の北西部にあり、西側尾根の上部に位置する。本住居跡も炉と柱穴の検出をもって確認されたものである。壁、床面については不明である。柱穴は床面を15cmほど掘り下げて検出したものである。平面形、規模は炉と柱穴の位置関係から直径4m前後の円形を呈するものと思われる。



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	17×17	24
P <sub>2</sub>	16×14	32

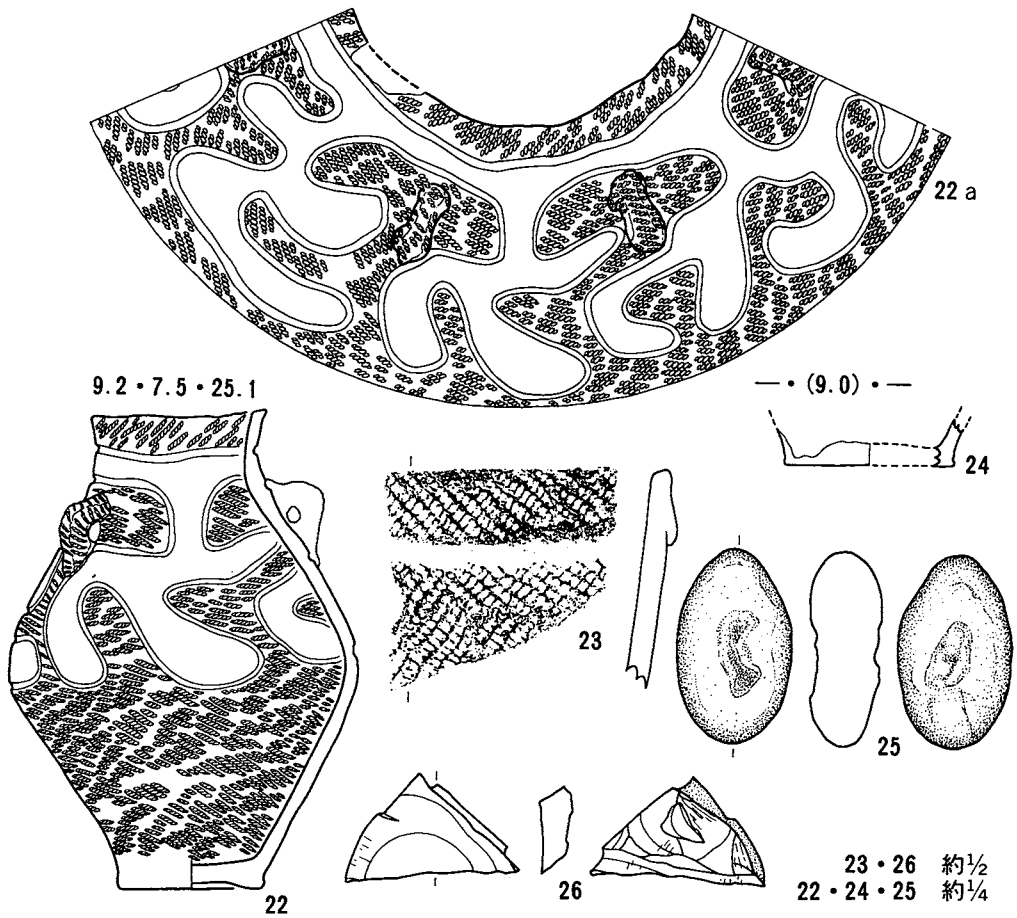


- I. 黒褐色土 (10YR 2/3) (耕作土)
- I'. 黒褐色土 (10YR 2/2) (耕作土2)
- II. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土汚れた八戸火山灰、中礫浮石、南部浮石を含む。
- 1. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土中礫浮石を含む、斜面下位黒色が強い。
- 2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土1より中礫浮石が多い。炭化物を含む。
- 3. 褐色土 (10YR 4/4) 混土八戸火山灰+中礫浮石。
- 4. 褐色土 (10YR 4/4) 混土中礫浮石が主体、壁崩落土。
- 5. 黄褐色土 (10YR 5/8) 八戸火山灰が主体。
- 6. 褐色土 (10YR 4/6) 混土より、八戸火山灰が多い。
- 7. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
- 8. 黄褐色土 (10YR 7/8) 混土、ブロック状。
- 9. 黒褐色土 (10YR 2/3) (木根跡?)



- 1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、やわらかい、炭化物を含む。
- 2. 褐色土 (10YR 4/4) 混土、炭化物を含む。
- 3. 黄褐色土 (10YR 5/8) 汚れた八戸火山灰。

第12図 D II d10住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1/40)



第13図 D II d 10住居跡出土遺物（遺物番号22～26）

炉は地床炉で、ほぼ中央部に位置する。焼土は95×25cmの楕円形を呈し、北西部と南東部に2分されている。焼成最大層厚は7cmと4cmである。

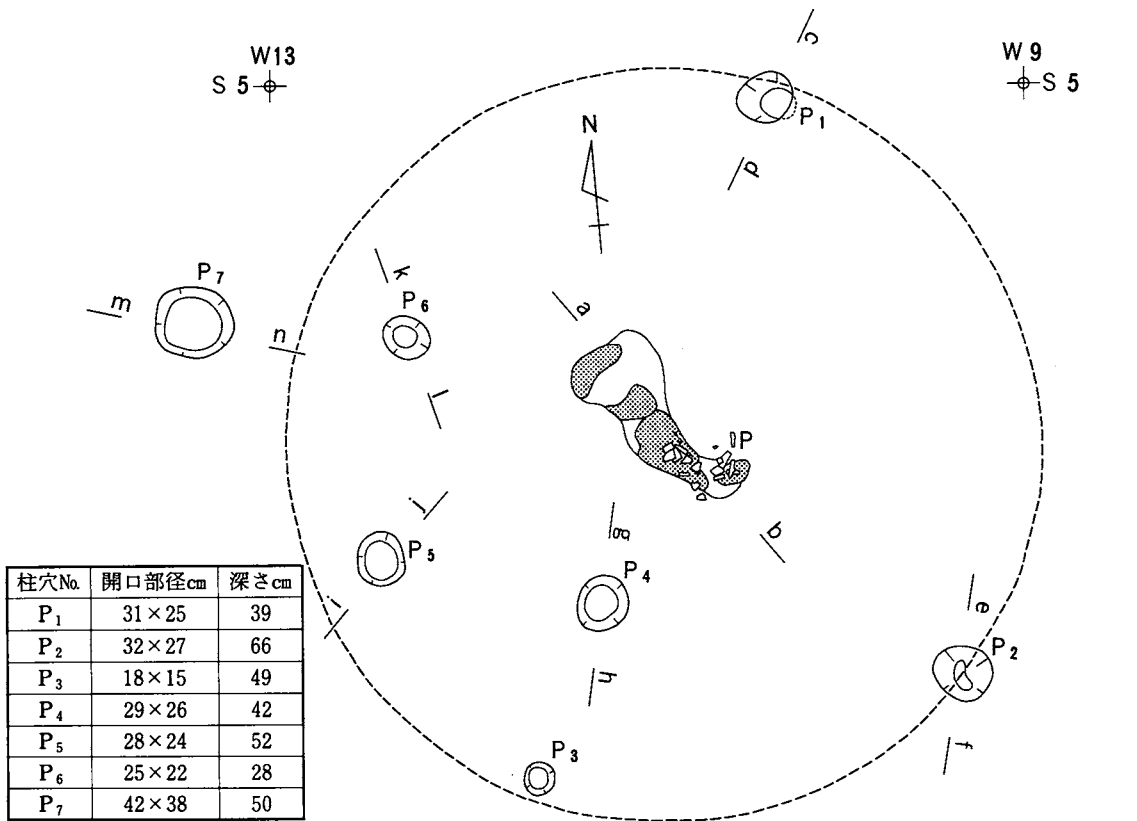
柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>7</sub>を検出している。柱穴の埋土は褐色土、暗褐色土である。

出土遺物（第14図、写真図版80）

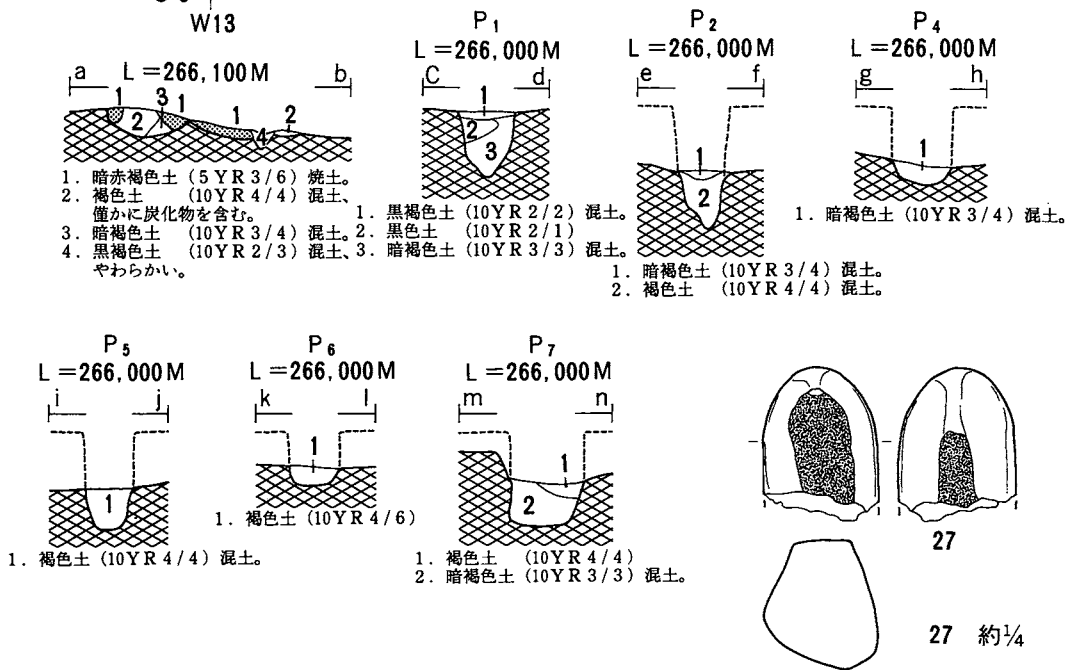
柱穴の埋土から27の棒状擦石が出土している。2稜辺部に擦痕の認められるものである。

遺構の時期

炉の形態と、周囲から得られた土器から推定して、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられるものと思われる。



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	31×25	39
P <sub>2</sub>	32×27	66
P <sub>3</sub>	18×15	49
P <sub>4</sub>	29×26	42
P <sub>5</sub>	28×24	52
P <sub>6</sub>	25×22	28
P <sub>7</sub>	42×38	50



第14図 D II g 3 住居跡 (平面、炉、柱穴断面 S=1/40)  
 D II g 3 住居跡出土遺物 (遺物番号27)

## E I h 7 住居跡

### 遺 構 (第15図、写真図版6)

調査区の中央北部にあり、埋没谷の上部に位置する。黒褐色土の中で炉を検出したもので、壁、床面については確認できなかった。柱穴についても数回にわたって掘り下げたが未確認である。

平面形は遺物の分布から直径4.0mほどの円形と推定される。炉は中央部に位置すると見られる。直径65cmの石囲い炉であるが、構成礫は東側1個のみである。焼土は厚さ6cmのブロック状を呈し、全体的に混土である。

### 出土遺物 (第15～17図、写真図版80～82)

28と、当住居跡床面相当面から出土し、G II f 2 - 1 住居跡の埋土から出土した破片と接合・復元された902の土器、それに29～124の石器が出土している。

これらのうち28は埋土から、902と29～124は床相当面から出土したものである。

902の土器についてはG II f 2 - 1 住居跡出土遺物として記述することとする。

28は尖底深鉢形土器の口縁部破片で、口唇部に刺突文、口縁部に刺突と斜位の貝殻腹縁文が施文されており、第I群土器1類Bに属するものである。石器のうち29～46は両端に打撃痕と剝離痕の認められるところから楔形石器と思われるものである。47～123は剝片石器である。124は1稜辺部に擦痕と両端部に敲打痕の認められるものである。

### 遺構の時期

床面相当面から出土した遺物から縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

## F II j 3 住居跡群

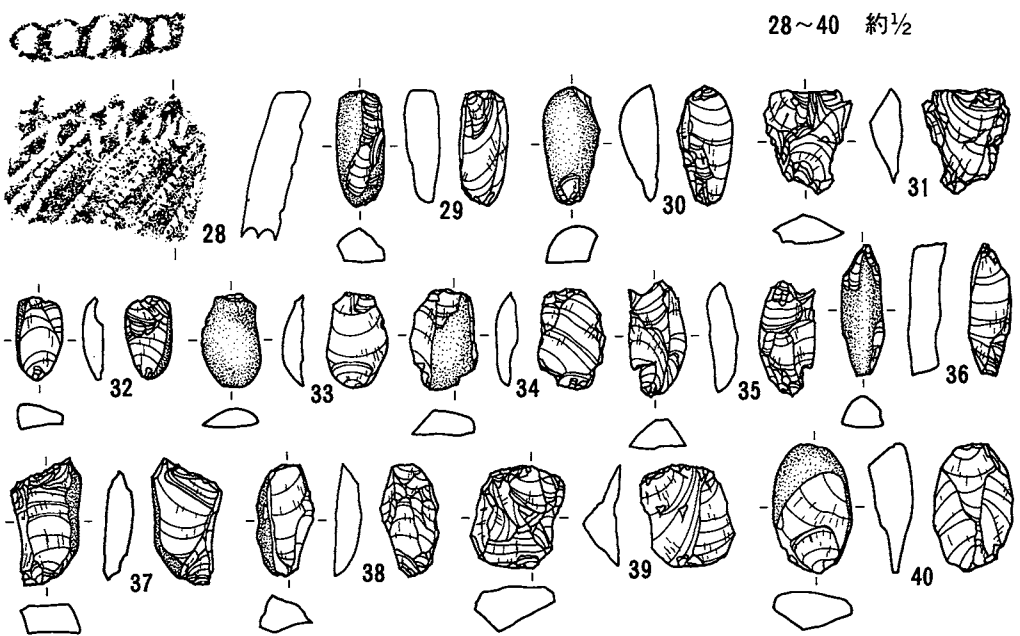
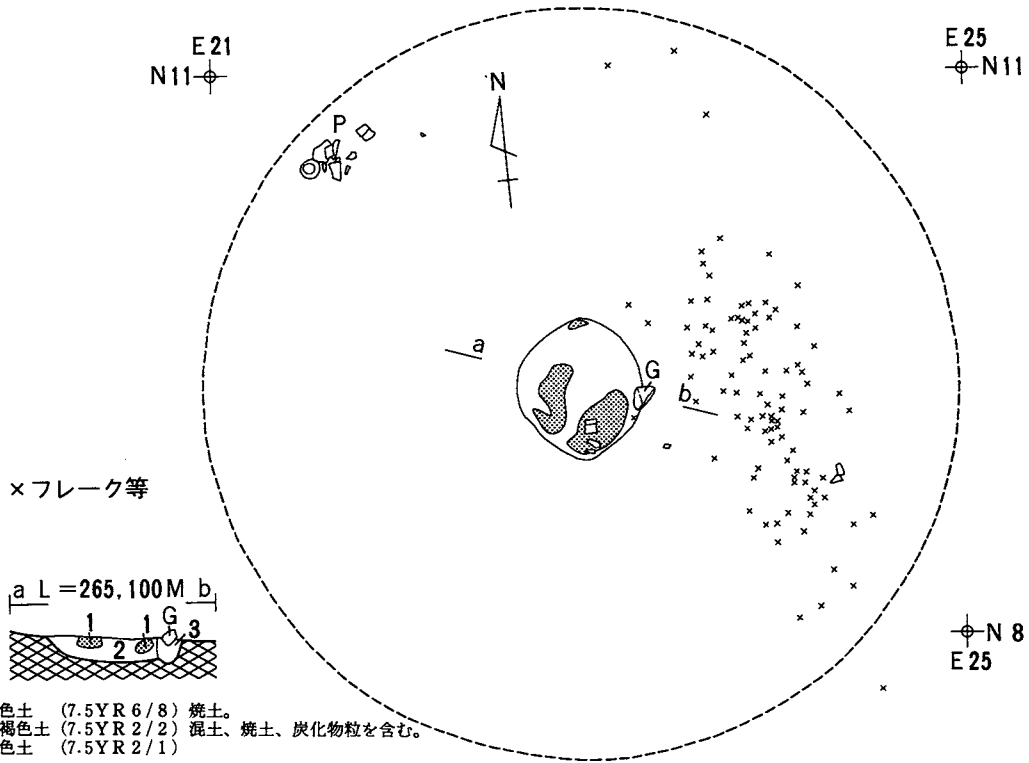
### 遺 構 (第18～19図、写真図版8～9)

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面に位置する。同じプラン内に層を異にする床面・炉が検出され、2期の住居跡が確認された。先行する住居跡をF II j 3 - 2 住居跡、後続する住居跡をF II j 3 - 1 住居跡として記述する。

### F II j 3 - 1 住居跡

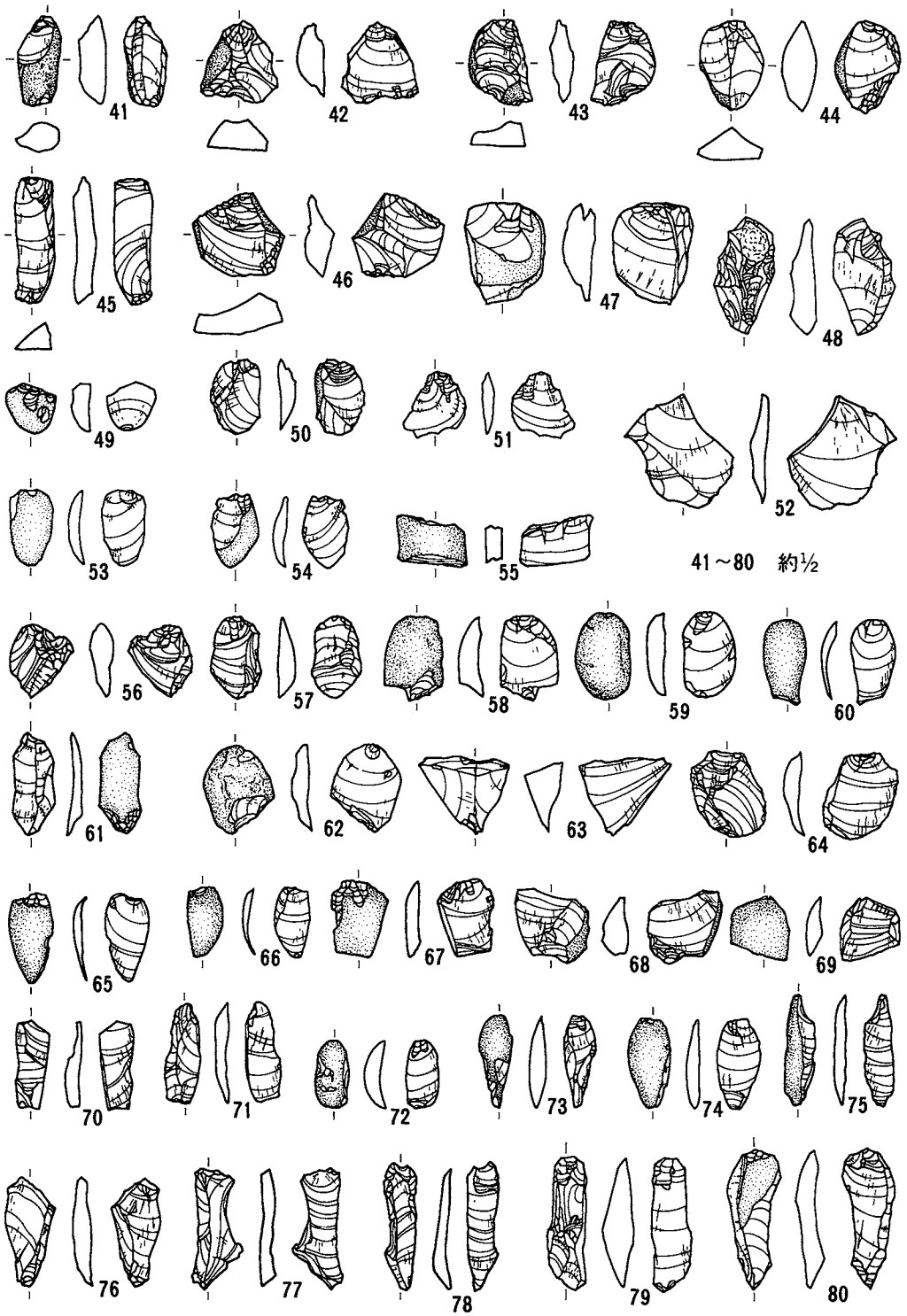
平面形はほぼ円形を呈する。規模は東から西に計測して、開口部径3.6m、床面部径3.4mである。埋土は浮石と八戸火山灰をブロック状に包含する黒褐色土を基調とし、斜面上方にあたる北壁際には、壁の崩落土とみられる汚れた八戸火山灰が上位から下位にはいる。壁高は北壁で30cm、東壁で17cm、西壁で10cmである。南壁は検出されていない。

床面は斜面に沿ってやや傾斜する。炉は地床炉で、中央部からやや南側に位置する。その規模は45×75cmの不整形を呈する。炉内部の焼成最大層厚は10cmである。

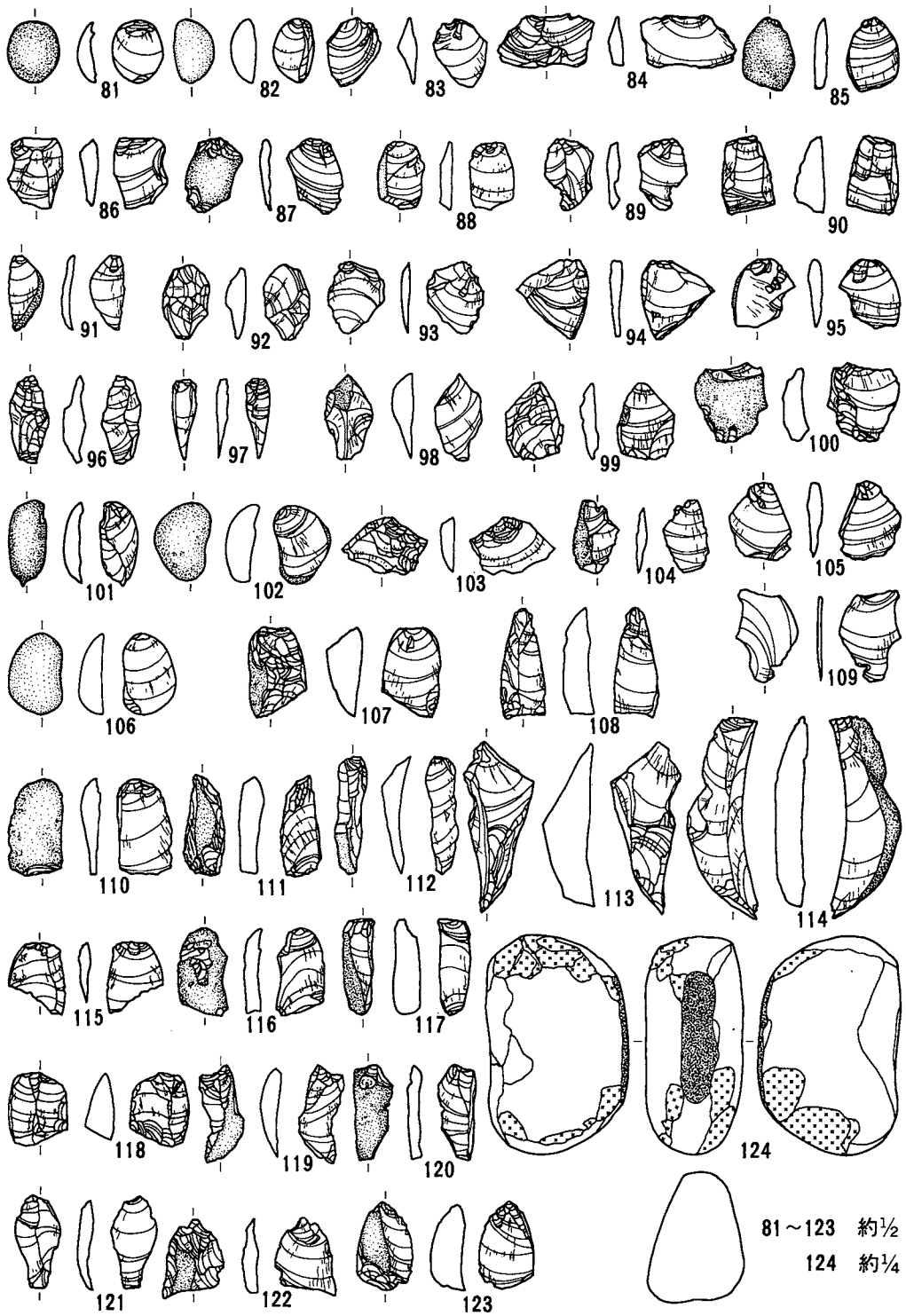


第15図 E I h 7 住居跡 (平面、炉断面 S = 1/40)  
 E I h 7 住居跡出土遺物 (遺物番号 28~40)





第16図 E I h 7 住居跡出土遺物 (遺物番号41~80)



第17図 E I h 7 住居跡出土遺物 (遺物番号81~124)

## F II j 3 - 2 住居跡

F II j 3 - 1 住居跡の炉の立割りの際、炉の表面から14cmの下位に別の炉が検出されたことから、F II j 3 - 1 住居跡床面とは異なる床面が存在することが判明した。

平面形及び規模はF II j 3 - 1 住居跡と同じである。前者の床面からこの住居跡床面までの埋土は、炭化物、焼土粒を包含する汚れた八戸火山灰である。

床面は斜面に沿ってやや傾斜する。炉は地床炉で、その規模は25×65cmの不整形を呈する。炉内部の焼成最大層厚は5cmである。

柱穴は壁際に4本、中央部に1本の計5本が検出されている。

### 出土遺物（第19～20図、写真図版82）

125～141の土器と142～146の石器が出土している。これらのうち125と146はF II j 3 - 1 住居跡床面からF II j 3 - 2 住居跡床面までの埋土から、142～144はF II j 3 - 1 住居跡床面から、130はF II j 3 - 2 住居跡床面から、その他はF II j 3 - 1 住居跡の埋土から出土したものである。

土器はいずれも尖底深鉢形土器である。130と132は口縁部破片で、口唇部に刺突文を有し、132には刺突文主体の文様が施文されている。134は山形口縁を呈する土器で、口縁部下に斜状の貝殻腹縁文が施文されている。

石器のうち142は形状が長方形を呈する石筥で、主に片面から剝離調整が施されているものである。143・144は石皿の破片である。145・146は棒状擦石で、145は1稜辺部に、146は2稜辺部に擦痕の認められるものである。

### 遺構の時期

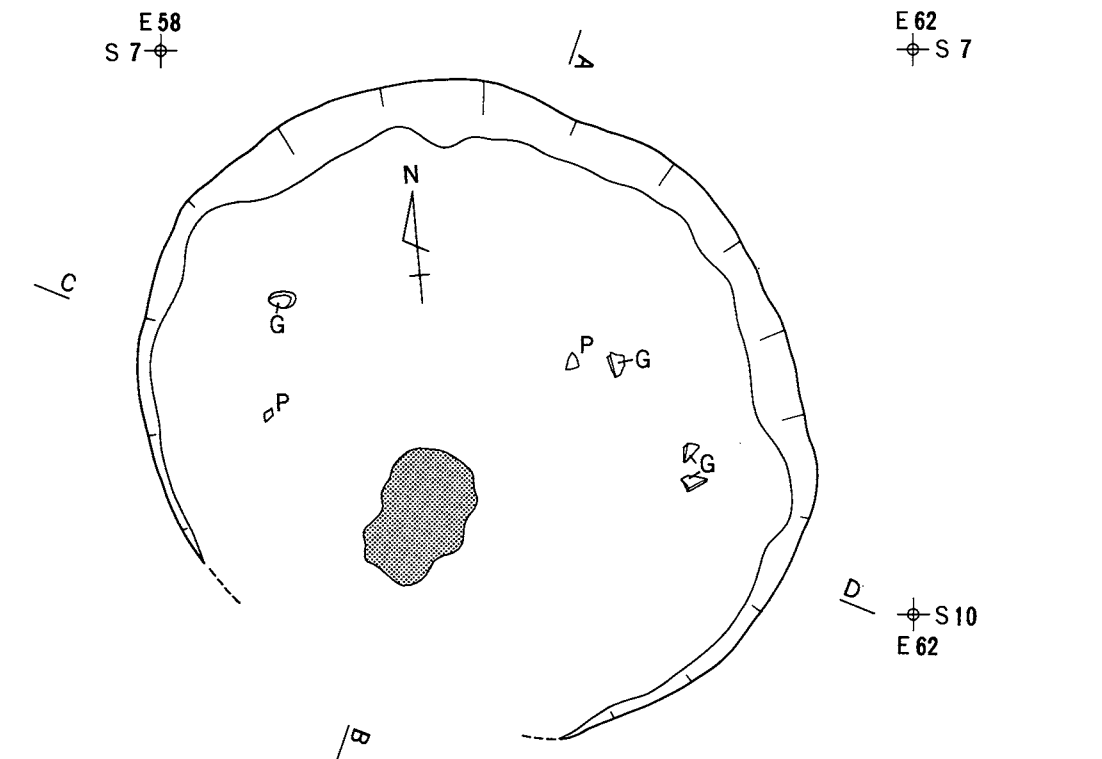
床面から出土した土器から、縄文時代早期に位置づけられる。

## F II j 6 住居跡

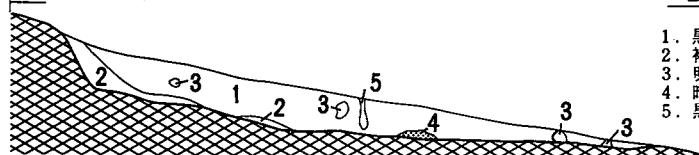
### 遺構（第21図、写真図版10～11）

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面、F II j 3 - 1 住居跡の南側約6mに位置する。平面形は東西に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は開口部径4.6×5.3m、床面部径4.4×5.0mである。埋土は浮石を包含する極暗褐色土を基調とし、斜面上方にあたる北壁際には暗褐色土と汚れた八戸火山灰が中位から下位にはいる。やや南側の埋土は抜根によって攪乱を受けている。壁高は北壁で47cm、東壁で42cm、西壁で32cm、南壁で27cmである。

床面は斜面に沿ってやや傾斜する。炉は地床炉で、中央部からやや南側に位置する。その規模は60×100cmの不整形を呈するが抜根によって一部攪乱を受けている。炉内部には炭化物が分布し、暗赤褐色に焼成を受けているが、その層厚は計測できるほどではない。

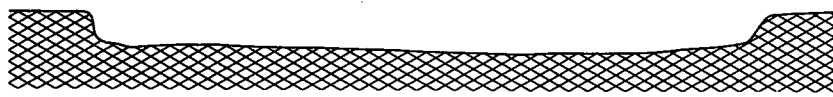


A L = 264, 200 M

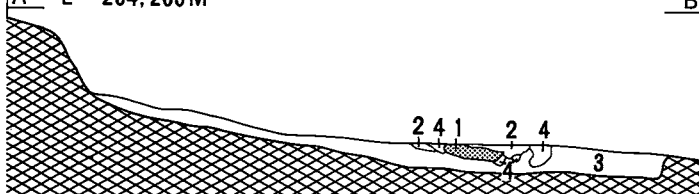


- B
1. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) (含浮石)。
  2. 褐色土 (7.5YR 4/3) にごりある八戸火山灰。
  3. 明褐色土 (7.5YR 5/6) 八戸火山灰。
  4. 暗赤褐色土 (5YR 3/3) 焼土。
  5. 黒褐色土 (7.5YR 3/1) 木根痕。

C L = 264, 200 M



A L = 264, 200 M



- B
1. 橙色土 (5YR 6/8) 焼土。
  2. 褐色土 (7.5YR 4/6) 焼土と褐色土の混土。
  3. 褐色土 (7.5YR 4/3) 濁りある八戸火山灰。
  4. 黒褐色土 (7.5YR 2/2)。

第18図 F II j 3 - 1 住居跡 (平・断面 S = 1/40)

E 58  
S 7

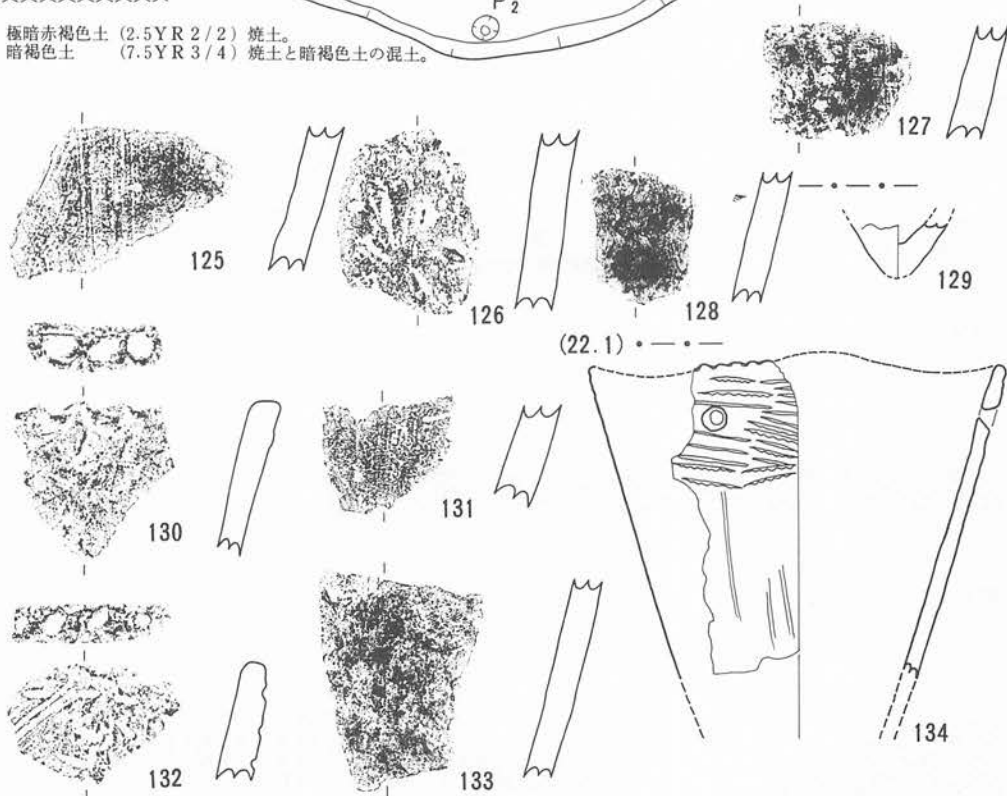
E 62  
S 7

柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	16×20	11
P <sub>2</sub>	10×15	11
P <sub>3</sub>	10×17	11
P <sub>4</sub>	15×17	6
P <sub>5</sub>	14×15	15

L = 263,500 M  
a b  
2 1

1. 極暗赤褐色土 (2.5YR 2/2) 焼土。
2. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 焼土と暗褐色土の混土。

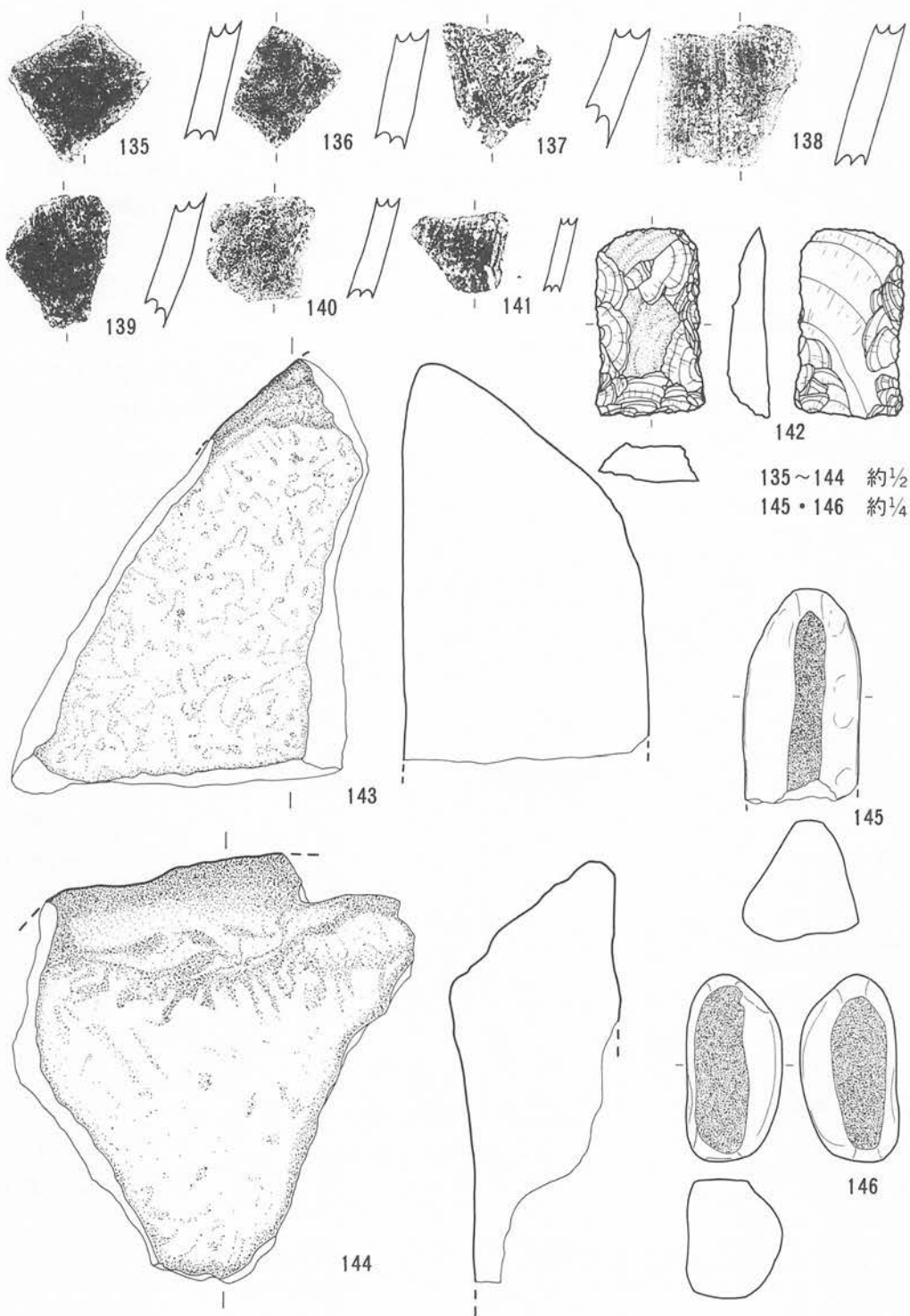
S 10  
E 62



125~128・130~133 約 $\frac{1}{2}$

129・134 約 $\frac{1}{4}$

第19図 F II j 3 - 2 住居跡 (平面、炉断面 S = 1/40)  
F II j 3 住居跡群出土遺物 (遺物番号125~134)



第20図 F II j 3 住居群出土遺物 (遺物番号135~146)

柱穴は壁際に4本検出されている。

#### 出土遺物（第22～32図、写真図版82～90）

147～298の土器と299～316の石器が出土している。これらのうち、147～184・310は床面と床面から2～4cmに浮いて出土したもの、309・314～316は床面から、その他は埋土から出土したものである。

土器は1点を除き尖底深鉢形土器である。これらは貝殻腹縁文主体の土器、刺突文主体の土器、条痕文主体の土器、無文の土器に大別される。貝殻腹縁文主体の文様には、縦位羽状の腹縁文（152・201・202・215・217・218・223・226・242～245・261・263・265）、横位羽状の腹縁文（186・220・232・264・278）、斜状の腹縁文（197・210・211・216）、横状の腹縁文（204・212）、網目状の腹縁文（283）、縦状の腹縁文（224）などがみられる。

190は底部が丸底を呈するもので、横位の貝殻腹縁文が底面まで施文されている。

260は貝殻腹縁連続波状文が施文されている。

刺突文主体のものには2列の平行の刺突文を横位に施しているもの（150・225）、4列の平行刺突文を横位に施しているもの（209）、2列の平行の刺突文を縦位羽状に施しているもの（250）がみられる。

189には条痕文が施文されている。187は腹縁文と刺突文との文様構成となる。

251は無文の土器であるが、器裏には貝頂文様の認められるものである。

総じて山形口縁が多い。

石器のうち、299は石鏃、300～305は搔器、306～309は剥片石器である。310は入念に研磨された磨製石斧で、斧身を柄にヒモで巻き付けた擦痕が認められるものである。311～316は棒状擦石で、1～2稜辺部に擦痕の認められるものである。

#### 遺構の時期

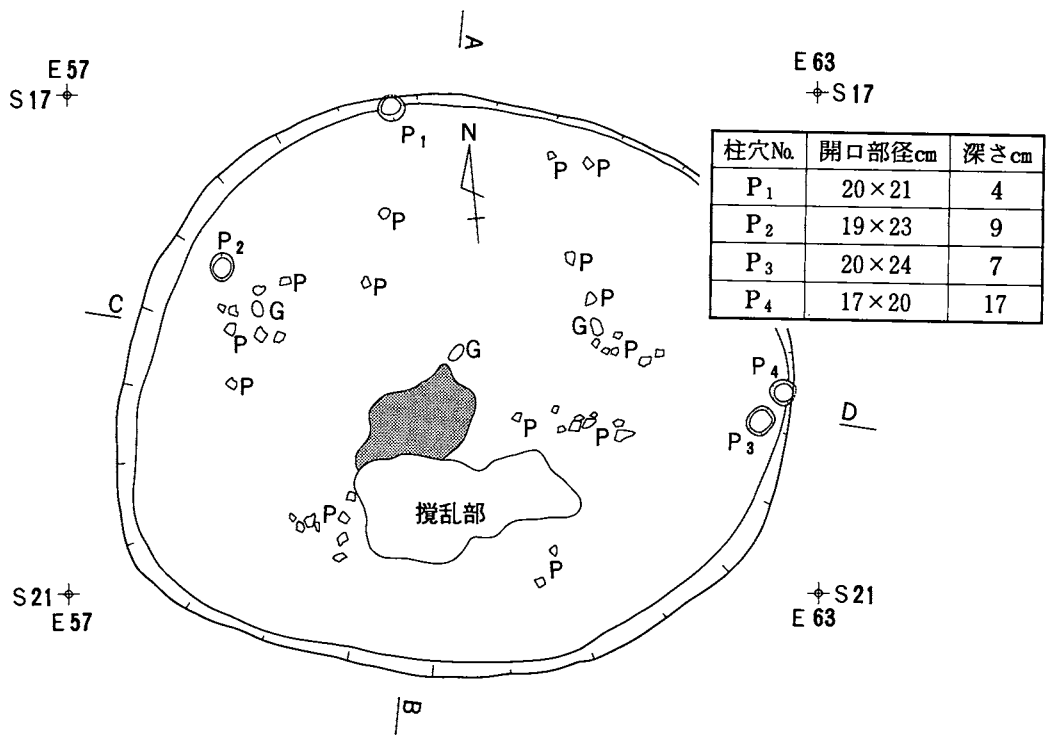
床面からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

### G I e 8 - 1 住居跡

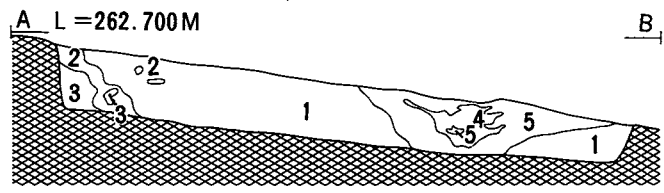
#### 遺 構（第33図、写真図版11）

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。G I e 8 - 2 住居跡の北東壁上部に検出されたもので、上半は削剝されている。本住居跡は当初1棟として調査したため床面を確認しなかった。精査段階において、本住居跡の床面相当面に炉などの焼土遺構は認められなかった。

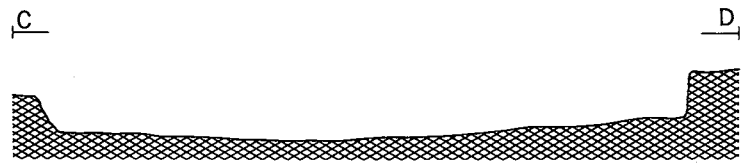
平面形は検出された壁から推定してG I e 8 - 2 住居跡とはほぼ同規模の開口部長軸径約6mの楕円形を呈するものと思われる。埋土は主に褐色土で構成され、壁際には崩落土（明黄褐色



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	20×21	4
P <sub>2</sub>	19×23	9
P <sub>3</sub>	20×24	7
P <sub>4</sub>	17×20	17

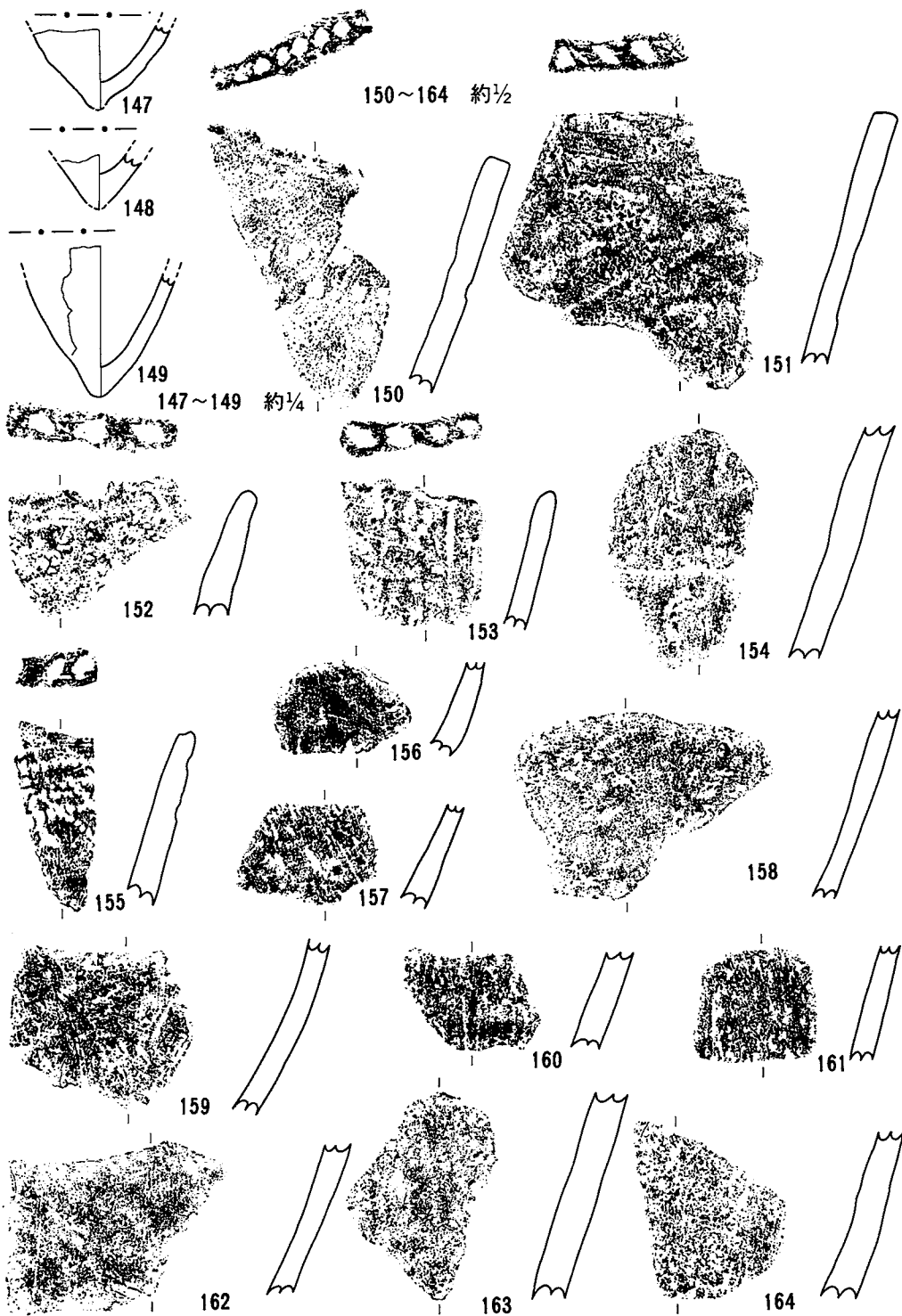


1. 極暗褐色土 (7.5YR 2/3) (含浮石10%、焼土粒、炭化物)
2. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) (含八戸火山灰、黒褐色土)
3. 褐色土 (7.5YR 4/3) 八戸火山灰相当。
4. 橙色土 (7.5YR 6/6) 八戸火山灰相当。
5. 黒色土 (7.5YR 2/1) (含八戸火山灰)

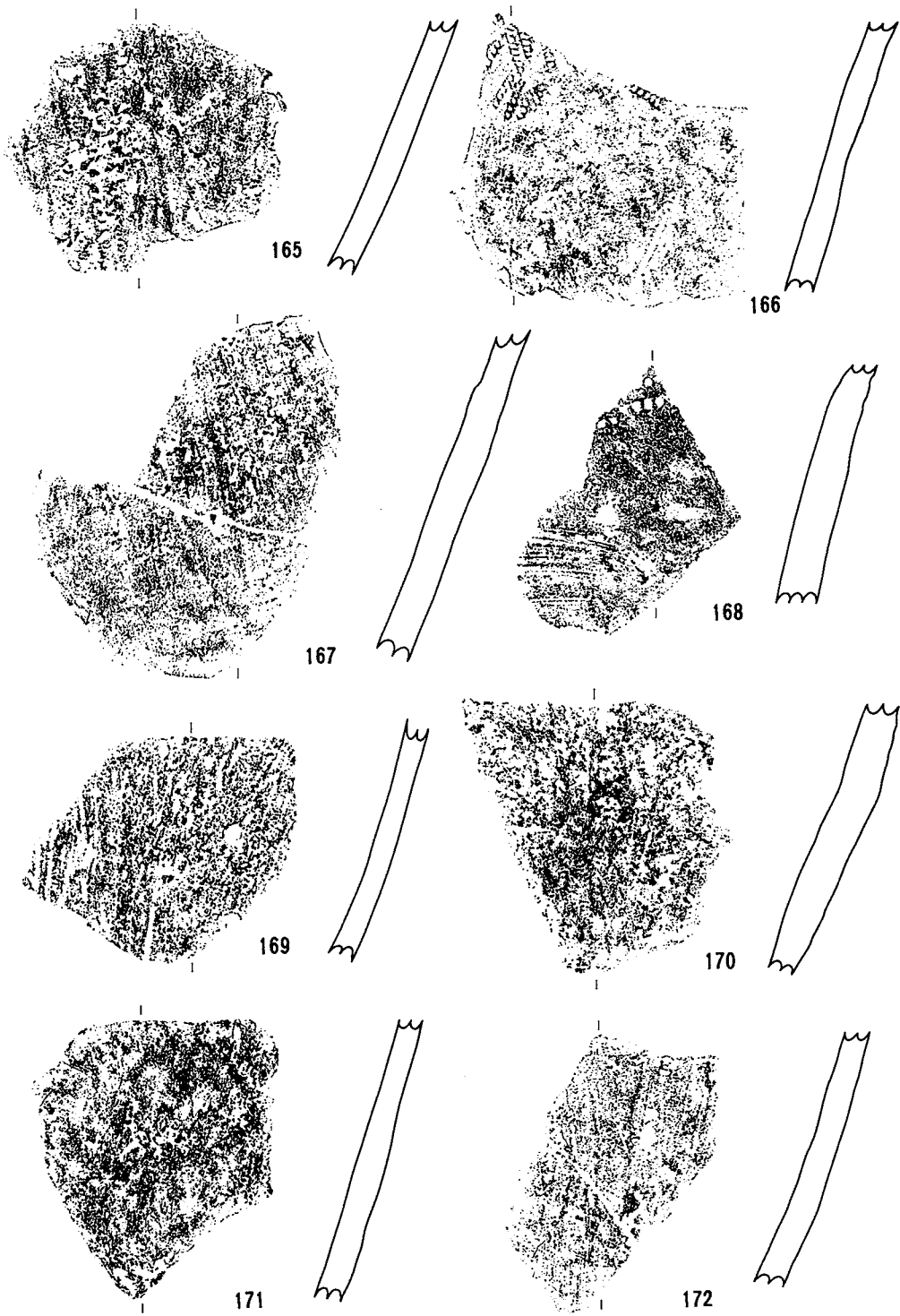


第21図 F II j 6 住居跡 (平・断面 S=1/60)



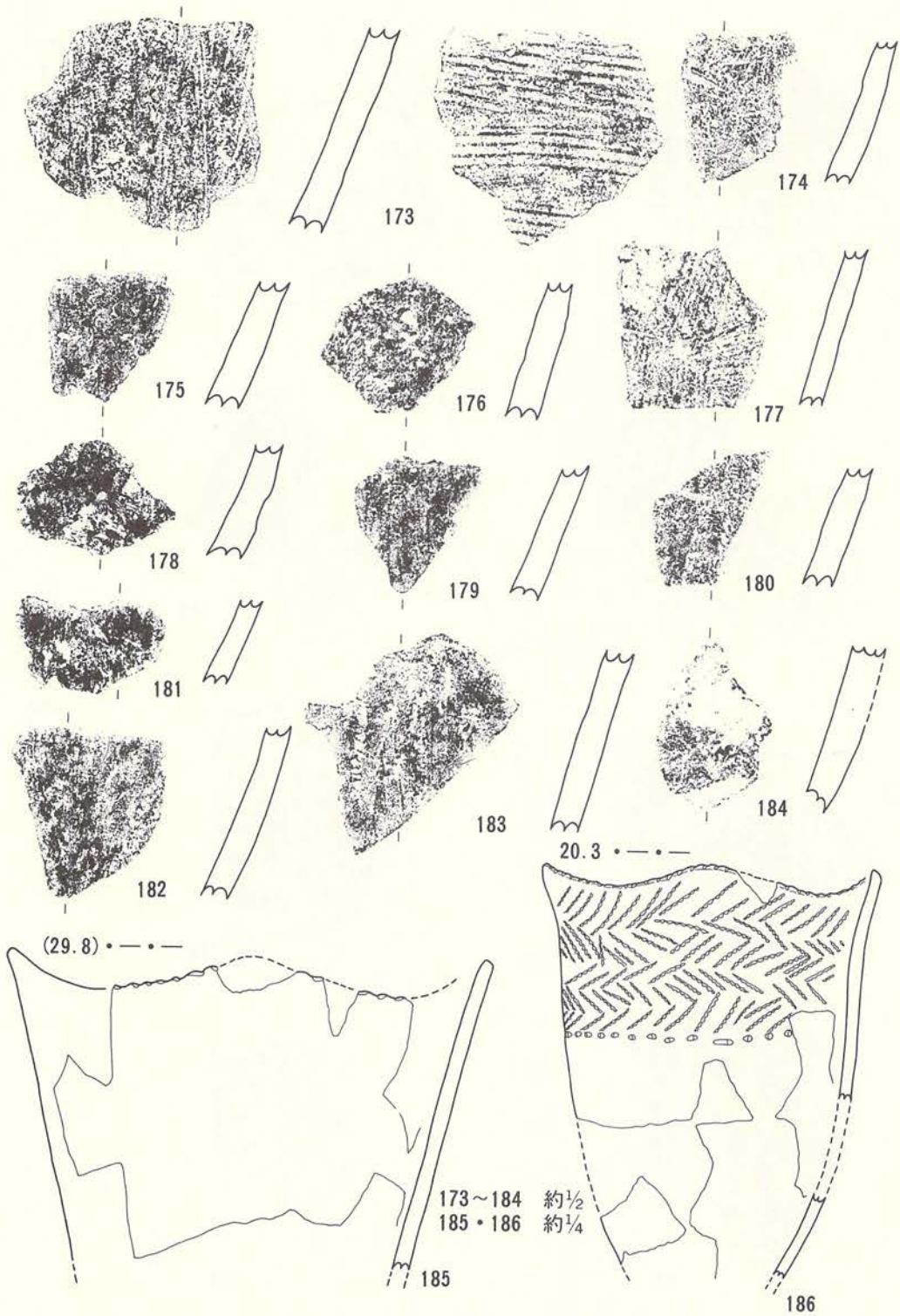


第22図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号147~164)

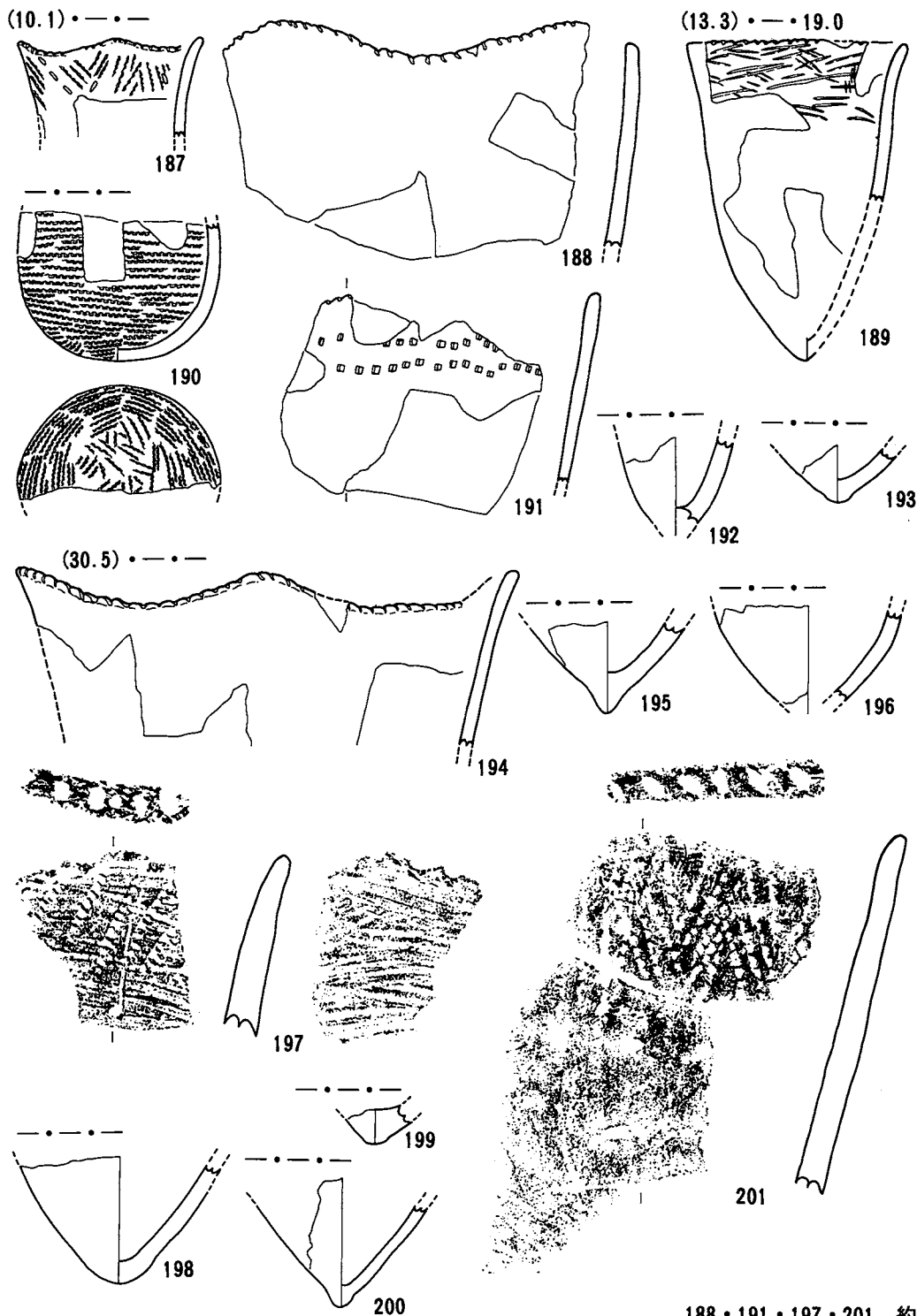


165~172 約½

第23圖 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号165~172)

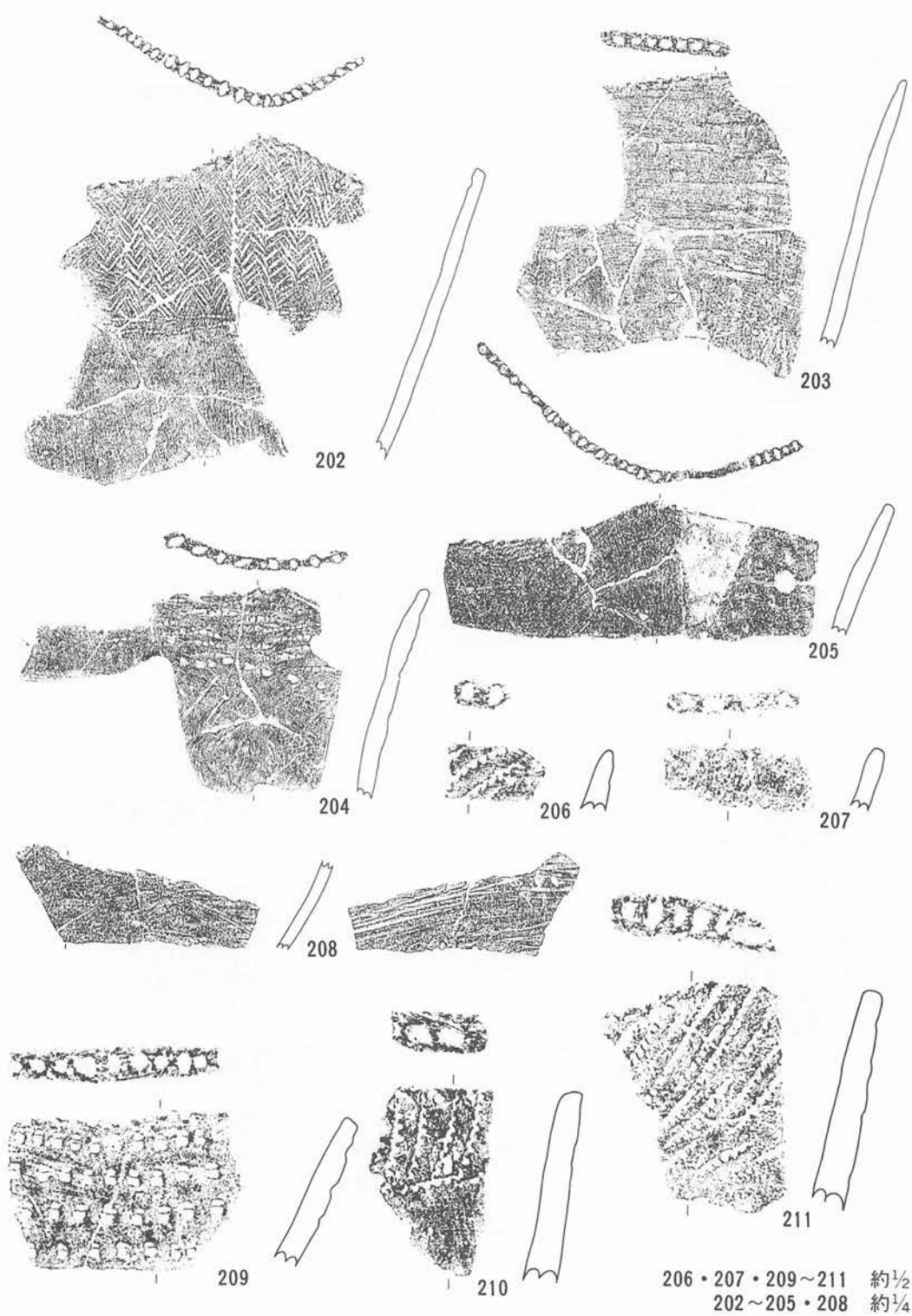


第24図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号173~186)

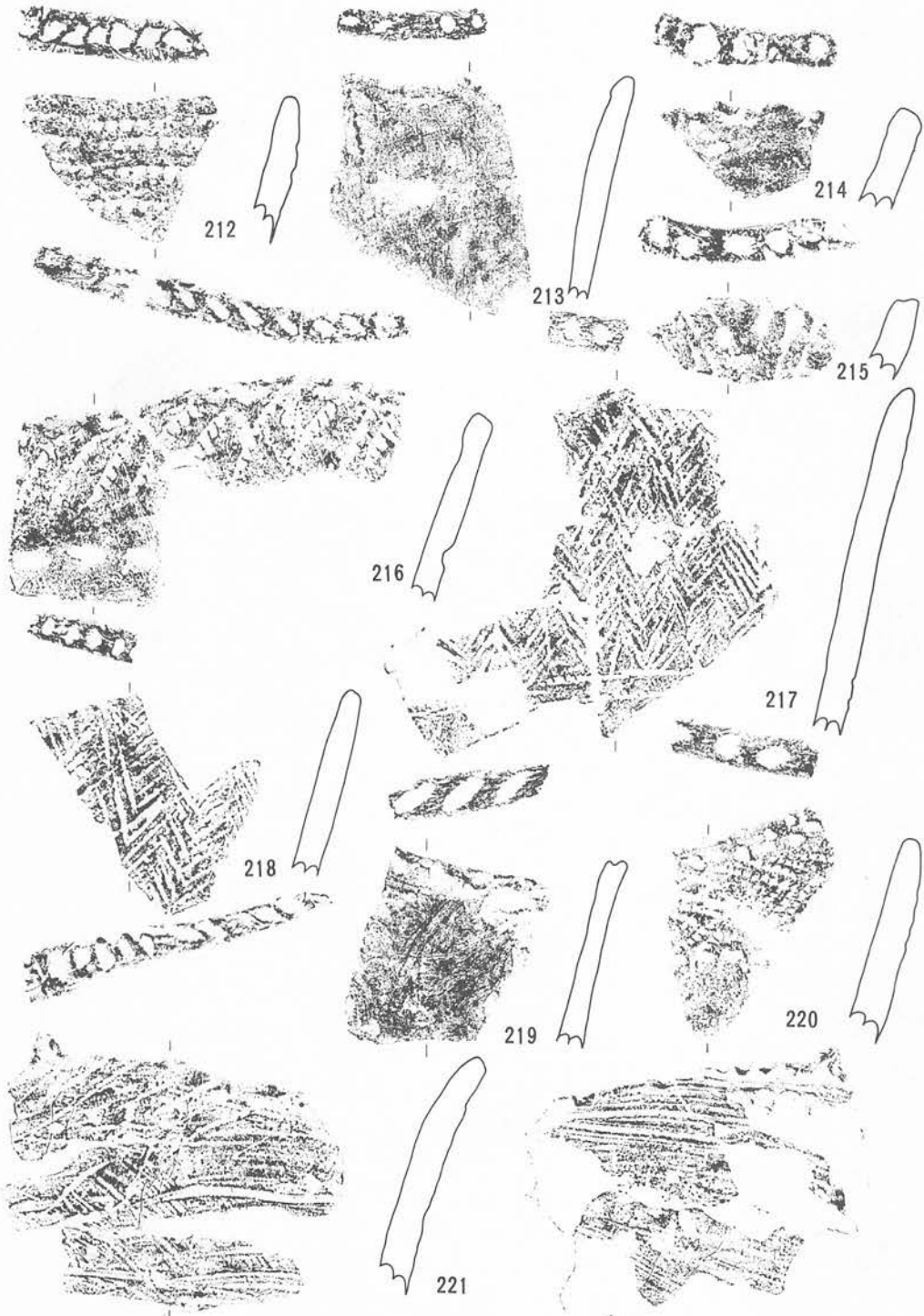


188 • 191 • 197 • 201 約 $\frac{1}{2}$   
 187 • 189 • 190 • 192 ~ 196 • 198 ~ 200 約 $\frac{1}{4}$

第25図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号187~201)

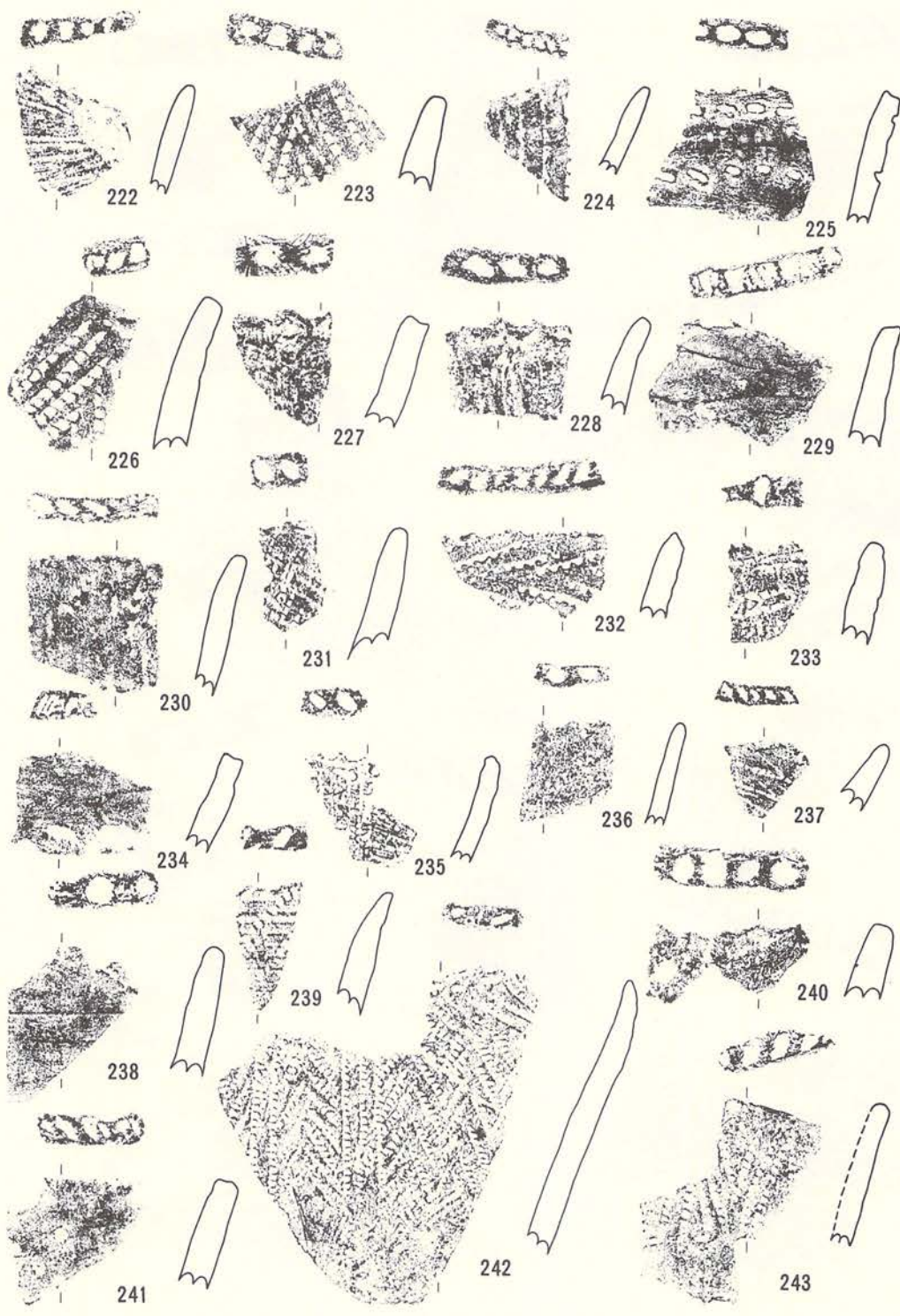


第26図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号202~211)



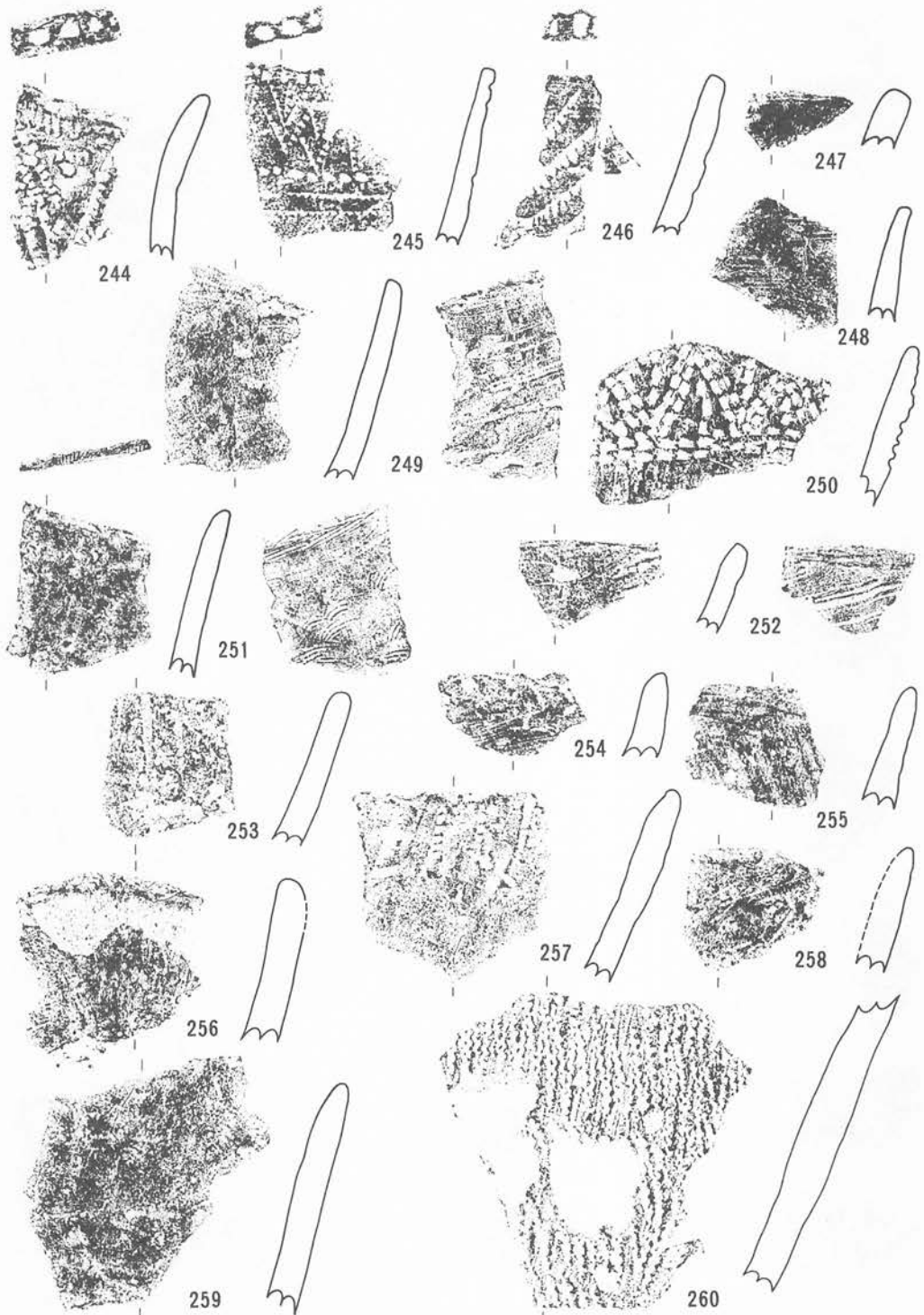
212~221 約 $\frac{1}{2}$

第27図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号212~221)



222~243 約 $\frac{1}{2}$

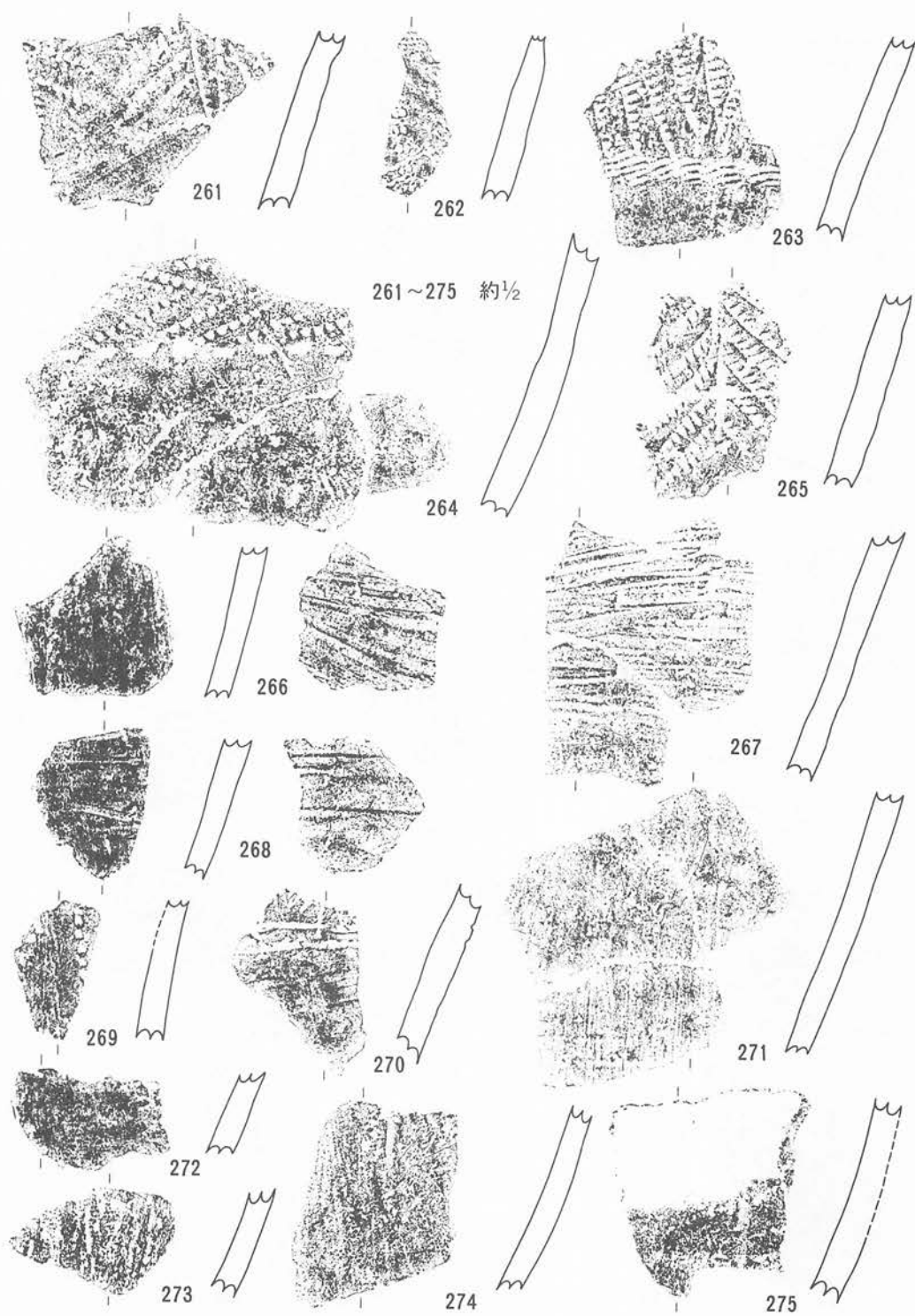
第28図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号222~243)



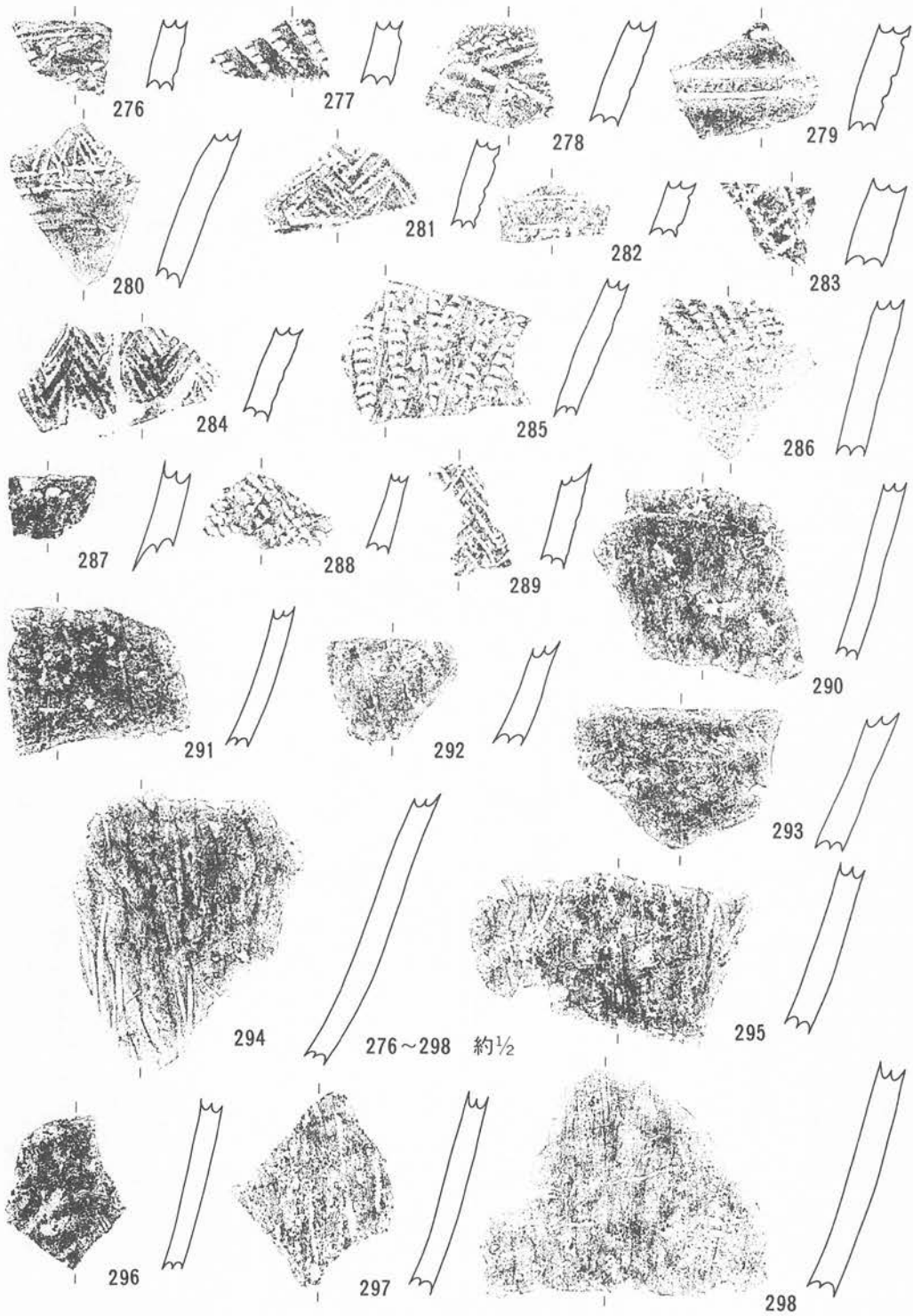
244~260 約 $\frac{1}{2}$

第29図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号244~260)

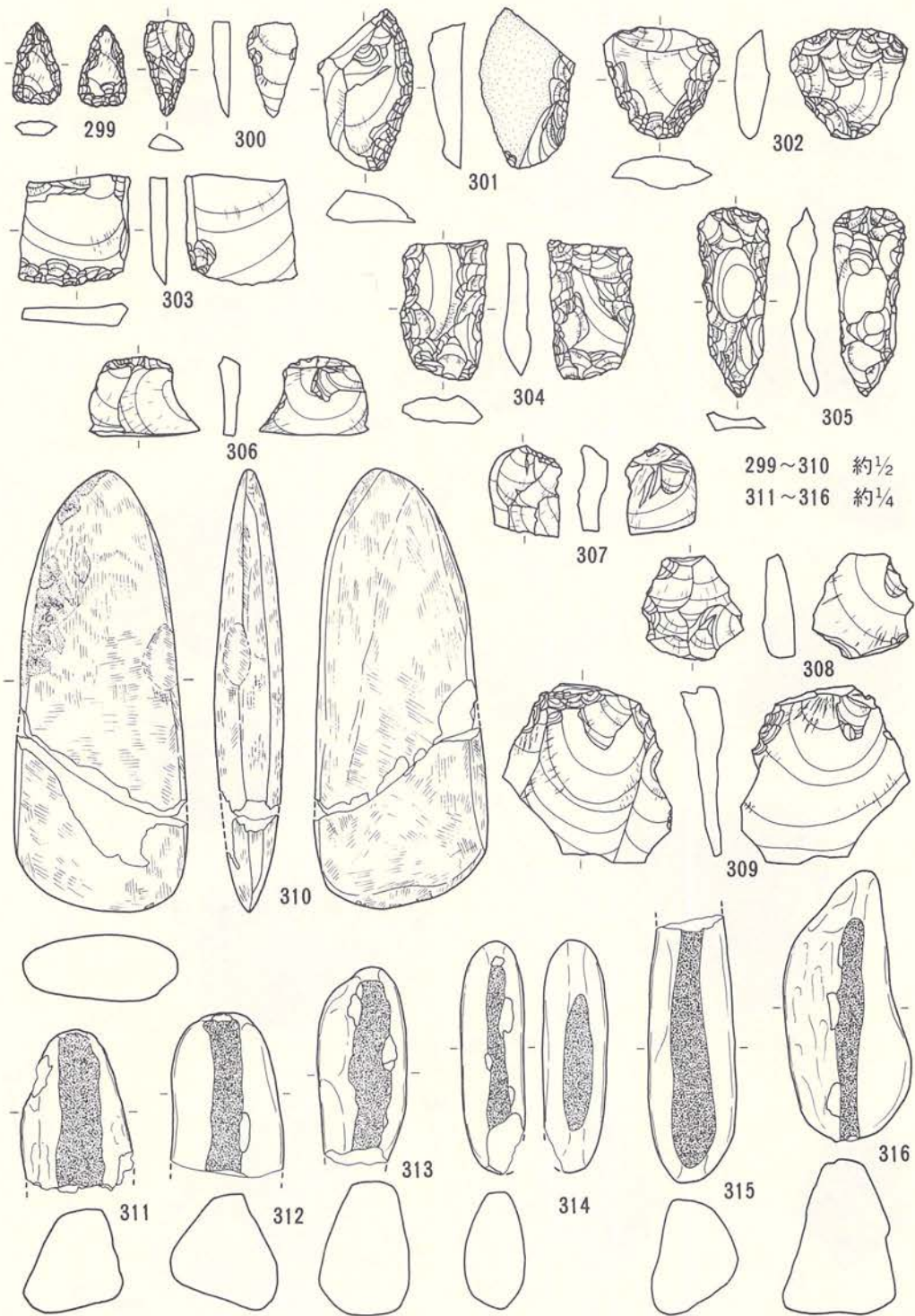




第30図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号261~275)



第31図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号276~298)



第32図 F II j 6 住居跡出土遺物 (遺物番号299~316)

土)がみられる。

床面は検出された部分をみる限り平坦である。壁は崩落部を除いて直立に近い立ち上がりである。壁高は最大65cmである。この住居跡に伴う柱穴については確定できなかった。

遺物は得られていない。

#### 遺構の時期

遺構の切り合い関係及び周囲から得られた土器から推定して、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられるものと思われる。

### G I e 8 - 2 住居跡

#### 遺 構 (第33図、写真図版11)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。G I e 9住居跡の北半に重なり、上半の大部分はG I e 8 - 1住居跡によって削剥されている。本住居跡の南側壁についてはG I e 9住居跡の精査を先行したため確認できなかったが、南北の断面から貼り床範囲が把握され、大半の範囲が推定できた。

平面形は径6.3×4.3mの楕円形と推定される。埋土は暗褐色混土、明黄褐色土からなる。床面は平坦であるが僅かに東および南に傾斜し、南半は黒褐色混土で貼り床が施されている。壁は上半が崩落しているがほぼ直立に立ち上がる。

柱穴は北側のP<sub>4</sub>とP<sub>5</sub>及び南西側のP<sub>6</sub>とP<sub>7</sub>の4柱穴で構成されるものと思われる。

#### 出土遺物 (第34～36図、写真図版91～92)

317～355の土器と356～366の石器が出土している。これらのうち317～322は床面から、その他は埋土から出土したものである。

317・318は、地文に単節斜縄文を施し、三角形の沈線区画文が施文されているものと思われる。第IV群土器の1類に属する土器と思われる。320・321・348・349・351～353は渦巻状の文様が大きく描かれ、磨消が認められるところから第IV群土器の2類に属する土器と思われる。

319・322・323・354は方形から長方形の沈線区画文が施されているもので3類に属する。

324・326・341・347は壺形土器である。324は頸部に4個の環状把手を有し、隆帯で方形区画を施し、平行の曲線文が施されているもの、326は平行な曲線文で楕円状から「S」字状の文様が施されているものである。

325・327～329・337～340・342～346は粗製深鉢形土器で、325には綾絡文が施文されている。

石器のうち356・357・362は両端に打撃痕と剝離痕の認められるところから楔形石器と思われる。その他は剥片石器である。

#### 遺構の時期

床面からの遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

## G I e 9 住居跡群

### 遺 構 (第37～38図、写真図版12)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。北半はG I e 8-2住居跡が重複し、上半を削削している。本住居跡は当初1棟と考えて精査したものであるが、壁の確認、形態等によって建て替えによる2棟と判明したものである。先行するものをG I e 9-2住居跡、新しいものをG I e 9-1住居跡として記述する。

### G I e 9-1 住居跡

2棟の中では若干北西部に位置する。平面形は開口部径4.4×4.2m(底面部径4.2×4.0m)の円形である。埋土は、上部が黒褐色土、中部がにぶい黄褐色土、暗褐色土、下部が黄褐色土からなる。床面は平坦で、壁は垂直に近い立ち上がりである。なお、南東部から南部にかけては黄色土を盛って壁としている。

ピットは北西部に位置し、壁に接していた。1.08m×95cmの不整な円形を呈し、深さ15cmの浅い皿状をなす。埋土は黄褐色土、暗褐色混土である。

炉はピットの反対側に位置する。ピットと同様に壁に接している。土器を伴う地床炉で焼土は75×45cmの楕円形をなし、その厚さは焼土混土を含めて16cmである。土器はほぼ斜位に埋設されている。焼土の下には10cmほどの掘り込みをもつ。

柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>の4柱穴である。直径20～25cmの円形で、深さは24～49cmである。いずれも埋土は褐色土であり、P<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>から土器が出土している。P<sub>4</sub>では扁平な礫が立石となっていた。

### G I e 9-2 住居跡

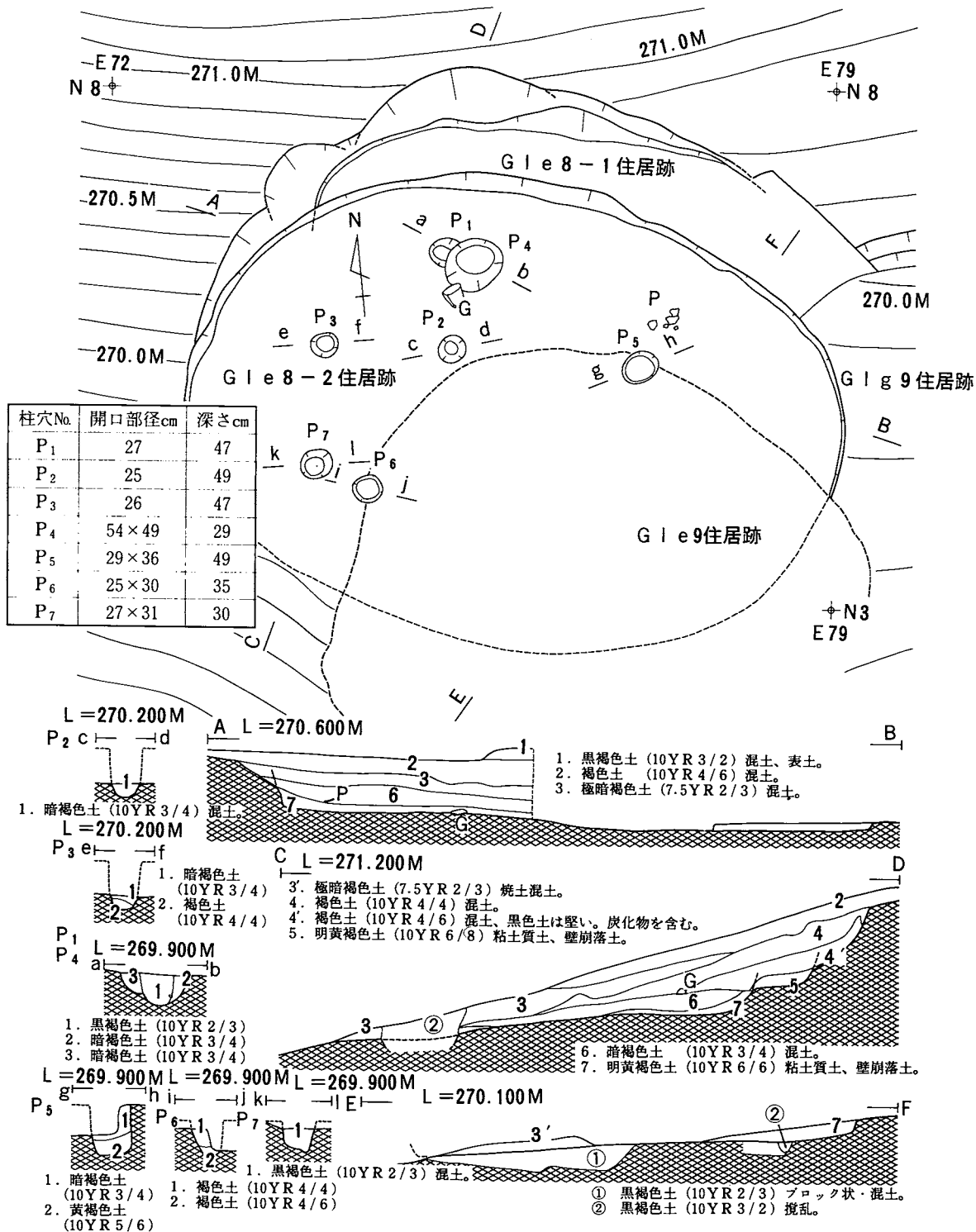
2棟の中では南東部に位置し、若干大きくなっている。G I e 9-1住居跡の盛土壁を取り込んだ形をなす。平面形は残存部から推定するに径4.5×4.5mの隅丸形状を呈するものと思われる。

床面は平坦で若干南に傾斜している。壁は垂直に立ち上がる。ピット、炉については不明である。柱穴は東側のP<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>を検出したのみである。柱穴は20×25cmほどの楕円形で、深さは29cm、45cmである。

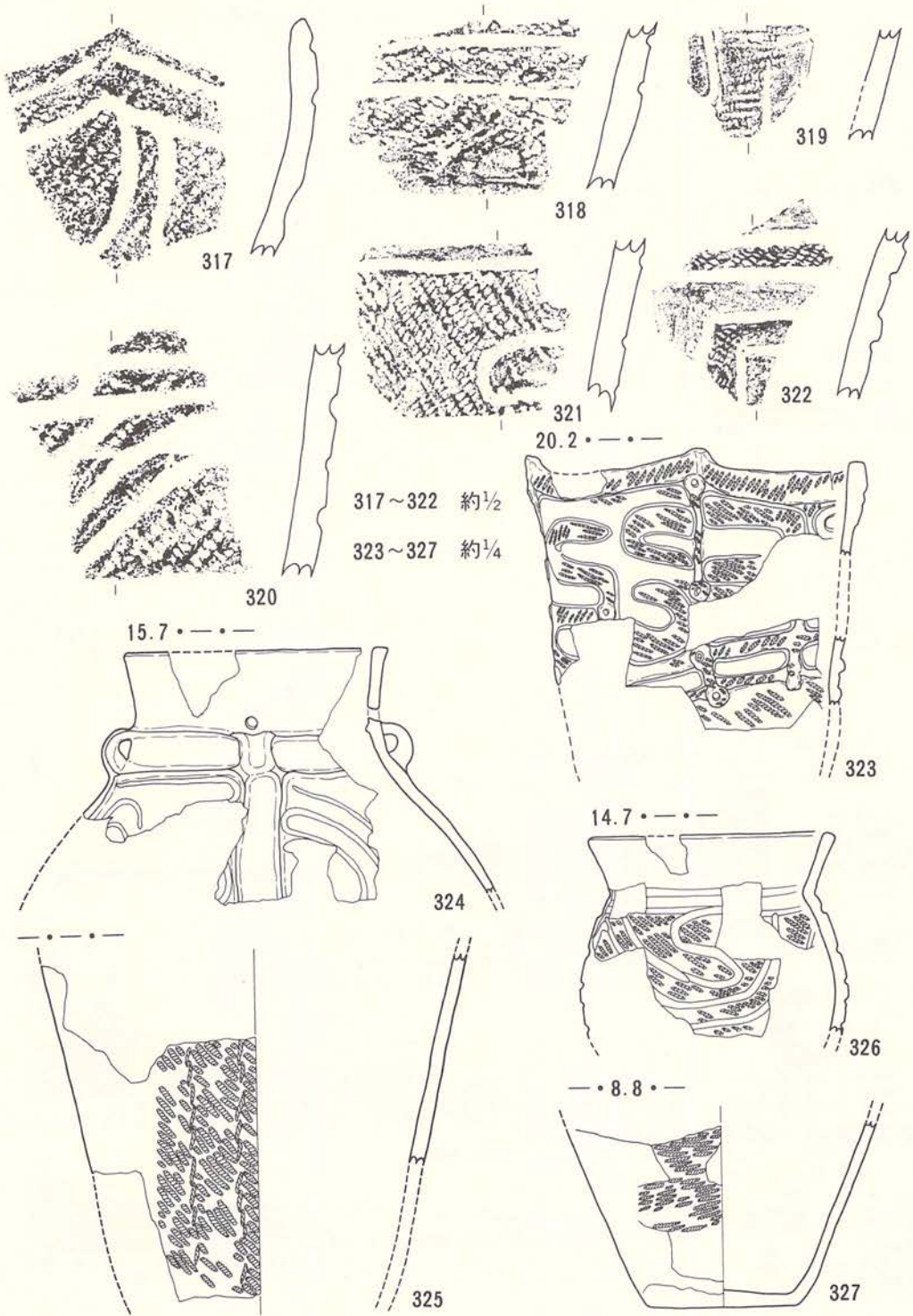
### 出土遺物 (第39～44図、写真図版93～97)

367～454の土器と455・456の土製品、457～480の石器が出土している。これらのうち367は床面から、368・374・459は柱穴の埋土から、371～373・457・460～464が焼土内から、その他は埋土から出土している。

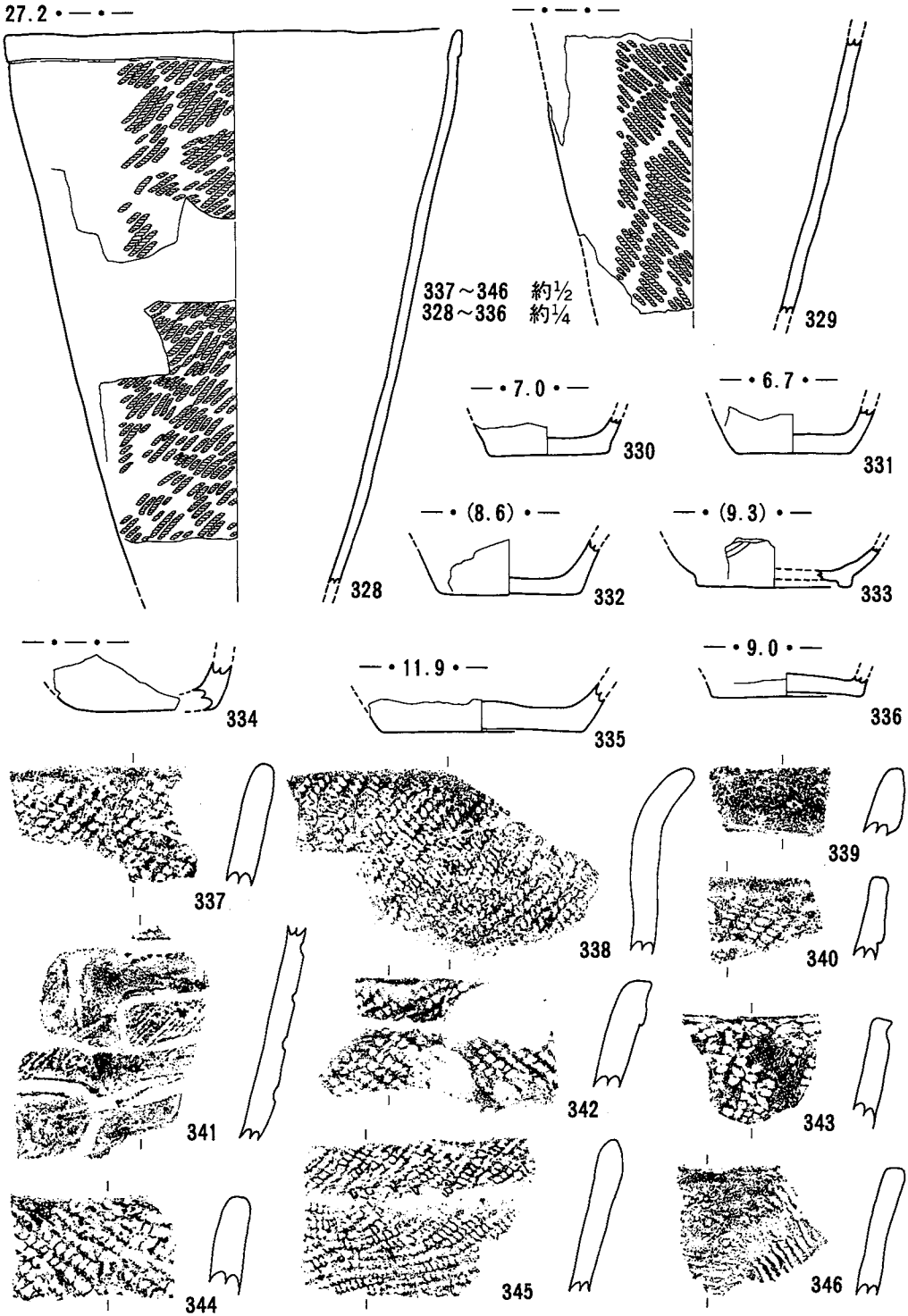
368・371・393・394には方形の沈線区画文が施文されている。378は山形口縁を呈し、口



第33図 Gle 8-1・2住居跡 (平・断面、柱穴断面 S=1/60)

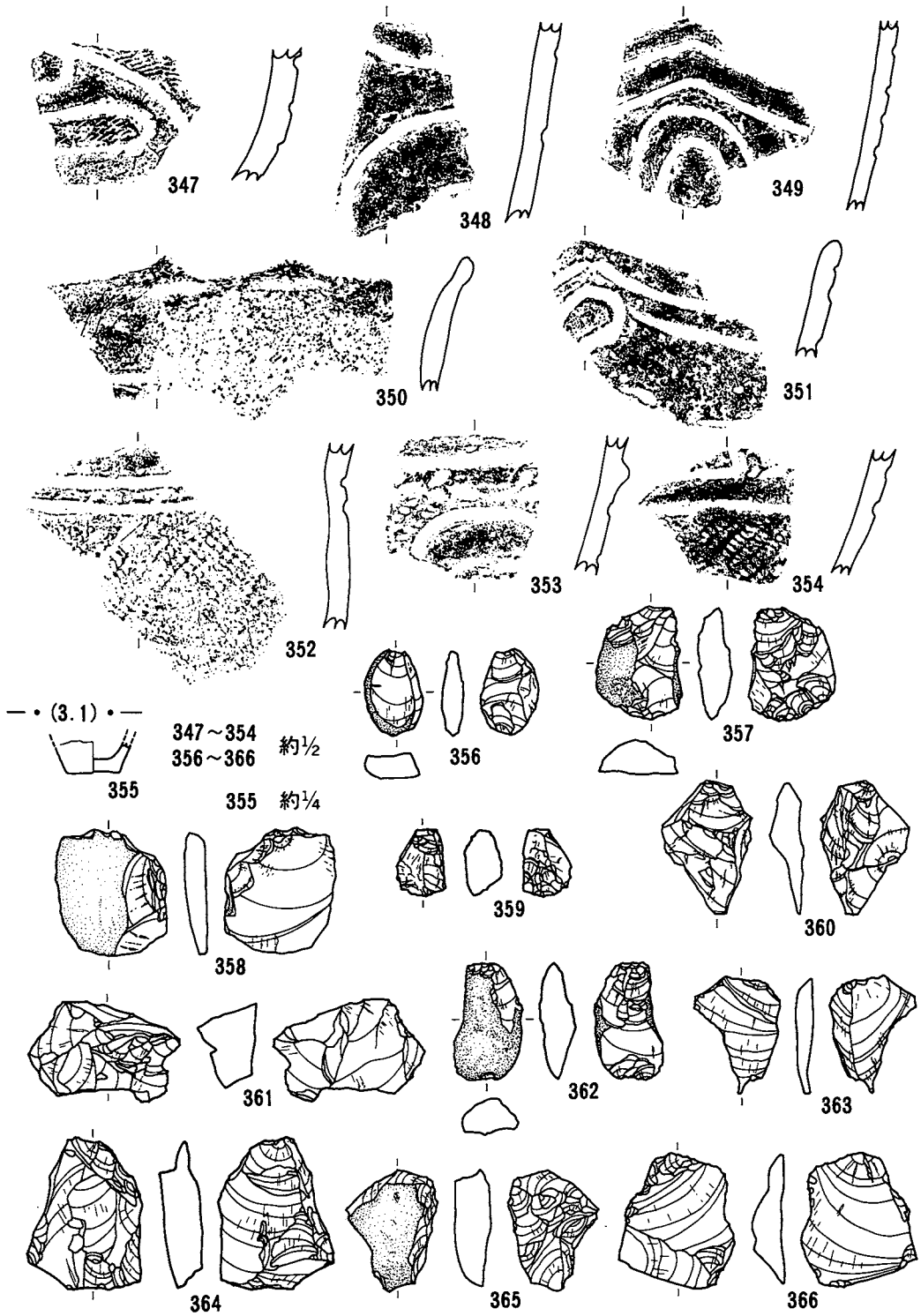


第34図 G I e 8 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号317~327)



第35図 G I e 8 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号328~346)





第36図 G I e 8 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号347~366)

縁部から体部に縦位の隆帯を施し、地文に単節斜縄文を施し、平行沈線及び逆「S」字状の文様が施文されている。382・390には逆「S」字状の平行な沈線文様が横位に流れ、長楕円状の文様が出現しているものである。

379・384は鉢形土器で、384には斜縄文が充填された楕円状の文様が施文されている。

406は鉢形土器で変形工字文が施文されているもので、弥生土器に比定されるものである。また442の鉢形土器も器形から弥生土器に比定される可能性のあるものである。

土製品のうち、455は粗製の土器を再利用した円盤状土製品、456は横位の「U」字状の沈線文様が施文されている鐺形土製品である。

石器のうち、457・460・463～469は両端に打撃痕及び剝離痕の認められるところから楔形石器と思われる。458は石筥、459・461・462・470～474は剝片石器である。475は刃部の欠損した磨製石斧、476は両面に凹みをもつ凹石、478～480は1稜辺部に擦痕の認められる棒状擦石、477は石製装飾品である。

#### 遺構の時期

床面、柱穴の埋土から出土した遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### G I e 10-1 住居跡

#### 遺 構 (第45図、写真図版13～14)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。北半がG I e 9住居跡群によって削剝され、南半はG I e 10-2住居跡と重複する。平面形は直径2.3mほどの円形と推定される。埋土は褐色土、黒褐色土、褐色土が互層に堆積し、壁際には崩落土(黄褐色土)がブロック状に観察される。

床面は地形に沿って南に傾斜し、炉跡と思われる部分が5cmほど窪んでいた。壁は垂直に近い立ち上がりで、壁高は最大30cmである。

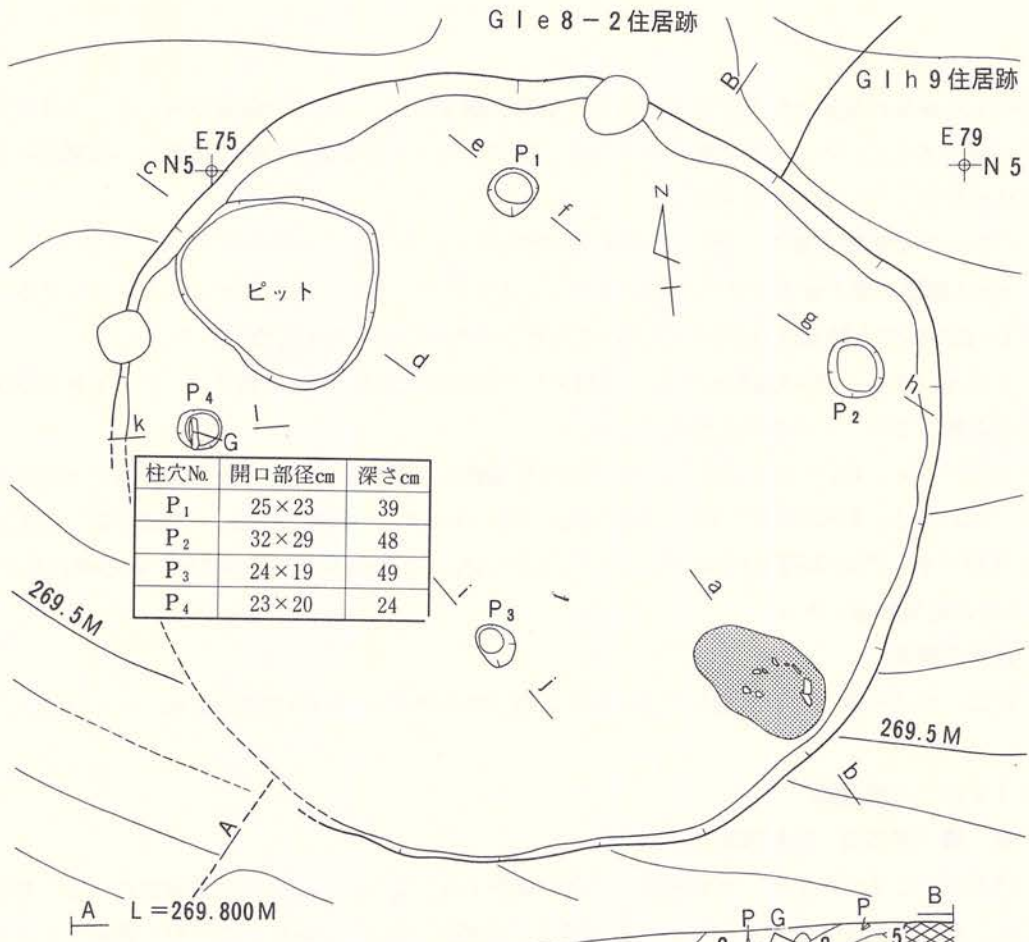
炉は南側に検出された窪地と思われる。規模は1.15m×48cmの隅丸長方形を呈する。内部に焼土の分布は認められないが、床面に比べて堅くしまっている。

#### 出土遺物 (第46図、写真図版97)

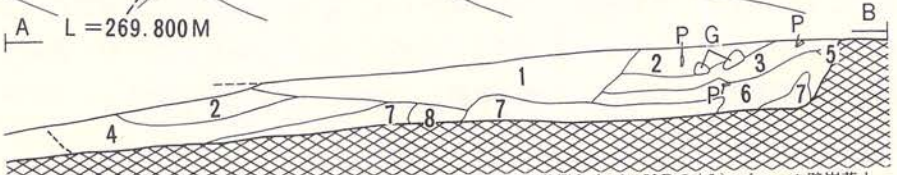
481の尖底深鉢形土器1点が埋土から出土している。山形口縁を呈し、口唇部に爪形状の刻目を有する。体部は無文である。

#### 遺構の時期

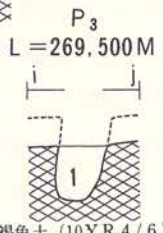
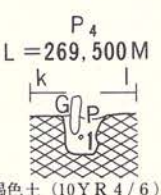
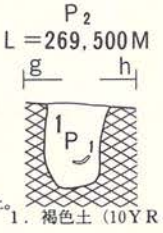
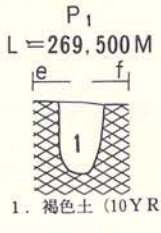
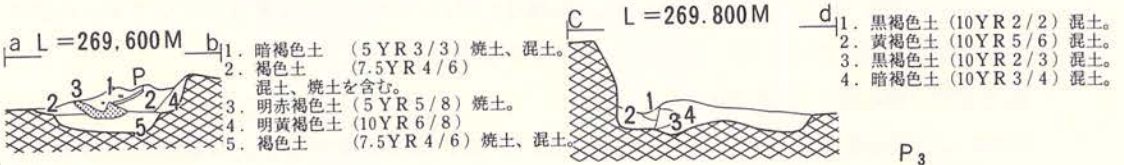
床面からの出土遺物を欠き、判定できかねるが、埋土からの遺物から縄文時代早期に位置づけられるものと思われる。



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	25×23	39
P <sub>2</sub>	32×29	48
P <sub>3</sub>	24×19	49
P <sub>4</sub>	23×20	24

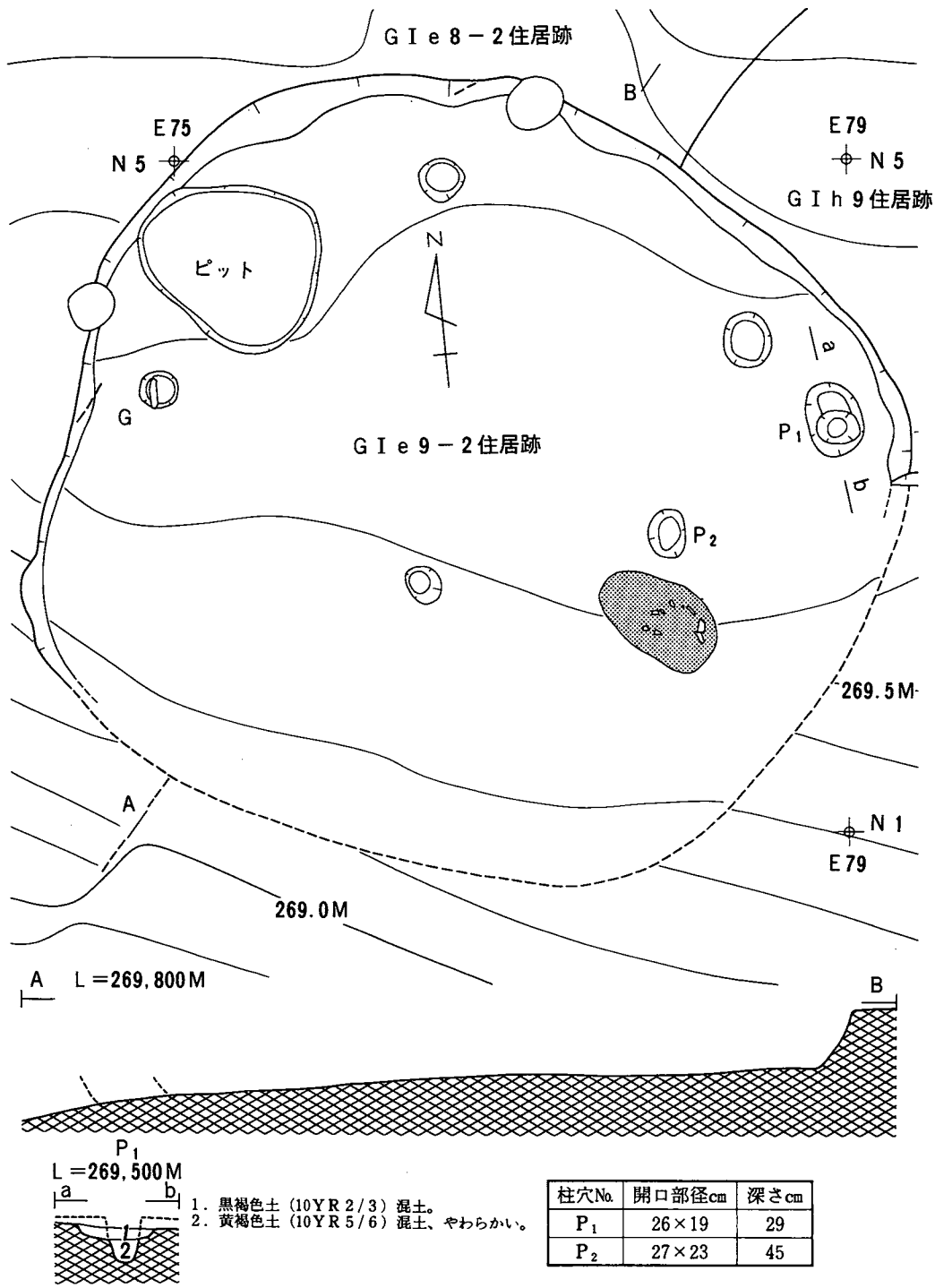


1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、黄色土をブロック状に含む。
2. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土、1より黒色が強い。
3. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 混土、土器を含む。
4. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、黄色土をブロック状に含む。
5. 黄褐色土 (10YR 8/6) ブロック壁崩落土。
6. 黄褐色土 (10YR 5/8) 土器を含む。
7. 黄褐色土 (10YR 5/8) やわらかい。
8. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。

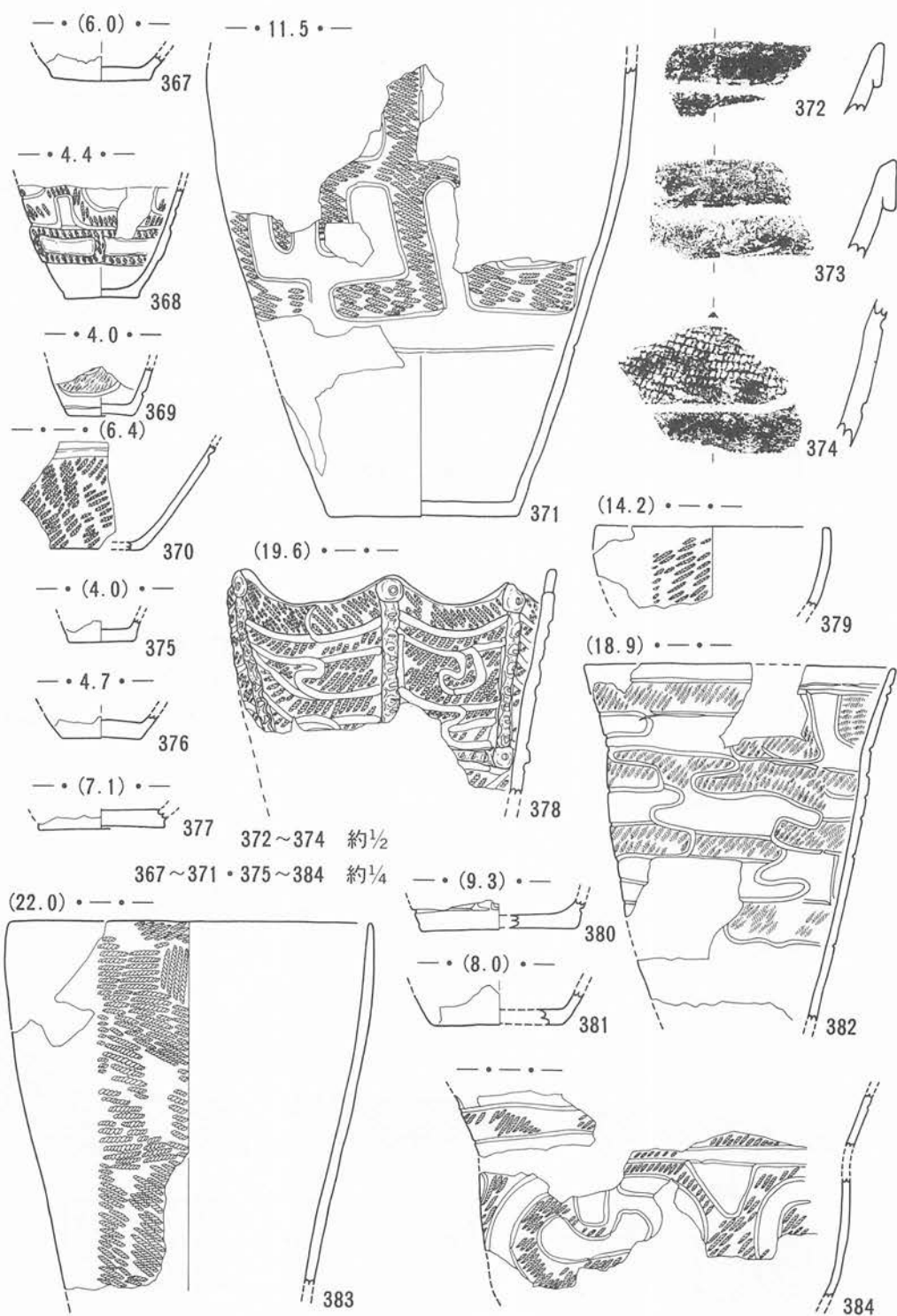


1. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。
1. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。
1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土。
1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土。

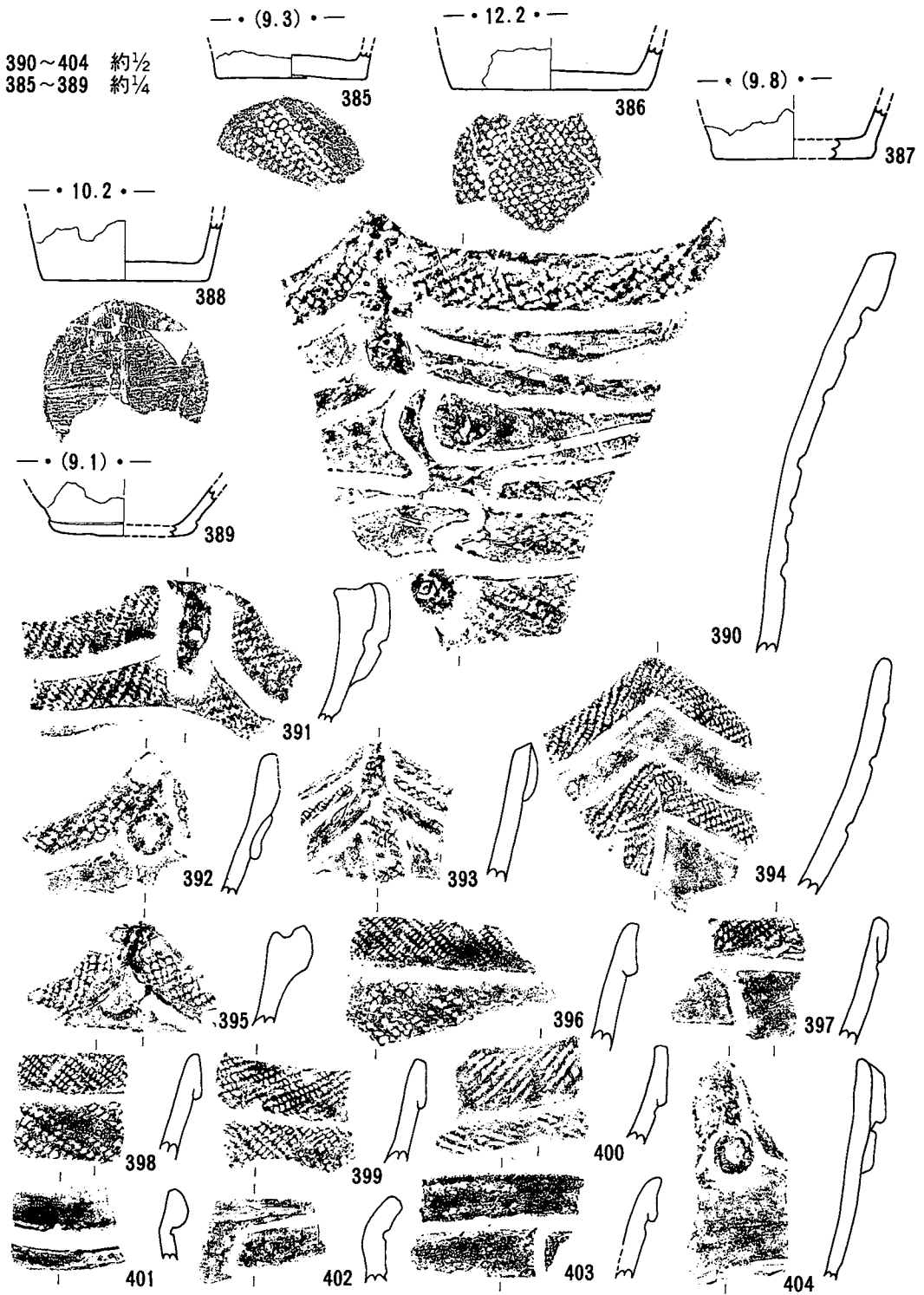
第37図 G I e 9-1住居跡 (平・断面、炉、ピット、柱穴断面 S=1/40)



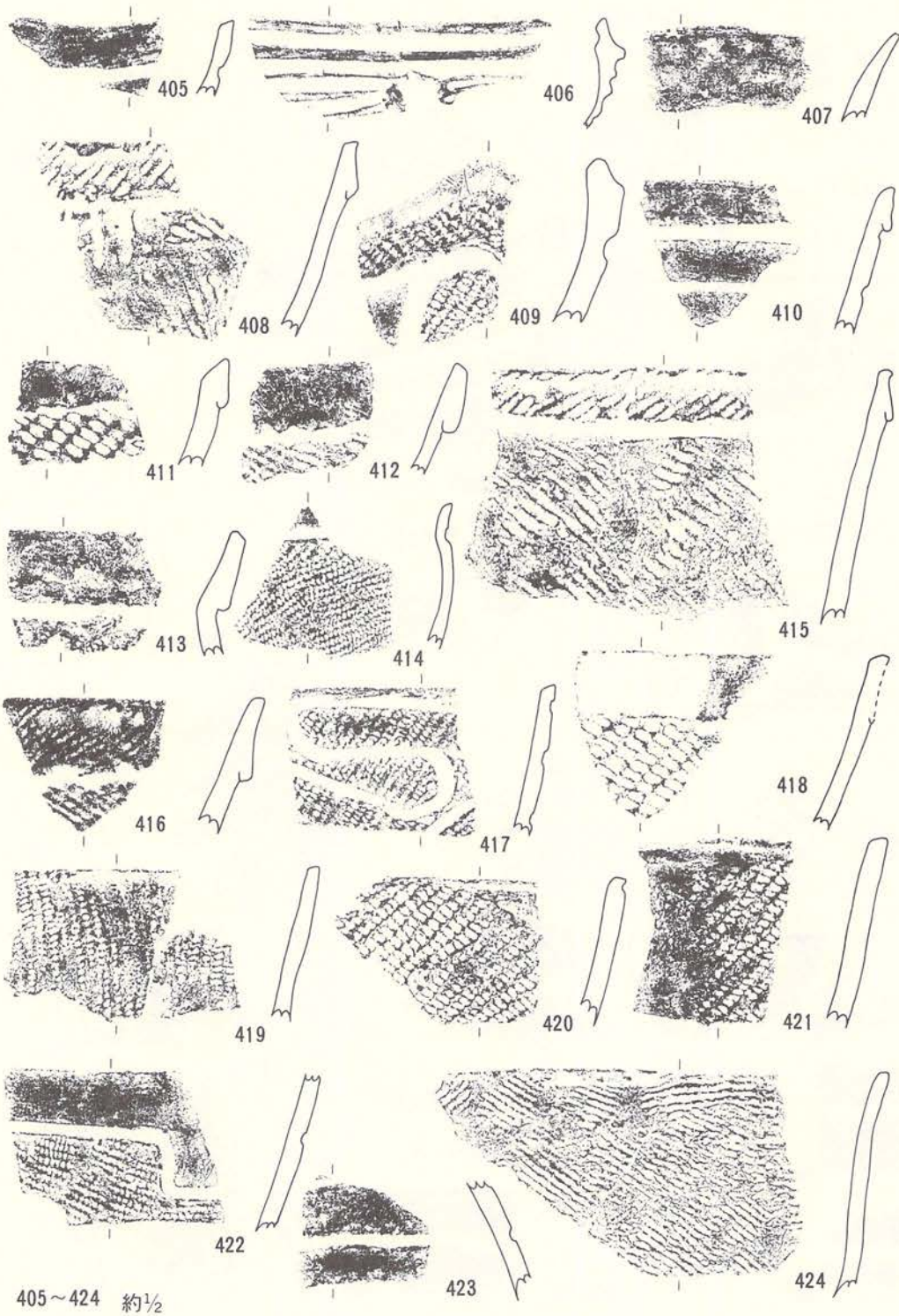
第38図 G<sub>1</sub> I e 9 - 2 住居跡 (平・断面、柱穴断面 S = 1/40)



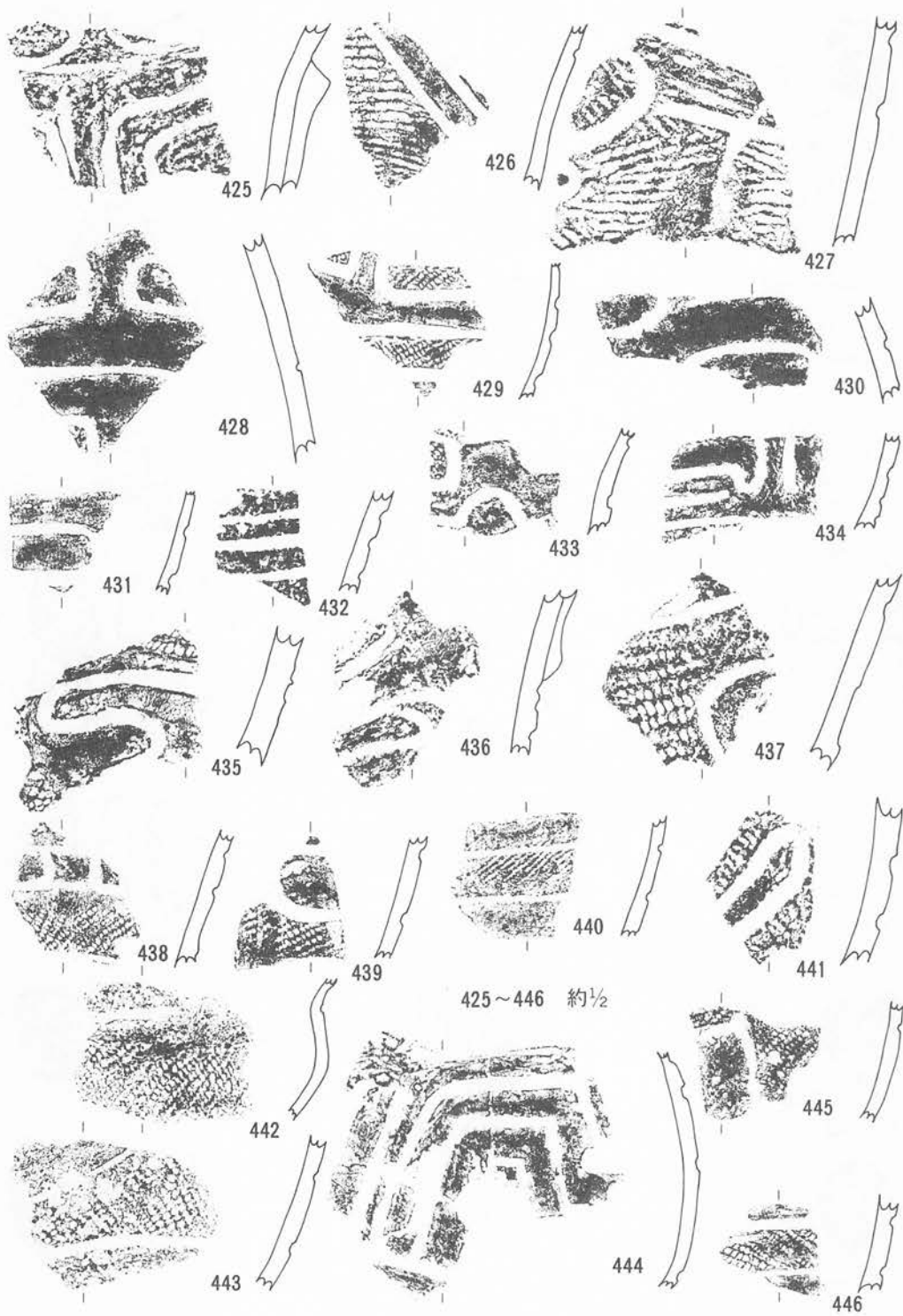
第39図 G I e 9 住居跡群出土遺物 (遺物番号367~384)



第40図 G I e 9 住居跡群出土遺物 (遺物番号385~404)

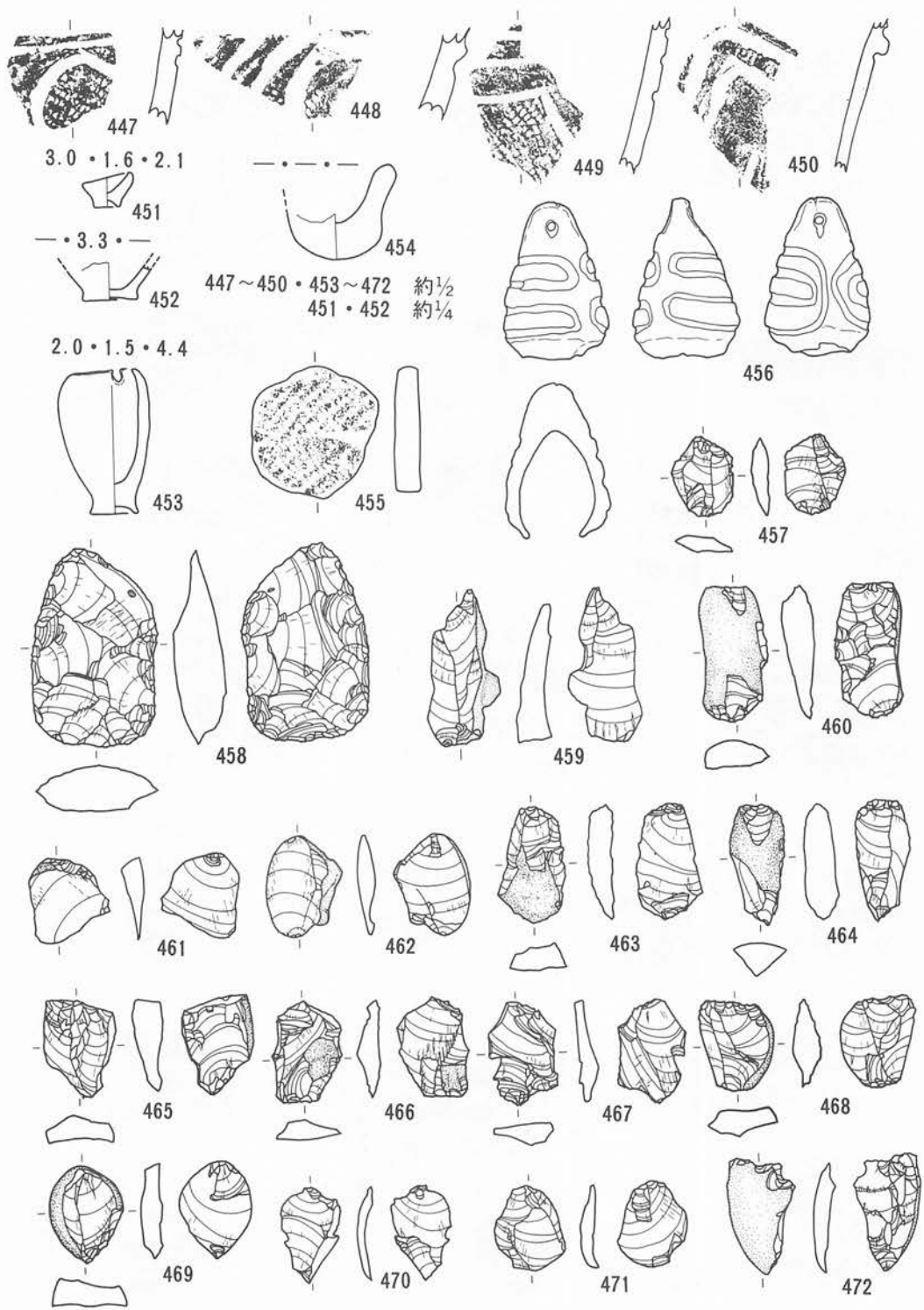


第41図 G I e 9 住居跡群出土遺物 (遺物番号405~424)

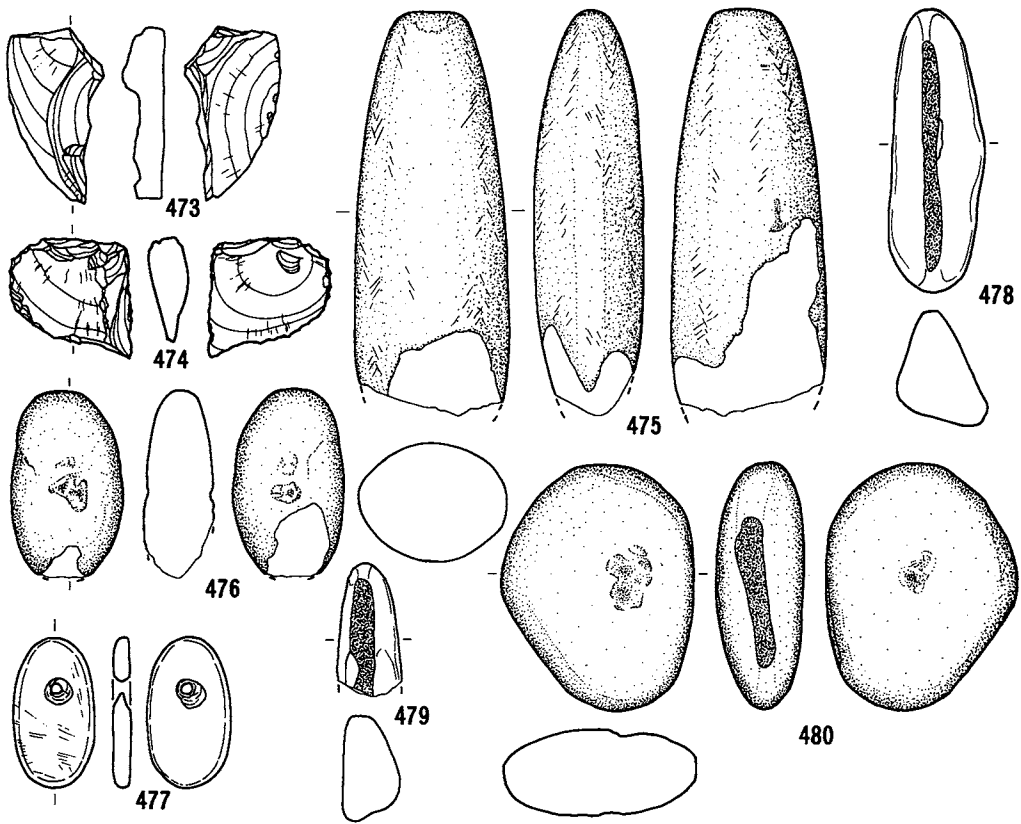


第42図 G I e 9 住居跡群出土遺物 (遺物番号425~446)





第43図 G I e 9 住居跡群出土遺物 (遺物番号447~472)



第44図 G I e 9 住居跡群出土遺物 (遺物番号473~480)

G I e 10-2 住居跡

遺構 (第45図、写真図版13・15)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。北半がG I e 10-1 住居跡と重複している。焼土の残存状況や床面の段差状況から推定すると、当住居跡が新しいものと思われる。平面形は南東、北西方向に長い楕円形を呈する。規模は底面部径2.55×2.0mである。埋土は暗褐色土～黒褐色土である。

床面はG I e 10-1 住居跡と同様に地形に沿って南に傾斜している。東西方向はほぼ平坦であるが幾分中央部が下がっている。壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁高は最大28cmである。

炉は住居跡の南東部にあり、極めて弱い焼成痕を残す地床炉である。炉は地形に沿って南北に長く、84×28cmの不整な楕円形を呈する。焼土の厚さは5cmである。

柱穴は確認されていない。

遺物は得られていない。

### 遺構の時期

遺構の重複関係から、縄文時代早期に位置づけられるものと思われる。

### G I g 7 住居跡

#### 遺 構（第47図、写真図版16）

この住居跡は調査区東側尾根の上部に位置する。平面形は南北に長軸をもつ不整長方形を呈する。規模は開口部辺2.5×3.0m、床面部辺2.2×2.6mである。埋土は中央部上位が焼土粒を包含する極暗褐色土、上位から中位が黒褐色土、下位が径2cm程度の焼土を包含する極暗褐色土と黒褐色土の混土で構成される。壁高は北壁で40cm、東壁で26cm、西壁で27cmであり、南壁高はほとんどない。

床面は小さな起伏があり、斜面に沿って傾斜する。炉は検出されていないが、中央部からやや南側に径30×40cmの不整形の範囲に炭化物の分布が確認されている。

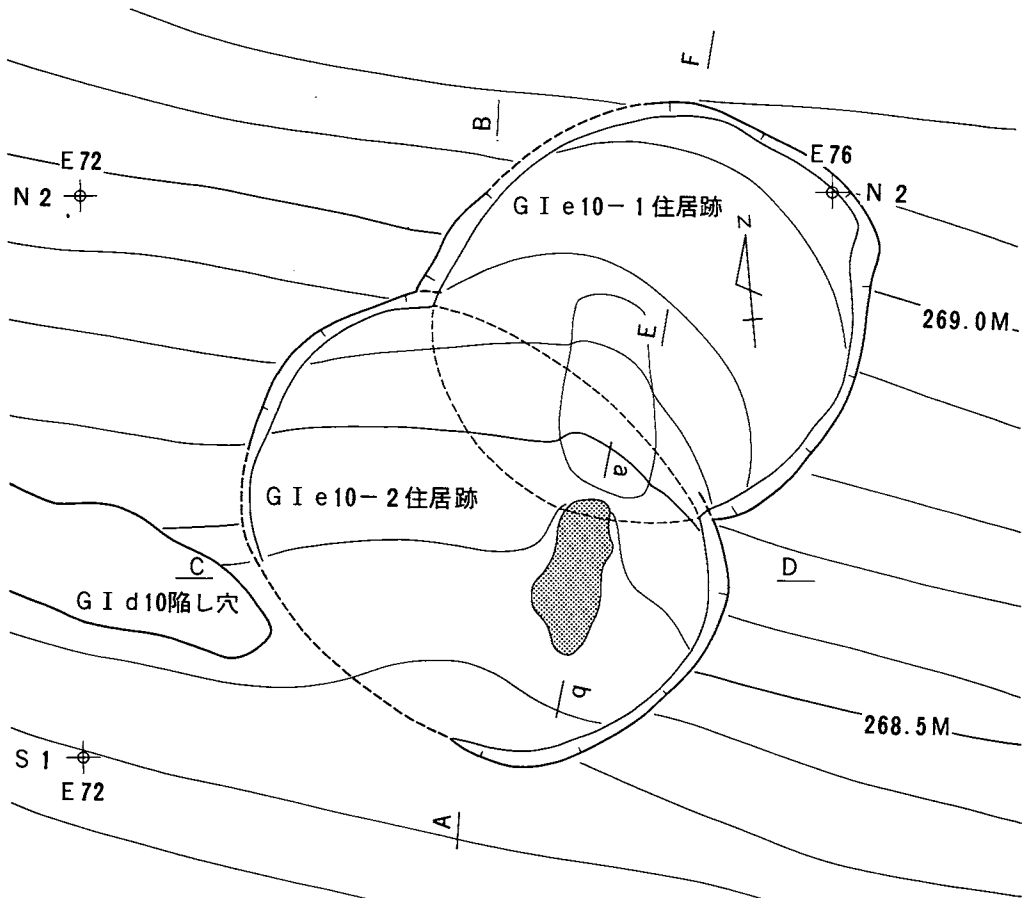
柱穴は検出されていない。

#### 出土遺物（第47図、写真図版97）

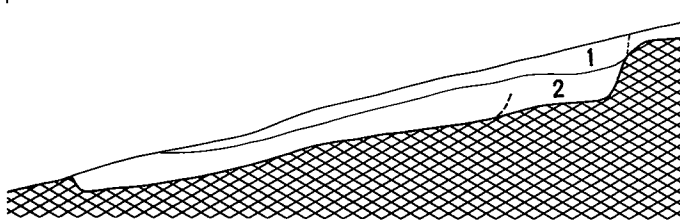
埋土から482～485の粗製深鉢形土器の体部破片が出土している。いずれも同一個体と思われる。

### 遺構の時期

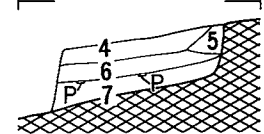
床面からの出土遺物を欠くが、埋土からの遺物と周囲からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられるものと思われる。



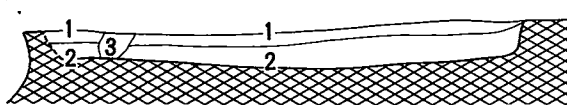
A L=269,300 M



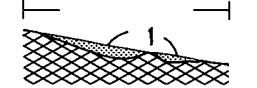
E L=269,300 M F



C L=268,800 M D



a L=268,600 M b

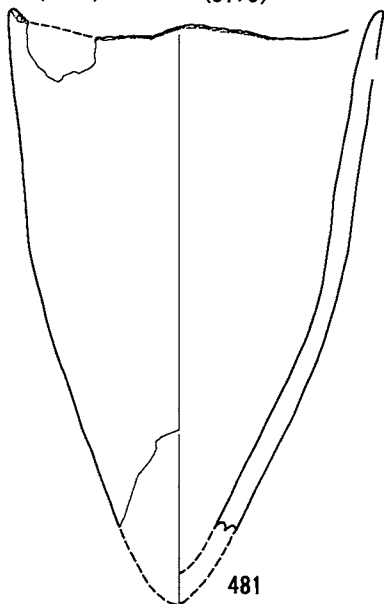


1. 暗褐色土~黒褐色土 (10YR 3/4~2/3) 混土。
2. 暗褐色土~黒褐色土 (10YR 3/4~2/3) 混土。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) やわらかい。
4. 褐色土 (7.5YR 4/6) 混土、やわらかい。
5. 黄褐色土 (10YR 5/6) 壁崩落土。
6. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、堅くしまっている。
7. 褐色土 (10YR 4/4) 混土、堅い、黒褐色の部分あり。

1. にぶい赤褐色土 (5YR 4/4) 焼土。

第45図 G I e 10-1・2住居跡 (平・断面、炉断面 S=1/40)

(20.2) ・一・ (31.9)



481 約 $\frac{1}{2}$

第46図 G I e 10-1 住居跡出土遺物  
(遺物番号481)

### G I g 9 住居跡

遺構 (第48図、写真図版17~18)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。G I e 8-1・2住居跡、G I e 9-1・2住居跡、G I h 8住居跡、G I h 9-1・2住居跡、G I h 10-1・2住居跡と重複し、最も新しい住居跡である。床面から炉が2基検出されているところから、建て替えられた可能性のある住居跡である。

平面形は貼り床範囲等から楕円形と考えられる。規模は、西端部に不明確な部分があるものの、6.35×4.35mと推測される。埋土は暗褐色土、黒褐色土、褐色土が互層に堆積し、北壁の壁際には崩落土(褐色土、明褐色土)が認められる。埋土下位には炭化物と焼土がブロックに混入していた。

床面は幾分南に傾斜するもののほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がり、上半が大きく開いている。壁高は最大70cmである。

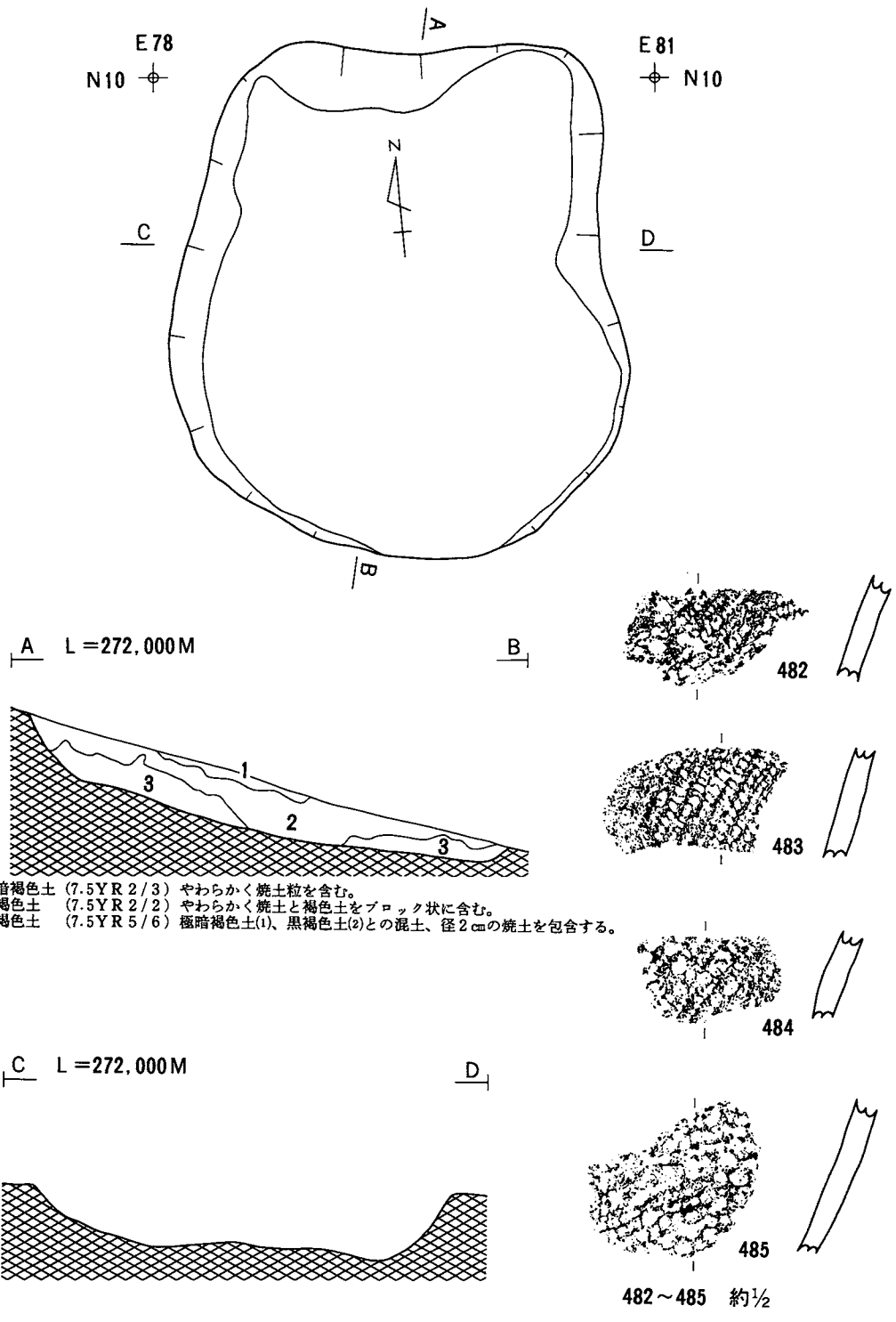
炉1は中央北側に位置する。構成礫13個からなる石囲い炉である。炉は径70×63cmの隅丸方形に近い円形をなす。構成礫は床面に浅く埋められていた。焼土は僅かに検出されたのみである。

炉2は炉1の南西部に位置し、焼土が46×30cmの三角形を呈する。焼土の厚さは8cmである。焼土の中央には礫が焼土にくい込む形で検出されており、石囲い炉であった可能性がある。

ピットは北部にあって北壁に接している。103×93cmの円形で深さ52cmの摺鉢状を呈する。埋土は中位から上位がにぶい黄褐色土、黄橙色土、下位が暗褐色土、黄褐色土、黒褐色土からなり、上位が埋め戻された可能性がある。ピットの西側はP<sub>2</sub>によって切られており、あるいは先行する円筒形の陥し穴かもしれない。

柱穴はP<sub>1</sub>~P<sub>6</sub>が検出されている。これらは直径15~30cmの円形、楕円形を呈し、深さが15~59cmである。埋土は暗褐色土、黒褐色土で、盛土部分が黒褐色土である。P<sub>2</sub>、P<sub>5</sub>が炉1に伴い、P<sub>1</sub>、P<sub>4</sub>、P<sub>6</sub>が炉2に伴う柱穴とみられる。

出土遺物 (第49~52図、写真図版97~100)



- 1. 極暗褐色土 (7.5YR 2/3) やわらかく 焼土粒を含む。
- 2. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) やわらかく 焼土と褐色土をブロック状に含む。
- 3. 明褐色土 (7.5YR 5/6) 極暗褐色土(1)、黒褐色土(2)との混土、径 2cm の焼土を包含する。

482 ~ 485 約 1/2

第47図 G I g 7 住居跡 (平・断面 S=1/40)  
G I g 7 住居跡出土遺物 (遺物番号 482 ~ 485)

486～544の土器、545～547の土製品、548のミニチュア土器、549・550の土偶、551～574の石器が出土している。これらのうち489・491は北壁際埋土下位からセットで、553と574が床面から、その他は埋土から出土したものである。

489は波状口縁を呈する小型の台付鉢形土器、491は体部上半が脹り、口縁部が内湾する甕形土器で、両者とも口縁部下に平行沈線を巡らし、その中に刺突文が施されているものである。493は壺形土器の体部下半で、隆帯で区画された中に方形から長方形の沈線文が施文されているもので穿孔を有する突起があるところから、懸垂した土器と思われる。490は粗製の鉢形土器、492・497・501は深鉢形土器で、501には綾絡文が施文されている。

545～547はいずれも粗製の土器片を再利用した円盤状土製品である。

549・550は板状土偶で、549には沈線と刺突文が、550は沈線文が施文されている。

石器のうち551・555・556は搔器、552～554・557・572は剝片石器である。573は両面と縁辺に凹みを有する凹石、574は完形の磨製石斧である。

#### 遺構の時期

炉の形態と埋土下位からの出土遺物から、弥生時代に位置づけられる。

### G I h 8 住居跡

#### 遺 構 (第53図、写真図版19)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。南半の大部分がG I g 9 住居跡、G I h 9 - 1・2 住居跡によって破壊され、北端の一部を残すのみである。また、東端部はG I j 8 住居跡によって切られている。

平面形は残存部から推定して円形か楕円形を呈するものと思われる。規模については不明である。埋土は上位が暗褐色土、中位から下位が褐色土である。床面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がり、上半が外反している。

床面の西部から柱穴1個が検出されている。柱穴は45×35cmの楕円形で、深さは25cmである。埋土は褐色土である。

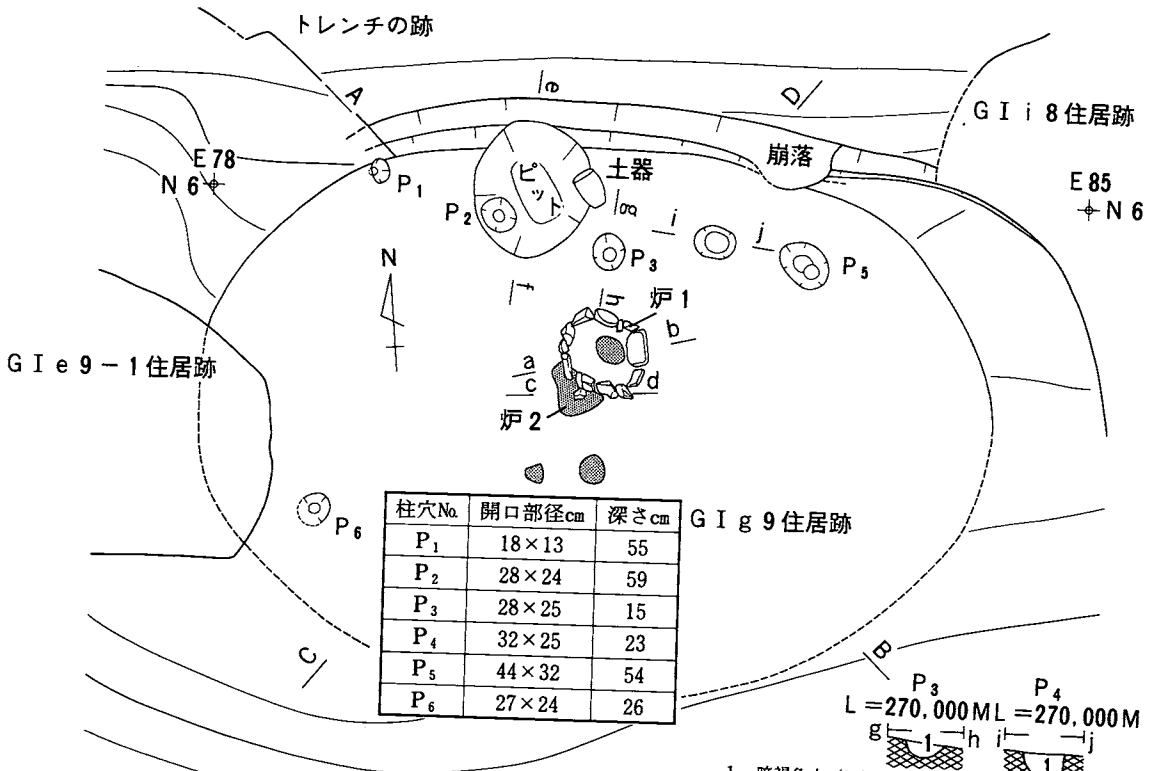
#### 出土遺物 (第53図、写真図版100)

575～579の土器片と580の土製品が出土している。

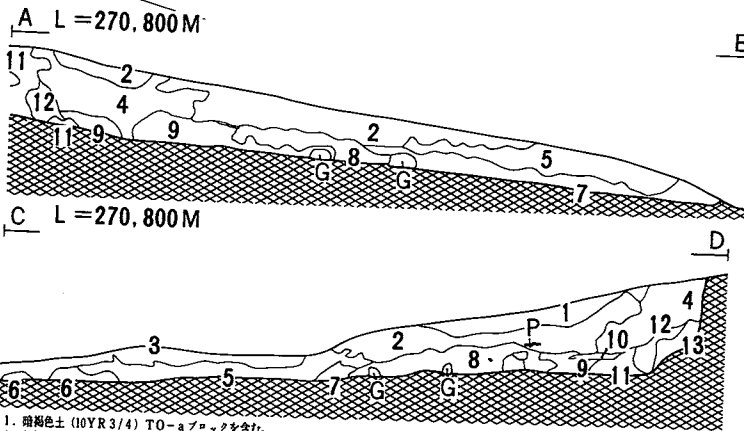
575～577は粗製土器の体部破片、578・579は尖底深鉢形土器の体部破片で無文であ。580は粗製土器の破片を再利用した円盤状土製品である。

#### 遺構の時期

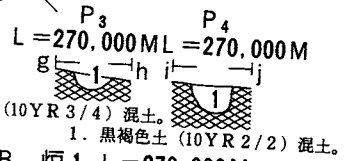
切り合い関係及び埋土からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられるものと思われる。



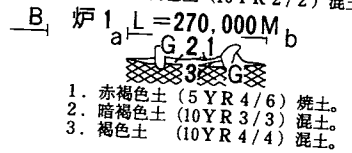
柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	18×13	55
P <sub>2</sub>	28×24	59
P <sub>3</sub>	28×25	15
P <sub>4</sub>	32×25	23
P <sub>5</sub>	44×32	54
P <sub>6</sub>	27×24	26



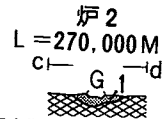
1. 暗褐色土 (10YR 3/4) TO-aブロックを含む。
2. 黒褐色土 (10YR 2/3) 炭化物を含む。1~3mmのバリスを含む。(1%)。褐色土ブロックを含む。
3. 黒色土 (10YR 2/1) 堅い。農道。1~3mmのバリスを含む(1%)。
4. 暗褐色土 (10YR 3/4) 炭化物を含む(少量) 1~3mmのバリスを含む(3~5%) 褐色土ブロックを含む。
5. 褐色土 (10YR 4/4) 炭化物を含む(少量) 1~3mmのバリスを含む(3~5%)。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2) 1~3mmのバリスを含む(1~3%)。
7. 暗褐色土 (10YR 3/3) 炭化物(1~3%)。焼土ブロックを含む。1~3mmのバリスを含む(1~3%)。
8. 褐色土 (10YR 4/4) 炭化物(3~5%)。焼土ブロックを含む。
9. 暗褐色土 (10YR 3/4) 炭化物を含む。1~3mmのバリスを含む。(1~3%) 明黄褐色土ブロックを含む。
10. 黒褐色土 (10YR 2/3) 炭化物を含む(少量)。
11. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4~4/3) 炭化物を含む。
12. 褐色土 (10YR 4/4) 粘土質で非常に堅い。
13. 明褐色土 (7.5YR 5/6) 粘土質で非常に堅い。



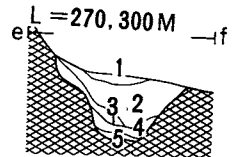
1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。



1. 赤褐色土 (5YR 4/6) 焼土。
2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
3. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。



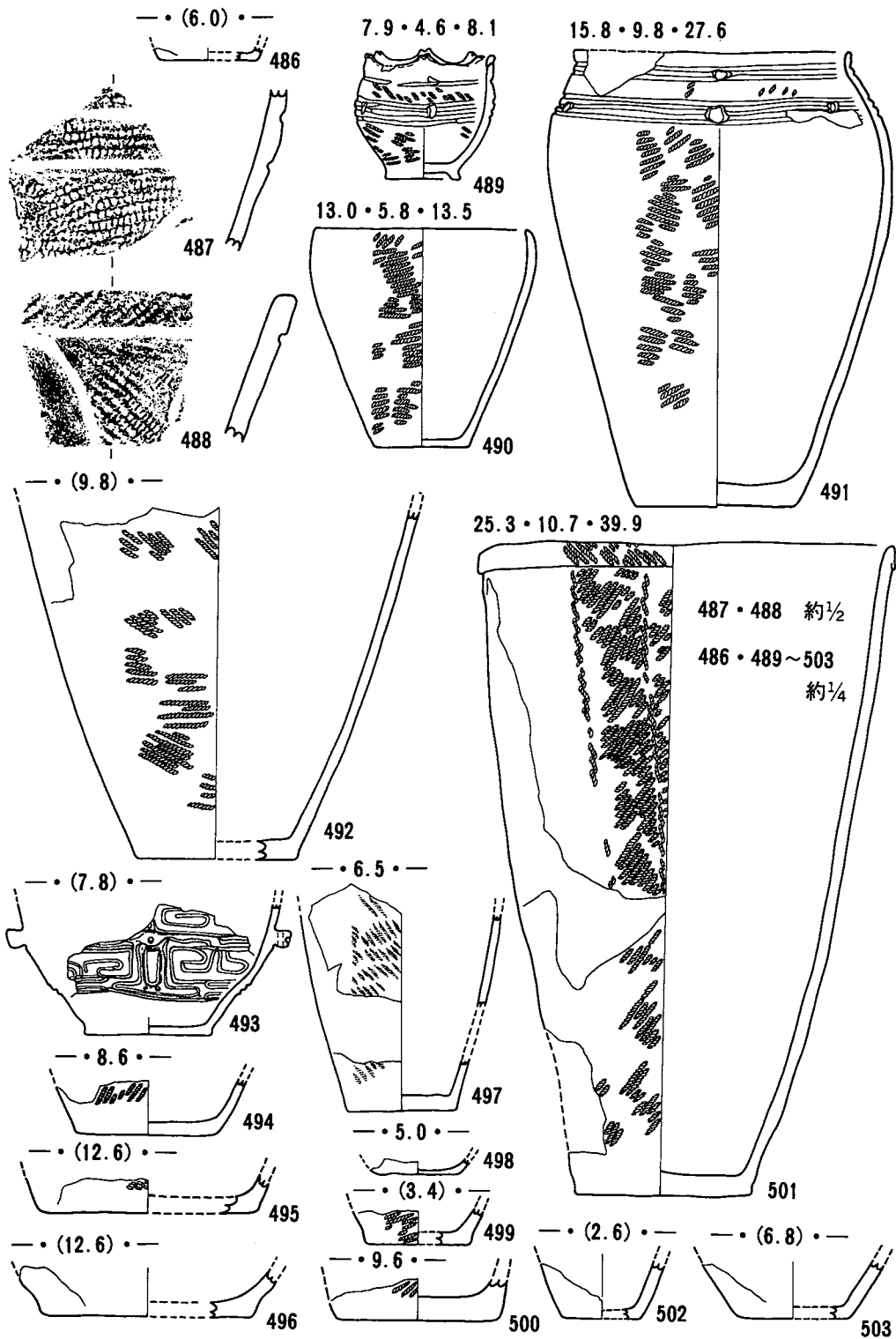
1. 明赤褐色土 (5YR 5/8) 焼土。



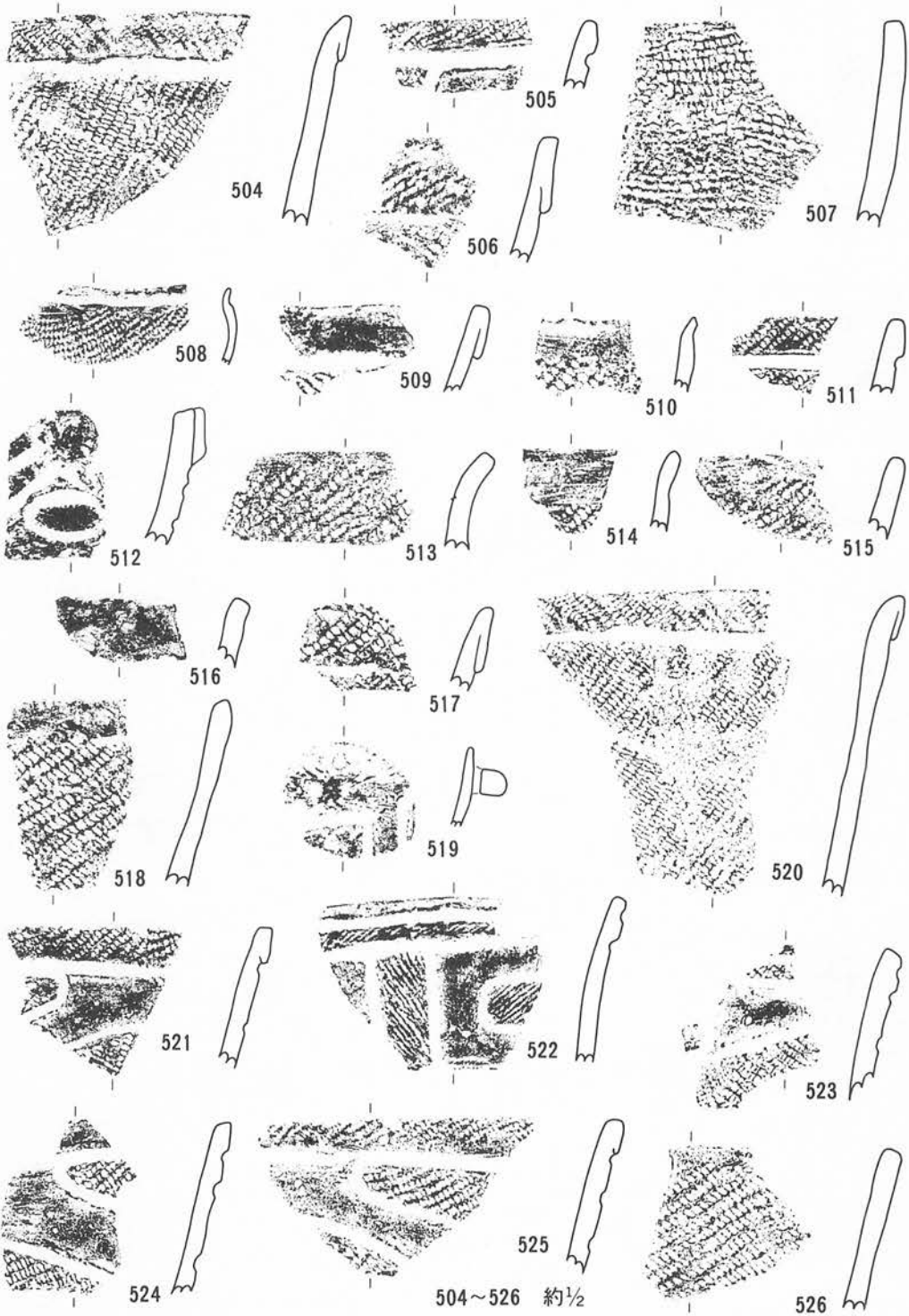
1. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 混土。
2. 黄褐色土 (10YR 7/8) 粘土。
3. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
4. 黄褐色土 (10YR 5/6) 混土。(粘質土)。
5. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。

第48図 GIg9住居跡(平・断面、炉、ピット、柱穴断面 S=1/60)

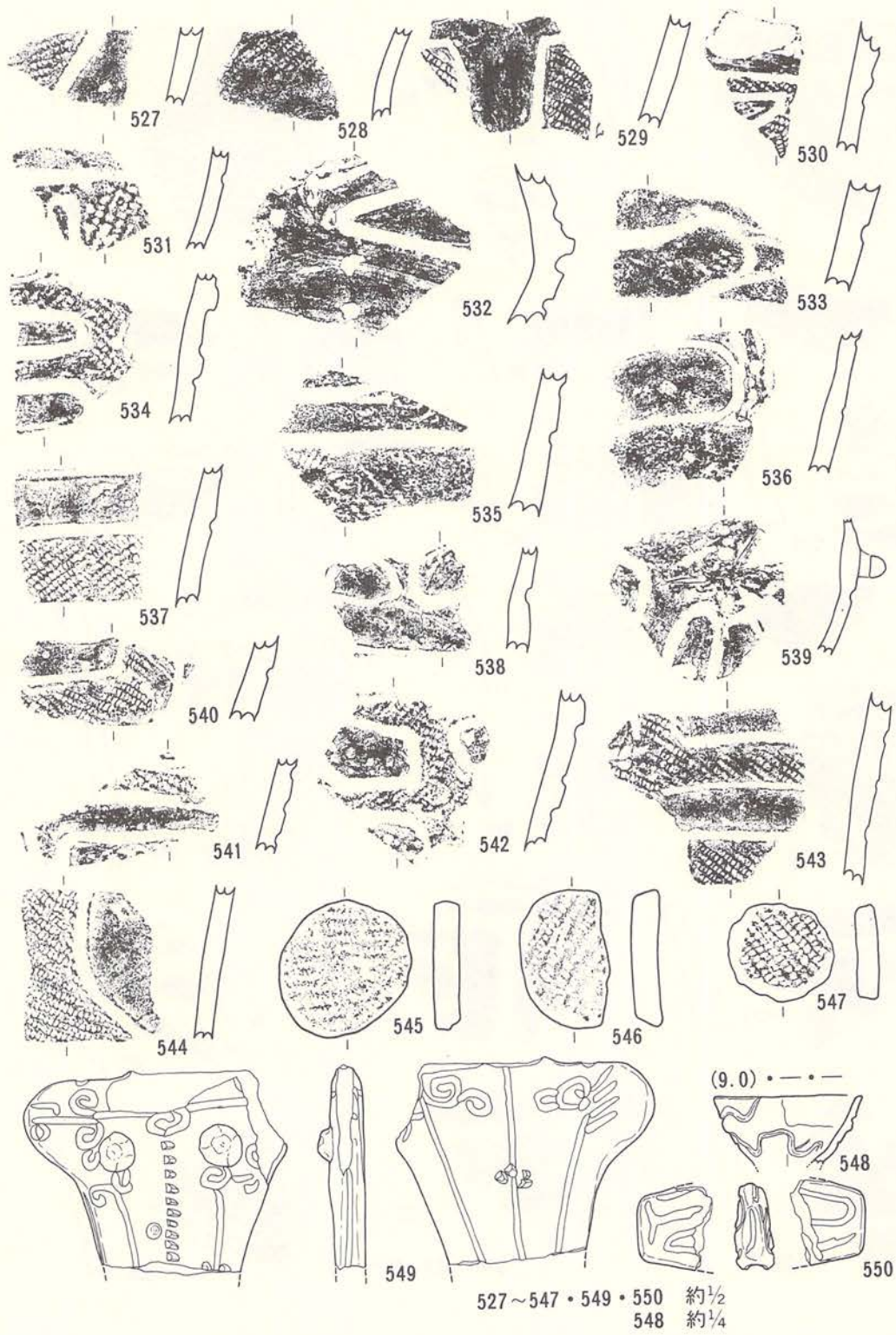




第49図 G I g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号486~503)

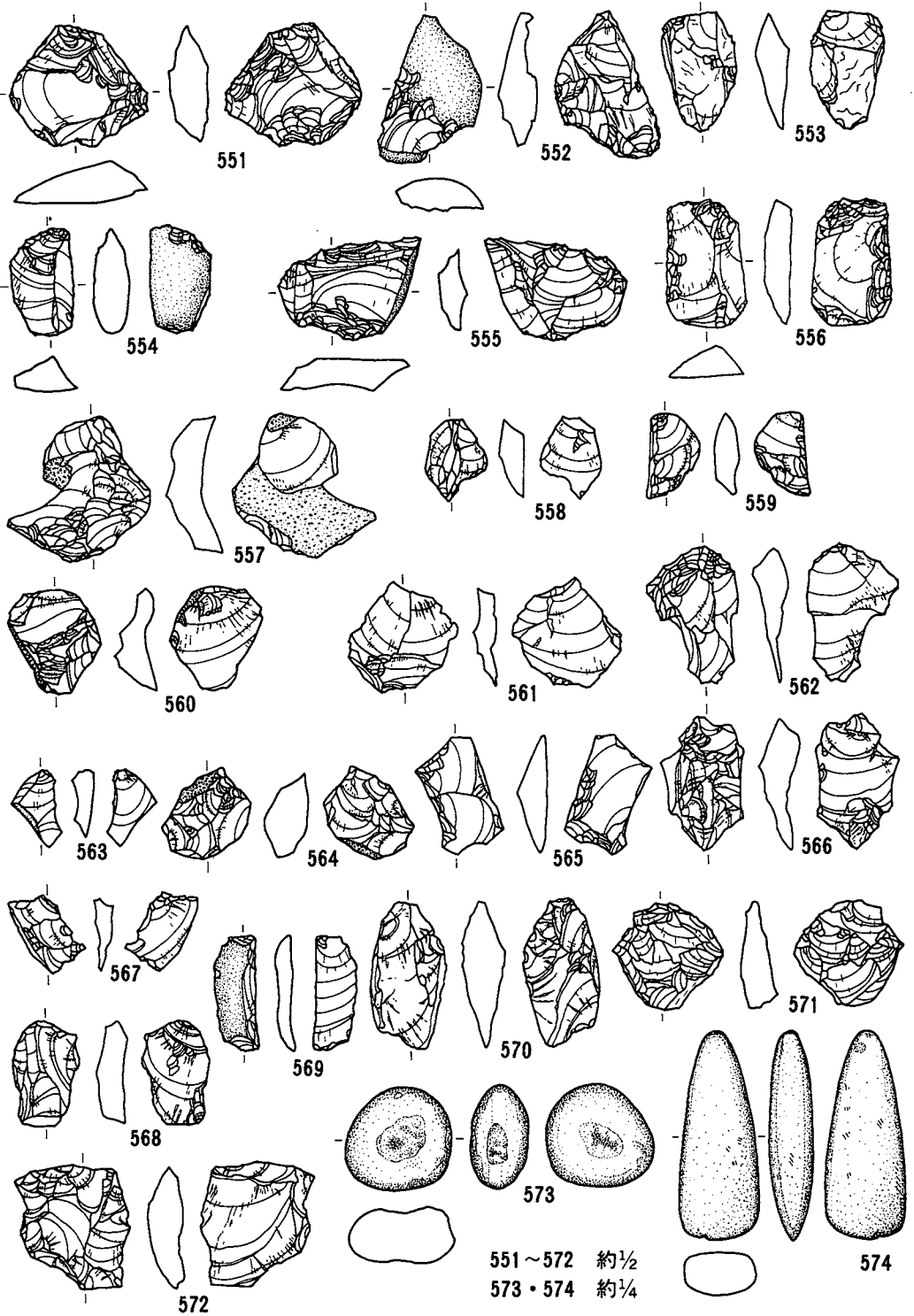


第50図 G I g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号504~526)

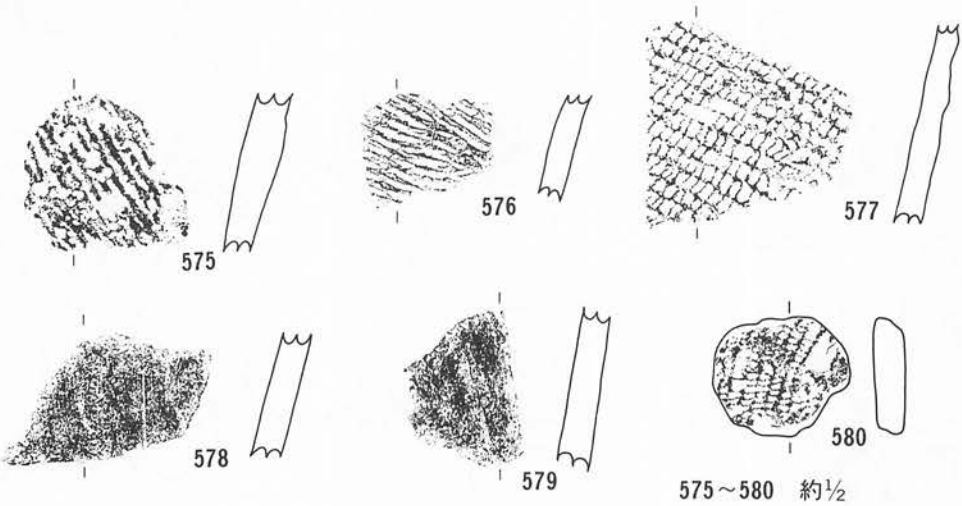
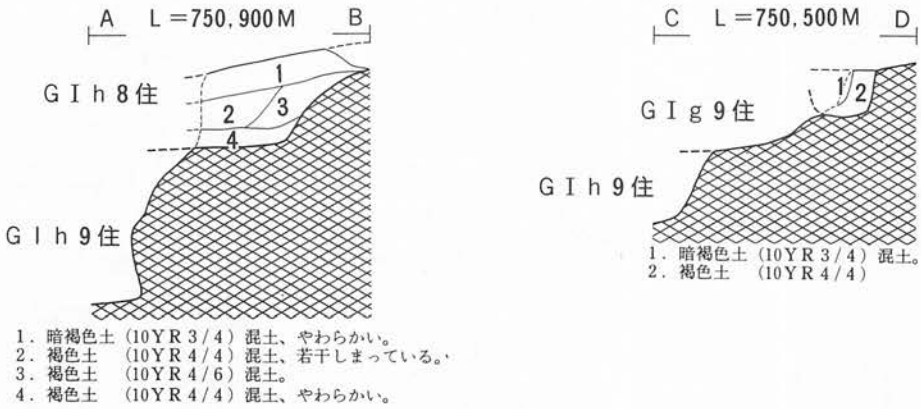
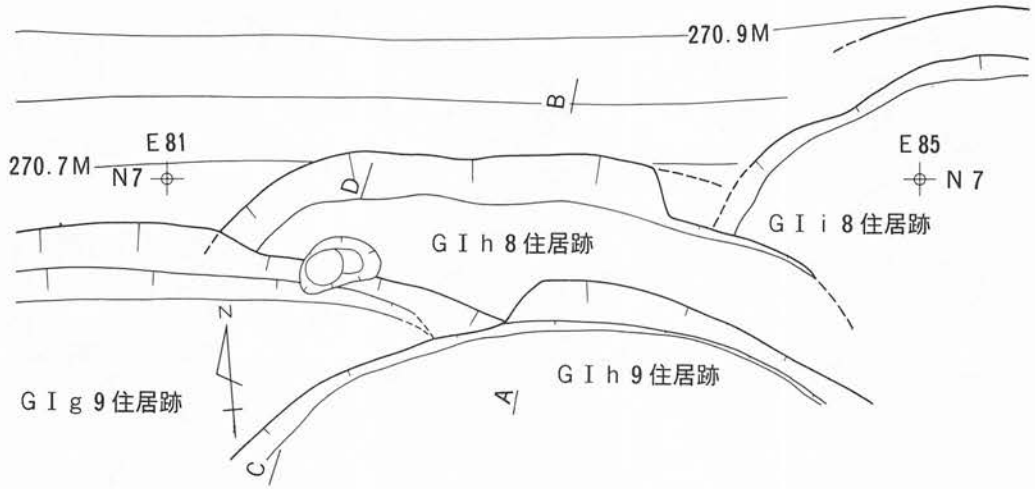


527~547・549・550 約 $\frac{1}{2}$   
548 約 $\frac{1}{4}$

第51図 G I g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号527~550)



第52図 G I g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号551~574)



第53図 G I h 8 住居跡 (平・断面 S=1/40)  
 G I h 8 住居跡出土遺物 (遺物番号575~580)

## G I h 9 住居跡群

遺 構 (第54～55・60～61図、写真図版20)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。北半はG I g 9住居跡によって削剥され、南半がG I h 10-1・2住居跡によって破壊されていた。本住居跡は当初1棟と考えて精査したものであるが、壁の確認、炉の検討等によって2棟と判明したものである。先行するものをG I h 9-2住居跡、新しいものをG I h 9-1住居跡として記述する。

### G I h 9-1住居跡

2棟の中では若干北西部に位置する。この2棟の関係は、前述したG I e 9-1・2住居跡の配置に類似している。平面形は円形を呈する。規模は床面部径4.1×3.8mである。埋土は上位が黒褐色土、暗褐色土で、中位は北半が黒褐色土、暗褐色土で、南半が黒褐色土、黄褐色土、暗褐色土(G I g 9住居跡貼り床土)で下位は黒褐色土、暗褐色土で構成される。壁際(北壁～東壁)では崩落土(にぶい黄褐色土)がみられる。南半部ではG I h 10-1住居跡の埋土とみられる暗褐色土、黒褐色土が堆積していた。

床面は南半が僅かに南に傾斜するが平坦で、壁は下半が垂直に立ち上がり、上半は外傾しながら立ち上がる。なお、南東部から南部にかけては黄褐色、褐色土を盛って壁としていた。

炉は複式炉で、南端に位置する。前庭部が南壁に接している。その規模は120×62cmの長方形で、前庭部が6cmほど低くなる。構成礫は西側で未確認であるが、立位あるいは横位に設置されている。焼土の厚さは6cmである。

柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>が検出された。これらは直径20～30cmの円形で深さが28～50cmである。埋土は暗褐色土、明黄褐色土、にぶい黄褐色土等である。P<sub>1</sub>～P<sub>4</sub>が支柱穴とみられるが、北側のP<sub>1</sub>、P<sub>2</sub>は小さく深い。P<sub>5</sub>は中央部で先端部が尖っており、中央柱と推測される。P<sub>6</sub>は西端に位置し、若干大きく上半が開きぎみであり、小型の貯蔵穴かもしれない。

出土遺物 (第55～59図、写真図版101～104)

581～638の土器と639・640の土製品、641の土偶破片、642～664の石器が出土している。これらのうち、582～585・587～589・642が床面から、その他は埋土から出土したものである。

582は精製深鉢形土器の体部上半で、入組状の文様が施文されている。581は鉢形土器で縄文充填の長方形区画文が施文されている。584・600・603・606・608・609は深鉢形土器の口縁部破片で、600・603・608・609・620には平行する沈線文様が、606には方形の区画文が施文されている。614・626・628は壺形土器で、方形の隆帯を巡らし、その中に平行する曲線文が施文されている。638は器高6.3cmの無文のミニチュア土器である。

639・640は粗製土器片を再利用した円盤状土製品である。641は土偶の足部破片である。

石器のうち、642・643・645～650は搔器、644・651～662は剥片石器である。663は刃部が欠

損した磨製石斧、664は石筥である。

#### 遺構の時期

床面からの出土遺物から、縄文時代中期末葉から後期初頭に位置づけられる。

#### G I h 9 - 2 住居跡

2棟の中では南東部に位置し、若干大きくなっている。G I h 9 - 1 住居跡の盛土壁を取り込んだ形をなす。平面形は円形を呈する。規模は床面部径4.3×3.8mである。埋土は西側が黒褐色土、東壁から南壁にかけては黄褐色土、褐色土である。床面は若干南に傾斜するが平坦である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

炉はG I h 9 - 1 住居跡と同様に複式炉で、南端に位置する。前庭部が南壁に接している。全体形は1.05m×60cmの長方形であるが、前庭部が5cmほど幅広くなっている。構成礫は立位あるいは横位に設置されている。西側には礫を抜き取った痕跡が認められる。焼土は僅かに痕跡を残すのみである。

柱穴はP<sub>1</sub>~P<sub>7</sub>が検出されている。これらは形状が円形から楕円形を呈し、直径20~40cm、深さ8~54cmのものであるが、この住居跡に伴う柱穴の深さは28~54cmで、他は8~19cmと浅くなる。P<sub>1</sub>・P<sub>4</sub>はG I h 9 - 1 住居跡のP<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>に該当し、支柱穴の一部とみられる。P<sub>6</sub>は同住居跡のP<sub>5</sub>の位置にあり、同様に中央柱と推測される。また、P<sub>7</sub>は同住居跡のP<sub>6</sub>の位置にあり、小型の貯蔵穴の可能性はある。

#### 出土遺物（第61図、写真図版104）

665・666の精製深鉢形土器の破片が埋土から出土している。いずれも平行沈線文が施文されているものである。

#### 遺構の時期

切り合い関係と炉の形態等から、縄文時代中期末葉から後期初頭に位置づけられる。

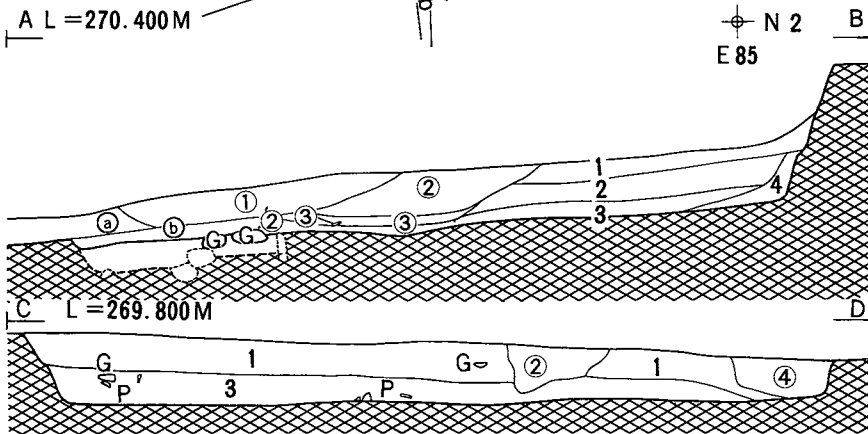
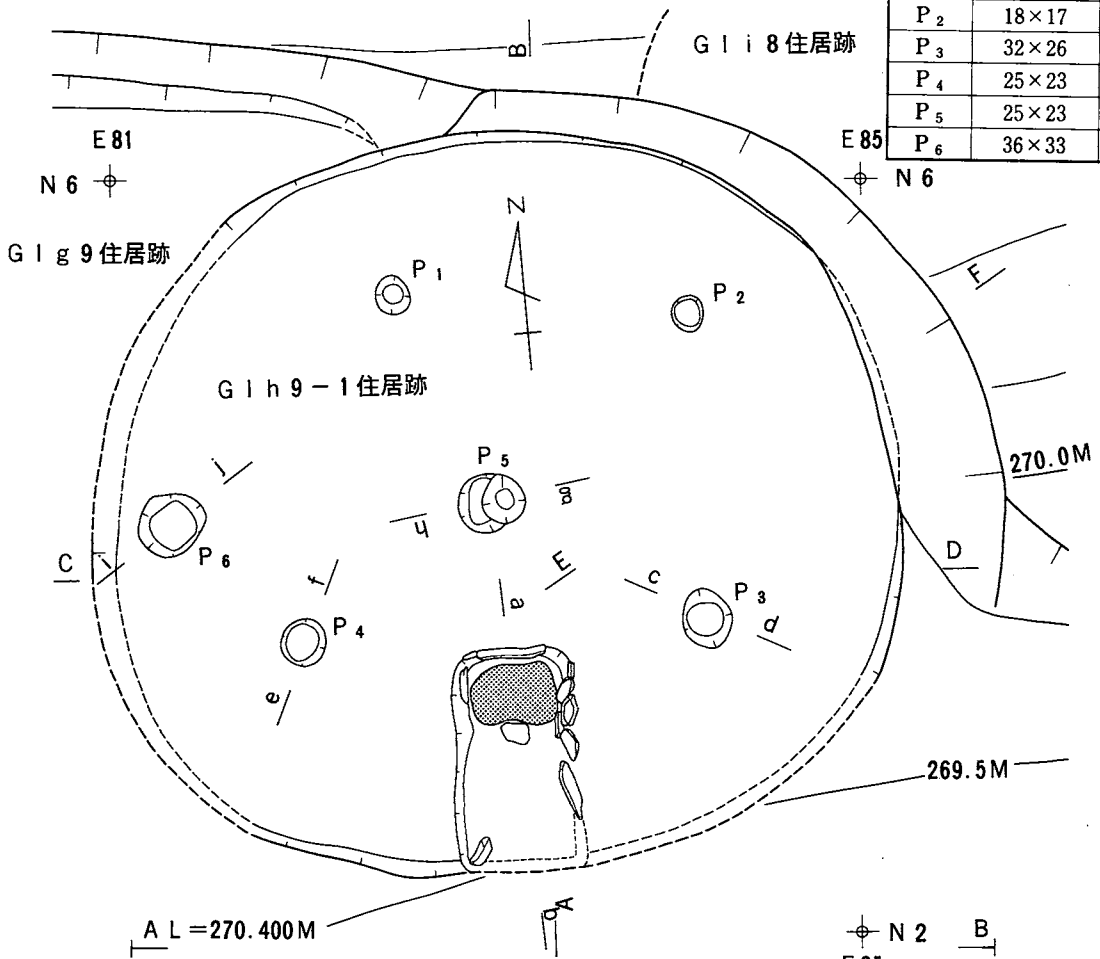
#### G I h 10 - 1 住居跡

##### 遺 構（第62図、写真図版19）

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。北部がG I h 9 - 1・2 住居跡の南半、西部がG I h 10 - 2 住居跡の西半を破壊している。東部はG I h 9 住居跡と重複するが、先後関係は不明である。本住居跡はG I h 9 住居跡の精査中に炉跡を検出し、確認されたものである。先行する住居跡を先に調査したことになり、不明な点が多い。壁については北東の一部を確認したのみである。

平面形は壁及び貼り床範囲から推定すると円形を呈するものと思われる。規模は径3.9×35m前後のものと思われる。埋土は炉の確認部分で暗褐色土、黒褐色土である。床面は若干南に

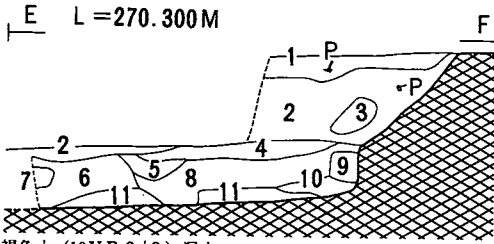
柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	20×17	44
P <sub>2</sub>	18×17	50
P <sub>3</sub>	32×26	30
P <sub>4</sub>	25×23	38
P <sub>5</sub>	25×23	28
P <sub>6</sub>	36×33	30



- |                                      |                              |
|--------------------------------------|------------------------------|
| 1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。               | ① 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。        |
| 1'. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、やわらかい。        | ② 黄褐色土 (10YR 5/6)            |
| 2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土 (黄色小ブロック状に混入)。 | ③ 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。        |
| 3. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、炭化物を含む。        | ③ 暗褐色土 (10YR 3/4) 3と②の混土。    |
| 4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 2より黄色土が多い。        | ④ 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、やわらかい。  |
|                                      | ④ 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、やわらかい。  |
|                                      | ⑤ 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、炭化物を含む。 |

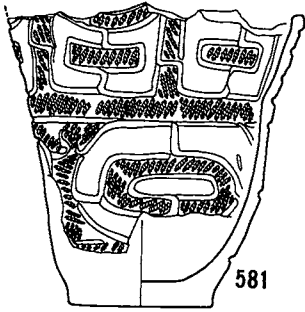
第54図 G1h9-1住居跡 (平・断面S = 1/40)



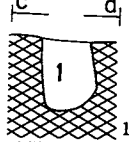


1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。
2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
3. 褐色土 (10YR 4/6) ブロック。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
5. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
6. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
7. 黄褐色土 (10YR 5/8)
8. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
9. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 混土。
10. 黒色土 (10YR 2/1) 炭化物を大量に含む。
11. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 混土。

(15.7)・7.7・(16.2)

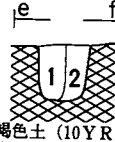


L = 269.500M

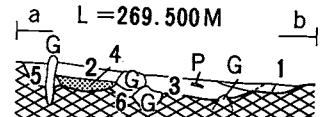


1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
2. 明黄褐色土 (10YR 6/6) 混土。

L = 269.500M

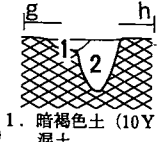


1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
2. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 混土。



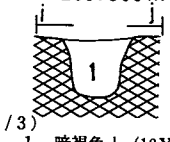
1. 明黄褐色土 (10YR 6/6) 混土、上位住居跡の貼床?
2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
3. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、右半は黄色が強い。
4. 赤褐色土 (2.5YR 4/6) 焼土
5. 明黄褐色土 (10YR 6/6)
6. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。

L = 269.500M



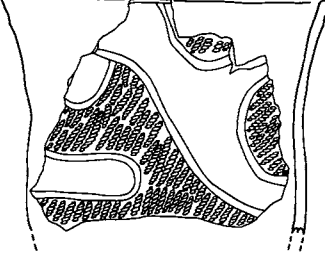
1. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
2. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 混土。

L = 269.500M

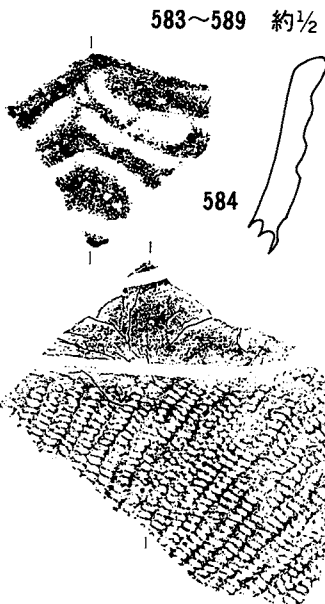


1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。

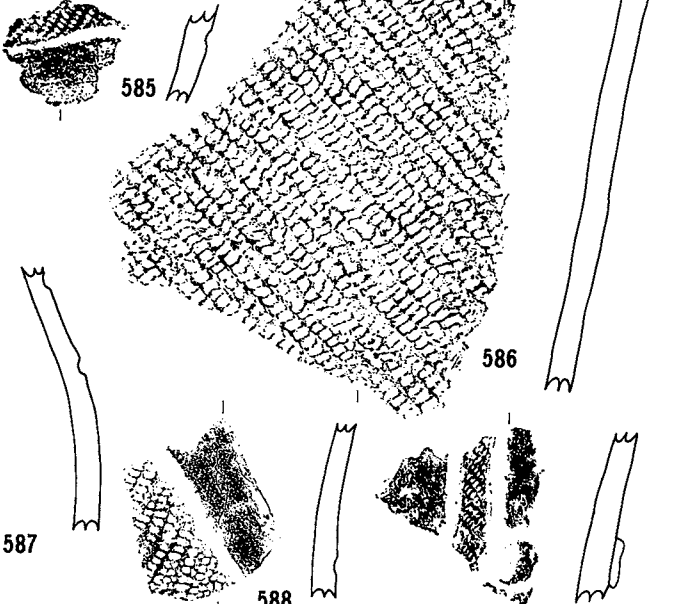
(17.7)・—・—



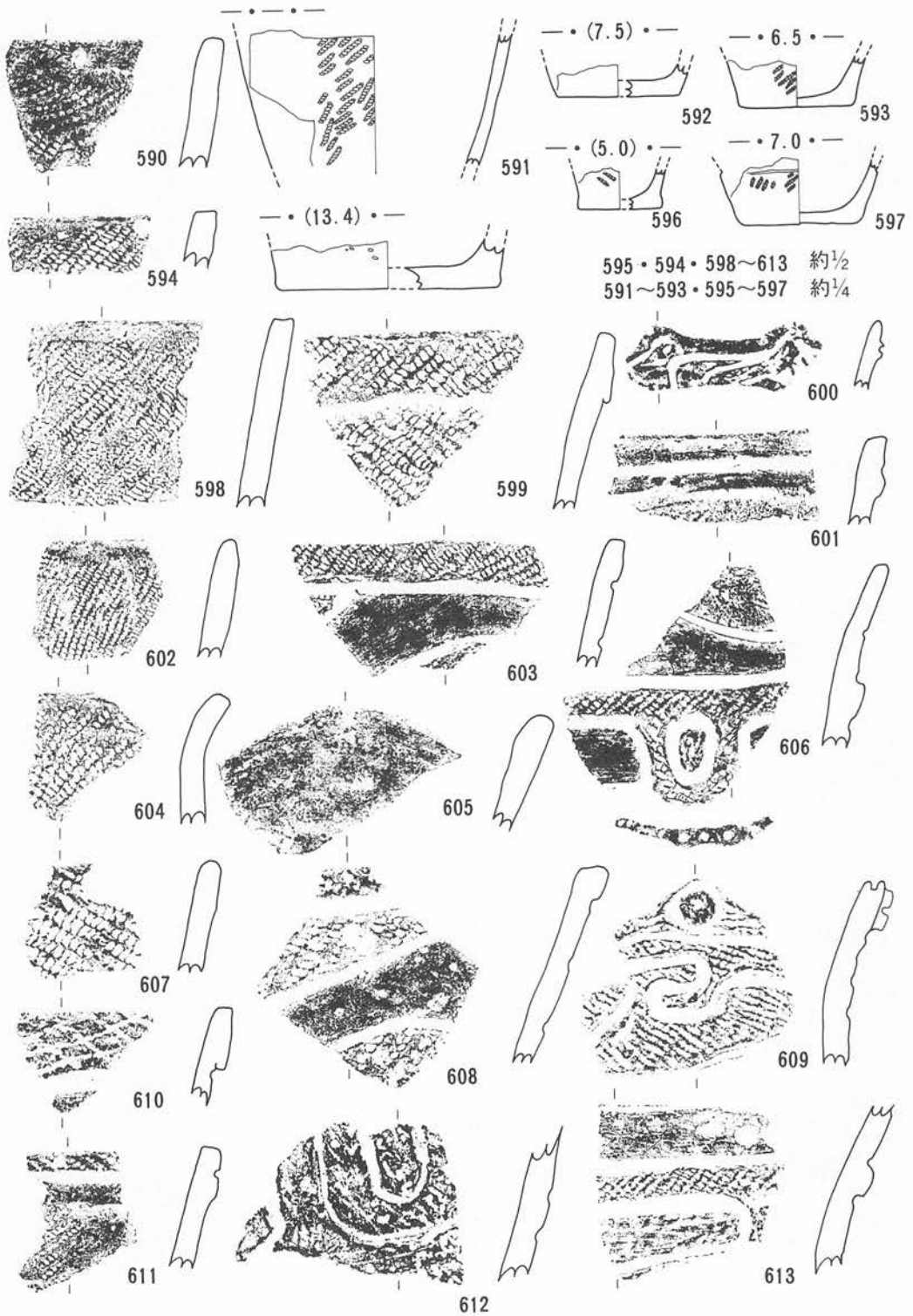
581・582 約1/4



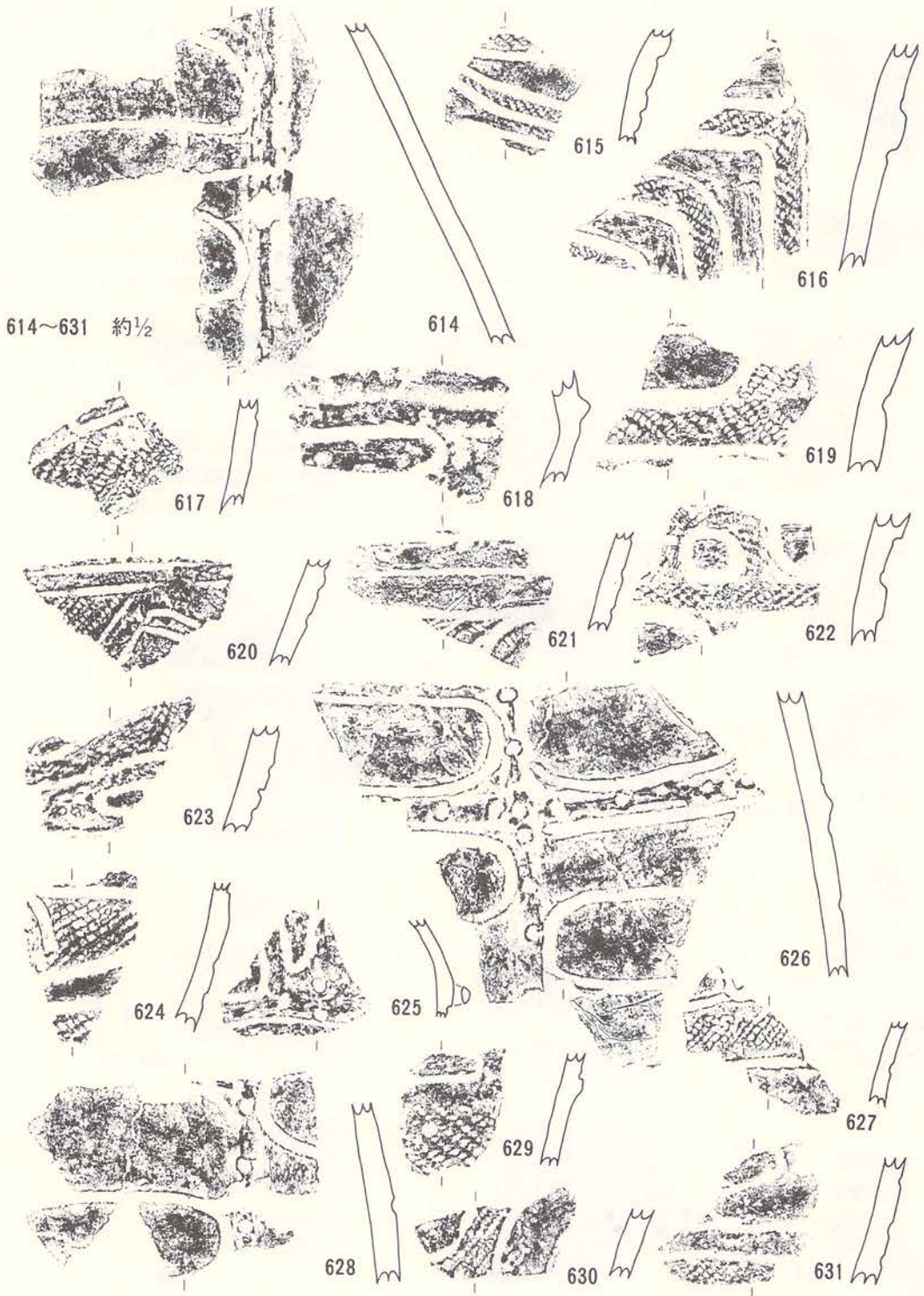
583~589 約1/2



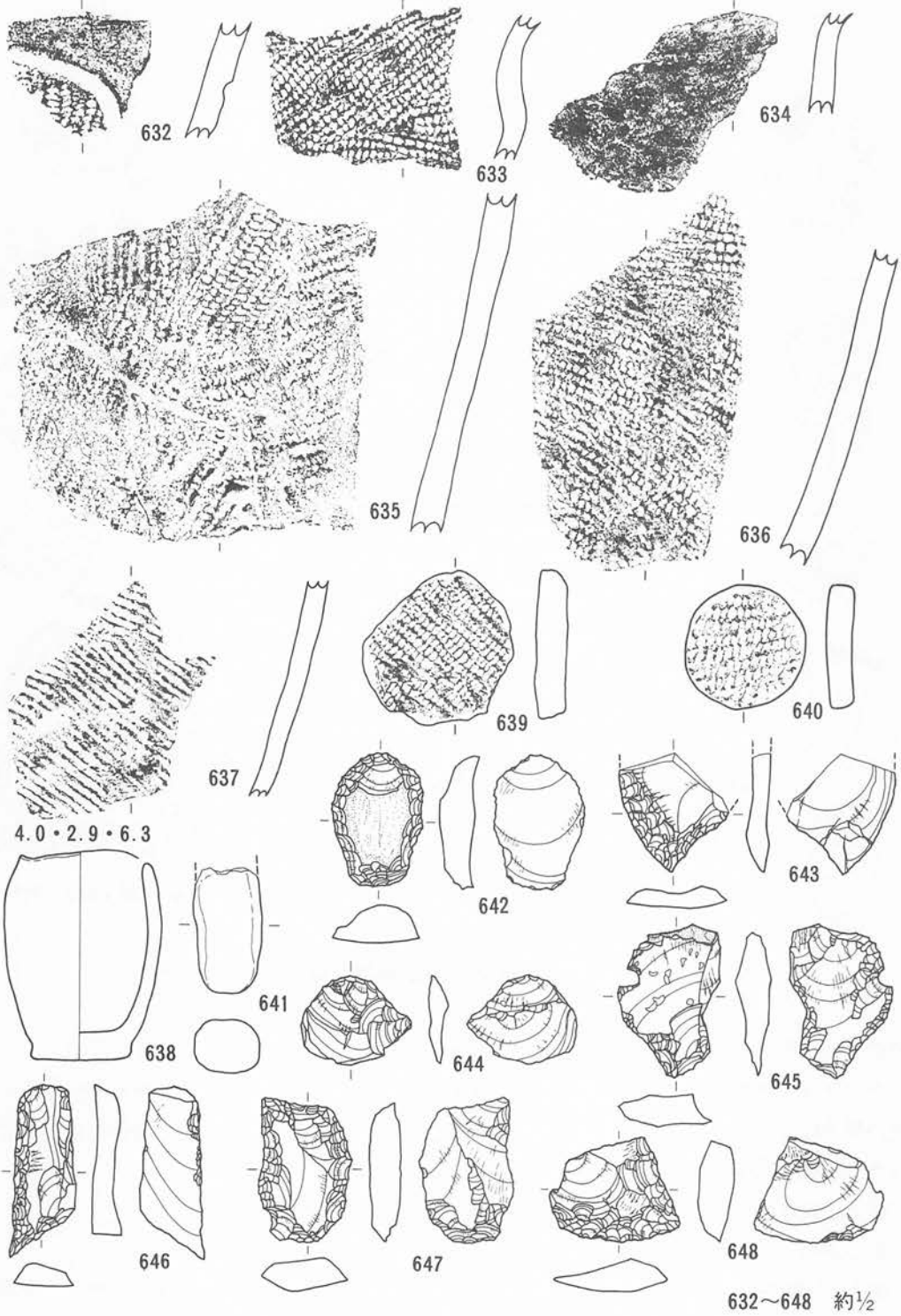
第55図 G l h 9 - 1 住居跡 (断面、炉、柱穴断面 S = 1/40)  
G l h 9 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号 581~589)



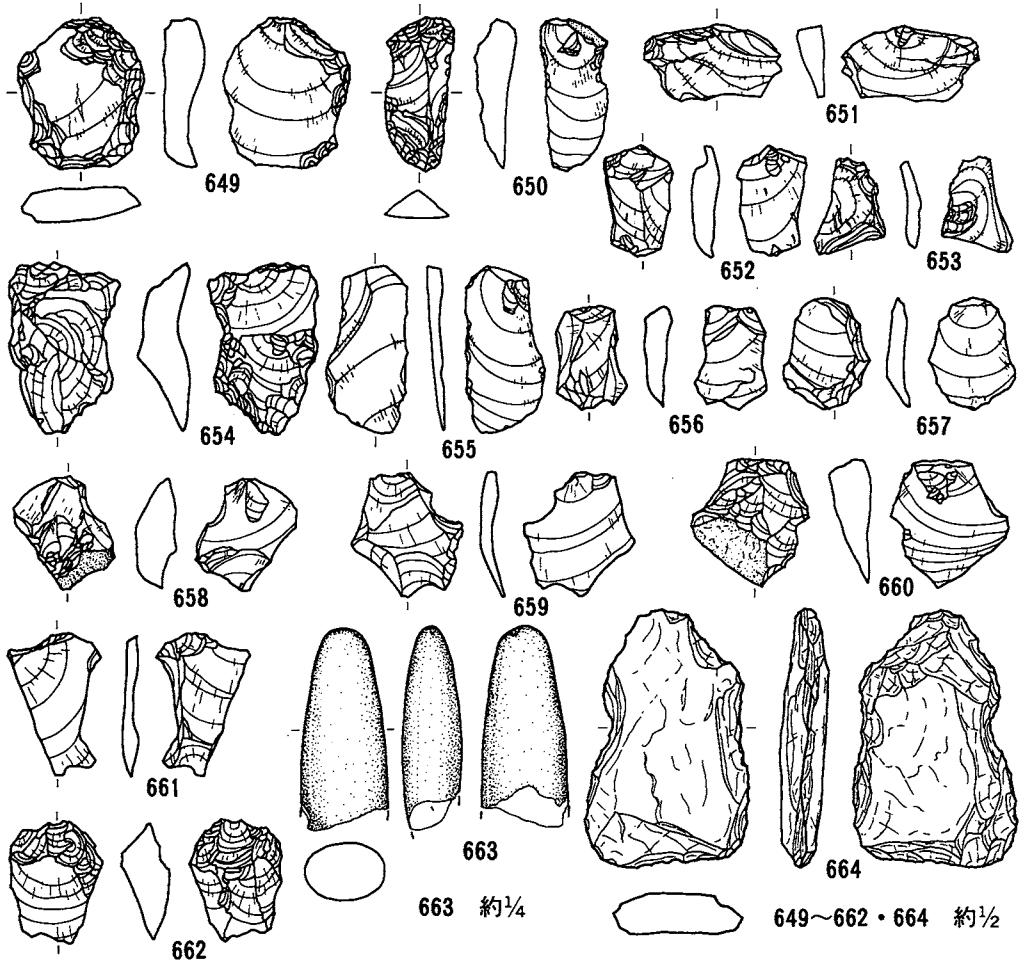
第56図 G I h 9 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号590~613)



第57図 G I h 9 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号614~631)



第58図 G I h 9 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号632~648)



第59図 G I h 9 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号649~664)

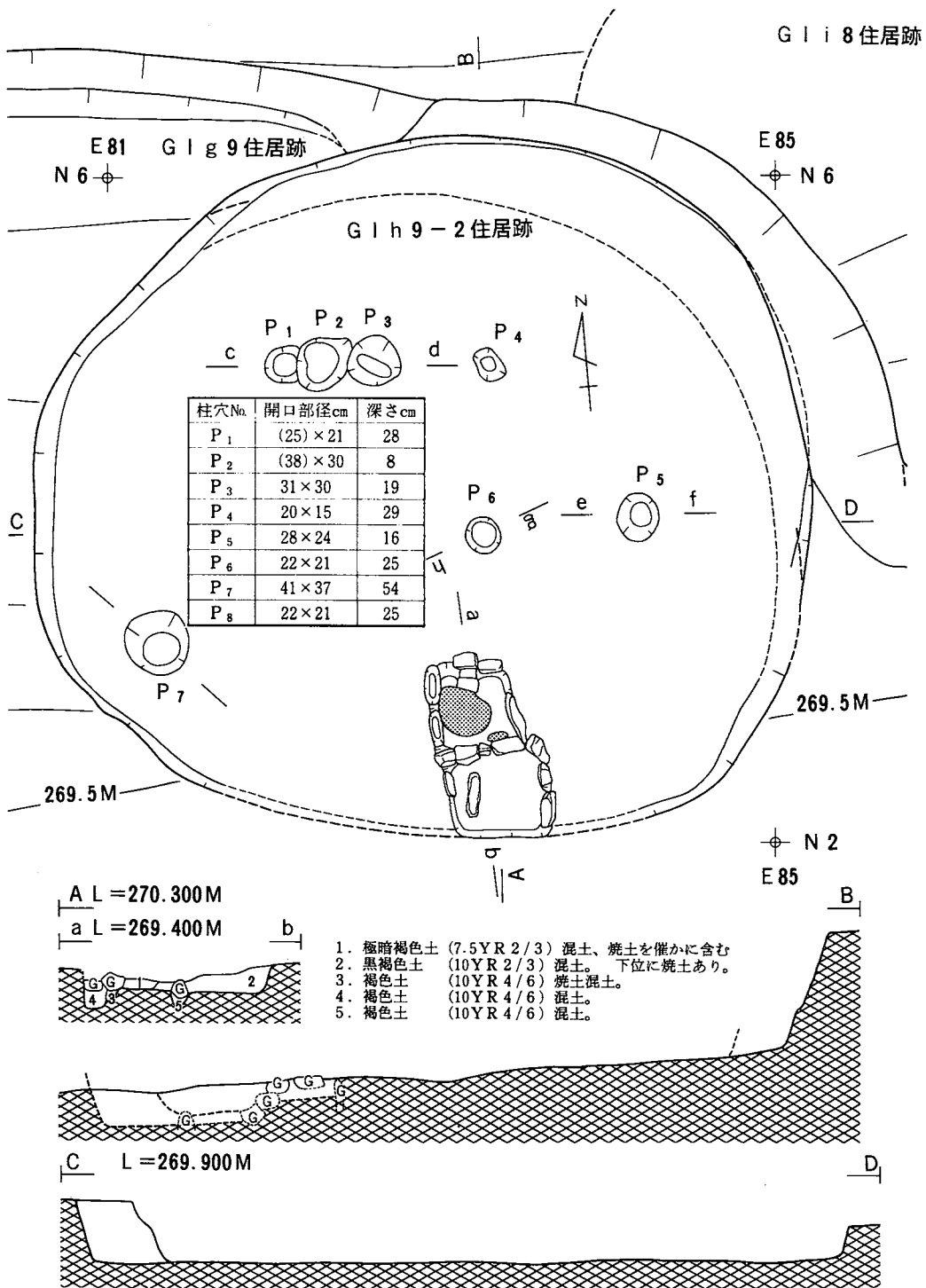
傾斜するが平坦である。壁は緩やかに立ち上がる。

炉はほぼ中央に位置する。土器を伴う地床炉である。焼土は93×50cmの楕円形を呈する。焼土の厚さは6cm、7cmの上下2層に分かれるが、全体では17cmである。土器は炉の南東部にあって、口縁部が中央部方向をむく横位埋設である。

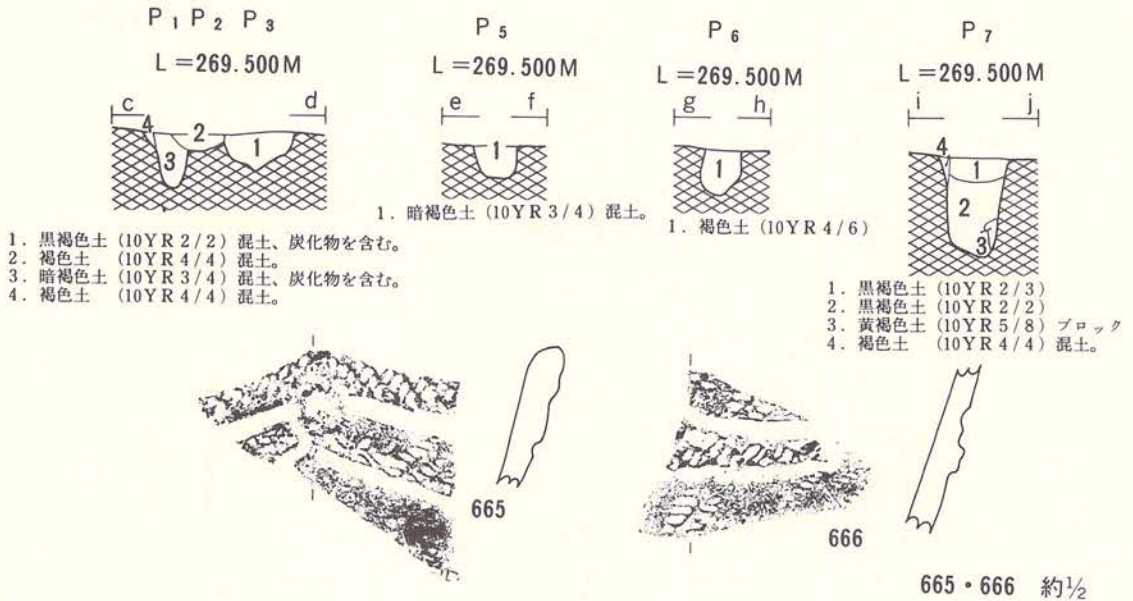
柱穴は確認されていない。

出土遺物 (第63図、写真図版104)

667の土器が炉内から出土している。精製深鉢形土器で、地文に単節斜縄文を施し、体部に三角形の沈線区画文が施文されているものである。



第60図 G I h 9 - 2 住居跡 (平・断面・炉断面 S = 1/40)



第61図 G I h 9 - 2 住居跡 (柱穴断面 S = 1 / 40)  
G I h 9 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号665~666)

### 遺構の時期

炉内からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### G I h 10 - 2 住居跡

遺 構 (第63図、写真図版19)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。北部がG I h 9 住居跡、東部がG I h 10 - 1 住居跡によって破壊され、南西部の3分の1ほどを残すのみである。本住居跡は当初G I h 10 - 1 住居跡の一部として調査したものであるが、壁と柱穴配置から1棟の住居跡として認定したものである。

平面形は円形あるいは楕円形と推定される。規模は不明であるが、柱穴間が2.8mである。床面は面として確認されず不明である。壁は緩やかに立ち上がる。

柱穴は西端と東端に位置する P<sub>1</sub>、P<sub>2</sub> を検出した。直径30~20cmの円形で、深さは50cmほどである。埋土は暗褐色土である。P<sub>1</sub> の上に土器があり、P<sub>2</sub> はG I h 9 - 2 住居跡の炉の下から検出されたものである。

出土遺物 (第63~64図、写真図版104~105)

668~687の土器と688~690の石器が埋土から出土している。この中にはG I h 10 - 1 住居跡の埋土から出土したものも含まれる。

671・673・674は精製深鉢形土器の口縁部破片、669・679・681～685・687は体部破片で、平行する沈線文様が施文されている。675～678は粗製深鉢形土器の口縁部破片で、675・676・678の口縁部は折り返し状に肥厚するものである。

688～690は剝片石器である。

#### 遺構の時期

切り合い関係と埋土からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### G I i 8 住居跡

#### 遺 構 (第65図、写真図版21～22)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。南西部がG I h 9住居跡によって破壊され、西部はG I h 8住居跡と重複するが、先後関係は不明である。また南半は斜面下方にあたっており流失している。

平面形は残存部から推定して円形を呈するものと思われる。規模は径3.6m前後と思われる。埋土は黒褐色土、褐色土、暗褐色土等からなる。床面はほぼ平坦である。壁は下半がほぼ垂直に立ち上がるが、上半は崩落のために開いている。

炉は南東部に位置するとみられる。西側が開く石囲い炉で、1辺60cmの方形か、あるいは直径50cmの円形を呈すると推測される。焼土は僅かに痕跡を残すのみで、その厚さが5cmである。焼土の下には10cmほどの掘り込みをもつ。

ピットはほぼ中央に位置すると見られる。77×70cmの円形で、深さが14cmの皿形をなす。埋土は暗褐色混土の単層である。柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>3</sub>の3柱穴である。これらは直径30cm前後の円形で、深さが27～49cmである。埋土は暗褐色土、褐色土、明黄褐色土である。

注(1) 残存する礫によると1辺60cmになる。

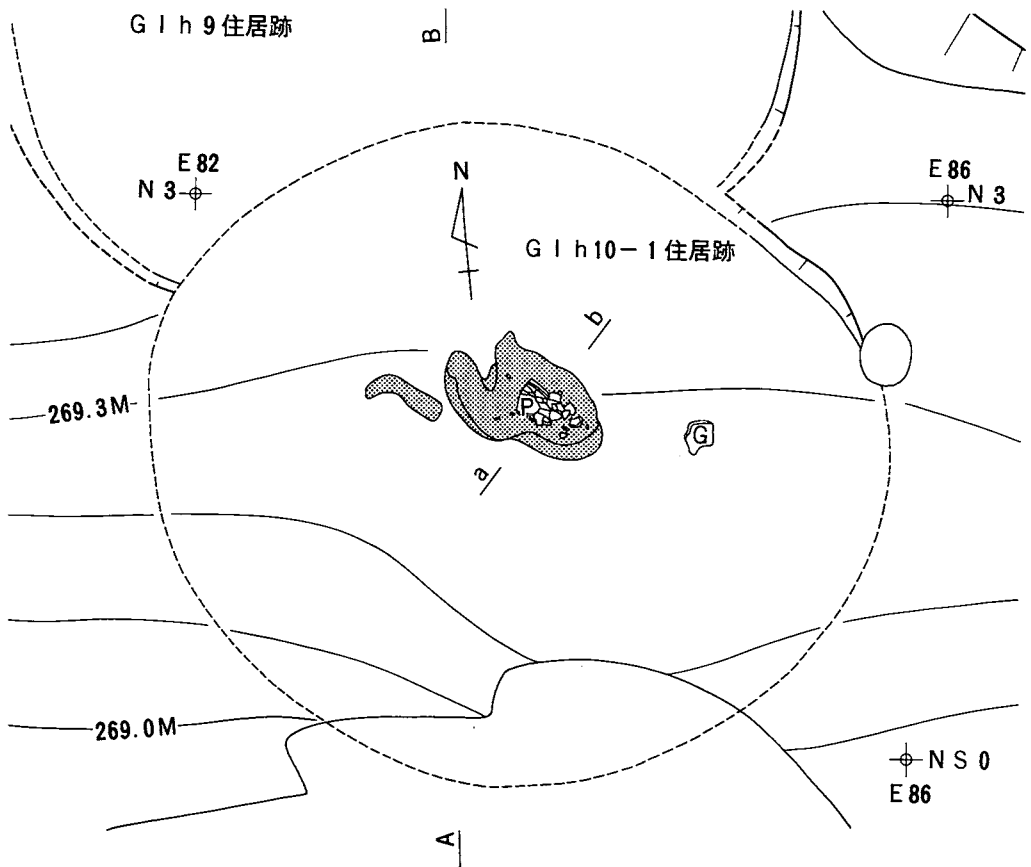
注(2) 焼土下の掘り込みによると直径50cmほどの円形となる。

#### 出土遺物 (第66～67図、写真図版105～107)

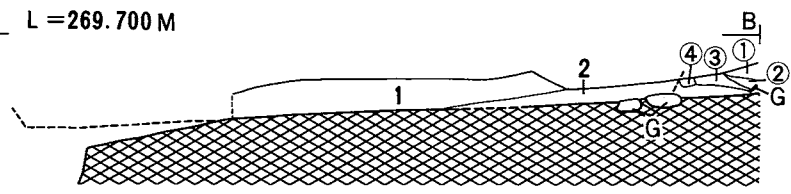
691～727の土器と728・729の土製品、730～737の石器が出土している。これらのうち691は炉内部から、その他は埋土から出土したものである。691・695・697・699・702～708・711は精製深鉢形土器の口縁部破片で、699には三角形の沈線文が、705・706・708には楕円状の曲線文様が、697・702には方形から長方形の沈線文が施文されている。710・713～715・717～720・723～725は深鉢形土器の体部破片で、楕円状の曲線文、方形から長方形の沈線文が施文されている。

727は蓋付土器で無文である。728・729は粗製土器の破片を再利用した円盤状土製品である。



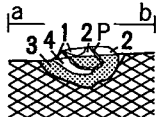


A L = 269.700 M



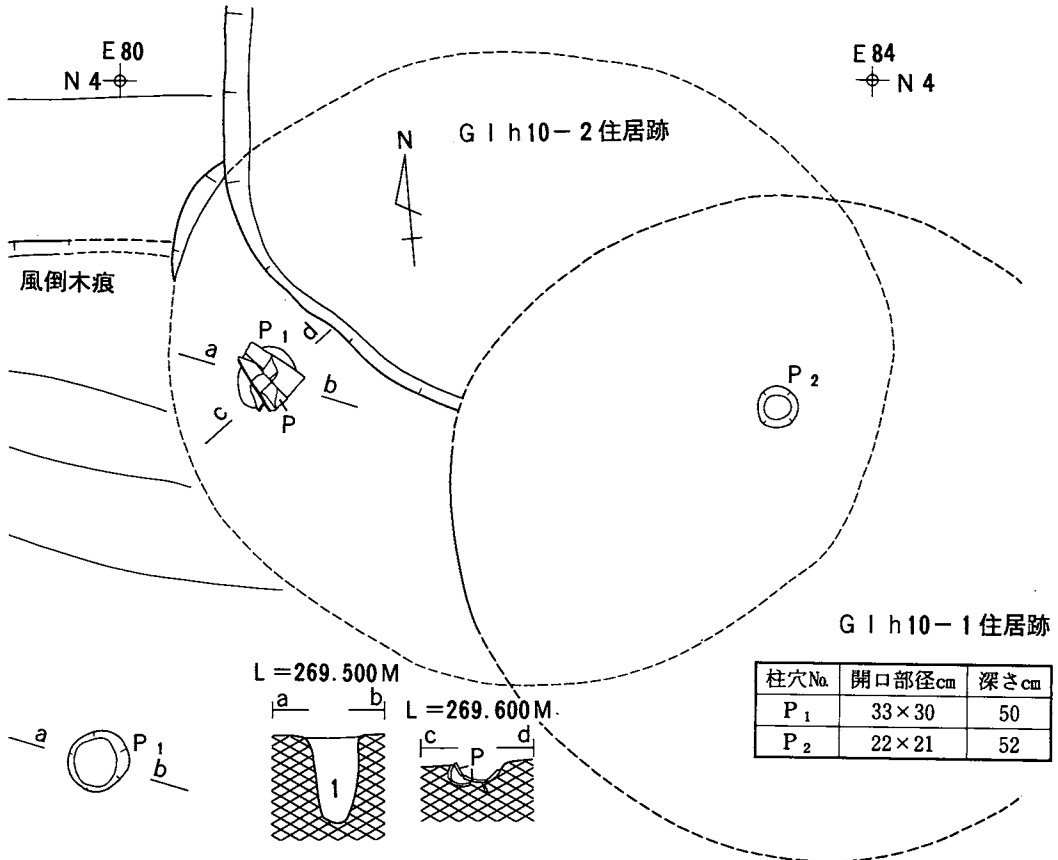
- 1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、やわらかい。
- 2. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、炭化物を含む。
- ① 黄褐色土 (10YR 5/6) (ブロック状)
- ② 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、やわらかい。
- ③ 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
- ④ 明黄褐色土 (10YR 6/6) ブロック

L = 269.500 M



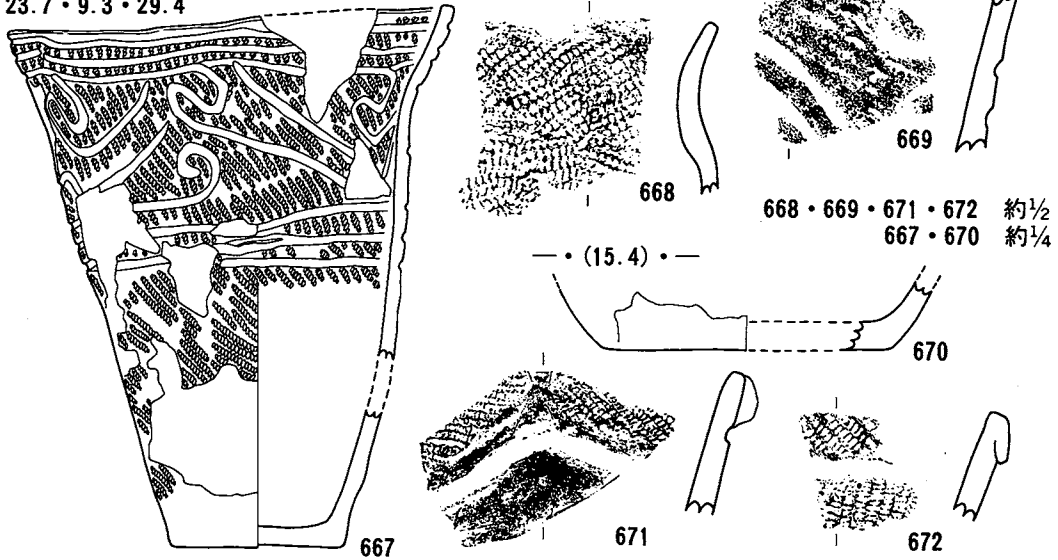
- 1. 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 焼土、混土。
- 2. 褐色土 (7.5YR 4/6) 焼土、混土。
- 3. 赤褐色土 (5YR 4/8) 焼土。
- 4. 褐色土 (7.5YR 4/6) 混土、やわらかい。

第62図 G I h 10-1 住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1/40)

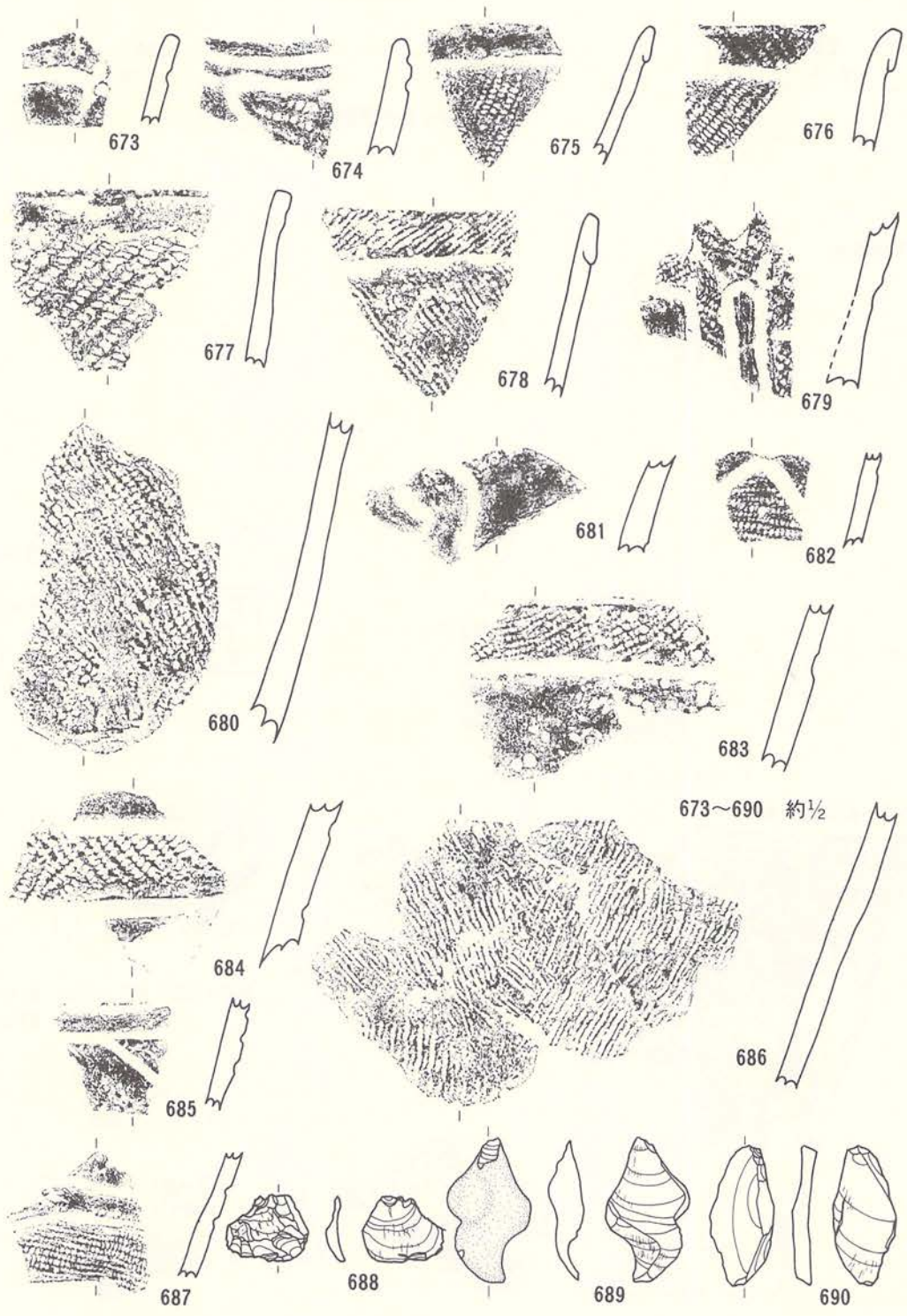


1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。

23.7・9.3・29.4



第63図 G1h10-2 住居跡 (平面、柱穴断面 S = 1/40)  
G1h10-1・2 住居跡出土遺物 (遺物番号667~672)



第64圖 G I h 10-2 住居跡出土遺物 (遺物番号673~690)

石器のうち730は細身の有茎石鏃、736は主に片面から剝離調整が施された搔器である。731・732・734・735は剥片石器である。733は比較的小さい磨製石斧である。737は形状が円形を呈する磨石である。

#### 遺構の時期

炉内部からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### G I i 9 住居跡

#### 遺 構 (第68図、写真図版22)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上位に位置する。西部がG I h 10-1住居跡、南東部がG II j 1陥し穴とそれぞれ重複するが、先後関係は不明である。本住居跡は炉跡の検出によって確認したものであり、斜面下方が流失し、壁については北東の一部を確認したのみである。

平面形は直径5m前後の円形と推定される。埋土は褐色土の単層であるが、壁際には崩落土が僅か認められる。床面は地形に沿って南に傾斜する。壁はやや外傾しながら立ち上がる。

炉は石囲い炉で中央に位置する。その規模は径90×50cmの楕円形をなし、焼土の厚さが5cmである。西半の礫は抜き取られていたが、両端に構成礫が確認された。構成礫は立位に設置され、内側が火熱のため剝落していた。焼土の下には掘り込みをもつ。

柱穴はP<sub>1</sub>~P<sub>4</sub>が検出されている。東半については床面下20cmまで掘り下げて検出に務めたが確認できなかった。柱穴は20~34cmの円形か楕円形で、深さは53~77cmである。埋土は褐色土、暗褐色土である。

#### 出土遺物 (第69図、写真図版107~108)

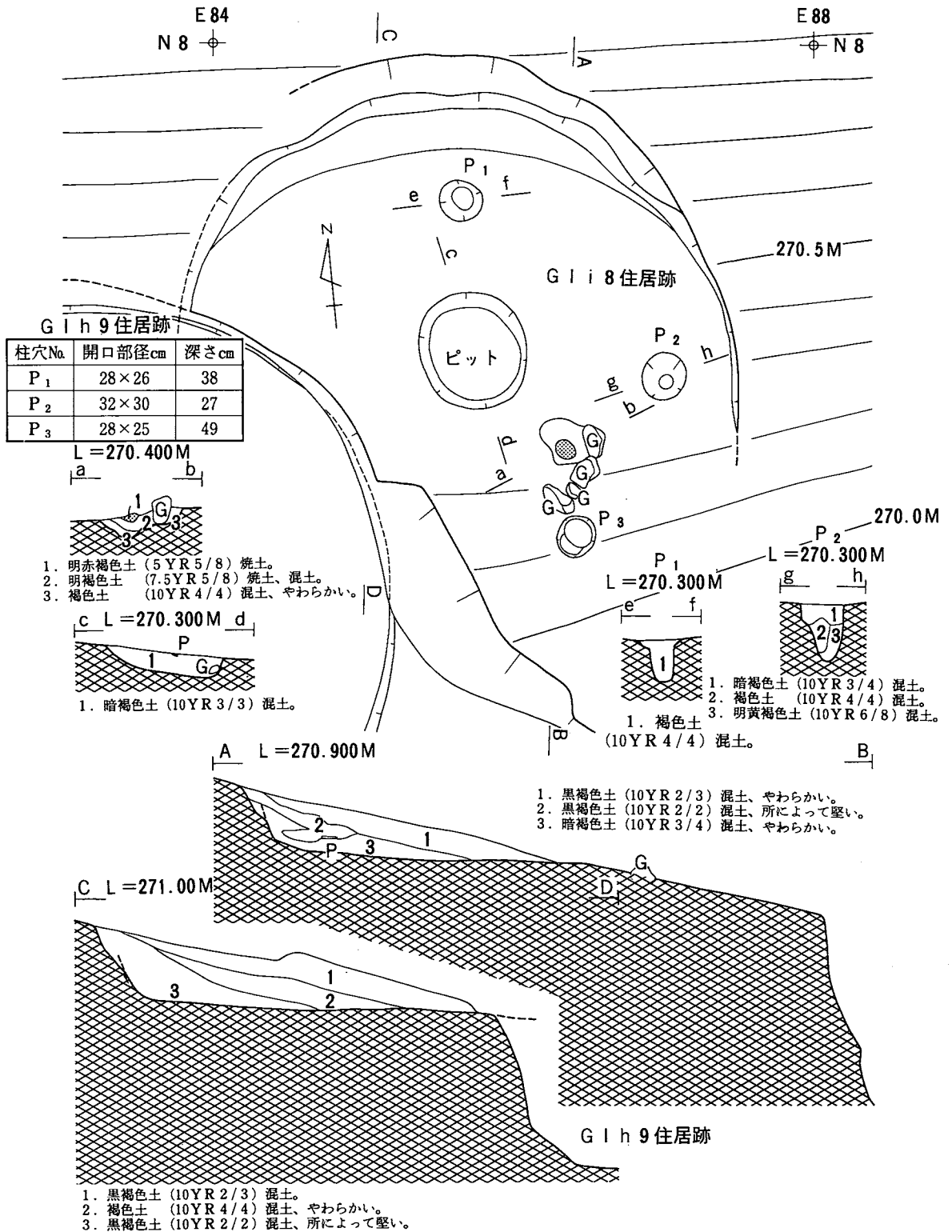
738~754の土器と、755の土製品、756~759の石器が出土している。これらのうち738は炉内部から、その他は埋土から出土したものである。

738は粗製深鉢形土器の口縁部破片で、口縁部が折り返し状に肥厚するものである。740~749、752~754は精製深鉢形土器で、楕円状の曲線文様から長方形の沈線文が施文されている。

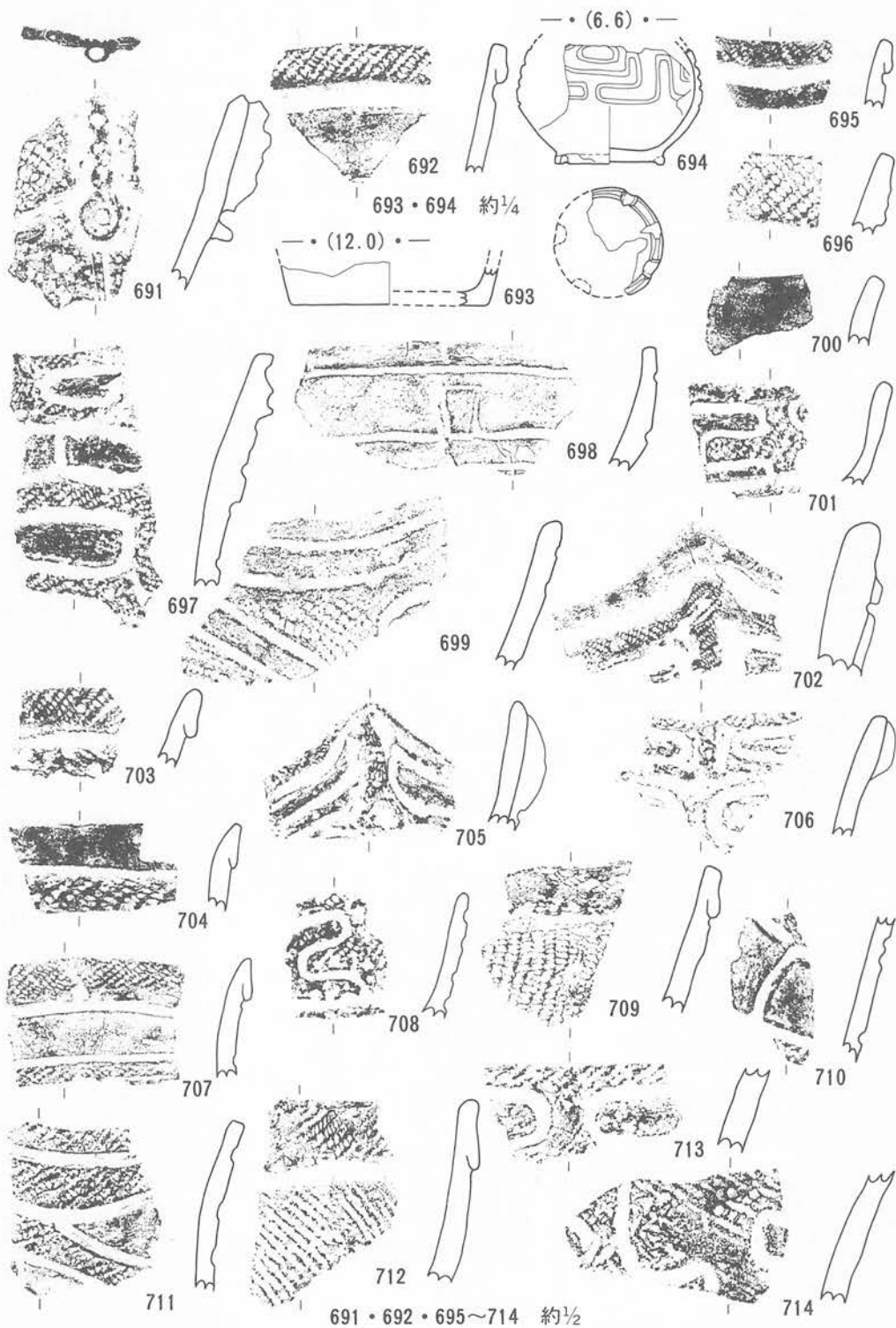
755は粗製土器の破片を再利用した円盤状土製品である。756~759は剥片石器である。

#### 遺構の時期

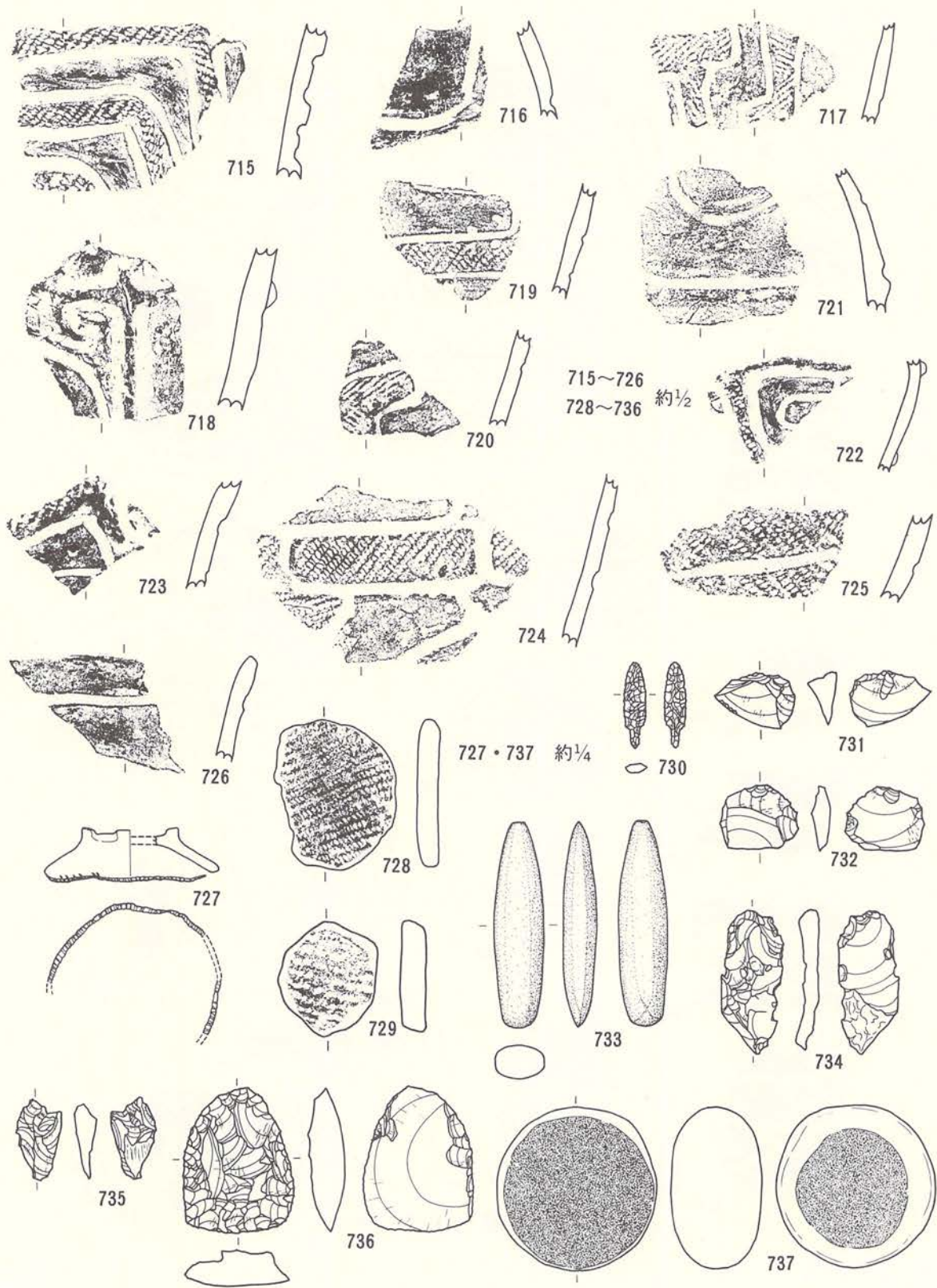
炉内部からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。



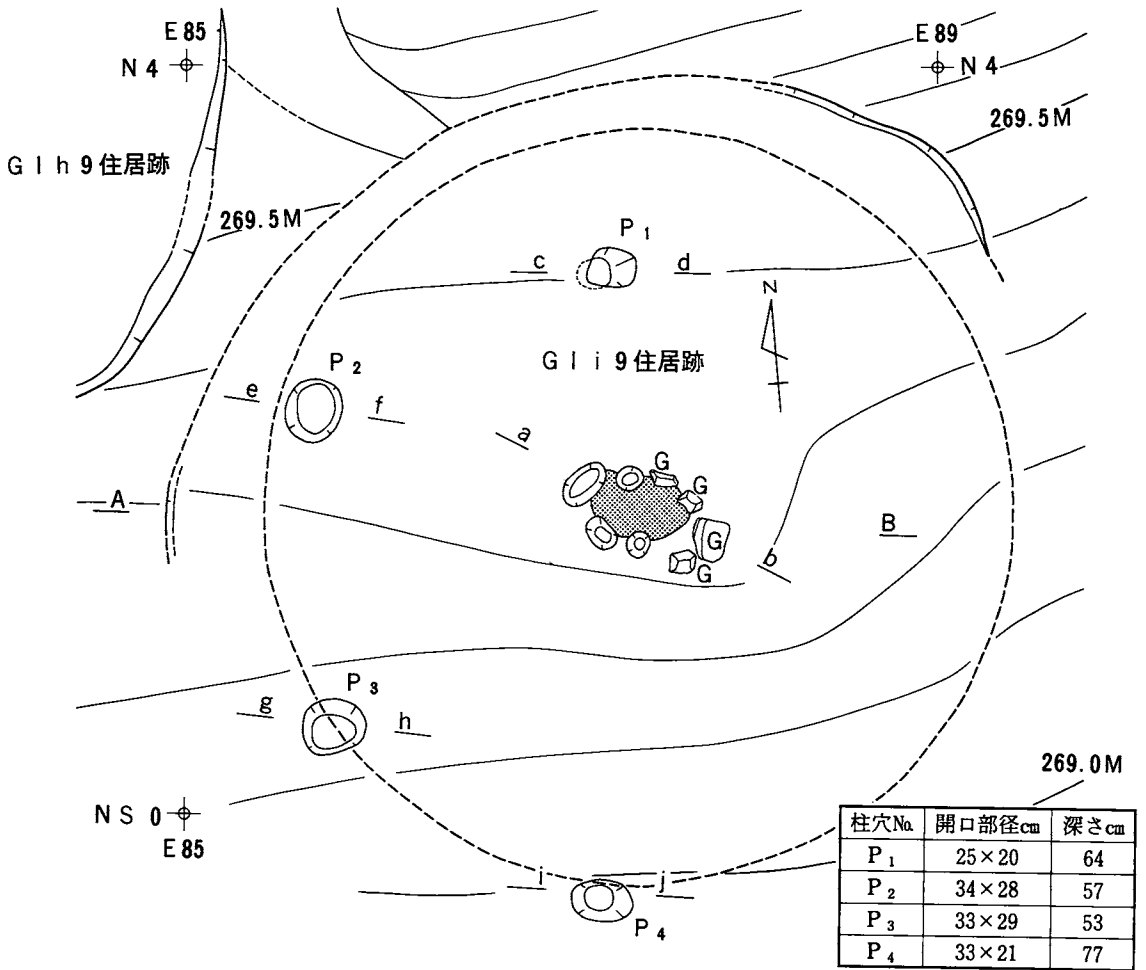
第65図 G I i 8 住居跡 (平・断面、炉、ピット、柱穴断面 S = 1/40)



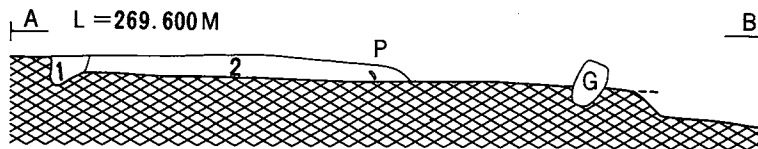
第66図 G I i 8 住居跡出土遺物 (遺物番号691~714)



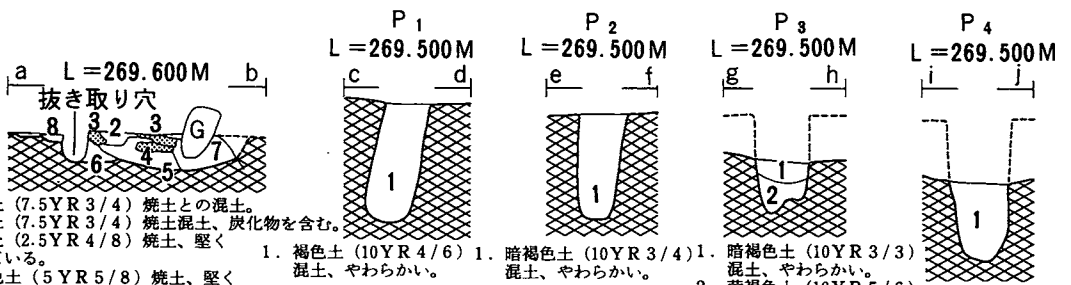
第67図 G l i 8 住居跡出土遺物 (遺物番号715~737)



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	25×20	64
P <sub>2</sub>	34×28	57
P <sub>3</sub>	33×29	53
P <sub>4</sub>	33×21	77



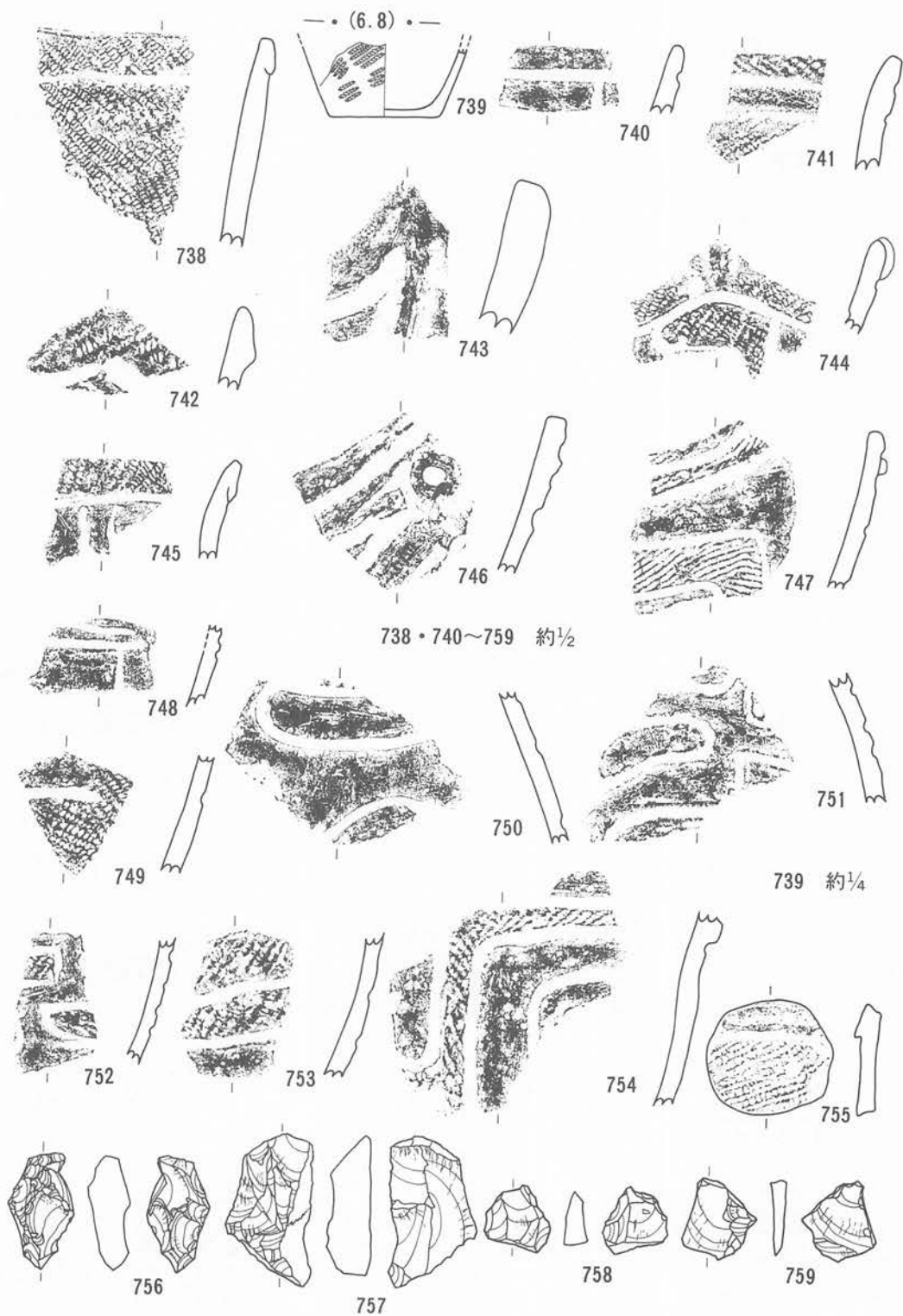
1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、やわらかい。
2. 褐色土 (10YR 4/4) 混土、黒色の強い部分がある。



1. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 焼土との混土。
  2. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 焼土混土、炭化物を含む。
  3. 赤褐色土 (2.5YR 4/8) 焼土、堅くしまっている。
  4. 明赤褐色土 (5YR 5/8) 焼土、堅くしまっている。
  5. 褐色土 (10YR 4/6) 混土。
  6. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 焼土、やわらかい。
  7. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 混土、やわらかい。
  8. 橙土 (5YR 6/6) 焼土、混土。
1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土、やわらかい。
  1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、やわらかい。
  1. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、やわらかい。
  2. 黄褐色土 (10YR 5/6)。
  1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土、中央部がやわらかい。

第68図 G I i 9 住居跡 (平・断面、炉、柱穴断面 S = 1/40)





第69図 G l i 9 住居跡出土遺物 (遺物番号738~759)

## G II b 2 住居跡

### 遺構 (第70図、写真図版23)

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面に位置する。住居跡の斜面下方にあたる約半分は畑地造成のため削剝されており、検出されていない。平面形は円形を呈する。規模は北西から南東の計測で開口部径5.2m、床面部径5.0mである。埋土は褐色土をブロック状に包含する黒褐色土で構成される。壁高は北東壁で34cm、北西壁で7cmである。

床面は平坦である。炉は石囲い炉で、ほぼ中央部に位置する。その規模は一辺50cmの方形状を呈する。炉内部は暗赤褐色土に焼成を受けており、その焼成最大層厚は5cmである。

柱穴は壁寄りに5本検出されている。

### 出土遺物 (第70図、写真図版108)

760～768の土器が出土している。いずれも埋土から出土したものである。761～764は粗製深鉢形土器の口縁部破片、767・768は体部破片で、761・762の口縁部は折り返し状に肥厚するものである。765は粗製深鉢形土器の体部破片で、平行沈線の認められるものである。760・766は無文である。

### 遺構の時期

炉の形態と埋土からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられるものと思われる。

## G II b 10 住居跡

### 遺構 (第71図、写真図版24)

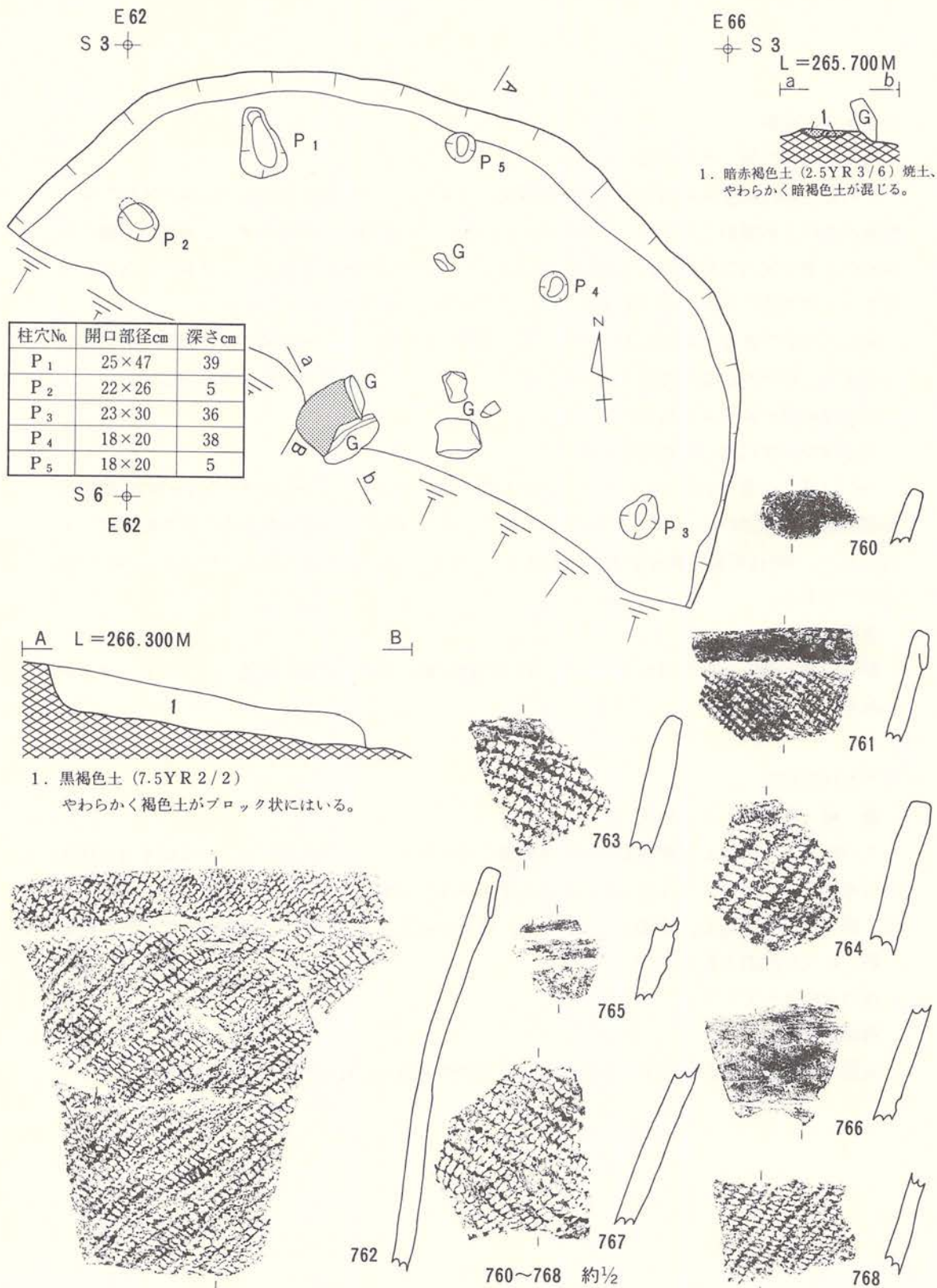
この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面下部に位置する。検出されたのは斜面上方の南東壁のみである。壁のあり方から推定するに平面形は方形から長形状を呈するものと考えられる。規模は不明である。壁高は30cmである。埋土は暗褐色土、黒色土、黒褐色土で構成される。

炉、柱穴は検出されていない。

遺物は得られていない。

### 遺構の時期

遺構の形状と周囲からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる可能性が強い。



第70図 G II b 2 住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1/40)  
G II b 2 住居跡出土遺物 (遺物番号760~768)

## G II c 3 住居跡

### 遺構 (第72図、写真図版25～26)

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面に位置し、G II d 3 ピットの西壁を切って構築されている。平面形は円形を呈する。規模は開口部径3.4×3.8m、床面部径3.4×3.5mである。埋土は黒褐色土を基調とし、壁際の中位から下位に汚れた八戸火山灰がはいる。壁高は北壁で63cm、東壁で46cm、西壁で4cmで、斜面下方にあたる南壁は検出されていない。

床面は斜面に沿って傾斜する。炉は地床炉で、中央部からやや南側と南東壁寄りの2ヶ所に確認できる。前者の規模は30×125cmの不整形をなし、炉内部は暗赤褐色に焼成を受けている。焼成最大層厚は8cmである。後者の規模は31×68cmの不整形をなし、炉内部は橙色に焼成を受けているが、その層厚はない。

柱穴は北壁際に3本検出されている。

### 出土遺物 (第73～74図、写真図版108～109)

769～792の土器と793～799の石器が出土している。いずれも埋土から出土したものである。土器はいずれも尖底深鉢形土器である。

769は口唇部に刻目をもつミニチュア土器で、無文である。770は底部破片である。771・772・787には斜状の貝殻腹縁文が施文されている。784には条痕文が施文されている。その他は無文の土器である。

石器のうち、793は無茎石鏃である。794・795は縦型石匙で、794は両面から、795は主に片面から剥離調整が施されている。796・797は1稜辺部に擦痕の認められる棒状擦石である。799は1稜辺部に擦痕と凹みの認められるものである。798は石皿の破片である。

### 遺構の時期

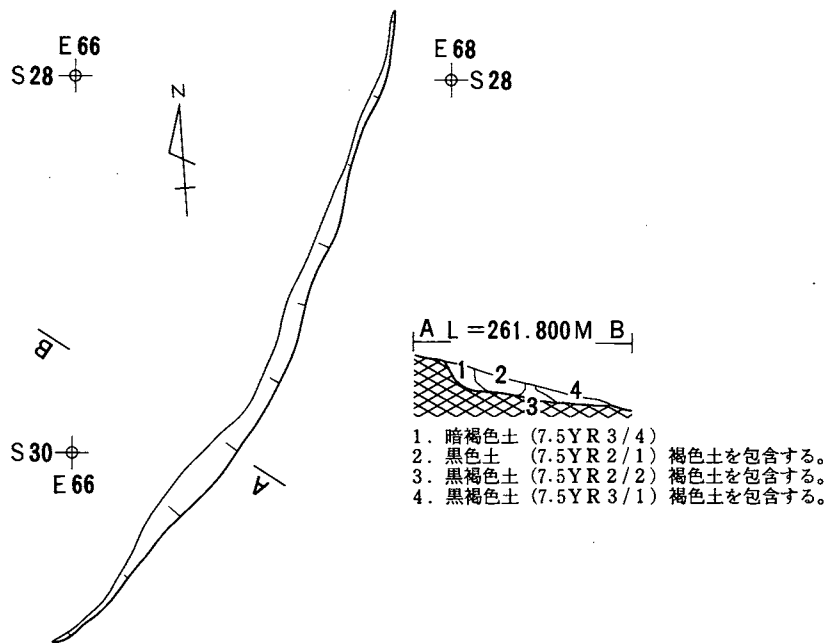
埋土からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

## G II e 3 - 1 住居跡

### 遺構 (第75図、写真図版25・27)

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面、G II c 3 住居跡の南東側に隣接し、G II d 3 ピットと切り合い関係にある。両者の先後関係については、埋土が同質同色調であったこと、壁の切り合い関係がまったく認められなかったこと、また当住居跡の北壁際床面とピット底面がほぼ同一面になることなどから明確にとらえることができなかった。

平面形は北西から南東に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は開口部径4.1×4.7m、床面部径3.9×4.5m前後と推定される。壁高は北壁で45cm、東壁で32cmである。斜面下方にあたる南西壁は検出されていない。埋土は暗褐色土、黒色土、黒褐色土で構成される。



床面は斜面に沿ってやや傾斜する。炉は地床炉で、中央部からやや南側に位置する。その規模は50×125cmの不整形をなし、炉内部は明赤褐色に焼成を受けている。焼成最大層厚は23cmに及ぶ。

柱穴は壁寄りに4本検出されている。

出土遺物 (第76～79図、写真図版110～112)

800～849の土器、850の土製品、851～854の石器が出土している。いずれも埋土から出土したものである。土器はいずれも尖底深鉢形土器である。

800はミニチュア土器で、山形口縁を呈し、口縁部下に縦横の刺突列が施されている。818は刺突文主体の文様が施文されている。810・824・826・829・842には斜状の貝殻腹縁文が、801・825・847には横位羽状の貝殻腹縁文が、811・813・822・831・837・839には縦位羽状の貝殻腹縁文が、812・833・840には縦状の貝殻腹縁文が、827・835には横状の貝殻腹縁文が施文されている。809・814・819・820・849には条痕文が施文されている。

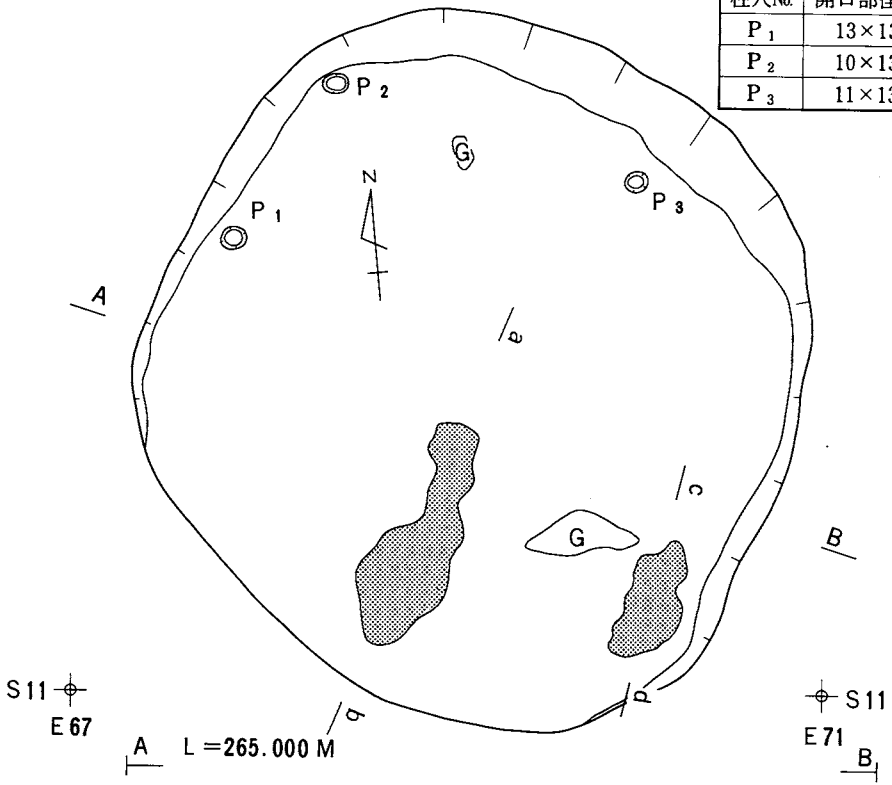
850はスプーン状の土製品で穿孔を有し、貝殻腹縁文と稲妻状の沈線が施文されている。

石器のうち851は全面が研磨され、溝状の擦痕が認められるところから、擦切磨製石斧と思

E 67  
S 7

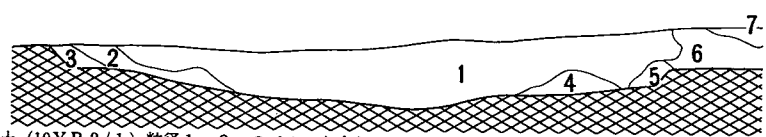
E 71  
S 7

柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	13×13	8
P <sub>2</sub>	10×13	10
P <sub>3</sub>	11×13	10



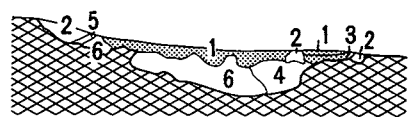
S 11  
E 67

S 11  
E 71



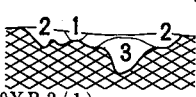
1. 黒褐色土 (10YR 2/1) 粒径1~3cmのパミスを含む。
2. 褐色土 (10YR 4/4) 粒径1~3cmのパミスを含む。
3. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れた八戸火山灰
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 粒径1~2mmのパミスを含む。
5. 褐色土 (10YR 4/4) 汚れた八戸火山灰
6. 暗褐色土 (10YR 3/3) 粒径1~3cmのパミスを含む。
7. 暗褐色土 (10YR 3/4) 粒径1~3cmのパミスを含む。

a L=264.500M b



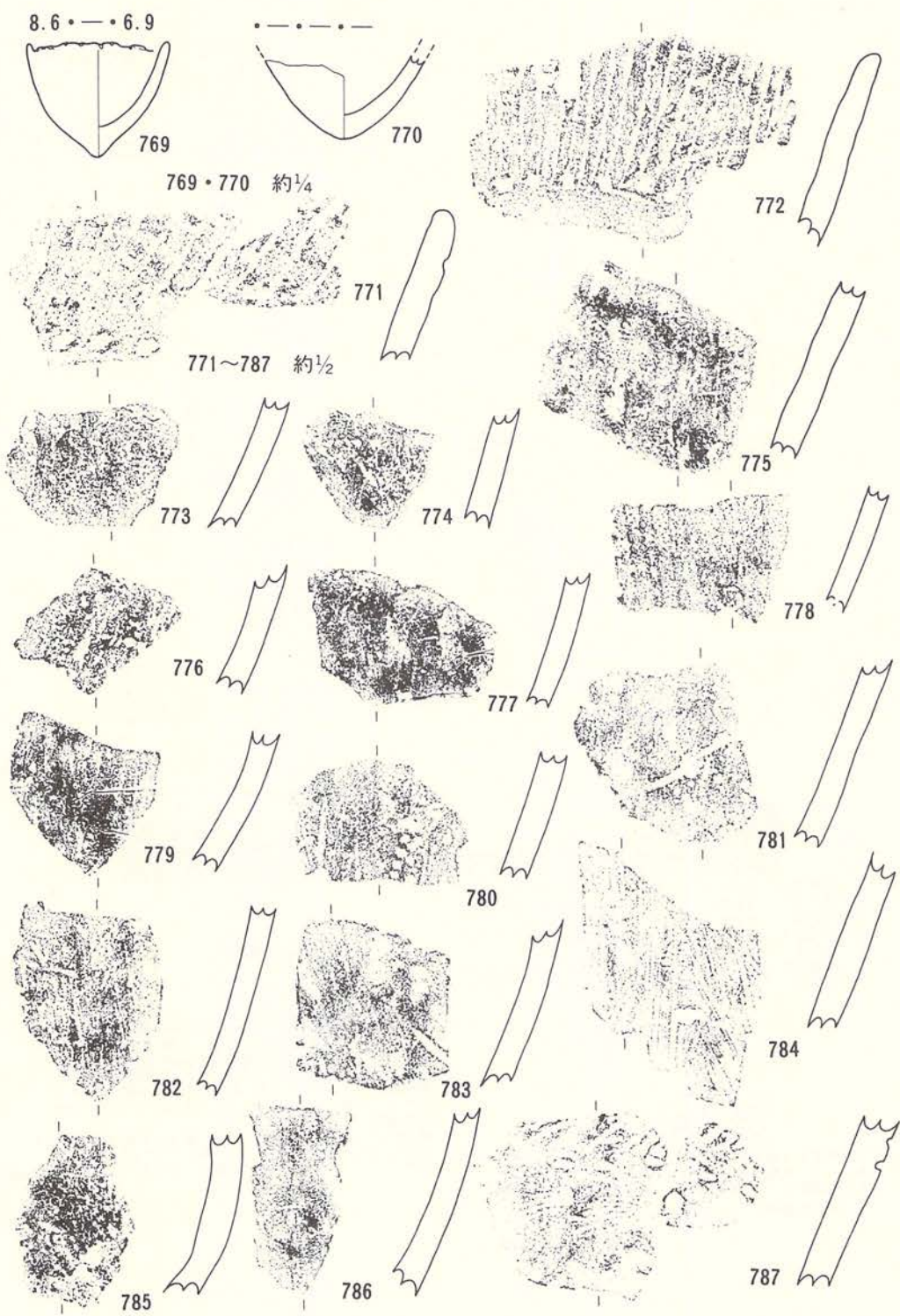
1. 暗赤褐色土 (5YR 3/4) 焼土、炭化物を含む。
2. 黒色土~黒褐色土 (10YR 2/1~2/2) パミスを含む。
3. 明赤褐色土 (2.5YR 5/8) 焼土。
4. 明褐色土 (7.5YR 5/6~5/8) 焼土が斑状に認められる。
5. にぶい褐色土 (7.5YR 5/4) 汚れた八戸火山灰。
6. 明黄褐色土 (10YR 6/6) 4層と同質であり、焼土が僅かに混じる。

c L=264.500M d

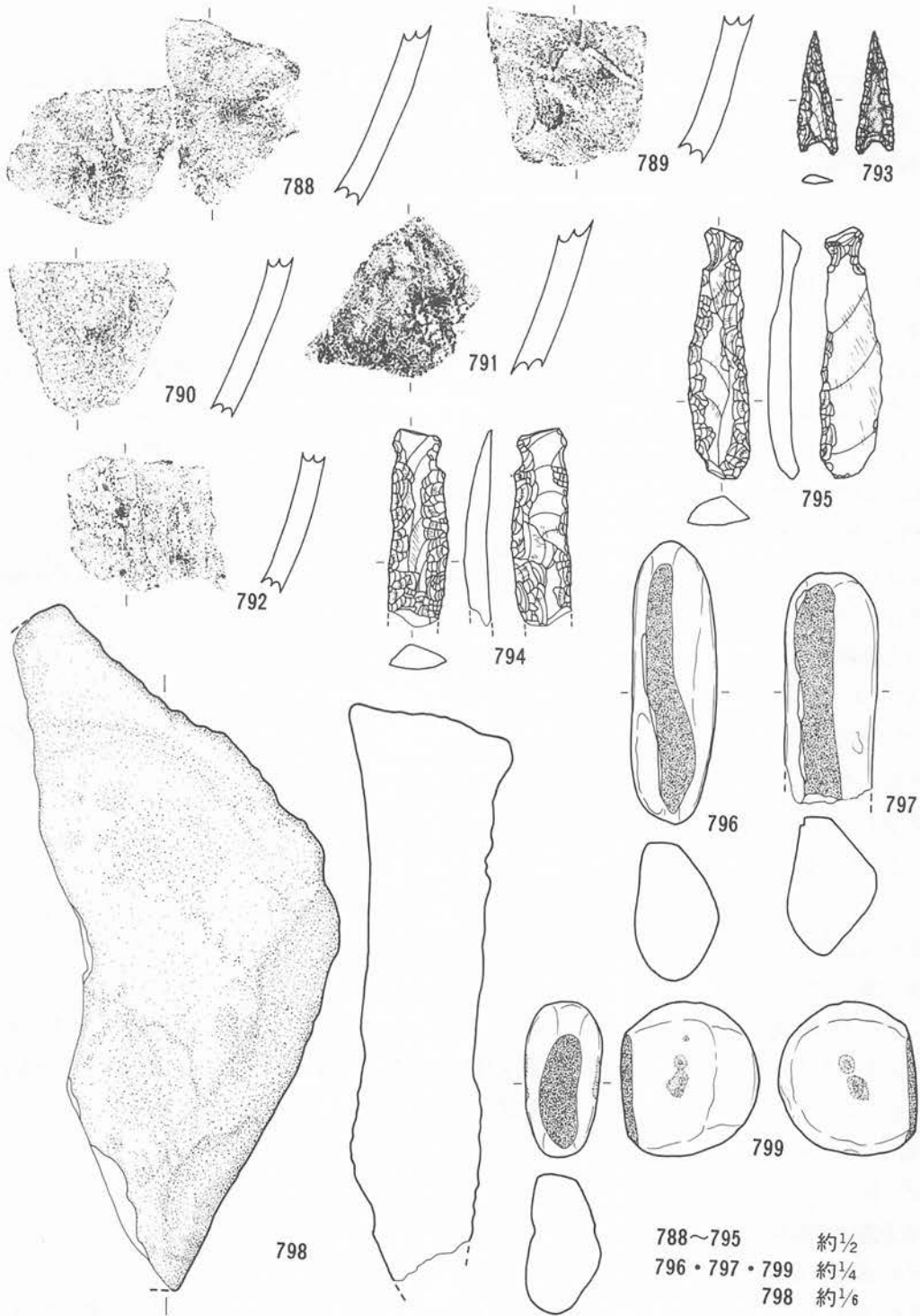


1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3)
3. 明褐色土 (7.5YR 5/6~5/8) 焼成は橙色を呈し、斑状に認められる。

第72図 G II c 3 住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1/40)



第73図 G II c 3 住居跡出土遺物 (遺物番号769~787)



第74図 G II c 3 住居跡出土遺物 (遺物番号788~799)



われるもので、片刃ある。852は片面の縁辺部に荒い剥離調整が施された打製石斧である。853・854は1稜辺部に擦痕の認められる棒状擦石である。

#### 遺構の時期

埋土からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

### G II e 3 - 2 住居跡

#### 遺構 (第75図)

この住居跡はG II e 3 - 1 住居跡のほぼ上面に位置する。G II e 3 - 1 住居跡の精査段階において、北東壁上面から北側約30~50cmにはぼ円形となる掘り込みが確認された。

検出されたのは北東壁と床面の一部である。規模は不明である。壁高は北東壁で42cmである。埋土は上位が暗褐色土、下位が黒褐色で構成される。

床面は検出された面を観察する限り、ほぼ平坦である。炉、柱穴については不明である。

G II e 3 - 1 住居跡との先後関係については当住居跡が切られており、G II e 3 - 1 住居跡より古い住居跡である。

#### 出土遺物 (第79図、写真図版113)

855~863の土器が埋土から出土している。いずれも尖底深鉢形土器である。

855・856・858の土器には斜状の貝殻腹縁文が施文されている。859の土器には条痕文が認められる。その他は無文である。

#### 遺構の時期

埋土からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

### G II e 10 住居跡

#### 遺構 (第80図、写真図版24)

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面に位置する。平面形は検出された壁のあり方から不整形を呈する。規模は斜面上方に検出された壁から、一辺3.2m前後のものと推定される。埋土は黒褐色土、黒色土、極暗褐色土で構成される。壁高は南東壁で25cmである。

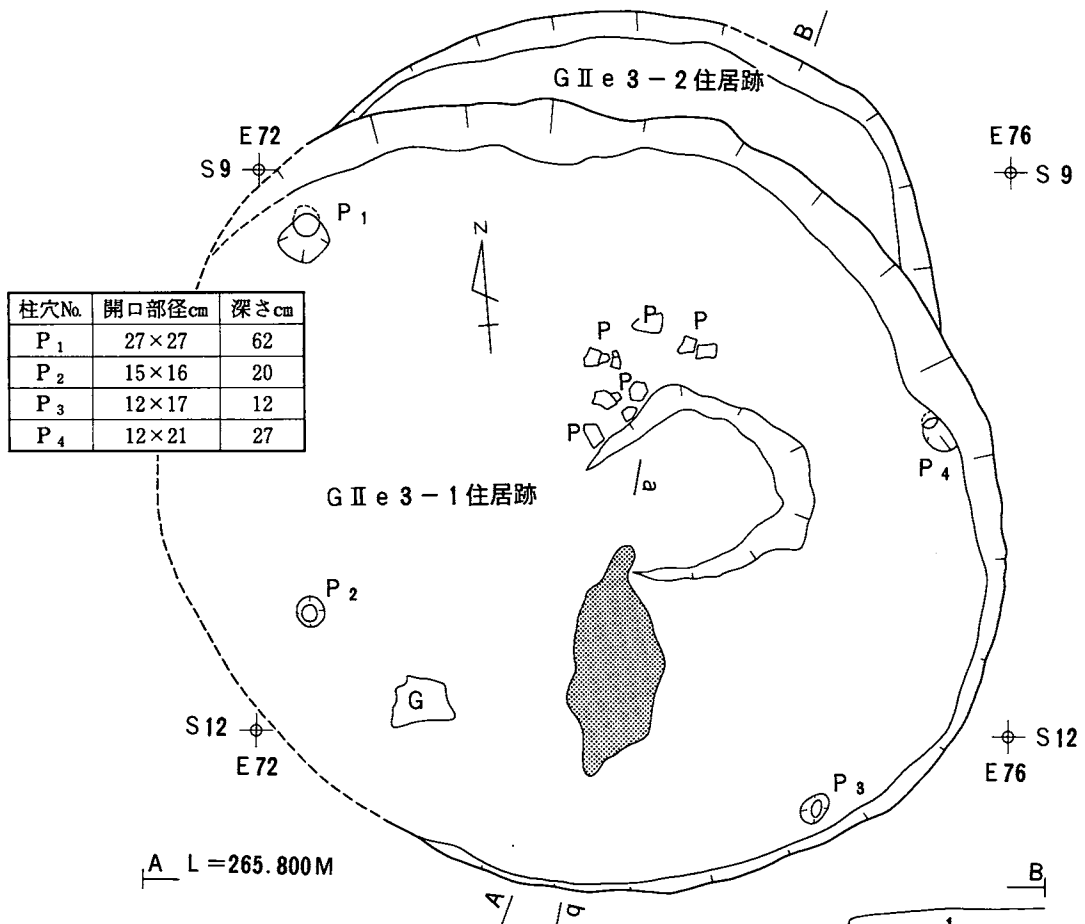
床面はほぼ平坦である。

炉、柱穴については不明である。

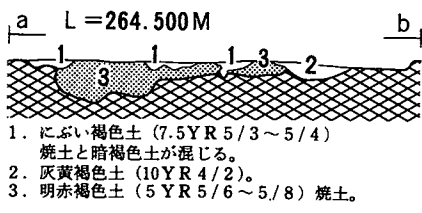
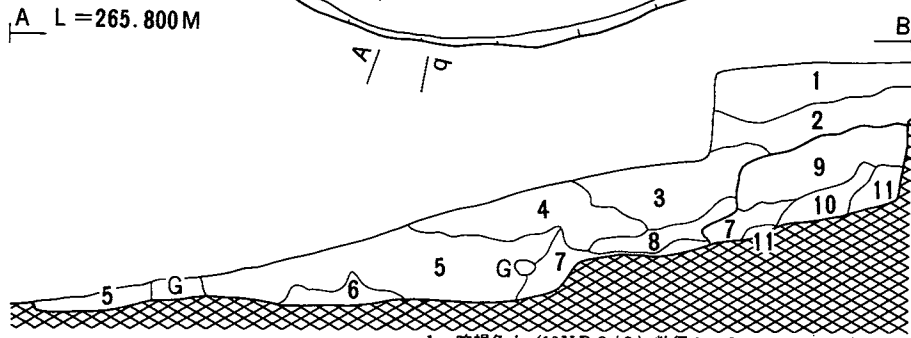
#### 出土遺物 (第80図、写真図版113)

864~869の土器が出土している。いずれも埋土から出土したものである。

864~868は尖底深鉢形土器の破片で、866の土器には貝殻腹縁押し引き文が施文されている。864~865・867の土器は無文である。



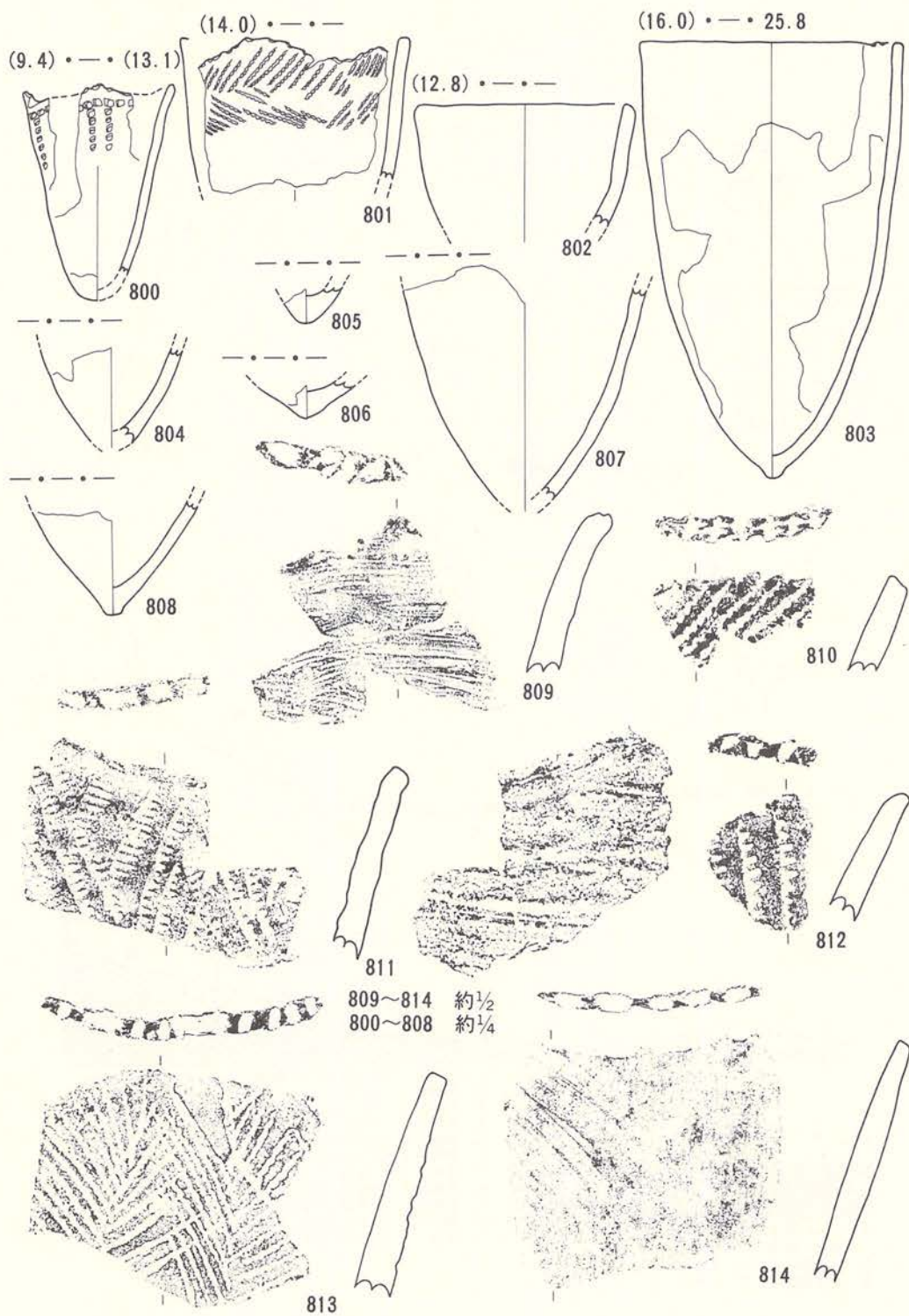
柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	27×27	62
P <sub>2</sub>	15×16	20
P <sub>3</sub>	12×17	12
P <sub>4</sub>	12×21	27



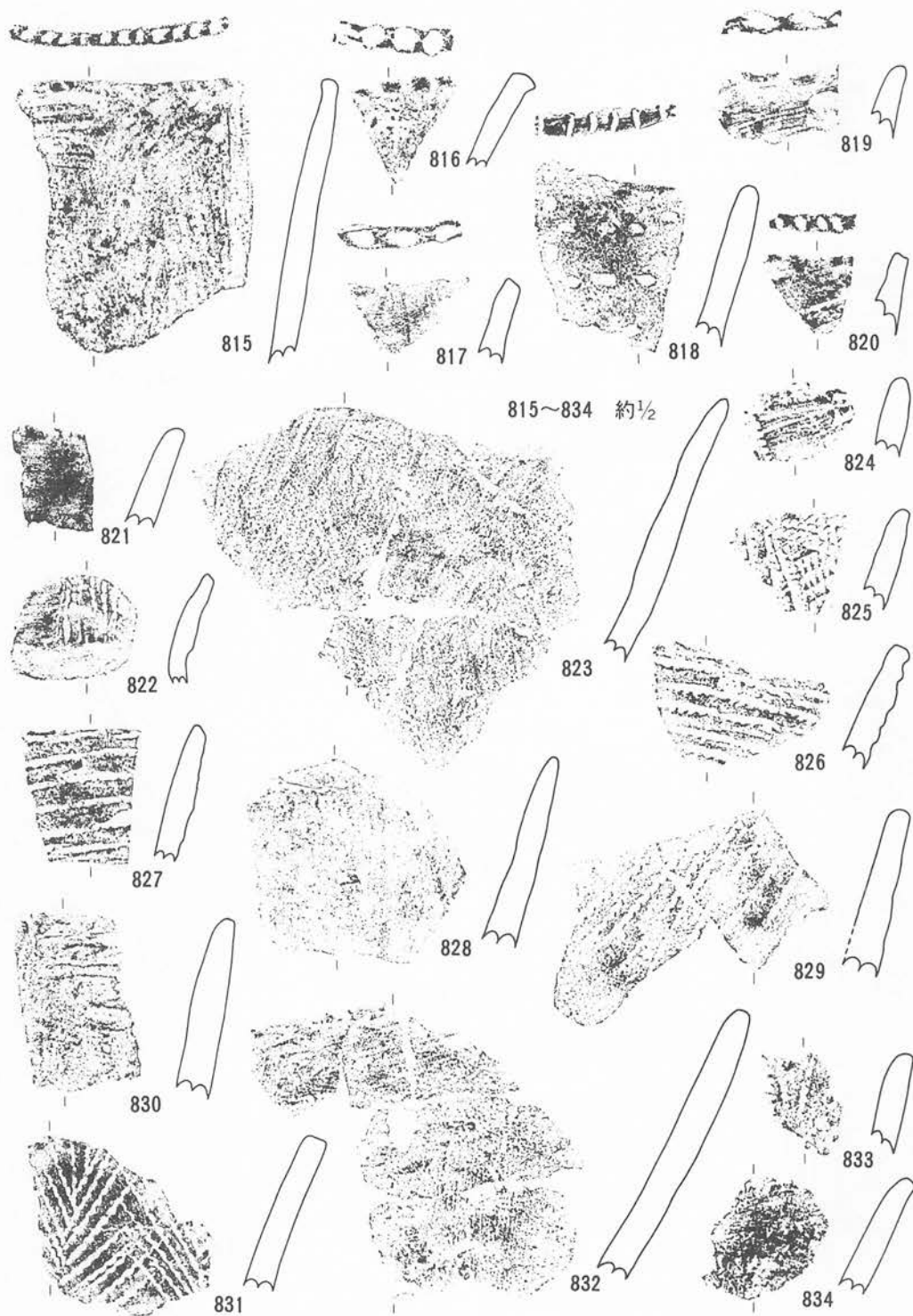
1. 暗褐色土 (10YR 3/3) 粒径1~3mmのパミスを含む。
2. 黒褐色土 (10YR 2/3) 粒径1~3mmのパミスを含む。
3. 暗褐色土 (10YR 3/4) 粒径1~2cmのパミスを含む。
4. 黒色土 (10YR 2/1) 暗褐色土をブロック状に含む。
5. 黒色土 (10YR 2/1) 粒径1~3cmのパミスを含む。
6. 黒褐色土 (10YR 3/2) 粒径1~3cmのパミスを含む。
7. 暗褐色土 (10YR 3/4) 3よりパミスの包含量が少ない。
8. 黒褐色土 (10YR 2/3) 2よりパミスの包含量が少ない。
9. 褐色土 (10YR 4/4) 暗褐色土との混土。
10. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れた八戸火山灰。
11. 褐色土 (10YR 5/8) 八戸火山灰。

1. にぶい褐色土 (7.5YR 5/3~5/4) 焼土と暗褐色土が混じる。
2. 灰黄褐色土 (10YR 4/2)。
3. 明赤褐色土 (5YR 5/6~5/8) 焼土。

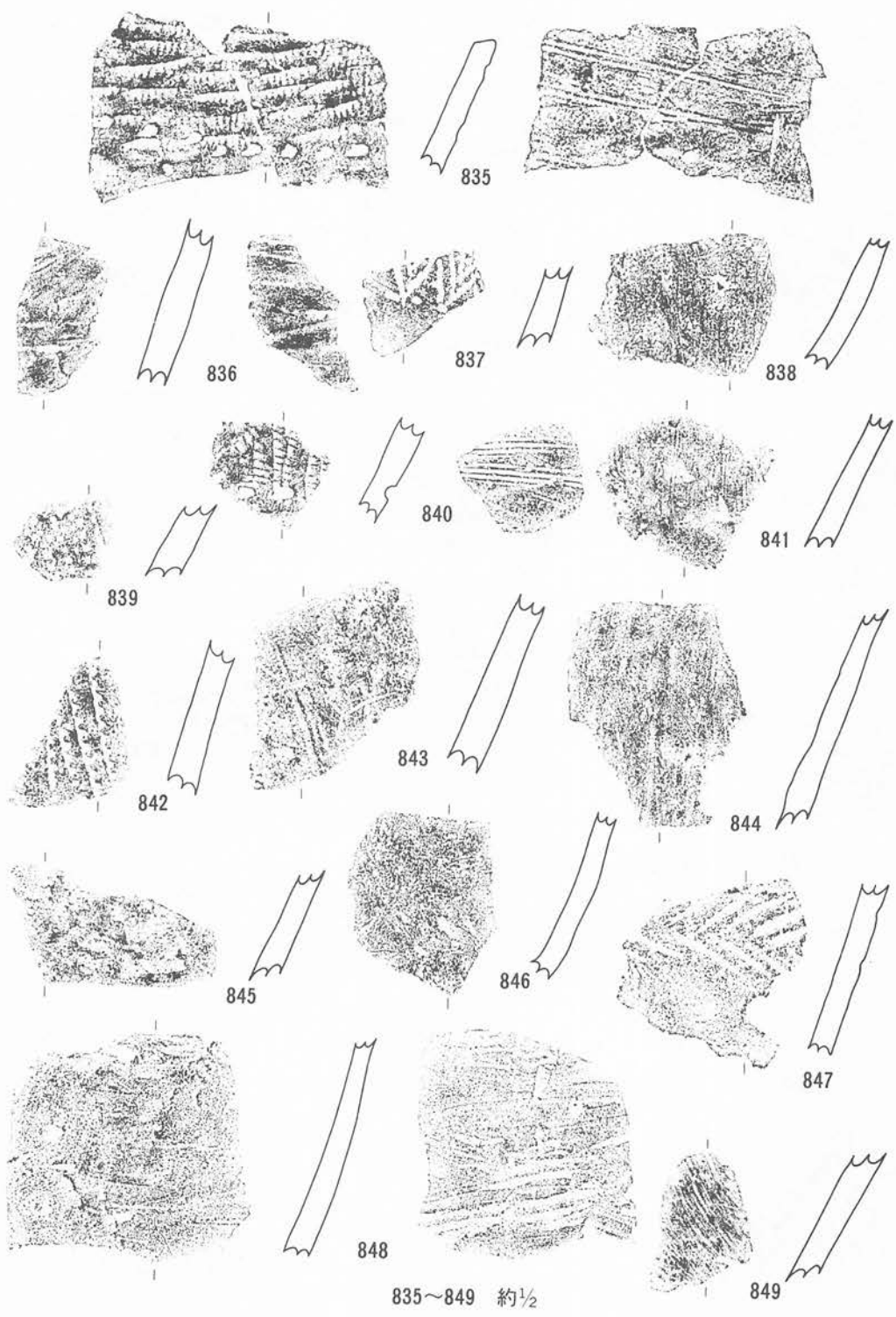
第75図 G II e 3-1・2住居跡 (平・断面、炉断面S=1/40)



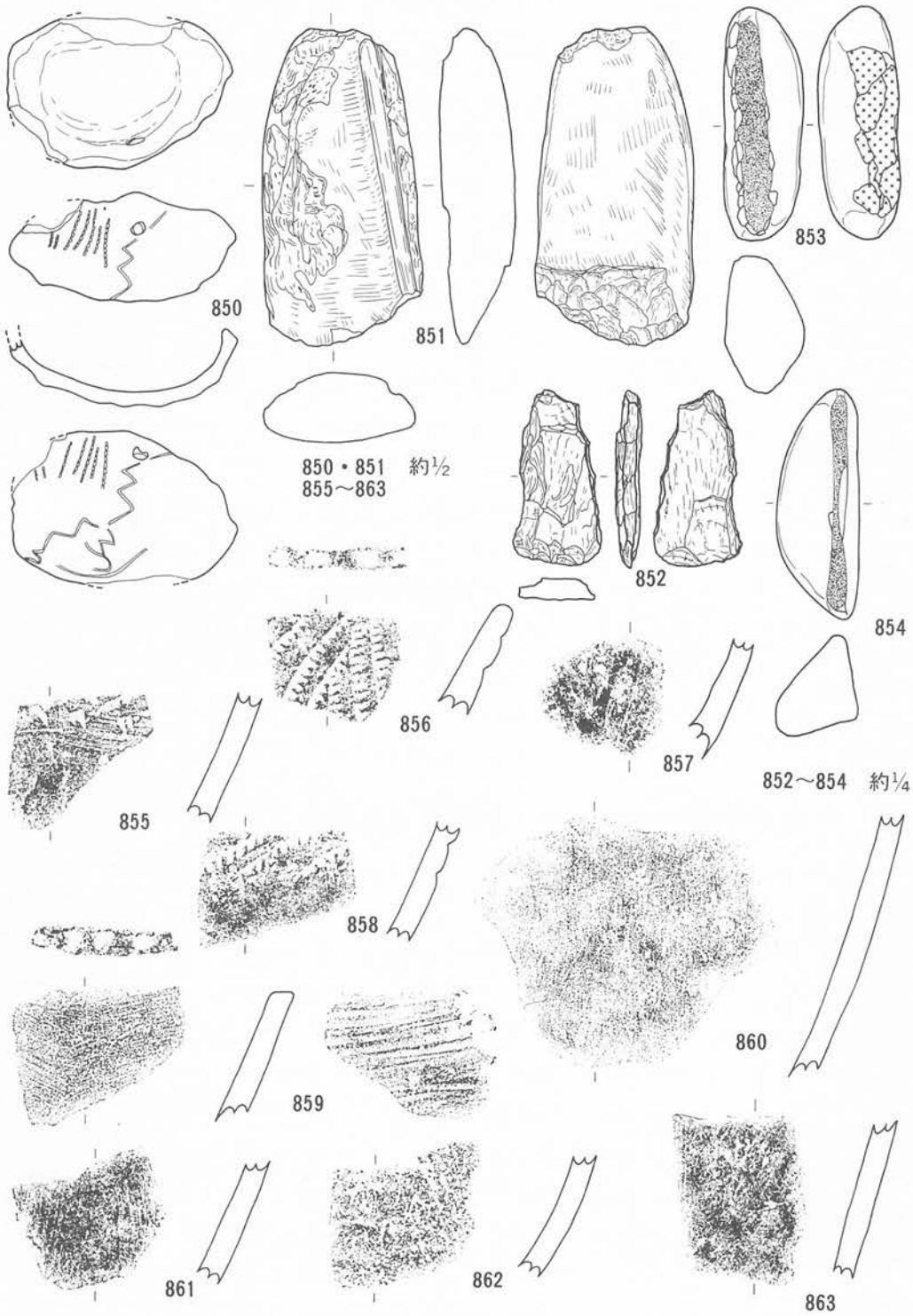
第76図 G II e 3 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号800~814)



第77図 G II e 3 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号815~834)



第78図 G II e 3 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号835~849)



第79図 G II e 3 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号850~854)  
G II e 3 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号855~863)

869は深鉢形土器の体部破片で第Ⅱ群土器に相当するものである。

#### 遺構の時期

埋土からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる可能性が強い。

### GⅡf2-1 住居跡

#### 遺構（第81図、写真図版28～29）

この住居跡は調査区東側尾根のやや西側に位置し、GⅡf2-2住居跡を切って構築されている。平面形は円形を呈する。規模は東から西に計測して開口部径6.6m、床面部径6.4mである。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土で構成される。壁高は東壁で19cm、西壁で12cmであり、北壁際床面はGⅡf2-2住居跡床面より約18cmの段差をもって低くなる。

床面は北東壁際と北西壁際に5cmから15cmの段差をもつが、他は平坦である。炉は地床炉に土器が斜位に埋設されているもので、中央部から南東寄りに位置する。その規模は径49×52cmの不整形をなし、炉内部は赤褐色に堅く焼成を受けている。焼成最大層厚は10cmに及ぶ。

柱穴は検出されていない。

#### 出土遺物（第82～89図、写真図版113～119）

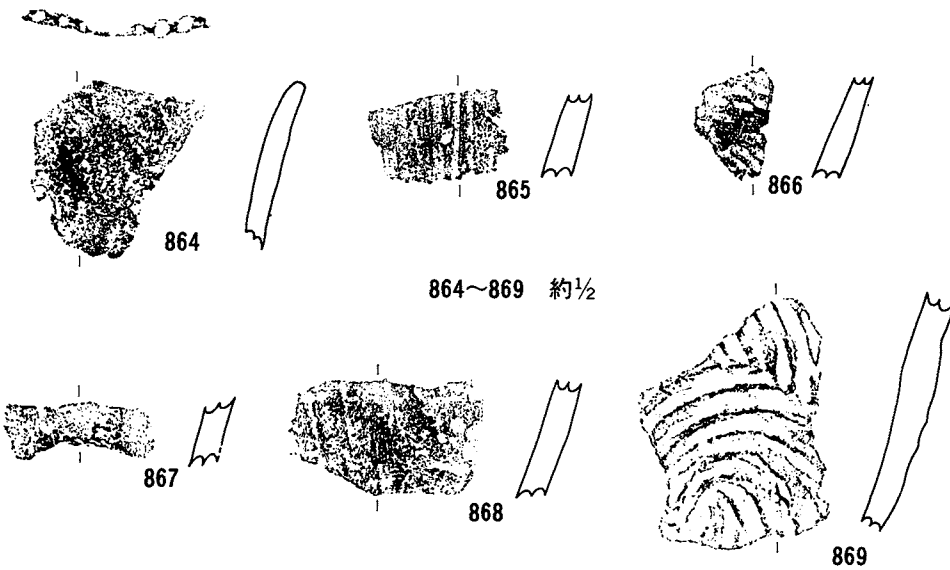
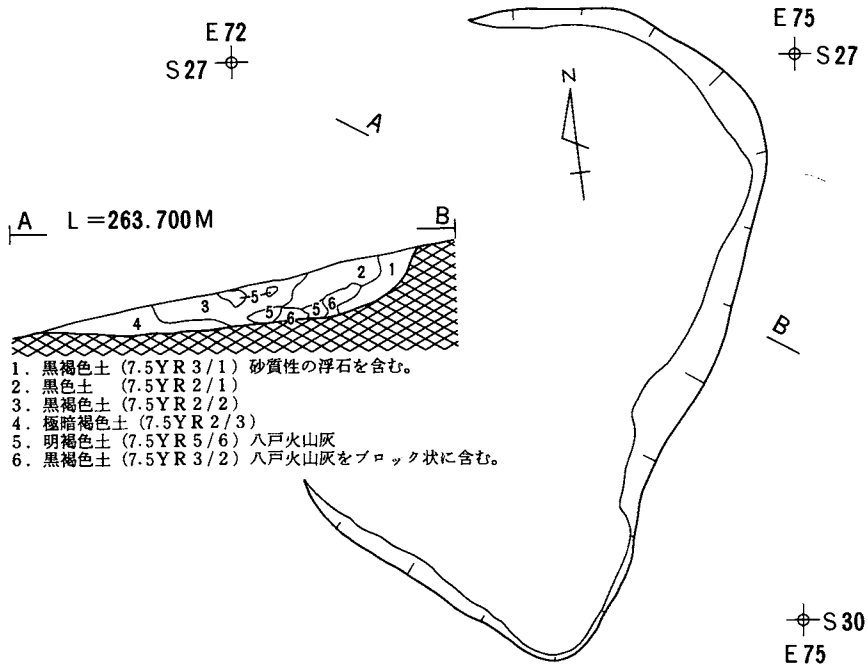
870～952・954～957の土器と、953・958～964の土製品、965～1043の石器が出土している。これらのうち871・873～875・877・878～895・897・899・966・968～993・995～1011が床面から、896が炉内部から、870・876・954が床面から2～4cm浮いて、その他は埋土から出土したものである。

873・875・877は壺形土器で、いずれも隆帯で方形状に区画した中に、平行曲線状の沈線文が施文されているものである。871・874の土器にはどちらにも平行曲線状の沈線文が施文されている。896は炉に斜位に埋設されていた深鉢形土器で、山形口縁を呈し、体部に平行する沈線で三角状の曲線文が施文されている。902はEⅠh7住居跡の床相当面から出土した土器と当住居跡の埋土から出土した土器が接合したもので、薄手の精製深鉢形土器であり、平行する曲線文が施文されているものである。904は鉢形土器で、口縁部下に穿孔を有する突起があるところから懸垂した土器と思われる。955は蓋付土器である。956・957はミニチュア土器で、957には沈線文が施文されている。958～964は粗製土器の破片を再利用した円盤状土製品である。

石器のうち1012～1015は有茎石鏃、965・1016～1020は搔器、966・967・969～981・1021～1033は楔形石器、968は石筥、982～1011・1034～1043は剥片石器である。

#### 遺構の時期

床面からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。



第80図 G II e 10住居跡 (平・断面 S = 1/40)  
 G II e 10住居跡出土遺物 (遺物番号864~869)



## G II f 2 - 2 住居跡

### 遺構（第81図、写真図版29）

この住居跡は、G II f 2 - 1 住居跡の北壁上面に検出されたもので、G II f 2 - 1 住居跡に遺構の大半を切られているものである。検出されたのは、北壁を中心とする北西から北東の壁である。

平面形は円形を呈する。規模は検出された壁のあり方から推定して、開口部径5.6m前後の住居跡であると思われる。埋土は暗褐色土から黒褐色土で構成される。壁高は北壁で35cmである。

床面の状況、炉及び柱穴については不明である。

### 出土遺物（第89～90図、写真図版119～121）

1044～1069の土器と、1071の土製品、1070・1072の石器が出土している。いずれも埋土から出土したものである。1055・1060・1062・1066の土器には長楕円状の沈線文が施文されている。

1071は粗製土器破片を再利用した円盤状土製品である。

1070は刃部が欠損した磨製石斧である。1072は剥片石器である。

### 遺物の時期

埋土からの出土遺物と遺構の切り合い関係から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

## G II g 1 - 1 住居跡

### 遺構（第91図、写真図版29）

この住居跡は調査区東側の尾根に位置し、東側をG II h 1 住居跡に切られているものである。平面形はほぼ方形を呈する。規模は検出された壁のあり方から、開口部一辺3.0m、床面部一辺2.8m前後のものである。埋土は主に黒褐色土で構成される。壁高は北壁で64cm、北西壁で36cm、南壁で20cmである。

床面は中礫浮石相当面で、ほぼ平坦である。

炉、柱穴は検出されていない。

### 出土遺物（第91図、写真図版121）

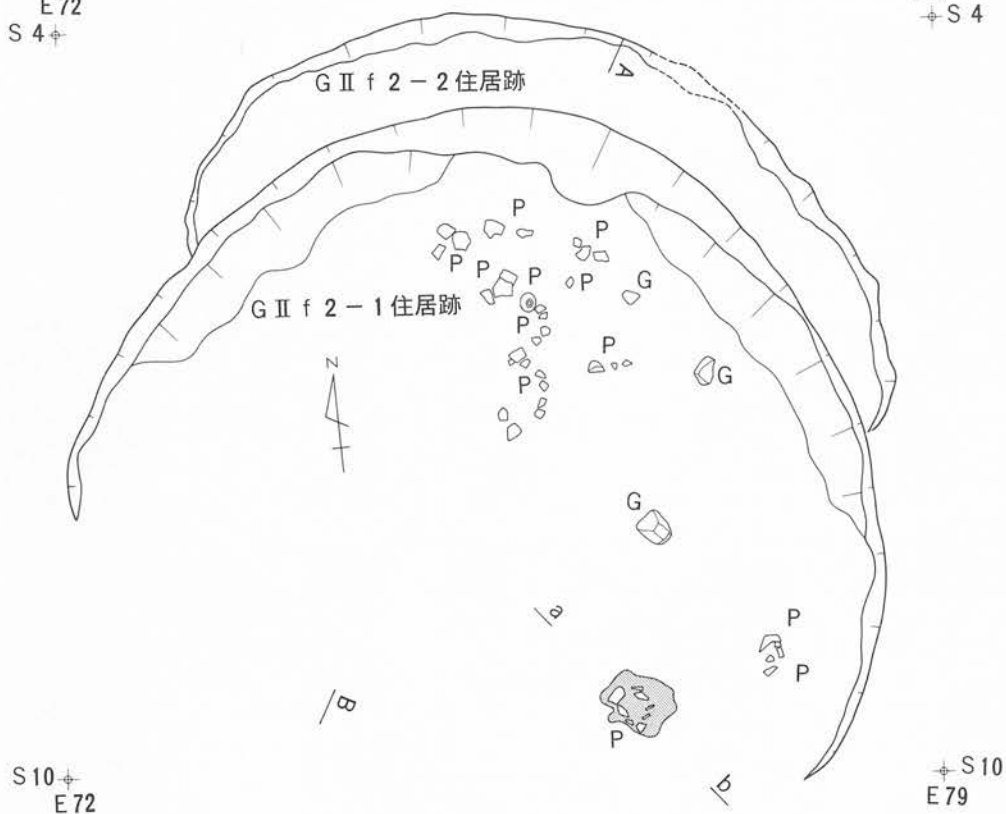
1073～1083の土器が出土している。いずれも埋土から出土したものである。1073の土器には帯縄文で、菱形状の文様が施文されているものである。1075・1077・1079・1080は鉢形土器の口縁部で、口縁部は無文、体部に単節斜縄文が施されている。

### 遺構の時期

埋土からの出土遺物及び遺構の重複関係から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

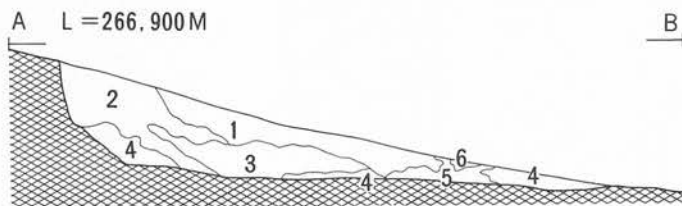
E 72  
S 4

E 79  
S 4

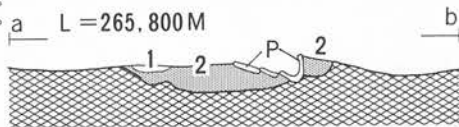


S 10  
E 72

S 10  
E 79

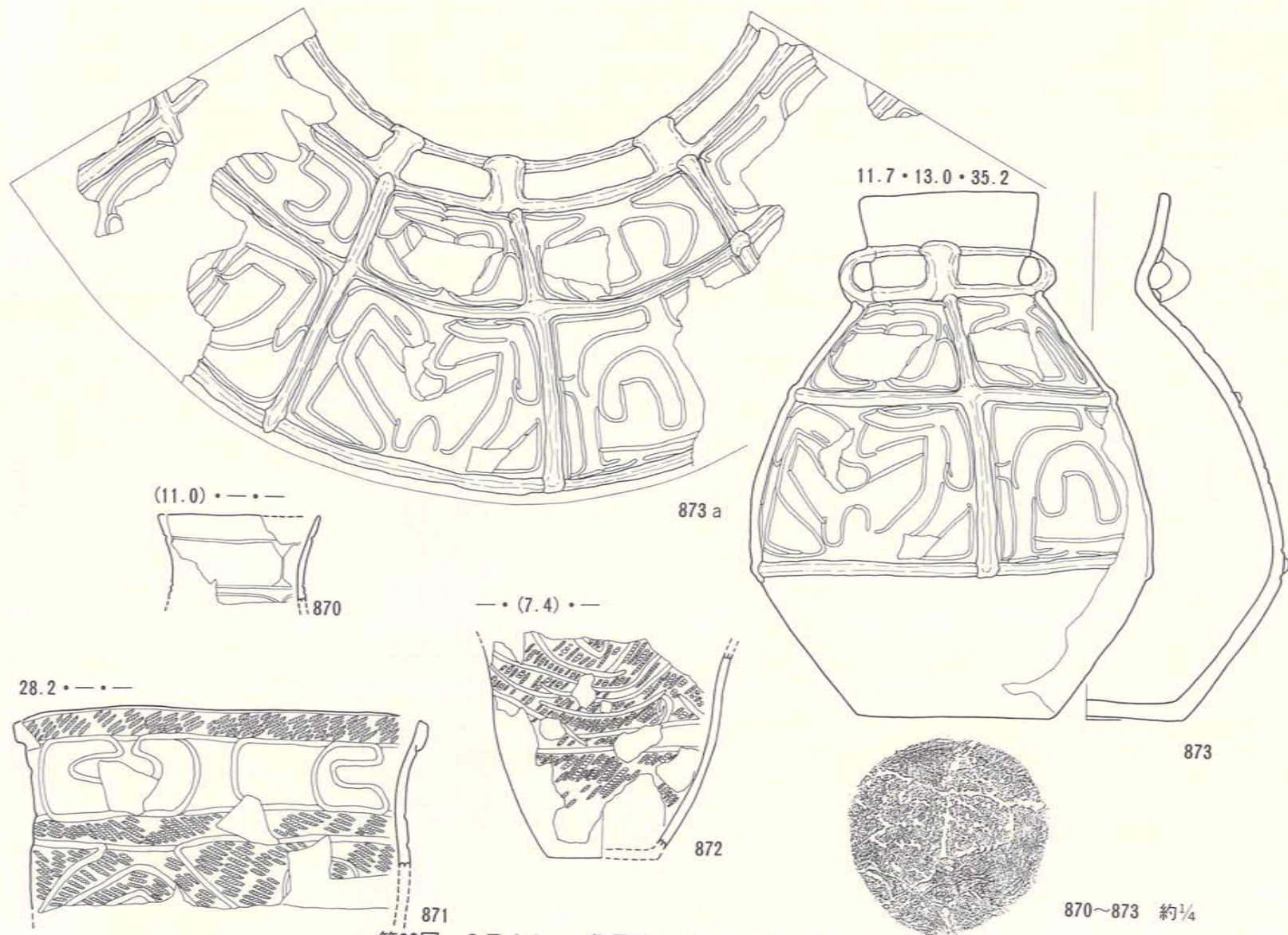


1. 黒色土 (7.5YR 2/1) やわらかく砂質性の浮石を包含する。
2. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) やわらかく砂質性の浮石と焼土粒を包含する。
3. 黒褐色土 (7.5YR 3/1) やわらかく砂質性の浮石と焼土粒を包含する。
4. 黒褐色土 (7.5YR 3/2) やわらかく炭化物和焼土粒を包含する。
5. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 汚れた八戸火山灰である。
6. 褐色土 (7.5YR 4/4) 汚れた八戸火山灰である。

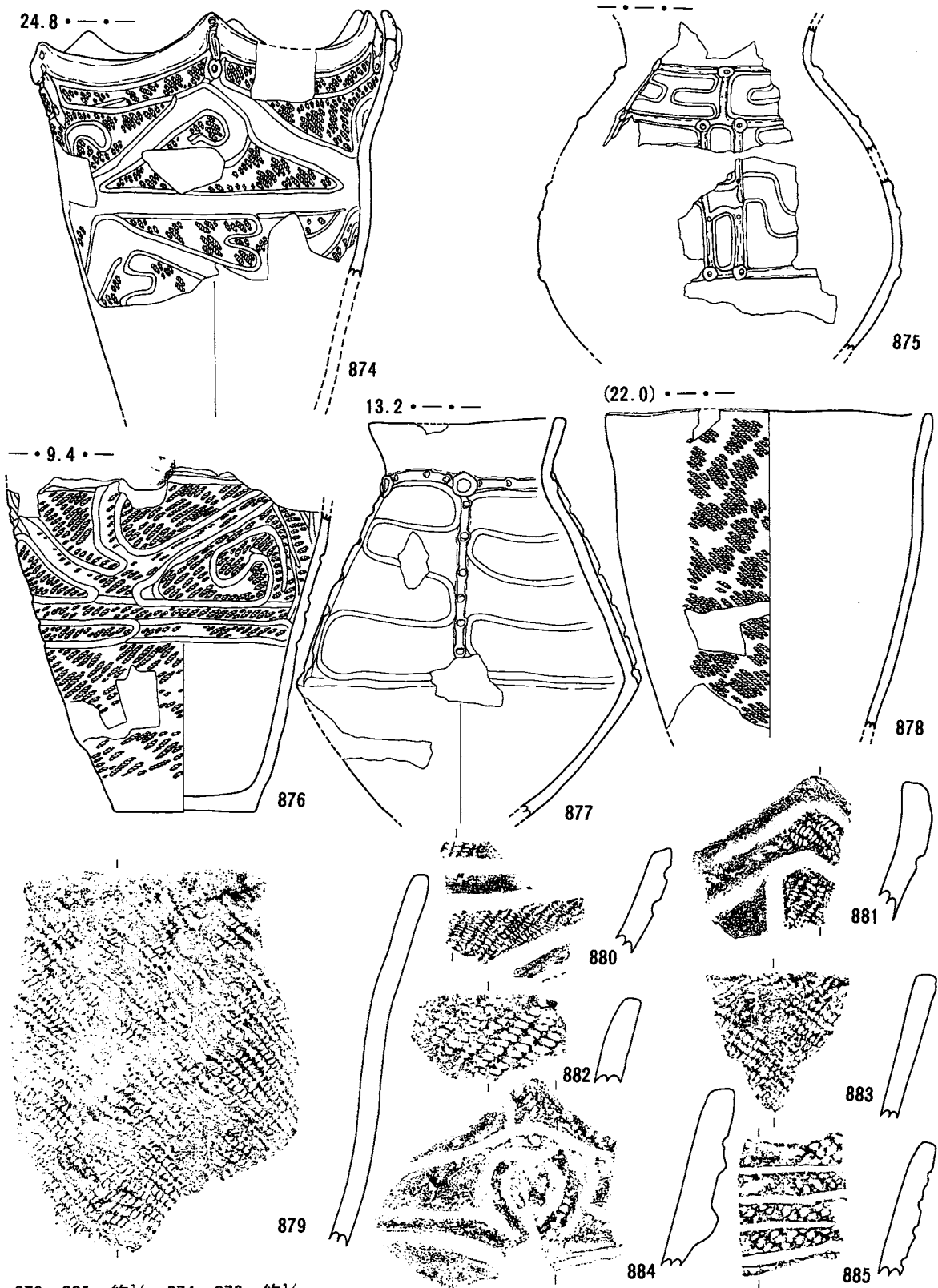


1. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) 炭化物・焼土粒を含む。
2. 赤褐色土 (2.5YR 4/8) 焼土で堅くしまる。

第81図 G II f 2-1・2 住居跡 (平・断面 S = 1/60, 炉断面 S = 1/30)

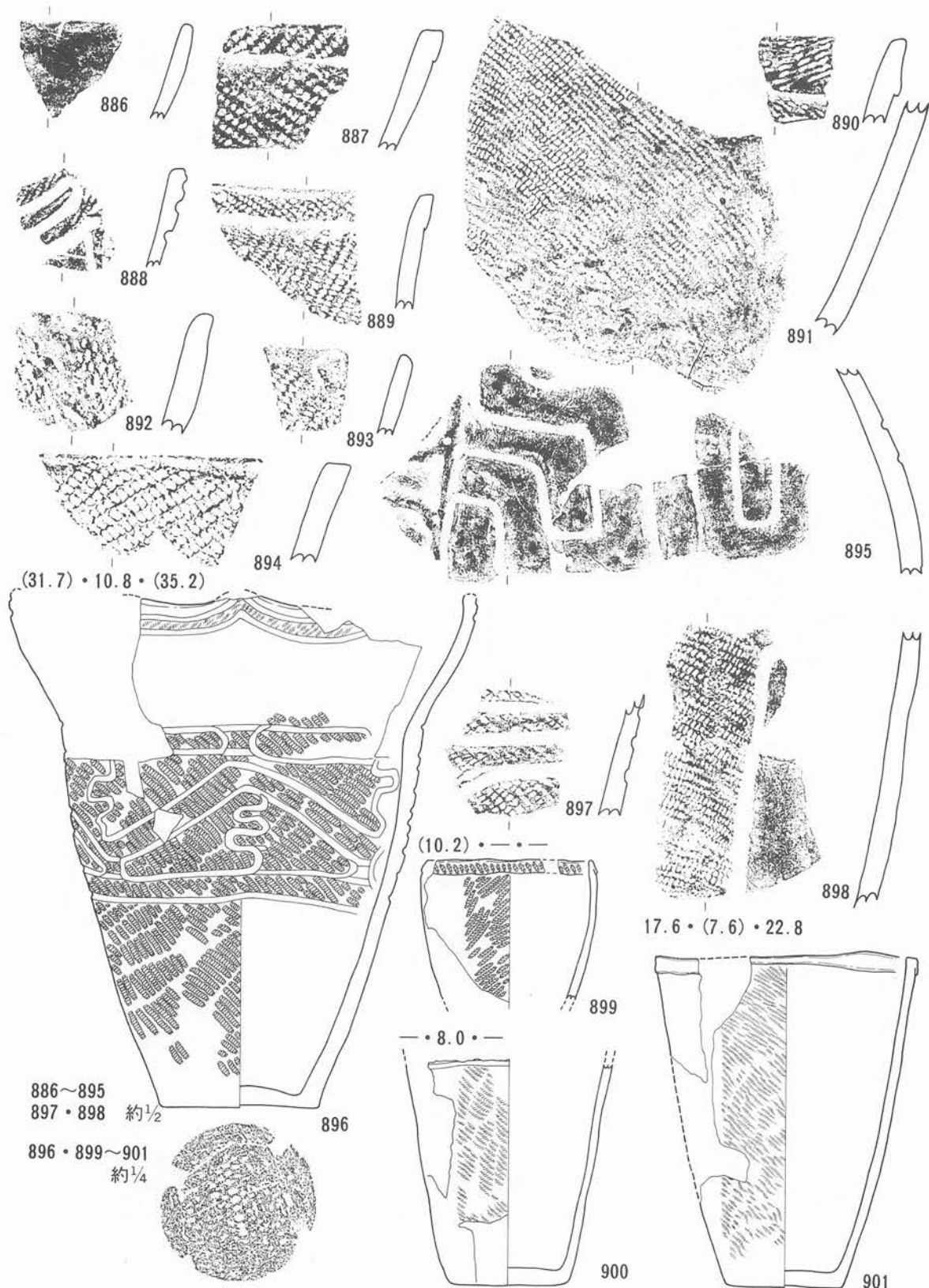


第82図 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号870~873)



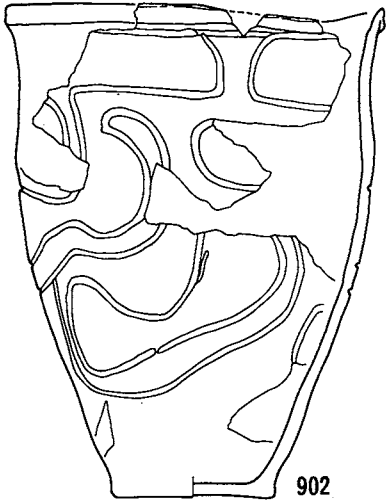
879~885 約 $\frac{1}{2}$  874~878 約 $\frac{1}{4}$

第83図 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号874~885)

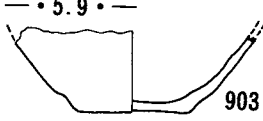


第84図 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号886~901)

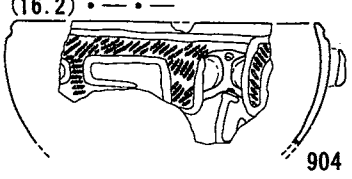
(20.2) · 8.7 · 26.4



· 5.9 ·



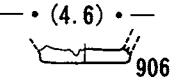
(16.2) · - - -



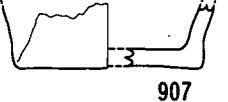
· (7.8) ·



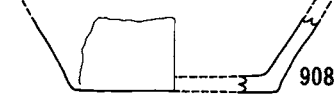
· (4.6) ·



· (9.8) ·



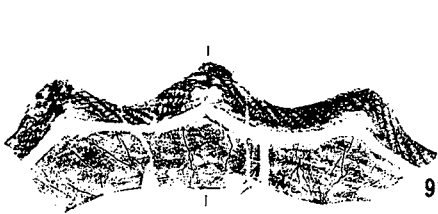
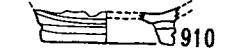
· (11.0) ·



· 5.0 ·



· (7.0) ·



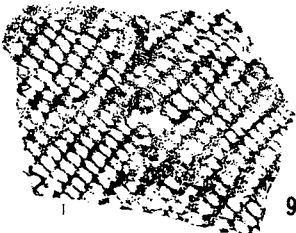
911



912



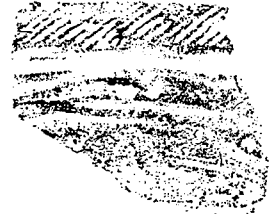
913



914



915



916



917



918



919



920



922



911~923 約½  
902~910 約¼

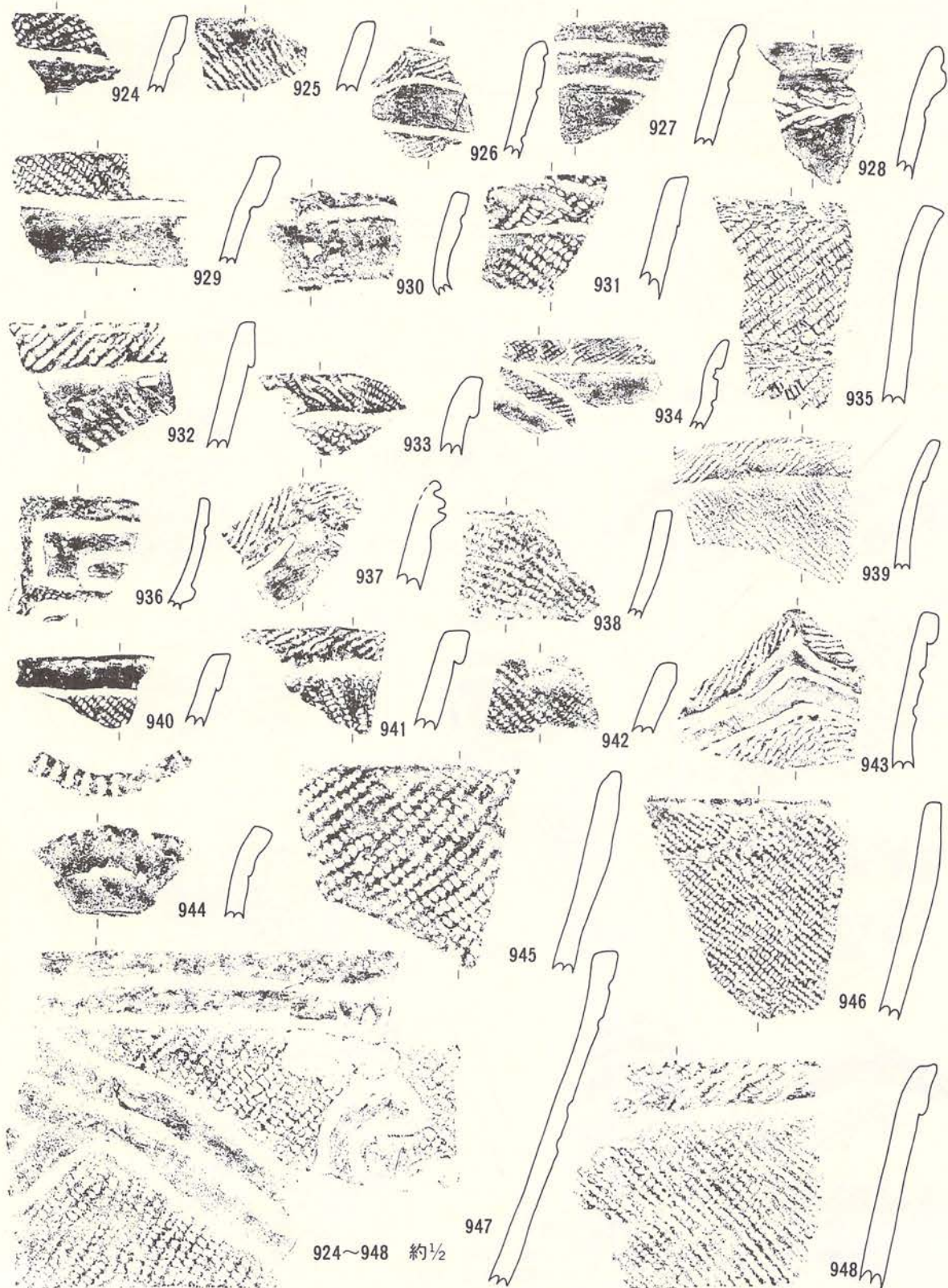


921



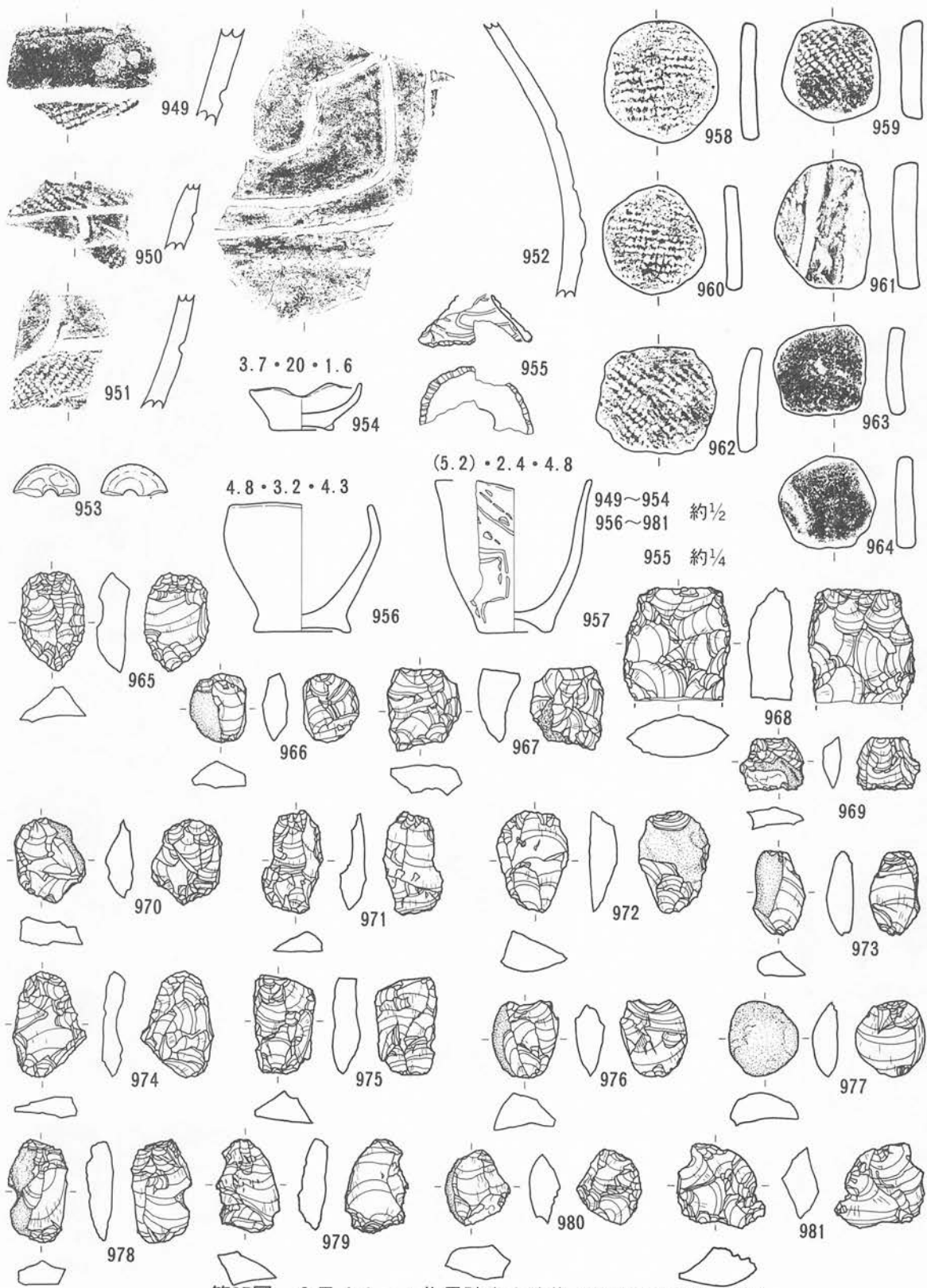
923

第85图 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号902~923)



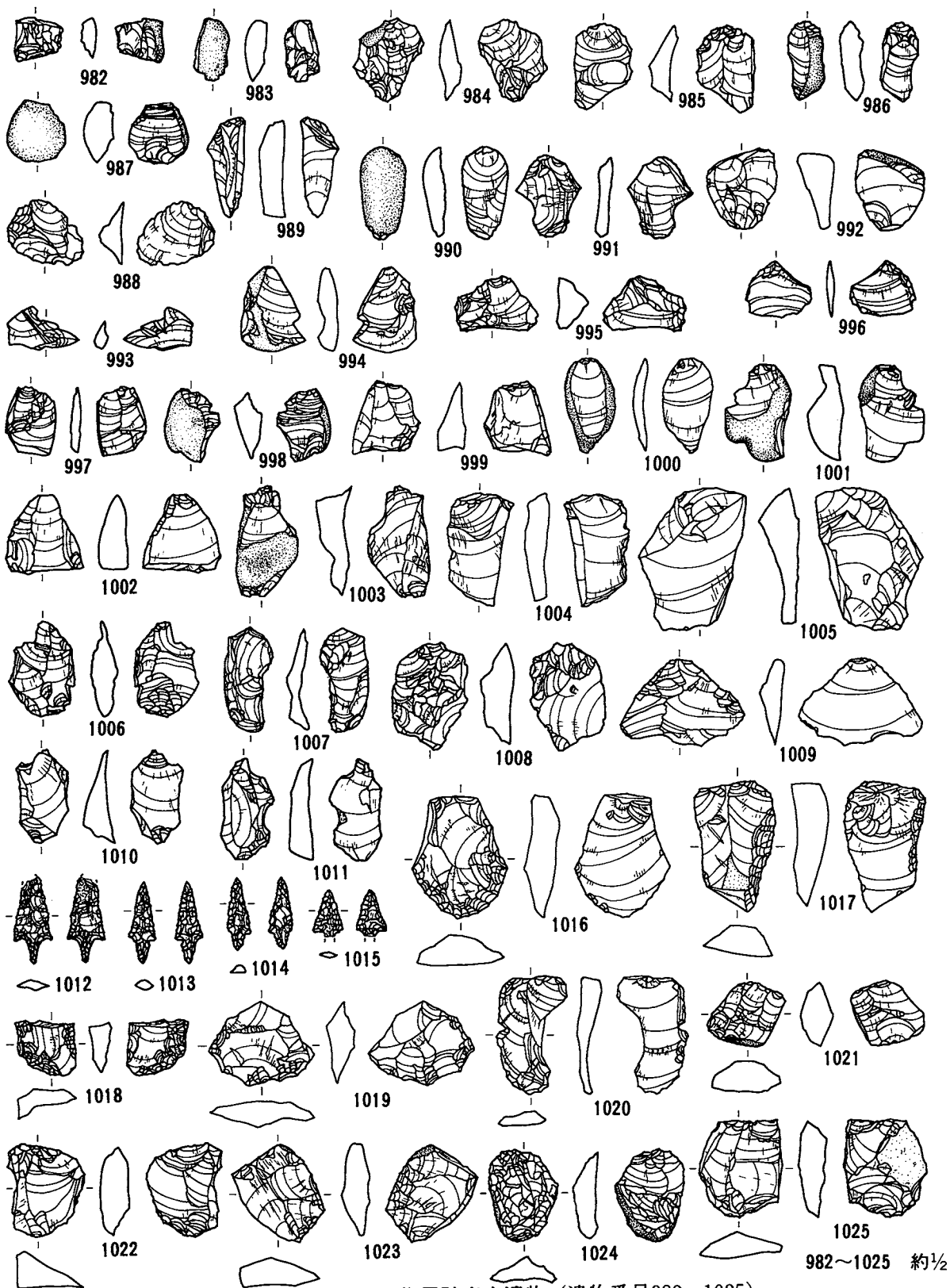
924~948 約 $\frac{1}{2}$

第86図 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号924~948)



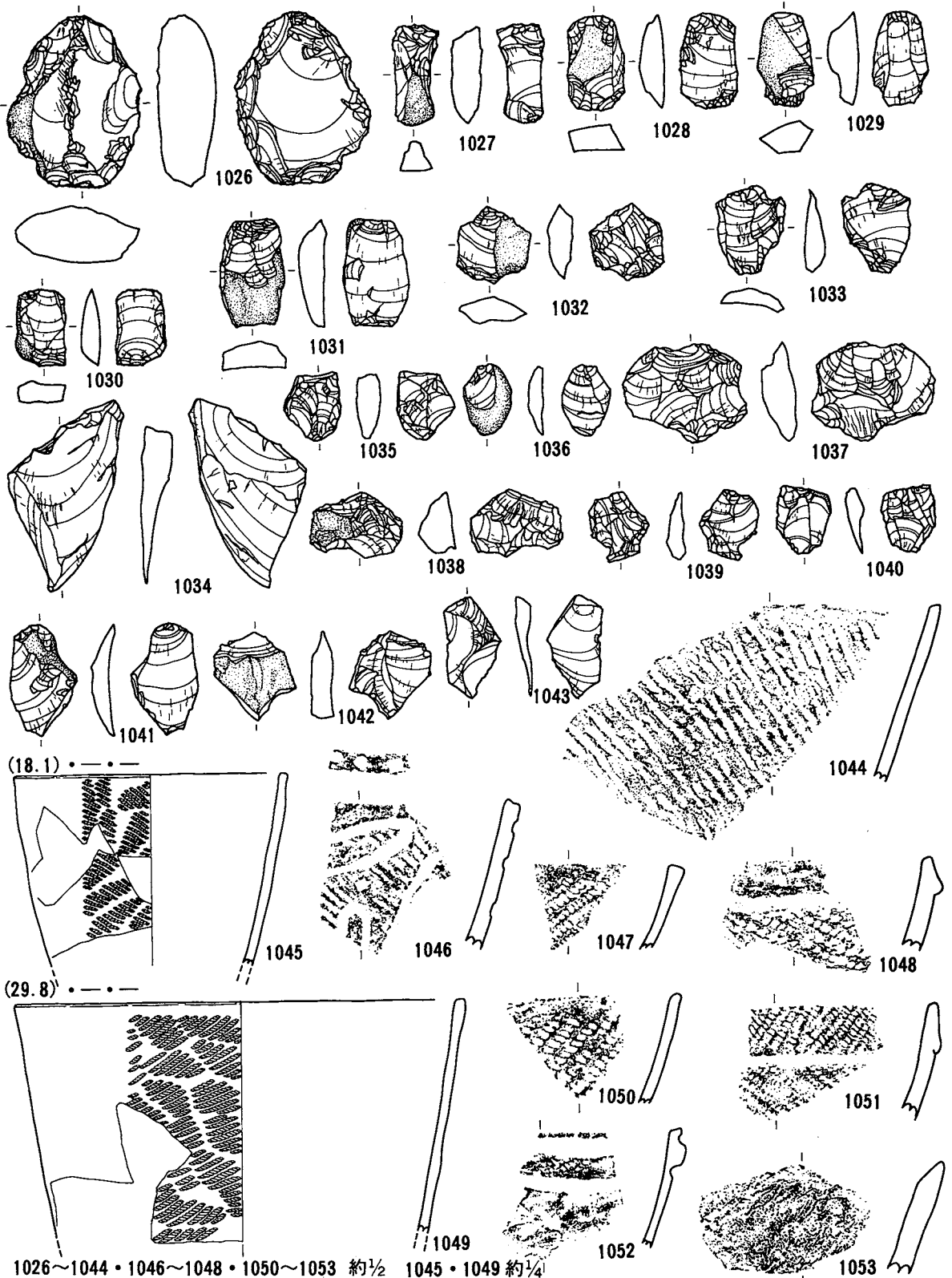
第87图 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号949~981)



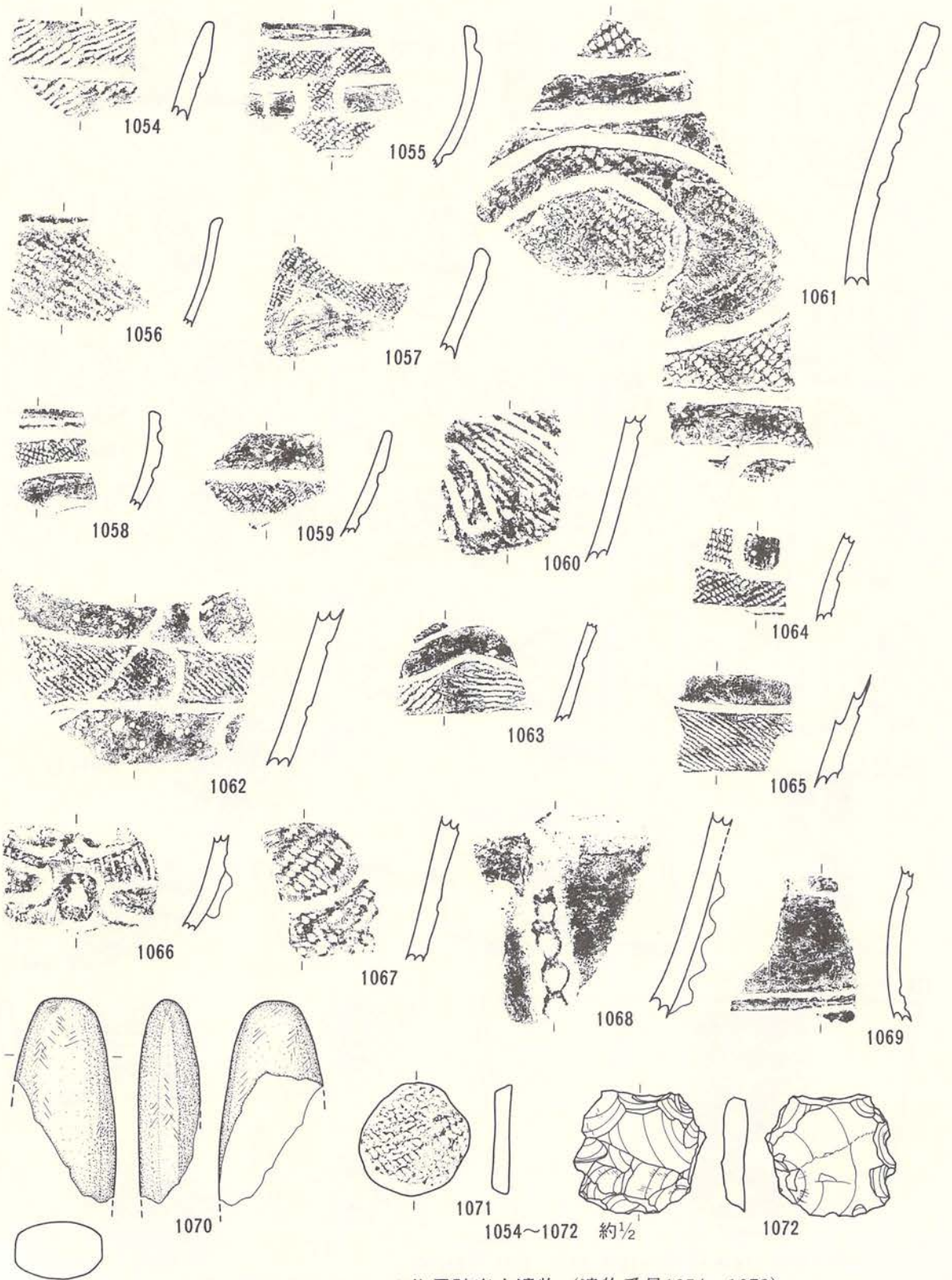


第88圖 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号982~1025)

982~1025 約 $\frac{1}{2}$



1026~1044 • 1046~1048 約 $\frac{1}{2}$  1045 • 1049 約 $\frac{1}{4}$   
 第89圖 G II f 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1026~1043)  
 G II f 2 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号1044~1053)



第90図 G II f 2 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号1054~1072)

## G II g 1 - 2 住居跡

### 遺構 (第92図、写真図版30)

この住居跡はG II g 1 - 1 住居跡の下位から検出されたもので、G II h 1 住居跡に東壁を切られているものである。検出されたのは北西壁のみである。

平面形は検出された壁のあり方から推定して円形を呈するものと思われる。規模については不明である。G II g 1 - 1 住居跡床面から当住居跡床相当面までの埋土は黒褐色土、褐色土、暗褐色土等で構成される。壁高は北西壁で24cmである。

炉、柱穴は検出されていない。

### 出土遺物 (第92～93図、写真図版121)

1084～1090の土器と1091の石器が出土している。これらのうち1084・1085・1088・1090・1091は床面から、その他は埋土から出土したものである。土器はいずれも尖底深鉢形土器である。1084・1085・1087～1090は体部破片で無文である。1086は口縁部破片で、口唇部に刺突を有し、口縁部には斜状の貝殻腹縁文が施文されている。

1091は石皿の破片である。

### 遺構の時期

床面の出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

## G II g 1 - 3 住居跡

### 遺構 (第94図、写真図版31)

この住居跡はG II g 1 - 2 住居跡の下位から検出されたもので、G II h 1 住居跡に東側の床面及び炉を切られているものである。

平面形は東西に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は開口部径2.7×3.3m前後のものとして推定される。埋土は黒褐色土、褐色土、暗褐色土で構成される。床面はG II g 1 - 2 住居跡床面から約13cmの段差をもって低くなる。

床面は斜面に沿って傾斜する。炉は地床炉で、中央部からやや南側に位置する。検出された約半分のあり方からみて、その規模は径40cmの円形を呈するものとして推定される。炉内は暗赤褐色に焼成を受け、暗褐色土が混じる。焼成最大層厚は約1cmである。

柱穴は検出されていない。

### 出土遺物 (第94図、写真図版121)

1092の棒状擦石が床面から出土している。

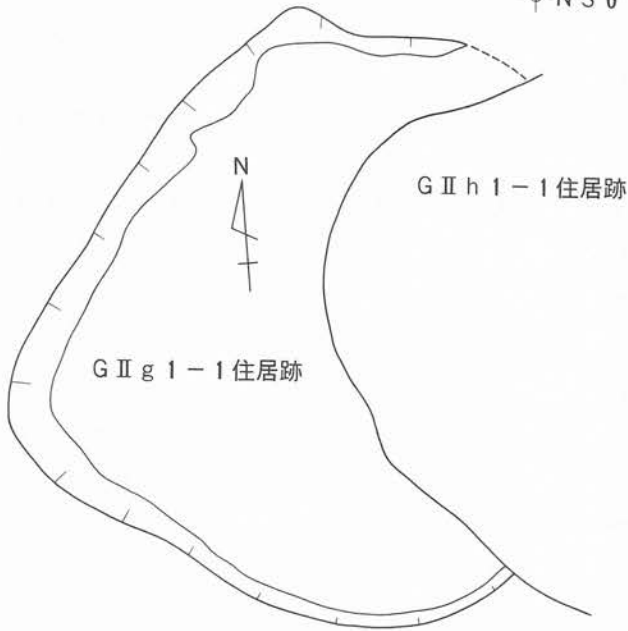
### 遺構の時期

G II g 1 - 2 住居跡との重複関係から、縄文時代早期に位置づけられる。

E 80  
NS 0

E 83  
NS 0

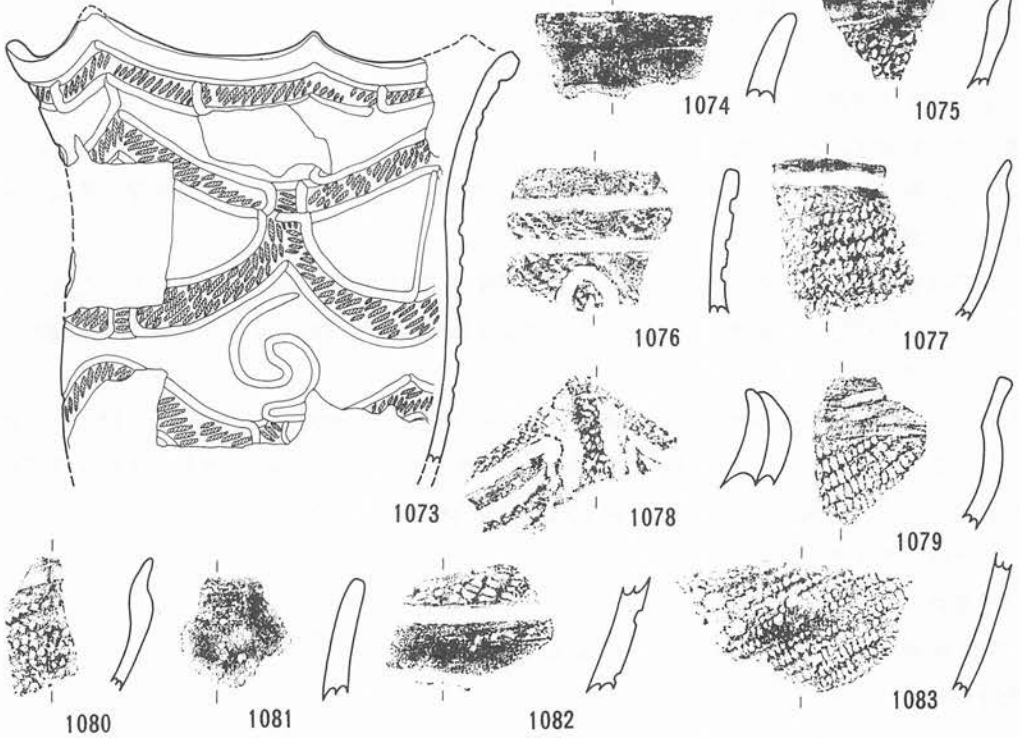
S 3  
E 80



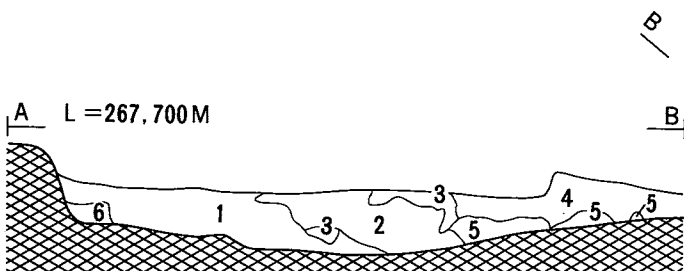
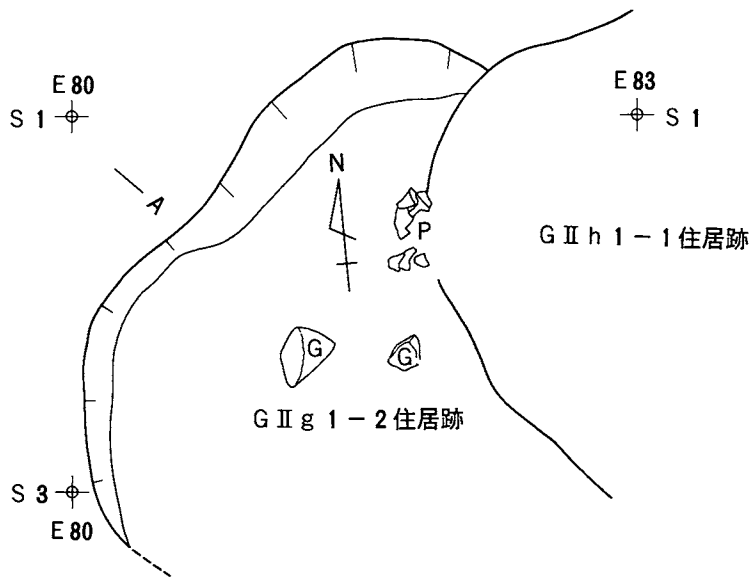
1074~1083 約 $\frac{1}{2}$

1073 約 $\frac{1}{4}$

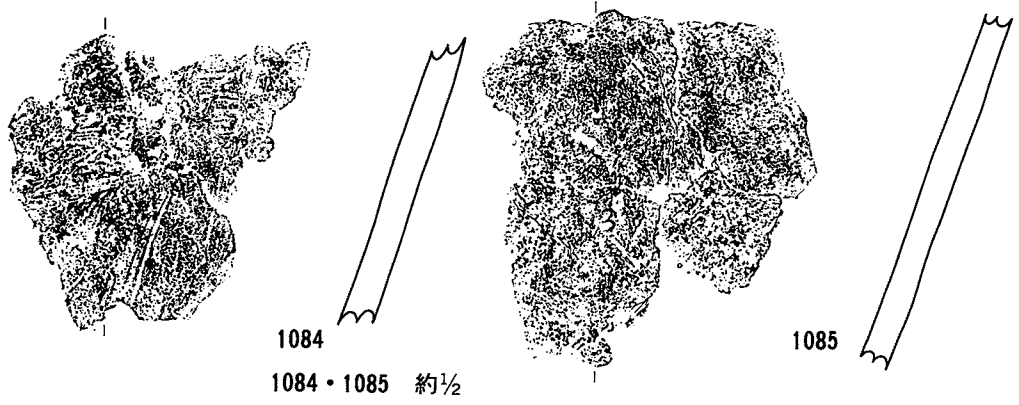
27.3 ●—●—



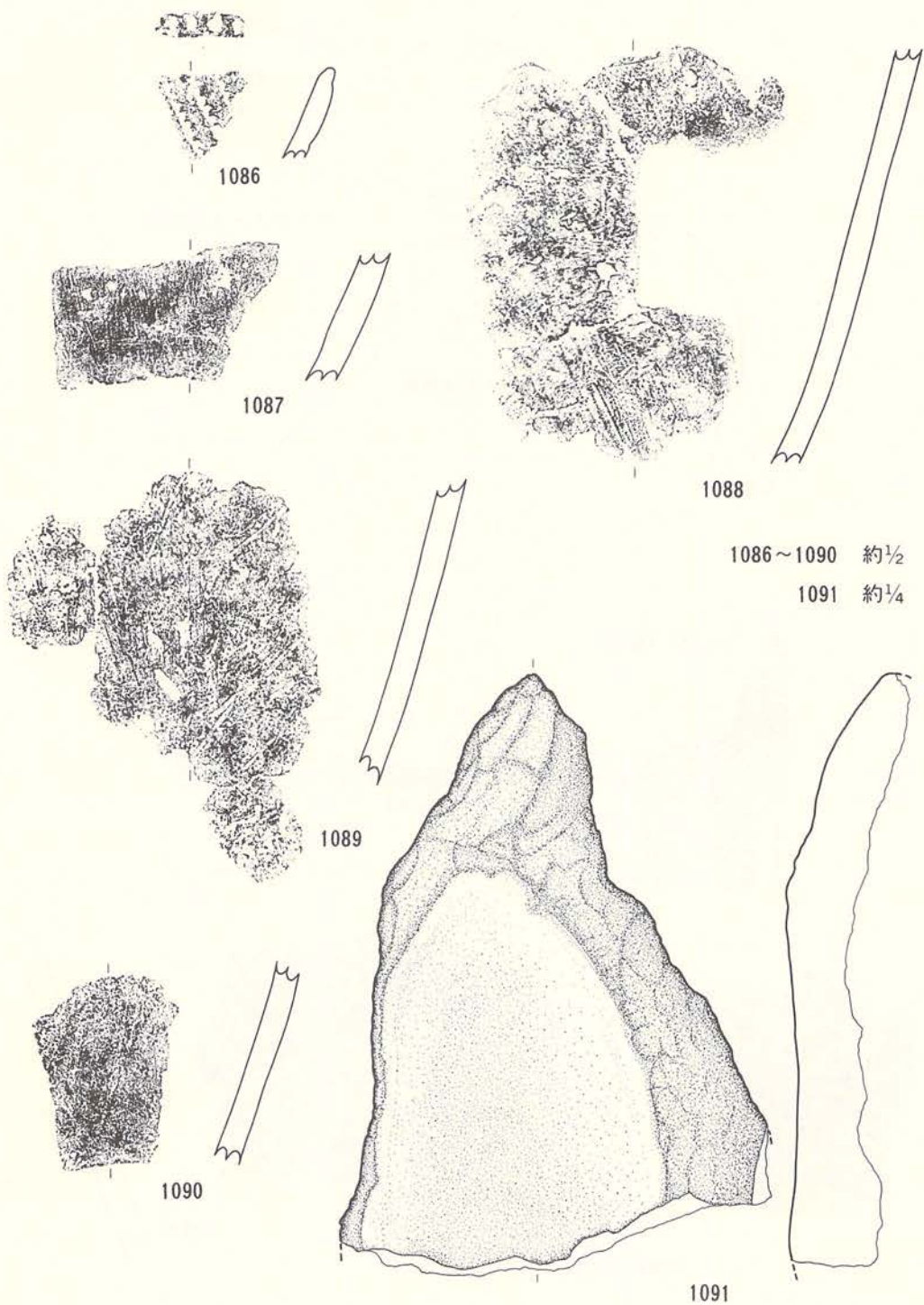
第91図 G II g 1 - 1 住居跡 (平面 S = 1/40)  
G II g 1 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1073~1083)



1. 黒褐色土 (7.5 YR 2/2) やわらかく南部浮石を包含する。
2. 褐色土 (7.5 YR 4/3)
3. 黒褐色土 (7.5 YR 3/1)
4. 暗褐色土 (7.5 YR 3/4) 八戸火山灰を包含する。
5. 褐色土 (7.5 YR 4/4) 暗褐色土をブロック状に包含する汚れた八戸火山灰。
6. 明褐色土 (7.5 YR 5/6) 八戸火山灰。



第92図 G II g 1-2 住居跡 (平・断面 S = 1/40)  
G II g 1-2 住居跡出土遺物 (遺物番号1084~1085)



第93図 G II g 1 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号1086~1091)

## G II g 3 住居跡

### 遺構 (第95図、写真図版32)

この住居跡は調査区東側尾根のほぼ中央部に位置し、G II g 3 陥し穴の上面に構築され、G II g 3 住居跡状遺構の東壁とG II i 2 住居跡の西壁を切って構築されているもので、南東壁は炭窯によって切られている。

平面形は円形を呈する。規模は東西の計測で開口部径5.5m、床面部径5.3mである。埋土は上位から中位が褐色土、暗褐色土、黒褐色土で、下位が黒褐色土、暗褐色土、褐色土で構成される。壁高は北壁で73cm、東壁で14cm、西壁で8cmである。

床面は凹凸が認められ、堅くしまっている。炉は石囲い炉で、ほぼ中央部に位置する。その規模は85×95cmで、大小の角礫を円形に埋置している。炉内部中央には土器が埋設されている。土器埋設際の焼成最大層厚は5cmである。

柱穴は炉と壁の間に5本検出されている。これらのうち支柱穴を構成するものにP<sub>1</sub>-P<sub>2</sub>-P<sub>3</sub>が考えられ、南東側の攪乱部分にも1本の柱穴が存在したものと推定される。

### 出土遺物 (第95～97図、写真図版121～123)

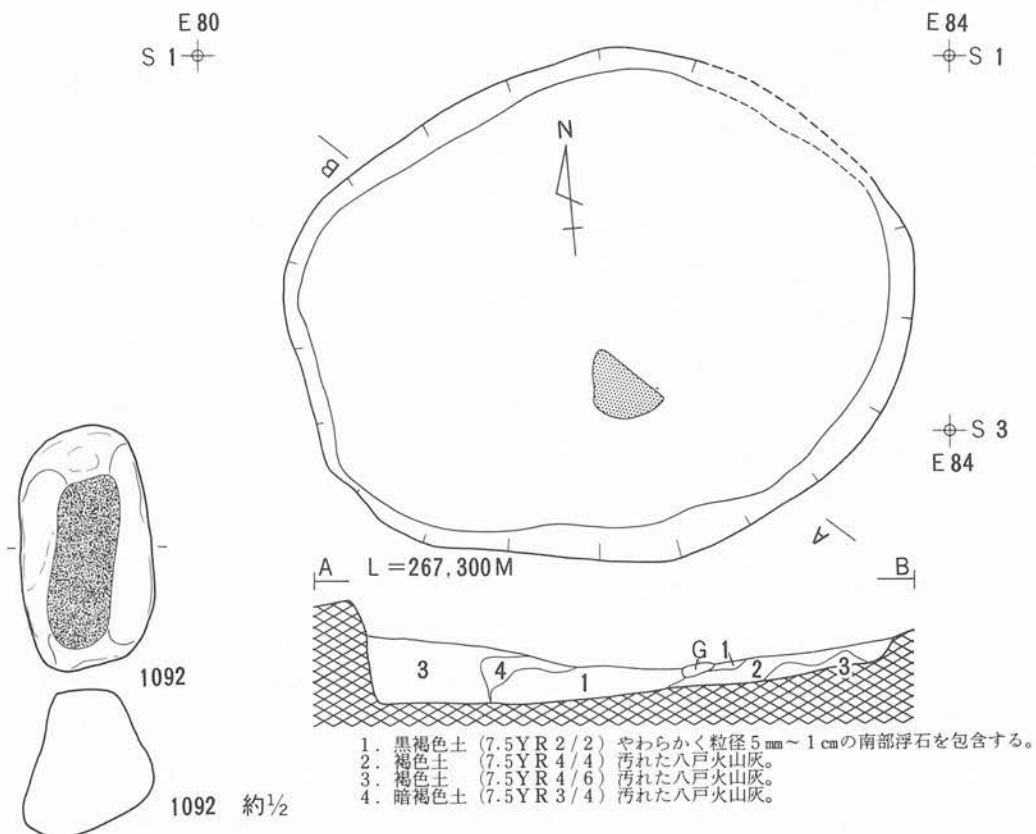
1093～1132の土器と1133・1134の土製品、1135～1137の石器が出土している。これらのうち1096は炉内に埋設されていた土器、その他は埋土から出土したものである。1096は深鉢形土器の底部で、単節斜縄文が施されている。1095・1099～1101は精製深鉢形土器の口縁部破片、1115～1118・1120～1125・1127～1131は体部破片で、長楕円状の沈線文や平行曲線文が施文されている。1132は蓋付土器で方形状の沈線文が施されている。1133・1134は土器破片を再利用した円盤状土製品である。

1135・1137は搔器で、1135には荒い剝離調整が、1137には両面の2縁辺部に剝離調整が認められるものである。1136は両端に太さの異なる錐部をもつ石錐である。

### 遺構の時期

遺構の切り合いから、弥生時代に位置づけられる。





第94図 G II g 1 - 3 住居跡 (平・断面 S = 1/40)  
 G II g 1 - 3 住居跡出土遺物 (遺物番号1092)

### G II g 5 住居跡

遺 構 (第98図、写真図版33~34)

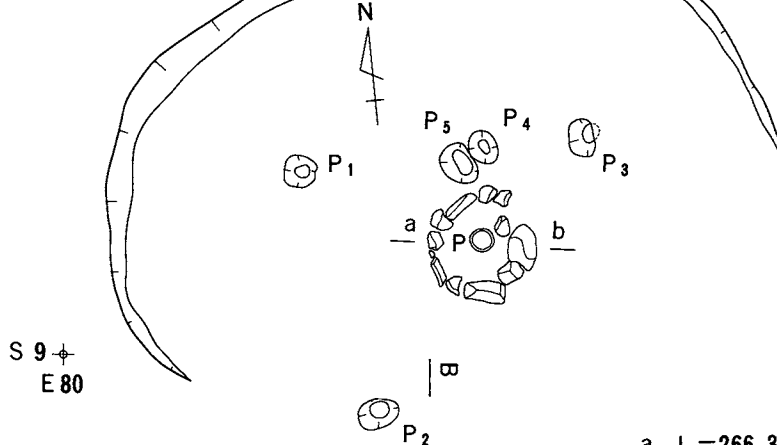
この住居跡は調査区東側尾根のやや下部に位置し、G II h 5 住居跡の南西側を切って構築されているが、南側をG II g 6 住居跡に切られているものである。

平面形は南北に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は開口部径5.3×5.5m前後と推定される。埋土は上位が黒褐色土、中位が黒色土、下位が黒褐色土で構成される。壁高は東壁で31cm、西壁で29cmであり、北壁際床面はG II h 5 住居跡床面より約42cmの段差をもって低くなる。

床面はほぼ平坦である。炉、柱穴は検出されていない。

E 80  
S 6

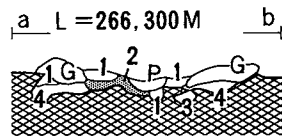
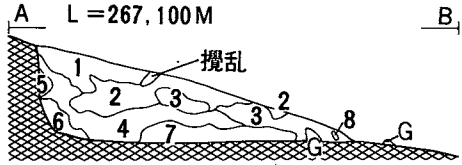
E 86  
S 6



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	25×25	68
P <sub>2</sub>	23×33	64
P <sub>3</sub>	20×30	52
P <sub>4</sub>	22×28	27
P <sub>5</sub>	24×35	13

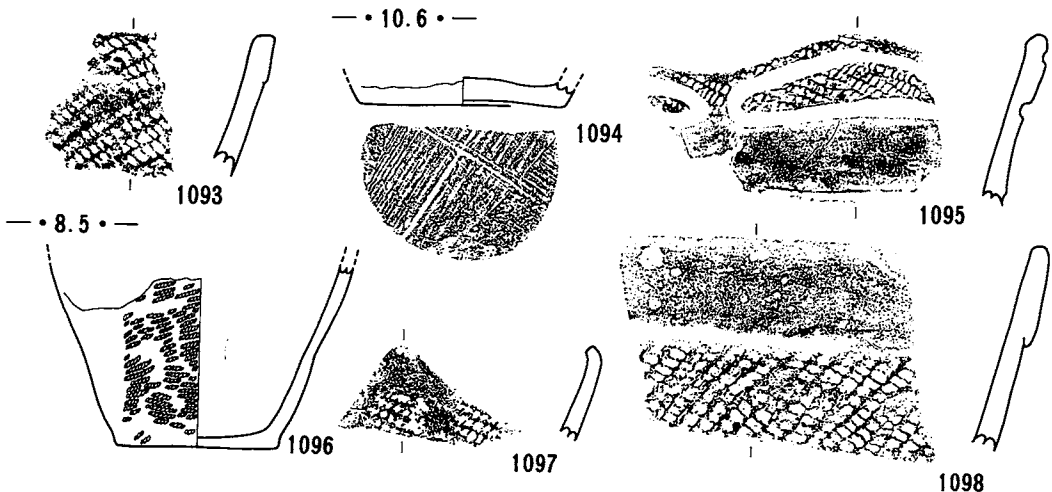
S 9  
E 80

S 9  
E 86



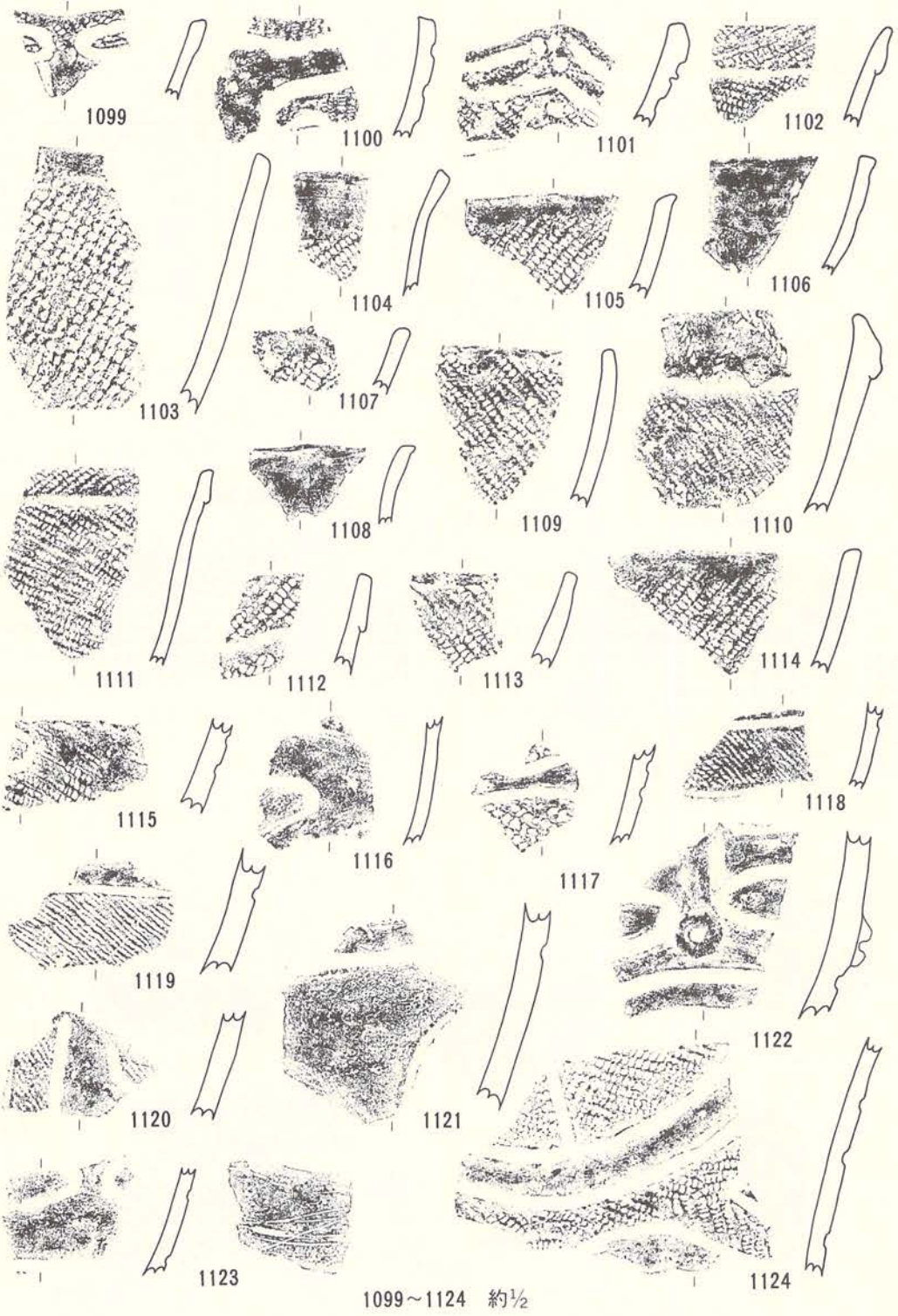
1. 褐色土 (10YR 4/4) 1~2mmのバミスを含む。
2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 1~2mmのバミスを含む。炭化物を含む。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) 1~2mmのバミスを含む。炭化物を含む。
4. 黒褐色土 (10YR 3/2) 1~2mmのバミスを含む。
5. 褐色土 (10YR 4/4)。
6. 褐色土 (10YR 4/6)。
7. 暗褐色土 (10YR 3/3) 1~2mmと3~5mmのバミスを含む。
8. 明赤褐色土 (2.5YR 5/8) 汚れた焼土。

1. 黒褐色土 (7.5YR 3/1) 炭化物及び焼土が混じる。
  2. 明赤褐色土 (2.5YR 5/8) 焼土、やわらかく上位に炭化物を含む。
  3. 赤褐色土 (2.5YR 4/6) 炭化物混じりの焼土。
  4. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 構成礫抜きとり痕と考えられる。
- 炉は二時期あるいは構成変えの可能性大である。

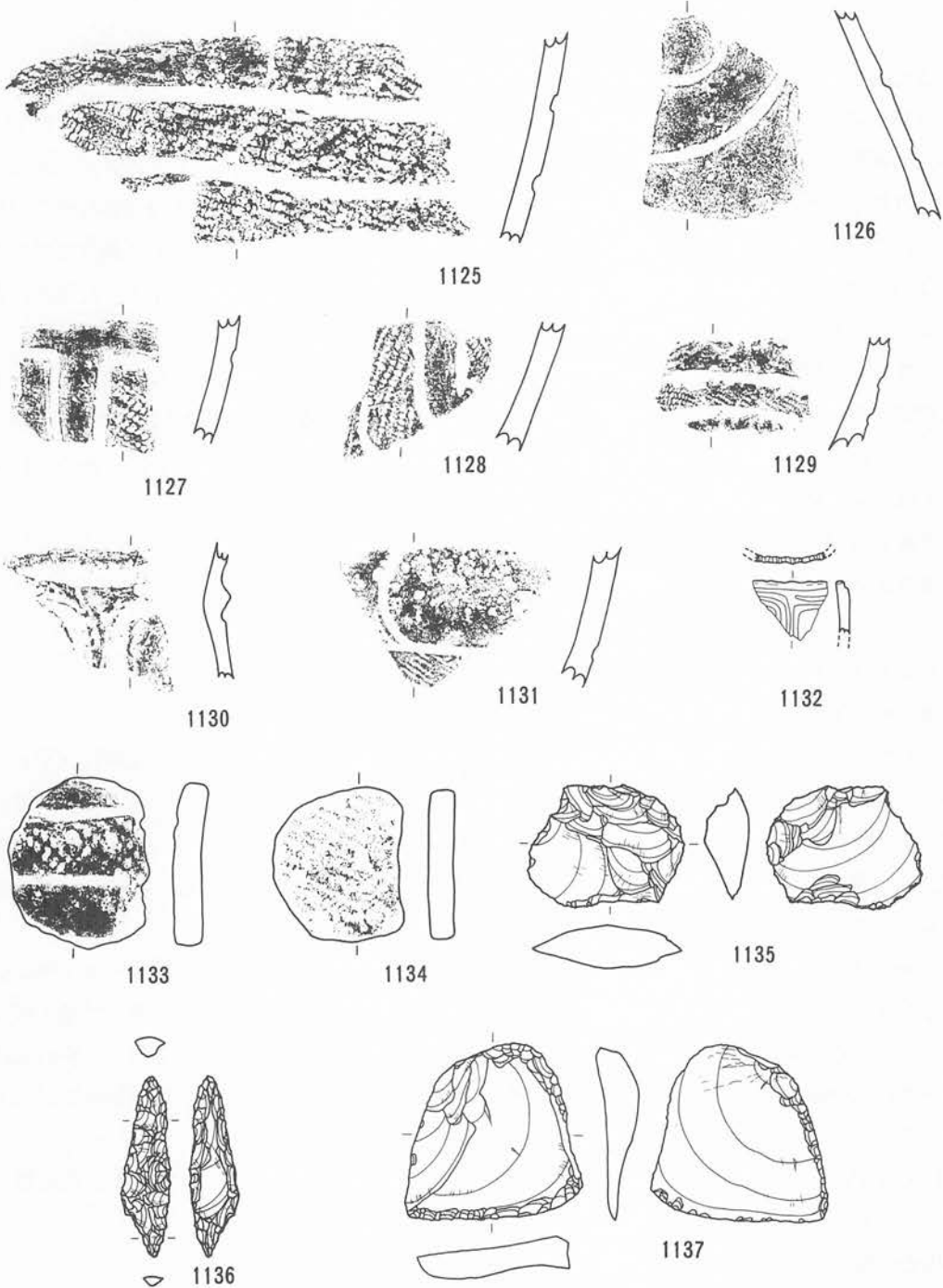


1093・1095・1097・1098 約 $\frac{1}{2}$  1094・1096 約 $\frac{1}{4}$

第95図 G II g 3 住居跡 (平・断面 S = 1/60, 炉断面 S = 1/30)  
G II g 3 住居跡出土遺物 (遺物番号1093~1098)



第96図 G II g 3 住居跡出土遺物 (遺物番号1099~1124)



1125~1131・1133~1137 約 $\frac{1}{2}$

1132 約 $\frac{1}{4}$

第97図 G II g 3 住居跡出土遺物 (遺物番号1125~1137)

#### 出土遺物（第99～100図、写真図版123～125）

1138～1158の土器と1159～1168の石器が出土している。これらのうち1138・1139・1159・1160は床面から、その他は埋土から出土したものである。土器はいずれも尖底深鉢形土器である。1143は山形口縁を呈し、口唇部に刻目を有するもので、口縁部下に斜状の貝殻腹縁文が施文されている。1140・1141・1144・1146は口縁部破片で、1140・1141・1144には刺突文主体の文様が、1146には斜状の貝殻腹縁文が施文されている。1138・1153は体部破片で、1138には条痕文が、1153には横状から斜状の貝殻腹縁文が施文されている。

石器のうち1161は長方形状を呈する石筥である。1162は三角状の打製石斧で、両面に荒い剝離調整が認められる。1163は一部が欠損した搔器で片面に剝離調整が施されている。1159・1160・1164～1166は剥片石器である。1167は1稜辺部に敲打痕の認められる石器である。1168は1稜辺部に擦痕と両面に凹みの認められるものである。

#### 遺構の時期

床面からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

### G II g 6 住居跡

#### 遺 構（第98図、写真図版33・35）

この住居跡はG II g 5 住居跡の南側を切って構築されているものである。平面形は北東から南西に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は開口部径4.4×5.2m、床面部径4.1×4.9mである。埋土は上位が黒色土、中位が暗褐色土、下位が黒色土から黒褐色土で構成される。壁高は東壁で21cm、西壁で34cm、南壁で14cmであり、北壁際床面はG II g 5 住居跡床面から約11cmの段差をもって低くなる。

床面はほぼ平坦である。炉は地床炉で、中央部からやや南西寄りに1基、南寄りに1基の計2基が検出されている。前者の規模は40×83cmの不整形を呈し、炉内部は暗赤褐色に堅く焼成を受けている。焼成最大層厚は17cmに及ぶ。後者の規模は径37cmのほぼ円形を呈し、炉内部は暗赤褐色に焼成を受けているが、前者ほど堅くしまっているものではない。焼成最大層厚は5cmである。

柱穴はP<sub>1</sub>～P<sub>6</sub>の6本検出されている。このうちP<sub>1</sub>は深さが浅いこと、G II g 5 住居跡のプラン内にあることから、G II g 5 住居跡の柱穴の可能性がある。

#### 出土遺物（第100～104図、写真図版125～128）

1169～1222の土器と1223～1245の石器が出土している。これらのうち1228～1231が床面から1169～1179が床面から2～4cm浮いて、その他は埋土から出土したものである。1175・1216は刺突文に区画されて横位羽状の貝殻腹縁文が施文されている。1180は山形口縁を呈し、口縁部

下に刺突文に区画されて縦状から斜状の貝殻腹縁文が施文されている。1181・1187・1195・1207・1208・1210～1212・1217・1218・1220には貝殻腹縁押し引き文が、1185・1186・1213には条痕文が施文されている。1214は深鉢形土器の体部破片で羽状縄文が施文されているもので第Ⅱ群土器に属するものである。1222はミニチュア土器で無文である。

石器のうち1226・1234・1235～1238は搔器、1226は石錐、1227・1232・1233は縦型石匙、1223・1224・1239・1242は剥片石器である。1228～1231・1245は1稜辺部に、1243・1244は3稜辺部に擦痕の認められる棒状擦石である。

#### 遺構の時期

埋土からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

### GⅡg9住居跡

#### 遺構（第105図、写真図版36）

この住居跡は調査区東側尾根の下部に位置する。平面形はほぼ方形を呈する。規模は開口部辺2.9×3.1m、床面部辺2.6×2.9mである。埋土は上位から中位が黒褐色土、暗褐色土、黒色土で、下位が暗褐色土、褐色土で構成される。壁高は北壁で27cm、東壁で37cm、南壁で23cm、西壁で19cmである。

床面はほぼ平坦である。南西隅には開口部径95×100cmのピットが検出されている。このピットの埋土は上位から中位が黒色土、褐色土、暗褐色土で、下位が褐色土で構成され、断面形は丸底形を呈するものである。炉は地床炉で、中央部からやや北側に位置する。その規模は径30×35cmの円形を呈する。炉内部はわずかに焼成を受けているものの黒褐色土が混じり、純然たる焼成層厚を形成しているものではない。

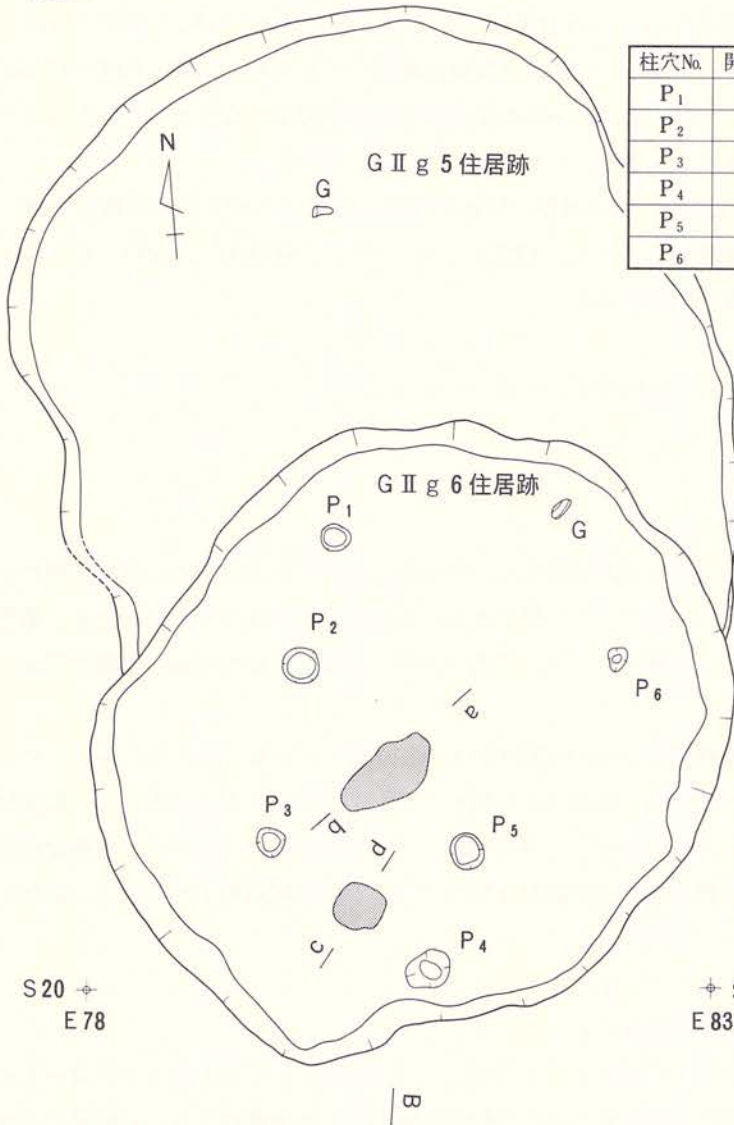
柱穴は南壁寄りに4本検出されている。

#### 出土遺物（第106～108図、写真図版128～130）

1246～1287の土器と1288～1296の石器が出土している。これらはいずれも埋土から出土したものである。1246は山形口縁を呈するもので、文様は口縁部と体部を異にする。口縁部には縦横の隆帯を巡らせ、刺突文主体の文様が施文される。体部には貝殻腹縁押し引き文主体の文様が施文されているが、部分的に貝殻腹縁文、連続波状文や条痕文の部分も認められる。1248・1251・1253・1266・1275・1278・1280には貝殻腹縁押し引き文が、1247・1263には刺突文主体の文様が、1254・1260・1265には貝殻腹縁文主体の文様が、1257・1283には条痕文が施文されている。

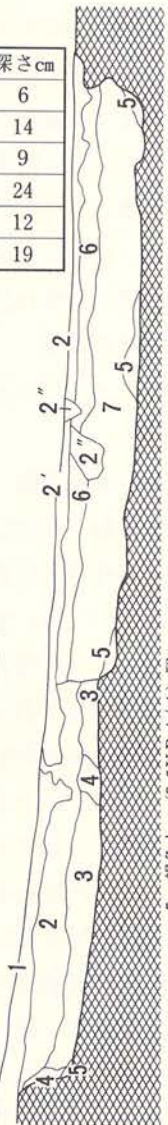
石器のうち1288～1290は1稜辺部に擦痕の認められる棒状擦石で、1289の端部と稜縁には敲打痕が認められる。1291と1295は石筥、1292は無茎石鏃、1296は搔器で一部欠損している。

E 78  
S 12



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	22×23	6
P <sub>2</sub>	28×28	14
P <sub>3</sub>	21×24	9
P <sub>4</sub>	28×38	24
P <sub>5</sub>	25×28	12
P <sub>6</sub>	15×19	19

1. 黒褐色土 (7.5YR 3/1) 堅い。
2. 黒色土 (7.5YR 2/1) 堅い。
2. 黒色土 (10YR 2/1) シルト質。
3. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) 堅い。
4. 褐色土 (7.5YR 4/3) 堅い。



5. 褐色土 (7.5YR 4/4) 堅い。
6. 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 中礫浮石、南部浮石を若干含む。
7. 黒色土～黒褐色土 (7.5YR 2/1～2/2) 炭化物と南部浮石を含む。

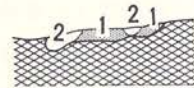
a L=264,300M



1. 極暗褐色土 (7.5YR 2/3) 炭化物を含む。  
下位に焼土を含む。
2. 暗赤褐色土 (2.5YR 3/4) 焼土で堅くしまる。

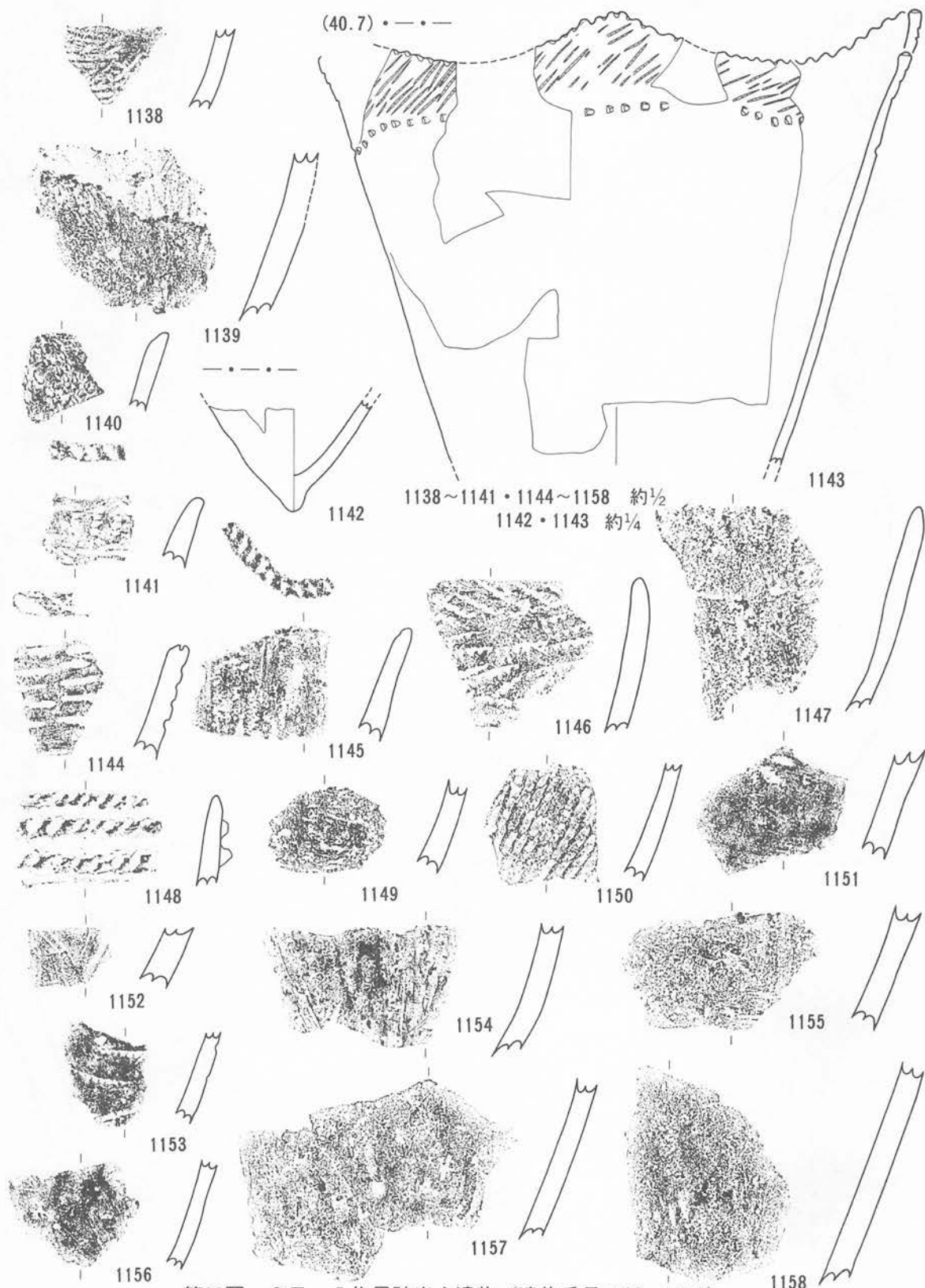
L=264,300M

c d



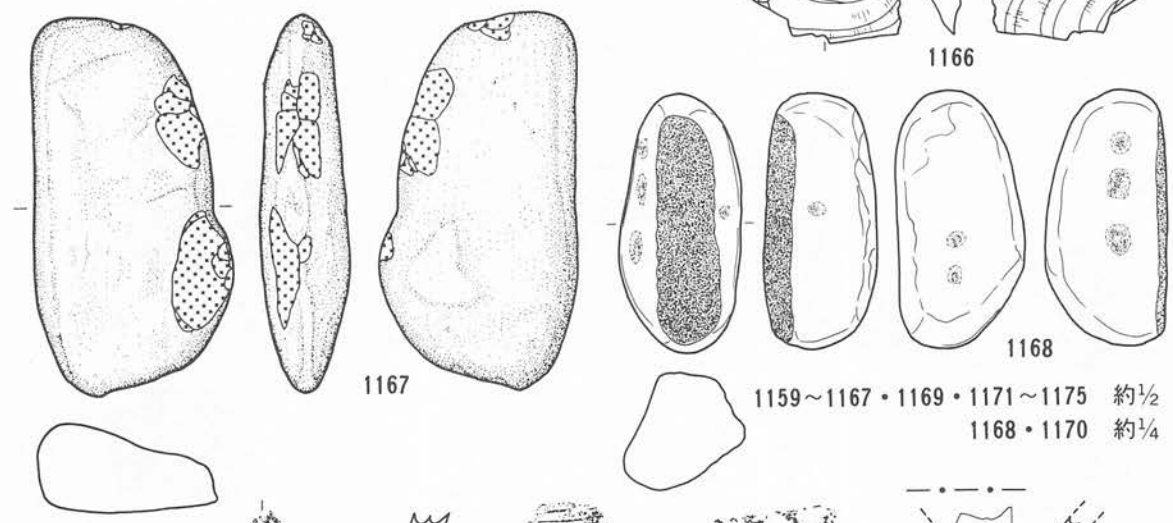
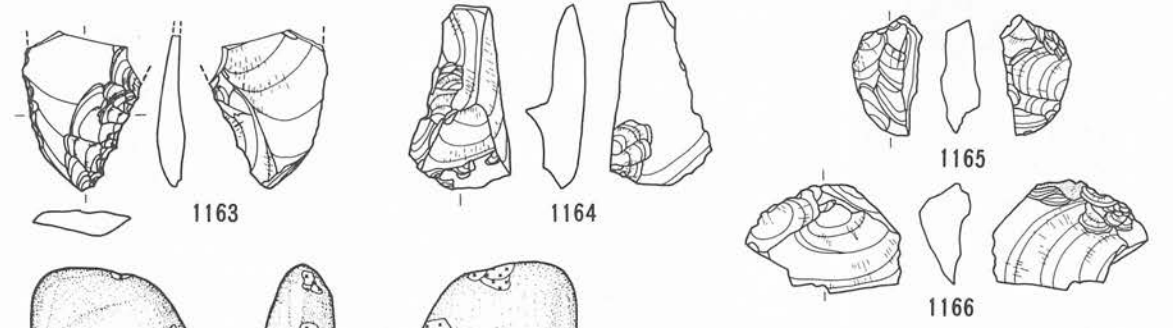
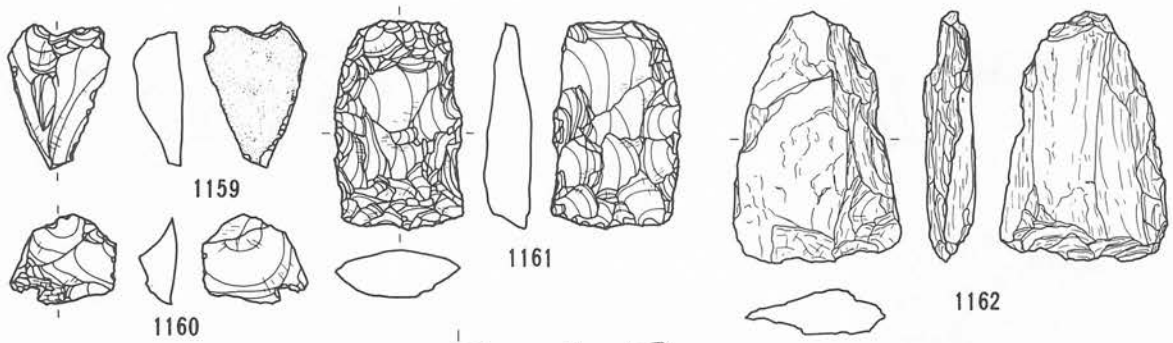
1. 暗赤褐色土 (2.5YR 3/4) 焼土。
2. 極暗褐色土 (7.5YR 2/3) 焼土。  
炭化物を含む。

第98図 G II g 5・G II g 6住居跡 (平・断面S = 1/60, 炉断面S = 1/30)

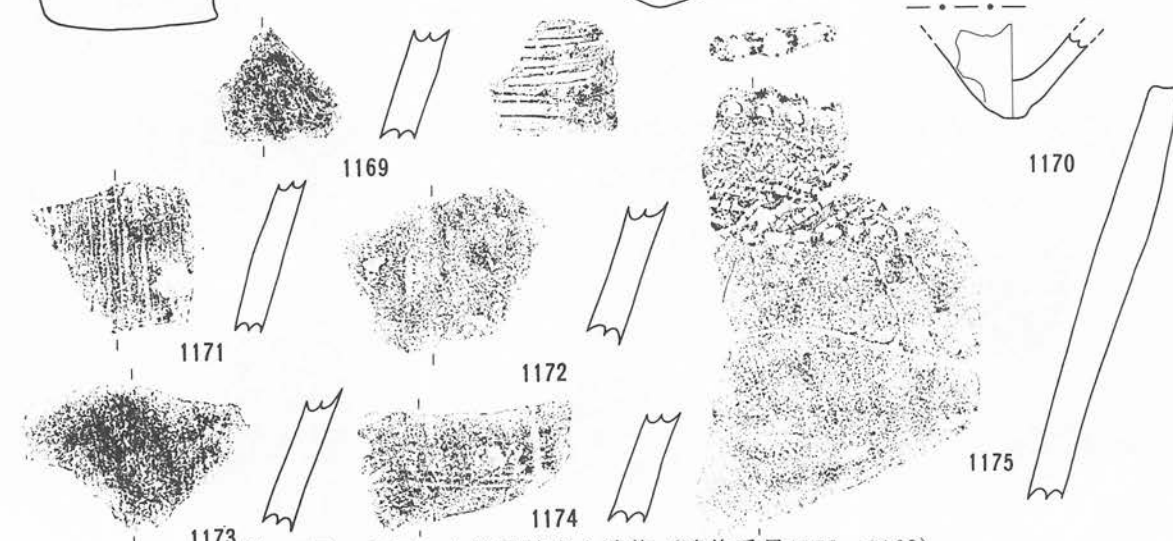


第99図 G II g 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1138~1158)

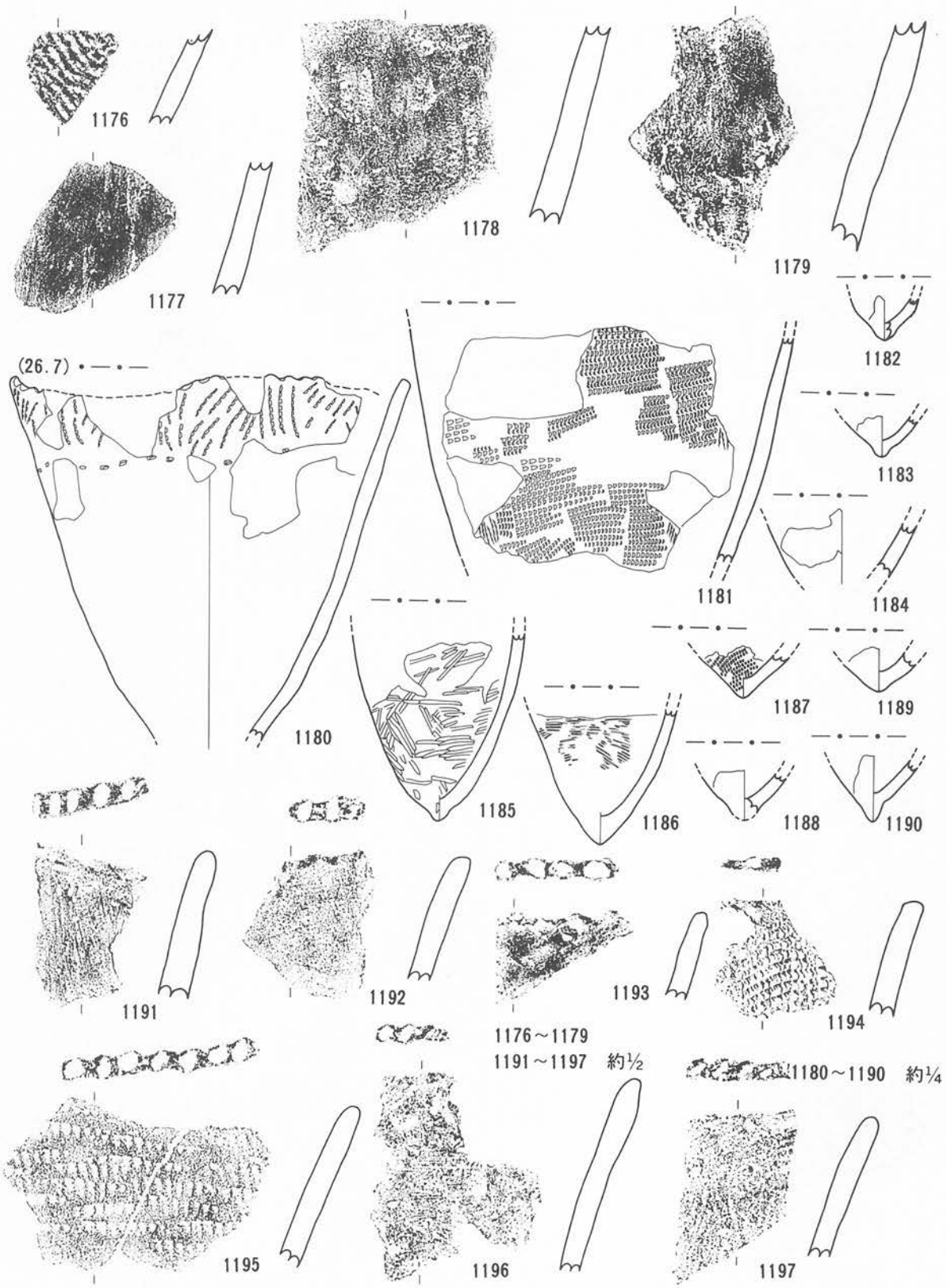




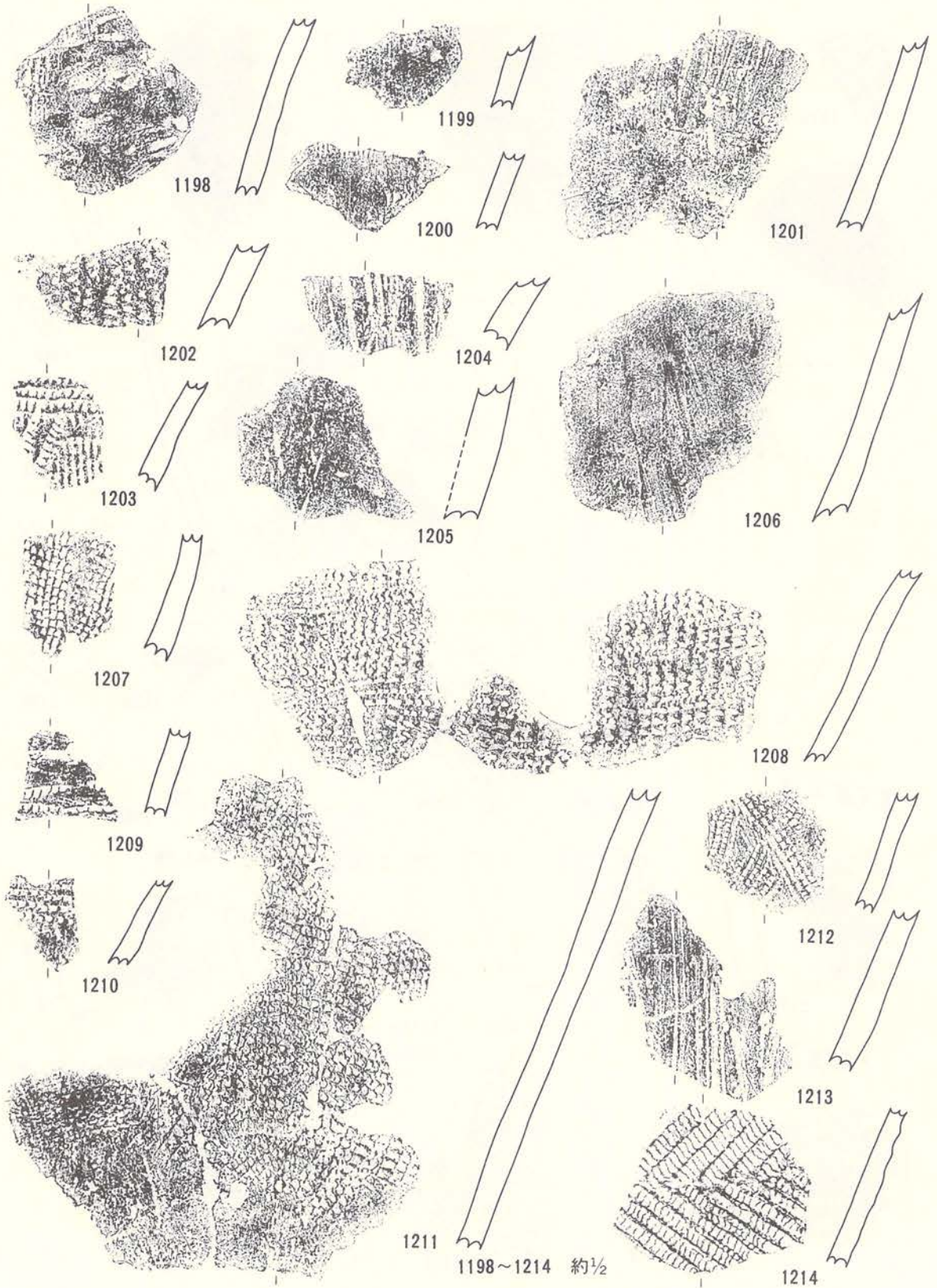
1159~1167・1169・1171~1175 約 $\frac{1}{2}$   
 1168・1170 約 $\frac{1}{4}$



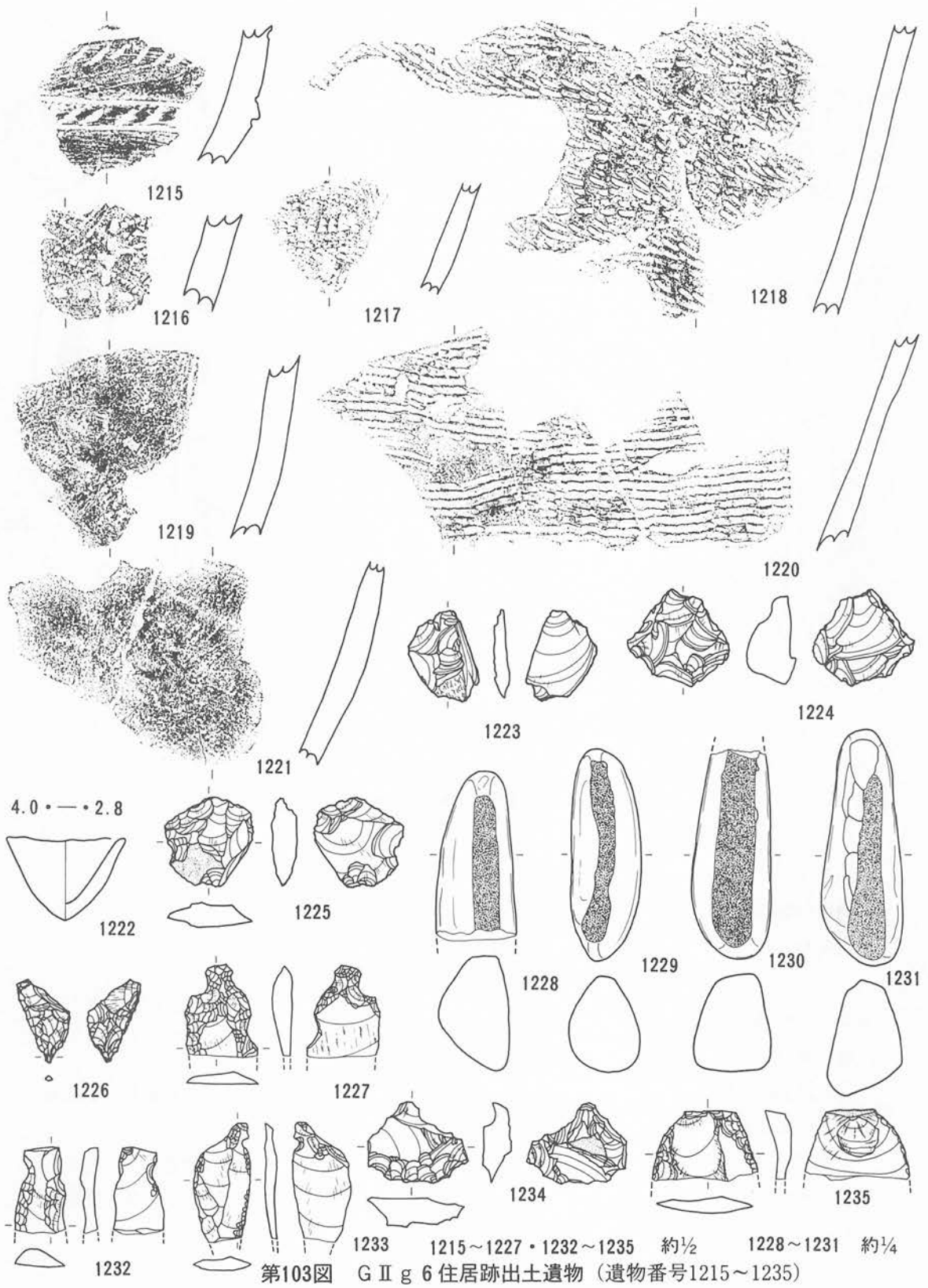
第100図 G II g 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1159~1168)  
 G II g 6 住居跡出土遺物 (遺物番号1169~1175)

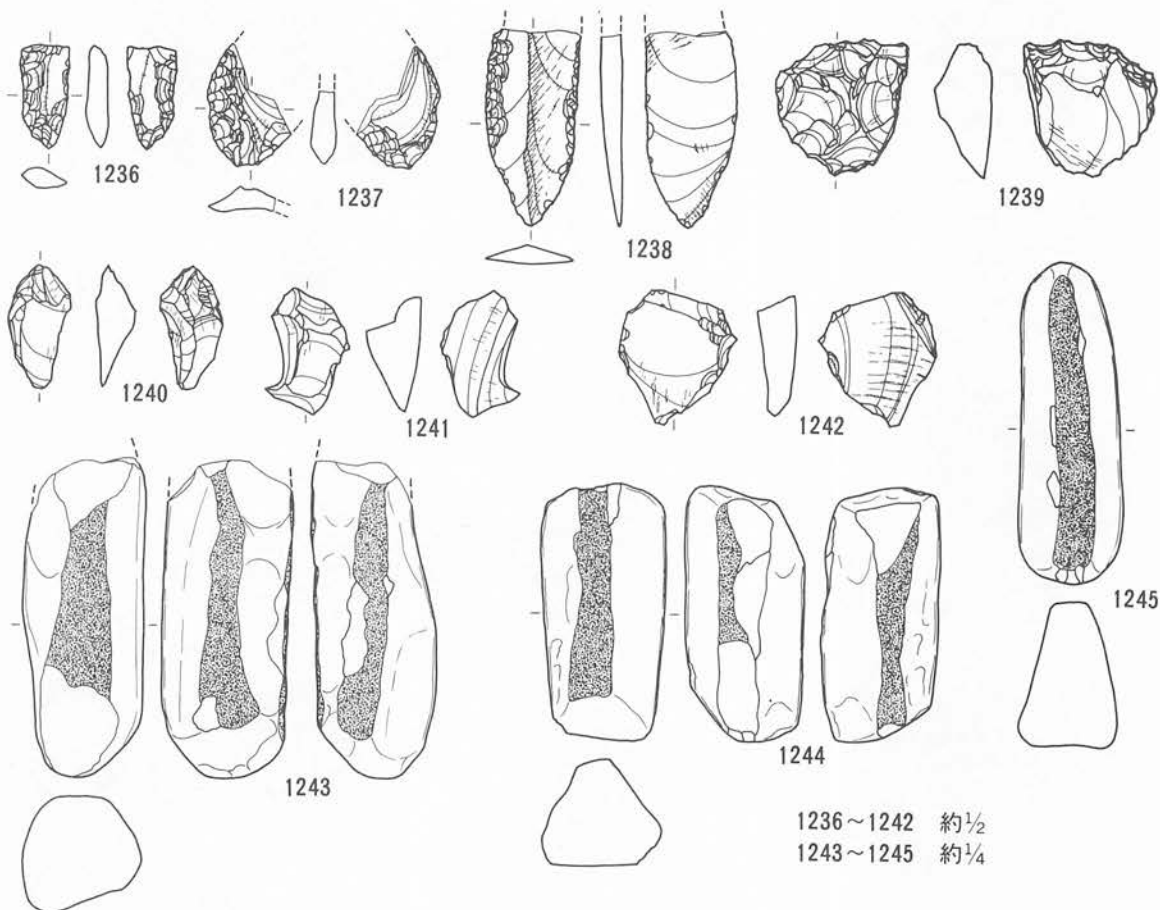


第101図 G II g 6 住居跡出土遺物 (遺物番号1176~1197)



第102図 G II g 6 住居跡出土遺物 (遺物番号1198~1214)





第104図 G II g 6 住居跡出土遺物（遺物番号1236~1245）

1293・1294は剥片石器である。

遺構の時期

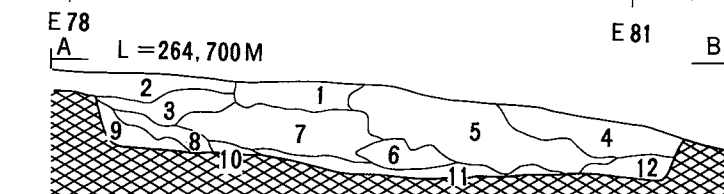
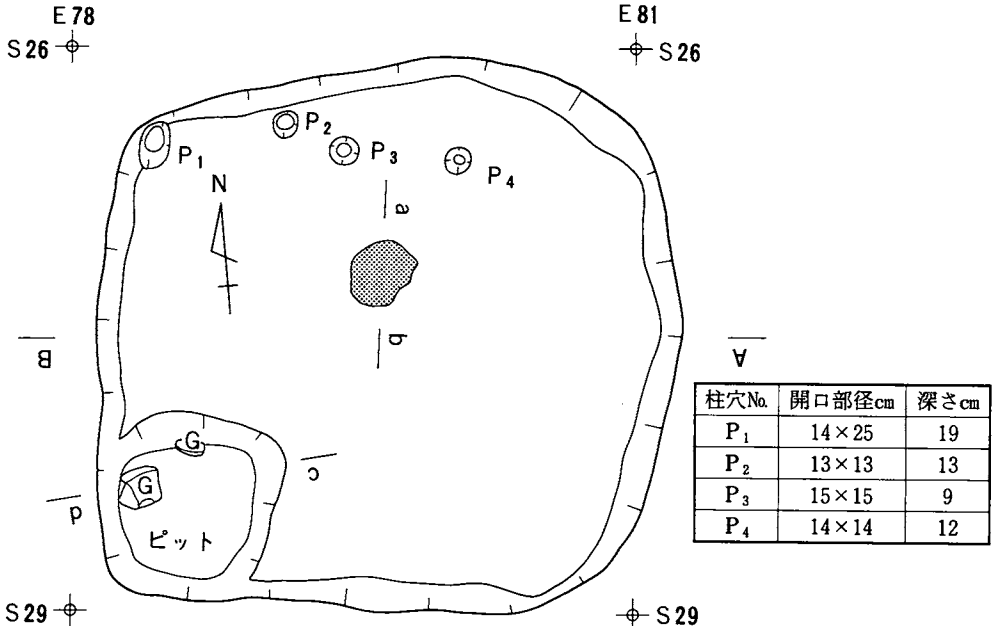
埋土からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

G II h 1 住居跡

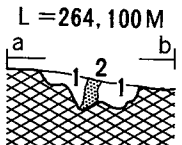
遺 構（第109図、写真図版37）

この住居跡は調査区東側尾根のやや上部に位置し、G II g 1-1 住居跡、G II g 1-2 住居跡及びG II g 1-3 住居跡を切って構築しているものである。

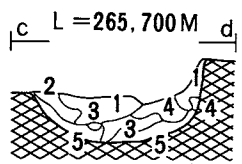
平面形は不整形を呈する。規模は開口部径3.1×3.4m、床面部径2.7×3.1mである。埋土は黒色土と黒褐色土中心の構成となるが、中位から上位は農業用道路修築によってかなり攪乱さ



1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 粒径1~3mmのバミスを含む。
2. 黒褐色土 (10YR 2/3) 粒径1~3mmのバミスを含む。
3. 暗褐色土 (10YR 3/3) 粒径1~3mmのバミスを含む。
4. 黒色土 (10YR 2/1) 粒径1~3mmのバミスを含む。
5. 黒褐色土 (10YR 2/2) 粒径1~3mmのバミスを含む。
6. 黒色土 (10YR 2/1) 褐色土をブロック状に含む。
7. 黒色土 (10YR 2/1) 粒径1~3cmのバミスを含む。
8. 暗褐色土 (10YR 3/4) 粒径1~3cmのバミスを含む。
9. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れた火山灰。
10. 黄褐色土 (10YR 5/8) 八戸火山灰。
11. 褐色土 (10YR 4/4) 汚れた八戸火山灰。
12. 褐色土 (10YR 4/6) 粒径1~3mmのバミスを含む。



1. にぶい黄褐色土 (10YR 6/4) と黒褐色土 (10YR 2/2) との混土、炭化物と焼土を含む。
2. 明黄褐色土 (10YR 6/6) 焼土を含む。

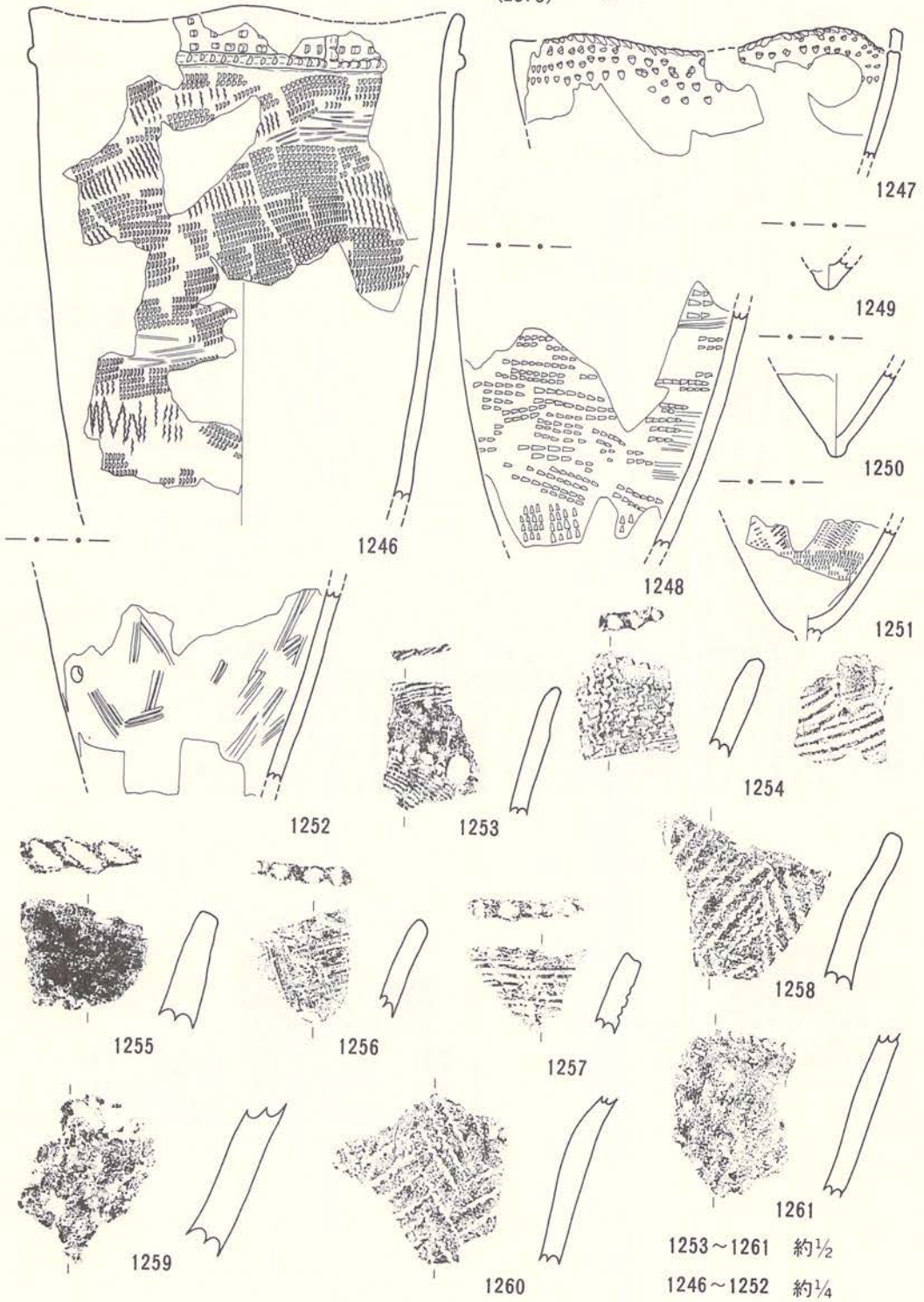


1. 黒褐色土 (10YR 3/2) 粒径1~3cmのバミスを含む。
2. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れた八戸火山灰。
3. 褐色土 (10YR 4/6) 黄褐色土をブロック状に含む。
4. 暗褐色土 (10YR 3/4) 粒径1~3cmのバミスを含む。
5. 黄褐色土 (10YR 5/6) 汚れた八戸火山灰。

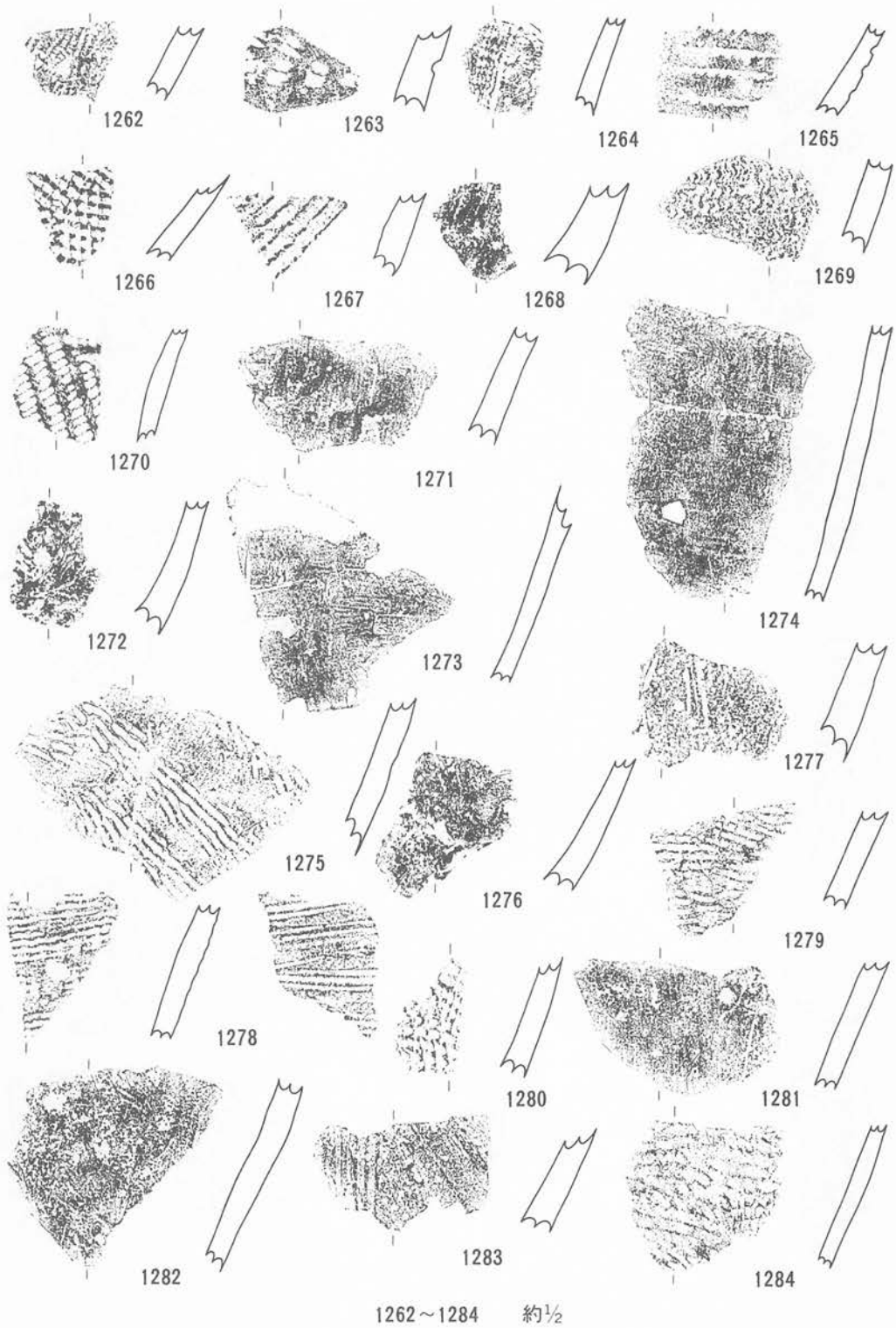
第105図 G II g 9住居跡 (平・断面、ピット断面S = 1/40, 炉断面S = 1/30)

(26.4) ·····

(23.8) ·····

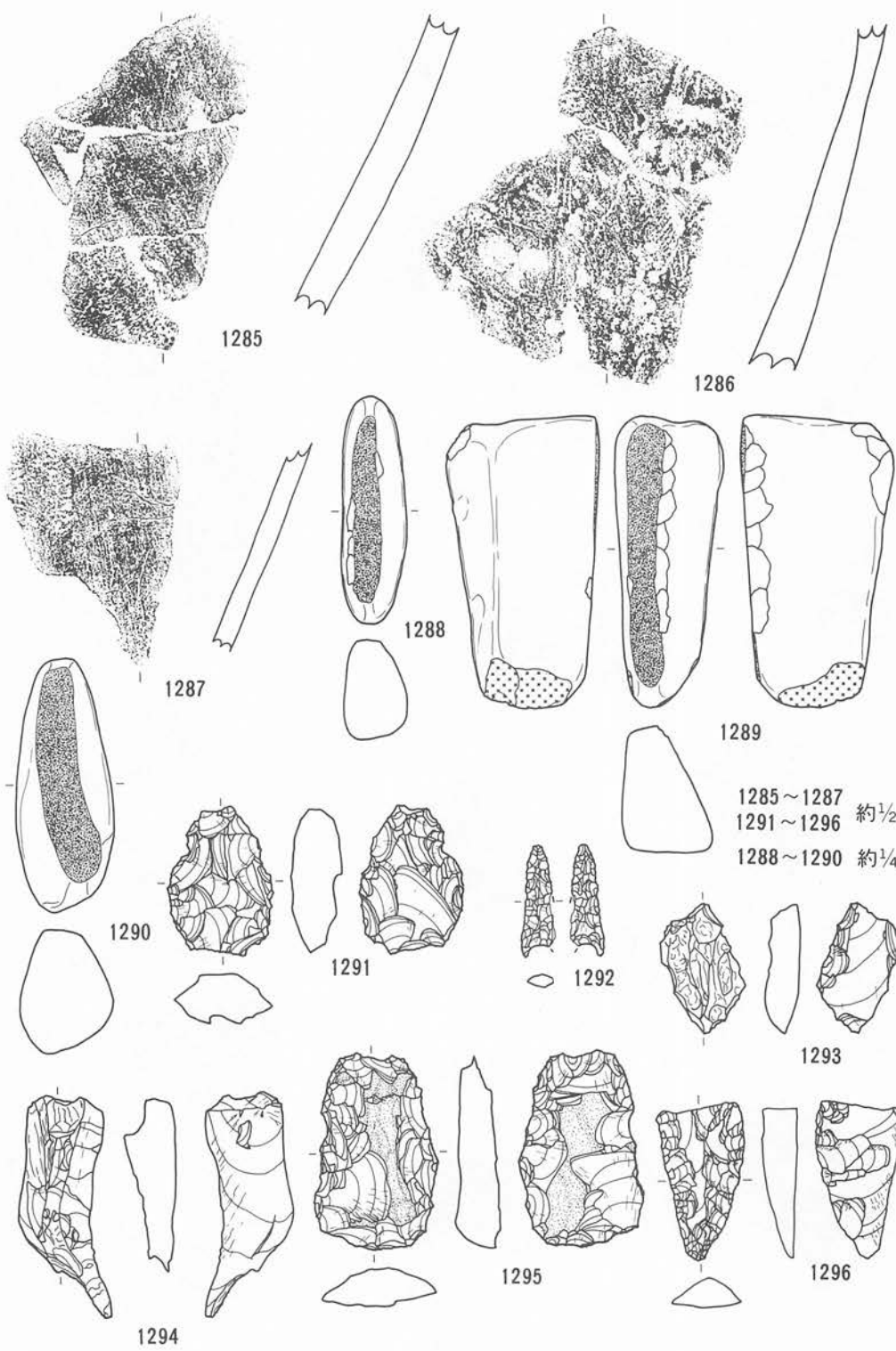


第106図 G II g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1246~1261)



第107図 G II g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1262~1284)





第108図 G II g 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1285~1296)

れている。壁高は北壁で75cm、東壁で38cm、南壁で15cm、西壁でG II g 1-1 住居跡床面から27cmの段差をもって低くなる。

床面には3基のピットが検出されている。No.1ピットは開口部径75cm、底部径115×130cm、深さ56cmの規模をもち、断面形がフラスコ状を呈するものである。No.2ピットは開口部径90×100cm、底部径25×45cm、深さ132cmの規模をもち、北西壁中位でオーバーハングするものである。No.3ピットは開口部径65×70cm、底部径30×40cm、深さ40cmの規模をもち、断面形がほぼ円筒形を呈するものである。

南壁際には開口部径105cm、底部径70×75cm、深さ12cmのほぼ円形を呈する掘り込みが確認され、内部には焼成痕は認められないものの、大小の礫6個と炭化物の分布が認められたことから、炉の可能性のあるものである。

#### 出土遺物（第109～110図、写真図版130～131）

1297～1318の土器と1319～1322の石器が出土している。これらはいずれも埋土から出土したものである。1301・1306は鉢形土器で、口縁部は無文、体部に単節斜縄文が施されている。1311～1313・1315は深鉢形土器の体部破片で、沈線文様のみられるものである。

石器のうち1319はつまみ部をもつ石錐、1320は小型の縦型石匙、1321は搔器、1322は剥片石器である。

#### 遺構の時期

埋土からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### G II h 5 住居跡

#### 遺構（第111図、写真図版33・38）

この住居跡は調査区東側尾根に位置し、G II g 5 住居跡が廃絶された後にその上面に構築されたものである。当住居跡床面はG II g 5 住居跡床面から約42cmの段差をもって高くなる。

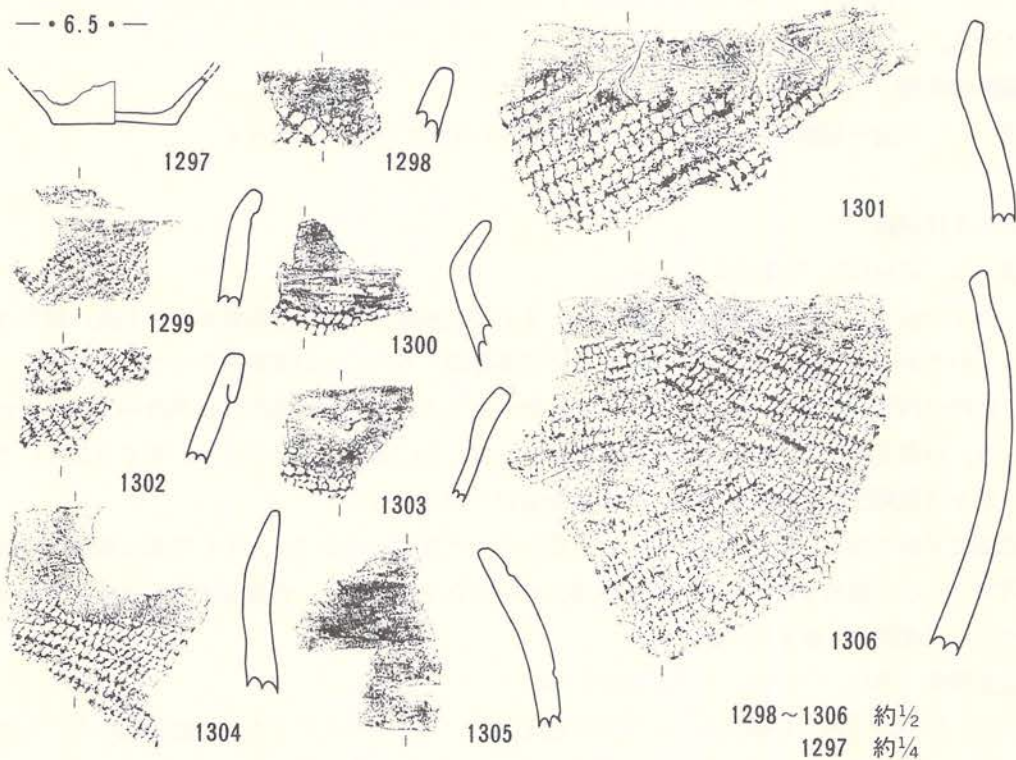
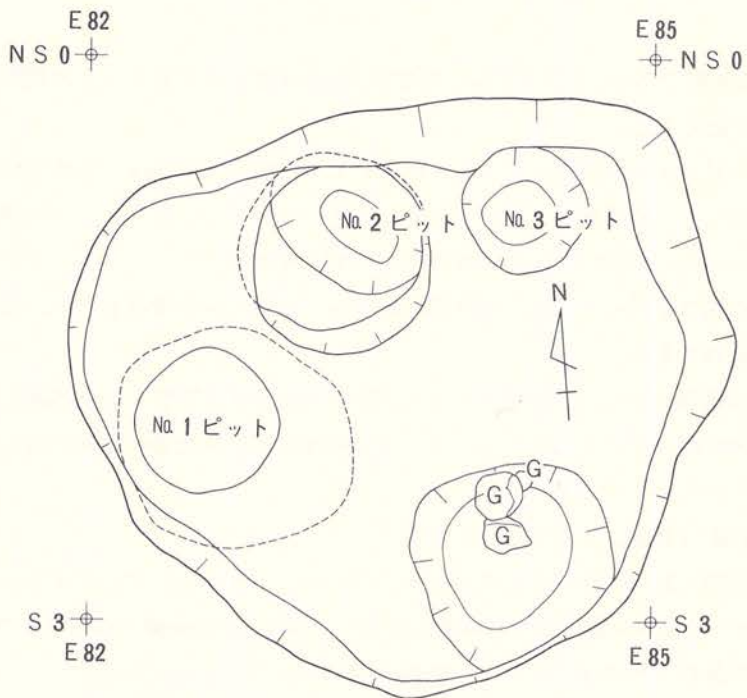
平面形は円形を呈する。規模は検出された壁のあり方から、開口部径5m前後のものと推定される。斜面下方にあたる住居跡の約3分の2は攪乱及び流失を受けており、検出されていない。埋土は黒褐色土で構成される。壁高は北東壁で25cmである。

床面は平坦である。炉は地床炉で、中央部からやや東側に位置する。その規模は径30cmのほぼ円形のものと推定される。炉内部は赤褐色に焼成を受けており、焼成最大層厚は6cmである。

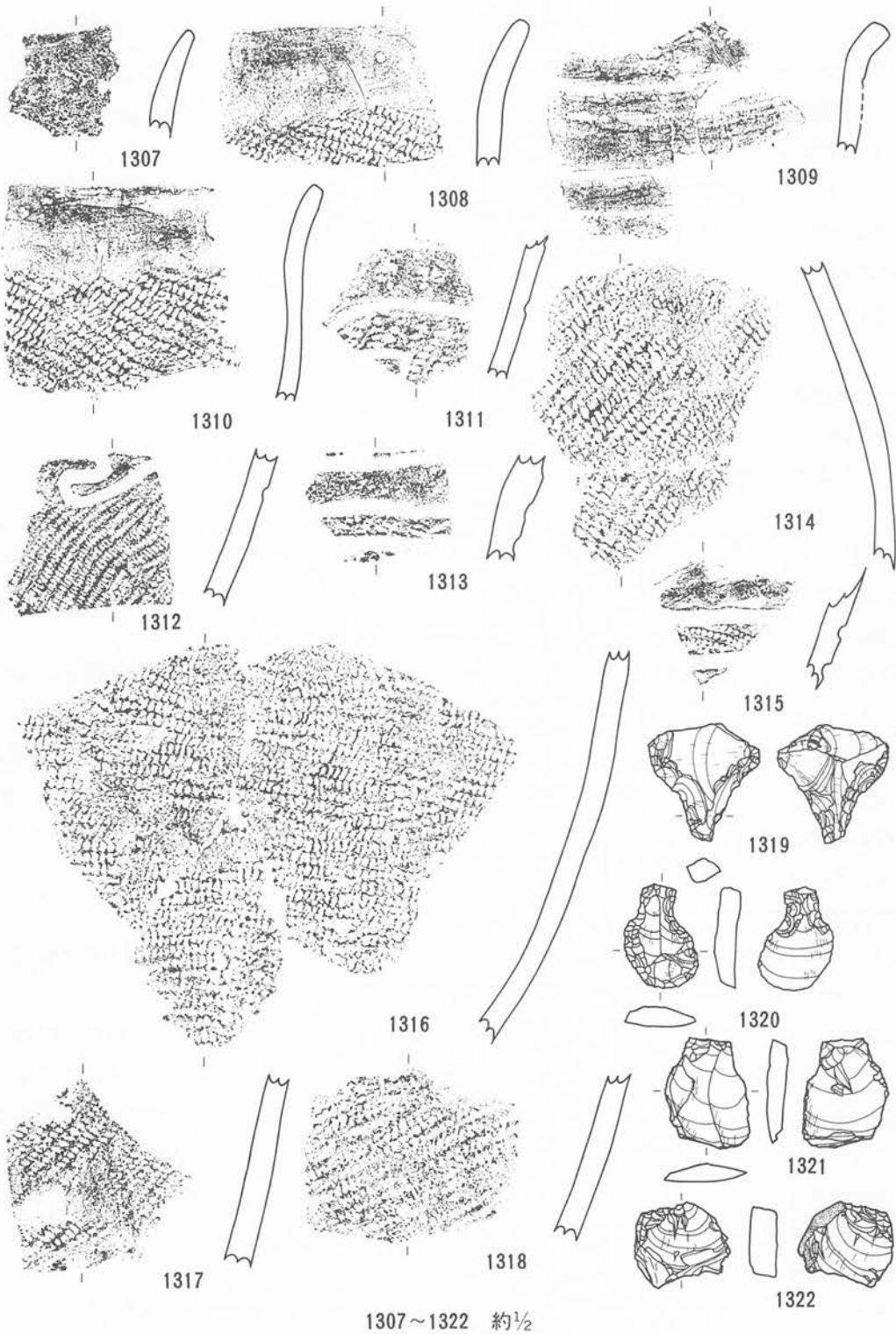
柱穴は東壁際に1本検出されている。

#### 出土遺物（第111～113図、写真図版131～133）

1323～1359の土器と1360～1364の石器が出土している。これらのうち1364は床面から、その他は埋土から出土したものである。土器はいずれも尖底深鉢形土器である。



第109図 G II h 1 住居跡 (平面 S = 1 / 40)  
G II h 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1297~1306)



第110図 G II h 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1307~1322)

1323はゆるやかな山形口縁を呈し、口唇部に刻目を有し、口縁部から体部下半に横状、縦状、斜状の貝殻腹縁文が施文されている。1325の土器には斜状の、1334・1335・1338の土器には縦状の、1340の土器には斜状・縦状の貝殻腹縁文が施文されている。

石器のうち1360は搔器で片面2縁辺部に入念な剝離調整が認められるものである。1361～1363は剥片石器である。1364は石皿である。

#### 遺物の時期

埋土からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

### G II h 9 住居跡

#### 遺構（第114図、写真図版39）

この住居跡は調査区東側尾根の下部に位置し、G II i 9ピットに北壁の一部を切られているものである。

平面形は南側壁の一部が張り出すものの、ほぼ隅丸方形を呈する。規模は開口部辺4.3×4.5m、床面部辺3.7×4.0mである。埋土は上位が黒色土、黒褐色土で、下位が暗褐色土、褐色土で構成される。壁高は北壁で17cm、東壁で22cm、南壁で13cm、西壁で8cmである。

床面は凹凸が激しく堅くしまっている。北東隅には北西から南東に長軸をもつ楕円形のピットが検出されている。その規模は開口部径85×140cm、底部径65×110cm、深さ34cmである。埋土は暗褐色土の単層である。炉は石囲い炉で、中央部から南側に位置する。その規模は60×70cmのほぼ円形を呈し、礫3個を東側に埋置している。炉内部は明赤褐色に焼成を受けており、焼成最大層厚は4cmである。

柱穴は壁際に3本検出されている。

#### 出土遺物（第115～116図、写真図版133～135）

1365～1401の土器と1402の土製品、1403～1411の石器が出土している。これらのうち1403と1404は床面から、その他は埋土から出土したものである。

1366・1367・1369～1376・1378・1380・1381・1383・1384・1386・1387～1389・1392・1394・1396・1400は深鉢形土器の破片で、曲線から長形状の沈線文様が施文されている。1401は無文のミニチュア土器である。1402は粗製土器の破片を再利用した円盤状土製品である。

石器のうち1403～1405は稜辺部に擦痕が認められる棒状擦石で、1403の両面には凹みを有するものである。1406は一部が欠損した石筥、1407～1409は搔器、1410は剥片石器である。1411は扁平な礫を縦状に割り、縁辺部に荒い剝離を施しているものである。

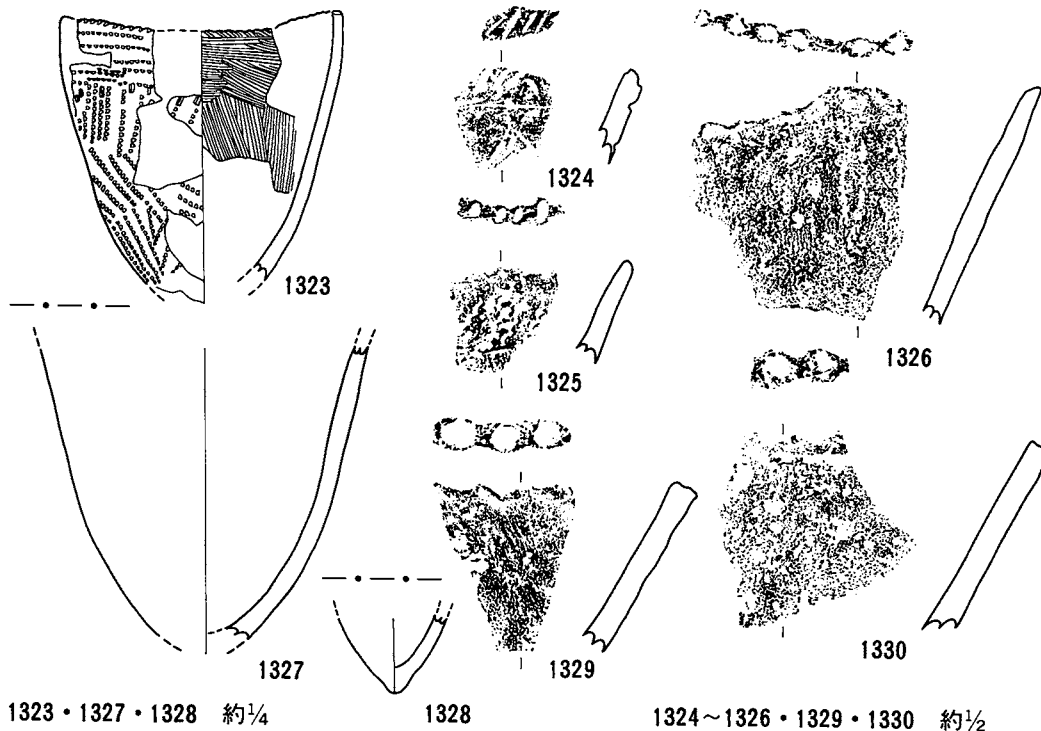
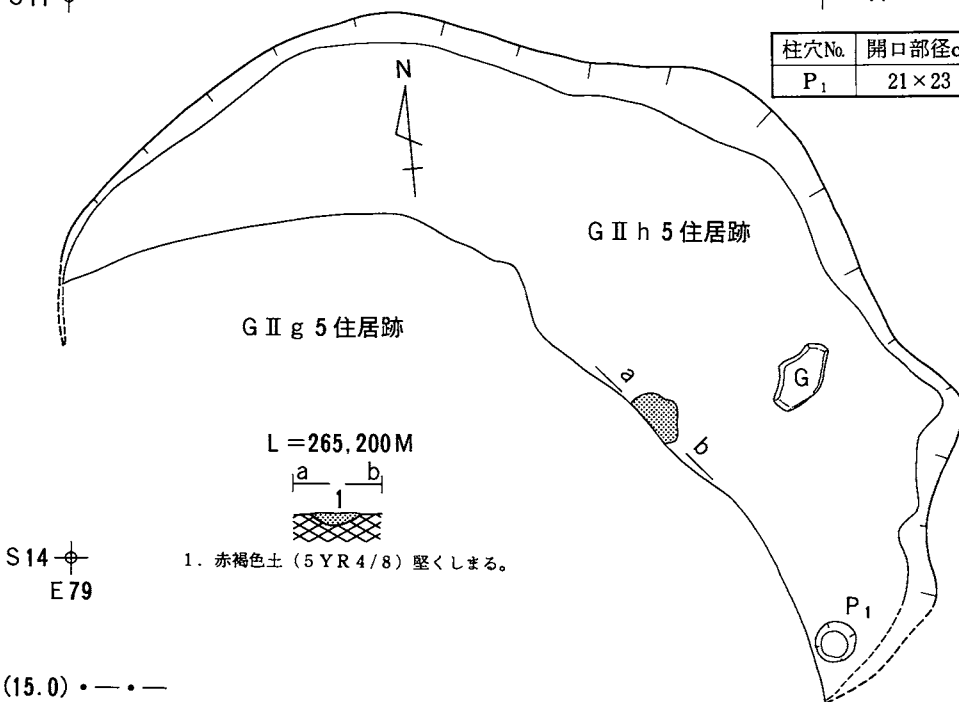
#### 遺構の時期

埋土からの出土遺物や炉の形態等から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

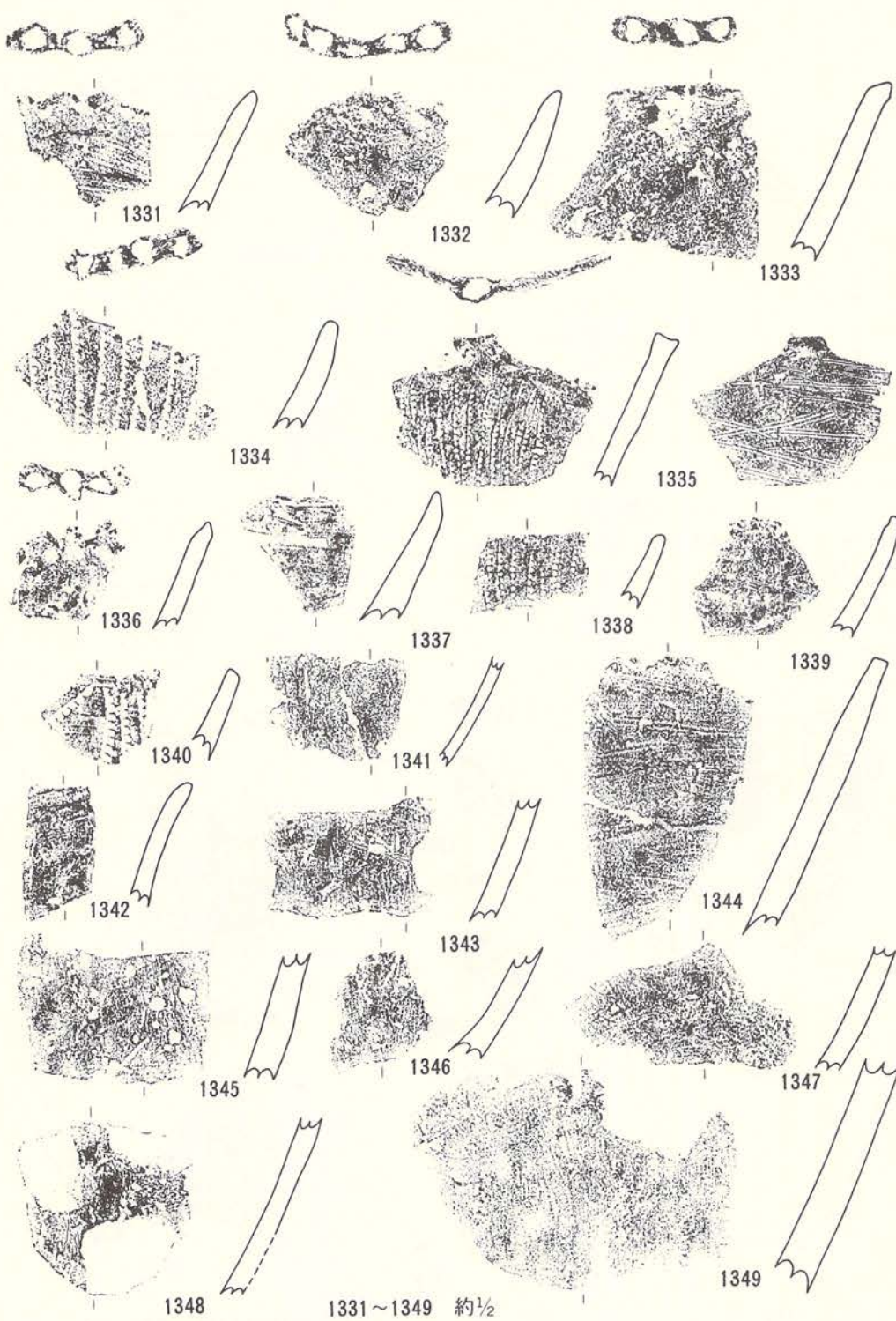
E 79  
S 11

E 83  
S 11

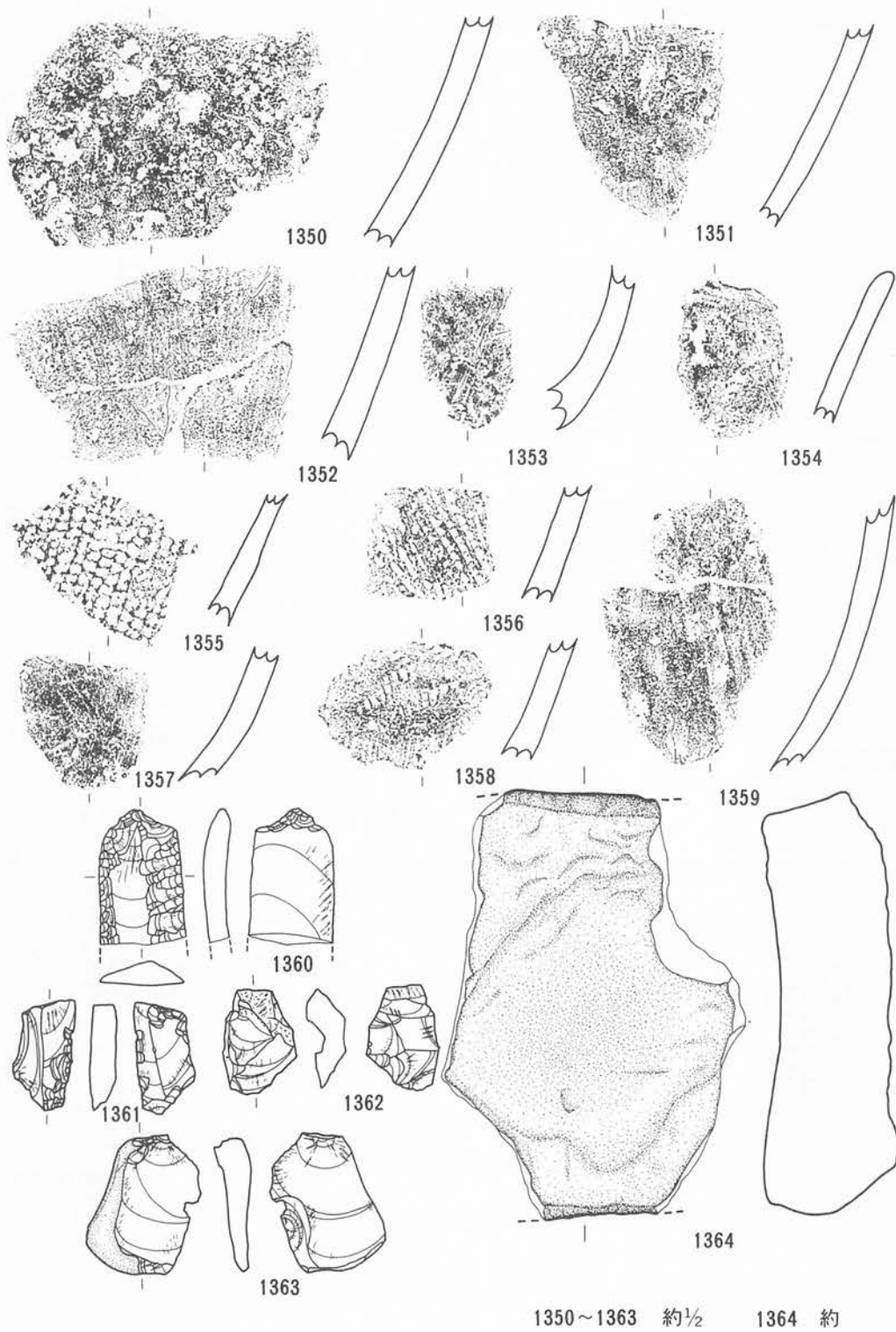
柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	21×23	12



第111図 G II h 5 住居跡 (平面、炉断面 S = 1/40)  
G II h 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1323~1330)

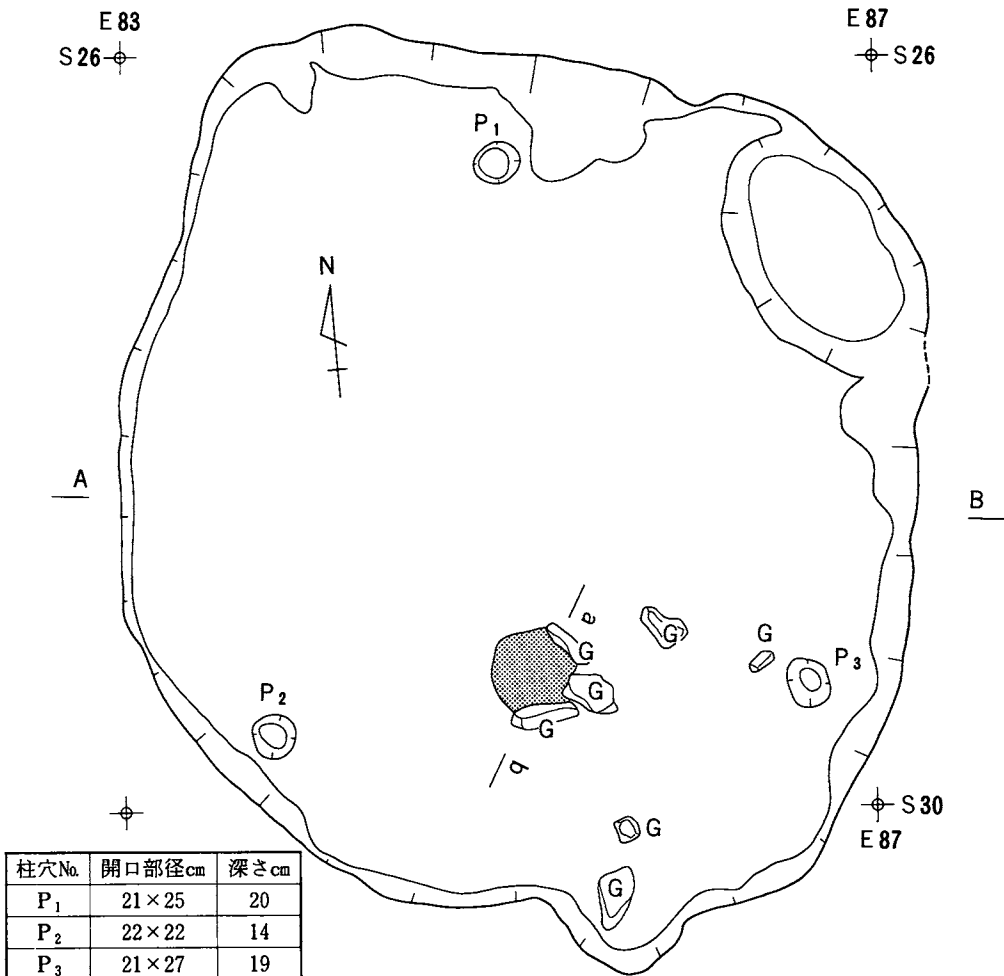


第112図 G II h 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1331~1349)

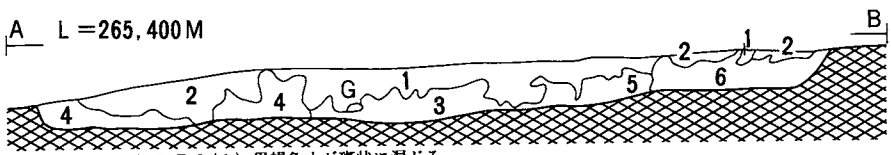


第113図 G II h 5 住居跡出土遺物 (遺物番号1350~1364)



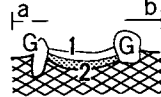


柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	21×25	20
P <sub>2</sub>	22×22	14
P <sub>3</sub>	21×27	19



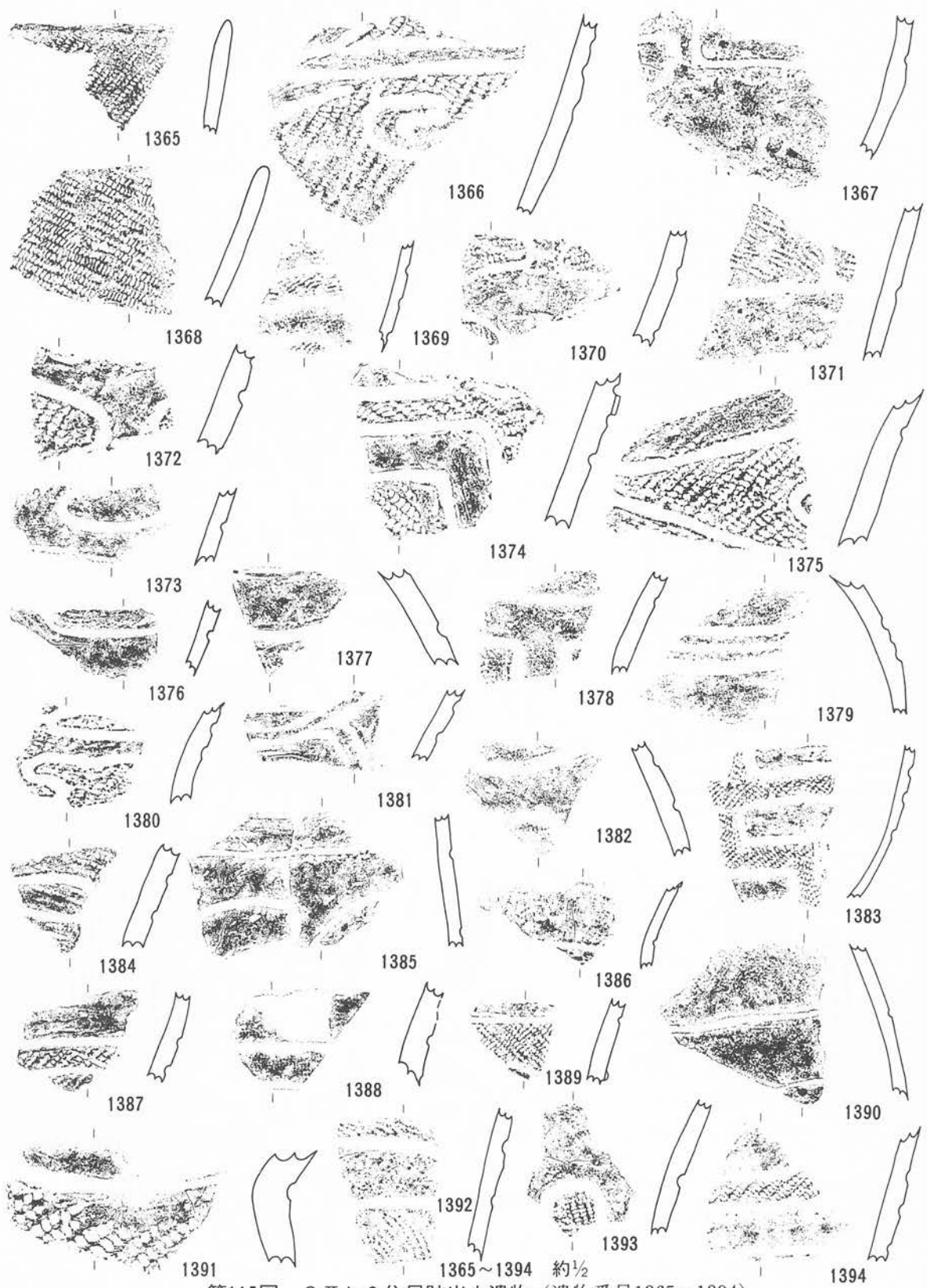
1. 黒色土 (10Y R 2 / 1) 黒褐色土が斑状に混じる。
2. 黒褐色土 (10Y R 2 / 2) 黒色土が斑状に混じる。
3. 黒褐色土 (10Y R 2 / 3) 部分的に汚れた八戸火山灰が混じる。
4. 暗褐色土 (10Y R 3 / 4) 黒褐色土と汚れた八戸火山灰の混土。
5. 暗褐色土 (10Y R 3 / 3) 黒褐色土と汚れた八戸火山灰の混土。
6. 褐色土 (10Y R 4 / 4) 汚れた八戸火山灰。

L = 265,200 M

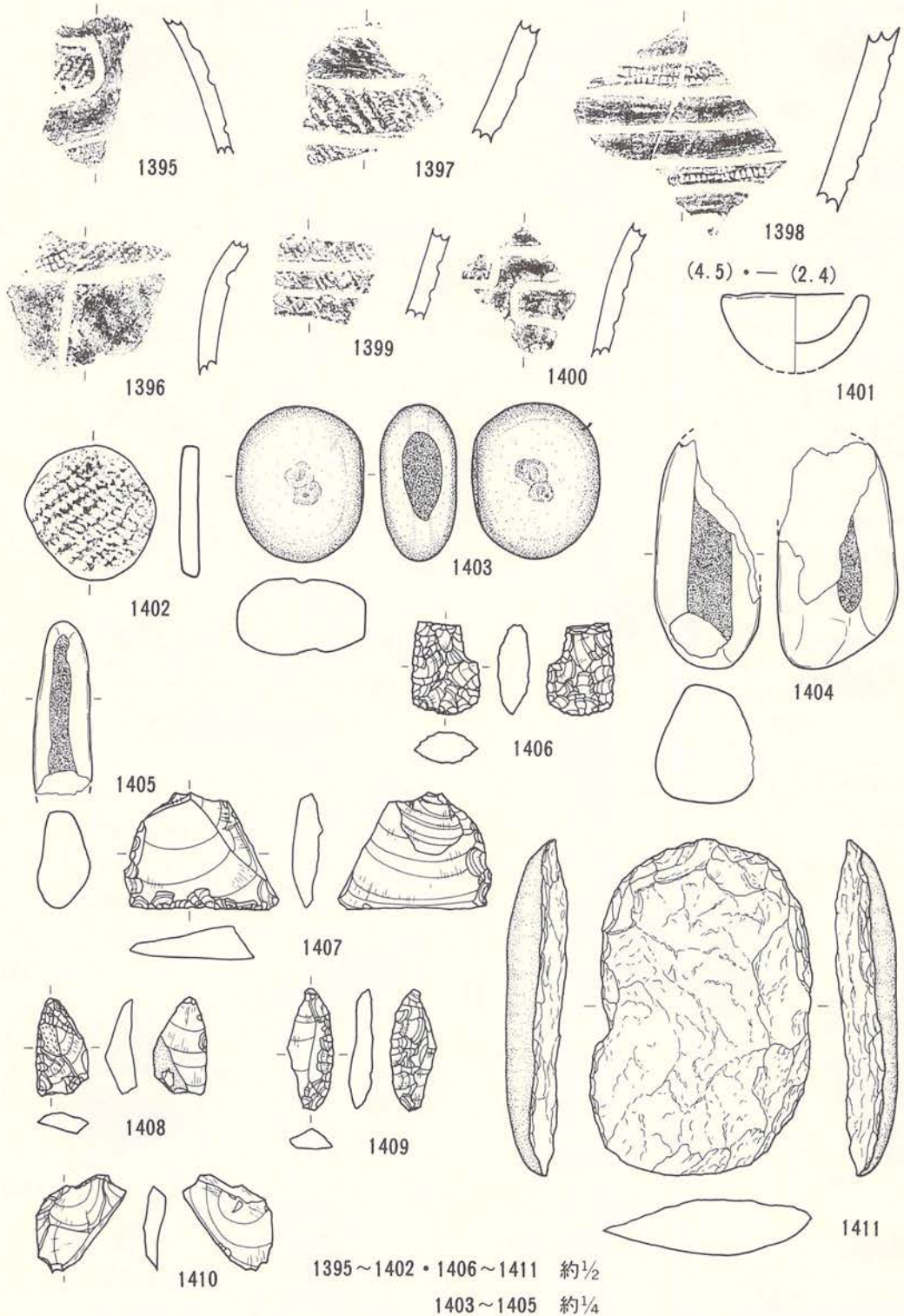


1. 黒褐色土 (7.5Y R 3 / 2) 堅くしまり、炭化物と焼土を含む。
2. 明赤褐色土 (2.5Y R 5 / 6) 焼土。

第114図 G II h 9 住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1 / 40)



第115図 G II h 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1365~1394)



第116図 G II h 9 住居跡出土遺物 (遺物番号1395~1411)

## G II i 2 住居跡

### 遺構 (第117図、写真図版40)

この住居跡は調査区東側尾根のほぼ中央部に位置し、西壁をG II g 2 住居跡に切られているものである。壁が検出されたのは斜面上方の北側約半分である。

平面形は円形を呈する。規模は検出された壁のあり方から、開口部径4.5m前後の住居跡と推定される。埋土は上位が暗褐色土、黒色土で、下位が褐色土で構成される。壁高は北壁で41cmである。

床面は検出された部分を見る限り、平坦で堅くしまっている。炉は石囲い炉で、ほぼ中央部に位置する。その規模は55×60cmの円形を呈し、大小の角礫を埋置している。炉内部中央には土器が埋設され、炭化物の分布が認められるものの、焼成痕は認められない。

柱穴は2本検出されている。

### 出土遺物 (第118図、写真図版135～136)

1412～1435の土器と1436・1437の石器が出土している。これらのうち1412・1413・1415が床面から、1416が炉内に埋設されて、1414が床面からやや浮いて、1436が炉の構成礫から、その他は埋土から出土したものである。1412・1415は小波状口縁を呈し、口縁部が「く」の字状に外反し、口縁部下のくびれに1条の沈線を巡らしているもので、沈線から下半に単節斜縄文が施文されているものである。1414はミニチュア土器で無文である。1416は炉の中央に埋設されていた甕形土器の体部下半で、単節斜縄文が施文されている。1418・1420・1421・1427は深鉢形土器の口縁部破片で、口縁部下に沈線の巡るものである。

石器のうち1436は形状が円形を呈する扁平な磨石である。1437は2稜辺部に擦痕の認められるものである。

### 遺構の時期

床面からの出土遺物から、弥生時代に位置づけられる。

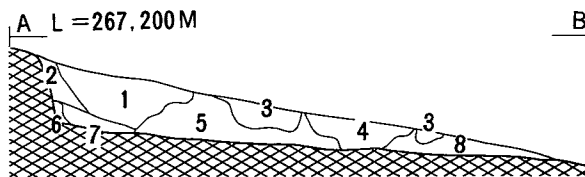
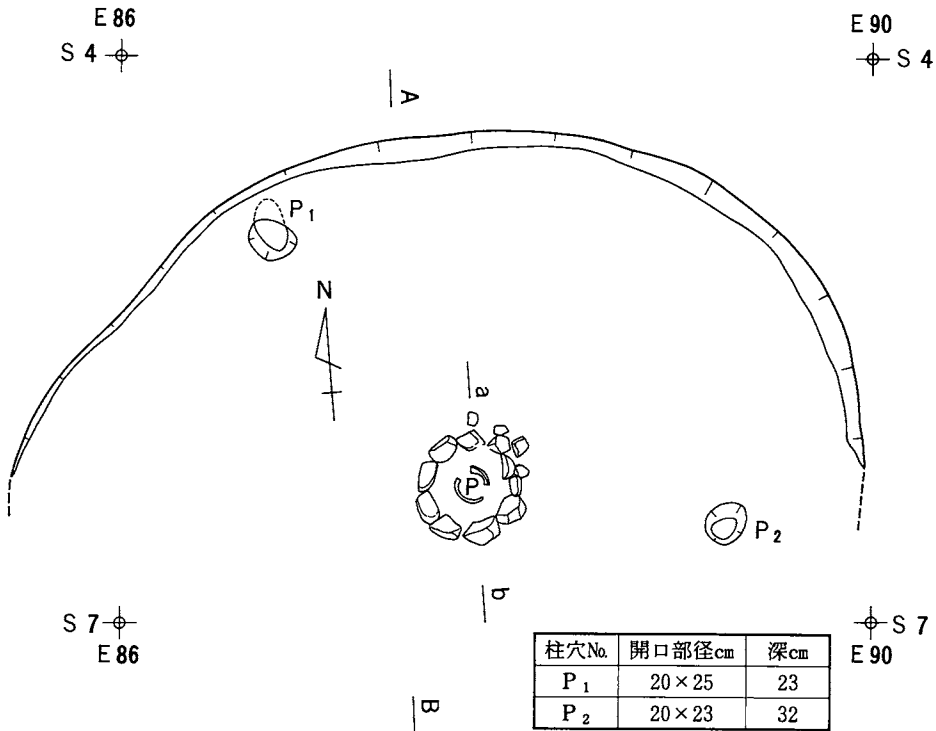
## G II i 7 住居跡

### 遺構 (第119図、写真図版41～42)

この住居跡は調査区東側尾根の下部に位置し、北西壁から北壁際床面の一部をG II i 7 陥し穴に切られているものである。

平面形は北西から南東に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は開口部径5.4×6.4m、床面部径5.1×6.2mである。埋土は主に黒色土と暗褐色土で構成される。壁高は北壁で23cm、東壁で13cm、南壁で12cm、西壁で24cmである。

床面はほぼ平坦であるが部分的に攪乱を受けている。北西壁寄りには最大幅22cm、深さ5～



1. 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭化物を含む。
2. 褐色土 (7.5YR 4/4)
3. 黒色土 (7.5YR 2/1) 褐色土をブロック状に含む。
4. 黒色土 (7.5YR 1.7/1)
5. 褐色土 (7.5YR 4/3)
6. 橙色土 (7.5YR 6/8)
7. 褐色土 (7.5YR 4/6) 暗褐色土と明褐色土の混土。
8. 褐色土 (7.5YR 4/4) 明褐色土をブロック状に含む。

L = 266,700M



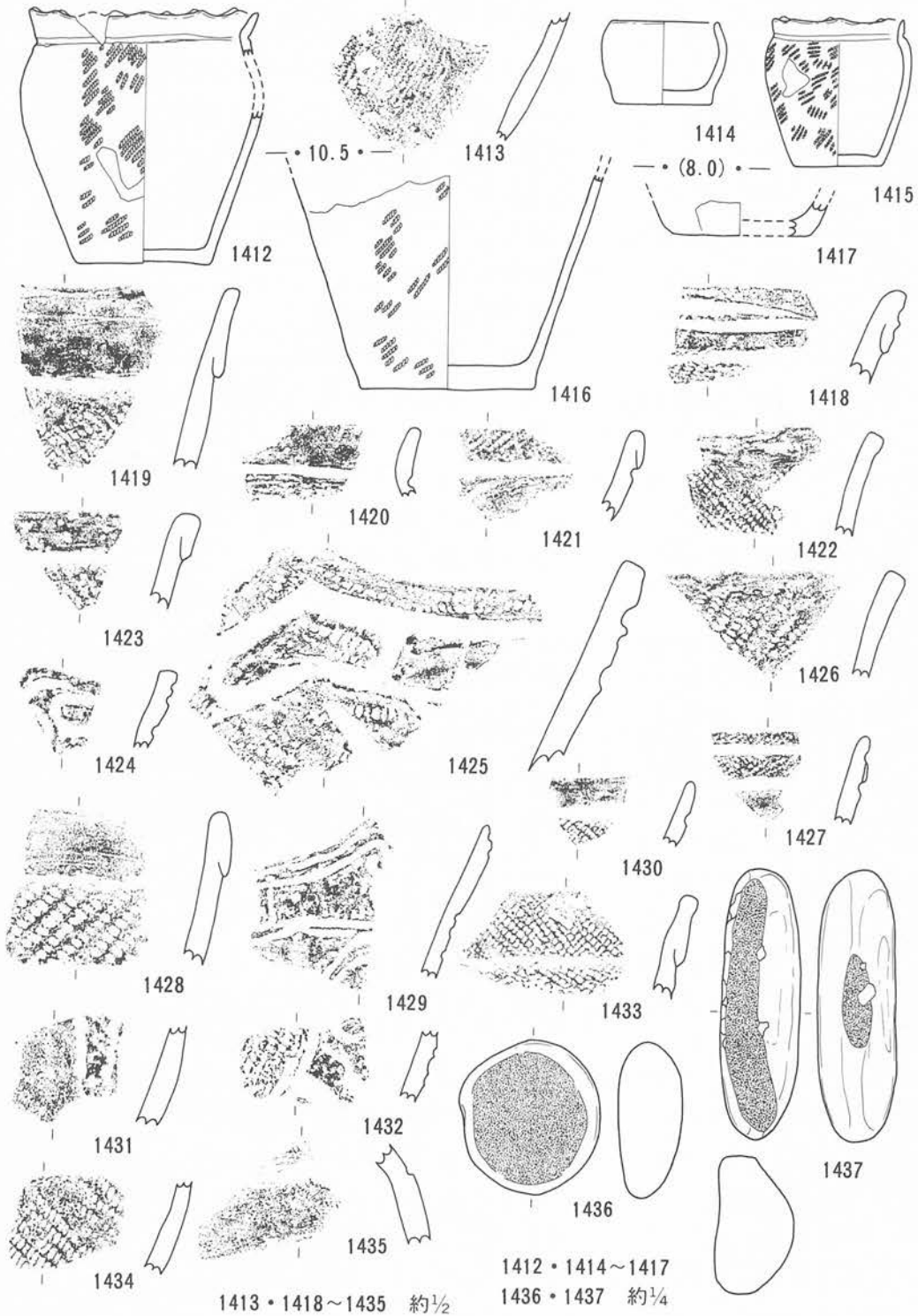
1. 黒色土 (7.5YR 2/1) 炭化物と焼土粒を包含する。
2. 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 炭化物を包含する。

第117図 G II i 2 住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1/40)

13.8 • 8.2 • 15.3

55 • 5.7 • 5.0

7.9 • 5.3 • 8.8



第118図 G II i 2 住居跡出土遺物 (遺物番号1412~1437)

20cmの溝が途切れながら巡る。炉は地床炉で、中央部から南東寄りに位置する。その規模は75×95cmで、内部には土器が斜位に埋設されている。焼成最大層厚は17cmに及び、堅くしまっている。

柱穴は8本検出されている。

出土遺物（第120～123図、写真図版136～140）

1438～1495の土器と1496の土製品、1497～1512の石器が出土している。これらのうち1438～1447・1497・1503・1507が床面から、1448が炉内部から、その他は埋土から出土したものである。

1438は山形口縁を呈する深鉢形土器で、横位の平行曲線文が施文されている。1439は小型の台付壺形土器で、底部に4個の切り込みと体部の突起に穿孔を有するところから懸垂した土器と思われる。1448は炉に斜位に埋設されていた粗製深鉢形土器である。1452は山形口縁を呈する精製深鉢形土器で、体部上半に平行曲線文が施文されている。

石器のうち1499・1504・1505は搔器、1501は石鏃、1502は縦型石匙、1497・1498・1508～1511は剥片石器である。1500・1503・1507は石皿で、1500・1503には台が付く。1506は縁辺部に荒い剝離調整が施された打製石斧である。1512は両端に敲打痕の認められる石器である。

遺構の時期

床面からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

## G II j 4 住居跡

遺 構（第124図、写真図版42）

この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面中央部に位置し、西壁を炭窯によって切られているものである。検出されたのは斜面上方の北壁のみである。

平面形は検出された壁のあり方からみて、方形から隅丸方形を呈するものと推定される。埋土は黒色土から黒褐色土で構成されるが、埋土上面から床面相当までかなり攪乱されている。壁高は北壁で67cmである。

床面は攪乱部分が多く、その状況は不明である。炉、柱穴は検出されていない。

出土遺物（第124図、写真図版140）

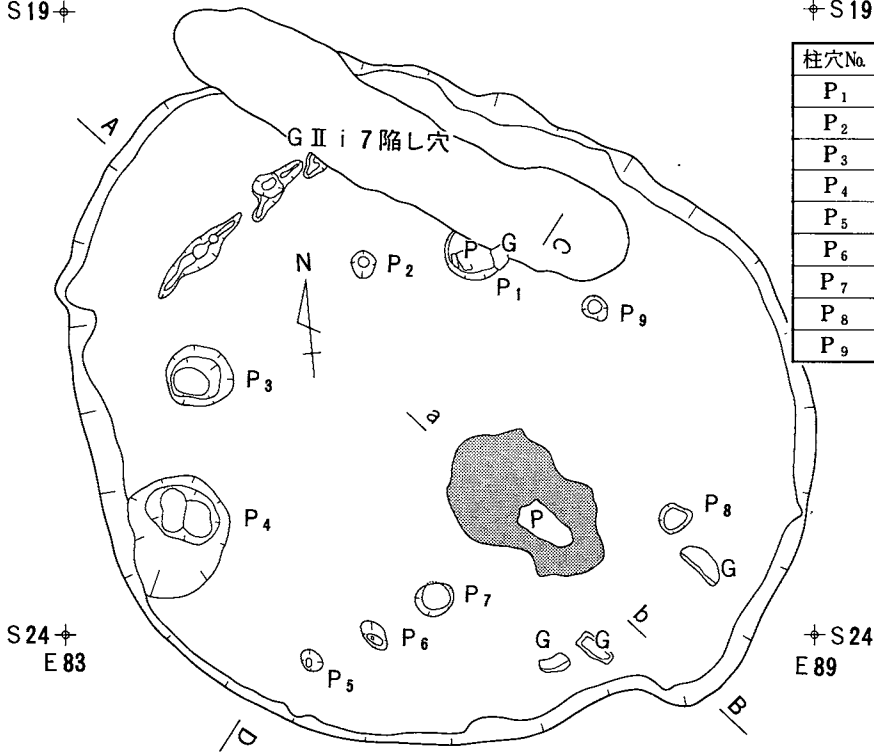
1513の土器と1514の土偶、1515の石器が出土している。これらはいずれも埋土から出土したものである。1513は尖底深鉢形土器の体部破片で無文である。1514は土偶の手の部分で沈線文が施されている。1515は剥片石器である。

遺構の時期

埋土及び周囲の出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

E 83  
S 19

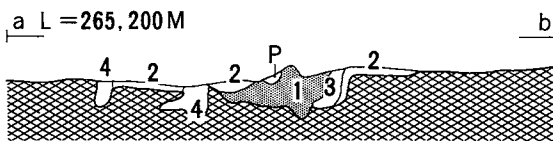
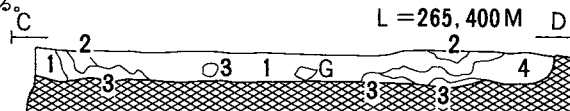
E 89  
S 19



柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	50	20
P <sub>2</sub>	20×20	30
P <sub>3</sub>	47×52	47
P <sub>4</sub>	85×100	48
P <sub>5</sub>	15×20	9
P <sub>6</sub>	16×28	9
P <sub>7</sub>	25×31	45
P <sub>8</sub>	20×20	50
P <sub>9</sub>	18×24	50



1. 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 褐色土がブロック状にはいる。 5. 黒色土 (7.5YR 2/1) やわらかく攪乱されている。
2. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) やわらかい。 6. 黒褐色土 (7.5YR 3/2)。
3. 暗褐色土～褐色土 (7.5YR 3/4～4/3) の混土。 7. 褐色土 (7.5YR 4/4)。
4. 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 暗褐色土が混じる。

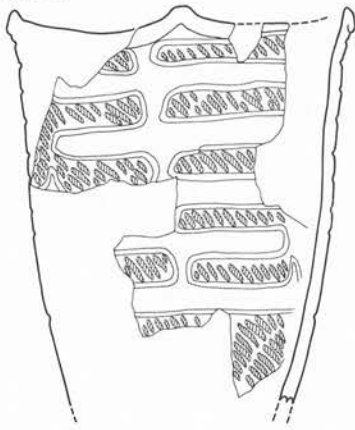


1. 赤褐色土 (2.5YR 4/8) 堅くしまった焼土。
2. 暗赤褐色土 (2.5YR 3/3) 焼土であるが暗褐色土が混じる。
3. 黒色土 (7.5YR 2/1) 木根痕。
4. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 暗褐色土と八戸火山灰の混土。

第119図 G II i 7 住居跡 (平・断面 S = 1/60, 炉断面 S = 1/30)



(17.7) · - - -



1438

· 6.5 ·



1439

· (9.0) ·



1440



1441



1442



1443



1444



1445



1446



1447

29.2 · 12.1 · 42.8



1448

· 5.4 ·



1449

· (10.0) ·

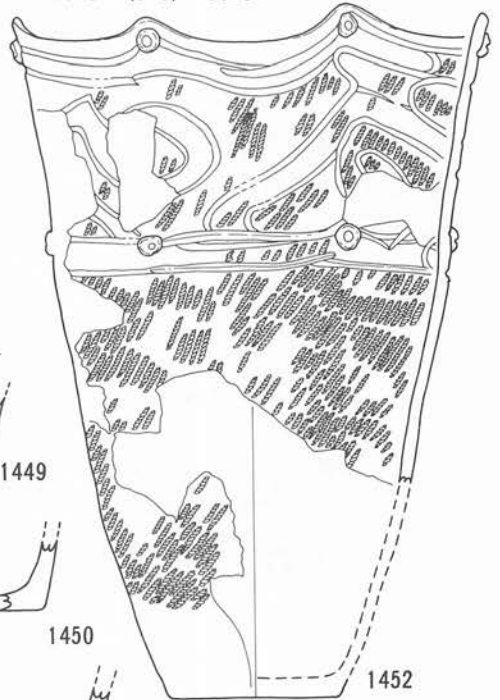


1450

· (13.0) ·



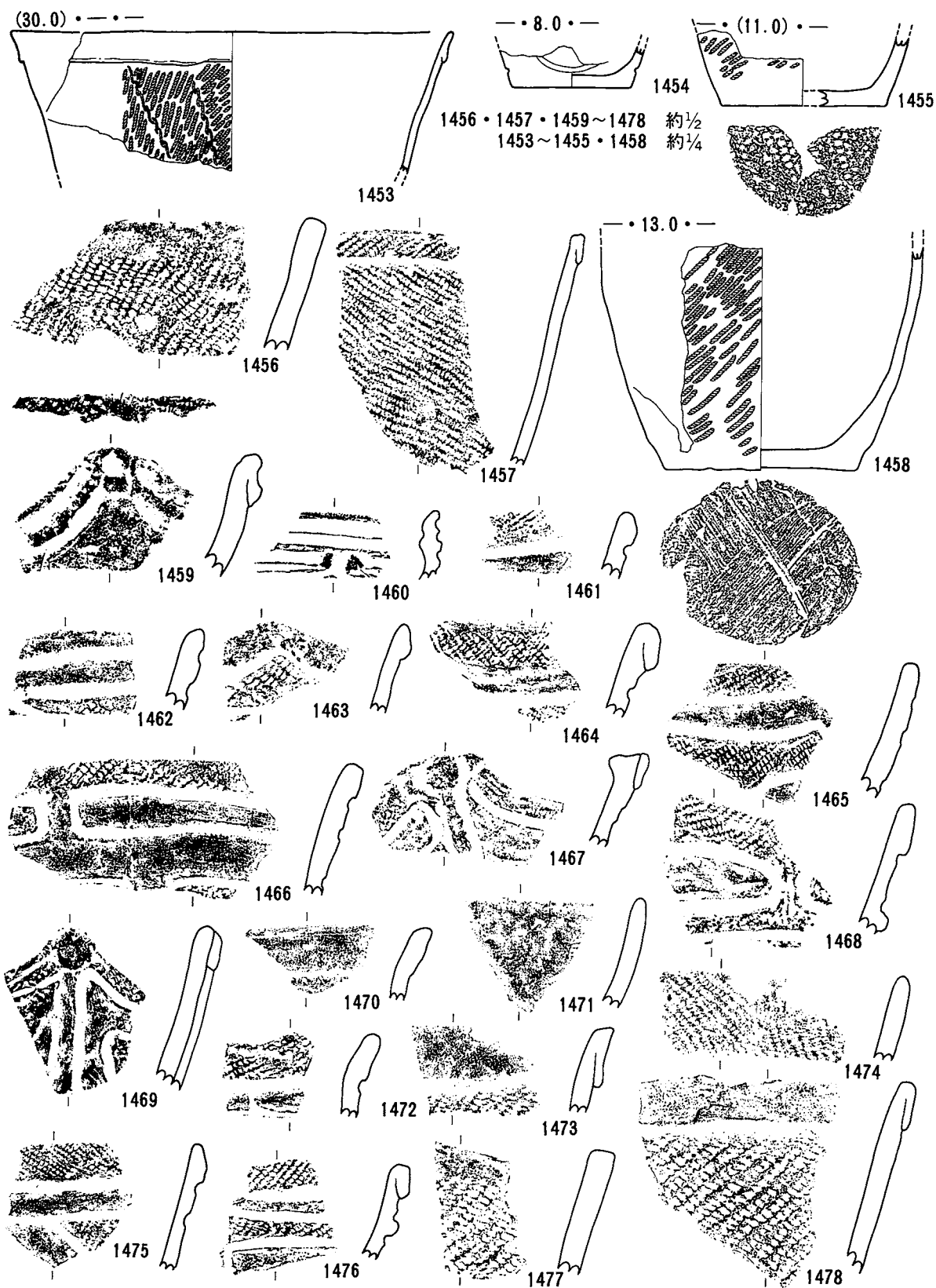
1451



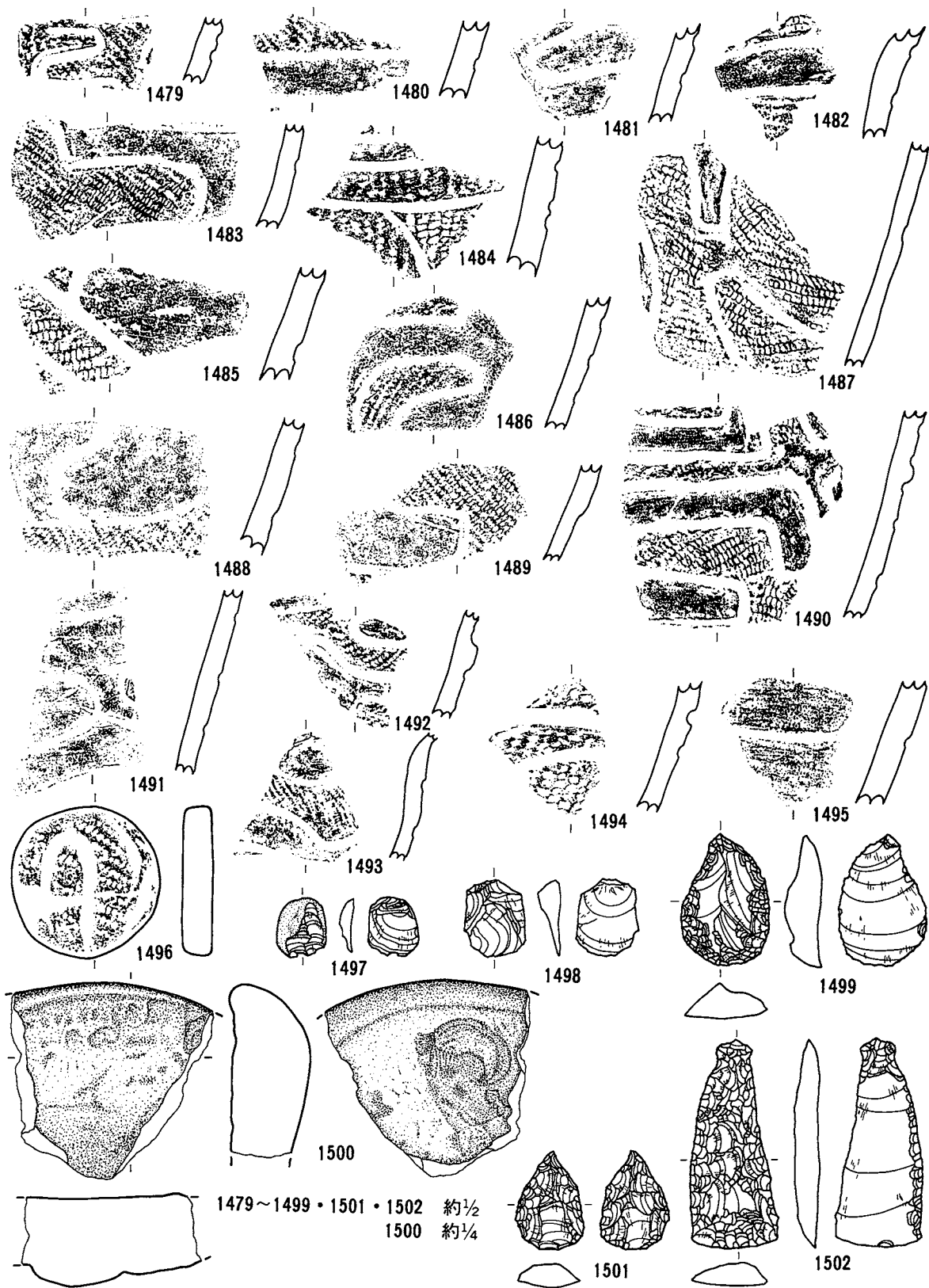
1452

1441~1447 約½  
1438~1440 · 1448~1452 約¼

第120図 G II i 7 住居跡出土遺物 (遺物番号1438~1452)

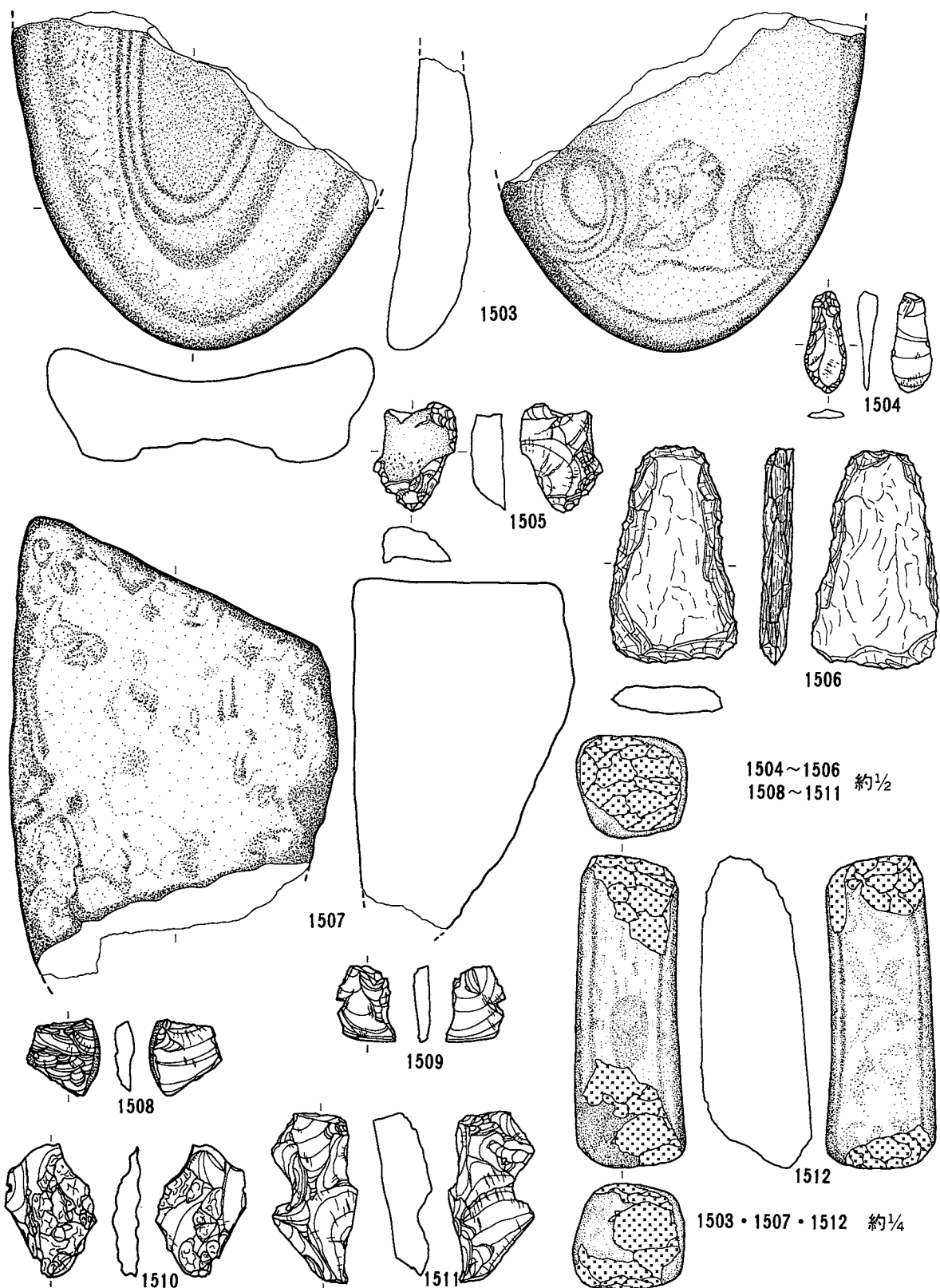


第121図 G II i 7 住居跡出土遺物 (遺物番号1453~1478)

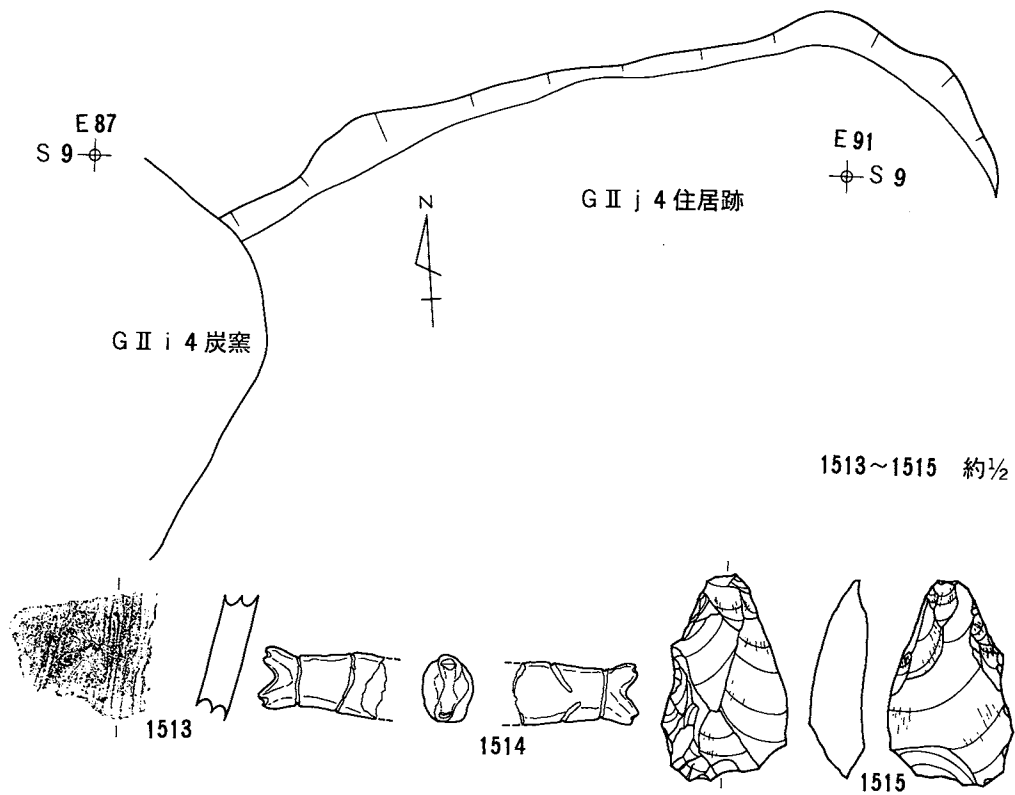


1479~1499・1501・1502 約 $\frac{1}{2}$   
 1500 約 $\frac{1}{4}$

第122図 G II i 7 住居跡出土遺物 (遺物番号1479~1502)



第123図 G II i 7 住居跡出土遺物 (遺物番号1503~1512)



第124図 G II j 4 住居跡 (平面 S = 1/40)  
G II j 4 住居跡出土遺物 (遺物番号1513~1515)

### G II j 7 住居跡

遺構 (第125図、写真図版43)

この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面、G II i 7 住居跡の北東側に隣接する。当住居跡の床面はG II i 7 住居跡床面から約23cmの段差をもって高くなるが、この同等レベル及びこれから上面は農業用道路修築によって攪乱されており、検出されたのは炉のみである。G II i 7 住居跡とG II j 8 住居跡とは切り合い関係にあるが、その先後関係については確認できなかった。

炉の規模は径29×50cmの不整形を呈し、内部に土器が斜位に埋設されているものであるが、攪乱のため、周囲に破片となって散在する。焼成最大層厚は7cmである。

この炉と内部の土器斜位埋設のあり方は、G II f 2 住居跡、G II i 7 住居跡及びH II f 3 住居跡の炉と類似するところから、住居跡に伴う炉と認定したものである。

出土遺物（第125図、写真図版140）

1516の土器と1517・1518の石器が出土している。いずれも炉内部から出土したものである。

1516は粗製深鉢形土器の体部下半で、底部に網代痕の認められるものである。1517は有茎石鏃である。1518は石筥で、両面から荒い剝離調整が施されているものである。

遺構の時期

炉内部からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### G II j 8 住居跡

遺 構（第126図、写真図版43）

この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面、G II i 7 住居跡東側に隣接する。当住居跡の床面はG II i 7 住居跡床面から約13cmの段差をもって高くなるが、G II j 7 住居跡と同様に農薬用道路修築によって攪乱されており、検出されたのは炉のみである。G II i 7 住居跡とG II j 7 住居跡とは切り合い関係にあるが、その先後関係については確認できなかった。

炉の規模は径45×56cmの楕円形を呈し、扁平な角礫と土器片を埋置しているものである。内部の焼成最大層厚は6cmである。

この炉は構成形態がH II f 3 住居跡の炉と類似するところから、住居跡に伴う炉と認定したものである。

出土遺物（第126図、写真図版140）

1519の土器が出土している。これは石囲い炉の構成礫のかわりに使用されていた土器が復元されたもので、口縁部が折り返し状に肥厚する粗製深鉢形土器である。

遺構の時期

炉からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

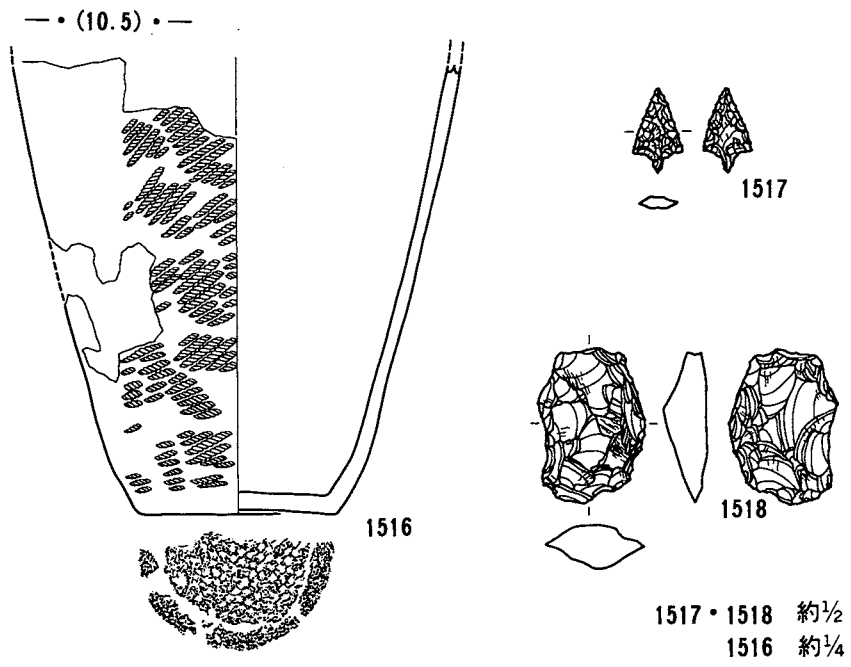
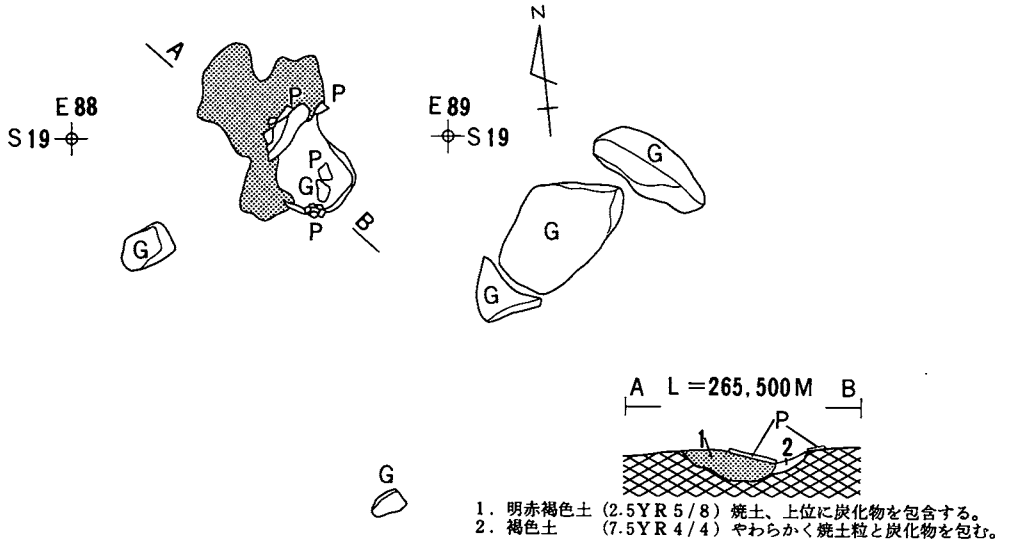
### G III b 1 住居跡

遺 構（第127図、写真図版43）

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面下部、G II b 10住居跡の南側約2mに位置する。検出されたのは斜面上方にあたる東壁と北壁及び南壁の一部である。

平面形は検出された壁のあり方から、方形から長方形を呈するものと推定される。規模については不明である。埋土は黒褐色土と暗褐色土で構成される。壁高は東壁で20cmである。

炉、柱穴は検出されていない。

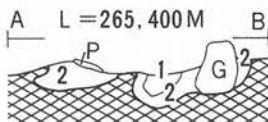


第125図 G II j 7 住居跡 (炉平・断面 S = 1/20)  
G II j 7 住居跡出土遺物 (遺物番号1516~1518)

E 88  
S 21



E 90  
S 21



1. 暗赤褐色土 (5 YR 3/6) 焼土で暗褐色土が混じる。
2. 暗褐色土 (7.5 YR 3/4) 焼土粒と炭化物を包む。

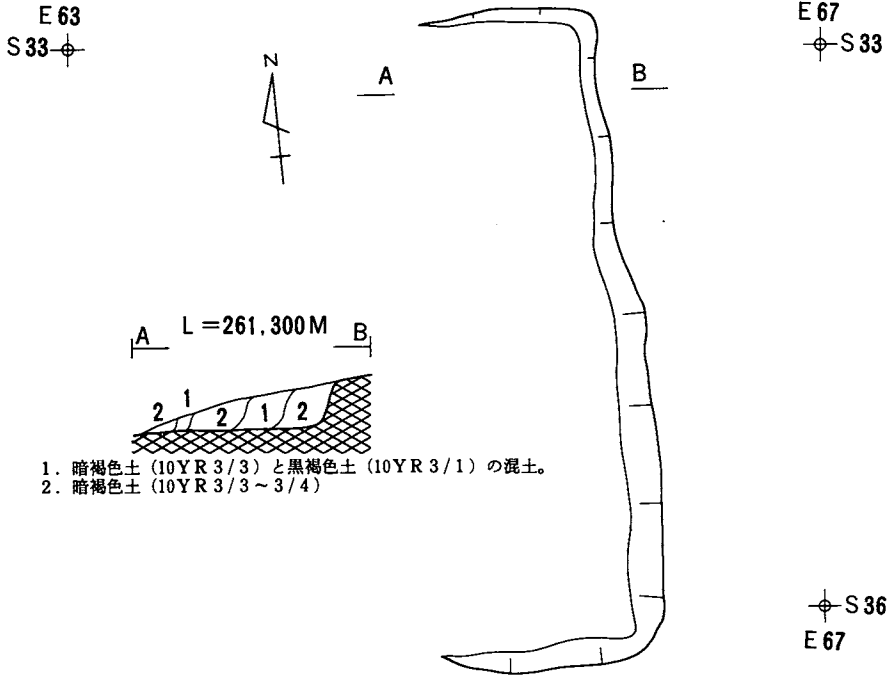
(32.0) • — • —



1519 約 $\frac{1}{2}$

第126図 G II j 8 住居跡 (炉平・断面 S = 1/20)  
G II j 8 住居跡出土遺物 (遺物番号1519)





第127図 G III b 1 住居跡 (平・断面 S = 1/40)

出土遺物は得られていない。

遺構の時期

周囲からの出土遺物から、縄文時代早期に位置づけられる可能性が強い。

#### H I a 6 住居跡

遺 構 (第128図、写真図版44)

この住居跡は調査区東側尾根の上部に位置する。平面形は不整形を呈する。規模は東から西の辺で開口部3.7m、床面部3.4mである。斜面下方にあたる南壁は検出されていない。埋土は斜面上方が黒褐色土で、斜面下方が暗褐色土で構成される。壁高は北壁で60cm、東壁で11cm、西壁で32cmである。

床面は凹凸が激しく堅くしまっている。北壁際床面は5~8cmの段差をもって高くなる。炉は地床炉で、東壁寄りに位置する。その規模は48×60cmの楕円形を呈する。炉内部は明赤褐色に焼成を受けている。焼成最大層厚は7cmである。

柱穴は3本検出されている。

出土遺物 (第129図、写真図版140~141)

1520～1538の土器と1539の石器が出土している。1539は柱穴から、その他は埋土から出土したものである。1520・1521は深鉢形土器の底部破片である。1522は蓋付土器で平行曲線文が施文されている。1533～1538は精製深鉢形土器の体部破片で、方形状の区画文が施文されている。

1539は縦型石匙で、片面から入念な剝離調整が施されているものである。

#### 遺構の時期

埋土及び周囲からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### H I c 7 - 1 住居跡

#### 遺 構 (第130図、写真図版45・46)

この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面上部に位置し、H I c 7 - 2 住居跡が廃絶された後にその上面に構築されたものである。

平面形は不整形円形を呈する。規模は南西から北東の計測で開口部径3.9m、床面部径3.5mである。埋土は上位が黒色土から黒褐色土で、下位が黒褐色土で構成される。壁高は北西壁で106cm、北東壁で40cm、南西壁で22cmである。

床面は凹凸があり、堅くしまっている。炉は石囲い炉で、中央部からやや南西寄りに位置する。その規模は50×70cmの楕円形から長形状を呈し、4個の角礫を埋置している。炉内部は明赤褐色土に焼成を受け、その焼成最大層厚は8cmである。

#### 出土遺物 (第132～135図、写真図版141～145)

1540～1615の土器と1616・1617・1618～1624の土製品、1625～1631・1633・1634の石器、1632・1635の石製品が出土している。これらのうち、1541は床面から、1540・1542・1543・1545～1548は床面からやや浮いて、その他は埋土から出土したものである。

1540は小型の鉢形小器で、方形の区画文が施文されている。口縁部直下に左右一対の穿孔を有する突起があるところから懸垂した土器と思われる。1541～1543・1559は粗製深鉢形土器で、1542・1543の口縁部は折り返し状に肥厚するものである。1544は体部上半に浅いくびれをもつ小型の深鉢形土器で、菱形状の区画文の中に「凹」字状の文様が施文されているものである。

土製品のうち、1616・1617～1621は円盤状土製品で、1616・1617・1618は精製土器を、1619・1620・1621は粗製土器を再利用したものである。1622は扁平で、円盤状を呈するもので、両面に刺突列が施文されているものである。1623・1624は馬足形を呈する壺形風の土製品で、無文である。

石器のうち1625・1626は撻器、1627～1631は剝片石器である。1632は穿孔を有する石製装飾品、1635は円盤状石製品である。1633は磨製石斧である。1634は擦痕が認められる石皿である。

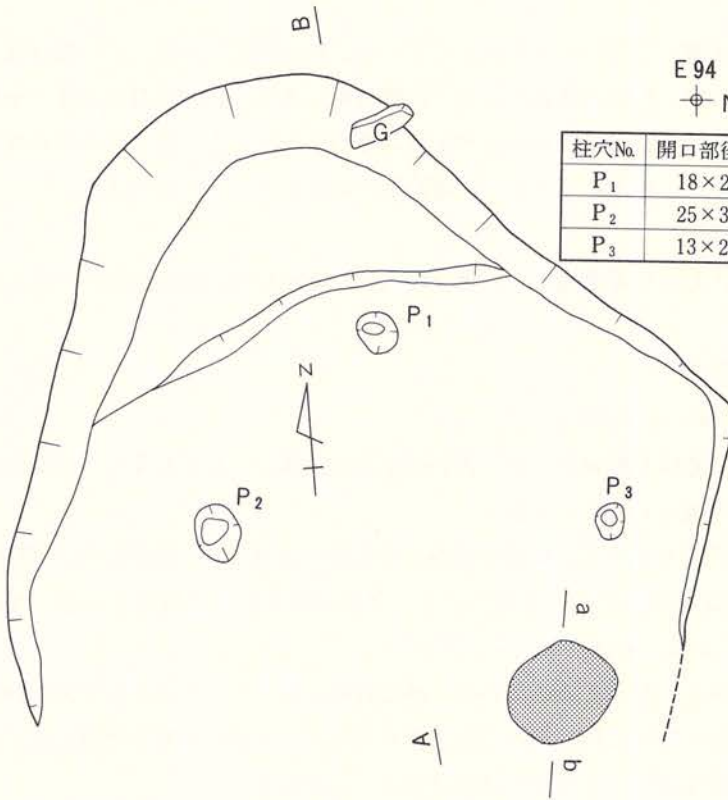
#### 遺構の時期

N13

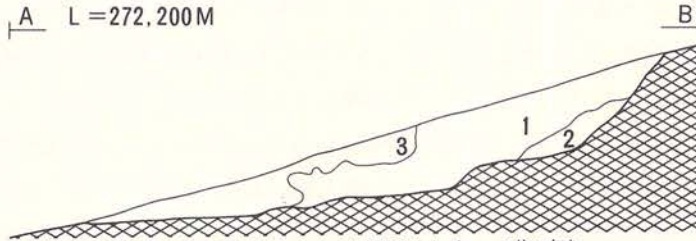
E 94

N13

柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	18×22	33
P <sub>2</sub>	25×30	32
P <sub>3</sub>	13×20	10



A L = 272,200 M



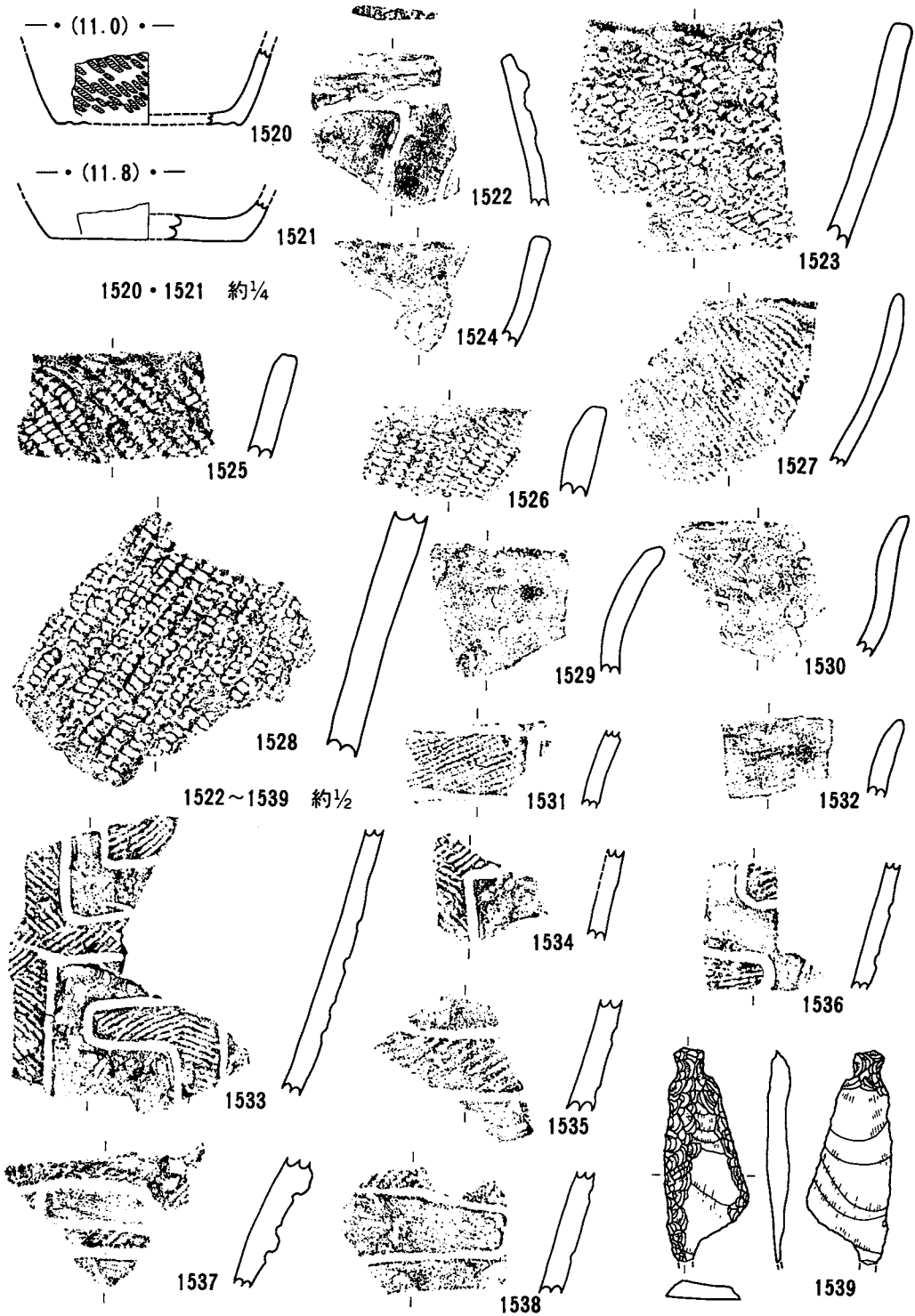
1. 黒褐色土 (7.5YR 3/1) やわらかく暗褐色土をブロック状に包む。
2. 褐灰色土 (7.5YR 5/1) やわらかく暗褐色土との混土。
3. 暗褐色土 (7.5YR 3/3)

L = 271,200 M



1. 明赤褐色土 (5YR 5/8) 焼土。
2. 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 焼土が混じる。

第128図 H I a 6 住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1/40)



第129図 H I a 6 住居跡出土遺物 (遺物番号1520~1539)

床面及び床面直上からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### H I c 7 - 2 住居跡

#### 遺 構 (第131図、写真図版46)

この住居跡はH I c 7 - 1 住居跡の床面下から検出された。当住居跡は前述した住居跡より古いものである。

平面形は検出された北西壁のあり方から、不整形を呈するものと推定される。規模は南西から北東に計測して辺4.8mである。埋土は黒色土、褐色土、黒褐色土、暗褐色土で構成される。壁高はH I c 7 - 1 住居跡床面から17cmの段差をもって低くなる。

床面はほぼ平坦である。ほぼ中央部には礫2個が並んで検出されているが、その周囲に焼成痕及び炭化物の分布は認められず、炉の構成礫であるか否か断定できなかった。

柱穴は検出されていない。

#### 出土遺物 (第135図、写真図版145)

1636～1640の土器と1641～1643の石器が出土している。これらはいずれも埋土から出土したものである。1636・1637は小型の深鉢形土器か鉢形土器の口縁部破片で、方形の区画文が施文されている。1638・1639は粗製深鉢形土器の口縁部破片で、単節斜縄文が施されている。1640は深鉢形土器の体部破片で、沈線文のみられるものである。

石器のうち、1641・1642は搔器で、1641は主に片面から、1642は両面から念入りな剝離調整が施されている。1643は石皿である。

#### 遺構の時期

遺構の切り合い関係から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### H I c 10 住居跡

#### 遺 構 (第136図、写真図版47)

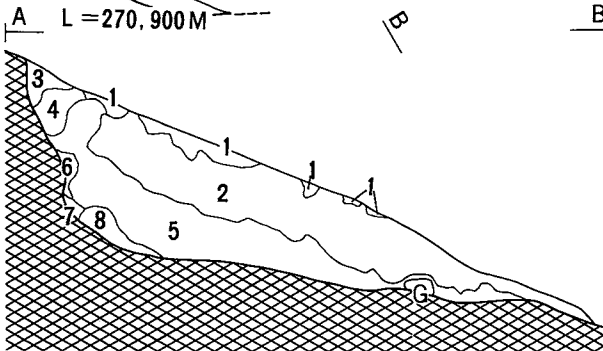
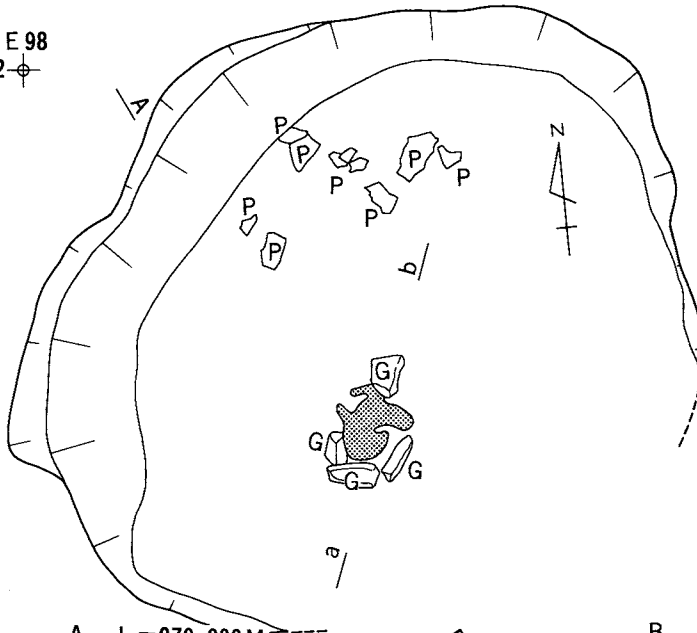
この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面、H I c 7 - 2 住居跡の南側約5mに位置する。住居跡上面の覆土はかなり流失し、壁面も下位まで漸移されていることから、壁面と埋土との区別がつけにくい。

平面形は床面の把握プランから、北東から南西に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は北西から南東の計測で、開口部4.2m、床面部4.0mである。埋土は黒色土、暗褐色土、黒褐色土で構成される。壁高は北西壁で115cm、北東壁で67cm、南壁で18cm、南西壁で38cmである。

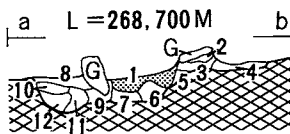
床面はほぼ平坦である。炉は石囲い炉で、中央部からやや南東寄りに位置する。その規模は径70×80cmの円形を呈する。炉内部の焼成最大層厚は8cmである。

E 98  
N12

E 102  
N12

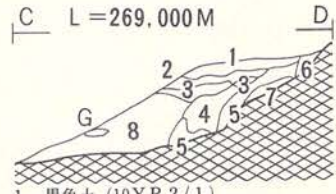
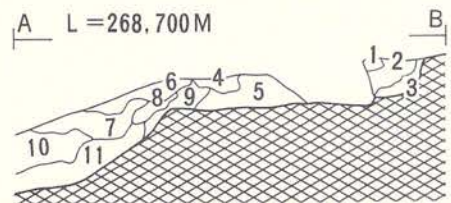
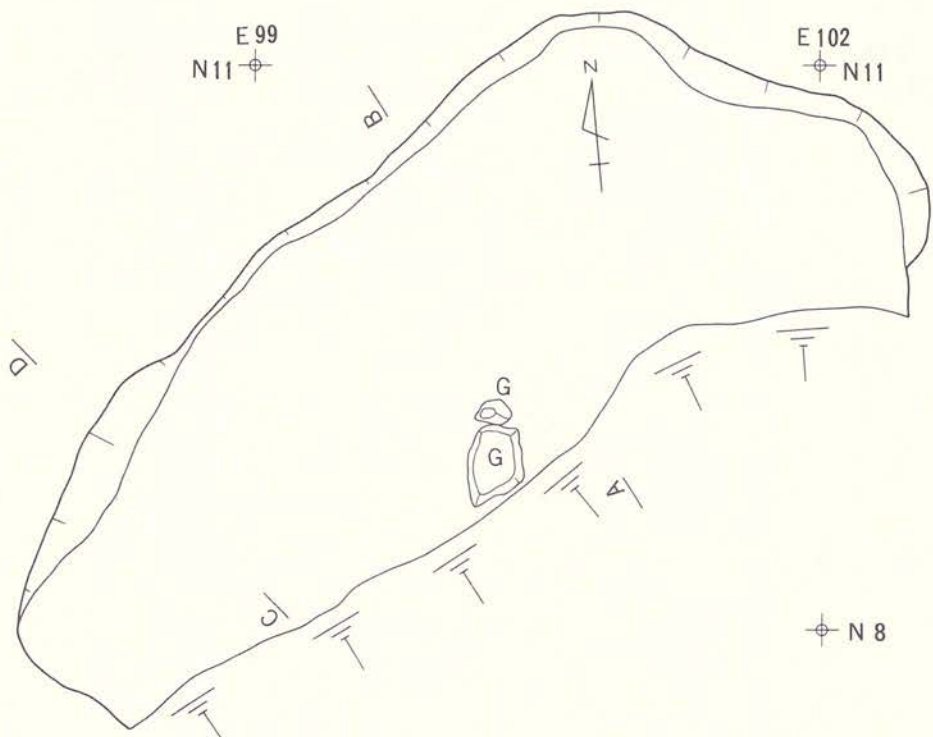


1. 黒色土～黒褐色土 (10YR 2/1～2/2) 表土の一部でやわらかい。
2. 黒褐色土 (10YR 3/2) 黒褐色土と褐色土の混土。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) やわらかい。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3)
5. 黒褐色土 (10YR 2/2) 炭化粒を含む。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2～3/2)。
7. 黒褐色土 (10YR 2/2) にぶい黄褐色土 (粘土) との混土、汚れた八戸火山灰を含む。
8. 黒褐色土 (10YR 3/2) 汚れた八戸火山灰を含む。



1. 明赤褐色土 (5YR 5/8) 焼土。
2. 黒褐色土 (10YR 2/2)
3. にぶい黄褐色土 (10YR 6/4) 粘土。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2)
5. 暗赤褐色土 (5YR 3/4) 汚れた焼土。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2～3/2) 焼土が斑状に混じる。
7. 黒色土 (10YR 2/1)
8. 暗褐色土 (10YR 3/3)
9. 黒褐色土 (10YR 2/2)
10. 黒色土 (10YR 2/1)
11. 黒褐色土 (10YR 2/2) 粘性あり。
12. 黒褐色土 (10YR 2/2)

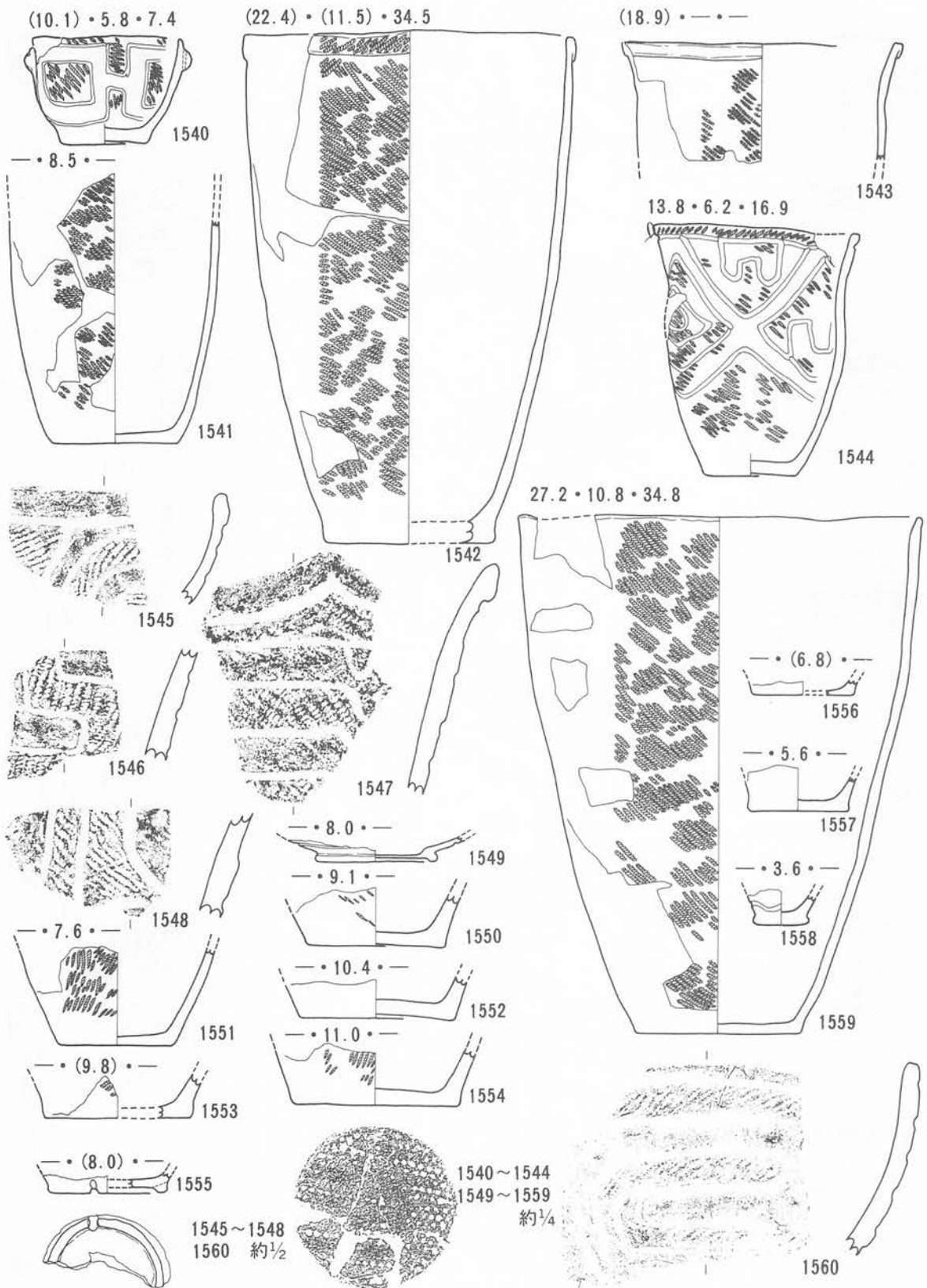
第130図 H I c 7 - 1 住居跡 (平・断面、炉断面 S=1/40)



1. にぶい黄褐色土 (10YR 5/3) H I c 7-1 住の炉石を支えていた土。
2. 黒褐色土 (10YR 2/2~2/3)
3. 黒褐色土 (10YR 2/3) 粘土質で壁崩落土。
4. 黒褐色土 (10YR 3/2) パミスを含む。
5. 黒褐色土 (10YR 2/2) パミスと炭化物を含む。
6. にぶい赤褐色土 (5YR 4/4) 汚れた焼土。
7. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2) パミスを少量含む。
8. 黒褐色土 (10YR 2/1) 焼土との混じり。
9. 黒色土 (10YR 2/1) パミスを含む。
10. 黒色土 (10YR 2/1) パミスを含む。
11. 黒褐色土 (10YR 2/2) パミスを含む。

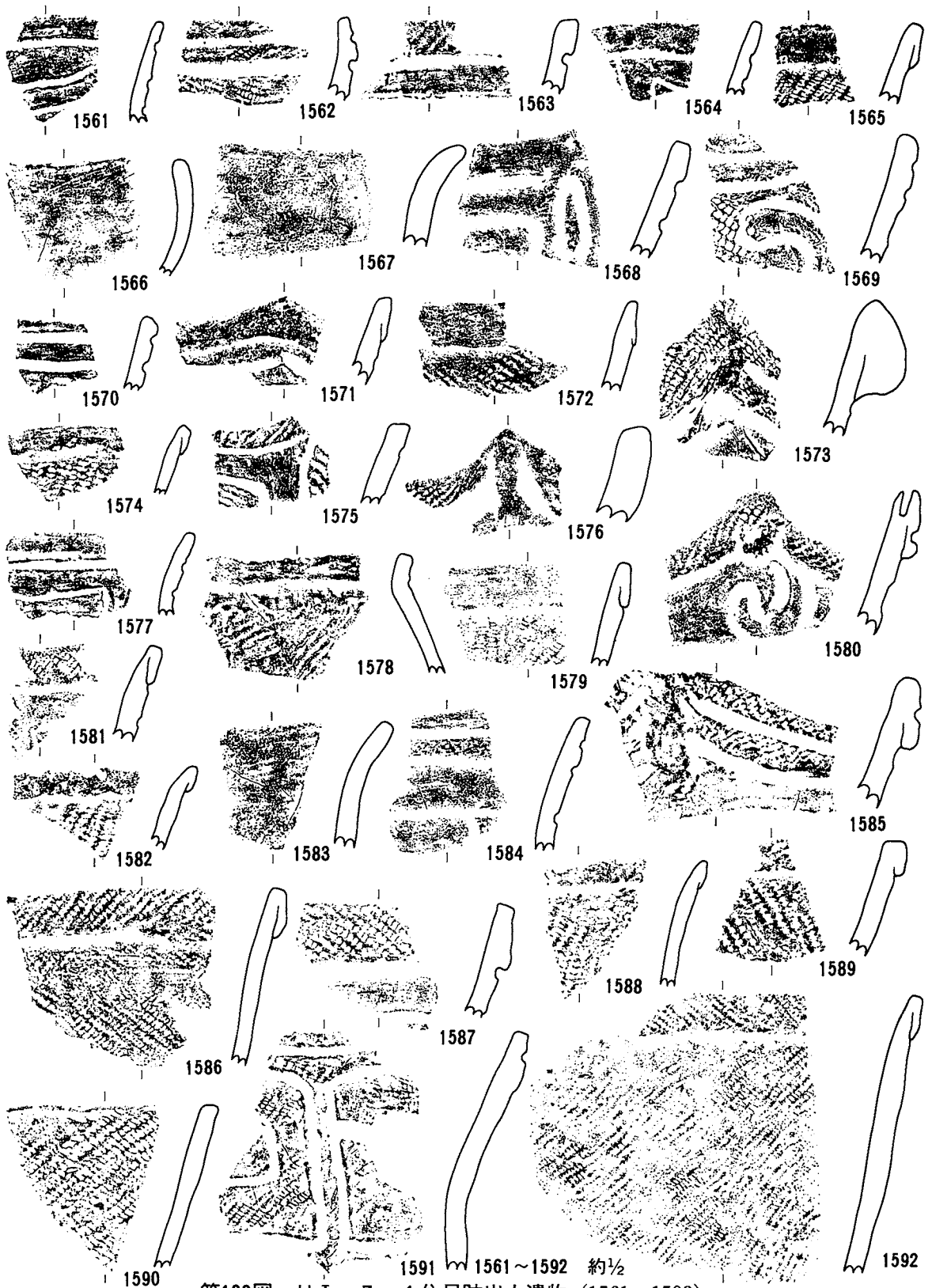
1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 褐色土 (10YR 4/6) 黒色土が斑状に混じる。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2) 褐色土が若干混じる。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2)
5. 黒褐色土 (10YR 3/2) 暗褐色土が斑状に混じる。
6. 暗褐色土 (10YR 3/3) 黒褐色土が混じる。
7. 黒色土 (10YR 2/1)
8. 黒褐色土 (10YR 2/2) 炭化物を含む。

第131図 H I c 7-2 住居跡 (平・断面 S = 1/40)

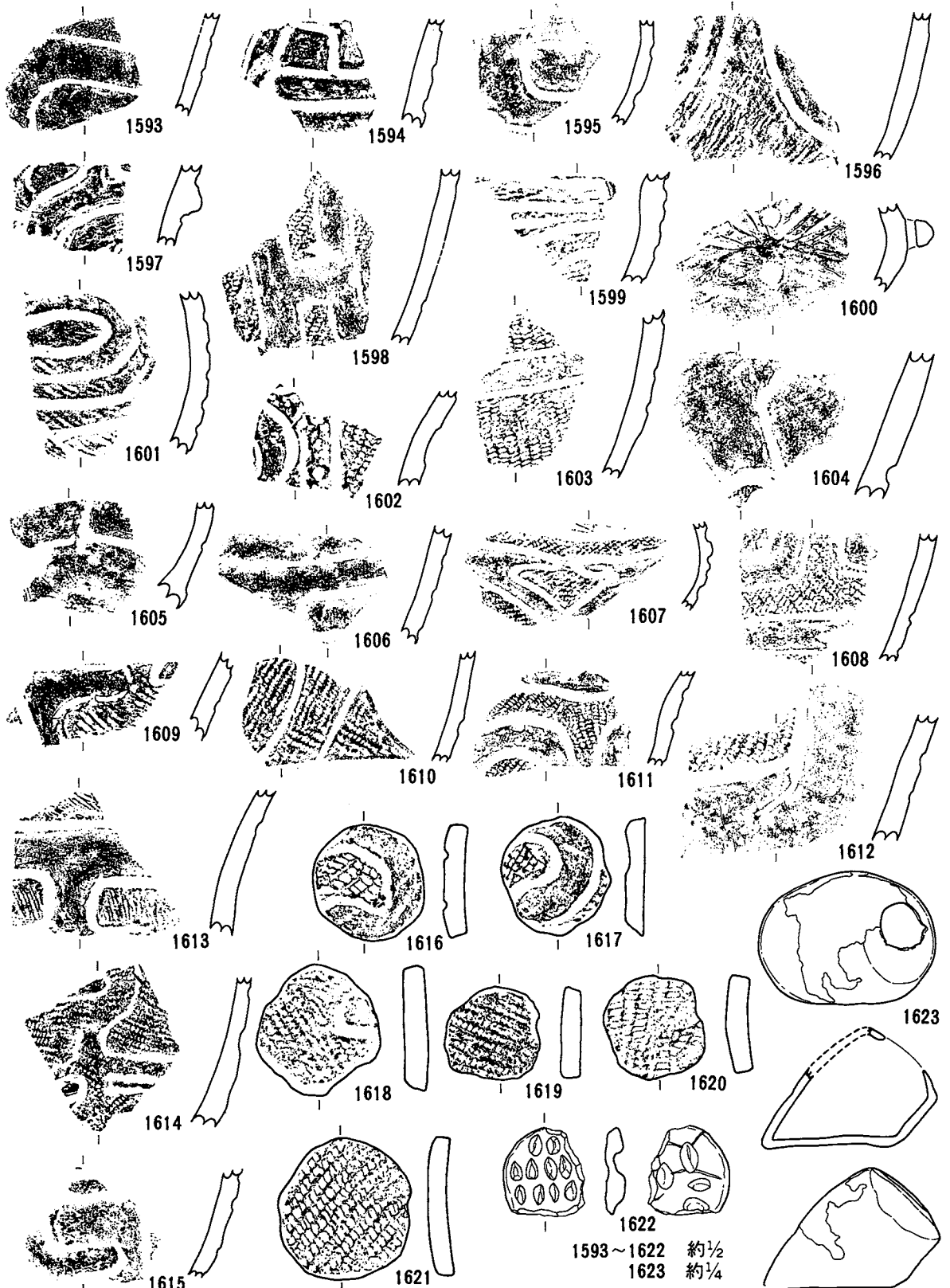


第132図 H I c 7 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1540~1560)

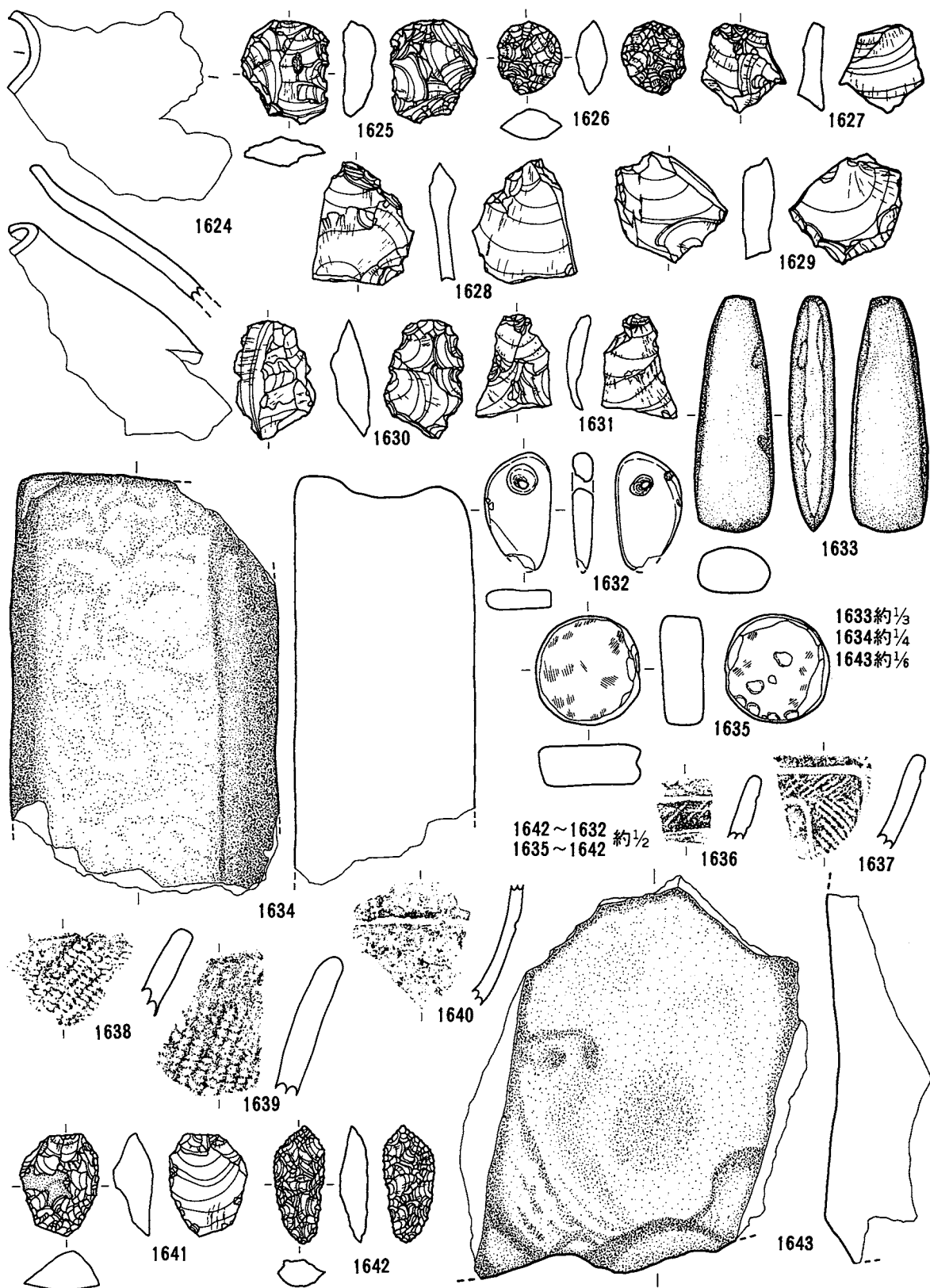




第133圖 H I c 7 - 1 住居跡出土遺物 (1561~1592)



第134図 H I c 7 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1593~1623)



第135図 H I c 7 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1624~1635)

H I c 7 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号1636~1643)

柱穴は3本検出されている。

出土遺物（第137～138図、写真図版145～147）

1644～1679の土器と、1680～1683の土製品、1684～1695の石器が出土している。これらのうち1644・1645・1678が床相当面から、その他が埋土から出土したものである。1644・1645は小型深鉢形土器の口縁部破片で長楕円状の曲線文が施文されている。1648は器高6.1cmの鉢形土器で、波状口縁を呈し、体部に平行曲線文が施文されている。1654は山形口縁を呈する深鉢形土器で、長方形状と曲線状の文様が施文されている。1678は器高4.1cmのミニチュア土器である。1679は無文の蓋付土器である。1680～1683は円盤状土製品で、1680～1682は粗製土器片を、1683は精製土器片を再利用したものである。

石器のうち、1684は両端に打撃痕と剝離痕が認められるところから楔形石器と思われる。1686・1687は石錐である。1688～1690は搔器、1685・1691・1692は剥片石器である。1693は欠損した磨製石斧、1694・1695は凹石である。

遺構の時期

床相当面から出土した土器から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

## H II a 2 - 1 住居跡

遺 構（第139図、写真図版48）

この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面中央部に位置し、H II a 2 - 2 住居跡が廃絶された後にその上面に構築されたものである。検出されたのは斜面上方にあたる北西側約3分の1である。

平面形は検出された壁のあり方から、円形から隅丸方形を呈するものと推定される。規模は長軸の開口部で径4.7m前後のものと推定される。埋土は主に黒褐色土で構成される。壁高は北西壁で40cmである。

床面はほぼ平坦である。炉は地床炉で、中央部からやや南西に位置するが、流失及び攪乱のため約半分を失っている。その規模は径80cm前後の不整形を呈するものと推定される。炉内部には炭化物と焼土が混在しているものの、純然たる焼成層厚は認められない。

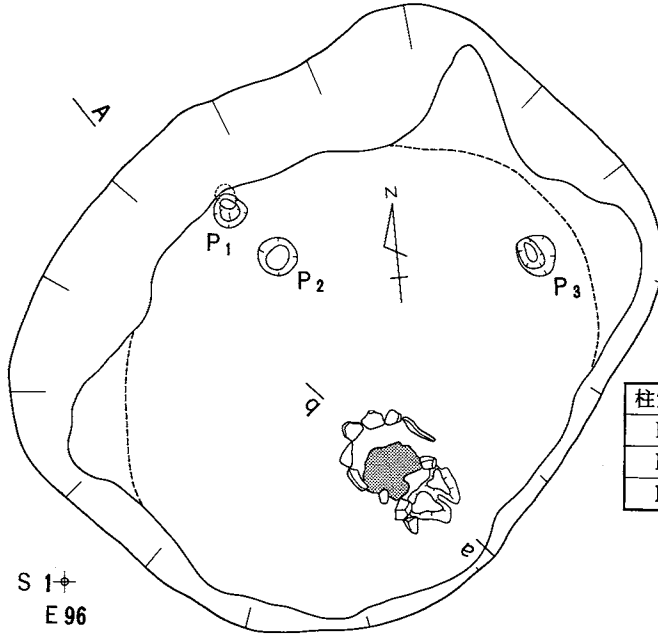
出土遺物（第139図 写真図版147）

1696～1700の土器と1701・1702の石器が出土している。これらはいずれも埋土から出土したものである。1696は精製深鉢形土器の口縁部破片、1697～1700は体部破片で、いずれにも沈線文が施文されている。

石器のうち1701は有茎石鏃で、基部にアスファルトの付着が認められるものである。1702は搔器である。

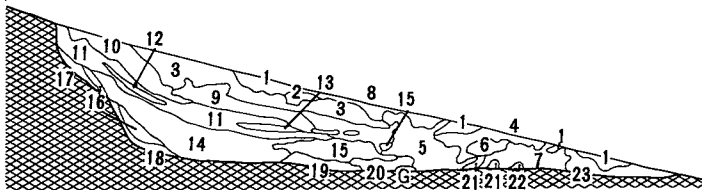
E 96  
N 4

E 101  
N 4



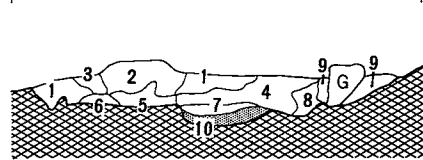
柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	26×27	37
P <sub>2</sub>	29×30	44
P <sub>3</sub>	30×33	42

A L = 267,300M



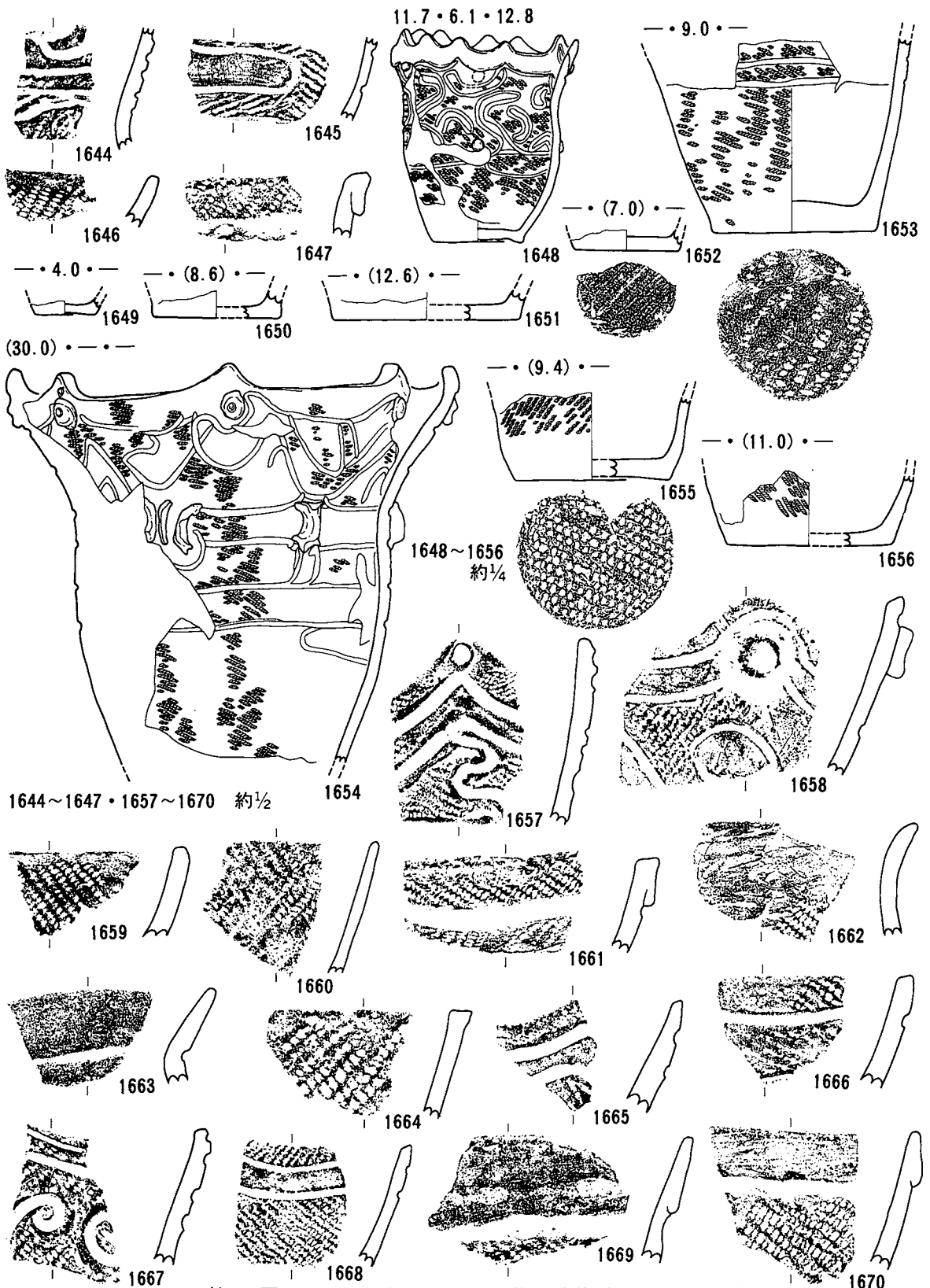
1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 黒褐色土との混土。
3. 暗褐色土 (10YR 3/3~3/4) 黒褐色土との混土。
4. 黒褐色土 (10YR 3/2) 黒褐色土との混土。
5. 黒褐色土 (10YR 3/2) 黒褐色土との混土。
6. 暗褐色土 (10YR 3/3) 黒褐色土との混土。
7. 暗褐色土 (10YR 3/3) 黒褐色土が6よりやや多い。
8. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2)
9. 黒褐色土 (10YR 3/2) 暗褐色土が斑状にはいる。
10. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2) 暗褐色土が斑状にはいる。
11. 黒褐色土 (10YR 2/2) 堅くしまる。
12. 黒褐色土 (10YR 2/2) と褐色土 (10YR 4/4) との混土。
13. 黒色土~黒褐色土 (10YR 2/1~3/1) 細砂質土が混じる。
14. 黒色土 (10YR 1.7/1)
15. 黄褐色土 (10YR 5/6)
16. 黒褐色土 (10YR 2/2)
17. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2)
18. 暗褐色土 (10YR 3/4)
19. 黒褐色土 (10YR 2/2)
20. 暗褐色土 (10YR 3/3~3/4)
21. 黄褐色土 (10YR 5/6) 粘土。
22. 褐色土 (10YR 4/4)
23. 黒褐色土 (10YR 2/2)

a L = 266,200M

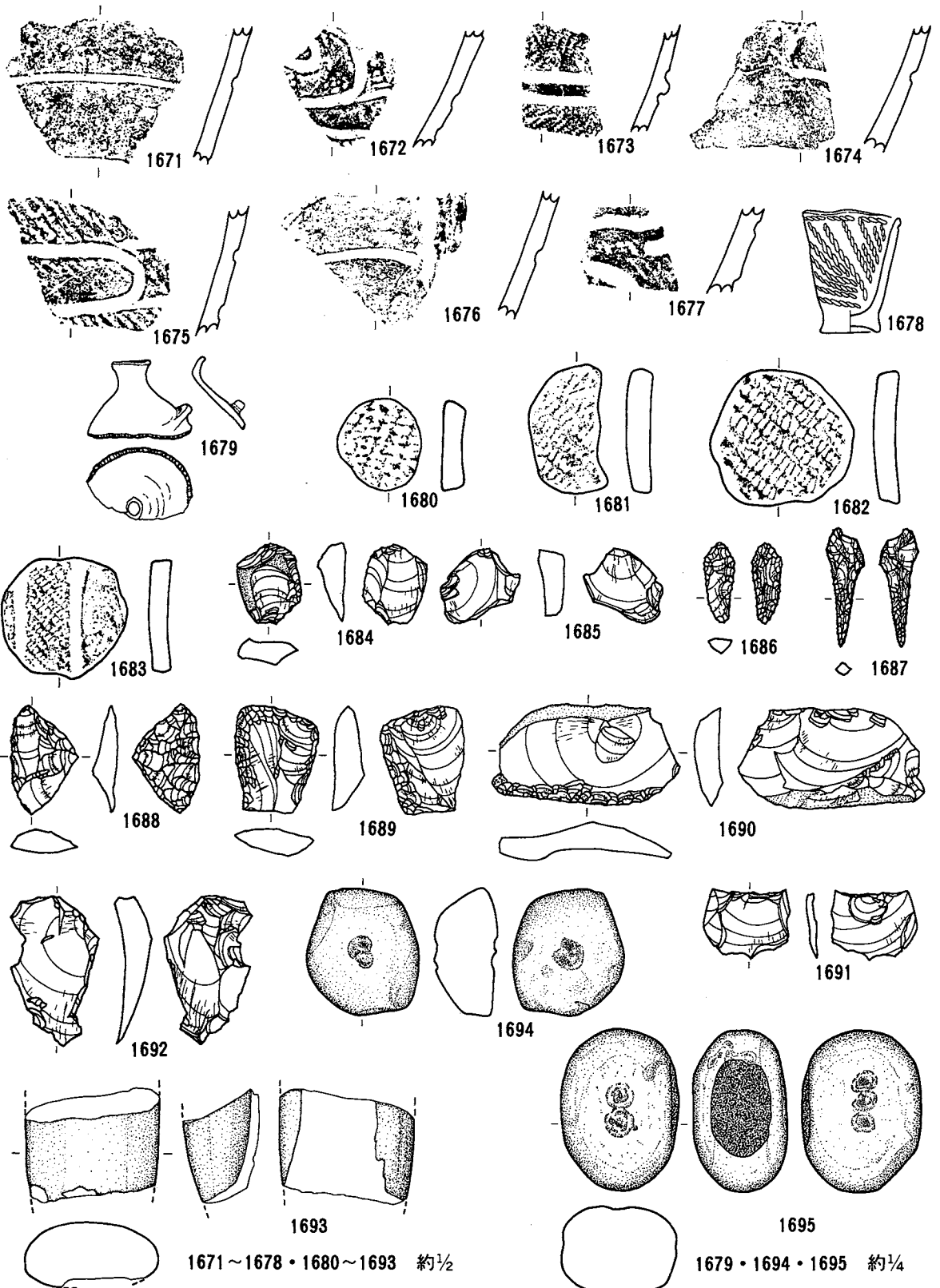


1. にぶい黄褐色土 (10YR 5/3) 汚れた粘土。
2. 黄褐色土 (10YR 5/6) 粘土。
3. 黒褐色土 (10YR 3/2)
4. 暗褐色土 (10YR 3/4) 黒褐色土が斑状に混じる。
5. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2) 炭化物を含む。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2)
7. にぶい褐色土 (7.5YR 5/4) 汚れた焼土。
8. 暗褐色土 (10YR 3/3)
9. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2)
10. 明赤褐色土 (5YR 5/8) 中頸相当の焼土。

第136図 H I c 10住居跡 (平・断面 S = 1/60, 炉断面 S = 1/30)



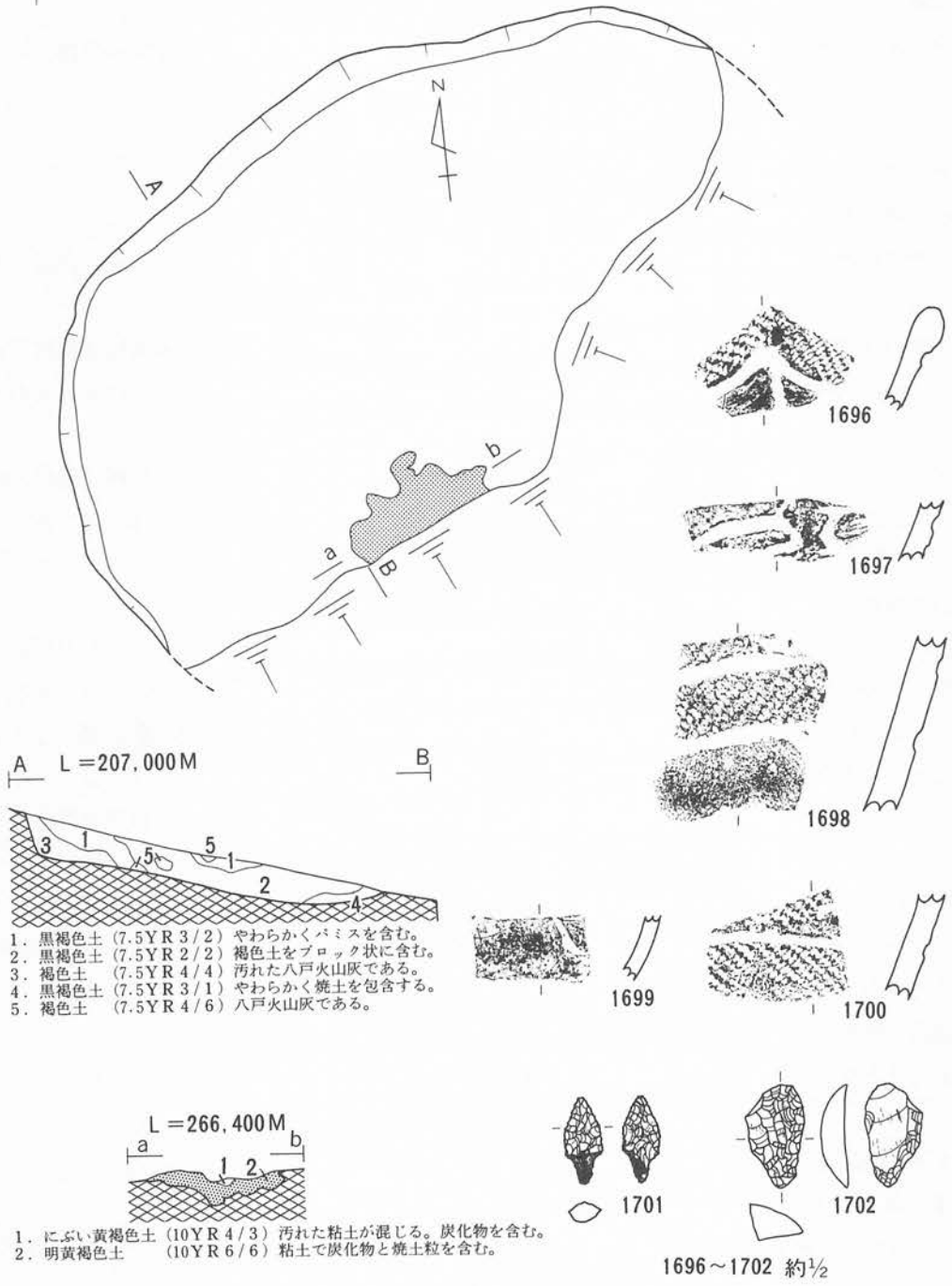
第137図 H I c 10住居跡出土遺物 (遺物番号1644~1670)



第138图 H I c 10住居跡出土遺物 (遺物番号1671~1695)

E 90  
S 3

E 94  
S 3



第139図 H II a 2 - 1 住居跡 (平・断面、炉断面 S = 1/40)  
H II a 2 - 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1696~1702)



### 遺構の時期

埋土から出土した土器と遺構の切り合い関係から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### H II a 2 - 2 住居跡

#### 遺 構 (第140図、写真図版49)

この住居跡はH II a 2 - 1 住居跡の床面下から検出された。当住居跡は前述した住居跡より古いもので、H II a 3 住居跡の北東側を切って構築されている。

平面形は北東から南西に長軸をもつ楕円形状を呈する。斜面下方にあたる南東壁は検出されていない。規模は長軸の最大径で、開口部径6.1m、床面部径5.9mである。埋土は黒色土から黒褐色土、暗褐色土で構成される。壁高は北西壁で77cmである。

床面はほぼ平坦である。炉は地床炉で、中央部から南東寄りに位置する。その規模は径45×65cmの不整形を呈する。炉内部には土器が斜位に埋設されている。焼成最大層厚は14cmである。

柱穴は検出されていない。

#### 出土遺物 (第141～143図、写真図版147～149)

1703～1727の土器と1728の土製品、1729～1736の石器が出土している。これらのうち1703・1729・1731は床面からやや浮いて、1708は炉内から、その他は埋土から出土したものである。1703は底部が欠損した粗製深鉢形土器で、単節斜縄文が施されている。1708は炉内部から出土した土器片が接合されたもので、埋設されていた可能性のあるものである。1714～1716・1718～1725の土器には楕円状から方形の沈線文が施文されている。1728は粗製土器片を再利用した円盤状土製品である。

石器のうち、1729は台付石皿の欠損したものである。1730は有茎石鏃で、基部にアスファルトが付着しているものである。1732は石錐、1733・1734は楔形石器、1731・1735・1736は剥片石器である。

### 遺構の時期

床面直上及び炉内からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### H II a 3 住居跡

#### 遺 構 (第140図、写真図版50)

この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面中央部に位置し、大部分をH II a 2 - 2 住居跡に切られているものである。検出されたのは北西壁と南壁及び床面の一部である。

平面形は検出された壁の形状から方形を呈するものと推定される。規模は不明である。埋土

は黒色土から黒褐色土で構成される。壁高は北西壁で28cmである。

床面はやわらかくほぼ平坦である。南東寄りには角礫2個が埋置されているが、その周囲に焼成痕及び炭化物の分布は認められず、炉の構成礫であるか否か断定できなかった。

#### 出土遺物 (第143図、写真図版149)

1737～1748の土器と1749～1754の石器が出土している。これらはいずれも埋土から出土したものである。1737～1739・1746は粗製深鉢形土器の口縁部破片で、地文に単節斜縄文が施されている。1740～1742・1744・1747・1748は精製土器の破片で、沈線文が施文されているものである。

石器のうち、1749は主に片面から剝離調整の施された石篋、1750・1751は搔器、1752・1753は剝片石器である。1754は1稜辺部と端部に敲打痕のみられるものである。

#### 遺構の時期

遺構の切り合い関係と埋土からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

### H II a 5 住居跡

#### 遺 構 (第144図、写真図版50)

この住居跡は調査区東側尾根の南東側斜面に位置し、H II a 3 住居跡から南側約1mの地点にある。当住居跡床相当面はH II a 3 住居跡の南壁上面より約60cm高くなる。H II a 3 住居跡が廃絶された後にその上面に構築されたものである。検出されたのは石囲い炉のみである。この石囲い炉を中心として半径約3mの北西側には壁と思われる断片的な立ち上がり3ヶ所を確認されたが、攪乱部が多く明確な壁とは断定できかねた。柱穴は検出されていない。

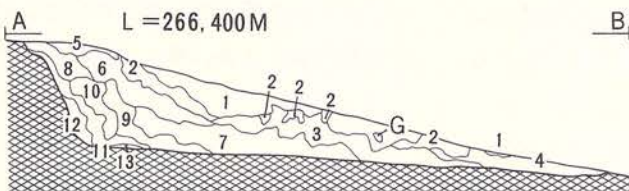
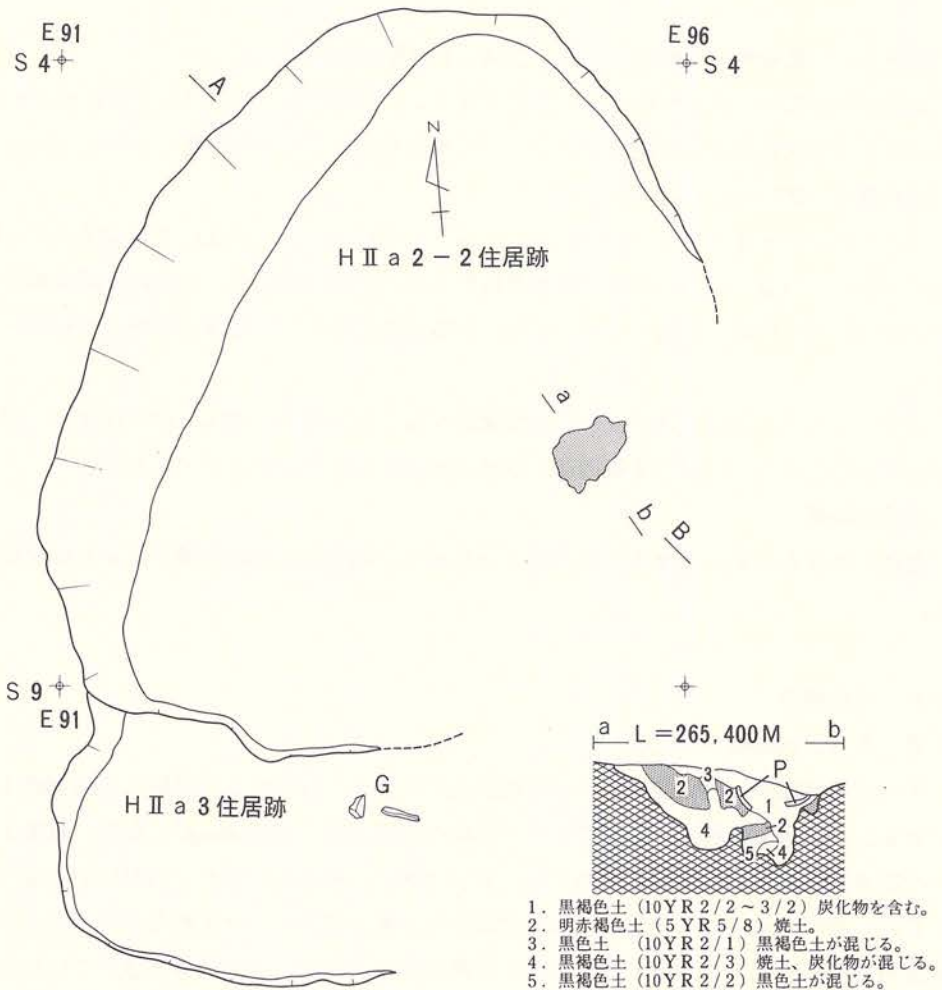
炉は辺35×40cmの規模をもち、3個の角礫を「コ」の字に埋置している。炉内部には土器が埋設されているものの、焼成痕は認められない。炉の南西脇には淡い焼土が35×75cmの不整形に分布するが、その層厚はない。

#### 出土遺物 (第144図、写真図版149～150)

1755・1762の土器と1763～1765の石器が出土している。これらのうち、1755は炉内に埋設されていた土器、その他はいずれも床面相当面から出土したものである。1755は炉の中央に直立に埋設されていた小型深鉢形土器の体部下半で、無文である。1759は鉢形土器の口縁部破片で変形工字文が施文されている。

石器のうち、1763は石錐、1764は円形を呈する搔器、1765は1稜辺部と端部に擦痕のみられるものである。

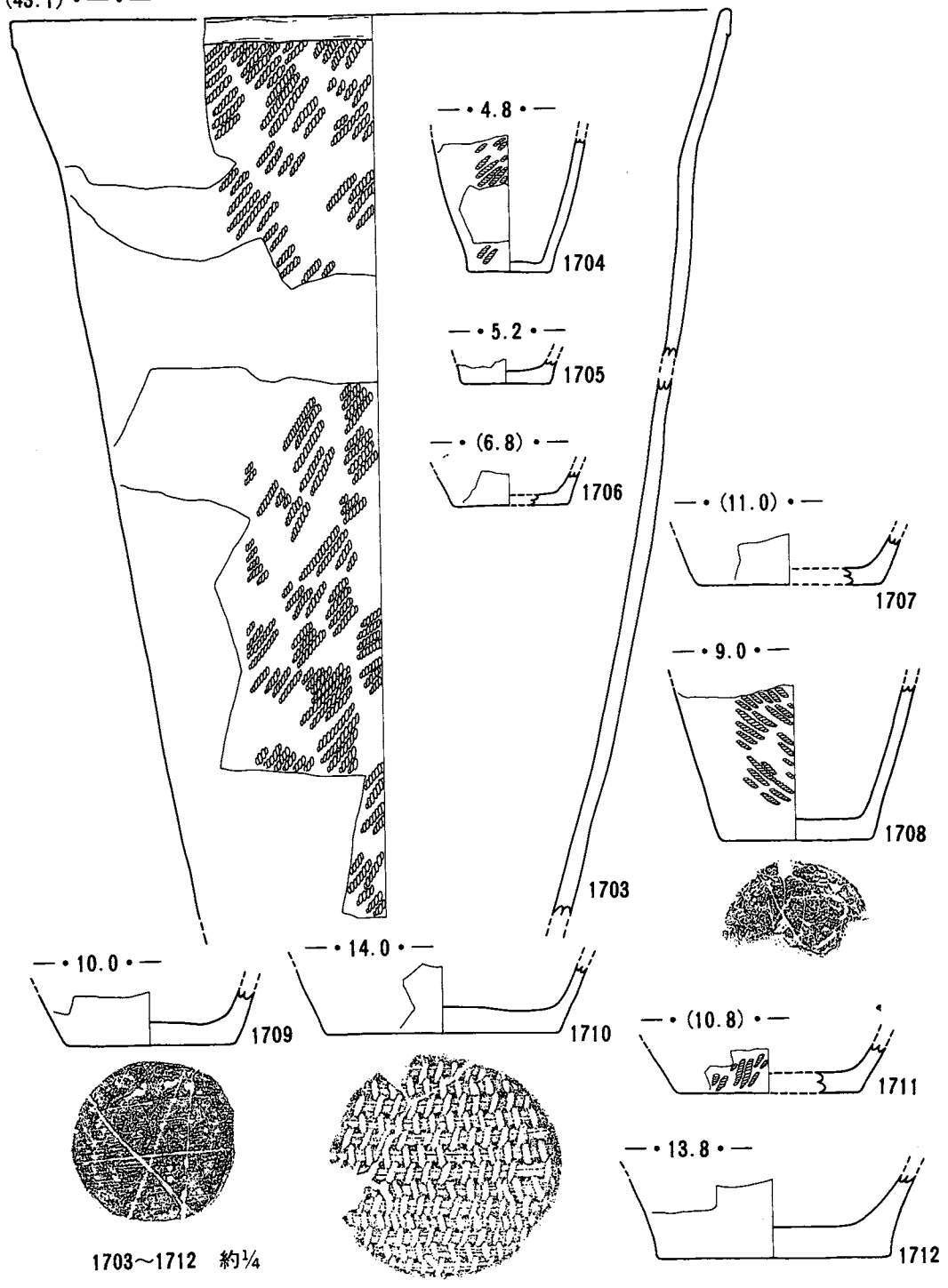
#### 遺構の時期



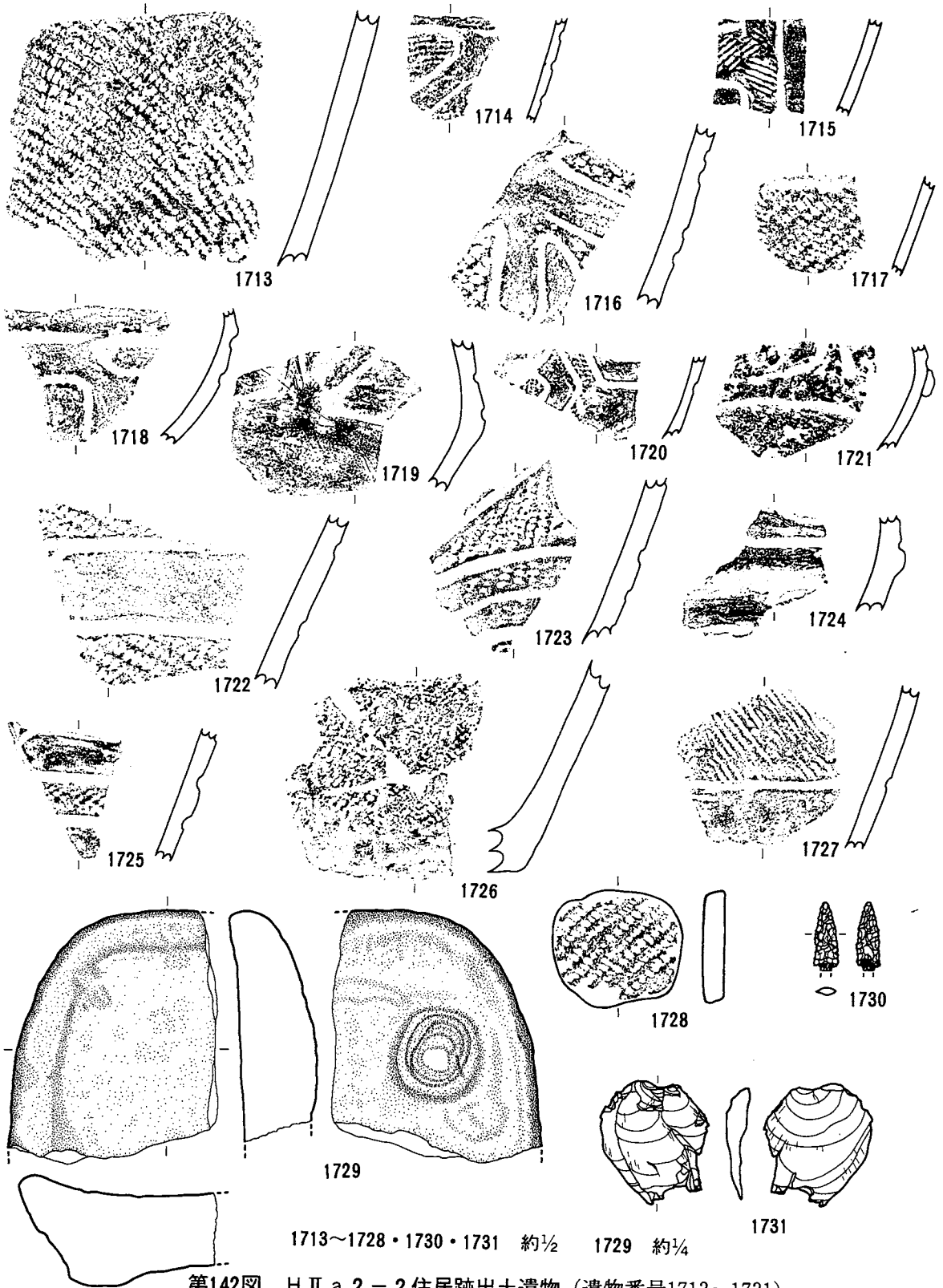
1. 黒色土~黒褐色土 (10YR 2/1~2/2) パミスを若干含む。
2. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) パミスを含む。
3. 暗褐色土 (10YR 3/3) パミスを含む。
4. 黒褐色土 (10YR 2/3) パミスと炭化物を含む。
5. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) と黒褐色土 (10YR 3/2) の混土。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2) パミスを含む。
7. 黒褐色土 (10YR 3/2) パミスと炭化物を含む。
8. 黒褐色土 (10YR 2/2) パミスを含む。
9. 黒褐色土 (10YR 2/2)
10. 暗褐色土 (10YR 3/3) と黒褐色土 (10YR 2/2) の混土。
11. 暗褐色土 (10YR 3/3~3/4) と褐色土 (10YR 4/4) の混土。
12. 褐色土 (10YR 4/6)
13. 褐色土 (10YR 4/6)

第140図 H II a 2-2・H II a 3住居跡 (平・断面S = 1/60, 炉断面S = 1/30)

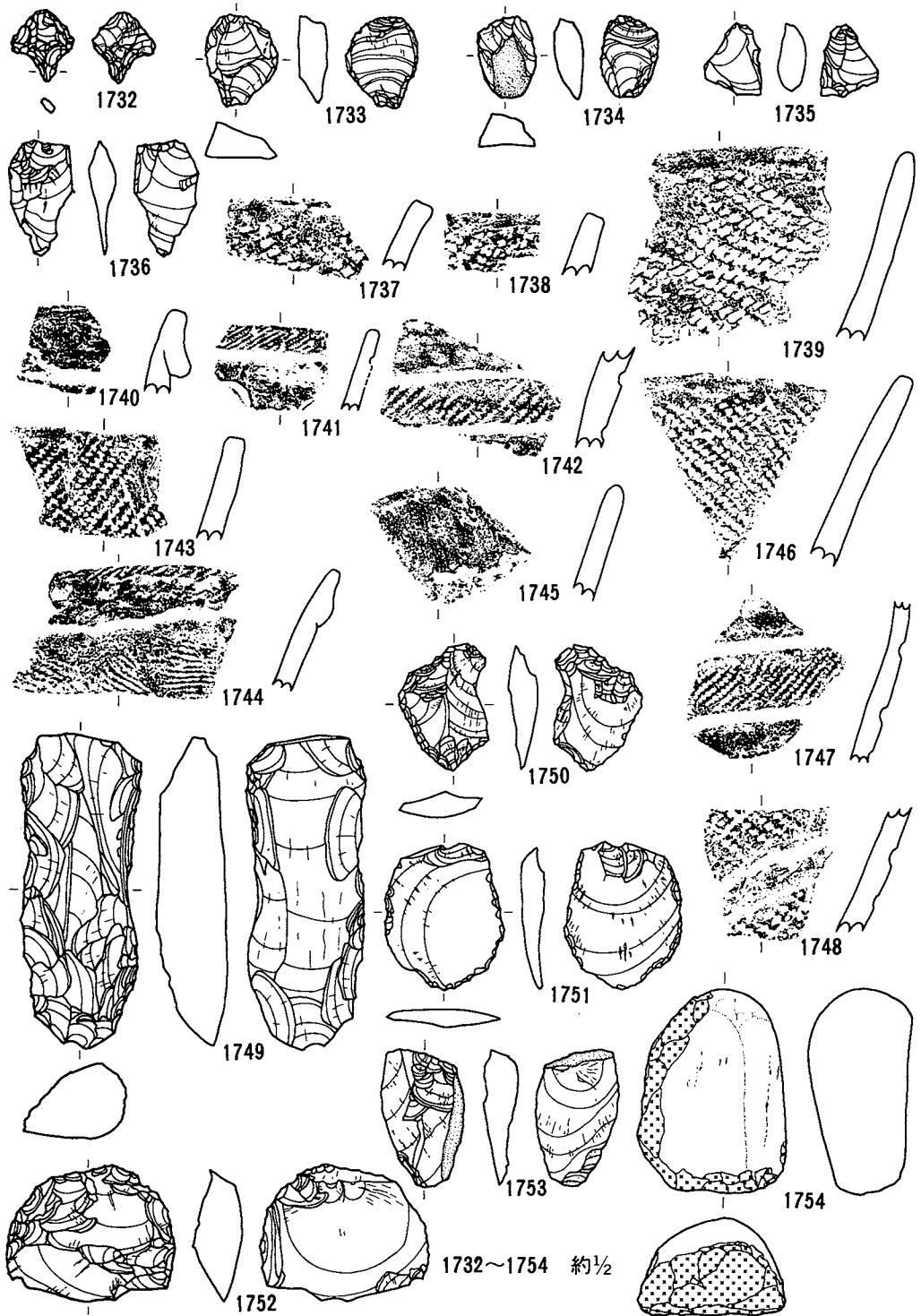
(43.1) ····



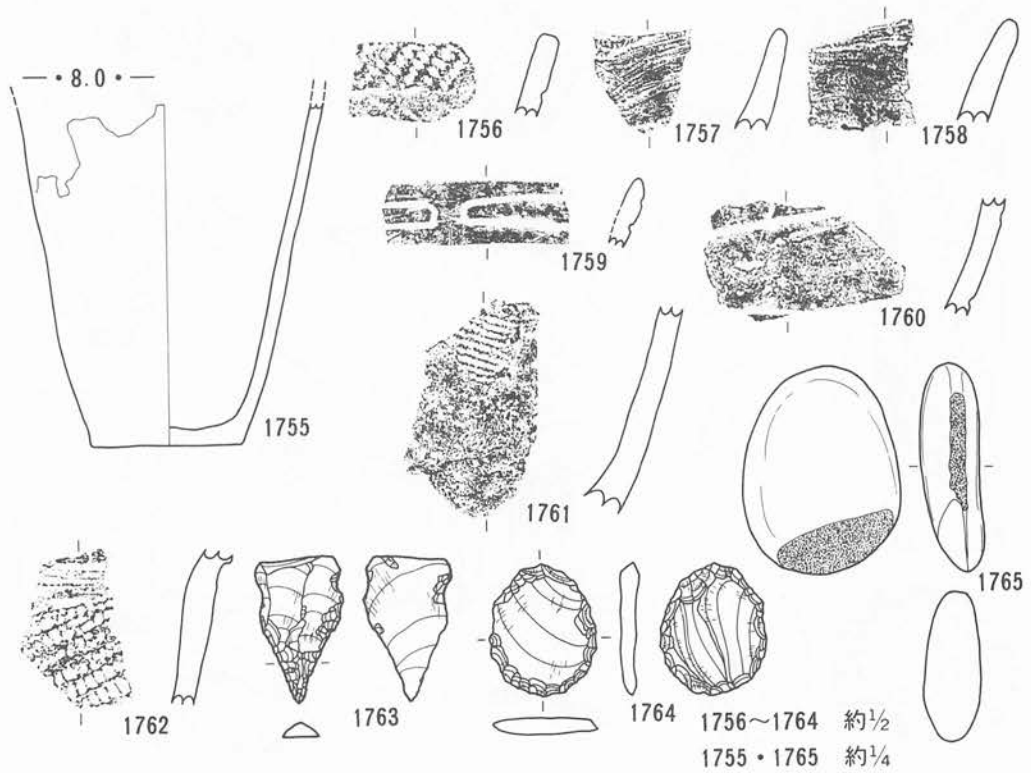
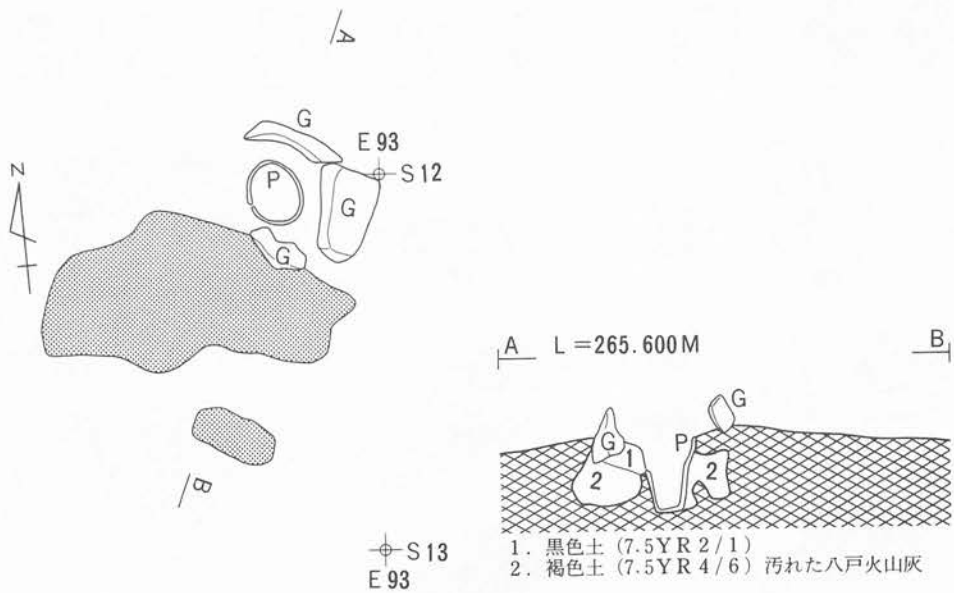
第141図 H II a 2 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号1703~1712)



第142図 H II a 2 - 2 住居跡出土遺物 (遺物番号1713~1731)



第143図 H II a 2 - 2住居跡出土遺物 (遺物番号1732~1736)  
 H II a 3住居跡出土遺物 (遺物番号1737~1754)



第144図 H II a 5 住居跡 (炉平・断面 S = 1/20)  
 H II a 5 住居跡出土遺物 (遺物番号 1755~1765)

床面相当の出土遺物から、弥生時代に位置づけられる可能性が強い。

## H II f 3 住居跡

### 遺 構 (第145図、写真図版51)

この住居跡は調査区東側尾根の南西側斜面、調査区的最東端に位置する。検出されたのは斜面上方の北壁と、炉及び柱穴である。

平面形は検出された壁の形状から円形を呈するものと推定される。規模は開口部径3.4m前後のものと推定される。埋土は中礫浮石の混じる黒色土から黒褐色土で構成される。壁高は北壁で10cmである。

床面は中礫浮石層相当で、ほぼ平坦である。炉は北から南に長軸をもつ楕円形を呈し、外周を粘土で固めているものである。炉内部には土器が斜位に埋設されている。焼成は埋設された土器の下位に形成されている。焼成最大層厚は7mである。

柱穴は7本検出されている。

### 出土遺物 (第145図、写真図版150)

1766～1781の土器が出土している。これらのうち1766は炉内に斜位に埋設されていた土器、その他は床面相当面から出土したものである。1766は口縁部が折り返し状に肥厚する器高24.3cmの粗製深鉢形土器で、底面に、網代痕が認められる。1767～1775・1777・1778は粗製深鉢形土器の口縁部破片である。1780・1781は精製深鉢形土器の体部破片で沈線文のみられるものである。

### 遺構の時期

炉内及び床面相当面から出土した遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

## H III b 1 住居跡

### 遺 構 (第146図、写真図版52)

調査区の南東部にあり、東側尾根の南東側斜面中部に位置する。南半が調査区外に続いている。平面形は隅丸方形を呈する。規模は径2.8m前後の住居跡と思われる。斜面上方に当たる西壁側は床面から約15cmの段差をもって高くなり、最大幅70cmのベット状の段となる。埋土は褐色土、暗褐色土からなり、斜面上方では褐色土が多く、斜面下方に暗褐色土が堆積していた。

床面は斜面下方に傾斜している。壁は緩やかに立ち上がり、斜面下方では立石をもって壁としている。柱穴は支柱穴からなる。P<sub>2</sub>、P<sub>4</sub>は直径13cm、17cmの円形で、深さが19cm、11cmである。北壁際に位置しており支柱穴とみられる。P<sub>3</sub>、P<sub>5</sub>～P<sub>10</sub>は西側に並ぶもので周溝状の壁柱穴とみられる。9～22cmの円形か長円形で、深さが6～12cmと浅くなっている。



#### 出土遺物（第146～147図、写真図版150～151）

1782～1806の土器が出土している。いずれも尖底土器である。これらはいずれも埋土から出土したものである。1782は器高約9.5cmの尖底土器で、波状口縁を呈し、口縁部から底部まで縦位の貝殻腹縁文が施文されている。1783・1789は口縁部破片で、刺突文で区画されて縦位の貝殻腹縁文が施文されている。1793・1795・1800・1804は体部破片で貝殻連続波状文が、1796・1803に貝殻腹縁押し引き文が施文されている。1788・1790・1792・1794は平行する直線や曲線に貝殻腹縁圧痕文を充填させて施文しているものである。

#### 遺構の時期

埋土から出土した遺物から、縄文時代早期に位置づけられる。

## (2)住居跡状遺構

### G II g 3 住居跡状遺構

#### 遺 構（第148図、写真図版53）

この遺構は調査区東側尾根のほぼ中央部に位置し、G II g 3 住居跡に東側を切られているものである。検出されたのは北西壁の一部である。

平面形は検出された壁の形状からほぼ円形を呈する。規模については不明であるが、検出された壁からみて小規模の遺構と推定される。壁は北西壁で22cmである。床面は抜根などでかなり攪乱を受けている。

#### 出土遺物（第148図、写真図版151）

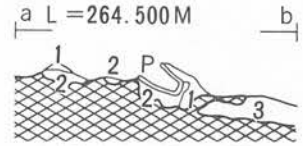
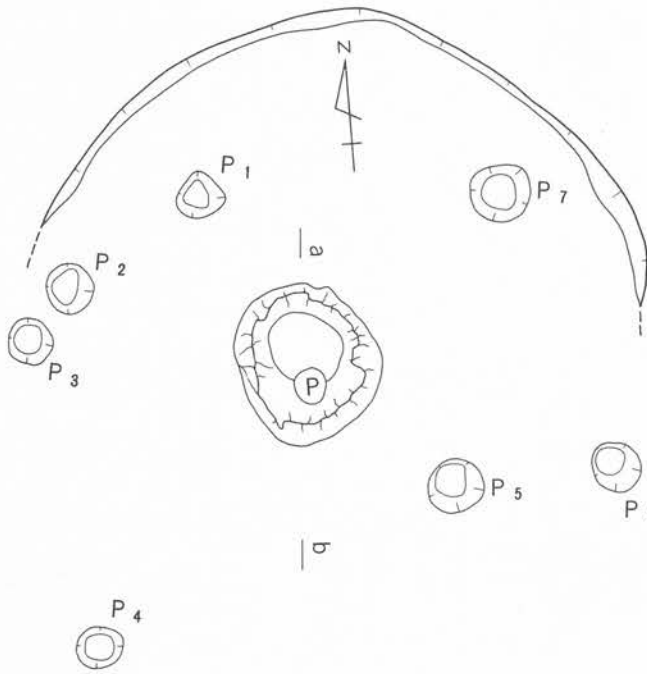
1807～1814の土器が出土している。いずれも埋土から出土したものである。1807～1809は精製深鉢形土器の体部破片で沈線文が施文されている。1810～1814は粗製深鉢形土器の体部破片である。

#### 遺構の時期

埋土及び周囲からの出土遺物から、縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられるものと思われる。

E 105  
S 6

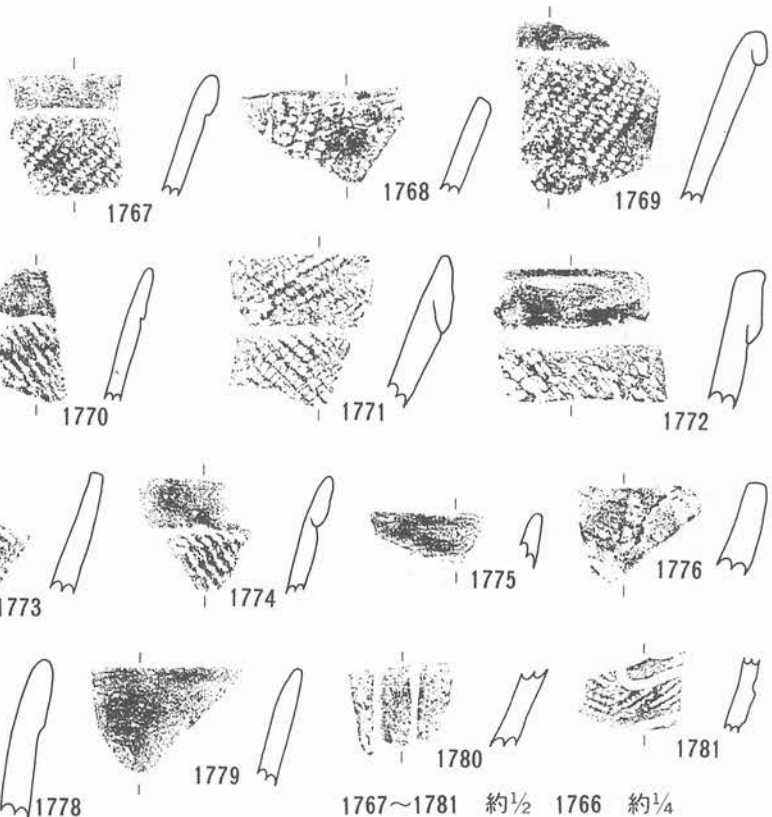
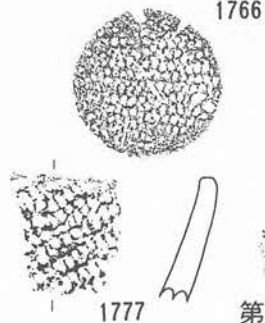
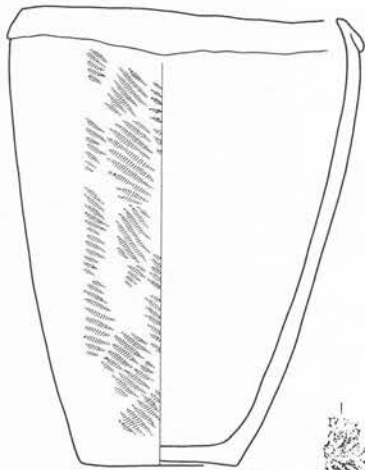
E 108  
S 6



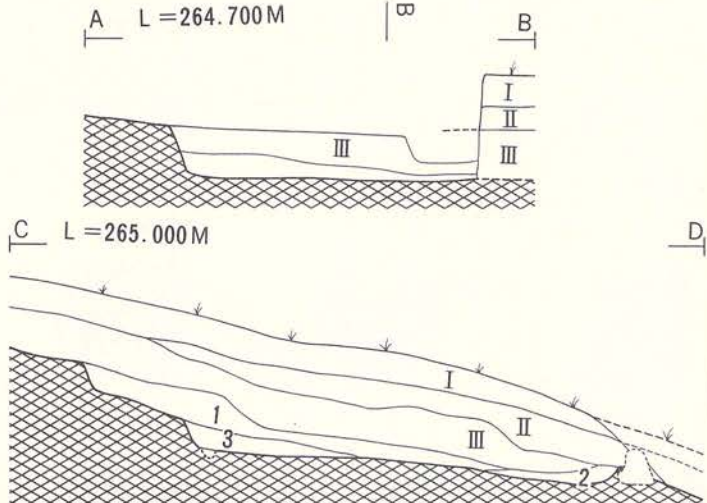
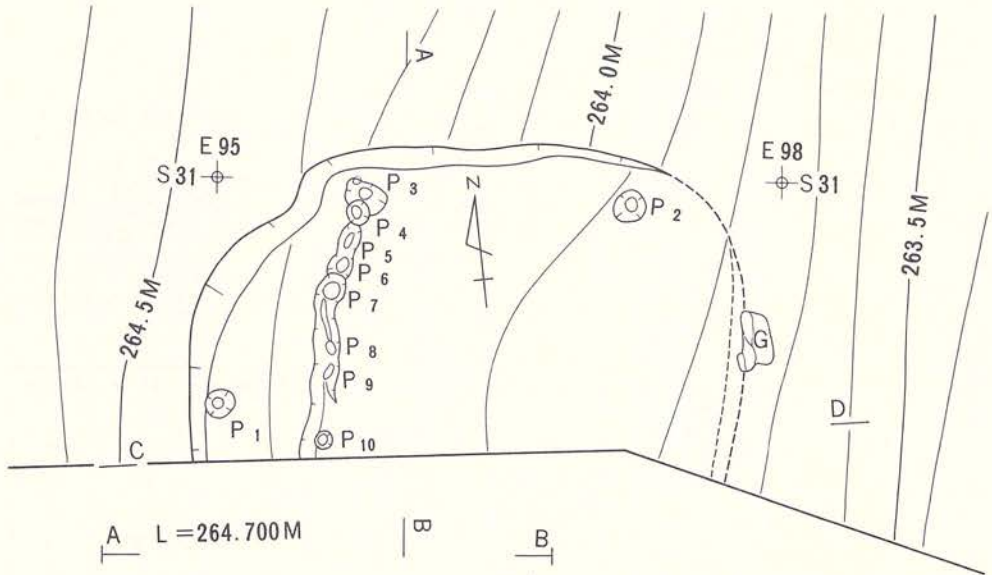
1. 橙色土 (7.5YR 7/6) 粘土。
2. 極暗赤褐色土 (5YR 2/4) 中礫浮石相当の焼土である。
3. 黒褐色土 (7.5) YR 2/2 浮石を含む。

柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	25×25	37
P <sub>2</sub>	25×26	29
P <sub>3</sub>	23×26	26
P <sub>4</sub>	22×25	31
P <sub>5</sub>	28×30	58
P <sub>6</sub>	25×27	54
P <sub>7</sub>	30×31	40

16.8・8.0・24.3

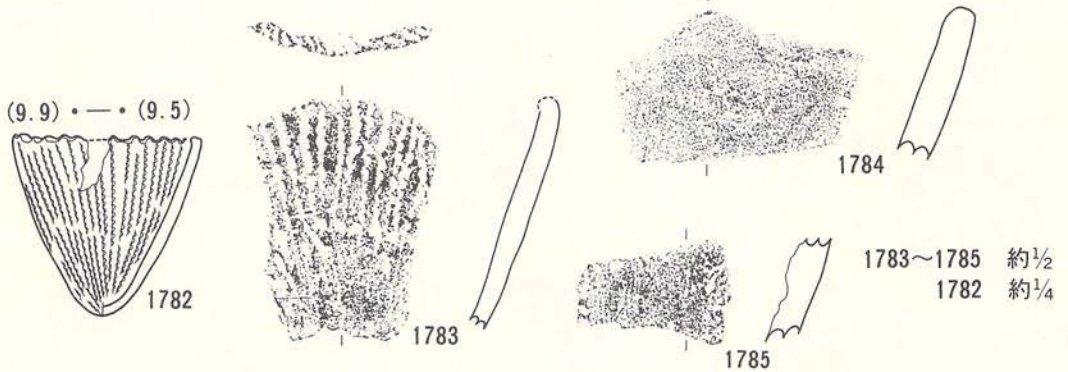


第145図 H II f 3 住居跡 (平面、炉断面 S = 1/40)  
H II f 3 住居跡出土遺物 (遺物番号1766~1781)

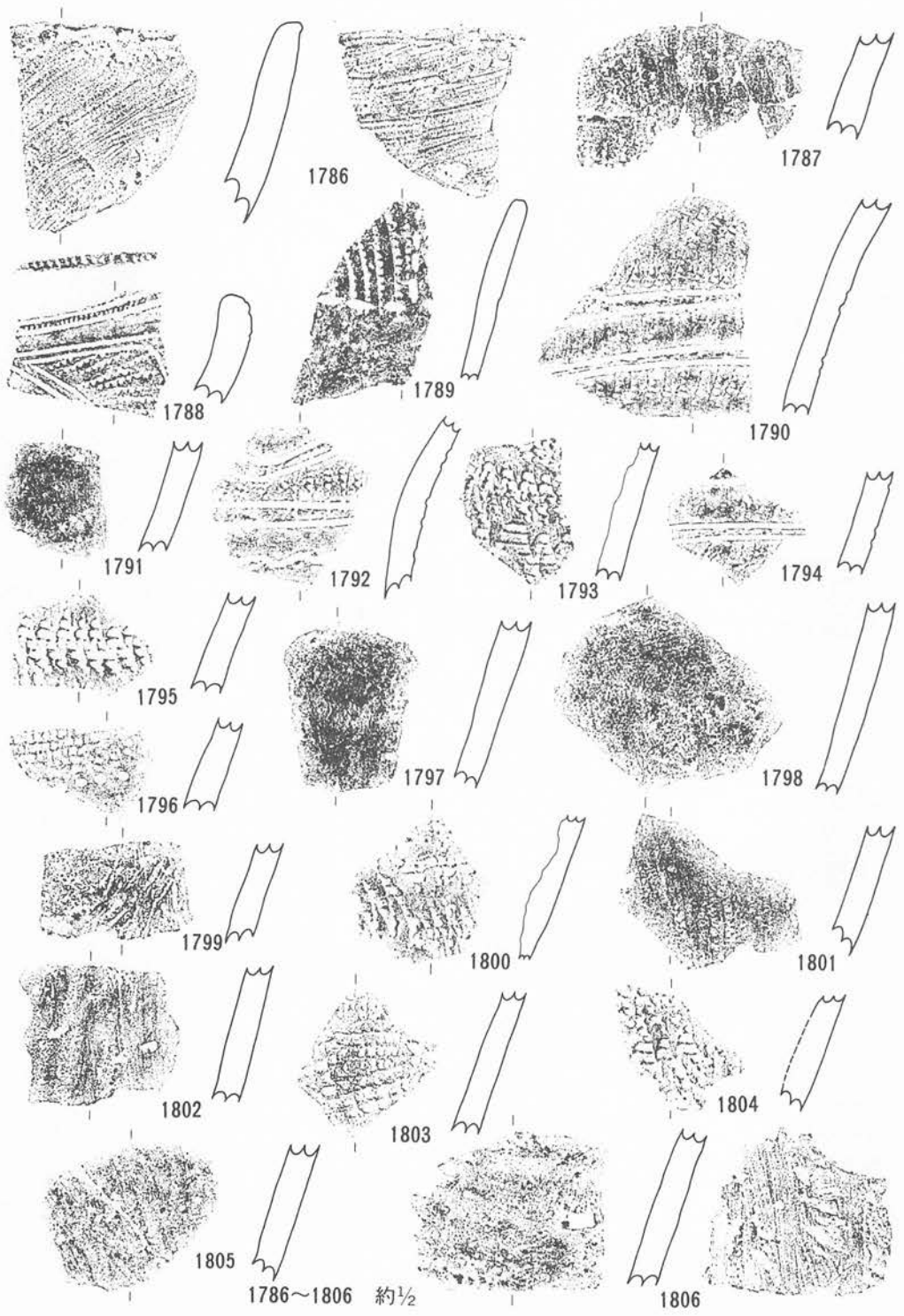


柱穴No.	開口部径cm	深さcm
P <sub>1</sub>	15×14	23
P <sub>2</sub>	17×17	19
P <sub>3</sub>	22×14	7
P <sub>4</sub>	13×11	11
P <sub>5</sub>	15×10	7
P <sub>6</sub>	15×12	7
P <sub>7</sub>	15×14	12
P <sub>8</sub>	15×14	10
P <sub>9</sub>	18×13	10
P <sub>10</sub>	9×9	6

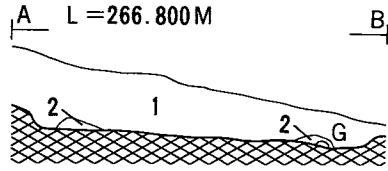
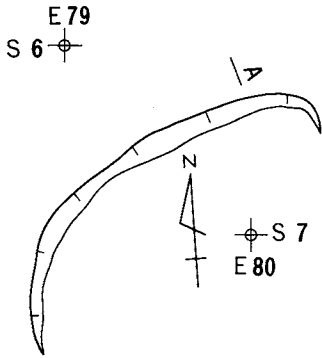
- I. 黒色土 (10YR 2/1) 表土、やわらかい、木根草根が含まれる。  
 II. 黒色土 (10YR 1.7/1)  
 III. 黒褐色土 (10YR 2/3) 中瀬浮石と混入する。  
 1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土、南部浮石起源の浮石粒を含む。  
 2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、黄色火山灰をブロック状に含む。  
 3. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。



第146図 H III b 1 住居跡 (平・断面 S = 1/40)  
 H III b 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1782~1785)



第147図 HⅢb 1 住居跡出土遺物 (遺物番号1786~1806)



1. 暗褐色土 (7.5YR 3/3~3/4) 木根により攪乱を受けている。  
 2. 褐色土 (7.5YR 4/3) 粘土質シルトでやわらかい。



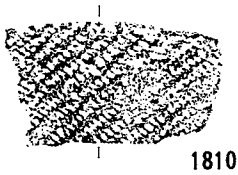
1807



1808



1809



1810



1812



1813



1811



1814

1807~1814 約 $\frac{1}{2}$

第148図 G II g 3 住居跡状遺構 (平・断面 S = 1/40)  
 G II g 3 住居跡状遺構出土遺物 (遺物番号1807~1814)

### (3) 炉・焼土遺構

#### D II g 7 焼土遺構

遺 構 (第149図、写真図版54)

調査区の西部にあり、西側尾根の中部に位置する。D II d 10住居跡の北東12mで、D II h 6ピット、D II i 8ピット等のピット群の中に位置している。検出面は基本土層Ⅱ層の暗褐色土である。

平面形は直径50cmほどの不整な円形で、西側に扁平な自然石が位置している。焼土は焼成が弱く、焼土混土状を呈する。厚さは4cmである。

遺物は得られていない。

#### D II g 10 焼土遺構

遺 構 (第149図、写真図版54)

調査区の西部にあり、西側尾根の中部に位置する。D II d 10住居跡の東8mである。検出面はD II g 7 焼土遺構と同様に基本土層Ⅱ層の暗褐色土である。

平面形は50×45cmの不整な円形を呈する。焼土は厚さ18cmの焼土混土である。

遺物は得られていない。

#### E II e 5 焼土遺構

遺 構 (第149図、写真図版54)

調査区の中央部にあり、西側尾根の南東側斜面中部に位置する。検出面は表土下の黒褐色土である。

平面形は45×38cmの不整な円形で、焼土の厚さが8cmである。焼土は上面の焼成が強く橙色を呈し、明らかに現地性焼土である。柱穴等の関連施設は確認されなかった。

遺物は得られていない。

#### G I i 6 焼土遺構

遺 構 (第149図、写真図版54)

この遺構は調査区東側の北端に位置する。焼土は27×55cmの方形状の範囲に分布する。焼成最大層厚は10cmである。

遺物は得られていない。

## G II h 6 焼土遺構

### 遺 構 (第149図、写真図版55)

この遺構は調査区東側のG II g 5住居跡の東壁から約50cmに位置する。焼土は15×20cmの角礫を伴い、径30×80cmの不整形の範囲に分布する。焼成最大層厚は11cmである。

### 出土遺物 (第150図、写真図版151～152)

焼土に混じって1815～1821の土器と1822～1824の石器が出土している。1815～1817は小型の精製深鉢形土器か鉢形土器で、沈線文が施文されている。1818は壺形土器の体部破片で沈線文が施文されている。1819～1821は精製深鉢形土器の体部破片である。1822～1824いずれも剝片石器である。

## H II c 1 焼土遺構

### 遺 構 (第149図、写真図版55)

この遺構は調査区東端のH I c 10住居跡の南側に位置する。焼土は炭化物を伴い、径30×65cmの範囲に分布するが、焼成層厚を形成するのは部分的にすぎない。焼成最大層厚は5cmである。

遺物は得られていない。

## H II c 2 焼土遺構

### 遺 構 (第149図、写真図版55)

この遺構は調査区東端のH I c 10住居跡の南側に位置する。焼土は炭化物を伴い、径20×35cmの範囲に分布するが、焼成層厚を形成するのは部分的に過ぎない。焼成最大層厚は5cmである。

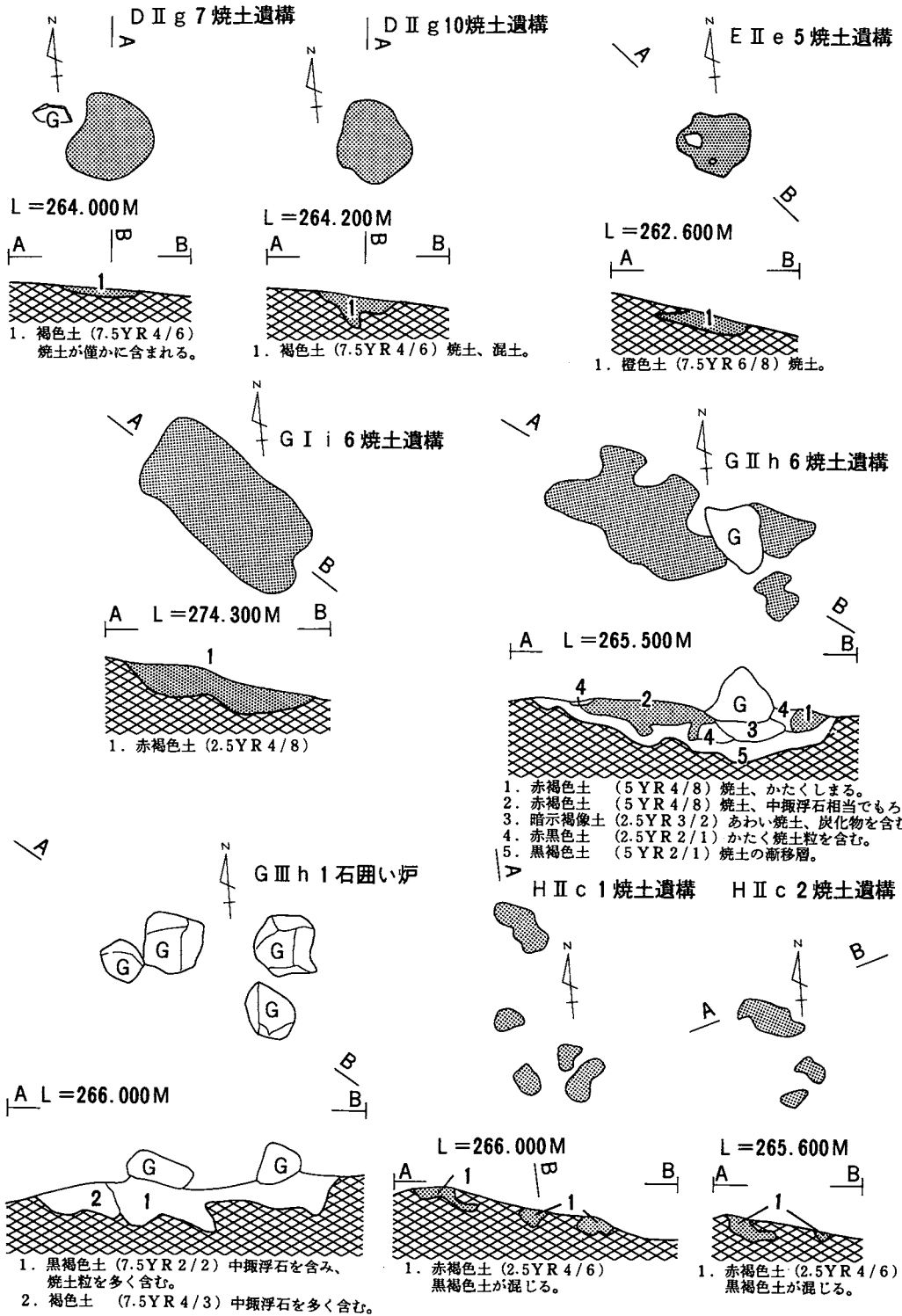
遺物は得られていない。

## G III h 1 石囲い炉

### 遺 構 (第149図、写真図版55)

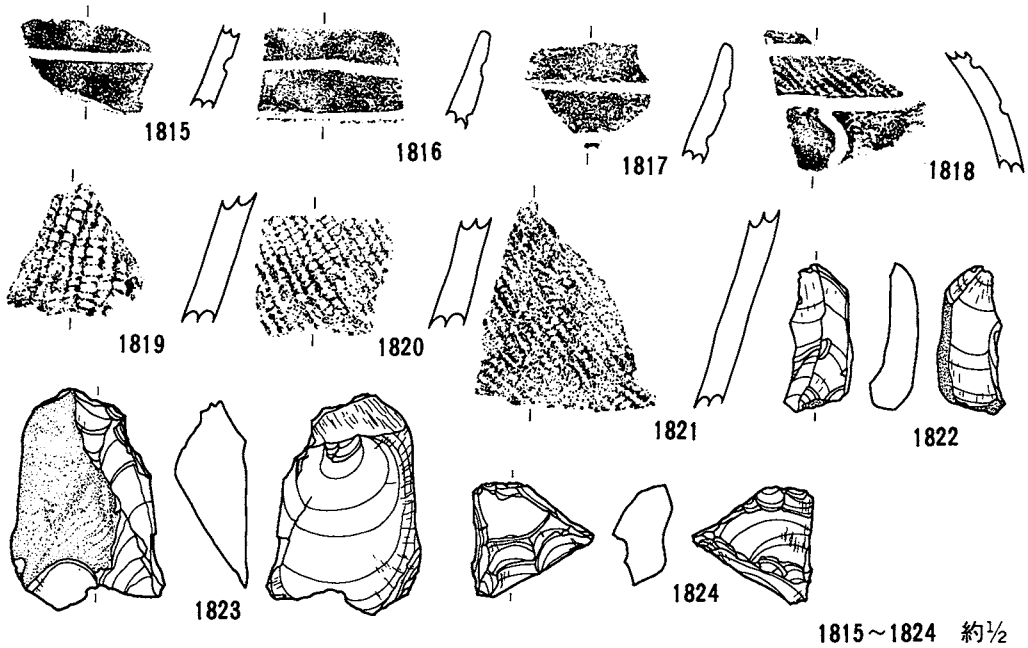
この遺構は調査区東側の南端に位置する。規模は径40×55cmで、角礫4個を埋置している。内部には焼土粒・炭化物が分布するものの、焼成痕は認められない。

遺物は得られていない。



第149図 炉・焼土遺構 (炉平・断面 S = 1/20)





第150図 G II h 6 焼土遺構出土遺物（遺物番号1815~1824）

#### (4) ピット

##### D I d 7ピット

遺構（第151図、写真図版56）

本遺構は西側尾根の南西斜面上部に位置する。開口部は斜面上部側がやや崩落し不整形であるが、頸部及び底部は円形である。断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径75cm、頸部径65cm、底部径118cm、深さ137cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、黒色土及び壁の崩落土とおもわれる褐色土の4層に大別される。堆積状況は崩落土を除くとほぼ水平化しているが、埋土の観察からみれば自然堆積と考えられる。壁は底部から頸部に向かってほぼ直線的に内傾し、頸部から開口部にかけて緩く外傾する。底部は水平である。

遺物は得られていない。

##### D I e 10ピット

遺構（第151図、写真図版56）

本遺構は西側尾根の南西傾斜面上部に位置する。開口部は楕円形、断面形はピーカー状を呈する。規模は開口部、底部とも径220×300cm、深さ160cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、及び壁の崩落とおもわれる褐色土の3層に大別される。堆積状況は崩落土を除くとU字状に堆積しており自然堆積と考えられる。壁は底部から開口部に向かってほぼ直線的に立ち上がる。底部は斜面の下位側に凹凸をもち、傾斜する。埋土の様子から、近世の土取り穴と思われる。

#### 出土遺物 (第159図、写真図版152)

1825の壺形土器の体部破片が埋土上位から出土している。体部の最脹部に平行する沈線文がみられるものである。

### D I g 6ピット

#### 遺 構 (第152図、写真図版56)

本遺構は西側尾根の南西側斜面最上部に位置する。上部は削剝されている。平面形はやや不整な円形である。断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径115cm、底部径130cm、深さ30cmである。埋土はほとんど黒褐色土であるが、色調やしまりで4層に細別される。堆積状況は崩落土を除くとほぼ水平化しているが、自然堆積か人為堆積かは不明である。壁は底部から開口部に向かってほぼ直線的に内傾する。底部は水平である。

遺物は得られていない。

### D II e 3ピット

#### 遺 構 (第152図、写真図版57)

本遺構は西側尾根の南西側斜面上部に位置する。開口部は斜面下部側がやや不整形であるが、底部とも円形である。断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径80×95cm、頸部径70×85cm、底部径135cm、深さ100cmである。埋土は暗褐色土、黒褐色土、及び壁の崩落土とおもわれる褐色土の3層に大別される。自然堆積である。壁は底部から頸部に向かってほぼ直線的に内傾するが、斜面上位側はやや崩落がみられ多少急角度に立ち上がる。頸部から開口部にかけてはほぼ直立する。底部は水平である。深さ13cmの副穴1個をもつ。

遺物は得られていない。

### D II e 8-1ピット

#### 遺 構 (第152図、写真図版57)

本遺構は西側尾根の中部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。開口部は円形であるが、底部は隅丸方形状である。断面形はピーカー状を呈する。規模は開口部径70cm、底部

径55cm、深さ35cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、及び壁の崩落土とおもわれる褐色土の3層に大別される。壁は底部から開口部に向かってやや内湾するように立ち上がる。底部は水平である。

遺物は得られていない。

#### D II e 8 - 2ピット

遺構 (第153図、写真図版57)

本遺構は西側尾根の中部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。平面形はやや不整な円形である。断面形は底部が若干広がるがピーカー状を呈する。規模は開口部径60cm、底部径90cm、深さ50cmである。埋土は黒褐色土と壁の崩落土とおもわれる褐色土の2層に大別される。壁は底部がやや膨らみ、内湾気味に立ち上がる。底部は若干の凹凸がみられるが水平である。

遺物は得られていない。

#### D II f 9ピット

遺構 (第153図、写真図版57)

本遺構は西側尾根の中部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。平面形は楕円形である。断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径90×108cm、底部径150cm、深さ70cmである。埋土は黒褐色土と黒色土及び壁の崩落土とおもわれる褐色土の3層に大別される。堆積状況はほぼ水平化しているが、埋土の観察からすれば自然堆積と考えられる。一部の壁は著しくオーバーハングする。底部は斜面に沿って傾斜する。底面の一部に窪みがある。

遺物は得られていない。

#### D II h 6ピット

遺構 (第153図、写真図版58)

本遺構は西側尾根の中部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。平面形は円形である。断面形は皿状を呈する。規模は開口部径185cm、底部径175cm、深さ20cmである。埋土は黒色土の単層である。壁は斜面上位側は立ち上がるが、下位側は削剝されている。底部は斜面に沿って傾斜する。

遺物は得られていない。

#### D II h 10ピット

### 遺 構 (第154図、写真図版58)

本遺構は西側尾根の中部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。やや崩壊し不整形であるが、平面形は円形である。断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径190cm、頸部径155cm、底部径175cm、深さ95cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、黒色土及び壁の崩落土とおもわれる褐色土の4層に大別される。U字状の自然堆積である。壁は底部から頸部に向かってほぼ直線的に内傾するが、上位は崩壊のため外反気味に立ち上がる。底部は水平である。

#### 出土遺物

1826の剝片石器が埋土上位から出土している。

### D II i 8 ピット

#### 遺 構 (第154図、写真図版58)

本遺構は西側尾根の中部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。平面形は円形、断面形は頸部のないフラスコ状を呈する。規模は開口部径110cm、底部径135cm、深さ45cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、黒色土及び褐色土の4層に大別される。自然堆積と考えられる。壁は一部を除いて底部から開口部に向かってほぼ直線的に内傾する。底部は水平である。遺物は得られていない。

### D III a 9 ピット

#### 遺 構 (第154図、写真図版58)

本遺構は西側尾根の南西斜面下部に位置する。周囲は耕作地造成にともない大きく削剝されている。平面形は円形、断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径135cm、底部径145cm、深さ30cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、褐色土及び壁の崩落土とおもわれる黄褐色土の4層に大別される。自然堆積と考えられる。壁は底部から頸部に向かってほぼ直線的に内傾する。底部は水平である。

遺物は得られていない。

### D III f 4 ピット

#### 遺 構 (第155図、写真図版59)

本遺構は西側尾根の下部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。開口部は卵形、底部は円形である。断面形はフラスコ状を呈する。規模は開口部径70×100cm、頸部径60×90cm、底部径130cm、深さ90cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、黒色土及び壁の崩落土とおもわれる黄褐色土の4層に大別される。堆積状況はU字状の自然堆積である。壁は内湾ぎみに

オーバーハングする。底部は中央がやや低くなる。底面中央よりやや偏したところから、深さ15cmの副穴1個が検出された。

遺物は得られていない。

#### D III j 4ピット

遺構 (第155図、写真図版59)

本遺構は西側尾根の下部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。平面形は円形、断面形は皿状を呈する。規模は開口部径165×195cm、底部径155×180cm、深さ15cmである。埋土は黒褐色土の単層である。底部は水平である。

出土遺物 (第159図、写真図版152)

1827の尖底深鉢形土器が埋土から出土している。器高35.8cmの大型の土器で、地文に単節斜縄文が施されている。第II群土器(前期)に属するものである。

#### E I e 10ピット

遺構 (第155図、写真図版59)

本遺構は西側尾根の南東側斜面上部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。平面形は円形、断面形は皿状を呈する。規模は開口部径110cm、底部径95cm、深さ15cmである。埋土は黒褐色土の単層である。壁は斜面の上部で立ち上がるが、下部は削剝されている。底部は水平である。

遺物は得られていない。

#### E II e 1ピット

遺構 (第156図、写真図版60)

本遺構は西側尾根の南東側斜面上部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。調査の下手際から、遺構の半分は掘り過ぎたため細部は不詳である。平面形は楕円形、断面形は皿状を呈する。規模は開口部径80×150cm、底部径60×(120)cm、深さ20cmである。埋土は黒褐色土の単層である。壁は底部からはほぼ直線的に立ち上がる。底部は水平である。

遺物は得られていない。

#### G I b 6ピット

遺構 (第156図、写真図版60)

本遺構は東側尾根の南西側斜面上部に位置する。平面形はやや不整な円形である。断面形は

ビーカー状を呈する。規模は開口部径90×100cm、底部径65×90cm、深さ25cmである。埋土は暗褐色土と褐色土の2層に大別される。自然堆積と思われる。壁は底部からほぼ直線的に立ち上がる。底部は水平である。

遺物は得られていない。

### G II d 3 ピット

遺構 (第156図、写真図版25・60)

本遺構は東側尾根の中部に位置する。G II c 3 住居跡に西壁を切られているが、G II e 3-1 住居跡との先後関係については明確にとらえることができなかったものである。住居跡の床面と本遺構の底面は同一レベルであるが、残存している壁のプランからピットと認定したものである。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。規模は推定で、開口部径105cm、底部径120cm、深さ60cmである。埋土はG II e 3-1 住居跡の埋土と同じである。壁は斜面上位側では八戸火山灰を切ってほぼ直線的に立ち上がるが他は不明である。底部は水平である。

遺物は得られていない。

### G II e 10 ピット

遺構 (第156図、写真図版60)

本遺構は東側尾根の下部に位置する。耕作によって上位は削剝されている。平面形は円形、断面形は頸部がないフラスコ状を呈する。規模は開口部径90cm、底部径100cm、深さ28cmである。埋土は褐色土粒を含む黒色土の単層である。壁は底部から開口部に向かってほぼ直線的に内傾する。底部は水平である。

遺物は得られていない。

### G II h 2-1 ピット

遺構 (第157図、写真図版60)

本遺構は東側尾根の上部に位置する。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。規模は開口部径80cm、底部径60cm、深さ40cmである。埋土は黒褐色土、焼土粒を含む褐色土、及び明褐色土の3層に大別される。壁は斜面上位側では八戸火山灰を深く掘り込むが下位側は浅く、流失した可能性もある。底部は水平である。

遺物は得られていない。

### G II h 2-2 ピット

#### 遺 構 (第157図、写真図版60)

本遺構は東側尾根の上部に位置し、G II h 2 - 1 ピットに隣接する。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。規模は開口部径65cm、底部径60cm、深さ35cmである。埋土はG II h 2 - 1 ピットと同じである。斜面下位の壁はほとんど流失している。底部は中央部がやや低くなる鍋底である。

遺物は得られていない。

#### G II i 7 ピット

##### 遺 構 (第157図、写真図版61)

本遺構は東側尾根の下部に位置する。G II i 7 陥し穴によって中央部を、G II i 7 住居跡によって上部を切られる。また、埋土の一部はG II i 7 住居跡に伴うピットによって切られる。平面形は攪乱や崩壊のためやや不整形をなすが、本来は円形を呈するものと思われる。断面形は頸部のないフラスコ状を呈する。規模は開口部径100cm、底部径118cm、深さ60cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土、及び黒色土の3層に大別される。壁は底部から開口部に向かってほぼ直線的に内傾する。底部は水平である。

##### 出土遺物 (第159図、写真図版152)

1828~1834の土器が埋土から出土している。1830・1833は精製深鉢形土器で、1830には平行沈線が、1833には曲線文が施文されている。1828・1829・1831・1832・1834は粗製土器である。

#### G II i 9 ピット

##### 遺 構 (第157図、写真図版61)

本遺構は東側尾根の下部に位置する。G II h 9 住居跡の北東壁を切っているものである。平面形は円形、断面形は皿状を呈する。規模は開口部径115cm、底部径95cm、深さ25cmである。埋土は暗褐色土と褐色土の2層に大別される。壁は緩く立ち上がる。底部は水平である。

遺物は得られていない。

#### G II j 9 ピット

##### 遺 構 (第157図、写真図版61)

本遺構は東側尾根の下部に位置する。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。規模は開口部径55cm、底部径35cm、深さ20cmである。埋土は暗褐色土の単層である。壁はほぼ直線的に立ち上がる。底部は水平である。

遺物は得られていない。

## H II a 2-1ピット

### 遺構 (第158図、写真図版61)

本遺構は東側尾根の南東側斜面中部に位置する。H II a 2-2ピットを切る。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。規模は開口部径100cm、底部径85cm、深さ30cmである。埋土はにぶい黄褐色の混土である。壁は底部から開口部に向かってほぼ直線的に立ち上がる。底部は水平である。底面の壁ぎわに2個の副穴が検出される。副穴の先後関係は不明である。

### 出土遺物 (第159図、写真図版152)

1835・1836の土器が埋土から出土している。1835は粗製深鉢形土器の体部破片である。1836は精製深鉢形土器の体部破片で、長楕円状の沈線文が施文されている。

## H II a 2-2ピット

### 遺構 (第158図、写真図版62)

本遺構は東側尾根の南東側斜面中部に位置する。H II a 2-1ピットによって一部を切られる。平面形は円形、断面形はビーカー状を呈する。規模は開口部径65cm、底部径45cm、深さ30cmである。埋土は黒褐色土の単層にちかい。壁はほぼ直線的に立ち上がる。底部は平坦である。

### 出土遺物 (第159図、写真図版153)

1837の粗製深鉢形土器の体部破片1点が埋土から出土している。

## H II a 10ピット

### 遺構 (第158図、写真図版62)

本遺構は東側尾根の南東側斜面下部に位置する。開口部は円形、底部は長方形である。断面形はビーカー状を呈する。規模は開口部径105cm、底部径20×45cm、深さ150cmである。埋土は黒褐色土、暗褐色土が中心である。埋土内に多量の礫が入っている。自然堆積と思われる。壁はやや外傾気味に立ち上がり、上位は外反する。底部は水平である。底部中央に深さ10cm程の副穴1個がある。円筒状陥し穴の可能性も考えられる遺構である。

### 出土遺物 (第160図、写真図版153)

1838～1841の土器と1842の石器が出土している。土器はいずれも尖底深鉢形土器である。これらはいずれも埋土から出土したものである。1838は平行する沈線とその区画内に貝殻腹縁文を充填させているもので、第1群土器の2類に相当するものである。1841は体部破片で貝殻押し引き文が施文されているものである。1842は両面から剝離調整が施された石篋である。

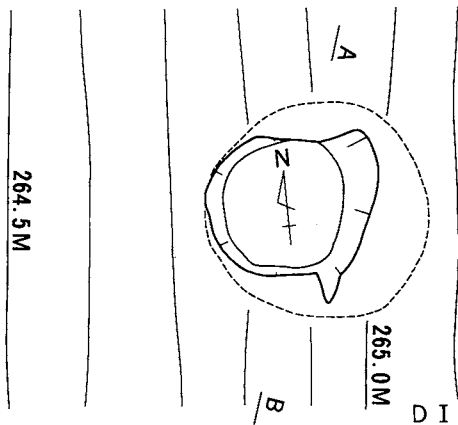
## H II b 9ピット



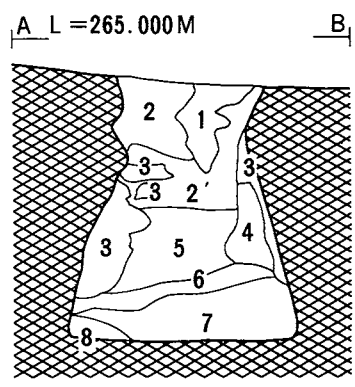
**遺 構** (第158図、写真図版62)

本遺構は東側尾根の下部に位置する。平面形はやや不整な円形である。断面形は皿状を呈する。規模は開口部径105×125cm、底部径90×110cm、深さ15cmである。埋土はほとんど暗褐色土の単層である。壁はわずかではあるが立ち上がる。底部は水平である。壁ぎわに小ピットが回るが性格は不明である。

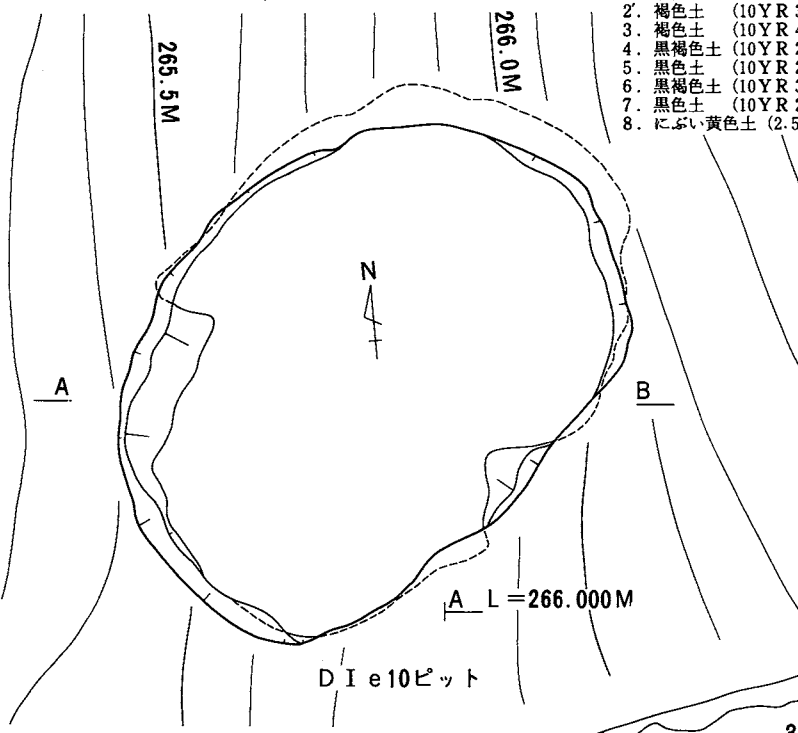
遺物は得られていない。



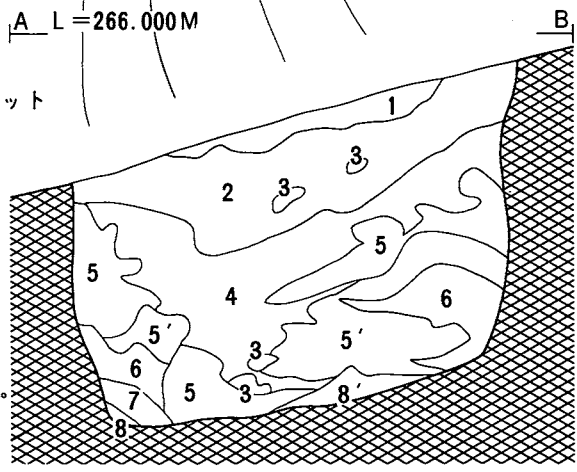
D I d 7ピット



1. 黒褐色土 (10YR 2/2)
2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
- 2'. 褐色土 (10YR 3/4) 混土、2より若干黒色が強い。
3. 褐色土 (10YR 4/6) 混土、壁の崩落土。
- 3'. 褐色土 (10YR 4/6) 混土、壁の崩落土。
4. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、やわらかい。
5. 黒色土 (10YR 2/1) やわらかい。
6. 黒褐色土 (10YR 3/2) やわらかい。
7. 黒色土 (10YR 2/1) やわらかい。
8. にぶい黄色土 (2.5YR 6/4) 粘土、壁の崩落土。

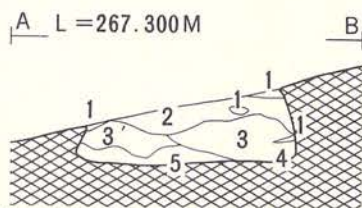
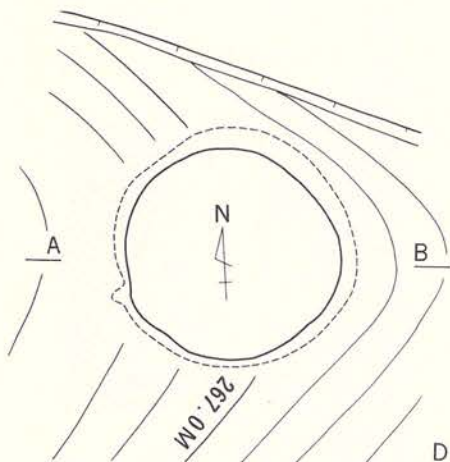


D I e 10ピット



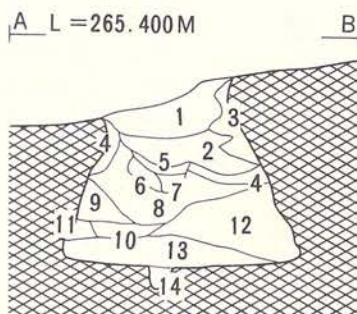
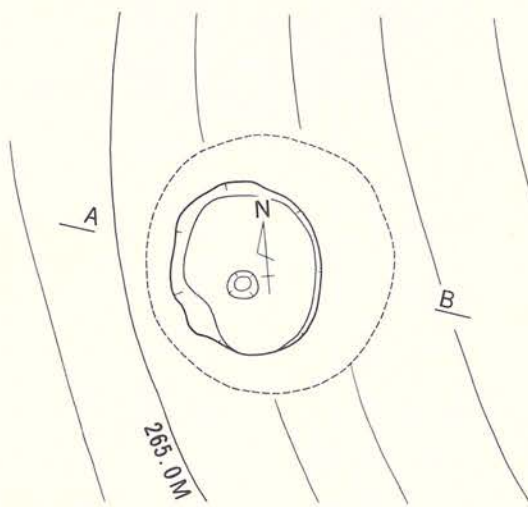
1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土。
2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、やわらかい。
3. 明黄褐色土 (2.5YR 6/6) 粘土ブロック。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、やわらかい。
5. 黄褐色土 (10YR 5/6) 壁の崩落土。
- 5'. 黄褐色土 (10YR 5/6) 壁の崩落土。
6. にぶい黄褐色土 (10YR 6/4) 粘土、壁の崩落土。
7. 明褐色土 (7.5YR 5/6) 粘土、  
下半は明黄褐色粘土が多い。壁の崩落土。
8. にぶい黄色土 (2.5YR 6/4) 粘土、壁の崩落土。
- 8'. にぶい黄色土 (2.5YR 6/3) 粘土混土、壁の崩落土。

第151図 ピット(1) (平・断面S = 1/40)



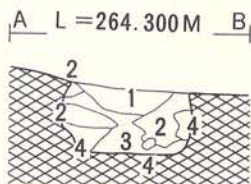
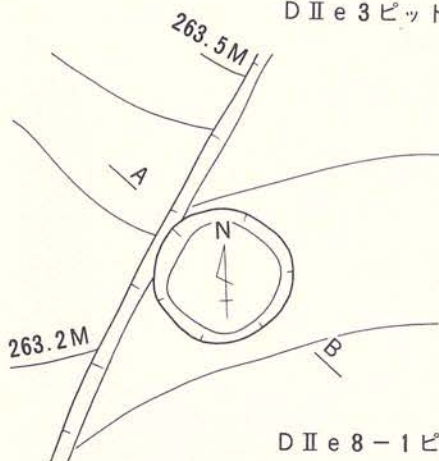
1. 褐色土 (10YR 4/6) 混土、堅くしまっている。旧道路。
2. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
- 3'. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、3より黒色が強い。やわらかい。
4. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、壁の崩落土。やわらかい。
5. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。

D II g 6ピット



1. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、やわらかい。
2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、1より黄色が強い。
3. 明褐色土 (10YR 6/8) 混土、壁の崩落土。
4. 褐色土 (10YR 4/4) 混土、壁の崩落土。
5. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2) 堅い。
7. 黄褐色土 (10YR 5/6) 混土。
8. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土。
9. にぶい黄褐色土 (10YR 4/3) 混土、壁の崩落土。
10. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
11. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、壁の崩落土。
12. 明黄褐色土 (10YR 6/8) 壁の崩落土。
13. 黒褐色土 (10YR 2/2) 壁の崩落土。
14. 黒色土 (10YR 2/1) 混土。

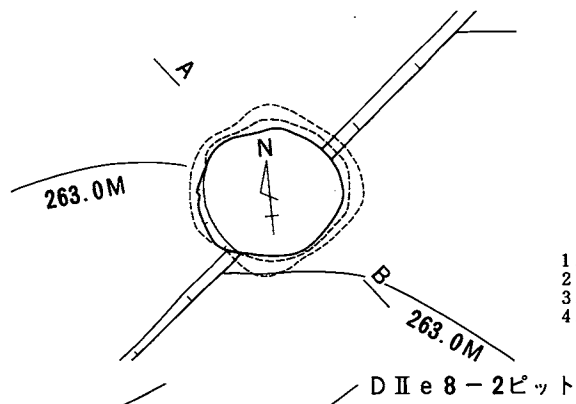
D II e 3ピット



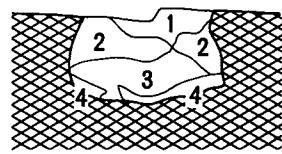
1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、堅い。
2. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。
3. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、堅い。
4. 黄褐色土 (10YR 5/8) 壁の崩落土。

D II e 8-1ピット

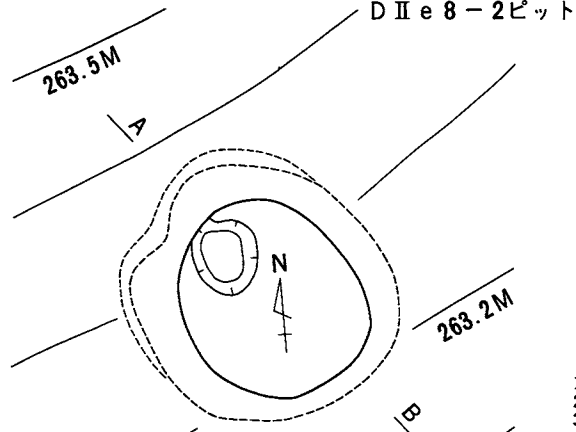
第152図 ピット(2) (平・断面S = 1/40)



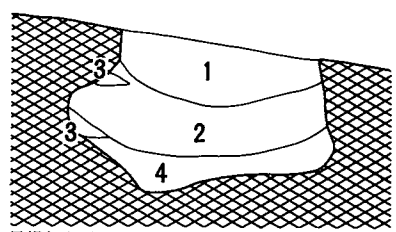
A L = 263.500M B



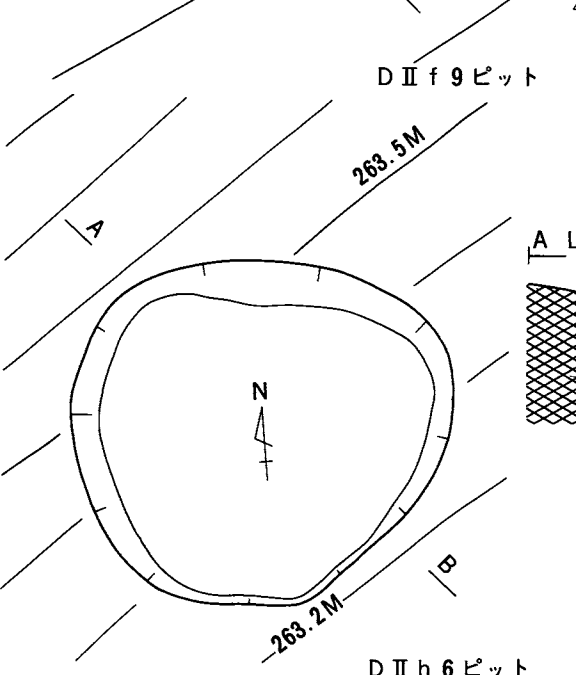
1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、砂質土、中礫浮石が主体となる。
2. 黒色土 (10YR 2/1) 中礫浮石を僅かに含む。
3. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
4. 黒褐色土 (10YR 2/3)



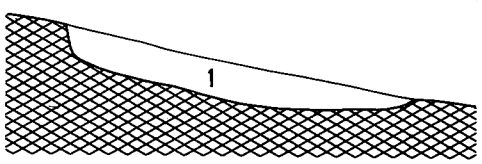
A L = 263.600M B



1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、堅い。
2. 黄褐色～暗褐色土 (10YR 5/8～3/4) 壁の崩落土。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、堅い。
4. 褐色土 (10YR 4/6) 壁の崩落土。

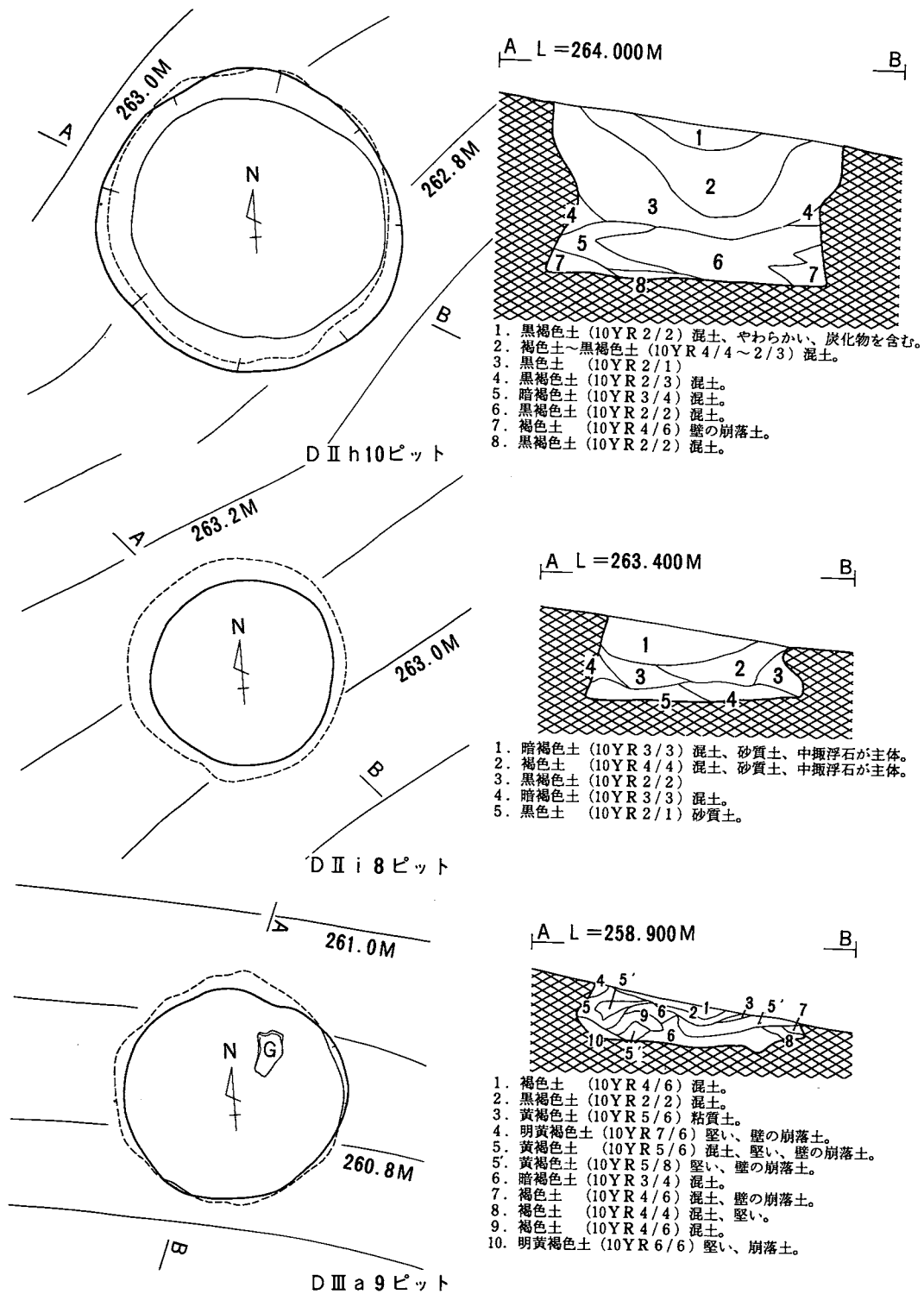


A L = 263.800M B

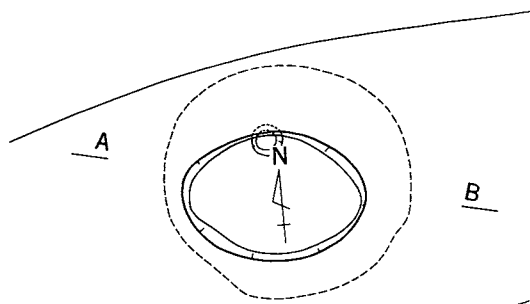


1. 黒色土 (10YR 2/1) 中礫浮石を含む。

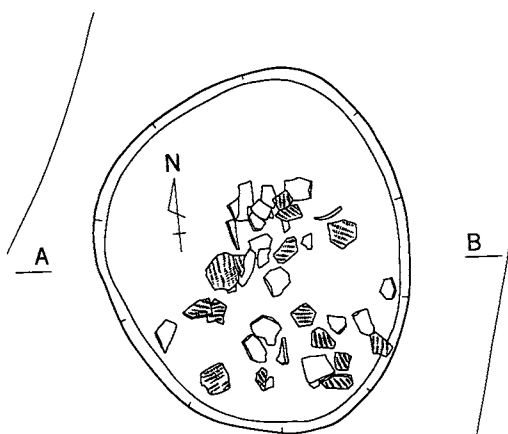
第153図 ピット(3) (平・断面S = 1/40)



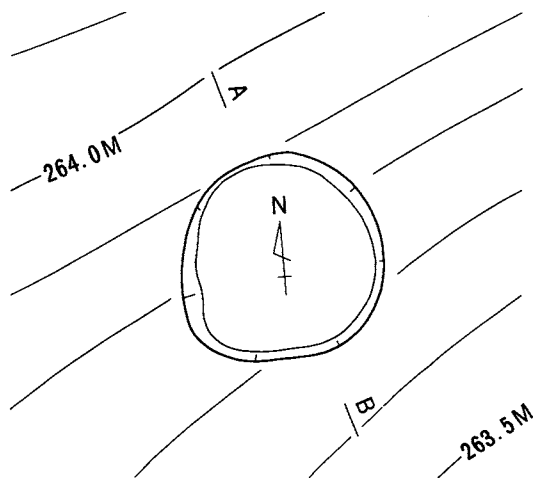
第154図 ピット(4) (平・断面S = 1/40)



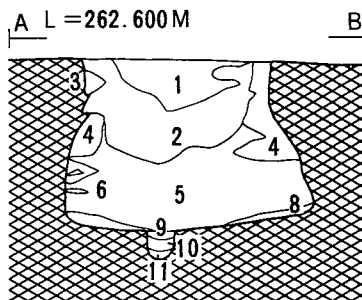
D III f 4 ピット



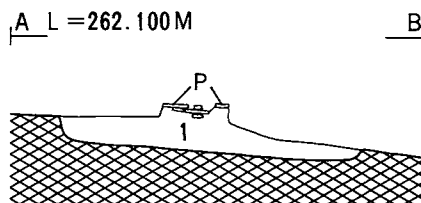
D III j 4 ピット



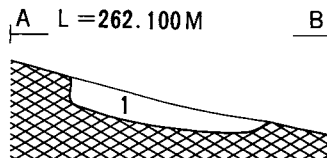
E I e 10 ピット



1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、中礫浮石を含む。
2. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土、中礫浮石をブロック状に含む。
3. 褐色土 (10YR 4/4) 壁の崩落土。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3~3/4) 混土、壁の崩落土。
5. 黒土色 (10YR 2/1)
6. 黄褐色土 (10YR 5/6) 壁の崩落土。
7. にぶい黄褐色土 (10YR 7/3) 混土。
8. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。
9. 黒褐色土 (10YR 3/2)
10. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土。
11. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 混土。

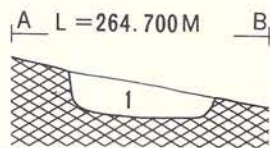
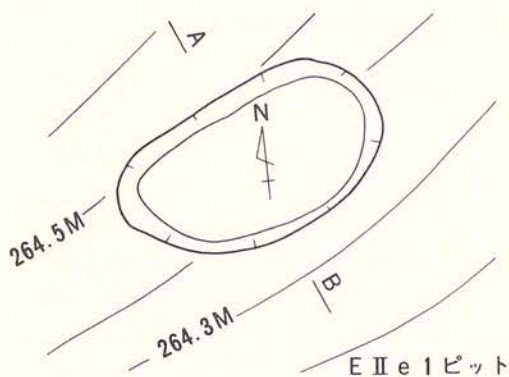


1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 下位褐色が強くなる。

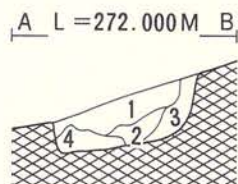
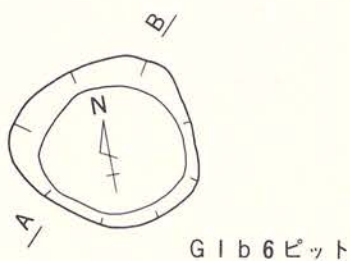


1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 中礫浮石を含む。褐色土をブロック状に混入する。

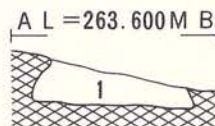
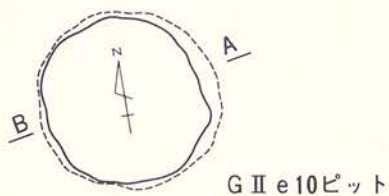
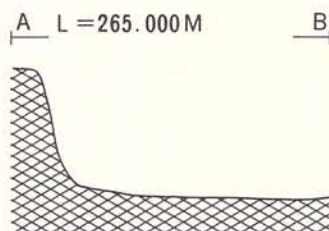
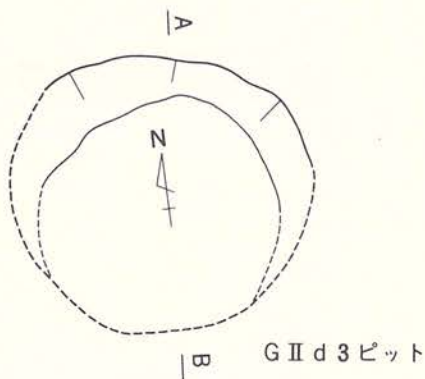
第155図 ピット(5) (D III f 4・E I e 10平・断面S = 1/40)  
(D III j 4平・断面S = 1/20)



1. 黒褐色土 (10YR 2/2) やわらかい。炭化物を含む。

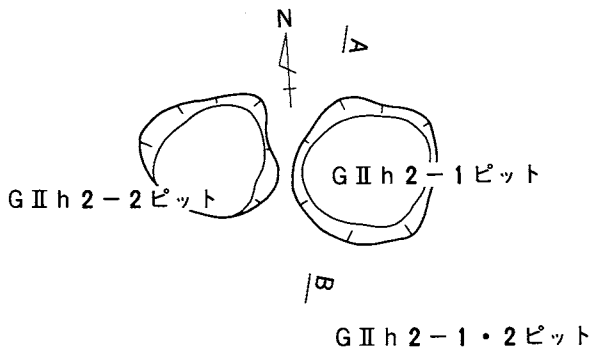


1. 暗褐色土 (10YR 3/3) 粒径2~3mmのパミスを含む。  
2. 褐色土 (10YR 4/4) 粒径2~3mmのパミスを含む。  
3. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れ火山灰。  
4. 黄褐色土 (10YR 5/6) 汚れ火山灰。

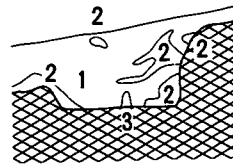


1. 黒褐色土 (10YR 1.7/1) パミスを含む。汚れ火山灰、火山灰塊が混じる。

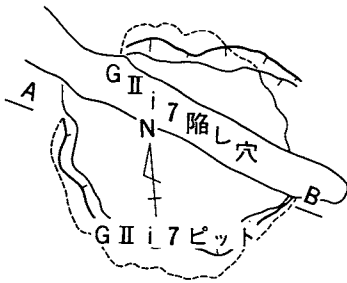
第156図 ピット(6) (平・断面S=1/40)



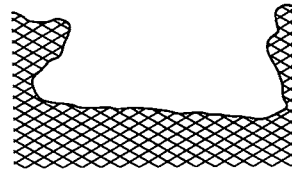
G II h 2-1ピット  
A L=267.300M B



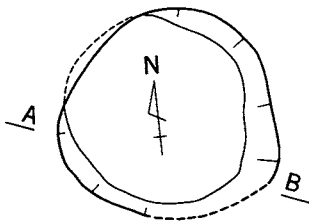
1. 黒褐色 (7.5YR 2/2) 焼土粒を含む。
2. 褐色土 (7.5YR 4/4) 焼土粒を含む。
3. 明褐色土 (7.5YR 5/8) 八戸火山灰。



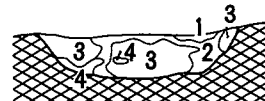
A L=265.200M B



G II i 7ピット

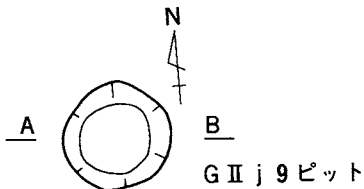


A L=265.200M B



1. 黒褐色土 (7.5YR 3/1) パミスを含む。
2. 黒褐色 (7.5YR 4/4) 褐色土塊含む。
3. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 褐色土塊含む。
4. 明褐色土 (7.5YR 5/8) 八戸火山灰。

G II i 9ピット

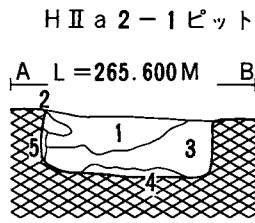
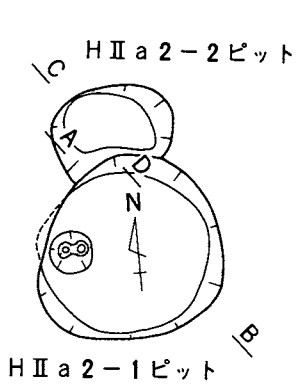


A L=267.500M B

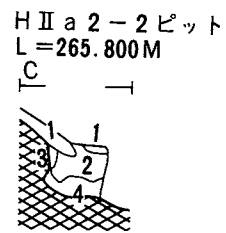


第157図 ピット(7) (平・断面S=1/40)



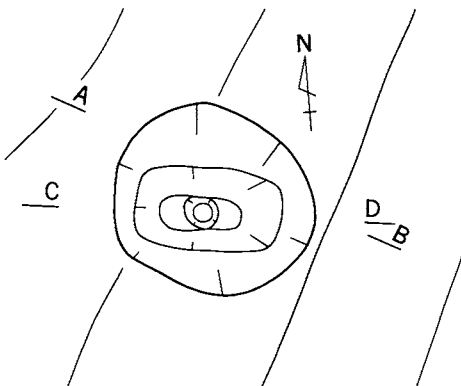


1. 黒褐色土 (10YR 2/1) 炭・バミス (少量) を含む。
2. 黒褐色土 (10YR 2/3)
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) 炭・バミス (少量) を含む。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2~3/2) 炭を含む。黄褐色土が混じる。
5. 黒褐色土 (10YR 3/2) にぶい黄褐色土が混じる。

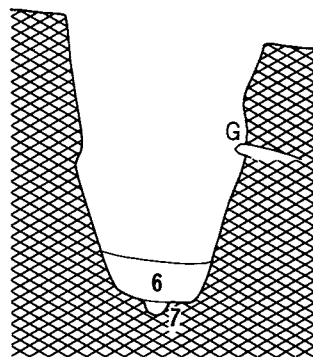
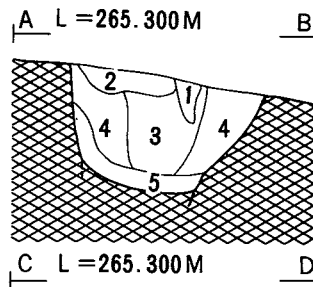


1. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 黒色土・黒褐色土が混じる。
2. 黒褐色土 (10YR 3/2)
3. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) と黒褐色土 (10YR 3/2) の混土。
4. 黒色土 (10YR 2/1)

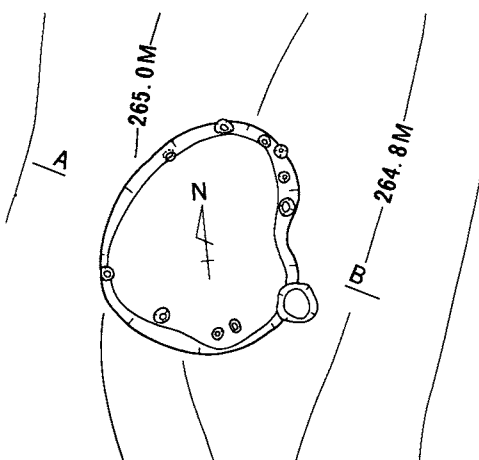
H II a 2-1・2ピット



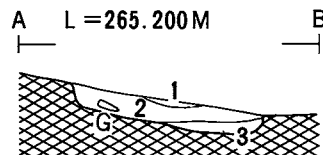
H II a 10ピット



1. 黒褐色土 (10YR 2/3) やわらかい。
2. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。
3. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土。堅くしまっている。
4. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
5. 黄褐色土 (10YR 5/6)
6. 黄褐色土 (10YR 5/8) 混土。
7. 褐色土 (10YR 4/6) 混土。

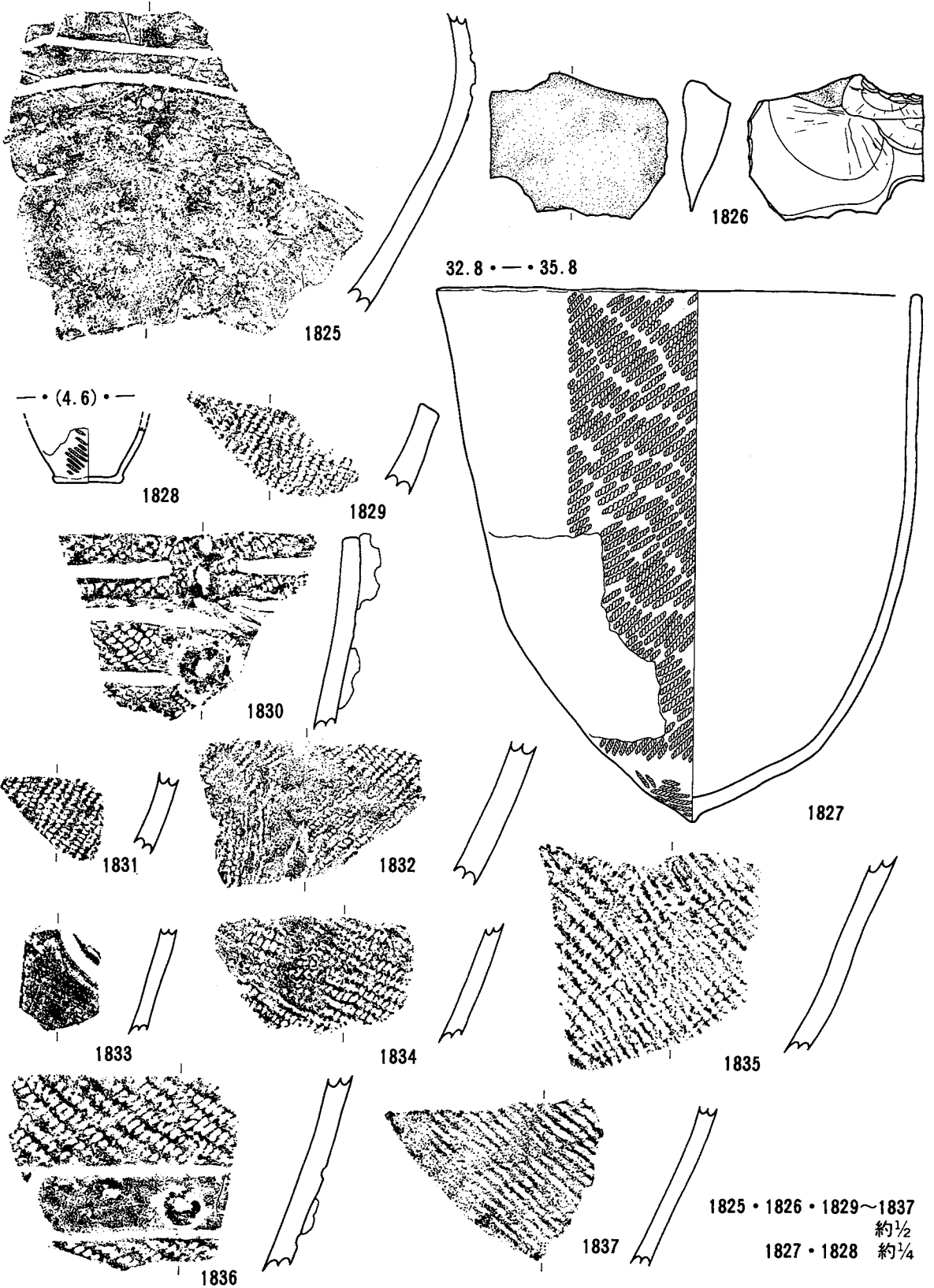


H II b 9ピット



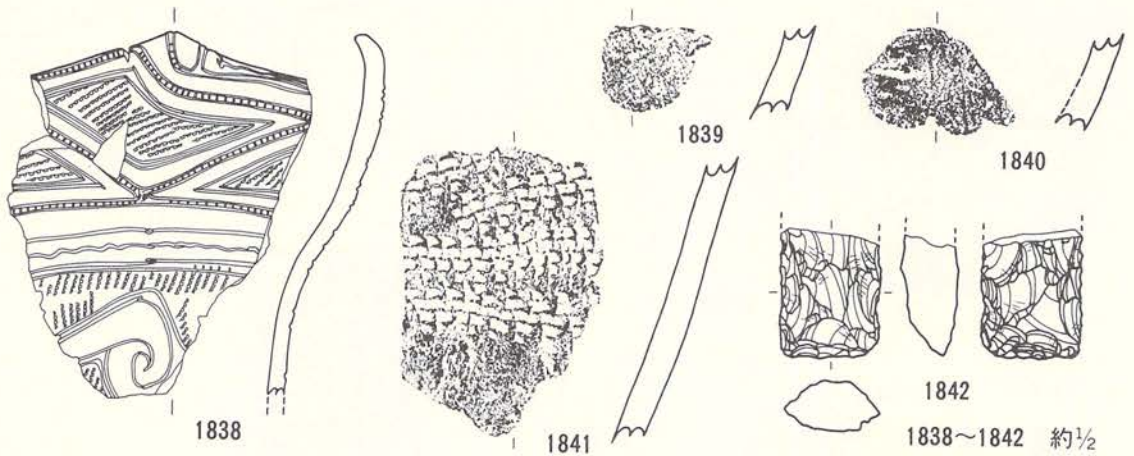
1. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。やわらかい。
2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
3. 黄褐色土 (10YR 5/8) 堅い。

第158図 ピット(8) (平・断面 S=1/40)



第159図 ピット出土遺物 (遺物番号1825~1837)

1825・1826・1829~1837  
約 $\frac{1}{2}$   
1827・1828 約 $\frac{1}{4}$



第160図 ピット出土遺物 (遺物番号1838~1842)

### (5) 土器埋設遺構

#### D I c 8 土器埋設遺構

遺 構 (第161図、写真図版63)

調査区の北西部にあり、西側尾根の西側斜面の上部に位置する。D I d 7ピットの南西5mにあたっている。検出面は基本土層第Ⅱ層の黒褐色土である。

遺構は立位に埋設されているが、土圧のためか斜面下方に若干傾斜している。底部が水平を呈しており、本来は垂直に埋設されたものとみられる。器内の埋土は黒褐色土である。

遺 物 (第162図、写真図版153)

土器は1843の精製深鉢形土器である。器高が47.5cmある大型の土器である。山形口縁を呈し口縁部から体部下半に磨消手法による三角形の沈線区画文が大きく描かれているものである。底面には木葉痕が認められる。第Ⅳ群土器の2類に相当する土器である。

#### G I g 10 土器埋設遺構

遺 構 (第161図、写真図版63)

調査区の北東部にあり、東側尾根の上部に位置する。G I e 9住居跡の南東50cmに位置する。検出面は基本土層第Ⅱ層の黒褐色土である。

遺構は50×41cmの長円形で深さ20cmのピットに立位に埋置されていた。器内の埋土は暗褐色土である。

遺 物 (第163図、写真図版153)

土器は1844の粗製深鉢形土器の中に1845の土器と1846の剥片石器が入って出土した。1844の土器は口縁部が折り返し状に肥厚するもので、1845の土器とともに底部から口縁部に直線的に外傾するもので、地文に LR の単節斜縄文が施文されている。いずれも第Ⅳ群土器に相当する。

#### G II g 5 土器埋設遺構

遺 構 (第161図、写真図版63)

この遺構は、調査区東側のG II g 5 住居跡埋土上面に位置する。検出面は第Ⅱ層面で、埋設する際掘り込んだと思われる痕跡が認められる。掘り方は不整形である。土器はほぼ立位に埋設されている。土器の内外に焼土、炭化物等はみられない。

遺 物 (第163図、写真図版154)

土器は1847の粗製深鉢形土器である。地文に RL の単節斜縄文が施文されている。

#### H II b 4 土器埋設遺構

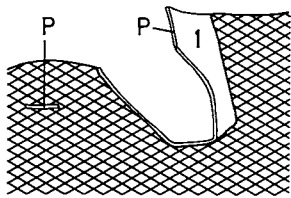
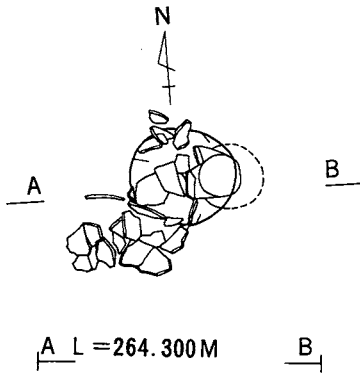
遺 構 (第161図、写真図版63)

この遺構は調査区東端のH II a 3 住居跡の南側に位置する。検出面は第Ⅱ層で、掘り方は見られない。体下半が欠損した深鉢で立位に埋設されている。土器の内外で焼土、炭化物等は見られない。

遺 物 (第163図、写真図版154)

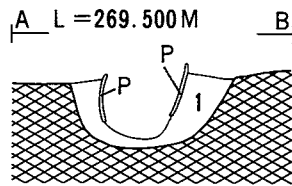
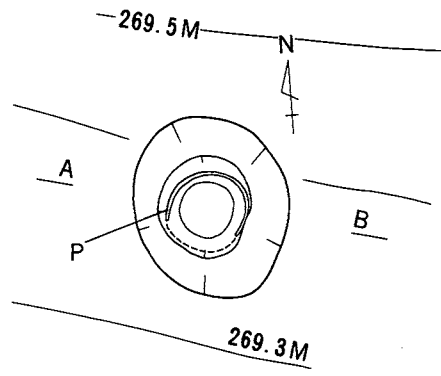
土器は1848の精製深鉢形土器である。器高55.6cmの大型の土器である。山形口縁を呈し、口縁部から体部下半に磨消手法による三角形の沈線区画文が施文されている。

D I c 8 土器埋設遺構



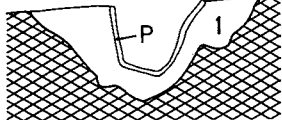
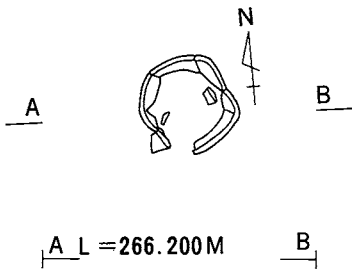
1. 黒褐色土 (7.5YR 3/2) 砂質シルト。

G I g 10 土器埋設遺構



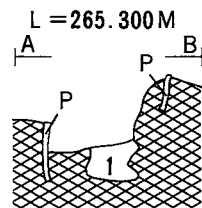
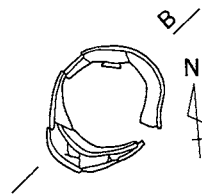
1. 黒褐色土 (10YR 3/3) 混土。

G II g 5 土器埋設遺構



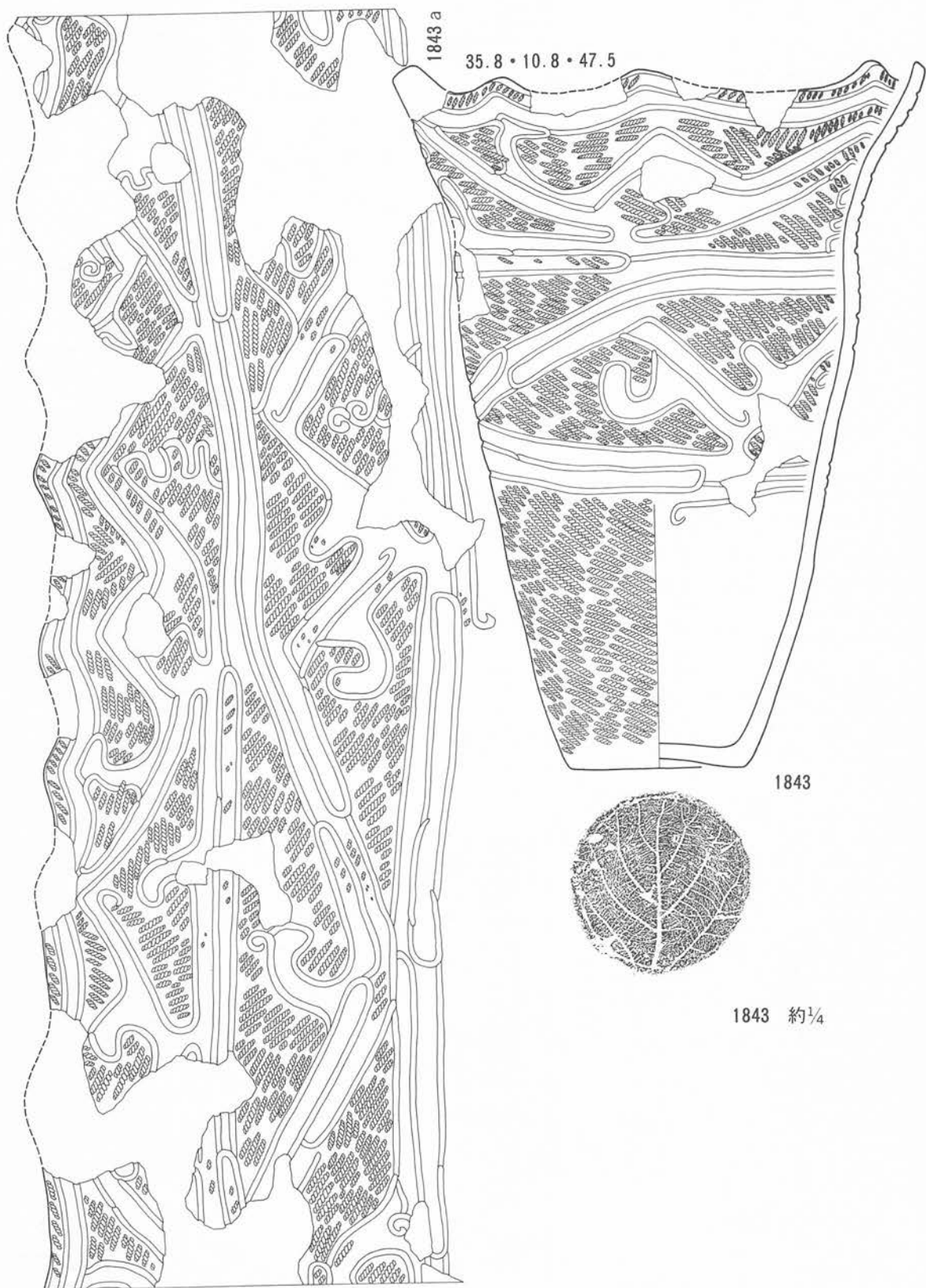
1. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) パミスを含む。

H II b 4 土器埋設遺構



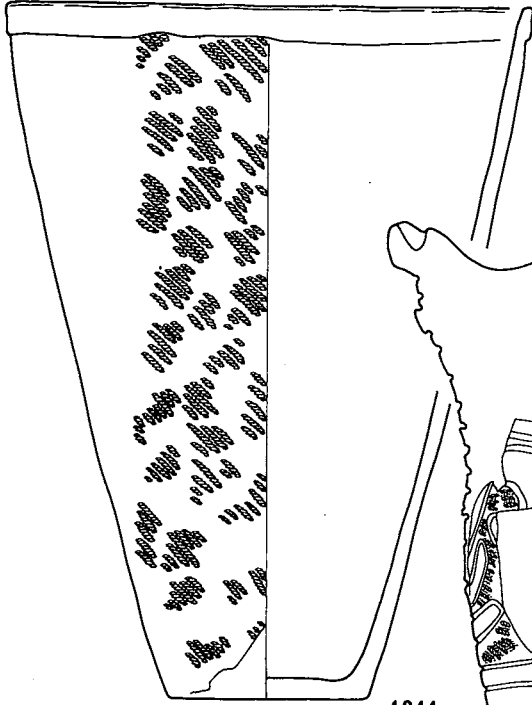
1. 黒褐色土 (7.5YR 3/2) パミスを含む。

第161図 土器埋設遺構 (平・断面 S = 1/20)



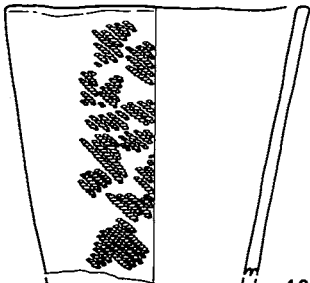
第162図 土器埋設遺構遺物（遺物番号1843）

27.7 • 10.2 • 16.8

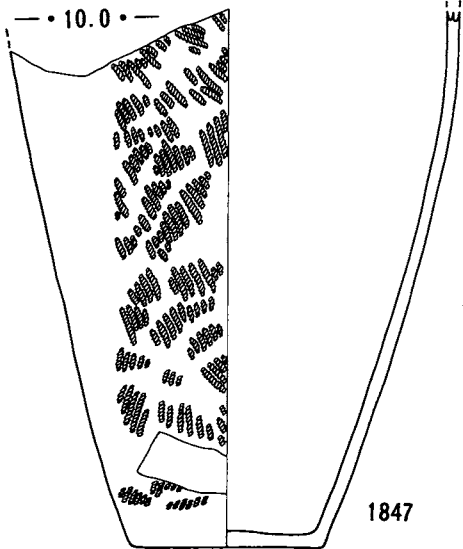


16.2 • - - -

1844

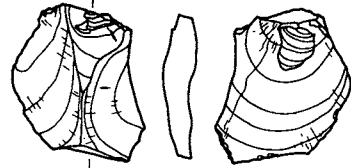


1845



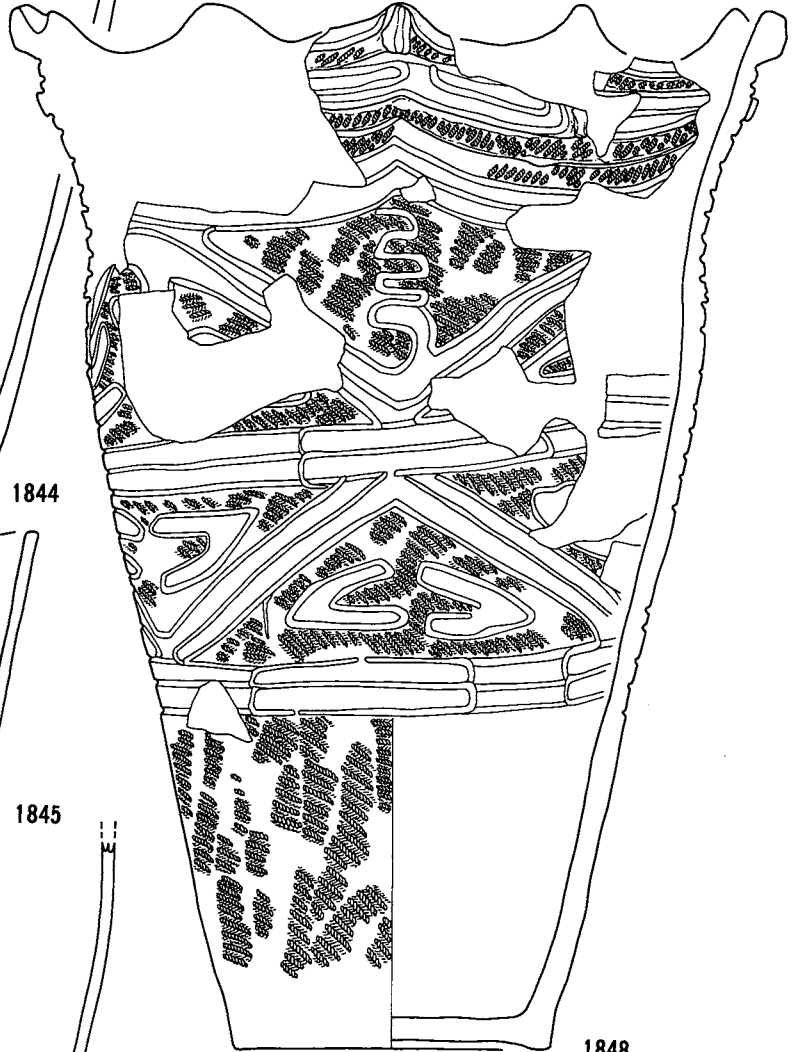
• 10.0 • - - -

1847

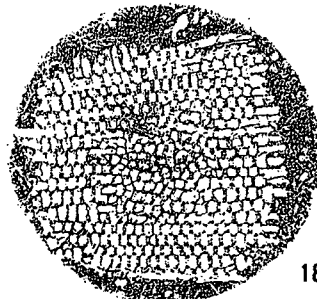


(39.4) • 16.6 • 55.6

1846



1848



1846 約½

1844 • 1845 • 1847 • 1848

約¼

第163図 土器埋設遺構遺物 (遺物番号1844~1848)

## (6) 陥し穴

### D I g 9 陥し穴

遺構 (第164図、写真図版64)

調査区の北西部にあり、西側尾根の南西側斜面上部に位置する。平面形は開口部が細長い長円形を呈するが、全体的には溝状をなす。断面形は、長軸方向が直線的に開く逆台形をなし、短軸方向は上半が大きく開く幅の広いY字状をなす。規模は、開口部が長径2.23m、短径1.03m、底部1.63m、19cmであり、深さは最大1.06mである。

長軸方向はN28°Eであり、等高線にはほぼ直交している。埋土は黒褐色混土、黒色土、暗褐色混土、褐色土、黄褐色土等7層からなる。ほとんどU字状堆積をなし、自然堆積状況を示している。

壁は両端部が外傾した後僅かに外反し、短軸方向は上半が大きく外反している。底部は長軸方向、短軸方向とも端部が上がりぎみであるが、ほぼ平坦である。

出土遺物 (第171図、写真図版154)

1849の無文の土器が埋土から出土している。

### D III g 5 陥し穴

遺構 (第164図、写真図版64)

調査区の南西部にあり、西側尾根の下部に位置する。並列する3基の西端にあたる。南半の大部分が畑地造成のため破壊されている。平面形は斜めに削剥されたこともあって、南半が窄む長円形をなす。本来は隅丸の長方形と推定される。規模は、開口部が長径2.3m以上、短径65~80cm、底部が2.08m以上、27cmで、深さは最大1.24mである。断面形は、長軸方向が開きぎみであるがほぼ方形を呈し、短軸方向は幅の広いU字状をなす。

長軸方向はN1°Wと南北方向を指し、等高線に直交している。埋土は黒褐色土、黒色土、暗褐色混土、褐色混土、明黄褐色土、黄褐色土等15層からなる。U字状堆積、楔形堆積をなし、自然堆積状況を示している。

壁は北壁下半が垂直に立ち上がり、上半は崩落のためか、一旦開いた後下半と同様にはほぼ垂直に立ち上がる。短軸方向は崩落のため若干開く部分も認められるが、垂直に立ち上がる。底部は長軸方向ともほぼ平坦である。

底部には直径2~7cmの小孔が11個検出された。深さは8~33cmで中央のP<sub>4</sub>が8cmと浅く、南端のP<sub>10</sub>は33cmと逆に深くなっている。他は14~20cmである。その配置は東側6、西側4、中央部1であり、北端部50cmでは確認されていない。東側列では30cmの等間隔、西側列では北



から40cm、20cm、30cmであり、規則的に設置されている。

小孔は二重円、ダルマ形など重複状況を呈して検出されたが、それは断ち割り観察の結果、小孔のまわりに浅い窪みをもつものであった。小孔はいずれも先端が尖っており、幾分傾くものも含まれるがほぼ垂直に穿れている。埋土は暗褐色土、褐色土、黄褐色土、明黄褐色土、にぶい黄褐色土、にぶい黄橙色混土からなる。

小孔は逆茂木を刺した痕跡と推定され、まわりの浅い窪みは逆茂木を設置する時に掘り窪めたものようである。

遺物は得られていない。

### D III i 5 陥し穴

遺構 (第164図、写真図版64)

調査区の南西部にあり、西側尾根の下部に位置する。並列する3基の中央にあたっている。南半の大部分が畑地造成のため破壊されている。平面形は南半が斜めに削割されたこともあって南半が窄む長円形をなす。本来は細長い長円形と推定される。規模は、開口部が長径2.6m以上、短径1.18m、底部が2.4m、45cmで、深さは最大1.46mである。断面形は、長軸方向が長方形を呈し、短軸方向は縦に逆台形をなす。

長軸方向はN7°Wを指し、等高線にほぼ直交している。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土、褐色土、黄褐色土、明黄褐色土、にぶい黄褐色土等18層からなる。U字状堆積、楔形堆積をなし、自然堆積状況を示している。

壁は、北壁が僅かに外傾するがほとんど垂直に立ち上がり、短軸方向では崩落部分もあるが、概ね直線的に立ち上がった後大きく開いている。

底部には直径4～8cmの小孔が9個検出された。深さは8～19cmで8～11cmの浅いものと、17～19cmと僅かに深い2群に分けられる。小孔の配置は両端部の40cm、50cmを除き、中央4個、東側3個、西側2個である。ただし、中央列と東列とは非常に近接している。小孔の間隔は30～60cmである。

小孔は二重円、ダルマ形など重複状況を呈して検出されたが、断ち割り観察によると小孔のまわりに浅い窪みをもつものであった。小孔はいずれも先端部が尖っており、ほぼ垂直に穿れている。埋土は暗褐色土、褐色土、黄褐色土、明黄褐色土、にぶい黄橙色混土等からなる。中央列が褐色土、暗褐色土、東列と西列は明黄褐色土、にぶい黄橙色混土である。

小孔は逆茂木を刺した痕跡と推定され、まわりの浅い窪みは逆茂木を設置する時に掘り窪めたものようである。

出土遺物 (第171図、写真図版154)

1850～1855の土器と1856・1857の石器が出土している。1850・1851・1853～1855はいずれも尖底深鉢形土器の体部破片で、縦位の貝殻腹縁文が施文されている。体部の位置からみて、恐らく全面にこの文様が施文されている土器であろう。1852は粗製深鉢形土器の体部破片で単節斜縄文が施されている。1856は稜縁部に擦痕の認められるもの、1857は磨石である。

### D III j 5 陥し穴

#### 遺 構 (第164図、写真図版65)

前2者と同様に調査区の南西部にあり、西側尾根の下部に位置する。並列する3基の東端にあたっている。南半の大部分が畑地造成のため破壊されている。平面形は斜めに削剥されたこともあって、南半が窄む長円形をなす。本来は細長い長円形を呈すると推定される。規模は、開口部が長径2.9m以上、短径94cm、底部が2.63m以上、33cmである。深さは最大1.32mである。断面形は長軸方向が、中ほどに稜をもつ逆台形を呈し、短軸方向は上半が開く逆台形をなす。

長軸方向はN4°Wを指し、等高線に直交している。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土、褐色土、黄褐色土、明黄褐色土、にぶい黄橙色土等18層からなる。U字状堆積、楔形堆積をなし、自然堆積状況を示している。

壁は北壁下半が僅かに外傾し、上半がさらに外傾している。短軸方向は崩落部分もあって一定ではないが、概ね下半が直線的に立ち上がり、上半が大きく開いている。底部は南半が若干下がりぎみであるが、ほぼ平坦である。

底部には直径3～10cmの小孔が14個検出された。深さは7～15cmである。小孔の配置は北端部50cm、南端部30cm以上を除き、東列8個、西列3個、中央列3個である。ただし、東側列は南側において中央列に近接している。小孔の間隔は10～100cmと一定ではない。P<sub>4</sub>は重複し、P<sub>6</sub>、P<sub>7</sub>、P<sub>9</sub>、P<sub>10</sub>は近接している。造り替えが推定されるものである。

小孔はP<sub>12</sub>を除いて、先端が尖っており、ほぼ垂直に穿れている。埋土は暗褐色土、褐色土、黄褐色土、にぶい黄橙色混土からなる。西側列が暗褐色混土であり、東側列は褐色土、にぶい黄橙色混土で、にぶい黄橙色混土は南半に限られている。

小孔は逆茂木を刺した痕跡と推定される。

#### 出土遺物 (第171～172図、写真図版154)

1858・1859の土器と1860～1862の石器、1863の石製品が埋土から出土している。1858は尖底深鉢形土器で、文様は口唇部、口縁部から底部まで縦位の貝殻腹縁文が施文されている。1859は粗製深鉢形土器の底部である。1860・1861は搔器、1862は剥片石器である。1863は円盤状石製品である。

## E I f 9 陥し穴

### 遺 構 (第165図、写真図版65)

調査区の中央北部にあり、埋没谷の上部に位置する。底部から13cmの高さで上半が約8cm南にずれる「地すべり」が起きている。また、中央部は地下水のため空洞となっており、壁と底部の一部が破壊されていた。平面形は僅かに北に湾曲する幅の狭い溝状(長円形)をなす。規模は、開口部が長径4.04m、短径50cm、底部が4.4m、8~17cmである。深さは最大1.2mである。断面形は、長軸方向が袋状に扶られる部分も認められるが、全体的に台形を呈し、短軸方向は下端部が屈折したV字状をなす。<sup>注(1)</sup>

長軸方向は湾曲していて明らかでないが、両端部を結ぶ直線で求めるとN82°Eを指し、ほとんど東西方向を示す。等高線とは若干ずれるがほぼ並行している。埋土は黒色土、褐色混土、明黄褐色混土からなる。下部の褐色土、明黄褐色混土は地下水による二次堆積と推測される。

壁は、両端が垂直に立ち上がって袋状を呈した後直線的に内傾し、東端は内湾あるいは内傾している。短軸方向は、下半が「地すべり」以外では垂直に立ち上がって段を形成した後、上半が大きく開いている。底部は地下水による破壊以外は平坦である。ただし、全体的に斜面下位(東)に向かって傾斜している。

遺物は得られていない。

注(1) 断面図は地すべりのため垂直には求められないので、投影したものを推定して記述することにする。以下同じ。

## E I i 10-1 陥し穴

### 遺 構 (第165図、写真図版65)

調査区の中央北部にあり、埋没谷の上部に位置する。近接する4基の北端にあたる。底から54~62cmの高さの所で、上半が南に約10cmずれる「地すべり」が起きている。中央部では僅かに接しているが、東端部では上下に分かれている。

平面形は幅の狭い溝状をなす。規模は、開口部が長径3.32m、短径25cm、底部が3.1m、8~16cmである。深さは最大95cmである。断面形は長軸方向がほぼ長方形を呈し、短軸方向は上部で屈折した極めて狭いU字状をなす。

長軸方向はN86°Wを指し、ほとんど東西方向を示す。等高線とは若干ずれるがほぼ並行している。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色混土等9層からなる。ほとんどU字状堆積をなし、自然堆積状況を示している。

壁は両端部とも若干外傾するが直線的に立ち上がり、短軸方向は「地すべり」以外は垂直に立ち上がる。上半は全体的に若干斜面下位に傾斜している。東端部ほど大きくなっている。底

部は中央部が幾分下がりぎみであるが、平坦である。

#### 出土遺物（第172図、写真図版155）

1864～1873の土器が埋土から出土している。1864・1866・1867・1873は精製深鉢形土器で、1864・1866には方形の沈線文が施文されている。

### E I i 10-2 陥し穴

#### 遺構（第165図、写真図版66）

調査区の中央北部にあり、埋没谷の上部に位置する。近接する4基の中では西端にあたっている。当陥し穴は2回に渡って「地すべり」が起きており、検出面が異なる3基の陥し穴として検出したものである。下位の「地すべり」は底から約20cmの高さで、ずれ幅は中央部が3cm、西端では8cmであり、西側ほど大きくなっている。上位の「地すべり」は底から46～54cmの高さで、幅は西側が6cm、中央部が20cmであり、逆に東側ほど大きくなっている。

平面形は幅の狭い溝状をなす。規模は、開口部が長径3.45m、短径30cm、上位「地すべり」部分が3.53m、18cm、底部が3.33m、5cmである。深さは最大1.08mである。断面形は中位の脹らむ長方形を呈し、短軸方向では「地すべり」部分の屈折を除いて狭いV字状をなす。ただし上部は全体的に斜面下位に傾斜している。

長軸方向はN75°Wであり、等高線に斜めに交叉している。埋土は黒色土、黒褐色混土等3層からなり、U字状堆積を呈する。自然堆積状況を示す。

壁は両端部とも底から外傾しながら立ち上がって最大部に至り、内傾して開口部に達する。底部はほぼ平坦である。

遺物は得られていない。

### E I j 10 陥し穴

#### 遺構（第166図、写真図版66～67）

調査区の中央北部にあり、埋没谷の上部に位置する。近接する4基の中央にあたっている。底から10～20cmの高さの所で、上半が8cm南に移動した「地すべり」が起きている。

平面形は幅の狭い溝状をなす。断面形は西端が僅かに内傾、内湾するが、ほぼ長方形をなし、短軸方向は崩落のため袋状を呈する部分も認められるが、全体的には「地すべり」部分の屈折を除いて極めて幅の狭いU字状をなす。規模は、開口部が長径4.23m、短径14cm、底部が4.27m、8cmである。深さは最大80cmである。

長軸方向はN85°Wで、ほとんど東西方向を指す。等高線に並行している。埋土は黒色土、黒褐色混土、暗褐色混土等5層からなり、自然堆積状況を呈している。

壁は、東壁が垂直に立ち上がり、西壁が内傾、内湾しながら立ち上がる。短軸方向は下端が垂直に立ち、「地すべり」より上は斜面下位に若干傾斜しながら直線的に立ち上がる。底部は凸凹の認められる部分もあるが、全体的には平坦である。

出土遺物（第173図、写真図版155）

1874～1879の深鉢形土器体部破片が埋土から出土している。

## E II b 5 陥し穴

遺構（第166図、写真図版67）

調査区の中央西側にあり、西側尾根の南東斜面中央に位置する。平面形は、開口部が細長い長円形を呈するが、全体的には細い溝状をなす。断面形は、上半が垂直に立ち上がる台形をなし、短軸方向は上半が大きく開くY字状をなす。規模は、開口部が直径5.43m、短径78cm、底部が6.13m、20cmである。深さは最大1.21mである。

長軸方向はN79°Eであり、等高線に斜めに交叉している。埋土は黒色土、黒褐色混土、暗褐色混土、褐色土、黄褐色土等10層からなる。ほとんどU字状堆積、楔形堆積であり、自然堆積状況を示している。

壁は直線的に内傾した後垂直に立ち上がるが、西壁では中段に袋状に入り込む部分がある。短軸方向は下半が斜面下位に若干傾斜しながら直線的に立ち上がり、上半は大きく傾斜している。底部は両端部が20～30cm上がるが、中央はほぼ平坦である。端部はさらに幅広となっている。

出土遺物（第173図、写真図版155）

1880の粗製深鉢形土器の体部破片が埋土から出土している。

## E II h 7 陥し穴

遺構（第166図、写真図版67）

調査区の中央部にあり、埋没谷の中部に位置する。黒色土中で検出したものであり、上半は検出段階において重機によって破壊してしまった。

平面形は細長い溝状をなす。断面形は袋状を呈する部分も認められるがほぼ長方形をなし、短軸方向はV字状をなす。規模は、開口部が長径3.07m、短径17cm、底部が3.11m、6cmである。深さは最大67cmである。

長軸方向はN58°Eであり、等高線に若干ずれるがほぼ並行している。埋土は黒褐色混土、黒色土からなる自然堆積である。

壁は、西壁下端部が幾分入り込んだ後外反し、東壁は内湾し内傾している。短軸方向は垂直

に立ち上がる。底部はほぼ平坦である。

遺物は得られていない。

## E II i 7 陥し穴

遺構（第166図、写真図版68）

調査区の中央部にあり、埋没谷の中部に位置する。前者と同様に黒色土中で発見されたものであり、上半は検出段階に重機によって破壊してしまった。底から38～44cmの高さの所で、上半が南にずれる「地すべり」が起きている。ずれ幅は西側で20cm、東側ではほとんど原位置を保っており、西側ほど大きくなっている。

平面形は僅かに南に湾曲する幅の狭い溝状をなす。断面形は、長軸方向は上半が開く長方形をなし、短軸方向は「地すべり」部分の屈折を除いてV字状をなす。規模は、開口部が長径3.9m、短径24cm、底部は3.77m、7cmである。深さは最大56cmである。

長軸方向は湾曲していて明らかでないが、両端部を結ぶ直線で求めるとN89°Eで東西方向を指す。等高線にほぼ平行している。埋土は黒色土、黒褐色混土、暗褐色混土等5層からなる。U字状堆積を呈し、自然堆積状況を示している。

壁は、西壁が湾曲しながら立ち上がり、東壁は下端部が僅かに入り込んだ後外反している。短軸方向は「地すべり」部分を除いて垂直に立ち上がる。底部は若干凸凹するものの平坦である。

遺物は得られていない。

## E III i 1 陥し穴

遺構（第167図、写真図版68）

調査区の中央部にあり、埋没谷の下部に位置する。この陥し穴は黒色土中で検出したもので、上半は検出段階に重機によって破壊してしまった。底から50cmの高さで、上半が南に移動する「地すべり」が観察された。ずれ幅は西側で約20cmであるが、東端では削剝されたこともあって未確認である。上半は中央部で折れ曲がり短くなっている。

平面形は幅の狭い溝状をなす。断面形は、西端部が内湾するがほぼ長方形をなし、短軸方向は「地すべり」部分を除いてU字状を呈する。規模は開口部（「地すべり」の下）が長径4.18m、短径23cm、底部4.05m、7cmである。深さは最大54cmである。

長軸方向はN80°Eであり、等高線にほぼ並行している。埋土は黒色土、黒褐色混土、暗褐色混土、褐色土の4層からなり、いずれもU字状堆積を呈し、自然堆積状況をなす。

壁は西壁が内湾しながら立ち、東壁は底から垂直に立ち上がる。短軸方向は「地すべり」部

分を除いて垂直に立ち上がるが、上半が幾分幅広となり、小さな段を形成している。底部は若干凸凹が認められるものの、全体的に平坦である。

遺物は得られていない。

### E III i 3 陥し穴

遺構 (第167図、写真図版68)

調査区の中央南部にあり、埋没谷の下部に位置する。当遺構も黒色土中で発見されたもので、上半は検出段階に重機によって破壊してしまった。底から50cmの高さで上半が南に移動した「地すべり」が観察された。ずれ幅は西側が13cmであるが、中央部から東側では未確認である。上半はE II i 7 陥し穴と同様に中央部で折れ曲がっている。

平面形は全体的に溝状をなし、断面形は長方形をなす。短軸方向は「地すべり」部分を除いて上半が開くU字状を呈する。規模は、開口部(「地すべり」の下)が長径3.76cm、短径35cm、底部が3.76m、19cmである。深さは最大50cmである。

長軸方向はN84°Eで東西方向を指し、等高線に並行している。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土、褐色土、黄褐色土等9層からなる。U字状堆積、楔形堆積を呈し、自然堆積状況をなす。

壁は垂直に立ち上がり、短軸方向が若干外傾しながら立ち上がる。底部はほぼ平坦である。

遺物は得られていない。

### F I a 6 陥し穴

遺構 (第167図、写真図版69)

調査区の中央北側にあり、埋没谷の上部に位置する。「地すべり」のため検出面の異なる2基の陥し穴として検出されたものである。「地すべり」は底から20~28cmの高さの所で、東側が28cm、西側が8cm南にずれ、ずれ幅は東側ほど大きくなっている。

平面形は開口部が直線状の溝状をなし、底部は南に湾曲する幅の狭い溝状をなす。断面形は上部が幾分外反するが、ほぼ長方形を呈する。短軸方向は中央部で上半が斜面下方に傾斜するU字状をなし、東部では「地すべり」部分を除いてU字状をなす。規模は、開口部が長径3.85m、短径32cm、「地すべり」の下が3.68m、18cm、底部が3.54m、9cmである。深さは最大67cmである。

長軸方向は湾曲していて明らかでないが、両端部を結ぶ直線で求めるとN87°Eで、東西方向をなす。等高線とは若干ずれるがほぼ並行している。埋土は黒色土、黒褐色混土、暗褐色混土、褐色土等5層からなり、U字状堆積、楔形堆積をなし自然堆積状況を示している。

壁は「地すべり」のため斜面下方に傾斜するが直線的に立ち上がり、上半が僅かに外反する。短軸方向は中央から西側では「地すべり」部分を除いて外傾しながら直線的に立ち上がり、東側では「地すべり」部分でずれるが、外傾しながら立ち上がる。底部はほぼ平坦であり、埋没谷に向かって傾斜している。

遺物は得られていない。

#### F I a 9 陥し穴

遺 構 (第167図、写真図版69)

調査区の中央北部にあり、埋没谷の上部に位置する。近接する4基の東端にあたっている。底から62cmの高さの所で、上半が15cm南に移動した「地すべり」が観察された。

平面形は開口部が直線状の溝状をなし、底部東端が北に曲がっている。断面形は台形をなし短軸方向が「地すべり」部分を除いてU字状をなす。規模は開口部が直径4.05m、短径58cm、「地すべり」の下が4.05m、27cm、底部が4.5m、12cmである。深さは最大1.28mである。

長軸方向はN86°Wで東西方向を指し、等高線に斜めに交叉している。埋土は黒色土、黒褐色混土、暗褐色混土、褐色土等14層からなり、U字状堆積、楔形堆積を呈し、自然堆積状況を示している。

壁は内湾した後垂直に立ち上がる。短軸方向は「地すべり」部分を除いて全体的に直線的に立ち上がるが、南壁では「地すべり」部分が段となっている。底部はほぼ平坦である。全体的に斜面下方に向かって幾分傾斜している。

遺物は得られていない。

#### F II h 9 陥し穴

遺 構 (第168図、写真図版70)

調査区の中央南側にあり、東側尾根南西斜面の下部に位置する。平面形は僅かに南に湾曲する幅の狭い溝状をなす。断面形は長軸方向が台形をなし、短軸方向は上部が幾分開くU字状をなす。規模は開口部が長径3.48m、短径32cm、底部が3.62m、18cmである。深さは最大70cmである。

長軸方向はN77°Wであり、等高線に平行している。埋土は黒褐色土の単層である。自然堆積と推定される。壁は両端部が内傾あるいは内湾しながら立ち上がり、短軸方向が直線的に立ち上がる。底部はほぼ平坦であるが、中央部が僅かに下がっている。

遺物は得られていない。



### F II i 9 陥し穴

#### 遺 構 (第168図、写真図版70)

調査区の中央南側にあり、東側尾根南西斜面の下部に位置する。F II h 9 陥し穴の南東約1 mである。平面形は幅の狭い溝状をなす。断面形は上半が湾曲するが、下半によると台形を呈していたとみられる。短軸方向は上半が緩やかに開くU字状をなす。規模は開口部が長径4.2 m、短径46cm、底部が4.15m、12cmである。深さは最大78cmである。

長軸方向はN25°Wであり、F III g 1 陥し穴のN30°Wに近似している。等高線には斜めに交叉している。埋土は黒色土の単層である。自然堆積と推定される。壁は下半が内傾し、上半は崩落のためか湾曲しながら立ち上がる。短軸方向は直線的に立ち上がる。ただし、南西壁は上半が幾分開きぎみである。底部は平坦であるが、南半が若干下がっている。

遺物は得られていない。

### F III g 1 陥し穴

#### 遺 構 (第168図、写真図版70)

調査区の中央南側にあり、東側尾根南西斜面の下部に位置する。平面形は幅の狭い溝状をなし、断面形は上半が開く逆台形をなす。短軸方向は上下2段の幅の異なるU字状をなす。規模は開口部が長径4.08m、短径30cm、底部が3.92m、8 cmである。深さ最大90cmである。

長軸方向はN3°Wであり、F II i 9 陥し穴とほぼ並行している。等高線には直交している。埋土は黒褐色混土の単層であり、自然堆積と推定される。壁は長軸方向が外傾し、短軸方向は中ほどに段をもって直線的に立ち上がる。底部はほぼ平坦であるが、南に向かって傾斜している。

遺物は得られていない。

### F III h 3 陥し穴

#### 遺 構 (第168図、写真図版71)

調査区の中央南側にあり、東側尾根南西斜面の下部に位置する。F III i 4 陥し穴と並行し、東側埋没谷の谷底にあたっている。平面形は隅丸長方形あるいは長円形をなす。断面形は北端部が入り込むが全体的に逆台形をなし、短軸方向も逆台形をなす。規模は、開口部が長径1.95 m、短径80cm、底部が1.51m、45cmである。

長軸方向はN41°Wであり、等高線に斜めに交叉している。埋土は黒色土、黒褐色土の2層からなる。自然堆積と推定される。壁は北壁が一旦袋状に入り込んだ後外傾し、南壁は底部から外反している。短軸方向は外反しながら立ち上がる。底部は、長軸方向、短軸方向とも平坦

であるが、長軸方向の中央部が僅かに下がっている。

遺物は得られていない。

### F III i 3 陥し穴

遺構 (第168図、写真図版71)

調査区の中央南側にあり、東側尾根南西斜面の下部に位置する。東側埋没谷の谷底にあたっている。平面形は幅が極めて狭い溝状をなし、断面形は全体的に長方形をなす。短軸方向は幅の狭いV字状であるが、土圧のためか下半が斜面下方にせり出している。規模は、開口部が長径4.68m、短径13~28cm、底部が4.62m、8cmである。深さは最大70cmである。

長軸方向はN29°Wであり、等高線に斜めに交叉している。埋土は黒色土の単層である。自然堆積と推定される。壁は北西壁が一旦袋状に入った後外反し、南東壁は内湾ぎみにはほぼ垂直に立ち上がる。短軸方向は直線的に垂直に立ち上がる。底部は幾分凸凹が認められるものの、全体的にはほぼ平坦である。

遺物は得られていない。

### F III i 4 陥し穴

遺構 (第168図、写真図版71)

調査区の中央南側にあり、東側尾根南西斜面の下部に位置する。東側埋没谷の谷底にあたっている。平面形は隅丸長方形をなす。断面形は北端部が入り込むが、全体的には逆台形をなし、短軸方向も逆台形をなす。規模は、開口部が長径1.81m、短径81cm、底部が1.35m、50cmである。深さは最大82cmである。

長軸方向はN49°Eであり、E III h 3 陥し穴にほぼ並行している。等高線には直交している。埋土は黒色土、黒褐色土からなり、自然堆積と推定される。壁は北壁が一旦袋状に入り込んだ後外反し、南壁は底部近くに小さな段を有し、上半が外反している。短軸方向は外傾、外反しながら立ち上がる。底部はほぼ平坦である。

遺物は得られていない。

### F III j 2 陥し穴

遺構 (第169図、写真図版72)

調査区の中央南側にあり、東側尾根南西斜面の下部に位置する。東側埋没谷の谷底にあたっている。平面形は幅が極めて狭い溝状をなし、断面形は長方形をなす。短軸方向は幅の狭いV字状をなす。F III i 3 陥し穴と同様に下半が斜面下方にせり出している。規模は、開口部が長

径4.52m、短径18cm、底部が4.46m、5～7cmである。深さは最大65cmである。

長軸方向はN32°Wであり、等高線と若干ずれるがほぼ並行している。埋土は黒色土の単層である。自然堆積と推定される。壁は短軸方向が南西に僅かに湾曲するが、ほぼ垂直に立ち上がる。底部は平坦で、中央部が若干下がっている。

遺物は得られていない。

#### G I d 10 陥し穴

遺構 (第169図、写真図版72)

調査区の北東部にあり、東側尾根南西斜面の上部に位置する。G I e 10-2 住居跡の南西部を破壊して構築されている。底から33cmの高さで上半が南にずれる「地すべり」が観察される。ずれ幅は10cmである。

平面形は直線上の溝状をなす。断面形は台形と逆台形を上下に合わせた形をなす。短軸方向は「地すべり」部分を除き上半が開くY字状をなす。規模は開口部が長径4.1m、短径64cm、底部が3.6m、12～20cmである。深さは最大1.18mである。

長軸方向はN64°Wを指し、等高線に並行している。埋土は黒褐色土、暗褐色土、褐色土、黄褐色土等8層からなる。U字状堆積、楔形堆積を呈し、自然堆積状況を示している。壁は両端部とも下半が内傾した後外反し、短軸方向は「地すべり」部分を除いて下半が垂直に立ち上がり上半は大きく開いている。底部はほぼ平坦である。ただし、中央部が若干下がっている。

遺物は得られていない。

#### G II c 7 陥し穴

遺構 (第169図、写真図版72)

調査区の南東部にあり、東側尾根南西斜面の中央部に位置する。上半が畑地造成のため削剥されていた。平面形は幅が極めて狭い溝状を呈し、断面形は北端が入る台形をなす。短軸方向は上下2段の幅の異なるU字状をなす。規模は、開口部が長径4.9m、短径19cm、底部が4.88m、6～9cmである。深さは最大72cmである。

長軸方向はN13°Wであり、等高線に斜めに交叉する。埋土は黒色土の単層である。自然堆積と推定される。壁は南壁が垂直に立ち、北壁が内傾している。短軸方向は下半が垂直に立ち、段の上半は内湾ぎみに立ち上がる。底部は平坦であるが、南に向かって傾斜している。

出土遺物 (第173図、写真図版155)

1881～1883の尖底深鉢形土器の体部破片が埋土から出土している。

## G II f 8 陥し穴

### 遺構 (第169図、写真図版73)

調査区の南東部にあり、東側尾根の南側斜面下部に位置する。平面形は西壁が2ヶ所において崩壊しており、開口部の南半がダルマ形を呈している。底部では若干逆S字状に湾曲する幅の狭い溝状をなす。断面形は底部が広がる台形をなし、短軸方向は崩落部分を除いて幅の狭いU字状をなす。規模は、開口部が長径4.75m、短径88cm (崩落部では1.34m)、底部が5.25m、8cmである。深さは最大1.41mである。

長軸方向は僅かではあるが逆S字状を呈しているため、両端部を結ぶ直線で求めるとN28°Eである。等高線にはほぼ並行している。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土、褐色土等8層からなる。下位から中位にかけては堅くしめる褐色土が水平堆積の状況をなす。その上面は両端部が幾分下がるが、水平に近く人為的にかためた可能性が大きく造り替えた様相を呈する。上半はU字状堆積、楔形堆積を呈し、自然堆積状況を示している。

壁は両端部とも内傾しながら立ち上がり、短軸方向は崩落部を除いて上半が僅かに外反するが直線的に立ち上がる。底部は南に向かって傾斜している。

### 出土遺物 (第173～174図、写真図版155～156)

1884・1885・1887～1909の土器と1886の土偶が埋土から出土している。1884・1887・1889・1890・1895・1898・1901～1909は尖底深鉢形土器の破片で、1889・1895には貝殻腹縁文の施文されているものである。1888・1891・1892・1894・1897・1900は第IV群土器後期初頭に属するもので、沈線文が施文されている。1886は土偶の胸部の破片で沈線文と刺突文が施文されているものである。

## G II g 3 陥し穴

### 遺構 (第170図、写真図版73)

調査区の東部にあり、東側尾根の中央部に位置する。G II g 2 住居跡によって東半上部が削剥されており、この住居跡に先行するものである。またG II g 3 住居跡状遺構と重複関係にあるが、その先後関係は不明である。底部から23cmの所で上半が南に移動した「地すべり」が観察された。ずれ幅は中央部で10cmである。

平面形は僅かに逆S字状に湾曲する溝状を呈する。断面形は底部が広がる台形をなし、短軸方向は「地すべり」部分を除いてV字状をなす。規模は、開口部が長径3.83m、短径48～54cm、底部が4.13m、11cmである。深さは最大1.02mである。

長軸方向は僅かではあるが逆S字状を呈していて明確ではないが、両端部を結ぶ直線によって求めるとN69°Wであった。等高線にはほぼ並行している。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色

土、褐色土等6層からなる。自然堆積と推定される。

壁は両端部とも内傾しながら立ち上がり、短軸方向は下半が垂直に立ち、上半が外傾、外反する。底部は両端部が僅かに上がり、中央部が下がっている。

出土遺物（第174図、写真図版156）

1910の尖底深鉢形土器の体部破片が埋土から出土している。

## G II h 7 陥し穴

遺構（第170図、写真図版74）

調査区の南東部にあり、東側尾根の南西斜面下部に位置する。平面形は細長い溝状をなす。断面形は南端部が若干入るが、全体的に長方形を呈し、短軸方向は狭いU字状をなす。規模は、開口部が長径4.46m、短径43～55cm、底部が4.49m、7～12cmである。深さは最大1.22mである。

長軸方向はN3°Eで南北方向を指し、等高線とは僅かにずれるがほぼ並行している。埋土は黒色土、黒褐色土、暗褐色土、褐色土等6層からなる。U字状堆積であり、自然堆積状況を示している。

壁は北壁が垂直に立ち、南壁は下端部が袋状を呈した後凸凹をもって立ち上がる。短軸方向はほぼ直線的に立ち上がる。底部はほぼ平坦であり、僅かに中央部が下がっている。

出土遺物（第174～175図、写真図版156～157）

1911～1923の土器が埋土から出土している。いずれも深鉢形土器の破片で、1921は第II群土器前期に、その他は第IV群土器後期初頭に属するものと思われる。

## G II i 7 陥し穴

遺構（第170図、写真図版74）

調査区の南東側にあり、東側尾根の下部に位置する。G II i 7-2ピット、G II i 7住居跡の北端を破壊して構築されている。平面形は細長い溝状をなす。断面形は北西端が僅かに入り込むが全体的には長方形を呈し、短軸方向は上半が開いたU字状あるいはV字状をなす。規模は、開口部が長径3.93m、短径44cm（崩落部76cm）、底部が3.88m、15～20cmである。深さは最大1.5mである。

長軸方向はN55°Wを指し、等高線には斜めに交叉している。埋土は黒色土、黒褐色土、褐色土、黄褐色土等7層からなる。U字状堆積、楔形堆積を呈し、自然堆積状況を示している。

壁は北西壁が内傾し、南東壁が外傾する。短軸方向は崩落があって凸凹しながら立ち上がる。底部はほぼ平坦である。

#### 出土遺物（第175～176図、写真図版157）

1924～1947の土器と、1948の土製品、1949～1951の石器が埋土から出土している。土器はいずれも第Ⅳ群土器後期初頭に属するものである。1948は粗製深鉢形土器の破片を再利用した円盤状土製品である。石器のうち1949は楔形石器、1950・1951は剥片石器である。

#### GⅡj1 陥し穴

##### 遺構（第170図、写真図版74）

調査区の北東部にあり、東側尾根の南東側斜面の中央部に位置する。GⅠi9住居跡と重複するが、住居跡床面が流失していて、先後関係は不明である。

平面形は溝状をなす。断面形は南東部が入り込む台形をなし、短軸方向は開口部が開くV字状あるいはY字状をなす。規模は開口部が長径2.76m、短径45～77cm、底部が2.83m、20cmである。深さは最大1.2mである。

長軸方向はN54°Wを指し、等高線に斜めに交叉している。埋土は黒褐色土、暗褐色土、にぶい褐色土、黄褐色土等5層からなる。U字状堆積、楔形堆積を呈し、自然堆積状況を示している。

壁は北西壁が垂直に立ち、南東壁が内傾する。短軸方向は直線的に外傾した後、湾曲しながら立ち上がる。底部はほぼ平坦であるが、南東に向かって傾斜している。

出土遺物は得られていない。

#### (7) 近世炭窯

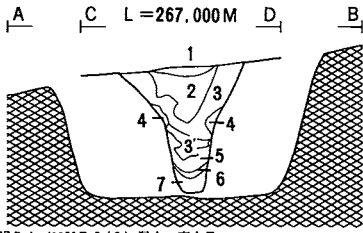
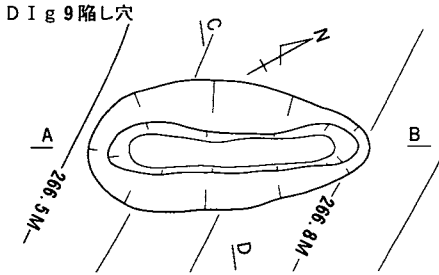
##### GⅡi4 炭窯

##### 遺構（第177図、写真図版75）

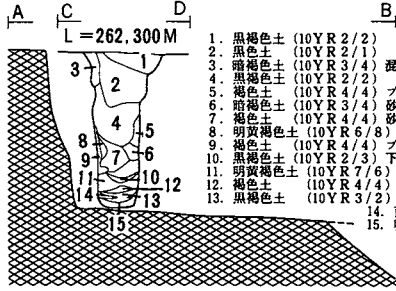
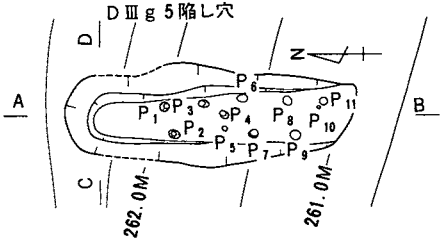
この遺構は調査区東側に位置し、GⅡj4住居跡を切っている。現況は農道の脇に窪んだ穴となっており、丸太材が敷きつめられていた。それらの上物や表土を除去すると炭窯の焚口部の焼土とそのまわりのフラットが検出されたが、本体は黒褐色土に被われており、明瞭なプランは確認できなかった。本体は天井部が崩落し、原形を留めない状態で検出された。窯体は尾根斜面の一部を平らに掘り込み、褐色の粘土を叩いて構築されている。本体は焚口部と煙出し部に長軸をとる楕円形状であるが、焼成室はほぼ円形である。本体の規模は3.5×2.8m、焼成室は直径2.3mである。壁は焚口部で70cmの厚さであるが、中央から煙出し部にかけては20cmである。焚口部から約4分の1までの床及び壁は赤橙色に焼け硬くなっている。煙出し部は若干赤橙色の焼土となり埋置された礫も赤く焼けている。しかし、焼成室の他の部分は焼土化し

ていない。煙出し部は外側に僅かに掘り下げられ、拳大の礫数個によって5×10cmの長方形の出口を作っている。焚口部の前方は2m四方の広さで平らに掘っている。そのフラットは窯体の底と同じ高さである。フラット及び窯体の周囲に柱穴痕は見られない。

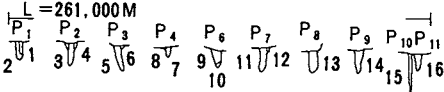
焼成室に木炭が若干残っていた。材質はナラである。



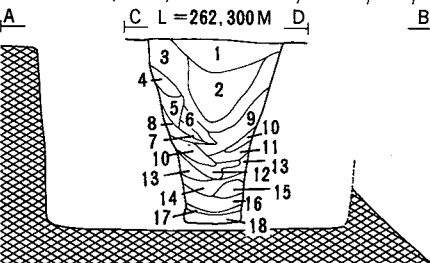
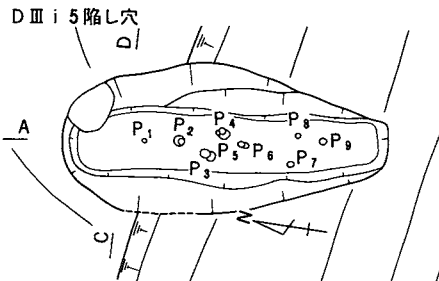
1. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、表土Ⅱ。
2. 黒色土 (10YR 1.7/1) 下半に褐色土がブロック状に混入する。
3. 暗褐色土 (10YR 3/3) プロック状混土、やわらかい。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 3より黒色が強い。
5. 褐色土 (10YR 4/6) 壁の崩落土。
6. 黄褐色土 (10YR 5/6) 壁の崩落土。
7. 暗褐色土 (10YR 3/4) 灰黄褐色 (シラス) 混土、水分が多い。



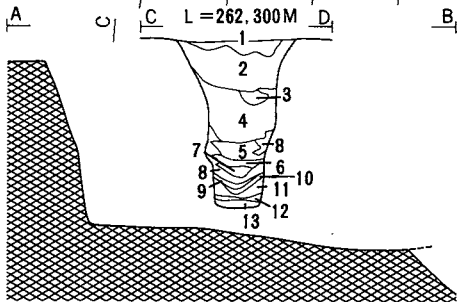
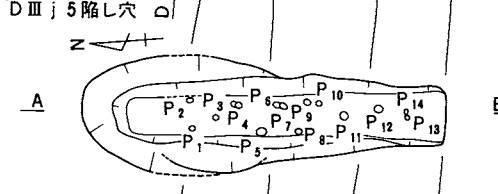
1. 黒褐色土 (10YR 2/2)
2. 黒色土 (10YR 2/1)
3. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2) ブロック状に混土。
5. 褐色土 (10YR 4/4) 砂質土、しまりなし。
6. 暗褐色土 (10YR 3/4) 砂質土、しまりなし。
7. 褐色土 (10YR 4/4) 砂質土、しまりなし。
8. 明黄褐色土 (10YR 6/8) 壁の崩落土。
9. 褐色土 (10YR 4/4) ブロック状混土。
10. 黒褐色土 (10YR 2/3) 下半砂質が強い。
11. 明黄褐色土 (10YR 7/6) 壁の崩落土。
12. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。
13. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土。砂粒多い。
14. 黄褐色土 (10YR 5/6) 混土。
15. 明黄褐色土 (10YR 7/6)。



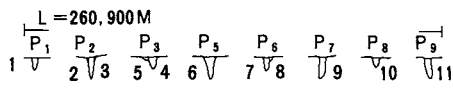
1. 褐色土 (10YR 4/4)
2. 褐色土 (10YR 4/6)
3. 明黄褐色土 (10YR 6/6)
4. 黄褐色土 (10YR 5/8)
5. 黄褐色土 (10YR 5/6)
6. 黄褐色土 (10YR 5/6) 5より黒色が強い。
7. 明黄褐色土 (10YR 6/6)
8. 褐色土 (10YR 4/6)
9. 褐色土 (10YR 4/6) 一部空洞。
10. 明黄褐色土 (10YR 6/6)
11. 暗褐色土 (10YR 3/4)
12. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4)
13. 黄褐色土 (10YR 5/6)
14. 褐色土 (10YR 4/6)
15. 褐色土 (10YR 4/6)
16. 暗褐色土 (10YR 3/4)



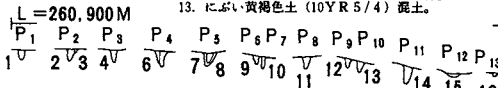
1. 黒色土 (10YR 2/1) やわらかい。
2. 黒褐色土 (10YR 2/2) やわらかい。
3. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
5. 褐色土 (10YR 4/4) 混土。
6. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、中層浮石主体。
7. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、中層浮石主体。
8. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土、砂質。
9. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、砂質。
10. 褐色土 (10YR 4/6) 壁の崩落土。
11. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土、砂質。
12. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土、中央部砂質が強い。
13. 黄褐色土 (10YR 5/4) 壁の崩落土。
14. 褐色土 (10YR 4/4) 混土、砂質の強い部分あり。
15. 黄褐色土 (10YR 5/8) 壁の崩落土。
16. 明黄褐色土 (10YR 6/6) 壁の崩落土。
17. にぶい黄褐色土 (10YR 7/4) シラス。
18. 明黄褐色土 (10YR 6/6) 混土。



1. 黒色土 (10YR 1.7/1) やわらかい。
2. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
3. 褐色土 (10YR 4/6) ブロック状に混土。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土、中層浮石をブロック状に含む。
5. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
6. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土、砂質、中層浮石を含む。
7. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。
8. 黄褐色土 (10YR 5/8) 壁の崩落土。
9. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。
10. 黄褐色土 (10YR 5/8)
11. 明黄褐色土 (10YR 6/8)
12. 明黄褐色土 (10YR 7/6) シラス主体。
13. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4) 混土。



1. 褐色土 (10YR 4/6)
2. 褐色土 (10YR 4/4)
3. 明黄褐色土 (10YR 6/6)
4. 明黄褐色土 (10YR 6/6)
5. 黄褐色土 (10YR 5/6)
6. 明黄褐色土 (10YR 6/6)
7. 褐色土 (10YR 4/6)
8. 褐色土 (10YR 4/6)
9. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4)
10. にぶい黄褐色土 (10YR 6/4)
11. 暗褐色土 (10YR 3/4)
12. 暗褐色土 (10YR 3/4)
13. 暗褐色土 (10YR 3/4)
14. 暗褐色土 (10YR 3/4)
15. 暗褐色土 (10YR 3/4)
16. 暗褐色土 (10YR 3/4)
17. 暗褐色土 (10YR 3/4)
18. 暗褐色土 (10YR 3/4)

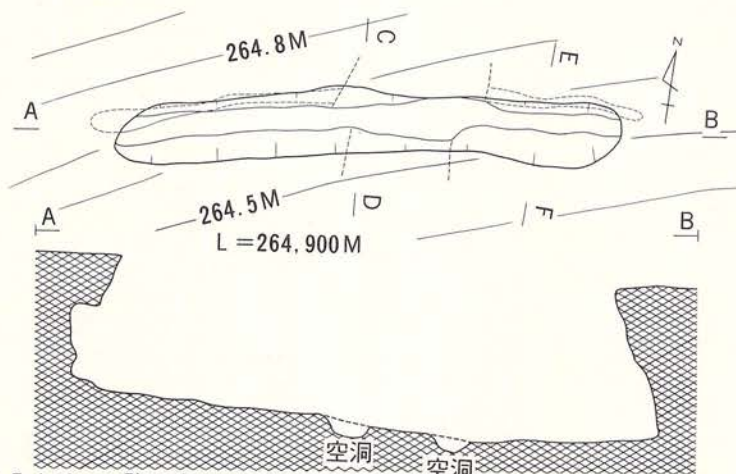


1. 暗褐色土 (10YR 3/4)
2. 褐色土 (10YR 4/6)
3. 暗褐色土 (10YR 3/4)
4. 黄褐色土 (10YR 5/6) 混土
5. 褐色土 (10YR 4/6)
6. 暗褐色土 (10YR 3/4)
7. 暗褐色土 (10YR 3/3)
8. 褐色土 (10YR 4/6)
9. にぶい黄褐色土 (10YR 6/4)
10. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4)
11. 黄褐色土 (10YR 3/4)
12. 褐色土 (10YR 4/6)
13. にぶい黄褐色土 (10YR 6/4)
14. 暗褐色土 (10YR 3/4)
15. にぶい黄褐色土 (10YR 5/4)
16. 褐色土 (10YR 4/4)
17. 褐色土 (10YR 4/6)

第164図 陥し穴(i) (平・断・小孔断面 S = 1/60)



E I f 9 陥し穴

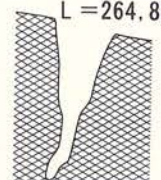


L = 264.900 M

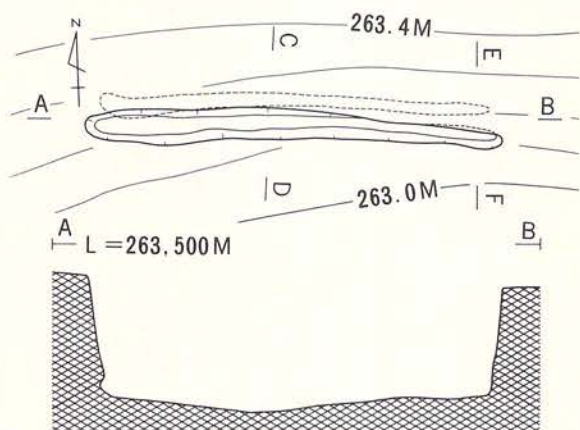


1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 褐色土 (10YR 4/4)
3. 明黄褐色土 (10YR 6/8)

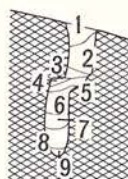
L = 264.800 M



E I i 10-1 陥し穴



L = 263.500 M

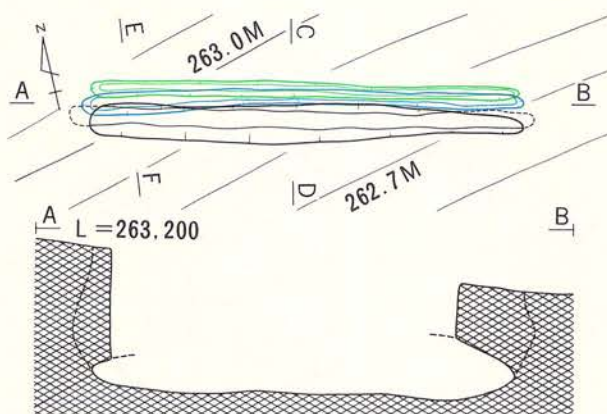


L = 263.500 M

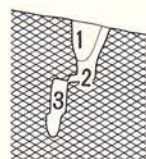


1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
3. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、壁の崩落土。
5. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。
6. 黒色土 (10YR 2/1)
7. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、壁の崩落土。
8. 黒褐色土 (10YR 2/3) 混土。
9. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土。

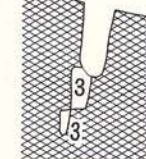
E I i 10-2 陥し穴



L = 263.200 M

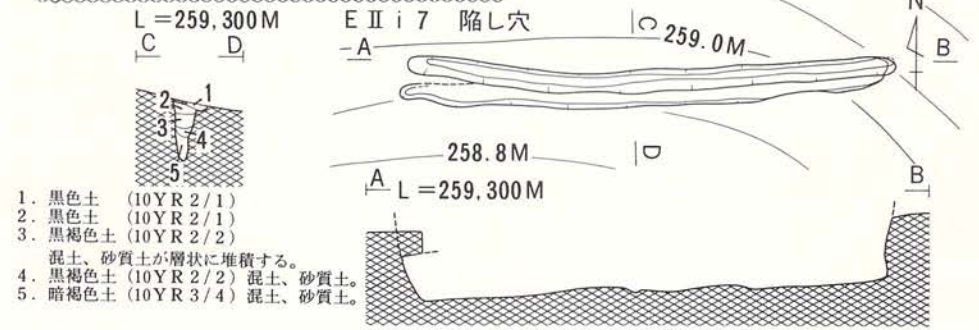
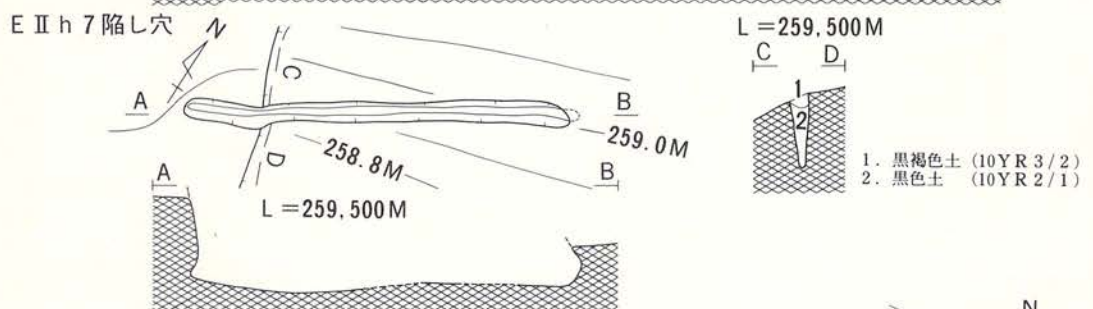
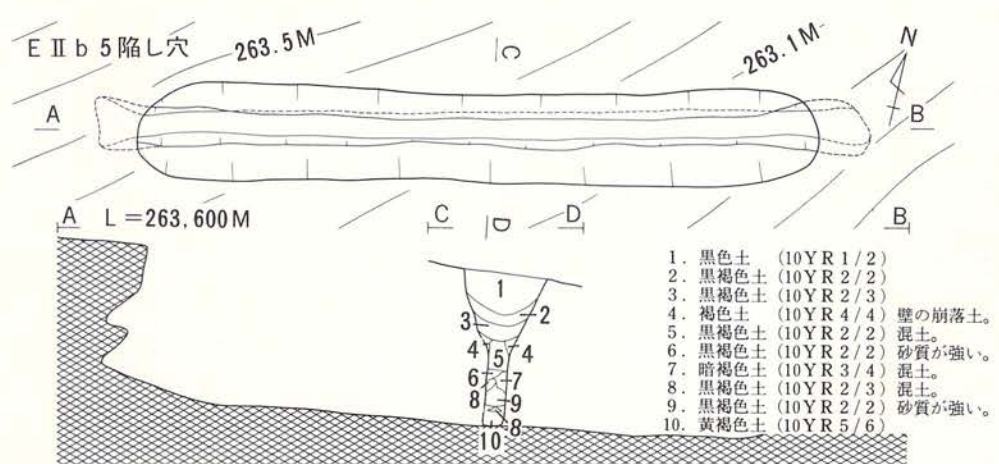
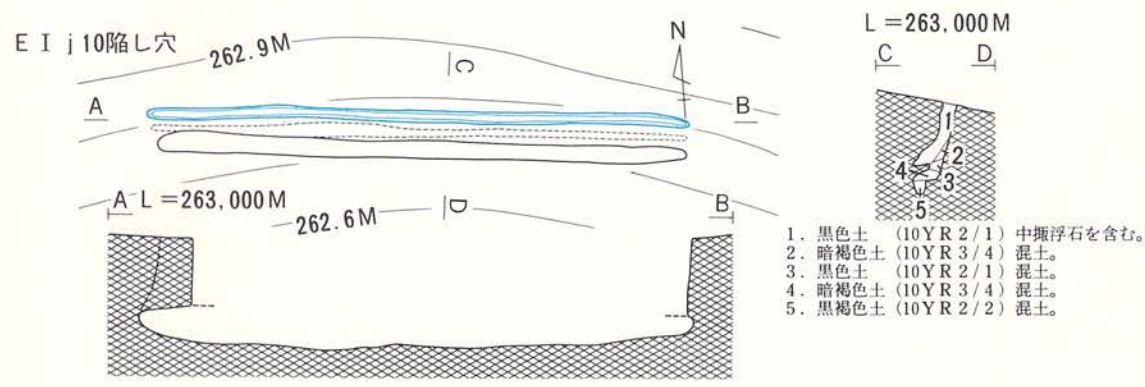


L = 263.200 M



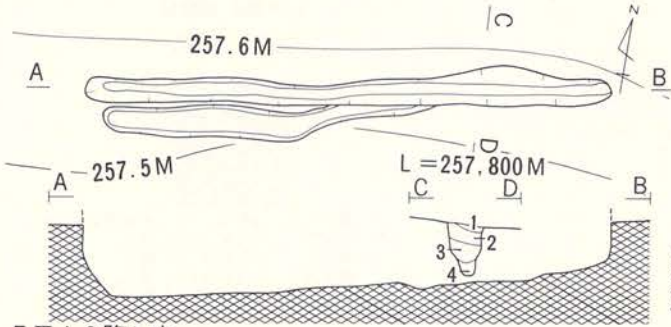
1. 黒色土 (10YR 2/1) やわらかい。
2. 黒褐色土 (10YR 2/2) 中搬浮石を含む。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。

第165図 陥し穴(2) (平・断面 S = 1/60)



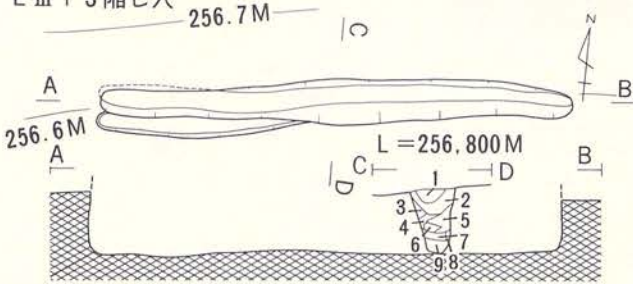
第166図 陥し穴(3) (平・断面 S = 1/60)

E III i 1 陥し穴



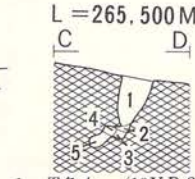
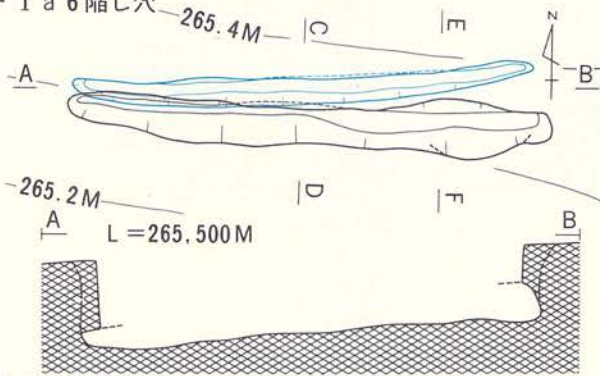
1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 褐色土 (10YR 4/4) 砂質土。
3. 黒褐色土 (10YR 3/1) 混土。
4. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土。

E III i 3 陥し穴

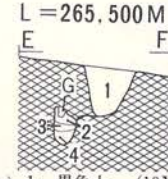


1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 褐色土 (10YR 4/6) 砂質土、中礫浮石を主体とする。
3. 黒褐色土 (10YR 2/3) やわらかい。
4. 褐色土 (10YR 4/4) 中礫浮石を含む。
5. 暗褐色土 (10YR 3/4) 壁の崩落土。
6. 黒褐色土 (10YR 2/2)
7. 黒褐色土 (10YR 2/2)
8. 黄褐色土 (10YR 5/6) 壁の崩落土。
9. 黒褐色土 (10YR 2/2)

F I a 6 陥し穴

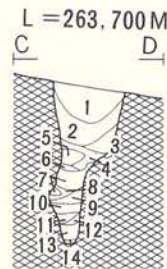
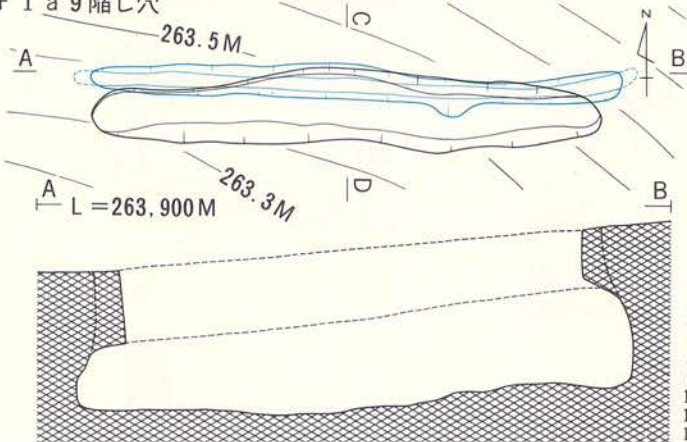


1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 褐色土 (10YR 4/4)
3. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
4. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
5. 黒褐色土 (10YR 3/2) 粘質土、礫を含む。



1. 黒色土 (10YR 2/1)
2. 褐色土 (10YR 4/4)
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) 混土。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。

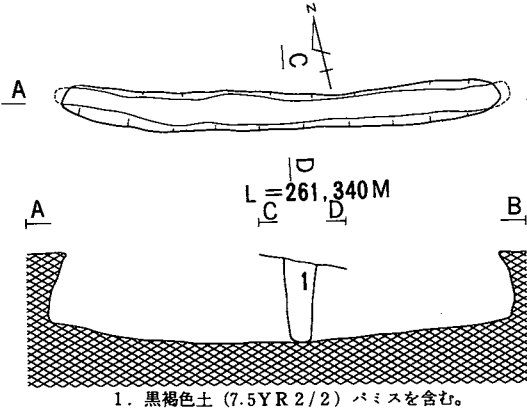
F I a 9 陥し穴



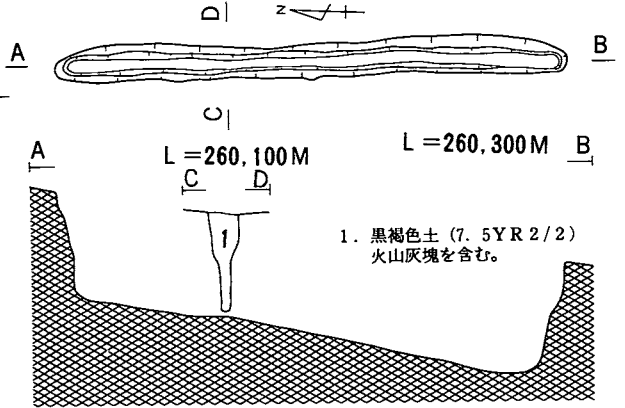
1. 黒色土 (10YR 1.7/1) やわらかい。
2. 黒色土 (10YR 2/1)
3. 黒褐色土 (10YR 3/2) 混土。
4. 黒色土 (10YR 2/1) 混土。
5. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土、八戸火山灰が主体。
6. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、八戸火山灰が主体。
7. 褐色土 (10YR 4/6) 八戸火山灰。
8. 黒色土 (10YR 2/1) 砂質土。
9. 褐色土 (10YR 4/4) ブロック状混土。
10. 暗褐色土 (10YR 3/3) 混土。
11. 褐色土 (10YR 4/6) 八戸火山灰下部。
12. 暗褐色土 (10YR 3/4) 混土、やわらかい。
13. 褐色土 (10YR 4/4) 八戸火山灰下部。
14. 黒色土 (10YR 2/2) 混土。

第167図 陥し穴(4) (平・断面 S = 1/60)

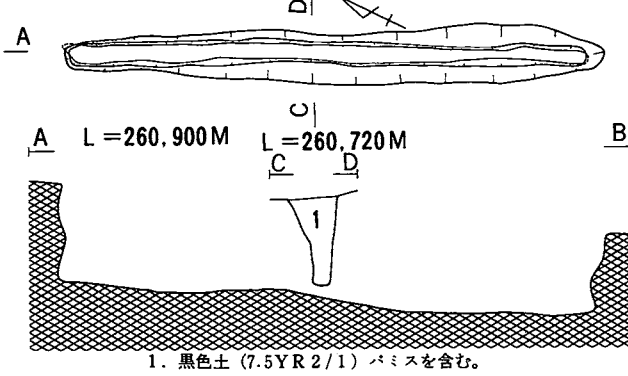
F II h 9 陥し穴



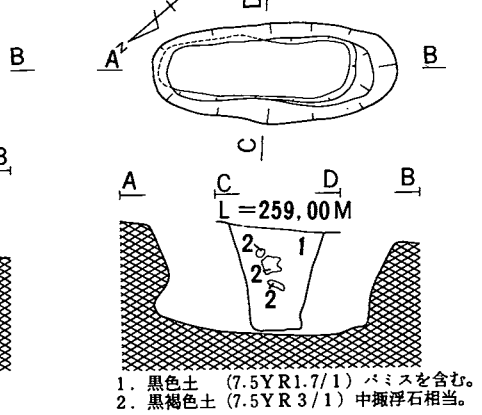
F III g 1 陥し穴



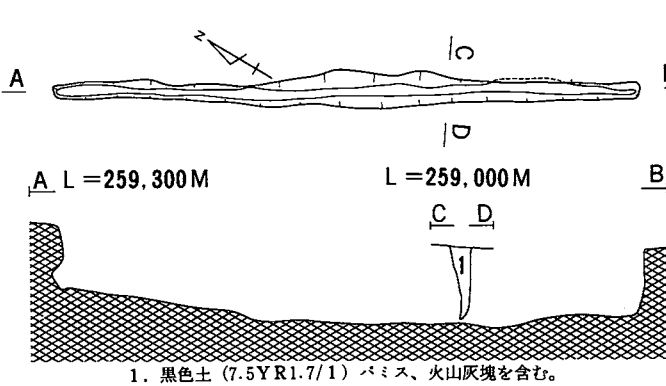
F II i 9 陥し穴



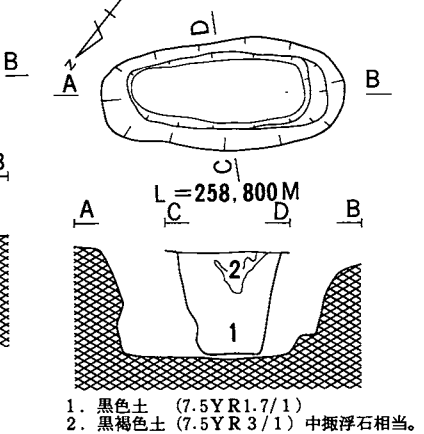
F III h 3 陥し穴



F III i 3 陥し穴

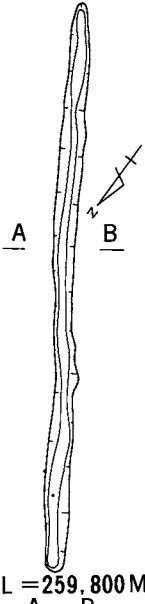


F III i 4 陥し穴

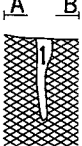


第168図 陥し穴(5) (平・断面 S = 1/60)

F III j 2 陥し穴

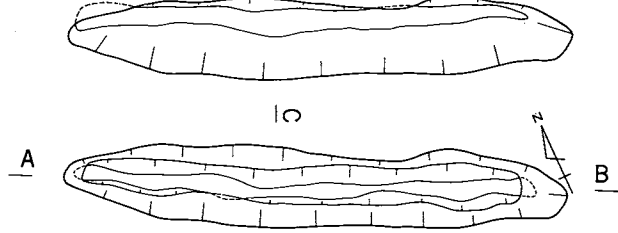


L = 259,800 M



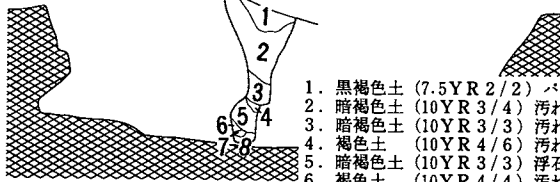
1. 黒色土 (7.5YR1.7/1) パミスを含む。

G I d 10 陥し穴



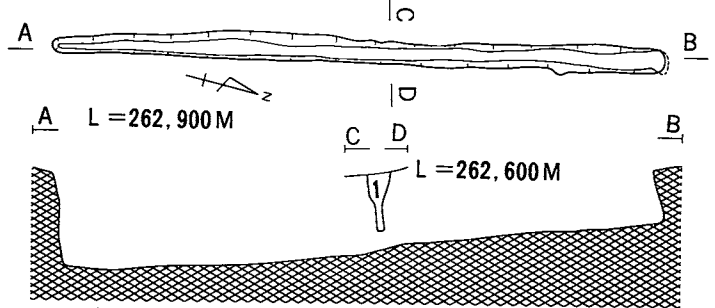
A L = 267,800 M

L = 268,000 M



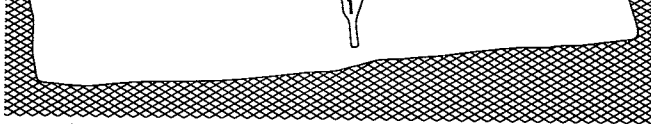
1. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) パミスを含む。
2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 汚れ火山灰、パミスを含む。
3. 暗褐色土 (10YR 3/3) 汚れ火山灰、パミスを含む。
4. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れ火山灰。
5. 暗褐色土 (10YR 3/3) 浮石を含む。
6. 褐色土 (10YR 4/4) 汚れ火山灰。
7. 黄褐色土 (10YR 5/8) 火山灰塊。
8. 黒褐色土 (10YR 3/2)

G II c 7 陥し穴



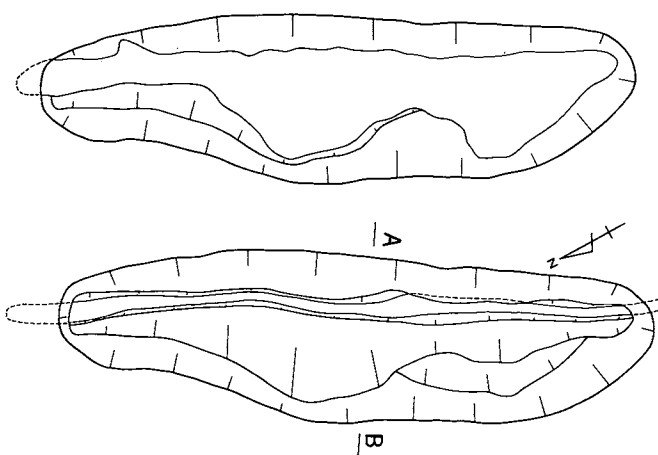
A L = 262,900 M

L = 262,600 M

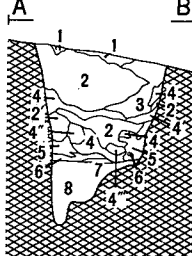


1. 黒色土 (7.5YR 2/1) 径1cm土の極暗褐色土塊を含む。

G II f 8 陥し穴



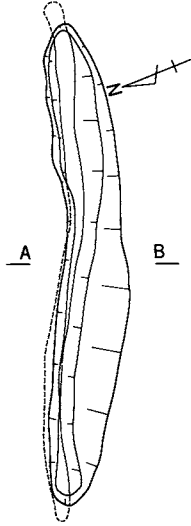
L = 264,300 M



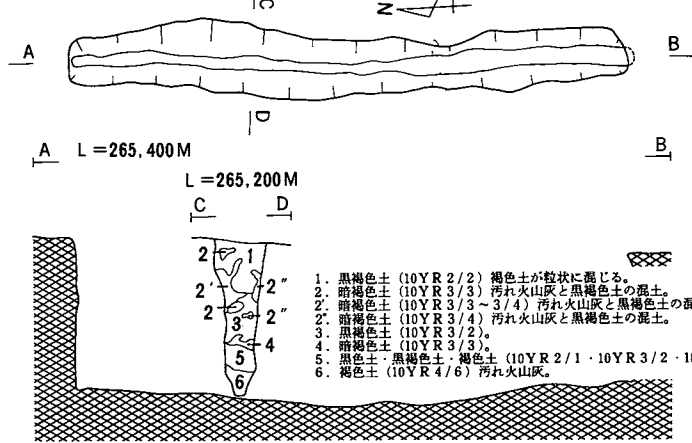
1. 暗褐色土 (10YR 3/4) 汚れ火山灰と黒褐色土の混土。
2. 黒色土 (10YR 2/1) 汚れ火山灰が混じる。
- 2'. 褐色土 (10YR 2/2) 汚れ火山灰がa層より多い。
3. 黒褐色土 (10YR 2/2) パミスを少量含む。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3) パミスを少量含む、汚れ火山灰が混じる。
- 4'. 黒褐色土 (10YR 3/2) 汚れ火山灰がa層より少ない。
- 4''. 暗褐色土 (10YR 3/3) 汚れ火山灰が混じる。
- 4'''. 黒褐色土 (10YR 2/2) 汚れ火山灰がb層より少ない。
5. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れ火山灰。
6. 黒色土 (10YR 1.7/1)
7. 暗褐色土 (10YR 3/3) 粘土、よくしまり堅い。
8. 褐色土 (10YR 4/6) 粘土、よくしまり堅い。

第169図 陥し穴(6) (平・断面 S = 1 / 60)

G II g 3 陥し穴



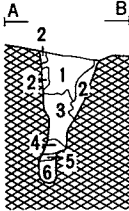
G II h 7 陥し穴



1. 黒褐色土 (10YR 2/2) 褐色土が粒状に混じる。
2. 暗褐色土 (10YR 3/3) 汚れ火山灰と黒褐色土の混土。
2. 暗褐色土 (10YR 3/3 ~ 3/4) 汚れ火山灰と黒褐色土の混土。
2. 暗褐色土 (10YR 3/4) 汚れ火山灰と黒褐色土の混土。
3. 黒褐色土 (10YR 3/2)。
4. 暗褐色土 (10YR 3/3)。
5. 黒色土・黒褐色土・褐色土 (10YR 2/1・10YR 3/2・10YR 4/6) の混土。
6. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れ火山灰。

G II i 7 陥し穴

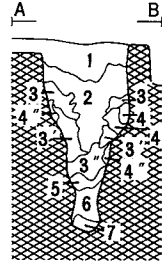
L = 266,300M



1. 黒色土 (7.5YR 2/1) パミスが多く含む。
2. 褐色土 (7.5YR 4/6) 汚れ火山灰。
3. 黒褐色土 (7.5YR 2/2) 兩部浮石を含む。
4. 極暗褐色土 (7.5YR 2/3) パミスを含む。褐色土塊が混じる。
5. 暗褐色土 (7.5YR 3/4) 礫土塊を含む。
6. 褐色土 (7.5YR 4/4) 暗褐色土と火山灰の混土。

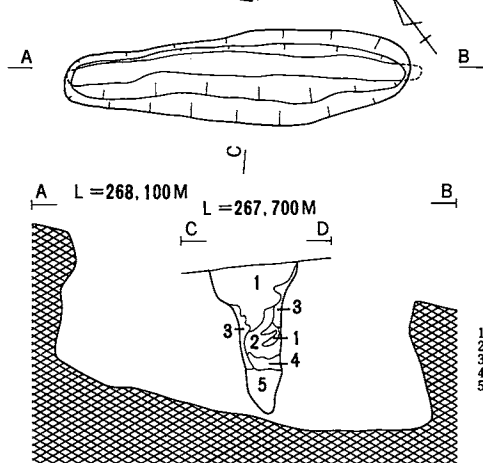


L = 265,600M



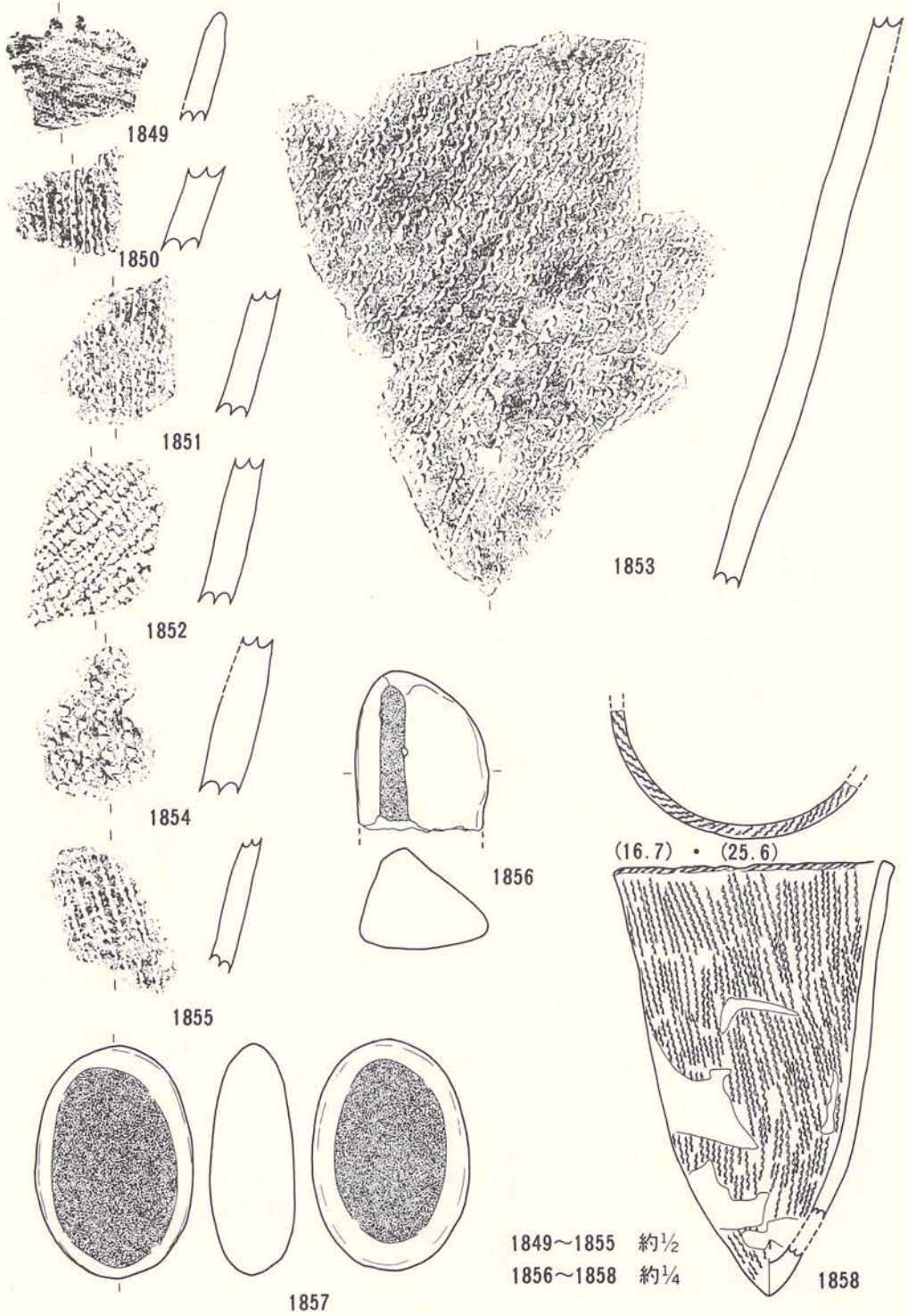
1. 黒色土 (10YR 1.7/1)。
2. 黒色土・黒褐色土 (10YR 2/1・10YR 2/3) の混土。
3. 黒色土・褐色土 (10YR 2/1・10YR 4/4) の混土。
3. 黒褐色土・褐色土 (10YR 2/2・10YR 4/4) の混土。
3. 黒色土・暗褐色土・黄褐色土 (10YR 2/1・10YR 3/3・10YR 5/6) の混土。
4. 褐色土 (10YR 4/6) 汚れ火山灰。
4. 黄褐色土 (10YR 5/6) 汚れ火山灰。
4. 黄褐色土 (10YR 5/6) 汚れ火山灰。
5. 黄褐色土 (10YR 5/6) 黒褐色土が混じる。
6. 黒色土 (10YR 2/1) 褐色土・暗褐色土が混じる。
7. 暗褐色土 (10YR 3/4) 粘土質・黒褐色土が混じる。

G II j 1 陥し穴

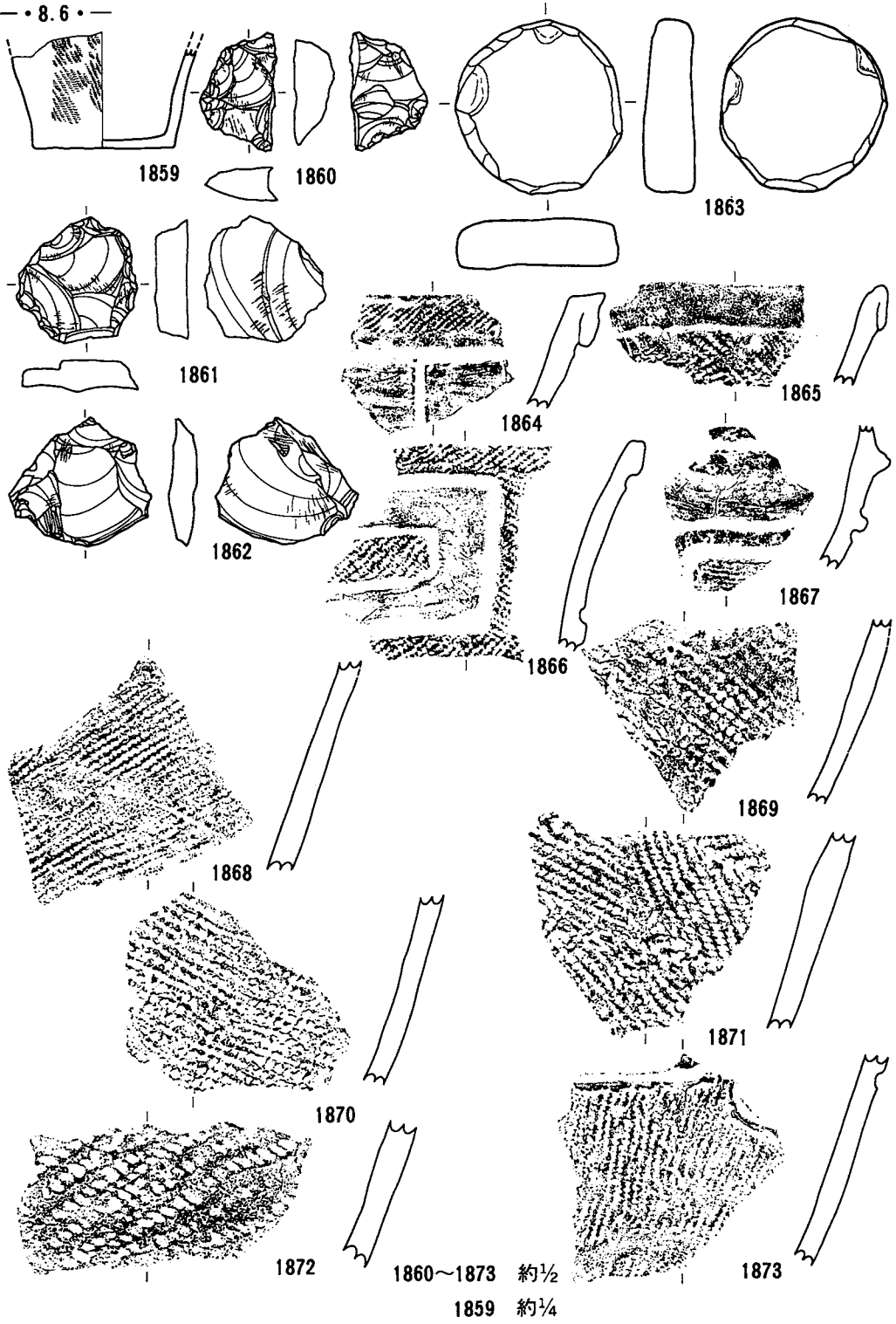


1. 黒褐色土 (7.5YR 3/1) 明褐色土塊を含む。
2. 暗褐色土 (7.5YR 3/3) 明褐色土塊を含む。
3. 明褐色土 (7.5YR 5/6) 暗褐色土が混じる。
4. 似た褐色土 (7.5YR 5/4) 暗褐色土が混じる。
5. 暗褐色土 (7.5YR 3/4)。

第170図 陥し穴(7) (平・断面 S = 1/60)

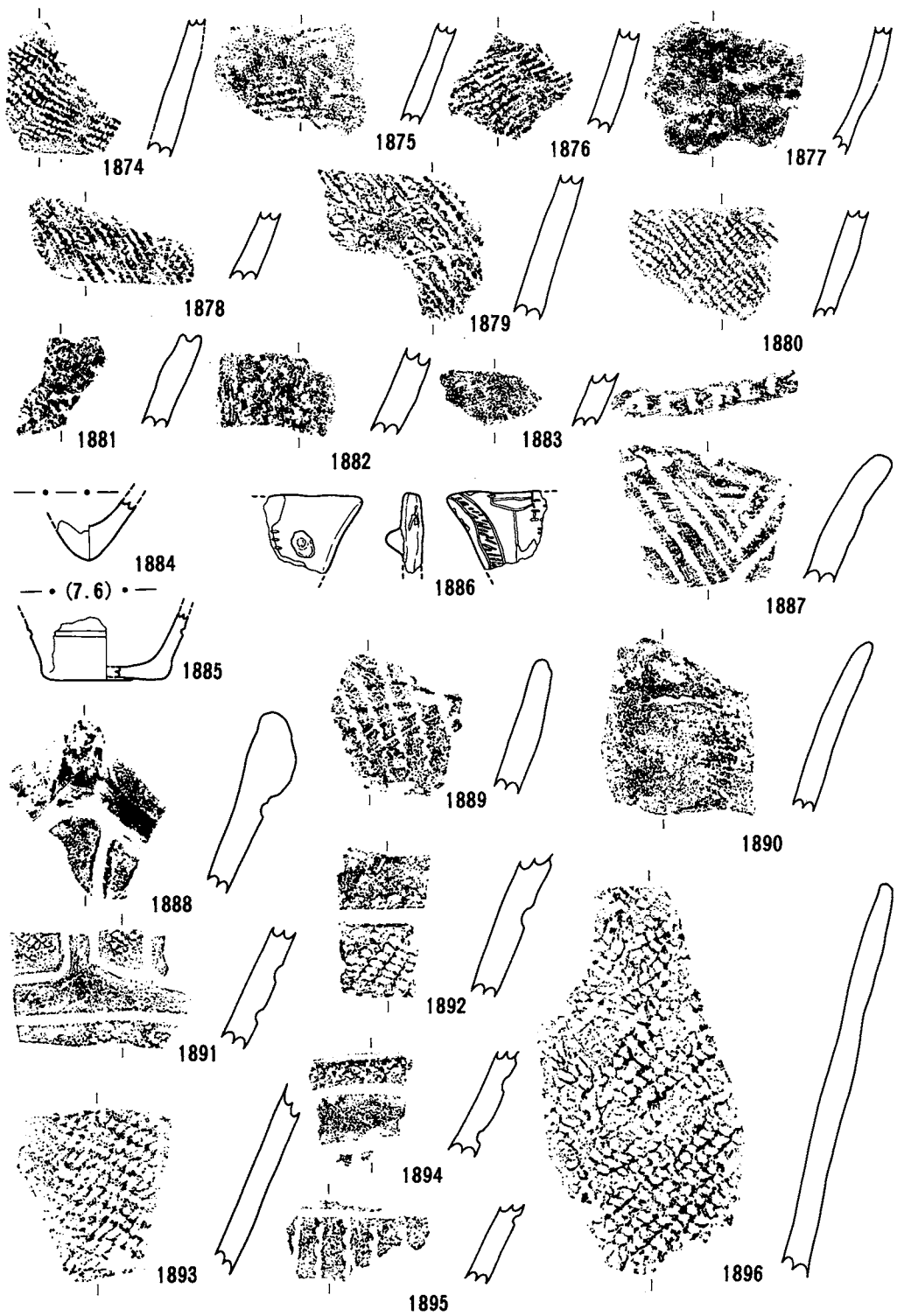


第171図 陥し穴出土遺物 (遺物番号1849~1858)



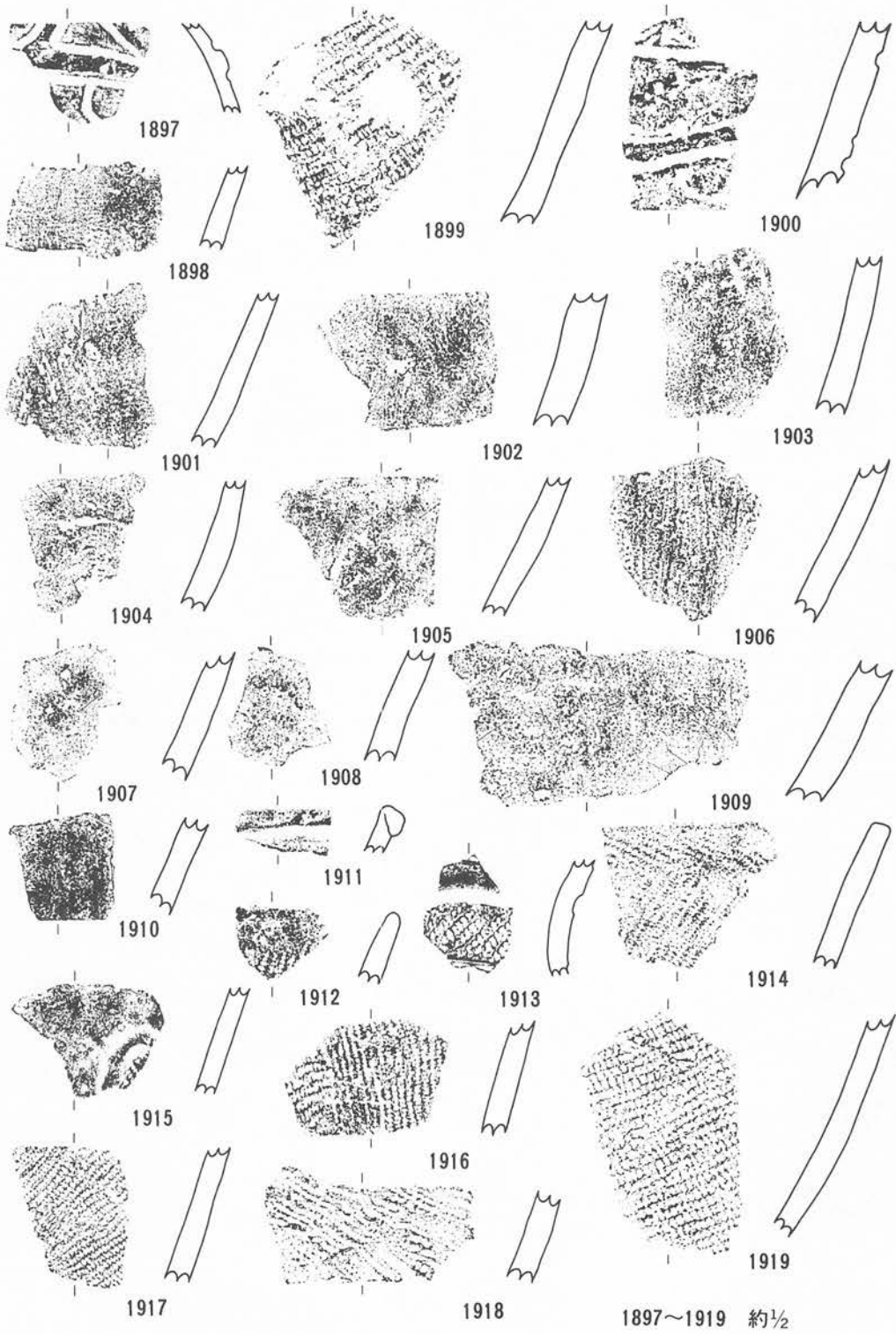
第172図 陥し穴出土遺物 (遺物番号1859~1873)



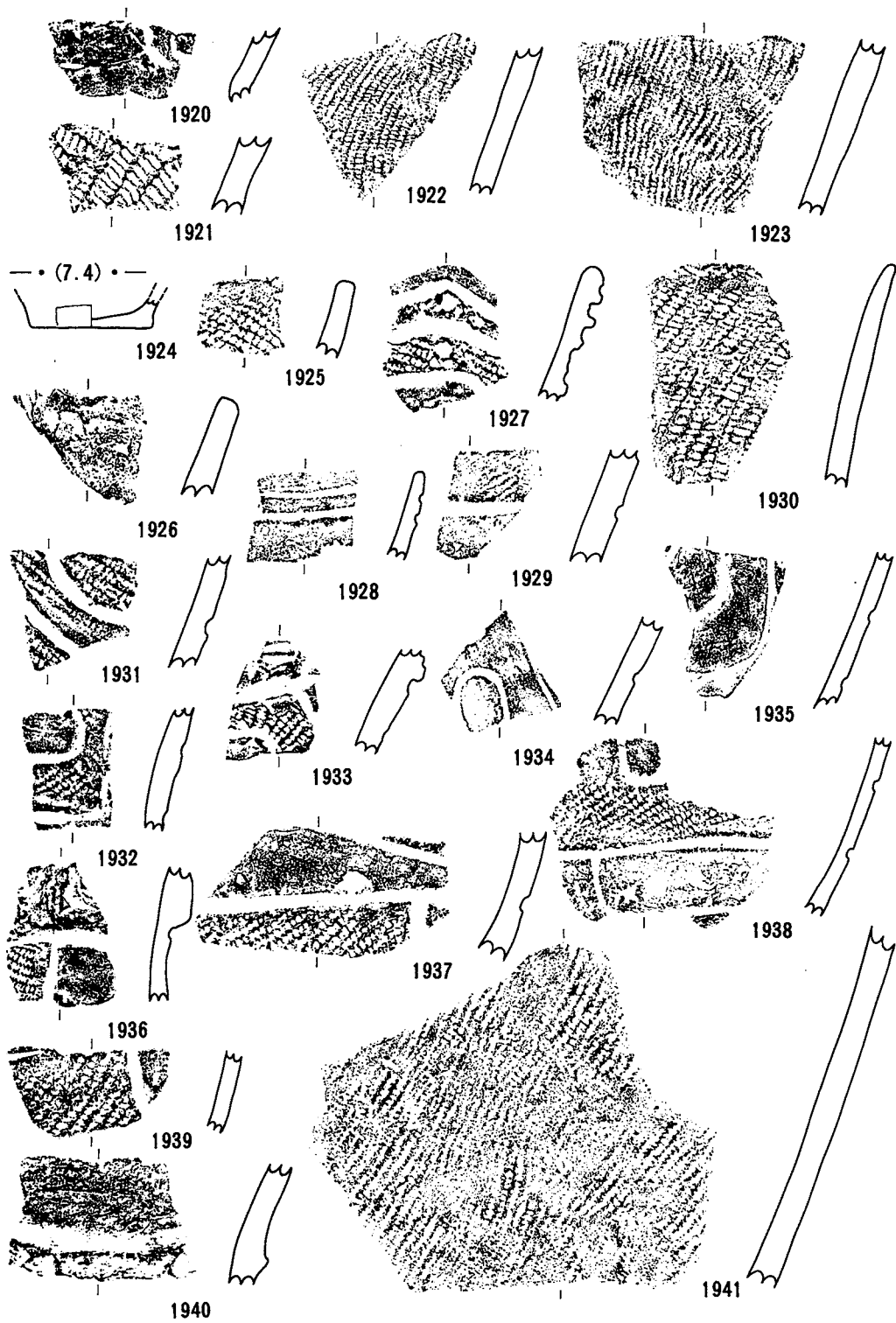


1874~1883・1886~1896 約½  
 1884・1885 約¼

第173図 陥し穴出土遺物 (遺物番号1874~1896)

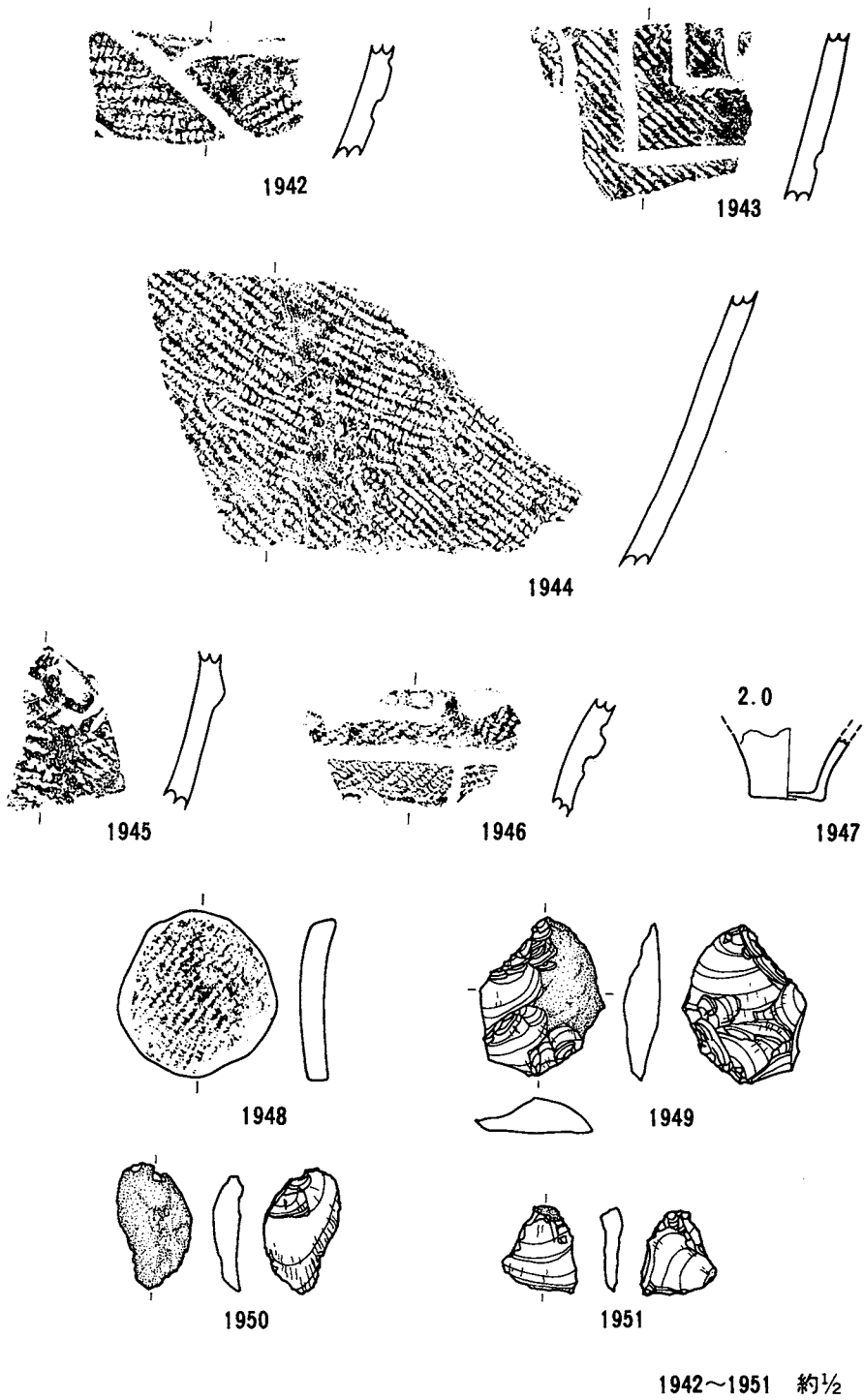


第174図 陥し穴出土遺物（遺物番号1897~1919）

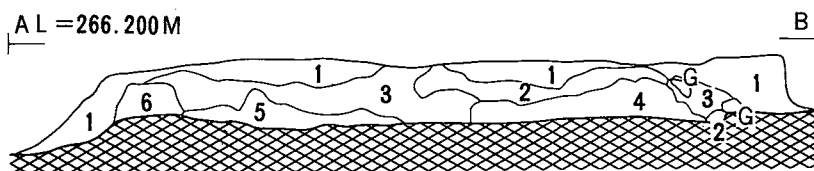
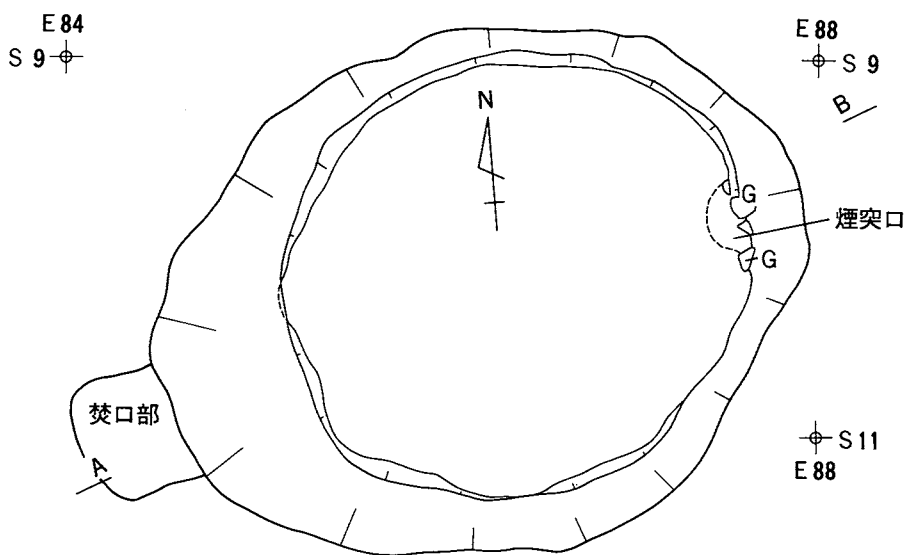


1920~1923・1925~1941 約 $\frac{1}{2}$   
 1924 約 $\frac{1}{4}$

第175図 陥し穴出土遺物（遺物番号1920~1941）



第176図 陥L穴出土遺物 (遺物番号1942~1951)



- |                               |                       |
|-------------------------------|-----------------------|
| 1. 褐色土 (10YR 4/6) 粘土、天井部の崩落土。 | 4. 木炭。                |
| 2. 明赤褐色土 (5YR 5/6~5/8) 焼土。    | 5. 木炭と焼土の混土。          |
| 3. 天井部・木炭・焼土・灰の混土。            | 6. 褐色土 (10YR 4/6) 粘土。 |

第177図 G II i 4 炭窯 (平・断面 S=1/40)

## 2. 遺構外出土遺物

遺構外から出土した遺物は、縄文時代の土器、土製品、土偶、石器である。時期は早期、前期、中期、後期に位置づけられるものである。

これらのうち、出土遺物の大半を占める早期と後期の土器は、調査区東側尾根周辺から出土したものである。

### (1) 縄文土器

当遺跡から出土した縄文土器を下記のとおり分類した。

- ① 第Ⅰ群土器 早期に属する土器
- ② 第Ⅱ群土器 前期に属する土器
- ③ 第Ⅲ群土器 中期に属する土器
- ④ 第Ⅳ群土器 後期に属する土器

以上のとおりに分類し、各土器群について文様、器形の特徴及び型式等からさらに細分した。

#### ① 第Ⅰ群土器

早期の土器を本群とした。文様の大部分は貝殻文系である。本群を文様の形態等から1類～5類に細分した。

##### 1類（第178～197図、写真図版158～172）

この類は貝殻文系の土器で、貝殻の腹縁を利用して施文される文様と、刺突文主体の文様をこの類とした。1952～2220の土器が出土している。

##### 1類A 貝殻腹縁文主体の土器を一括した。

この中には縦位の貝殻腹縁文を主体とするもの（1952～2002）、斜位の貝殻腹縁文を主体とするもの（2003～2036）、横位の貝殻腹縁文を主体とするもの（2037～2043）、縦位羽状の貝殻腹縁文を主体とするもの（2044～2097）、横位羽状の腹縁文を主体とするもの（2098～2143）、横位の貝殻腹縁文の下に縦位羽状の腹縁文を施しているもの（2144）、網目状に貝殻腹縁文を施しているもの（2146・2147・2150）、不規則に腹縁文を施しているもの（2148・2149）がみられる。

これらの文様は第187図の2098～2102に代表されるように、口縁部から体部上半に施文されるものが多く、刺突文によって文様帯を区画するもの（例2100～2102）と刺突文を伴わないもの（例1963・2096）とがみられる。この類の器形は底部が砲

弾形から乳房形の尖底深鉢形を呈するものが一般的であるが、F II j 6 住居跡埋土から出土した190（第25図、P 47）のごとく丸底を呈するものもみられる。

1 類B 貝殻腹縁文と刺突文から文様が構成されるものを一括した。

2151は山形口縁を呈し、刺突列を3段に巡らし、その間に貝殻腹縁文を施文しているものである。2152～2156は刺突列と横位羽状の短い貝殻腹縁文が施文されているものである。

1 類C 刺突文主体の文様が施文されているものを一括した。

これらの中には、口縁部下に1条の刺突列を巡らすもの（2157）、2条の刺突列を巡らすもの（2161）、数条の刺突列を縦、横、斜位に施文しているもの（2158・2160～2178）がみられる。

1 類D 貝殻腹縁押し引き文主体の文様を一括した。

この中には、貝殻腹縁押し引き文のみのもの（2179・2151・2183・2187・2189・2192・2195～2198・2200～2211）、貝殻腹縁押し引き文と刺突文を施文しているもの（2182・2184～2186・2188・2190・2191・2193）、貝殻腹縁押し引き文と貝殻腹縁文を施文しているもの（2194）、貝殻腹縁押し引き文と貝殻条痕文を施文しているもの（2180）がみられる。

1 類E 貝殻連続波状文主体の土器を一括した。

2212～2220が出土している。

2 類（第198～199図、写真図版172～173）

この類は平行する直線や曲線に貝殻腹縁文を沿わせたり、充填されて施文する土器を一括した。2221・2222は口縁部破片、2223～2251は体部破片、2252は底部である。この類の器形は底部が乳房形から丸底形を呈し、体部にくびれをもつキャリパー形を呈するものと思われる。

3 類（第200図、写真図版173）

この類は数条の平行化する沈線を施文する土器を一括した。

2253～2264はいずれも体部破片で内面に貝殻条痕文の施されているものが多くみられる。

4 類（第200～210図、写真図版174～179）

この類は貝殻条痕文が部分的に施文されている土器と無文の土器を一括した。

2265～2394が出土している。この類の口縁部をみると山形状を呈するもの（例2265・2284・2295など）と波状を呈するもの（例2274・2279・2283など）が多くみられる。

5 類（第211図、写真図版180～181）

この類には1類から4類の尖底部を一括した。

2395～2435が出土している。これらは砲弾形を呈するもの（例2396・2416）、乳房形を呈す

るもの（例2397・2402）、丸底を呈するもの（例2428）に大別される。

#### 6類（第211図、写真図版181）

この類には砲弾形を呈する尖底深鉢形で単節斜縄文と刺突文の施文されている土器を一括した。

2436の1点が出土している。

### ② 第Ⅱ群土器

前期の土器を本群とした。

文様の形態等から1類～3類に細分した。

#### 1類（第212図、写真図版181）

この類は尖底深鉢形を呈し、主として羽状縄文を施す土器を一括した。この類は長七谷地Ⅲ群にはほぼ相当すると思われる土器群である。

2437～2449が出土している。

#### 2類（第212図、写真図版181～182）

この類は縦位の燃糸文の施文されている土器を一括した。

2450～2452が出土している。2450は口縁部破片である。

#### 3類（第213図、写真図版182）

この類は口縁部に並行する数条の押し引き状の沈線を施文することに特徴をもつ土器を一括した。この類は早稲田6類にはほぼ相当すると思われる。

2453～2464が出土している。いずれも同一個体と思われる。2453～2458は口縁部破片で、ゆるやかな山形口縁を呈する。口縁部には竹管あるいはこれに類する工具で、押し引きから沈線を引いているものである。体部には横走する綾絡文が施文されている。

### ③ 第Ⅲ群土器

中期の土器を本群とした。この群の土器は遺構内から出土しているが、遺構外からは出土をみない。遺構内から出土した土器は、いずれも中期末葉の大木10式に相当するものである。

### ④ 第Ⅳ群土器

後期の土器を本群とした。この群に属する土器はいずれも後期初頭から前葉の土器で、東側尾根を中心に出土したものである。

#### 1類（第214～216図、写真図版182～184）

この類は単節斜縄文を地文とし、「S」・「逆S」字や蛇行文を充填文とする三角形の沈線



区画文が施文される土器を一括した。2465～2495が出土している。いずれも深鉢形土器である。口縁は平縁のものとは波状から山形状を呈するものとがみられる。器形の把握できるものについてみると、体部上半に浅いくびれをもつもの（2465・2466）と、くびれをもたずに底部から直線的に外傾し立ち上がるものとがみられる。また山形状口縁下にボタン状の貼付をおくもの（2468・2483・2484）もみられる。

## 2類（第217～242図、写真図版184～202）

この類は文様の構成から見ると1類とほぼ変化はないが、初歩的な磨消方法がみられ、一単位の三角形の沈線区画文が大きく描かれたり、「S」や「逆S」字の充填文様が大きく描かれる傾向にある土器を一括した。

2496～2813が出土している。器種は深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器がみられる。深鉢形土器の口縁は1類同様に波状から山形状を呈するもの（例2496・2497・2501など）と平縁を呈するもの（例2505・2783・2788など）とがみられる。文様は単節斜縄文の充填された渦巻状の文様が連続して横位に連なるもの（2506）、体部上半に方形の隆帯を巡らし、その中に1類でみられる1単位の文様を施文しているもの（2508）、渦巻文が略化され、横位に大きく流れるように描かれるもの（2511）などがみられる。2504は小型の鉢形土器で、渦巻状の文様が横位に連続して施文されているもの、2501は山形口縁を呈し、体部上半に縄文の充填された「横U」字状の文様が施文されているもので、区画には沈線と三日月状の隆帯を利用している。

総じてこの類の文様は磨消縄文がいまだに不明瞭なもの（例2496）から、しだいに磨消部分と縄文充填部分が明瞭になり（2504・2505・2506・2507など）、さらに長楕円状の沈線区画（2510・2815・2824）へと変化する過渡期にあたる段階と捉えることができる。

## 3類（第243～250図、写真図版202～208）

この類は方形から長方形の区画文が施文され、磨消方法が多用されている土器を一括した。2814～2895が出土している。器種は深鉢形土器、鉢形土器、壺形土器がみられる。深鉢形土器の器形は第1・2類と同一である。文様には、曲線的に区画文を描くもの（2815・2824など）から直線的に区画文を描くもの（2814・2816・2817など）とがみられる。

## 4類（第251図、写真図版208）

この類は刺突文主体の文様が施文されている土器を一括した。

2896の1点が出土している。器形は体部上半が張り、口縁部は内湾する。刺突文は口縁部下と体部下半に施文され、棒状工具で右横から突かれているもので、左端が三日月状に隆起しているものである。

## 5類（第251・257図、写真図版208・212）

この類は口縁部下に限られた文様帯をもつ土器を一括した。

2897・2898及び2946・2947の深鉢形土器4点が出土している。2897の器形は体部上半が脹り、口縁部が内湾するもので口縁部下に原体R Lで山形状の丘痕文が施文されている。2898は口縁部がキャリパー状に開くもので、口縁部下に2条平行の曲線文が施文されているものである。

#### 6類（第251～257図、写真図版208～213）

この類には粗製の土器を一括した。

2899～2945・2948～2955が出土している。深鉢形土器の器形には口縁部が平縁で外反するものと内湾するものがみられる。外反するものには口縁部が折り返し状に肥厚するものが目立つ。地文は単節斜縄文が一般的であるが、綾絡文（2922）、複節斜縄文（2905・2910）、無節斜縄文（2906・2915）、網目状撚糸文（2904）もみられる。2955は鉢形土器で、口縁部が折り返し状に肥厚するもので、地文にL Rの単節斜縄文が施文されている。

#### 7類（第258図、写真図版214）

この類には無文の壺形土器を一括した。2983の1点が出土している。

#### 8類（第258～260図、写真図版214～215）

この類にはこれまでに略記した第Ⅳ群土器1類～7類に該当すると思われる底部破片と、小型の土器片、釣手土器の底部片を一括した。

2984～3034が出土している。

#### 9類（第260図、写真図版215～216）

この類には小型の蓋付土器を一括した。

3035～3045が出土している。いずれも沈線文が施文されているものである。

### (2) 土製品（第260～262図、写真図版216～217）

3046～3095・3099が出土している。キノコ形土製品（3046～3051）、鐸形土製品（3052・3053）、円盤状土製品（3055～3094）、土製装飾品（3095）、3099は直径12cmの円盤状を呈する無文の土製品である。

### (3) 土偶（第262図、写真図版217）

3096～3098が出土している。いずれも板状を呈する土偶で、3096・3098は沈線と刺突で、3097は刺突文が施されているものである。

### (4) 石器

遺構外から出土した石器は、石鏃、石錐、石匙、搔器、石篋、楔形石器、石斧、磨石、凹石、棒状擦石、敲打痕ある石器、石皿である。以下器種ごとに略記する。

① 石鏃（第263図、写真図版217）

3100～3109が出土している。3100～3103は有茎鏃、3104～3106・3108・3109は無茎鏃、3107は円基鏃である。

3102の先端部は欠損している。

② 石錐（第263図、写真図版217～218）

3110～3114が出土している。3110はつまみ部をもち先端部を細身に尖らせたもの、3111・3113・3114は不定形な剥片の一端を剝離調整して錐部を作り出しているもの、3112は比較的大きな棒状の剥片に剝離調整を加えたものである。3114の先端部は欠損している。

③ 石匙（第263図、写真図版218）

3115～3121が出土している。いずれも縦型の石匙で、主に片面の側縁部に剝離調整が施されているものである。3115・3117・3121の先端部は欠損している。

④ 搔器・削器（第263～267図、写真図版218～221）

3122～3203が出土している。刃部剝離調整をみると、片面1側縁に施されているもの、片面2側縁に施されているもの、両面周縁に施されているもの、両面周縁に断続的に施されているものがある。

⑤ 石篋（第267～268図、写真図版221～223）

3204～3221が出土している。総じて上方が狭く、下方が広がっているものが一般的であるが3210・3213のように頭部の尖るものもみられる。

⑥ 楔形石器（第268～269図、写真図版223）

両端に打撃痕・剝離痕の認められるもので、楔形石器と思われるものを一括した。

3222～3244が出土している。

⑦ 剥片石器（第269図、写真図版223）

剥片石器は多数出土したが、3245～3249の4点のみ掲載し、残りは割愛した。

⑧ 石斧（第269～271図、写真図版224～226）

3250～3254の打製石斧、3255の環状石斧、3256～3270の磨製石斧が出土している。打製石斧は長方形のもの（3251・3254）と上端より下端が広がるもの（3250・3252・3253）とがみられる。3255は径9×11.8cm、厚さ1.8cmの環状石斧で、両面から周縁部に剝離調整の施されているものである。磨製石斧は欠損しているものが多く、欠損部に擦痕の認められるもの（3260・3268）、敲打痕の認められるもの（3264・3270）など、磨石や敲石などに再利用されているものが目立つ。

⑨ 砥石（第271図、写真図版226）

3271の1点が出土している。形状は不整形を呈するもので、両面と側面に1方向からの擦痕の認められるものである。

⑩ 磨石（第272図、写真図版226）

3272～3278が出土している。

⑪ 凹石（第272～274図、写真図版226～228）

3279～3305が出土している。この中には凹みのほかに磨痕の認められるもの（3287・3292・3293・3300・3305）もみられる。

⑫ 棒状擦石（第274～277図、写真図版228～231）

3306～3390を掲載したが、欠損部の大きいものは全て割愛した。いずれも三角状稜辺部を擦滅しているもので、これらの中には稜辺部に打痕の認められるもの（3346）、端部に打痕の認められるもの（3376）がある。

⑬ 円盤状石製品（第277図、写真図版231）

3391～3393が出土している。3391・3392は白色細粒凝灰岩を円盤状に擦り減らしたもの、3393は扁平な礫の縁辺部を打ちかいて円盤状にしているものである。

⑭ 石製装飾品（第277図、写真図版231）

3394～3395が出土している。いずれも形状が長楕円状を呈し、穿孔の認められるものである。

⑮ 条痕・擦痕の認められる石器（第277図、写真図版231）

3396は条痕が、3397は擦痕の認められるもので、3397は砥石の可能性のあるものである。

⑯ 両端に打撃痕の認められる石器（第277図、写真図版231）

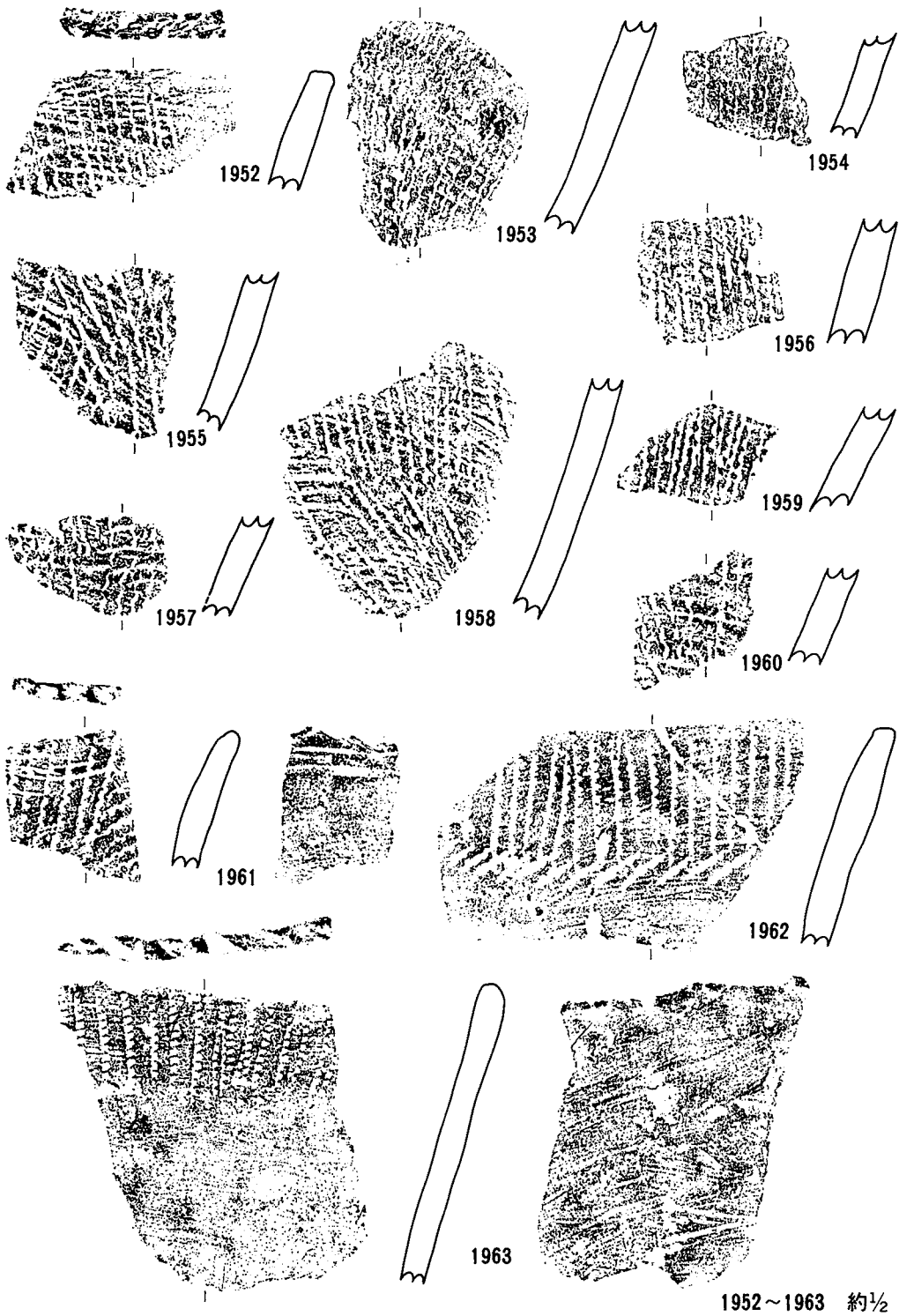
3398の1点が出土している。楔形石器の可能性のあるものである。

⑰ 敲打痕の認められる石器（第278図、写真図版231）

3399は両端に敲打痕の認められるもの、3400は擦痕の認められるものである。

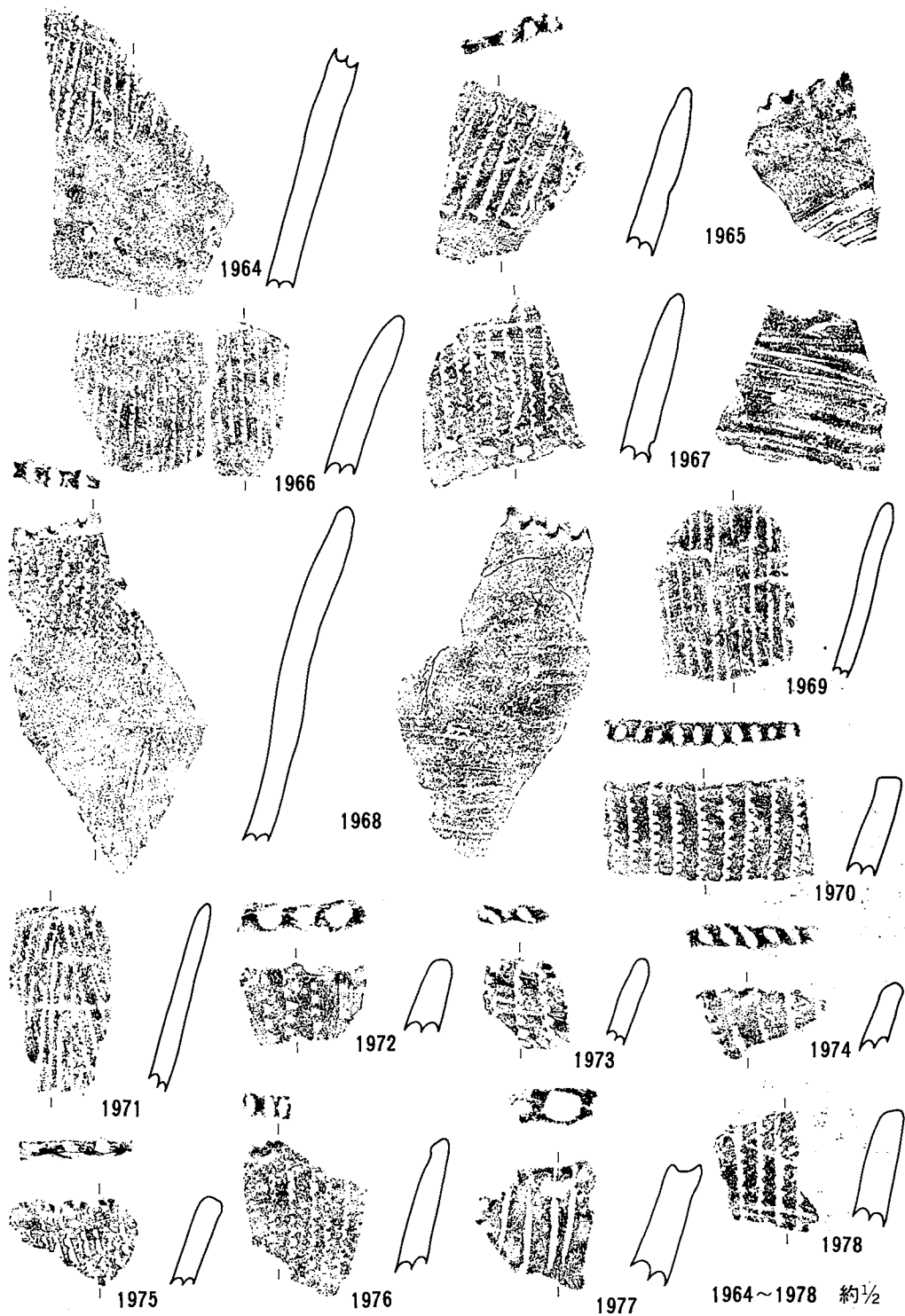
⑱ 石皿（第278～287図、写真図版232～234）

3401～3431が出土している。3401・3413・3414は台付石皿である。3419は、裏面に円から楕円状の浮ぼり状の文様が施文されている。

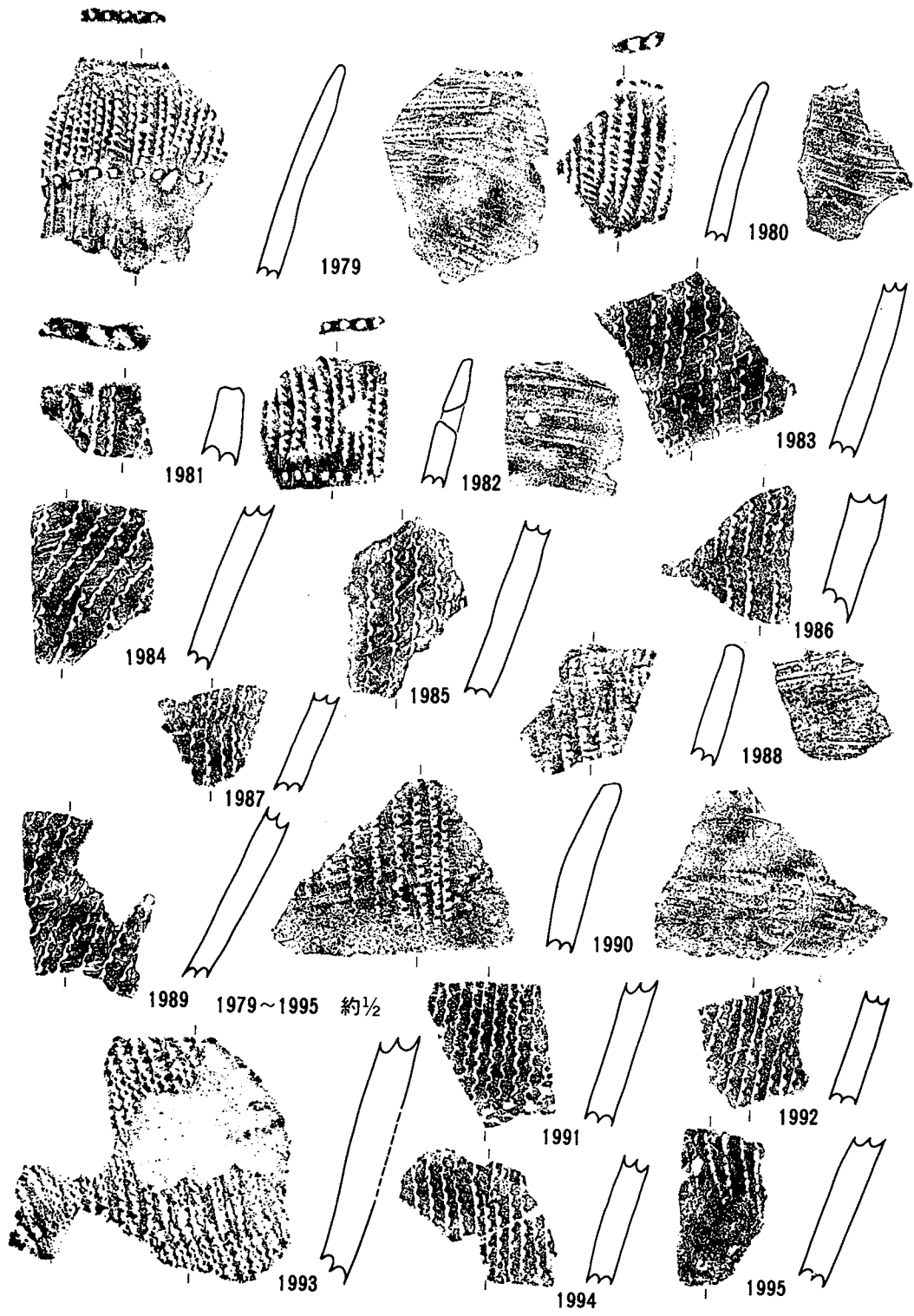


1952~1963 約 $\frac{1}{2}$

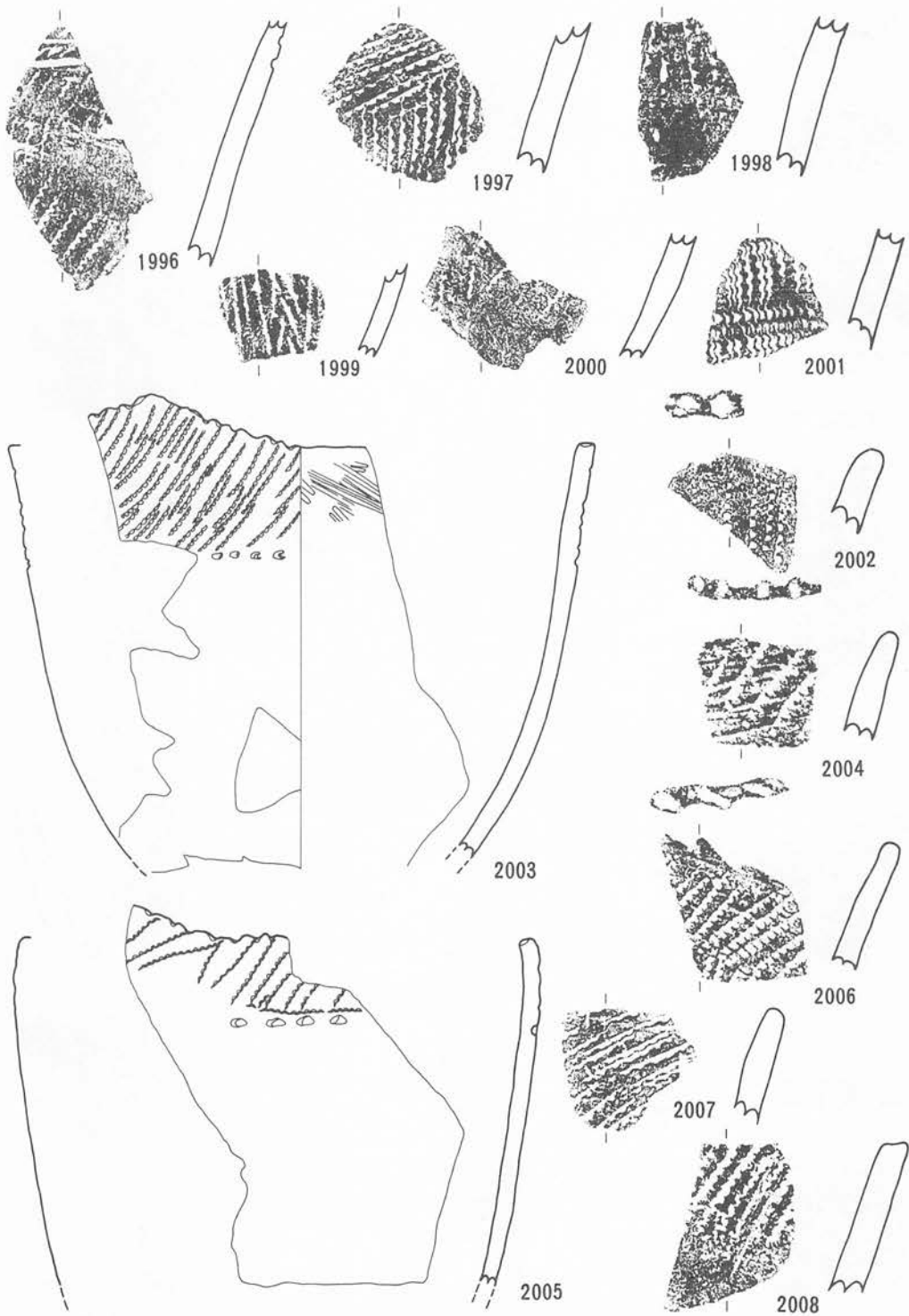
第178図 遺構外出土遺物 (遺物番号1952~1963)



第179図 遺構外出土遺物（遺物番号1964~1978）



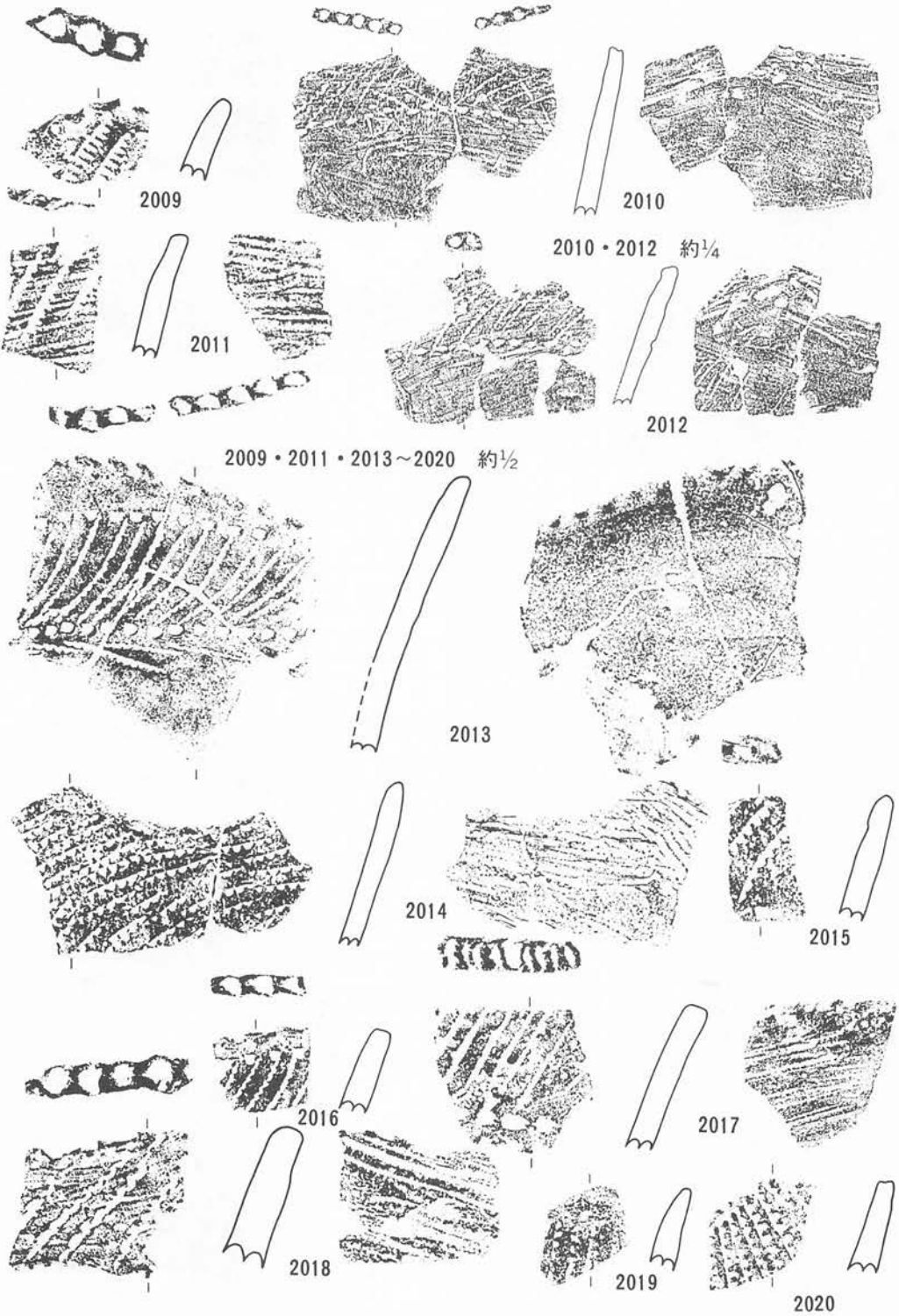
第180図 遺構外出土遺物 (遺物番号1979~1995)



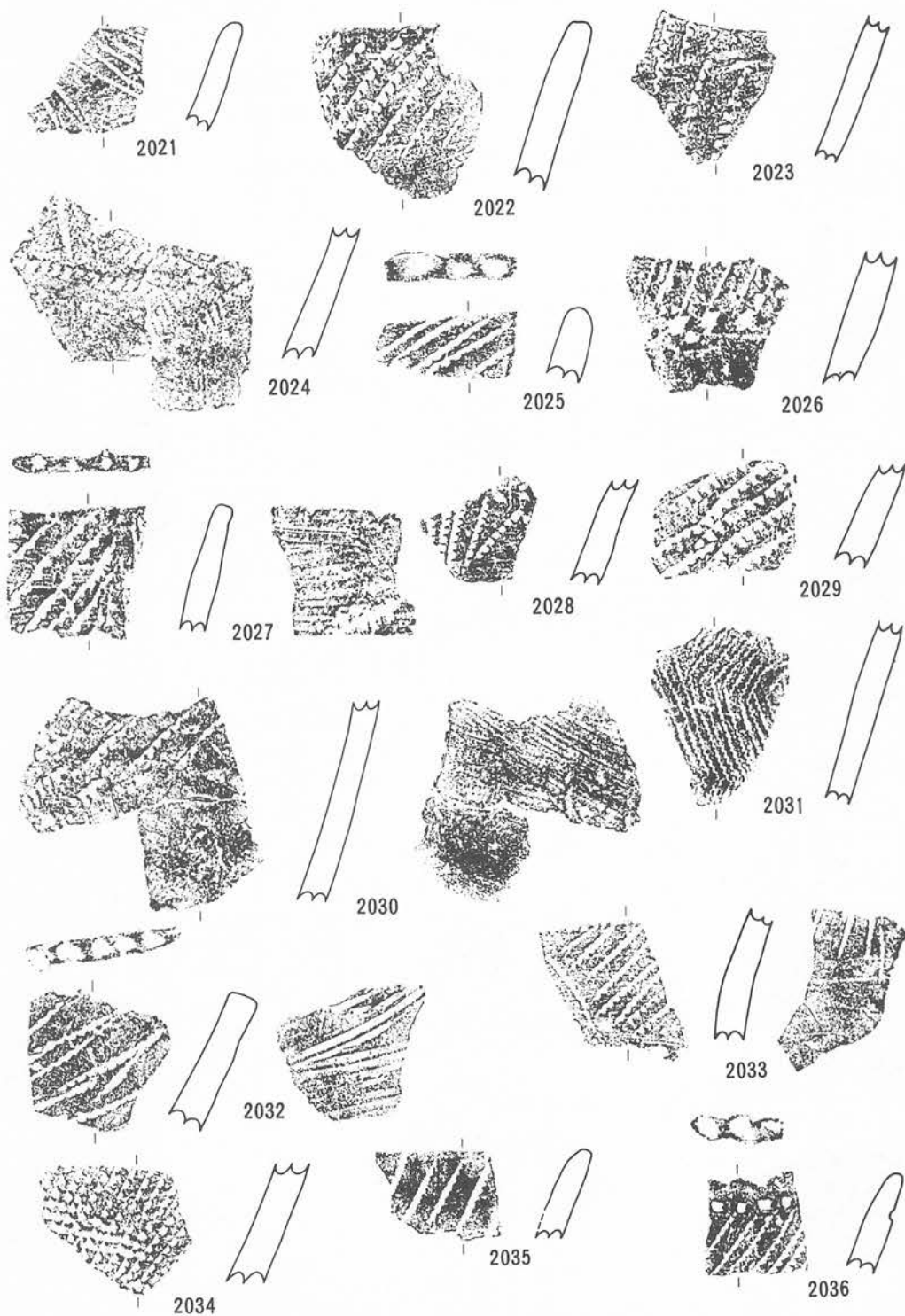
1996~2002・2004・2006~2008 約 $\frac{1}{2}$   
 2003・2005 約 $\frac{1}{4}$

第181図 遺構外出土遺物（遺物番号1996~2008）



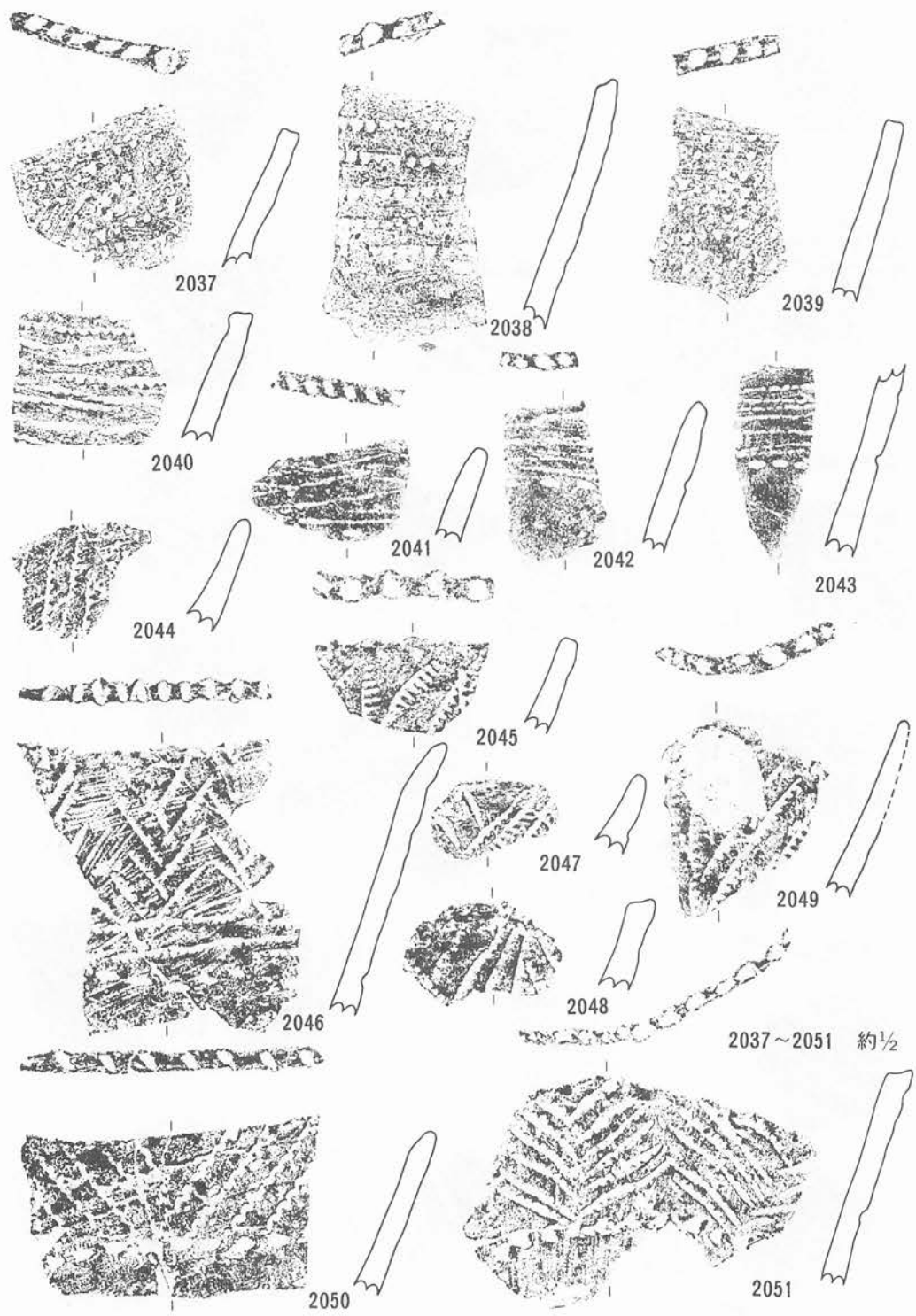


第182図 遺構外出土遺物（遺物番号2009～2020）

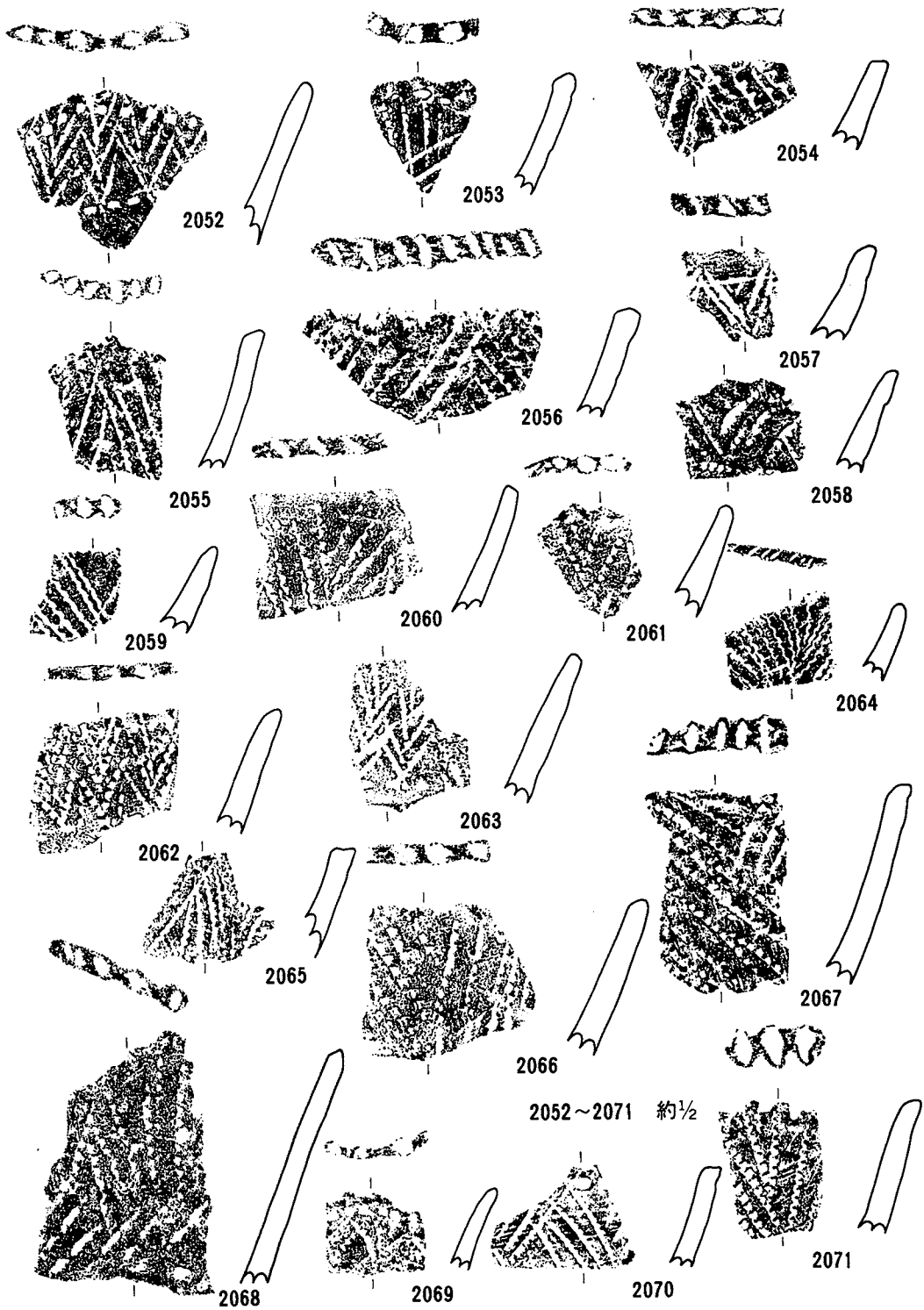


2021~2036 約 $\frac{1}{2}$

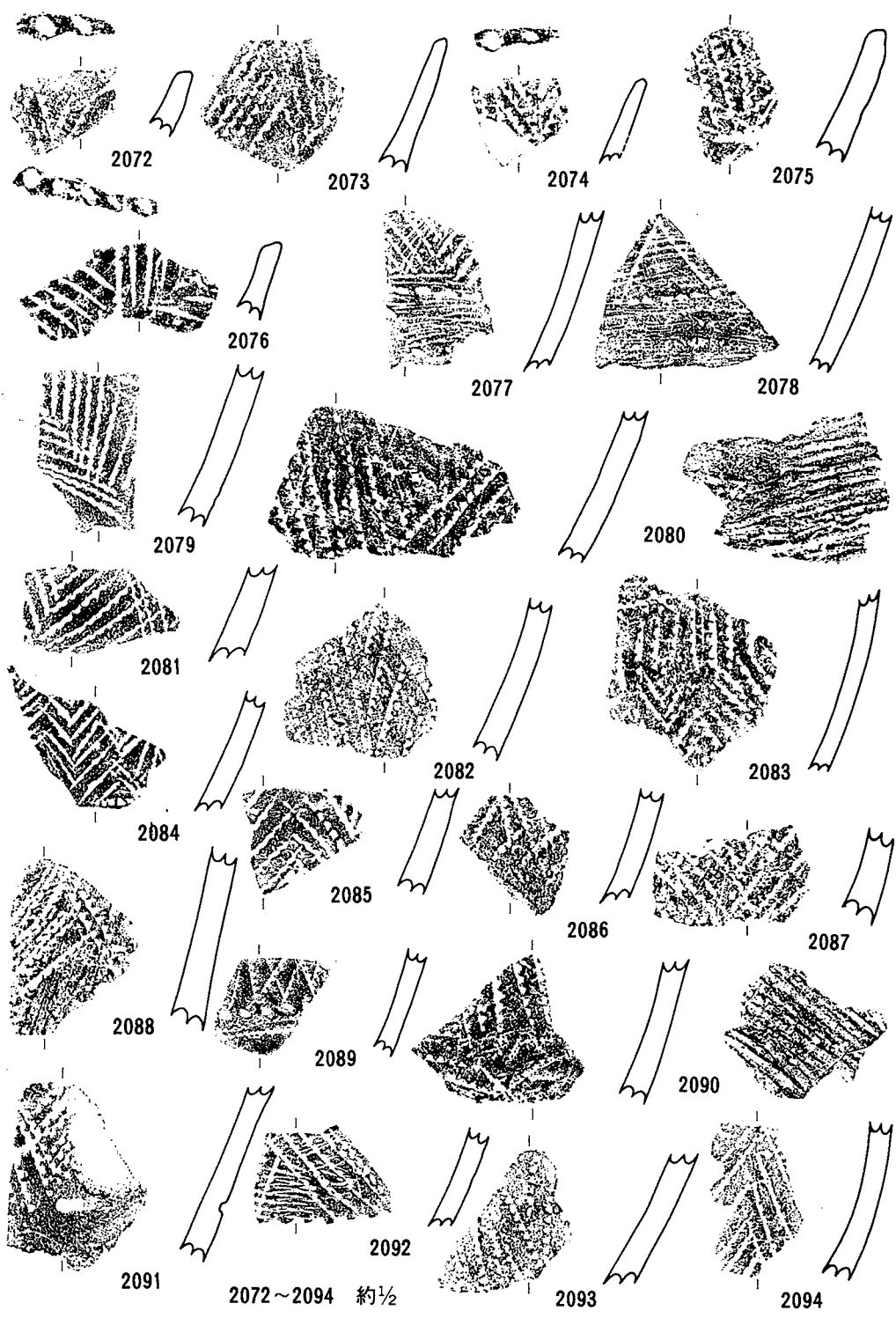
第183図 遺構外出土遺物（遺物番号2021~2036）



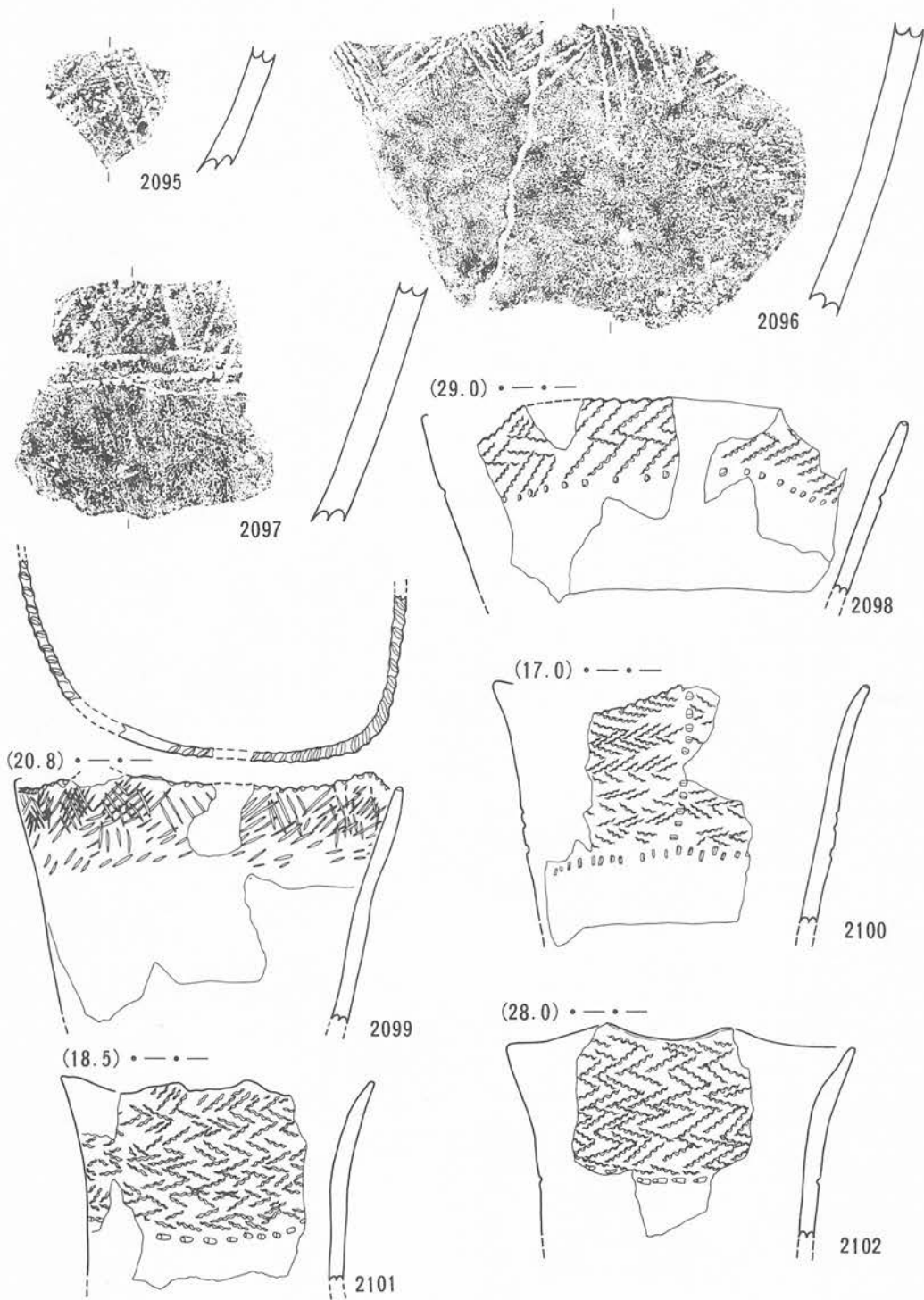
第184図 遺構外出土遺物（遺物番号2037~2051）



第185図 遺構外出土遺物（遺物番号2052~2071）



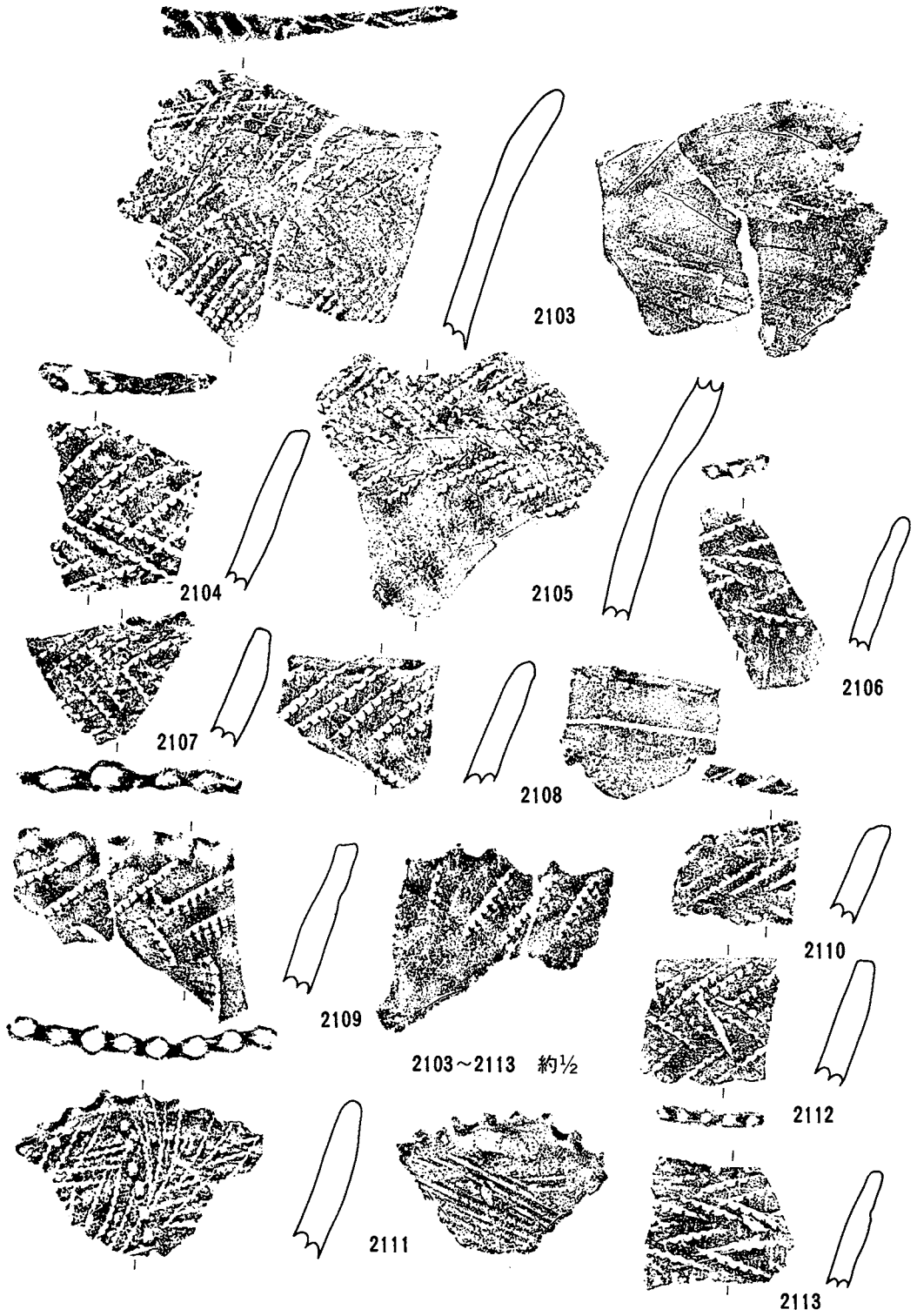
第186図 遺構外出土遺物（遺物番号2072~2094）



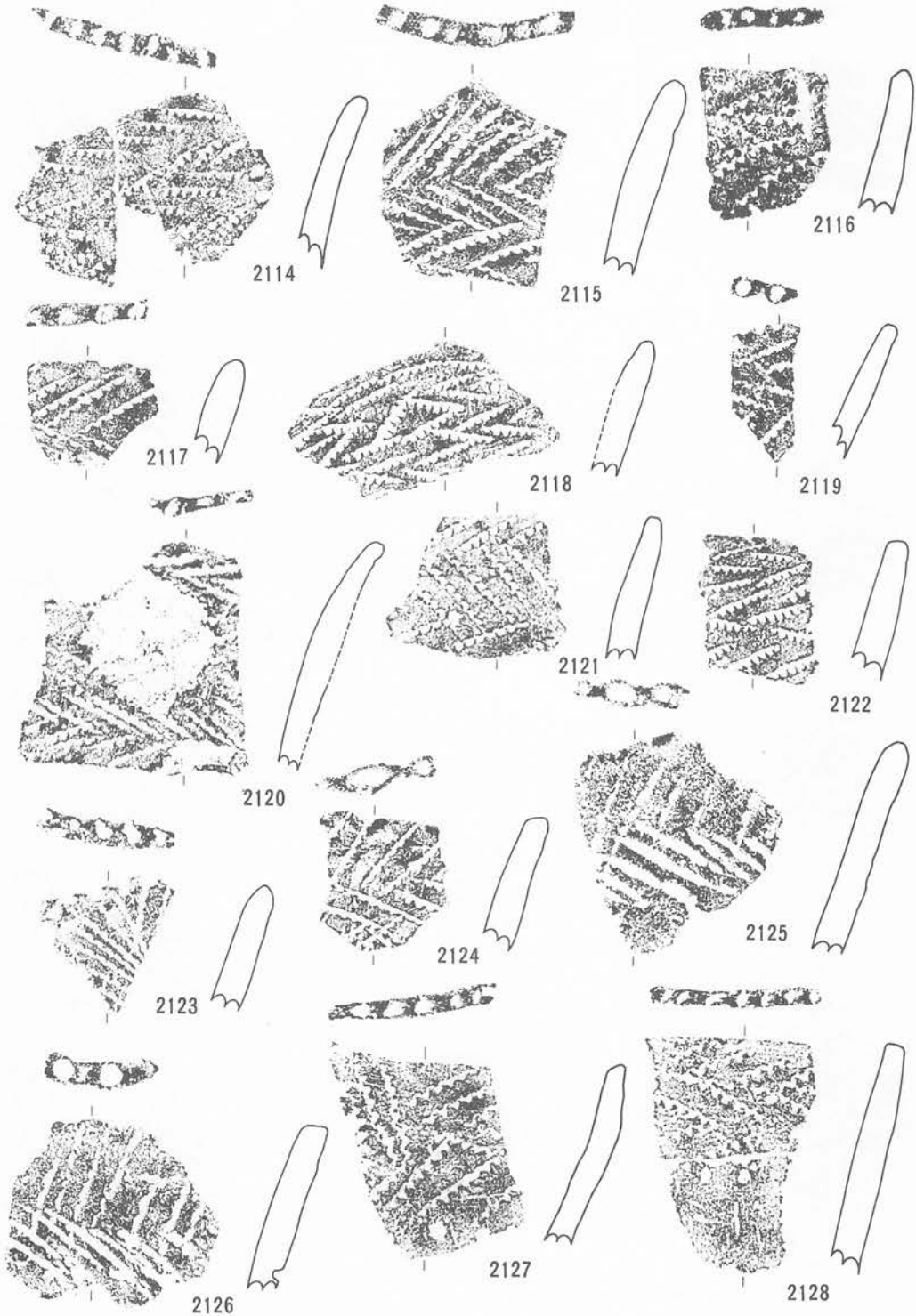
2095~2097 約 $\frac{1}{2}$

2098~2102 約 $\frac{1}{4}$

第187図 遺構外出土遺物 (遺物番号2095~2102)



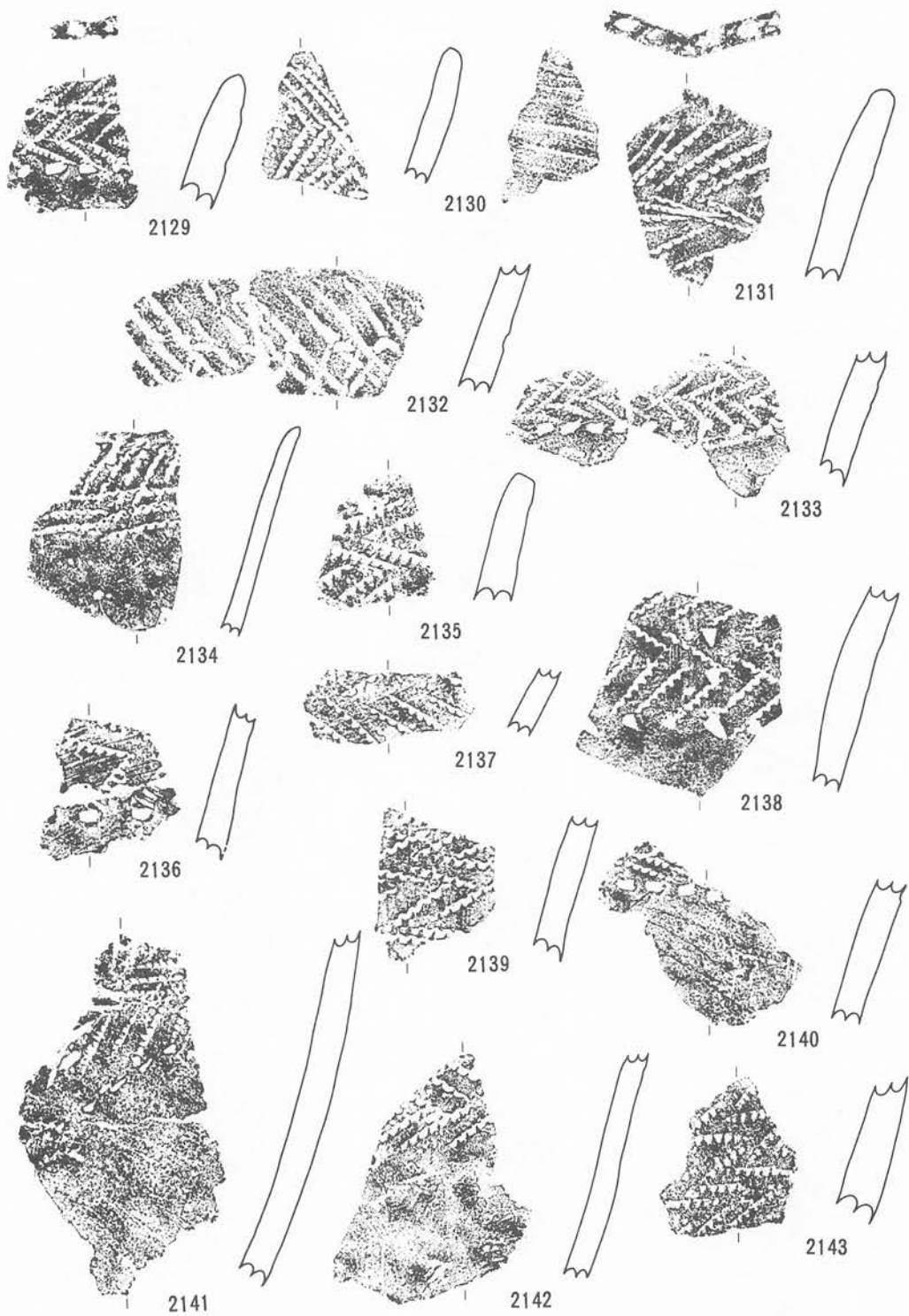
第188図 遺構外出土遺物（遺物番号2103～2113）



2114~2128 約 $\frac{1}{2}$

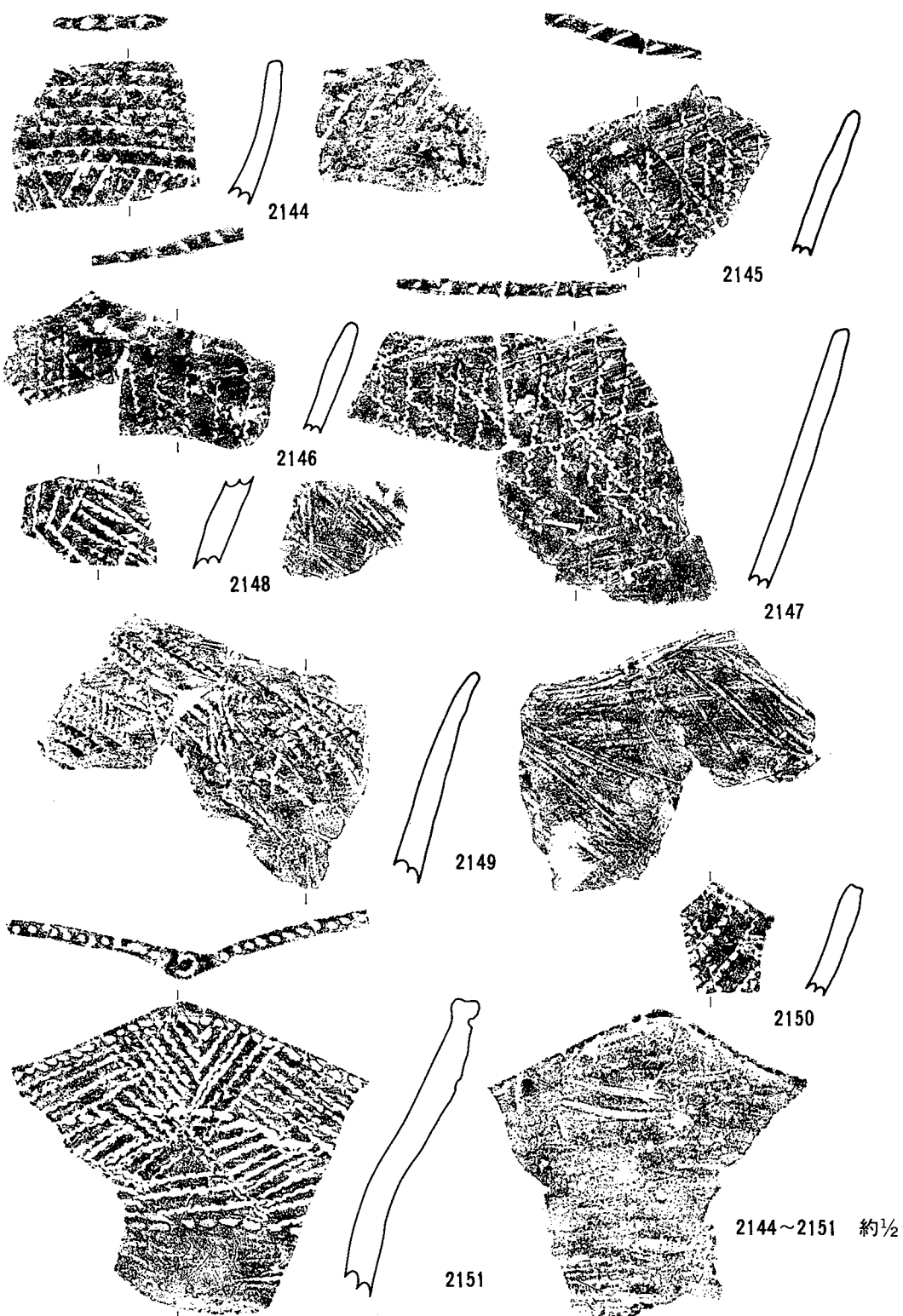
第189図 遺構外出土遺物 (遺物番号2114~2128)



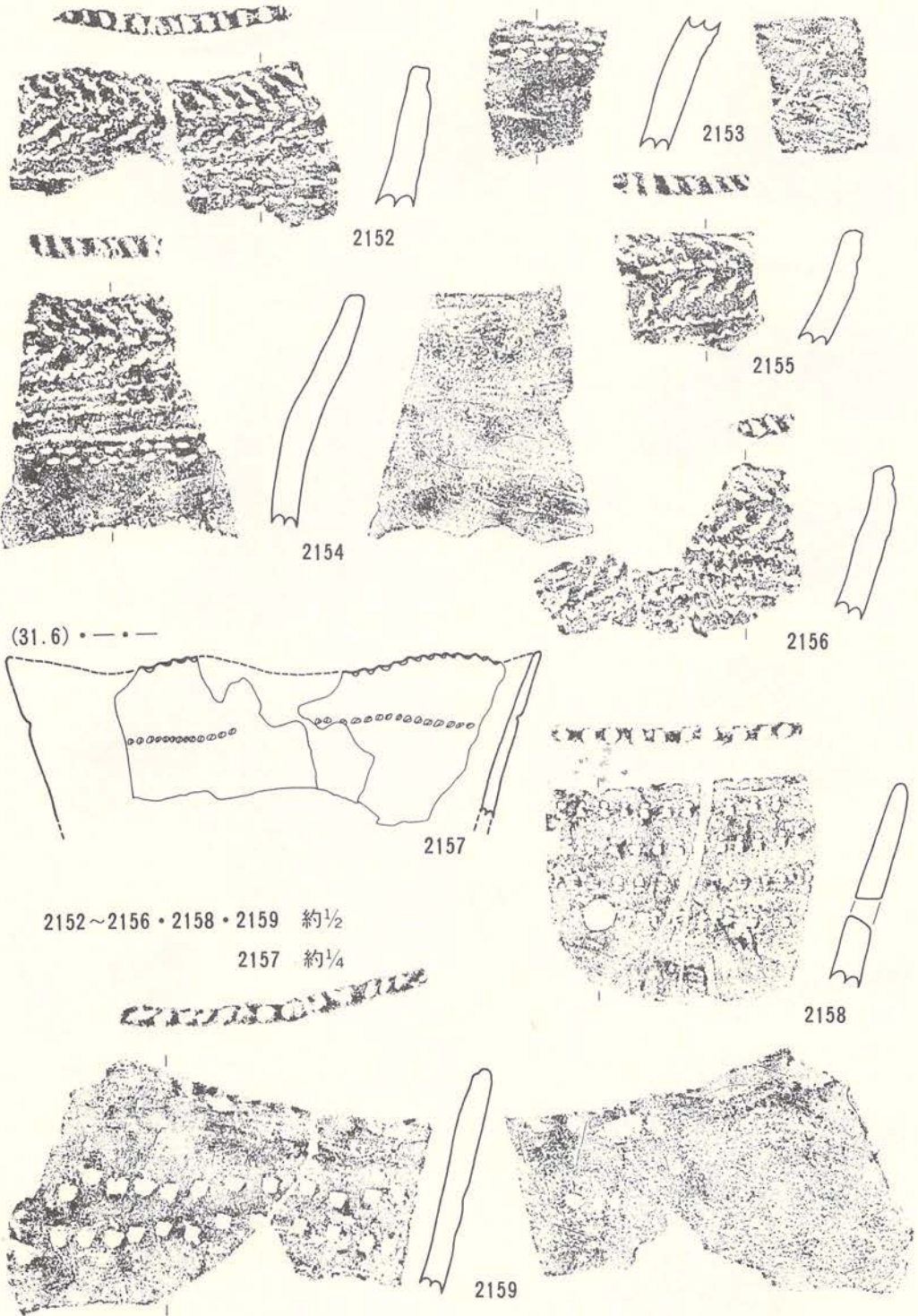


2129~2143 約 $\frac{1}{2}$

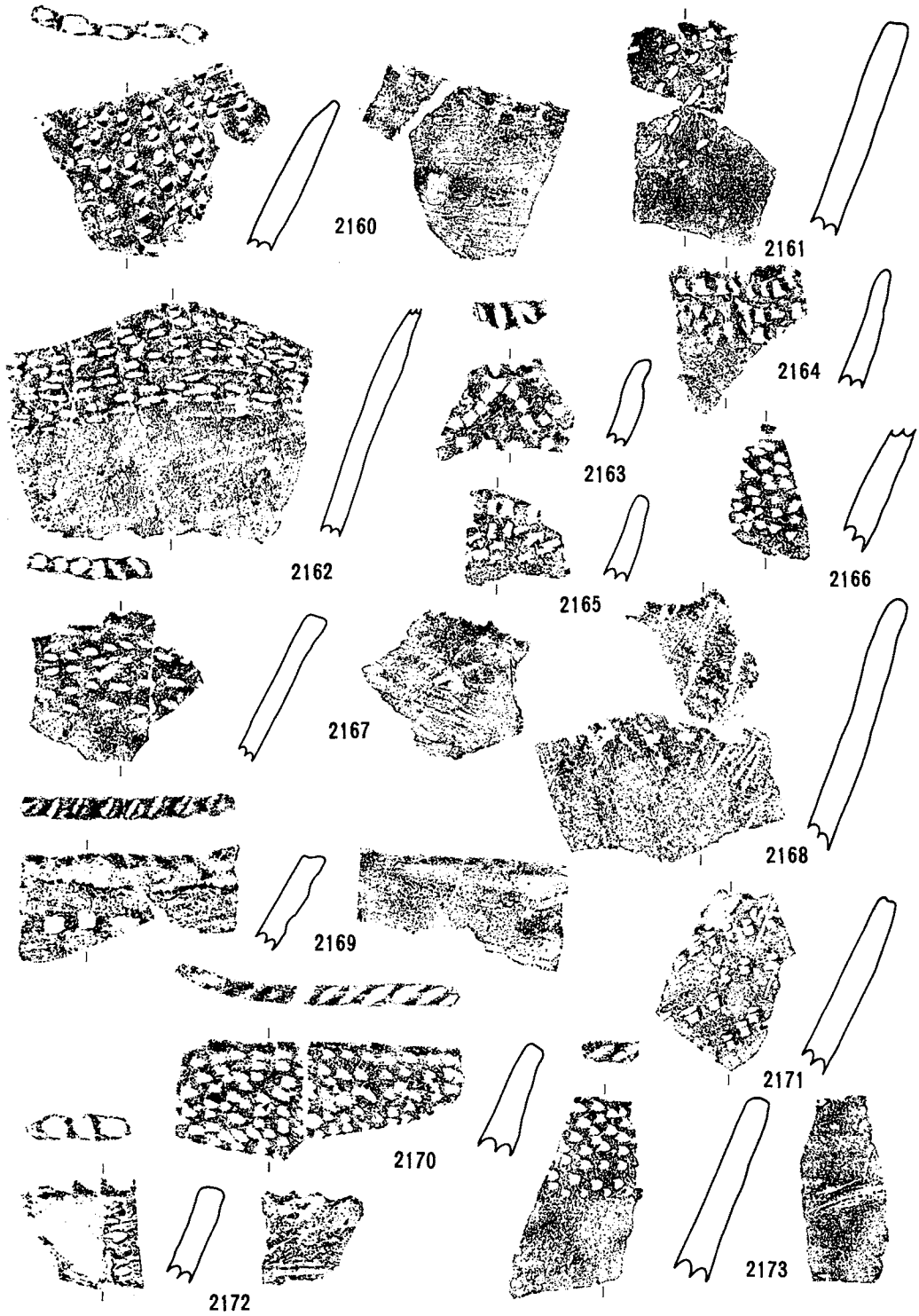
第190図 遺構外出土遺物（遺物番号2129~2143）



第191図 遺構外出土遺物 (遺物番号2144~2151)

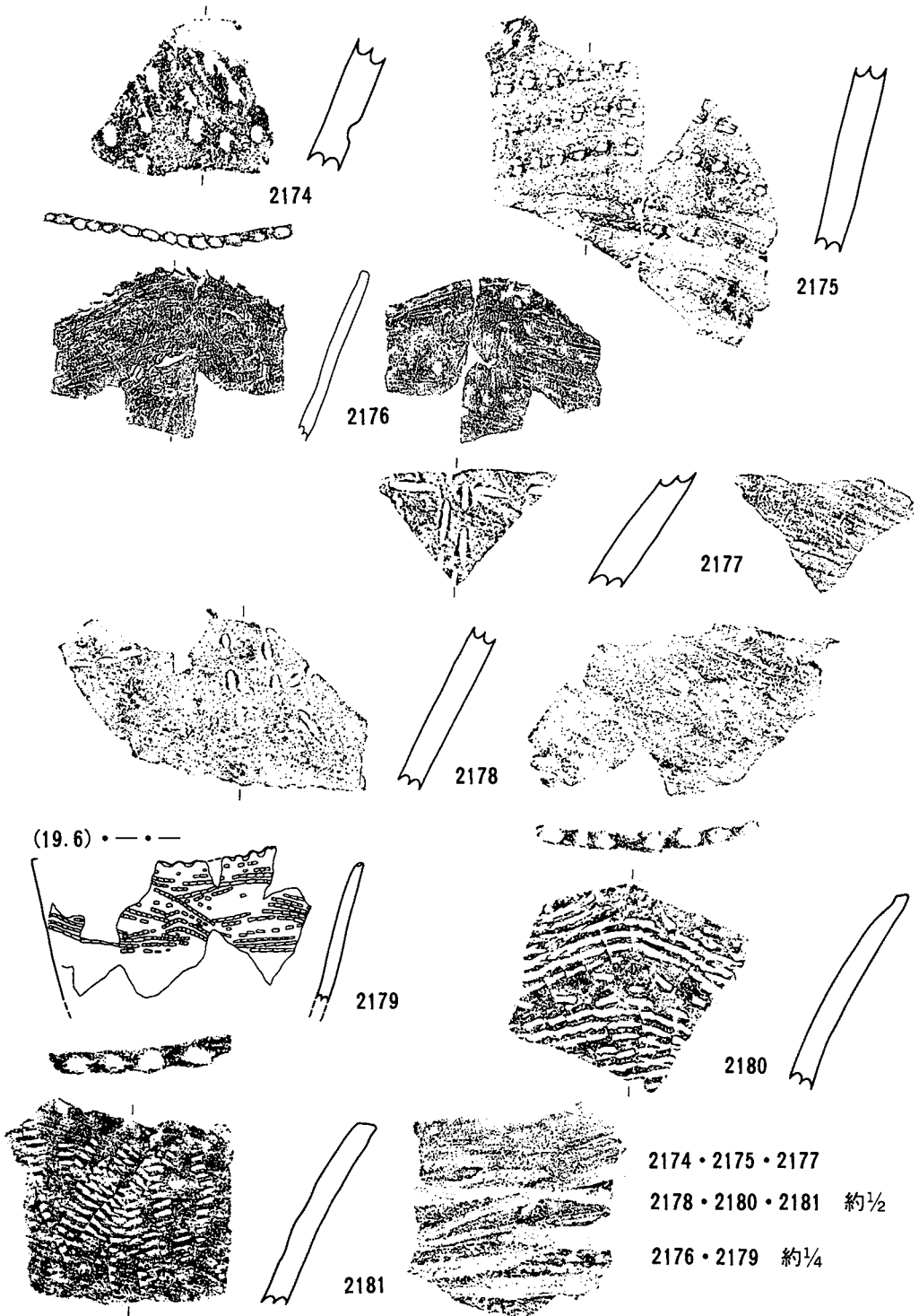


第192図 遺構外出土遺物 (遺物番号2152~2159)

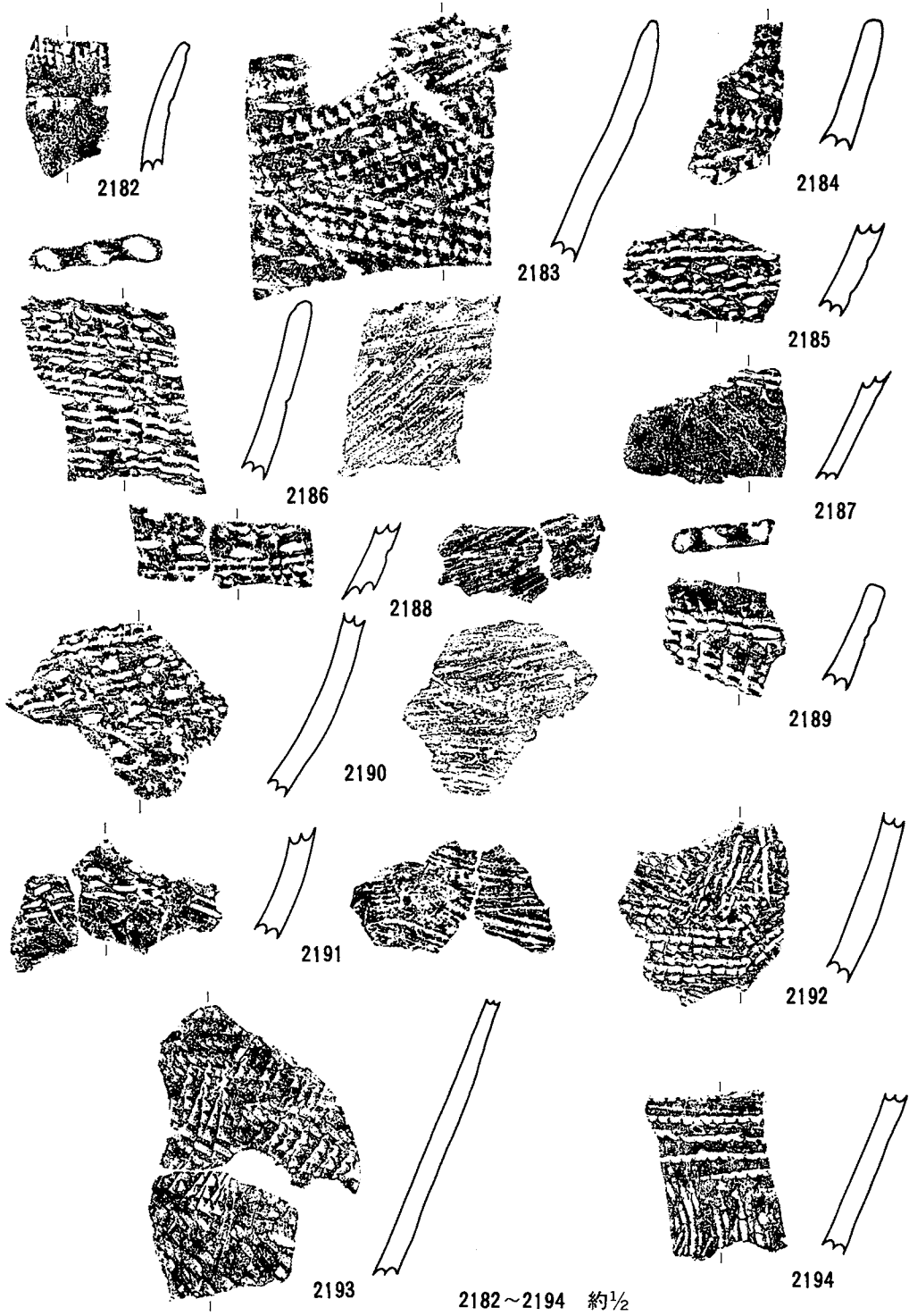


2160~2173 約 $\frac{1}{2}$

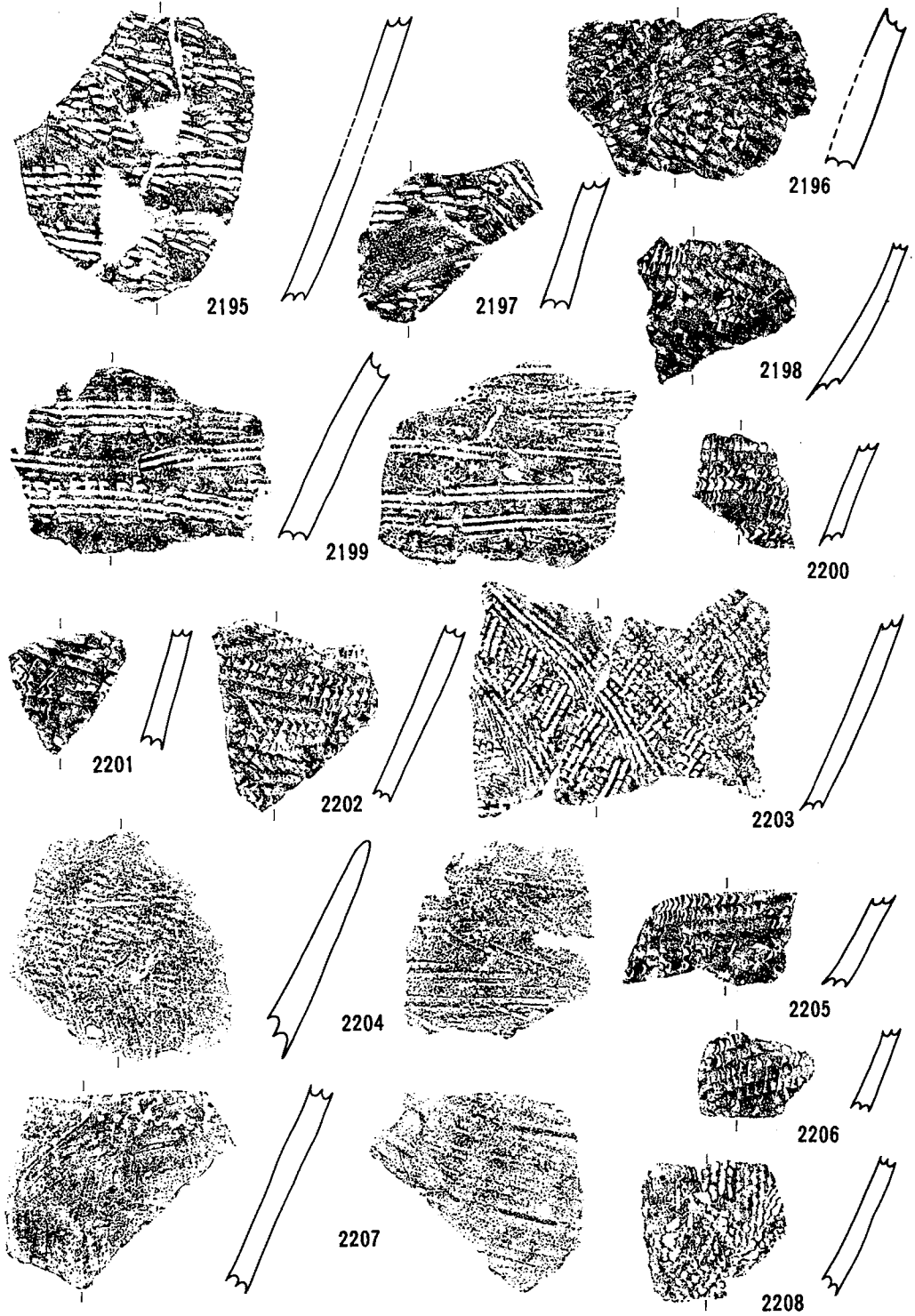
第193図 遺構外出土遺物 (遺物番号2160~2173)



第194図 遺構外出土遺物（遺物番号2174～2181）

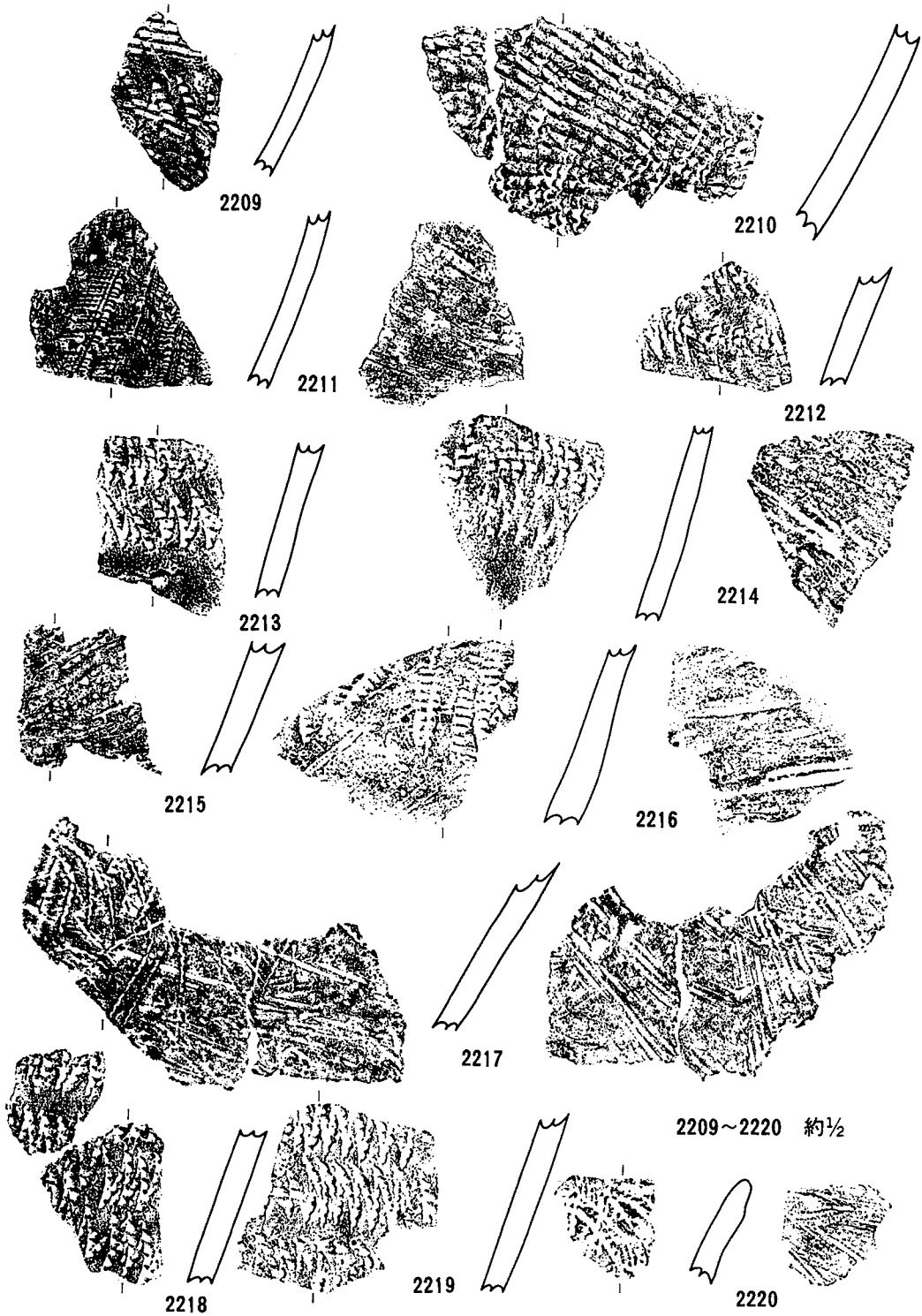


第195図 遺構外出土遺物 (遺物番号2182~2194)



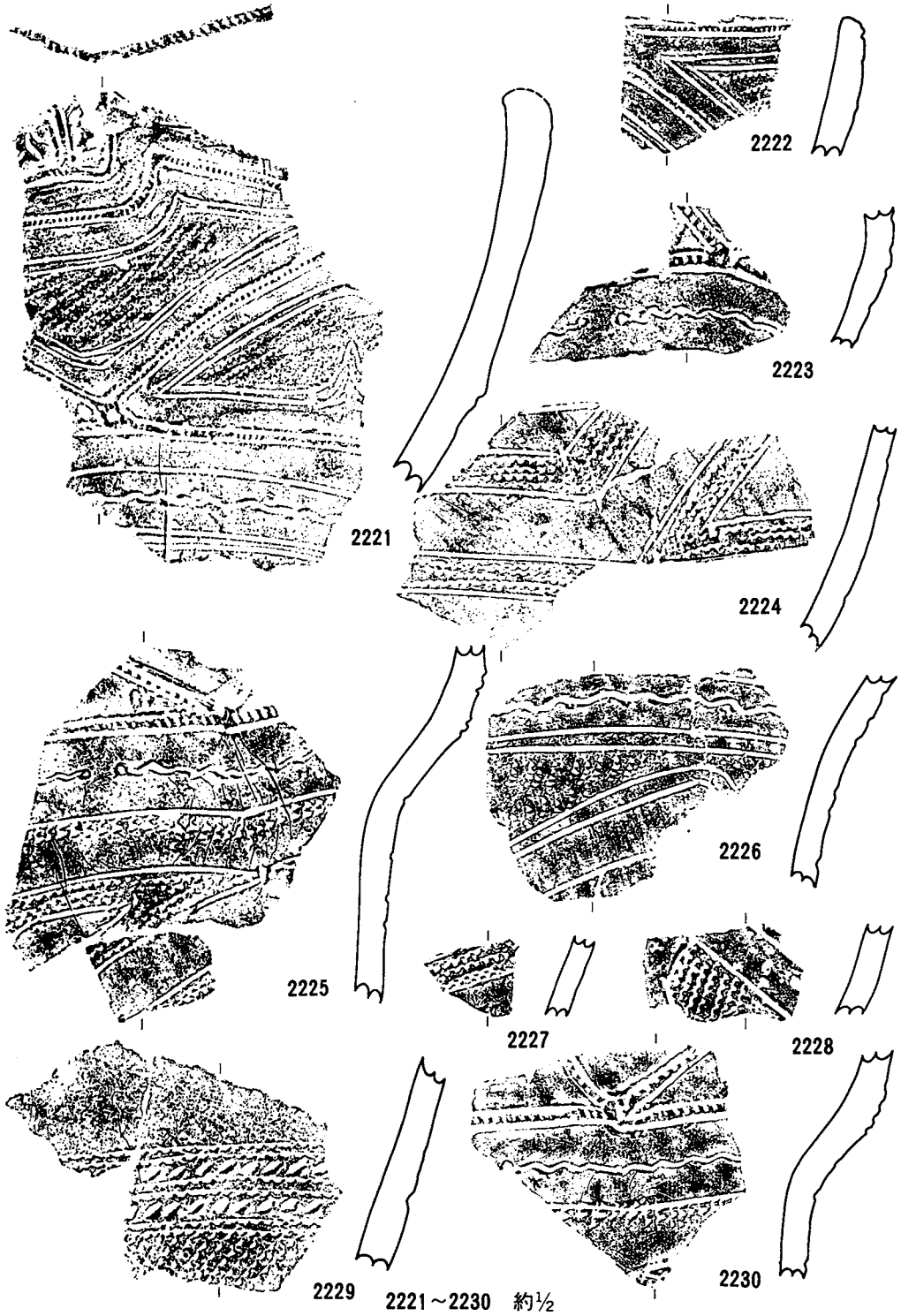
2195~2208 約 $\frac{1}{2}$

第196図 遺構外出土遺物 (遺物番号2195~2208)

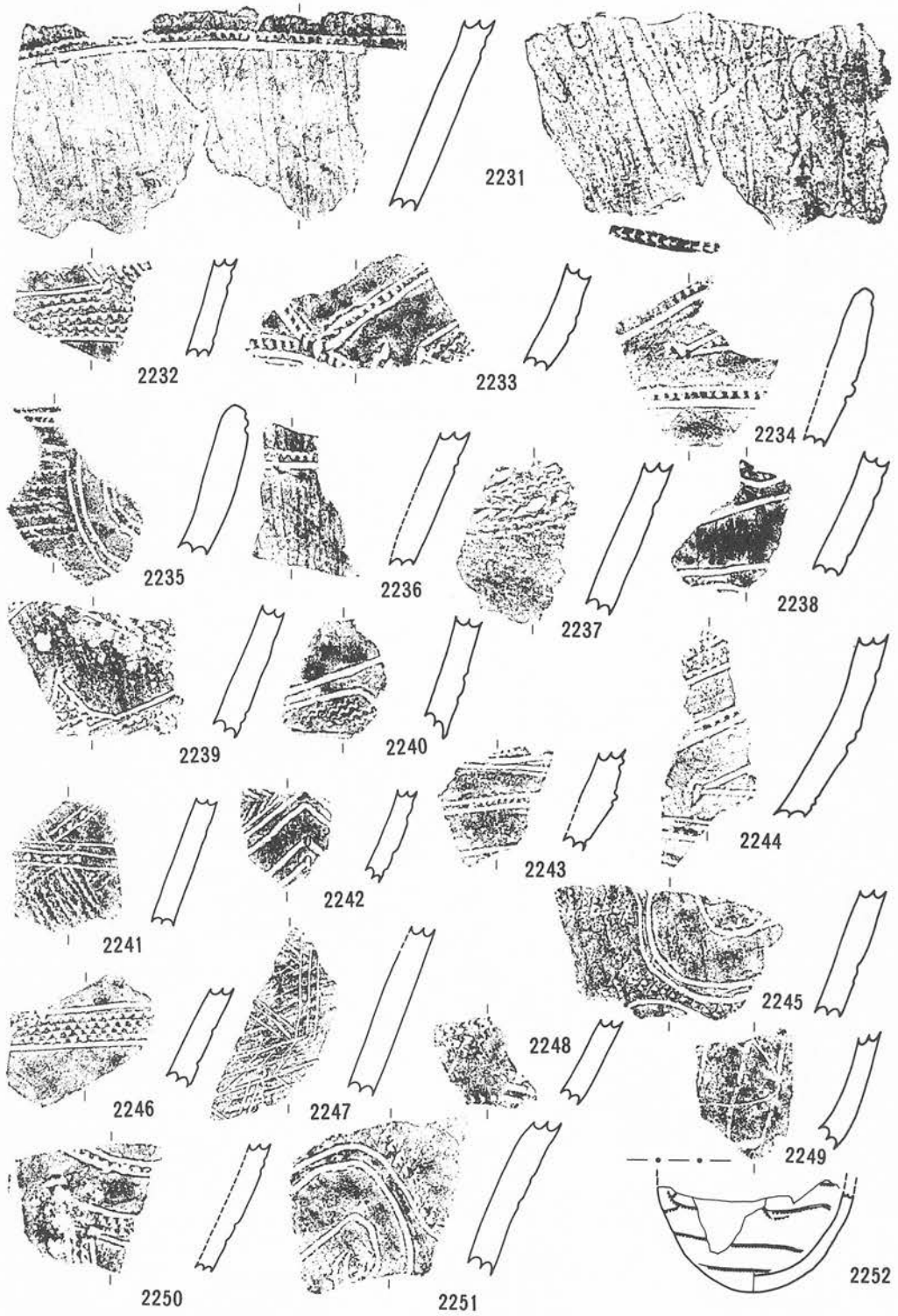


第197図 遺構外出土遺物（遺物番号2209~2220）



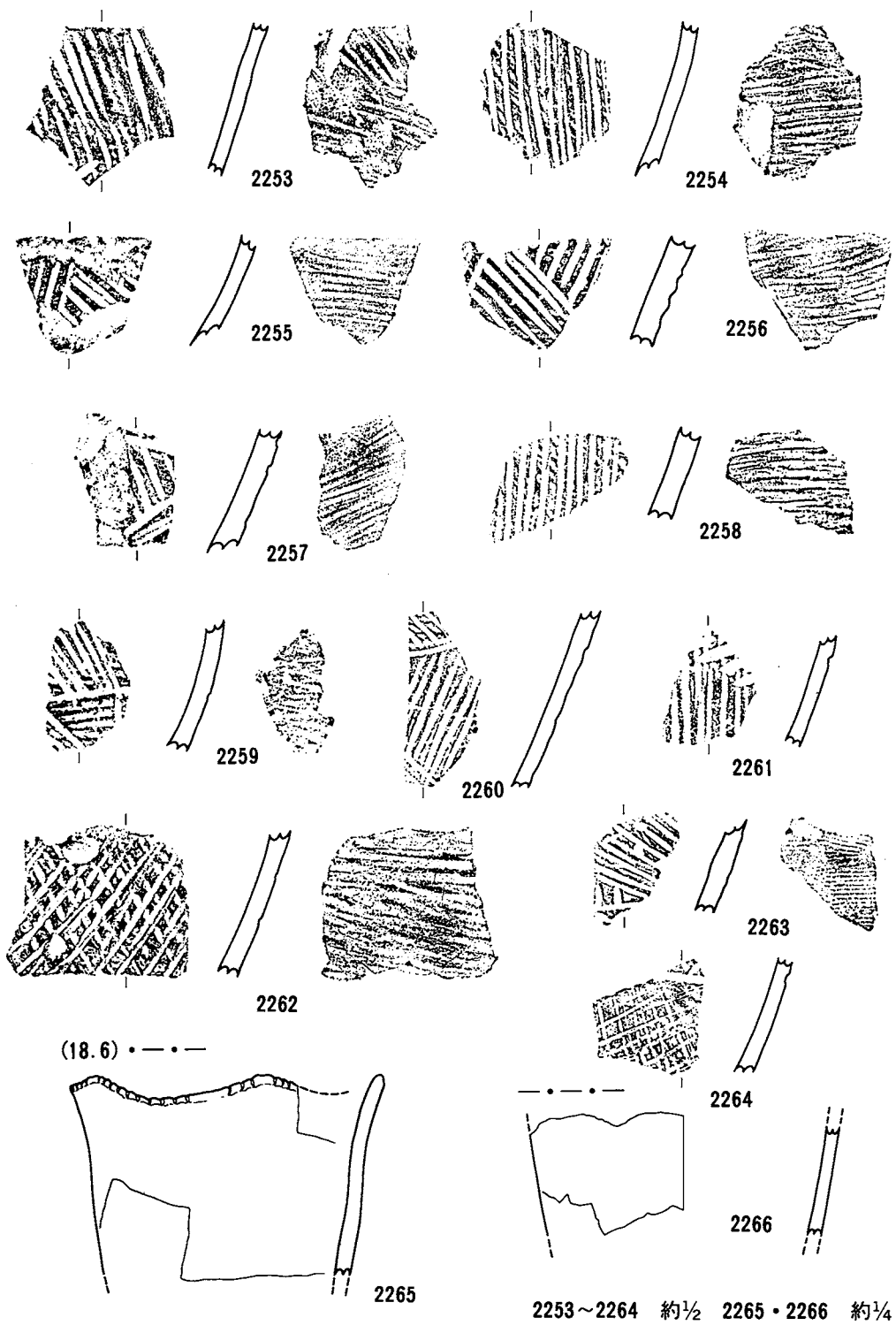


第198図 遺構外出土遺物（遺物番号2221～2230）

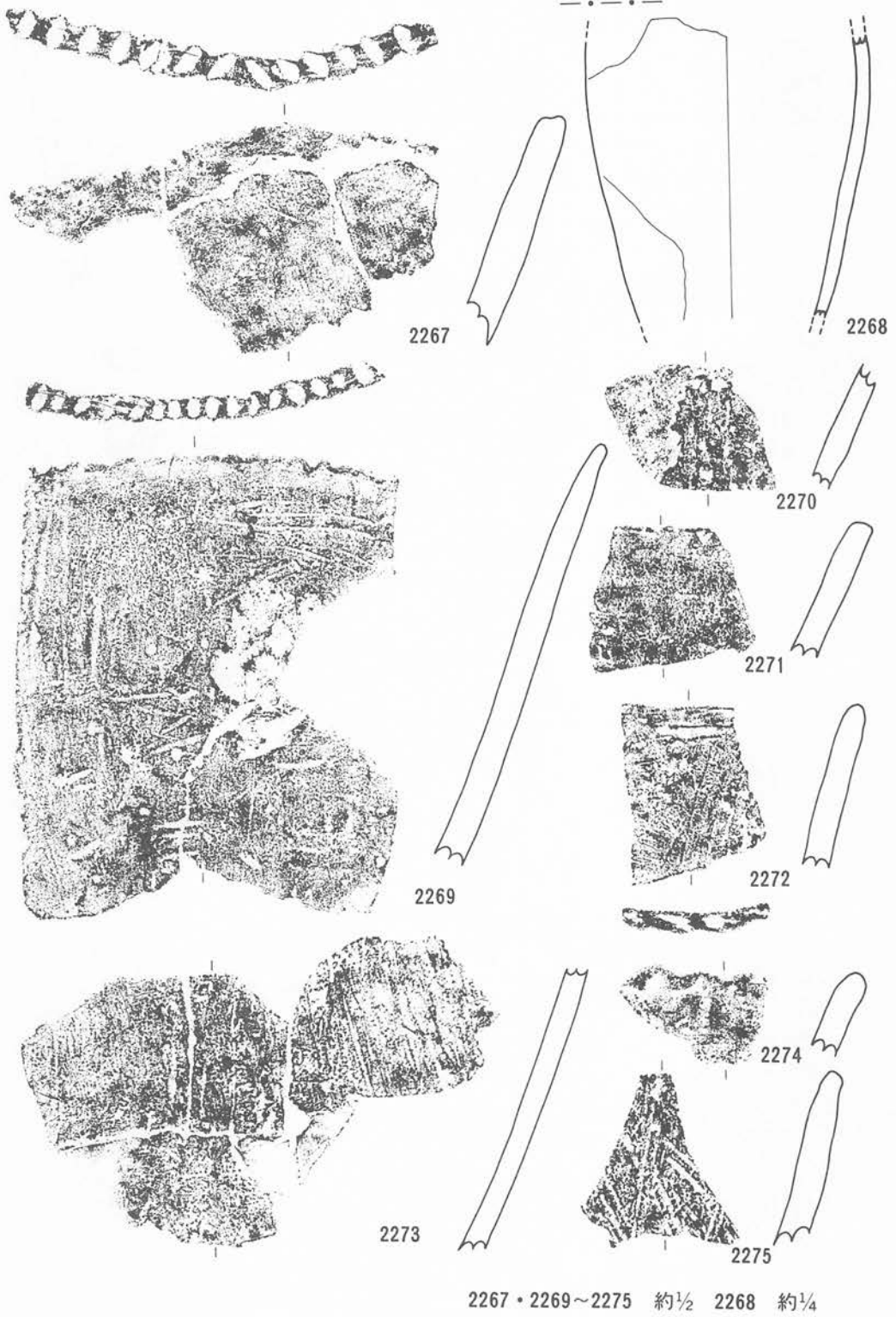


2231~2251 約 $\frac{1}{2}$  2252 約 $\frac{1}{4}$

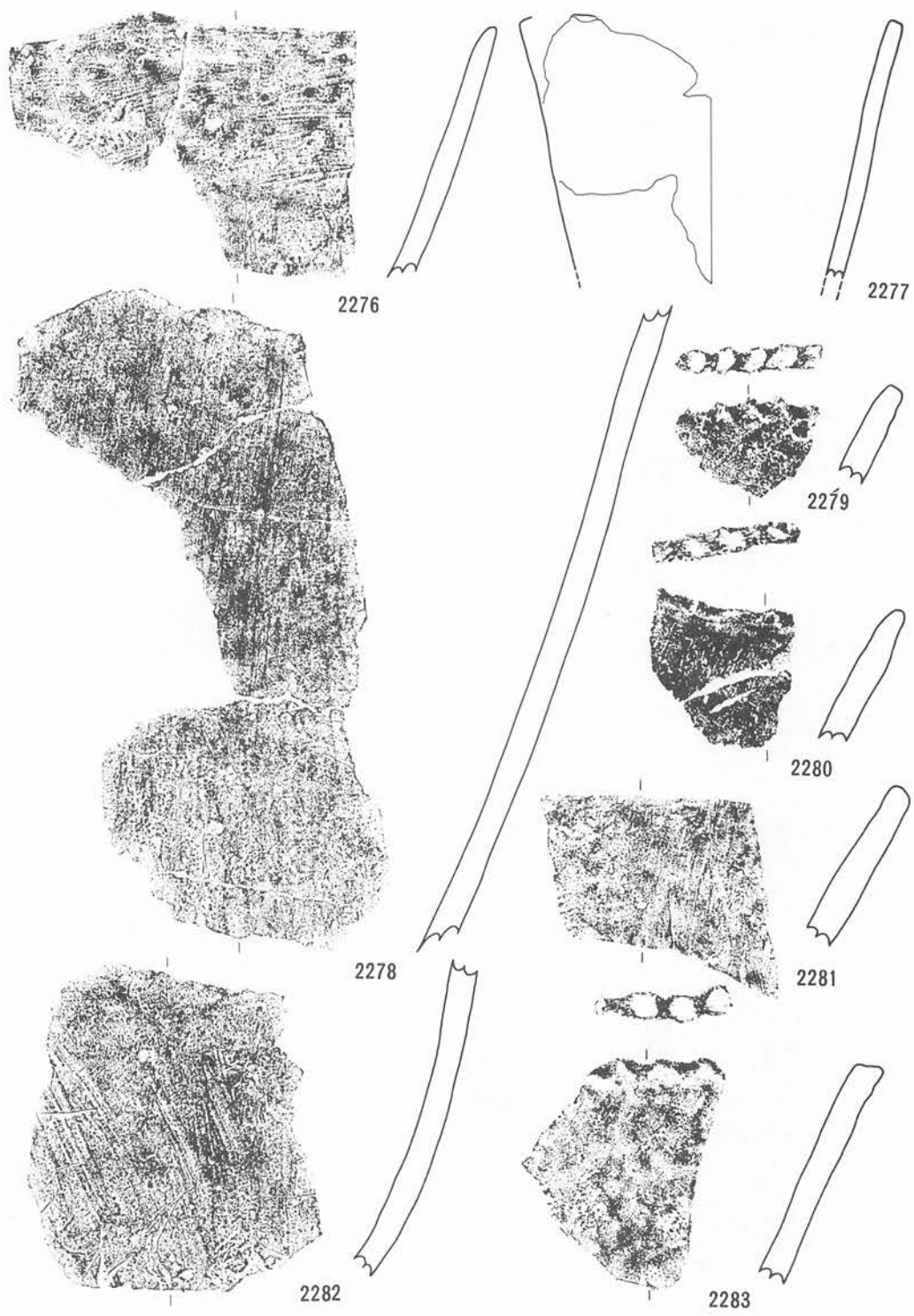
第199図 遺構外出土遺物 (遺物番号2231~2252)



第200図 遺構外出土遺物 (遺物番号2253~2266)



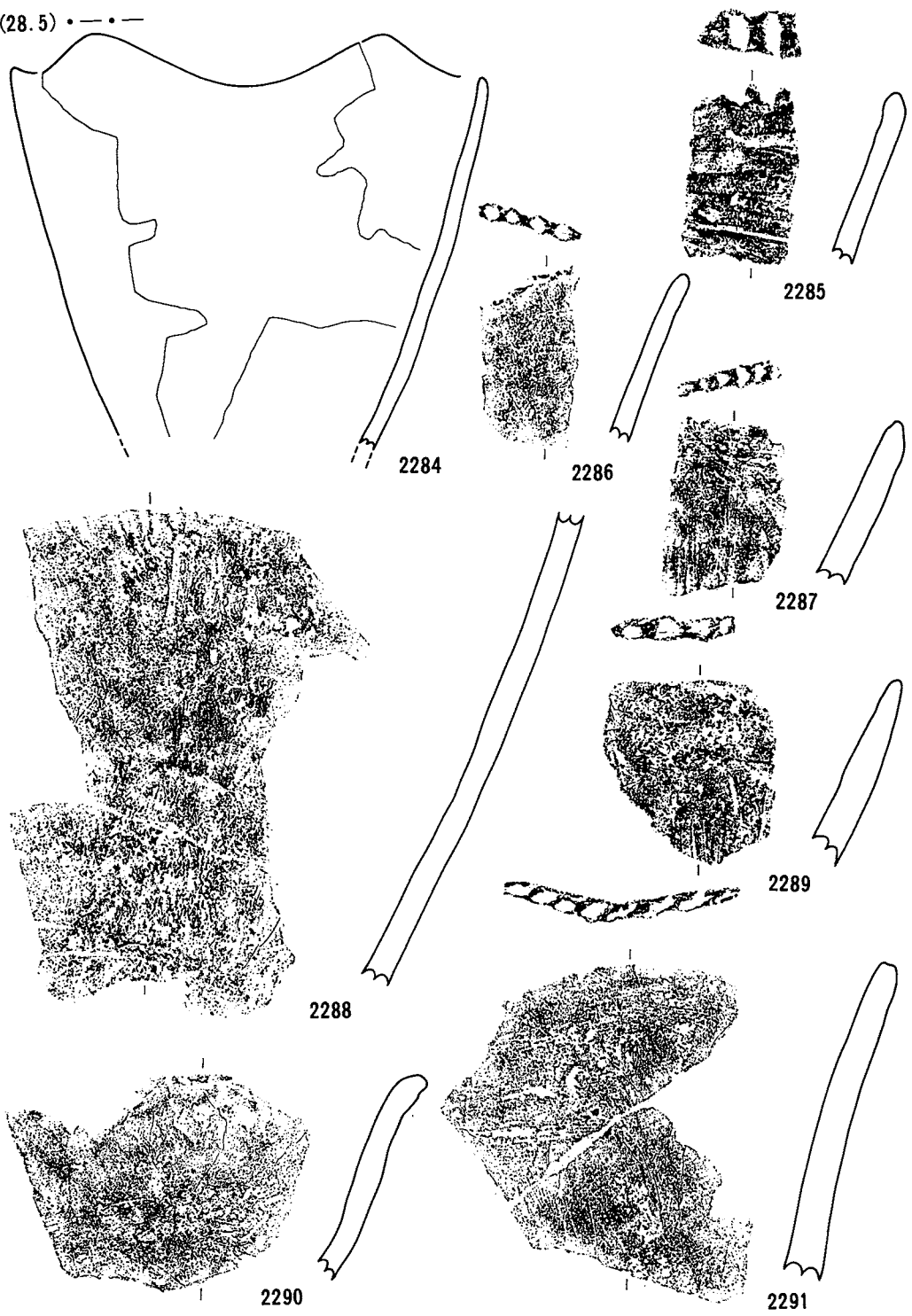
第201図 遺構外出土遺物（遺物番号2267~2275）



2276・2278~2283 約 $\frac{1}{2}$  2277 約 $\frac{1}{4}$

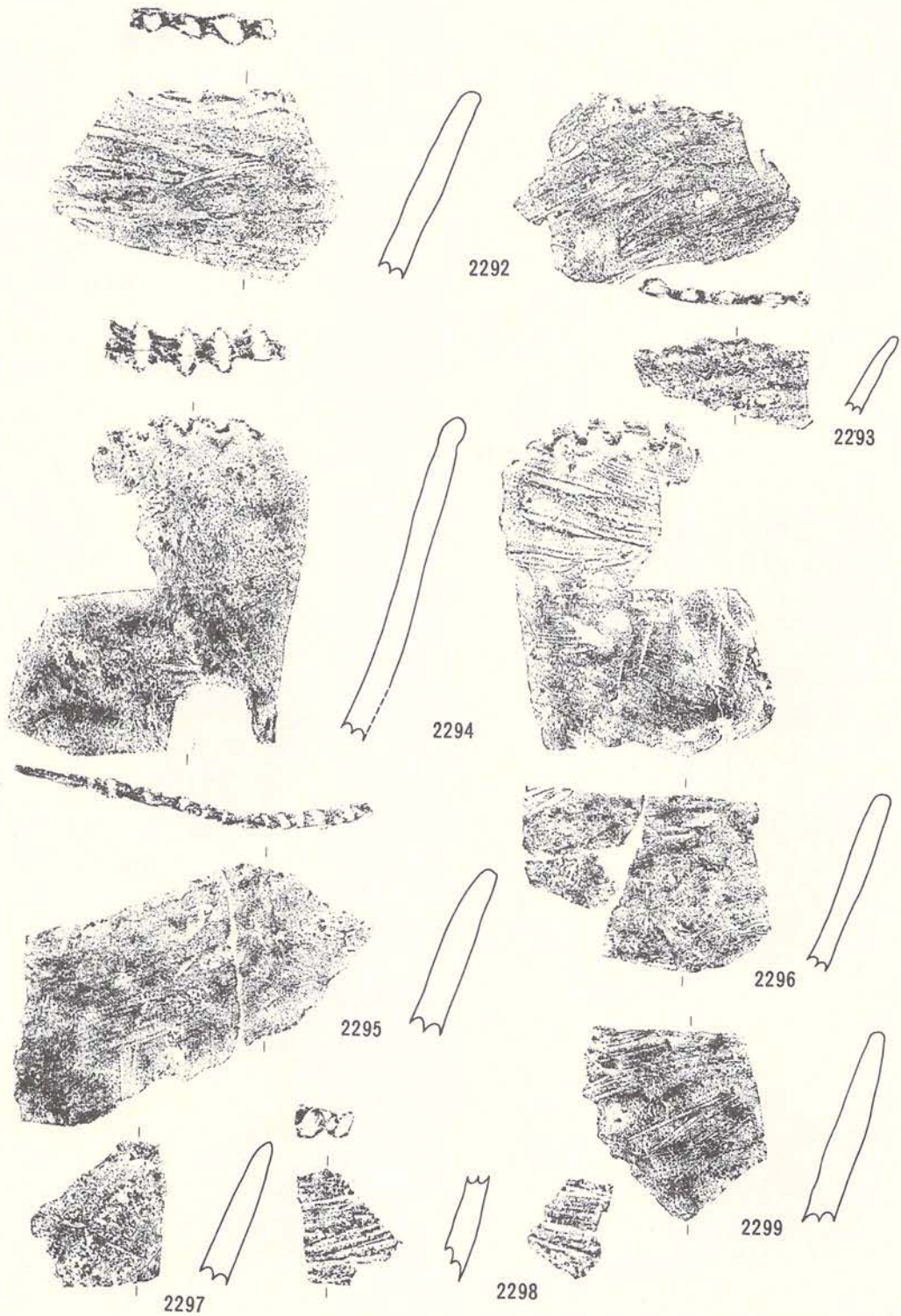
第202図 遺構外出土遺物 (遺物番号2276~2283)

(28.5) ·····



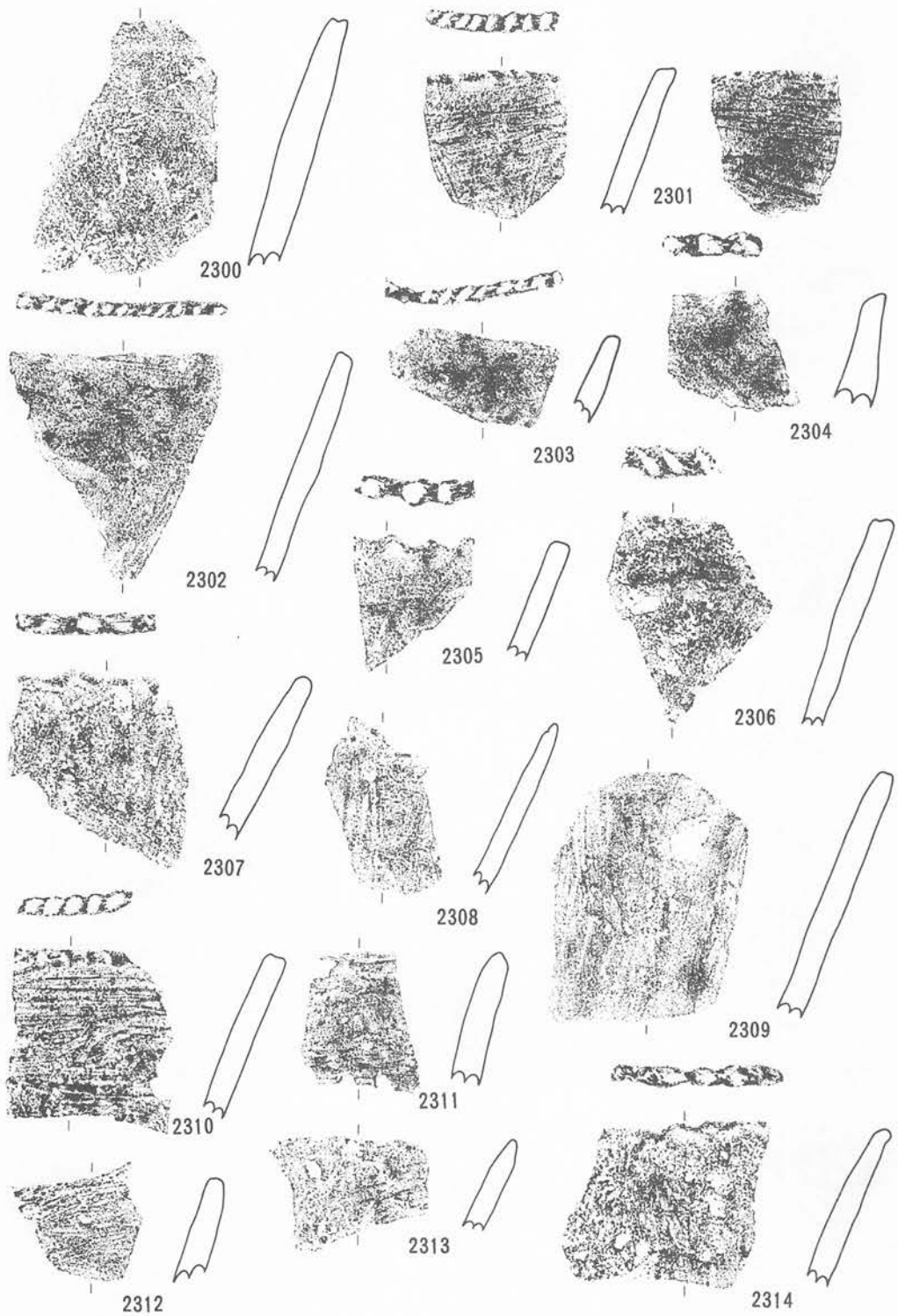
2285~2291 約 $\frac{1}{2}$  2284 約 $\frac{1}{4}$

第203図 遺構外出土遺物 (遺物番号2284~2291)



2292~2299 約 $\frac{1}{2}$

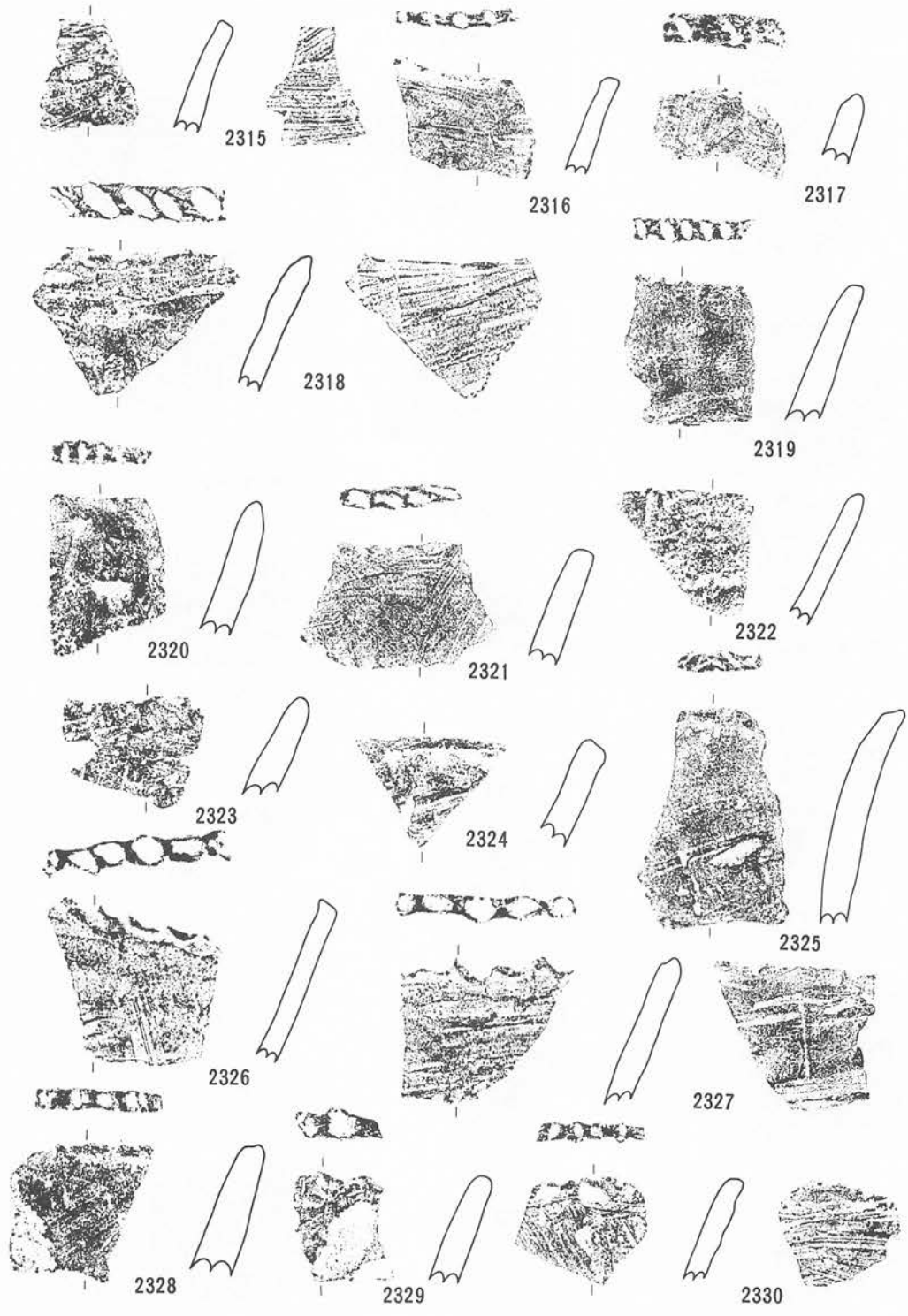
第204図 遺構外出土遺物 (遺物番号2292~2299)



2300~2314 約 $\frac{1}{2}$

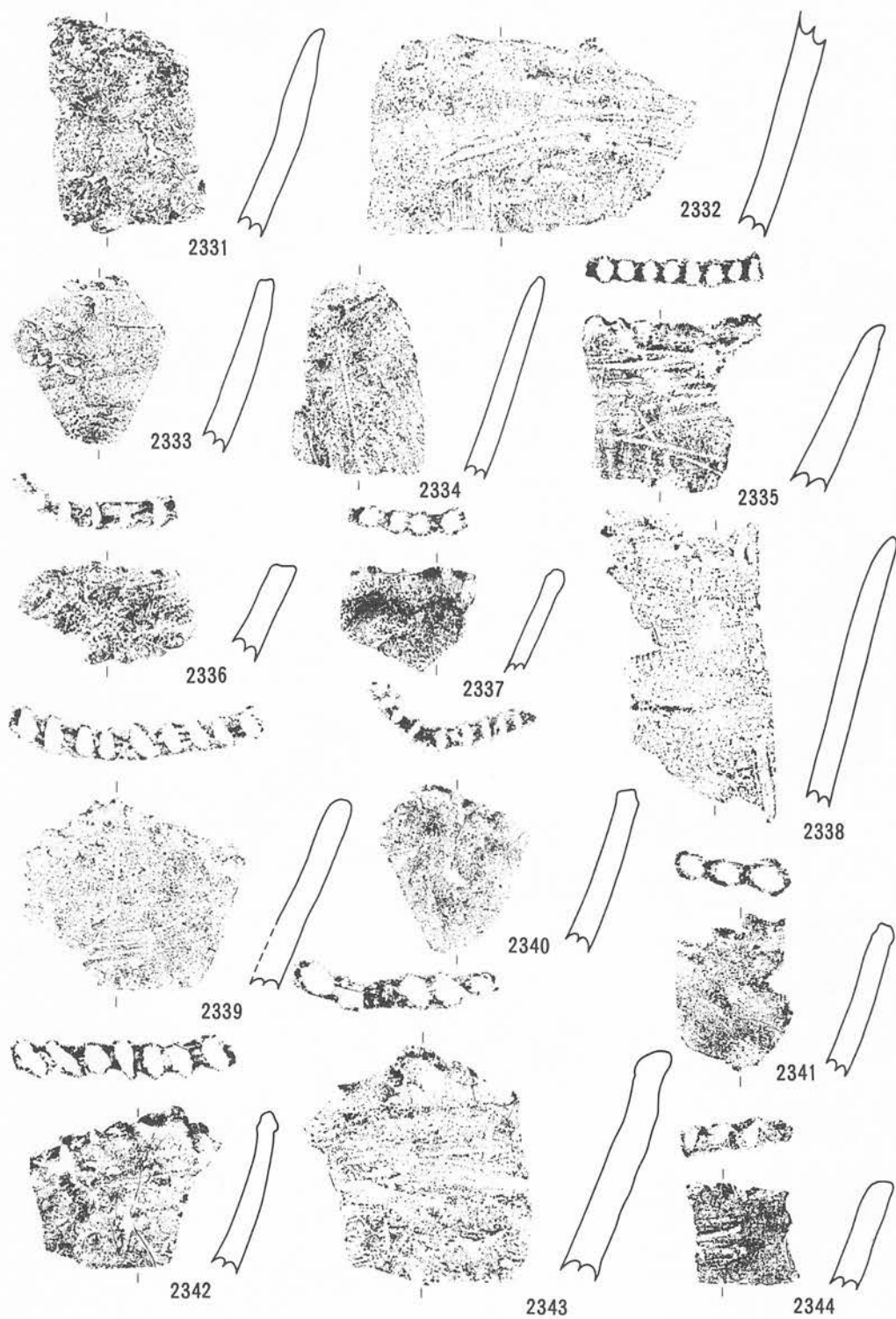
第205図 遺構外出土遺物 (遺物番号2300~2314)





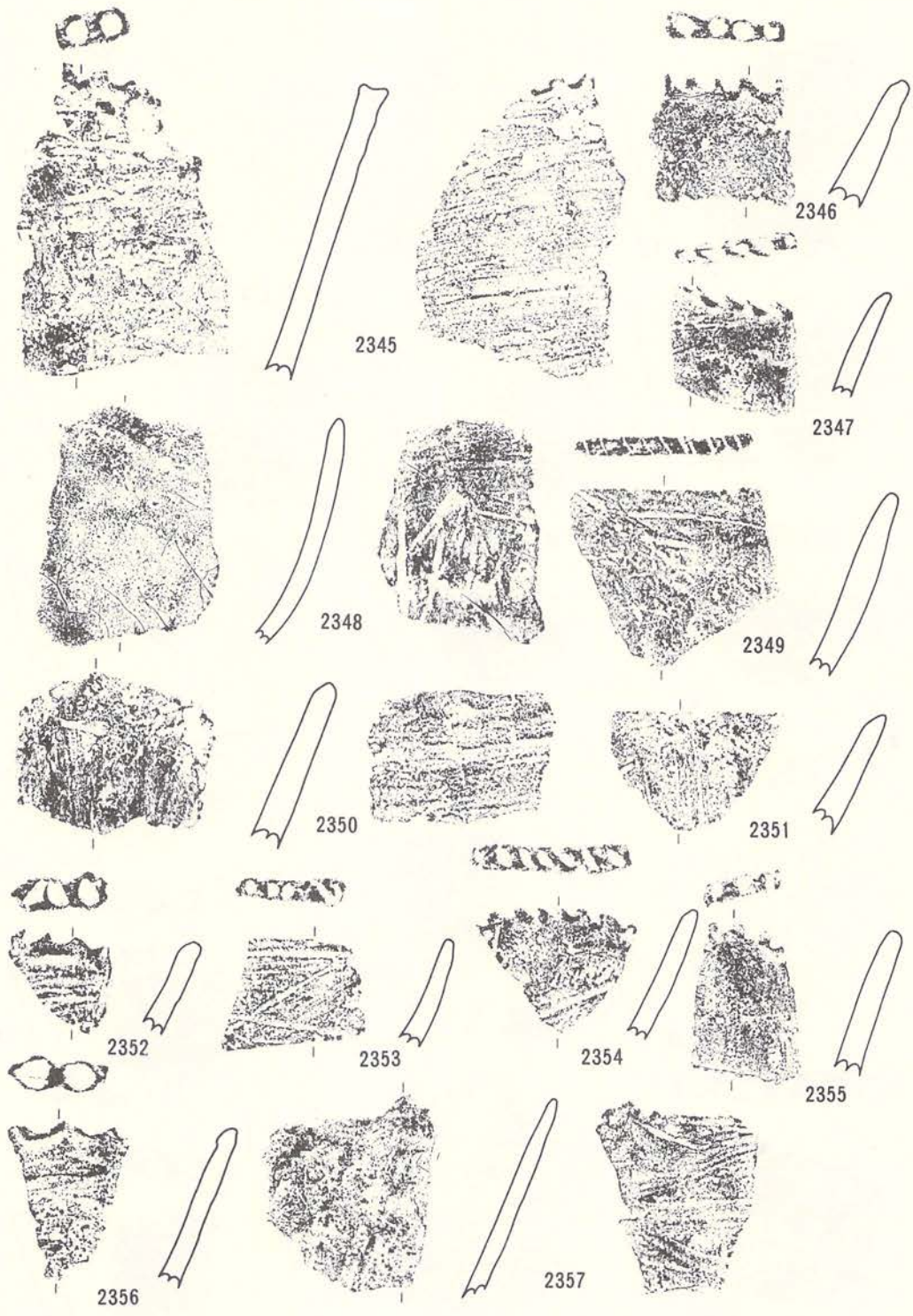
2315~2330 約 $\frac{1}{2}$

第206図 遺構外出土遺物 (遺物番号2315~2330)

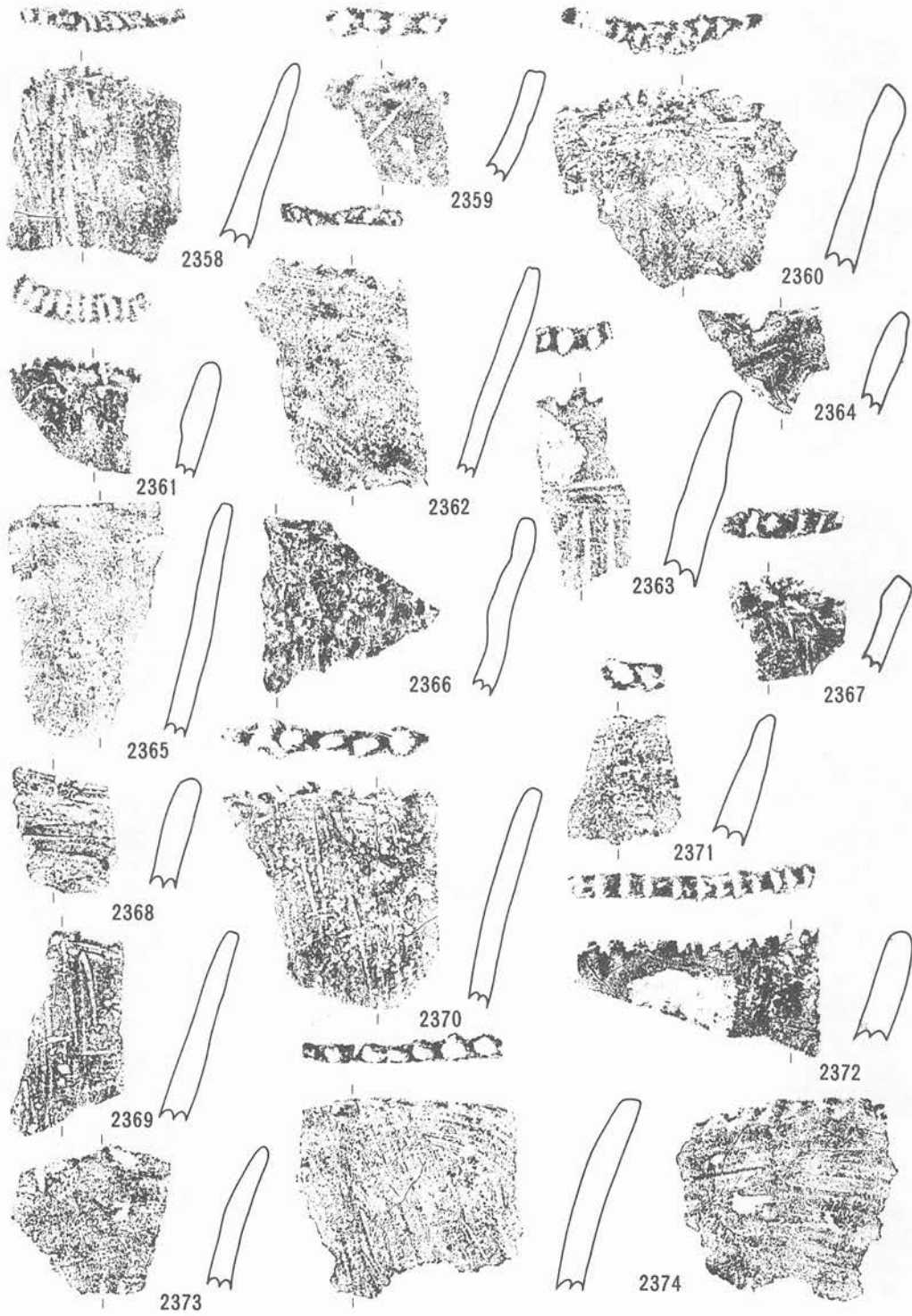


2331~2344 約 $\frac{1}{2}$

第207図 遺構外出土遺物 (遺物番号2331~2344)

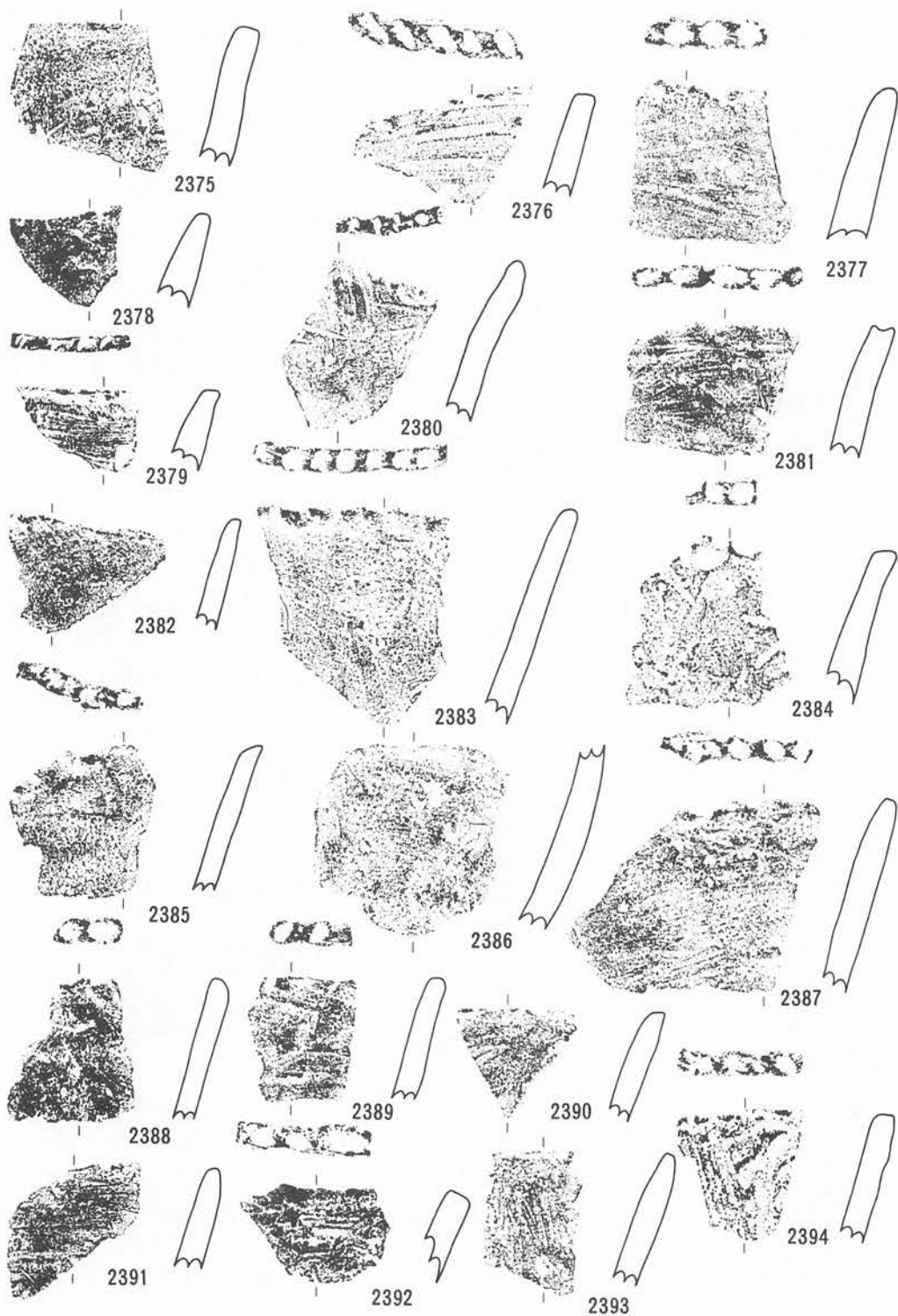


第208図 遺構外出土遺物（遺物番号2345～2357）



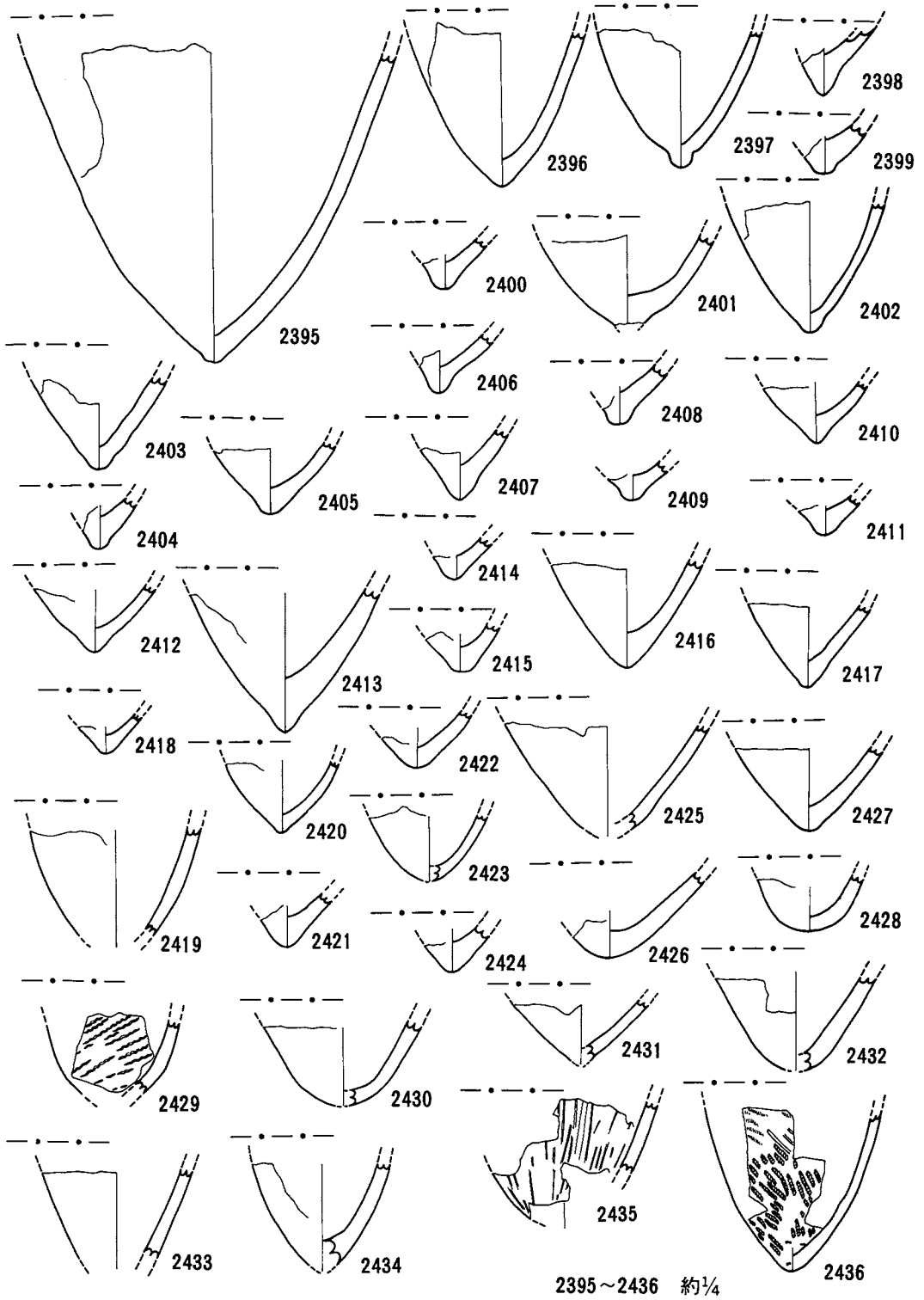
2358~2374 約 $\frac{1}{2}$

第209図 遺構外出土遺物 (遺物番号2358~2374)



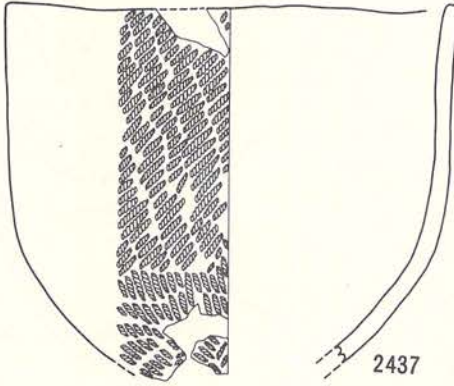
2375~2394 約 $\frac{1}{2}$

第210図 遺構外出土遺物（遺物番号2375~2394）



第211図 遺構外出土遺物（遺物番号2395~2436）

(24.0) . . . .



2437



2438



2439



2440



2441



2442



2443



2444



2445



2446



2447



2448



2449



2450



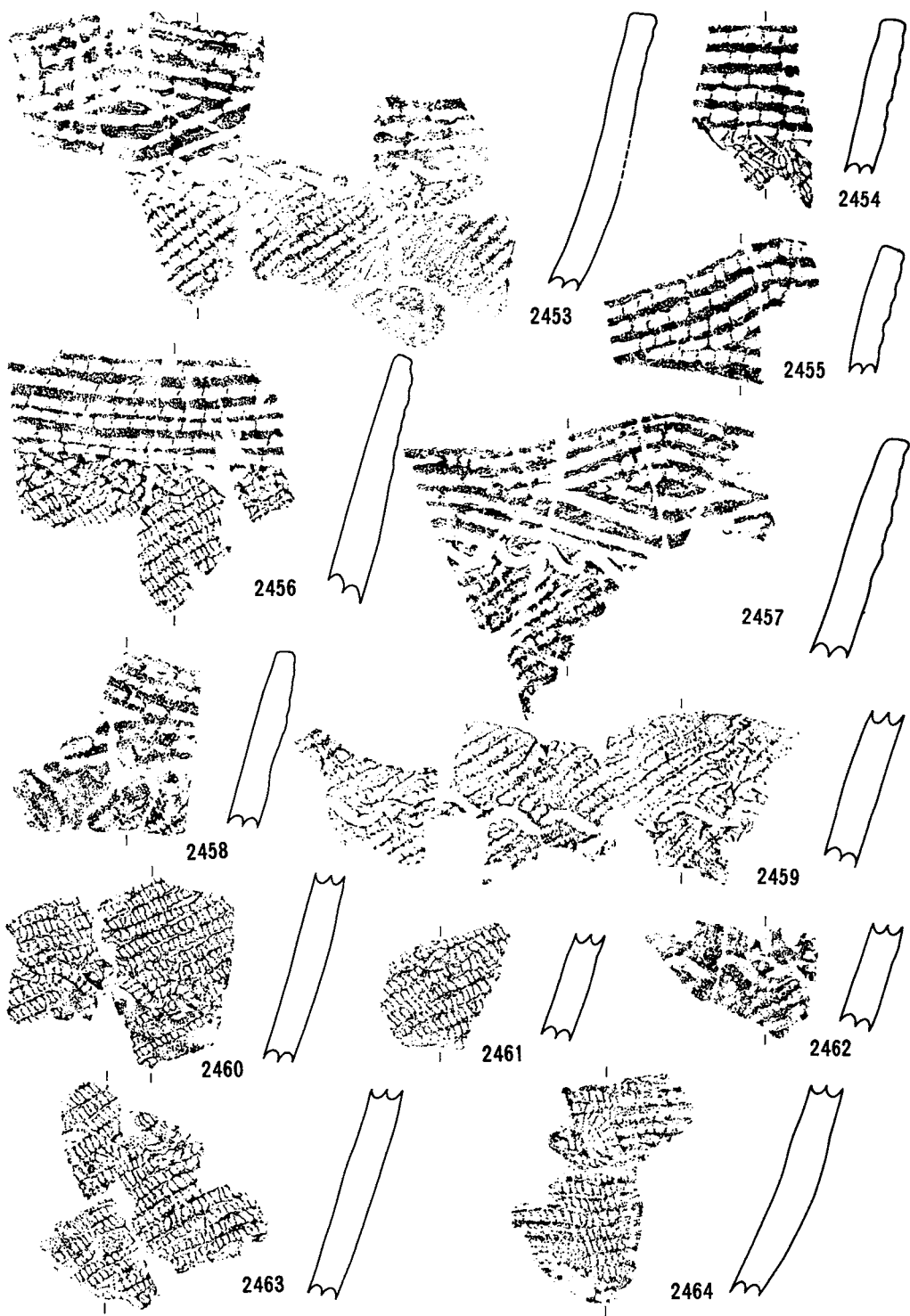
2451



2452

2440~2452 約 $\frac{1}{2}$  2437~2439 約 $\frac{1}{4}$

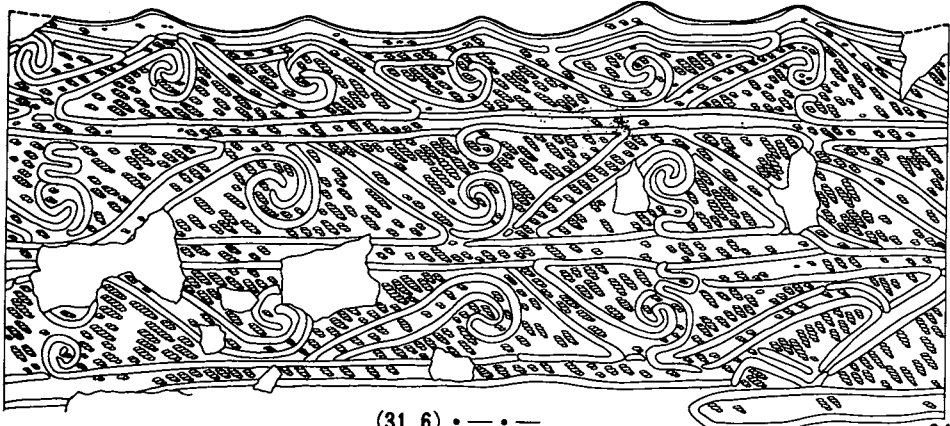
第212図 遺構外出土遺物 (遺物番号2437~2452)



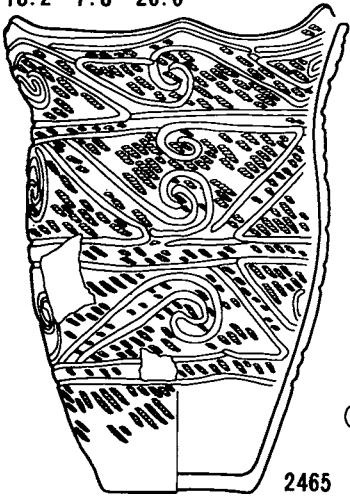
2453~2464 約 $\frac{1}{2}$

第213図 遺構外出土遺物 (遺物番号2453~2464)



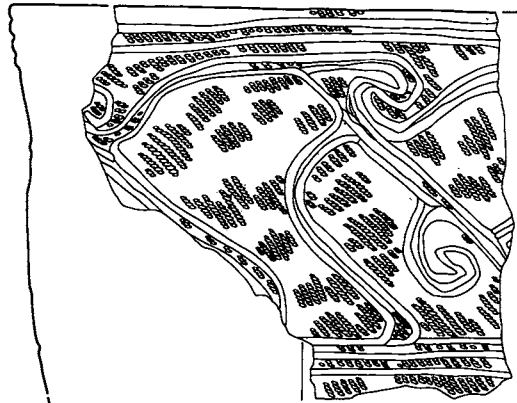


18.2 · 7.8 · 26.0



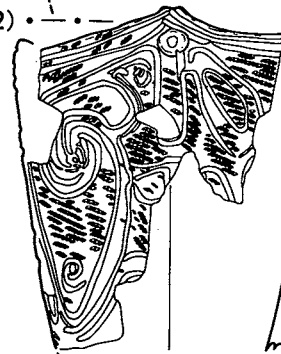
2465

(31.6) · - - -



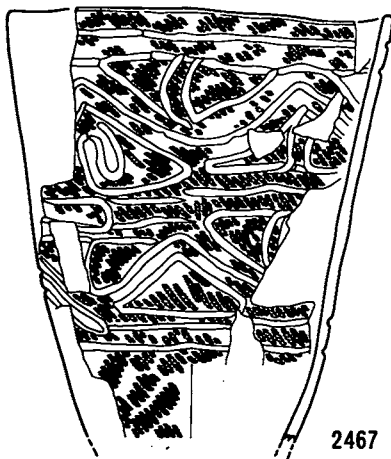
2465 a

(16.2) · - - -



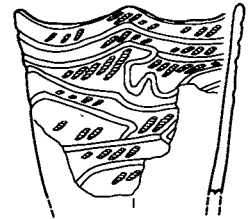
2466

(20.5) · - - -



2467

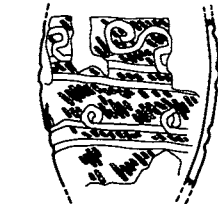
(12.2) · - - -



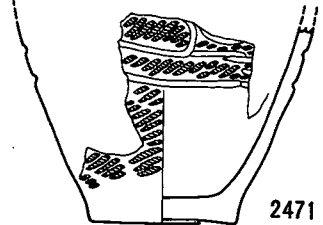
2469

2468

· 7.8 ·



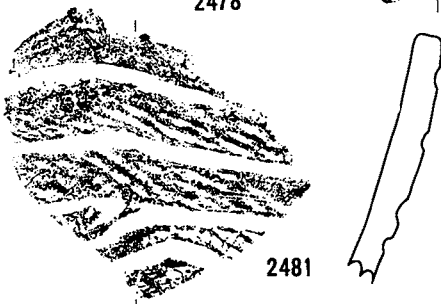
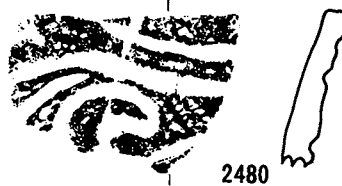
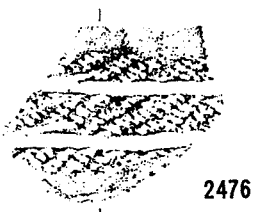
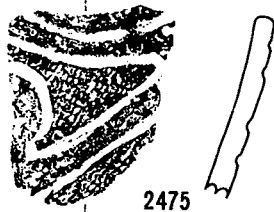
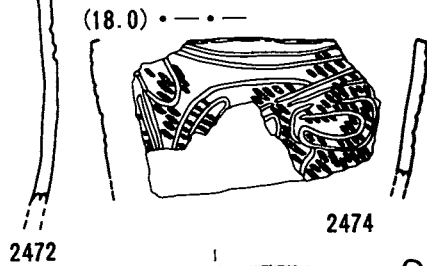
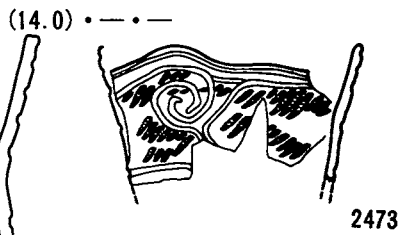
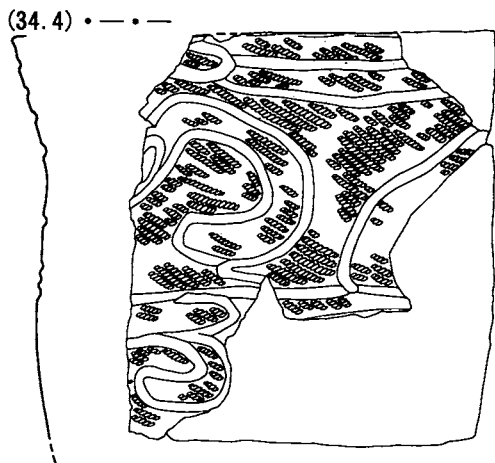
2470



2471

2465~2471 約¼

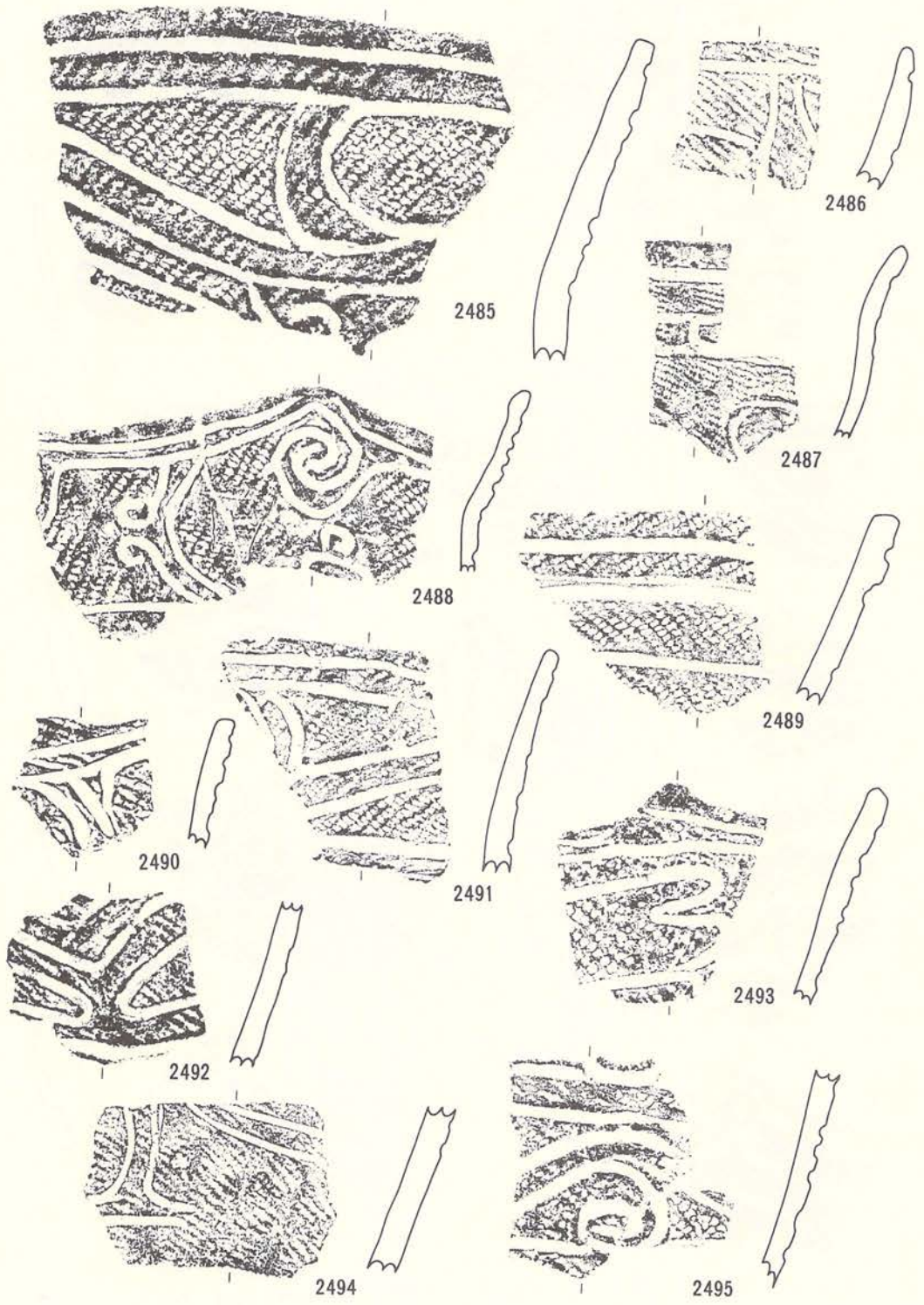
第214図 遺構外出土遺物 (遺物番号2465~2471)



2475~2484 約 $\frac{1}{2}$

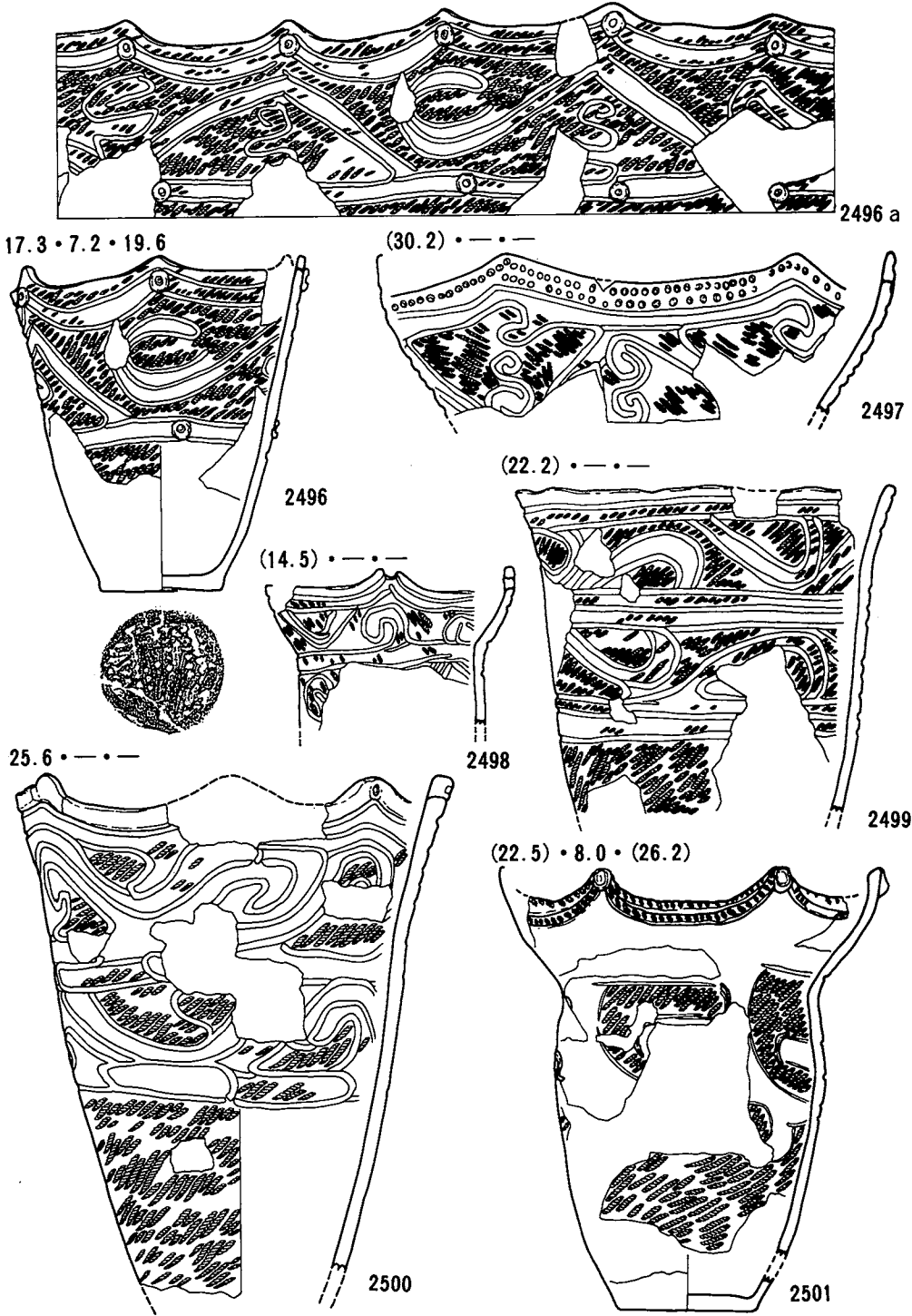
2472~2474 約 $\frac{1}{4}$

第215図 遺構外出土遺物 (遺物番号2472~2484)

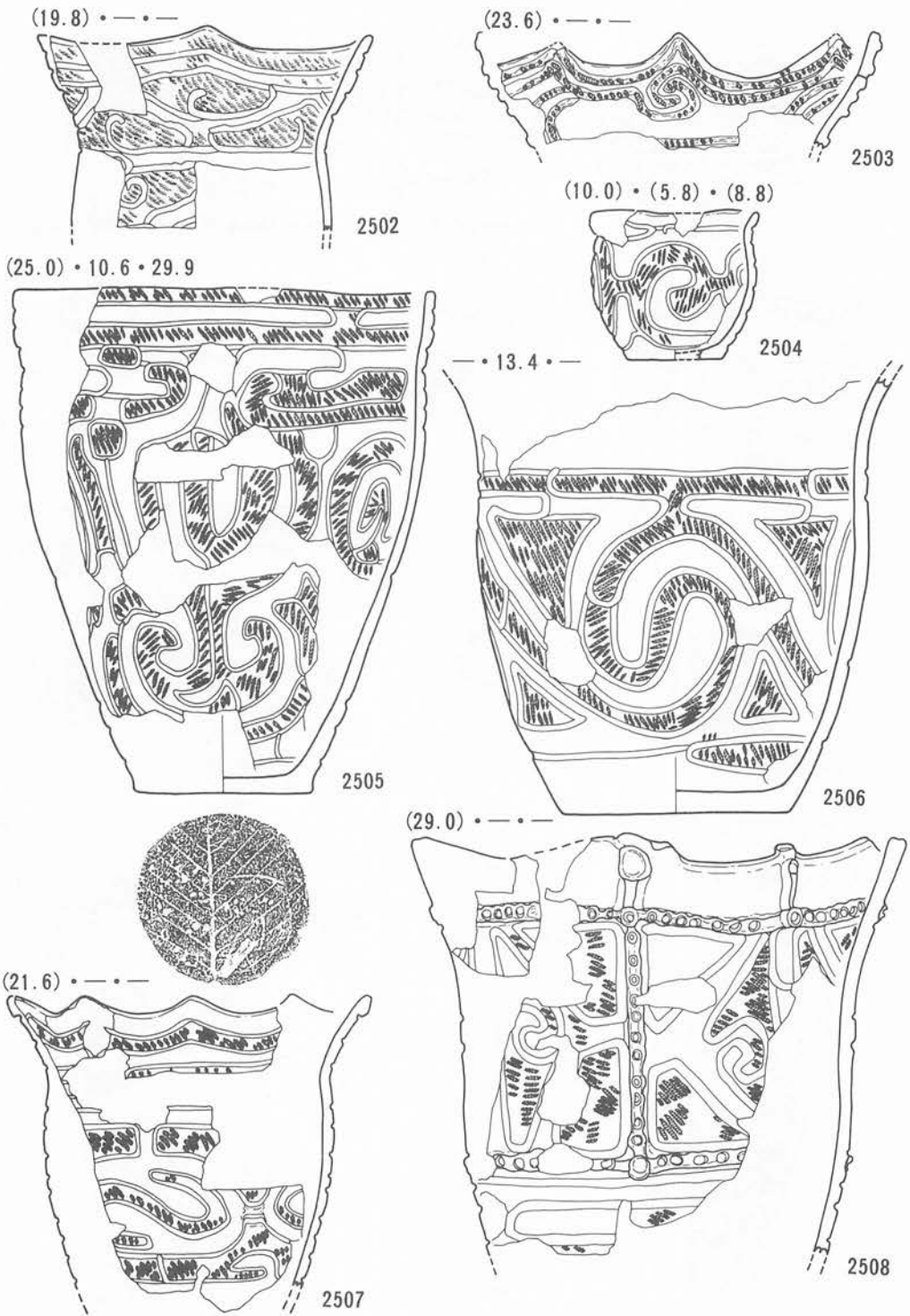


2485~2495 約 $\frac{1}{2}$

第216図 遺構外出土遺物 (遺物番号2485~2495)

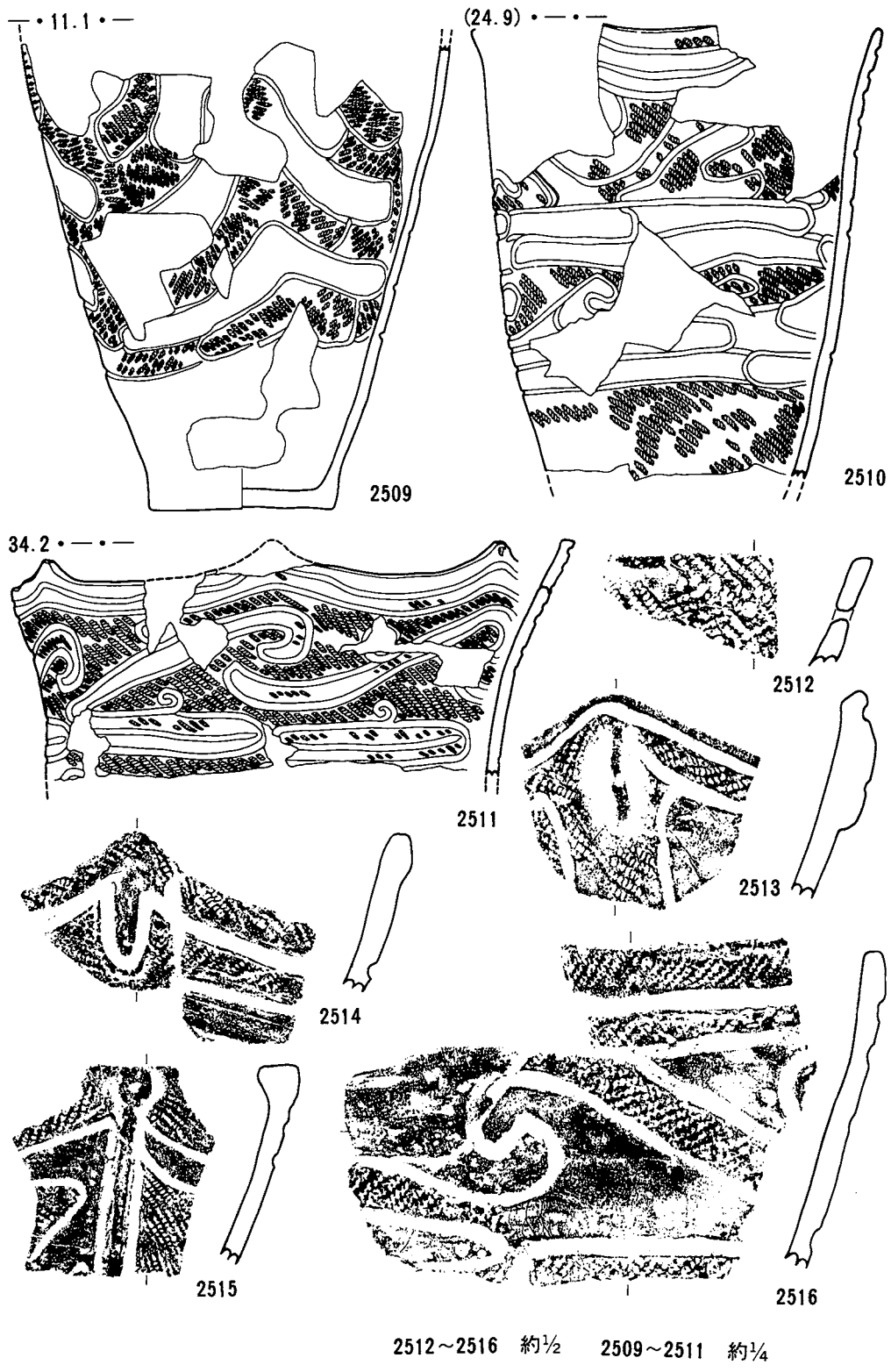


第217図 遺構外出土遺物 (遺物番号2496~2501)



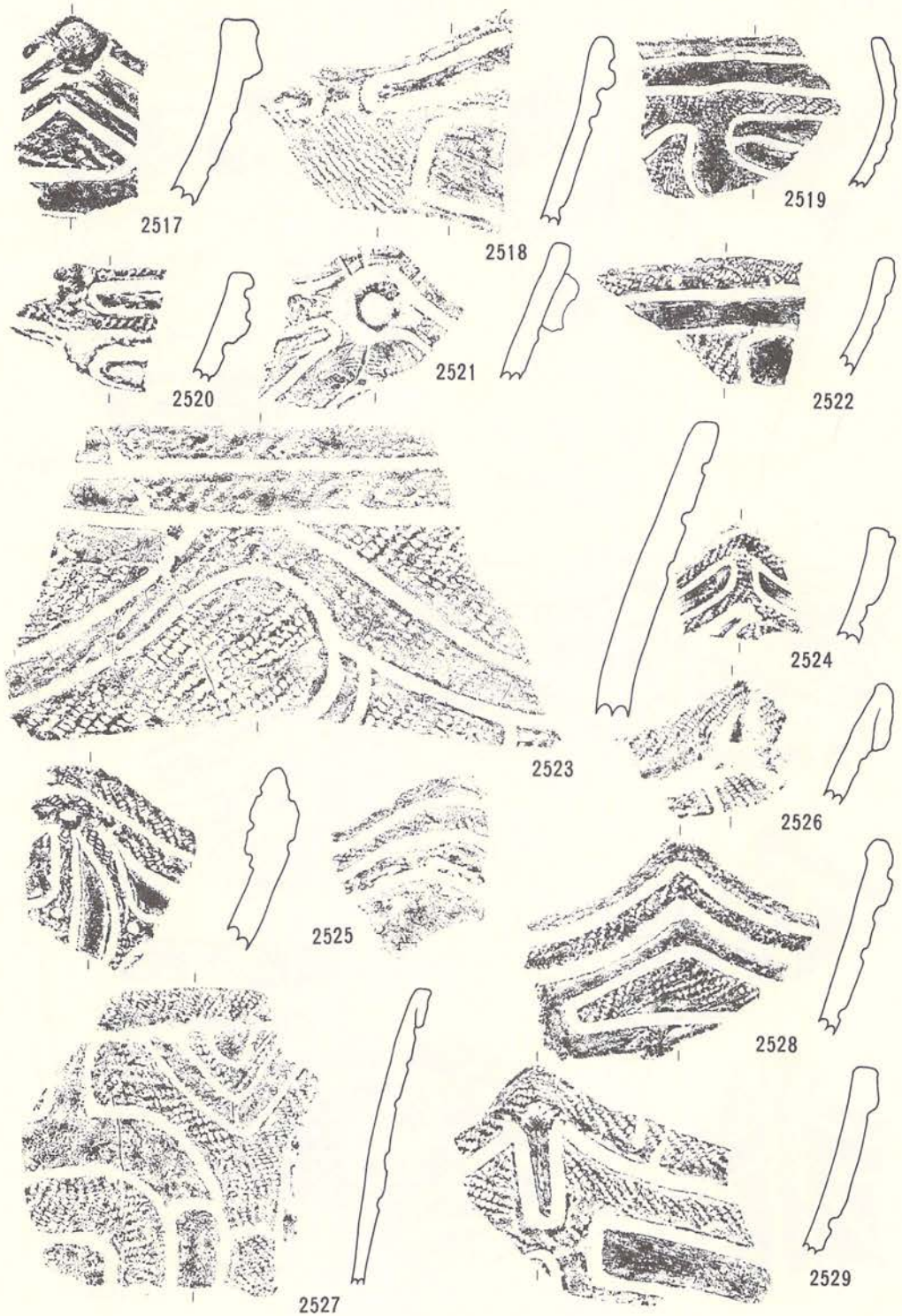
2502~2508 約 $\frac{1}{4}$

第218図 遺構外出土遺物 (遺物番号2502~2508)



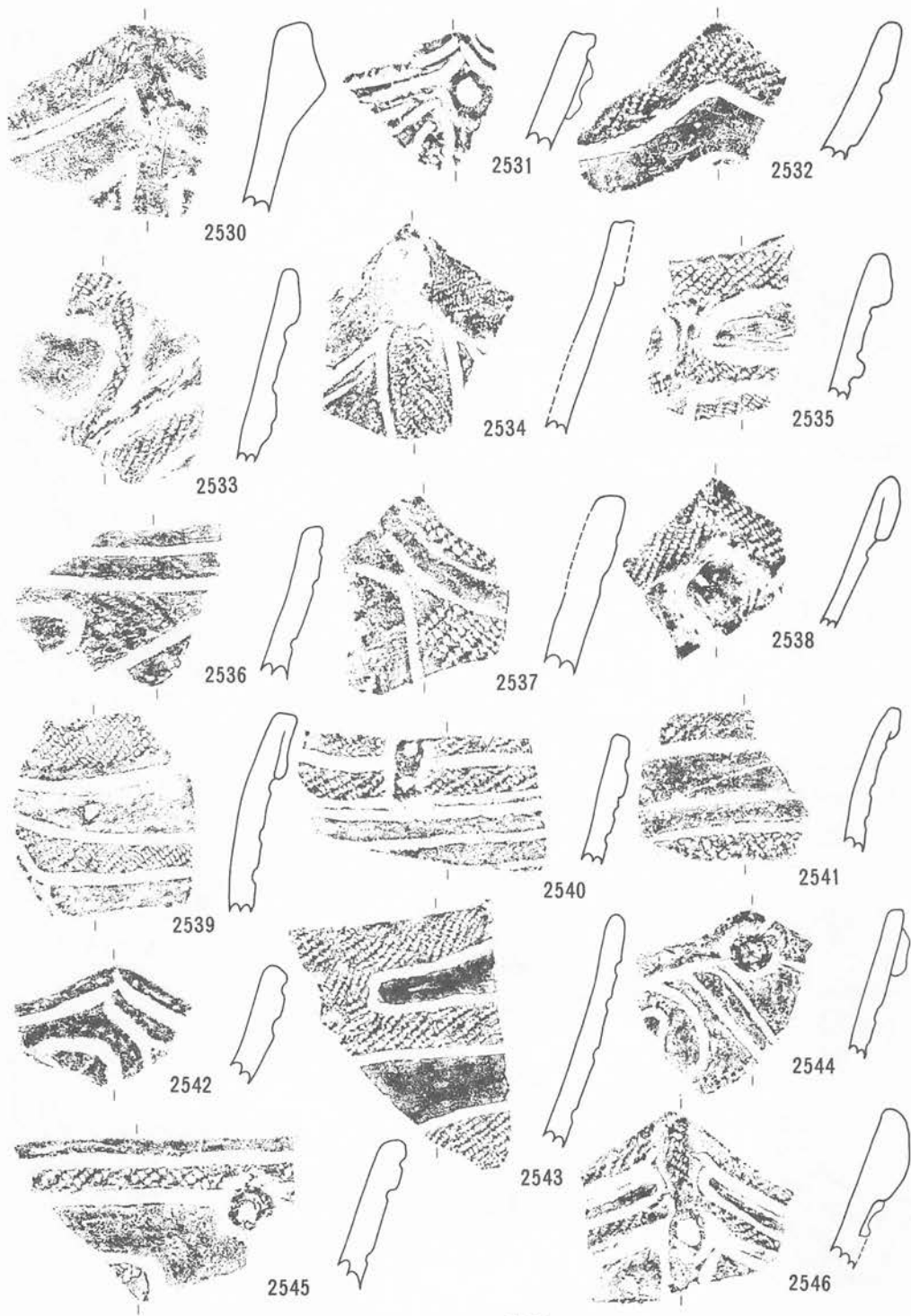
2512~2516 約 $\frac{1}{2}$  2509~2511 約 $\frac{1}{4}$

第219図 遺構外出土遺物 (遺物番号2509~2516)



2517~2529 約 $\frac{1}{2}$

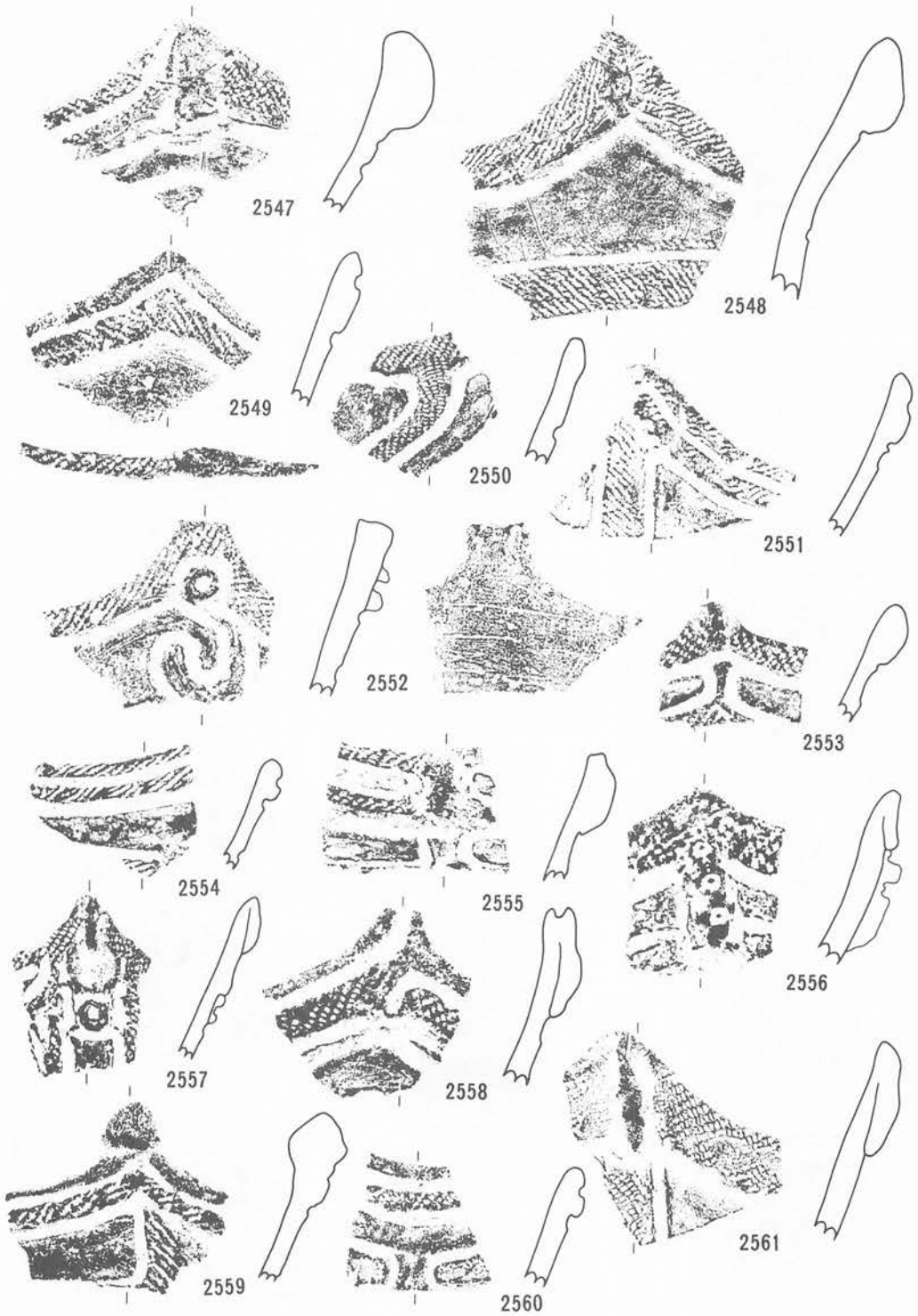
第220図 遺構外出土遺物 (遺物番号2517~2529)



2530~2546 約 $\frac{1}{2}$

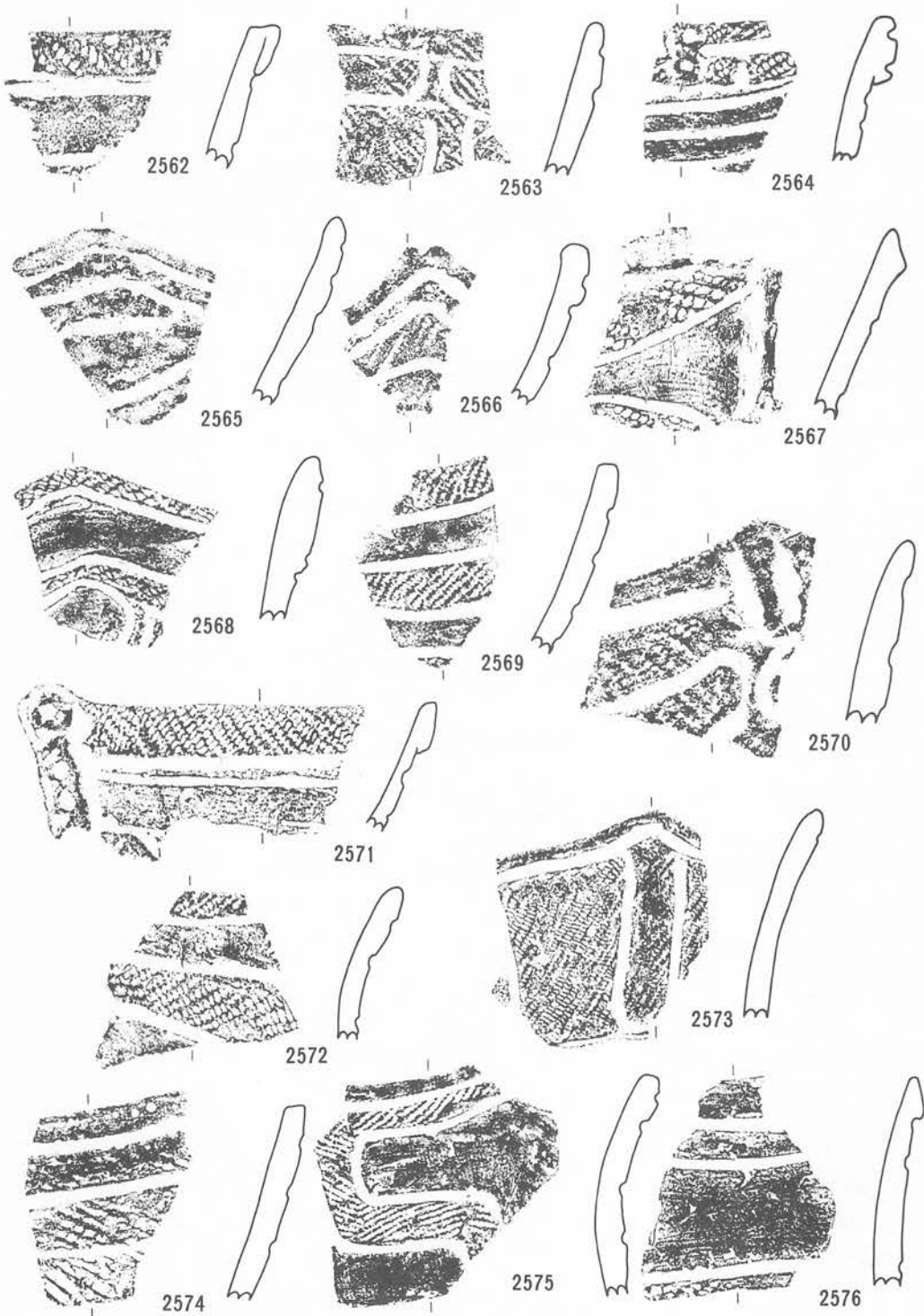
第221図 遺構外出土遺物 (遺物番号2530~2546)





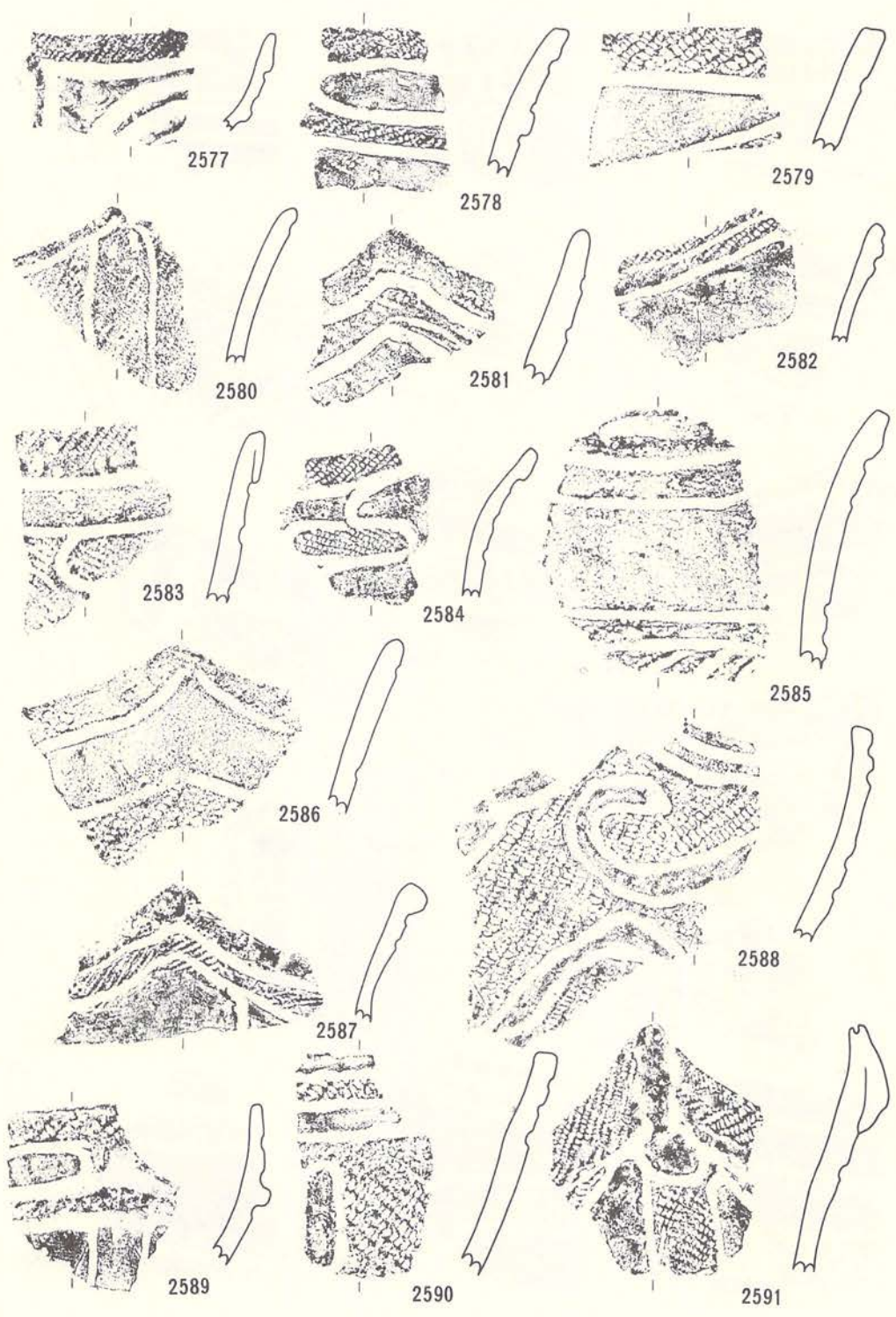
2547~2561 約 $\frac{1}{2}$

第222図 遺構外出土遺物（遺物番号2547~2561）



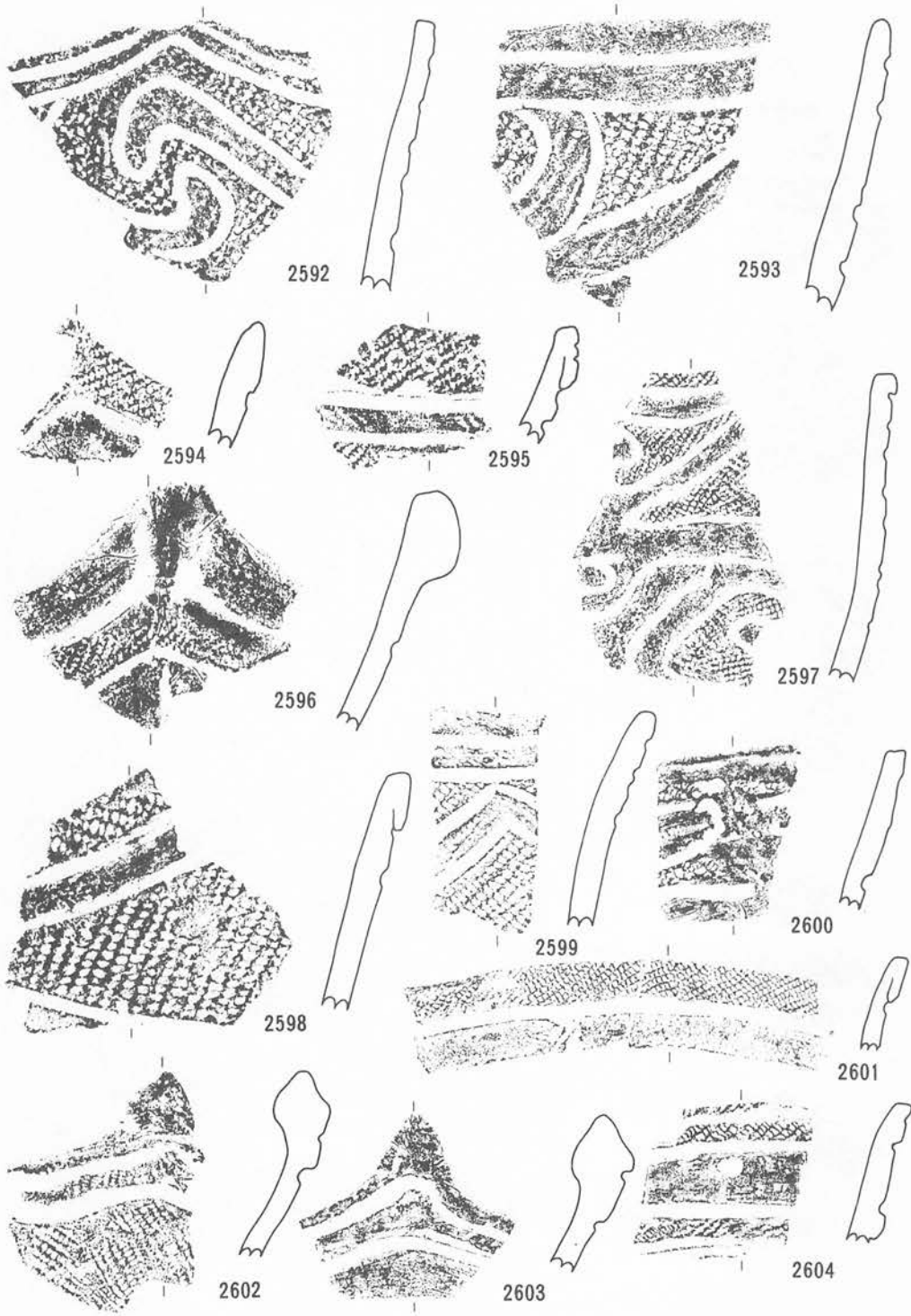
2562~2576 約 $\frac{1}{2}$

第223図 遺構外出土遺物 (遺物番号2562~2576)



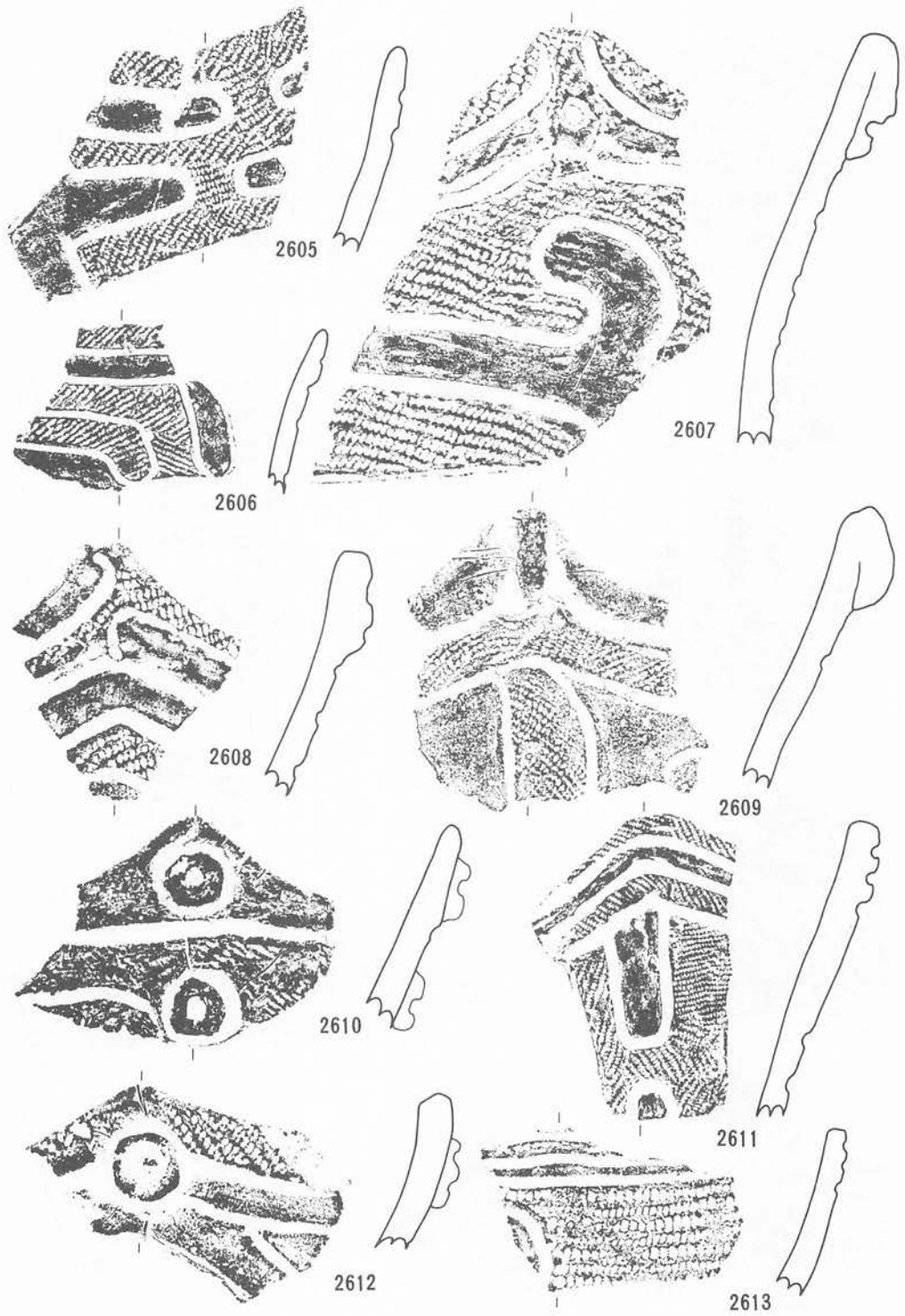
2577~2591 約 $\frac{1}{2}$

第224図 遺構外出土遺物 (遺物番号2577~2591)



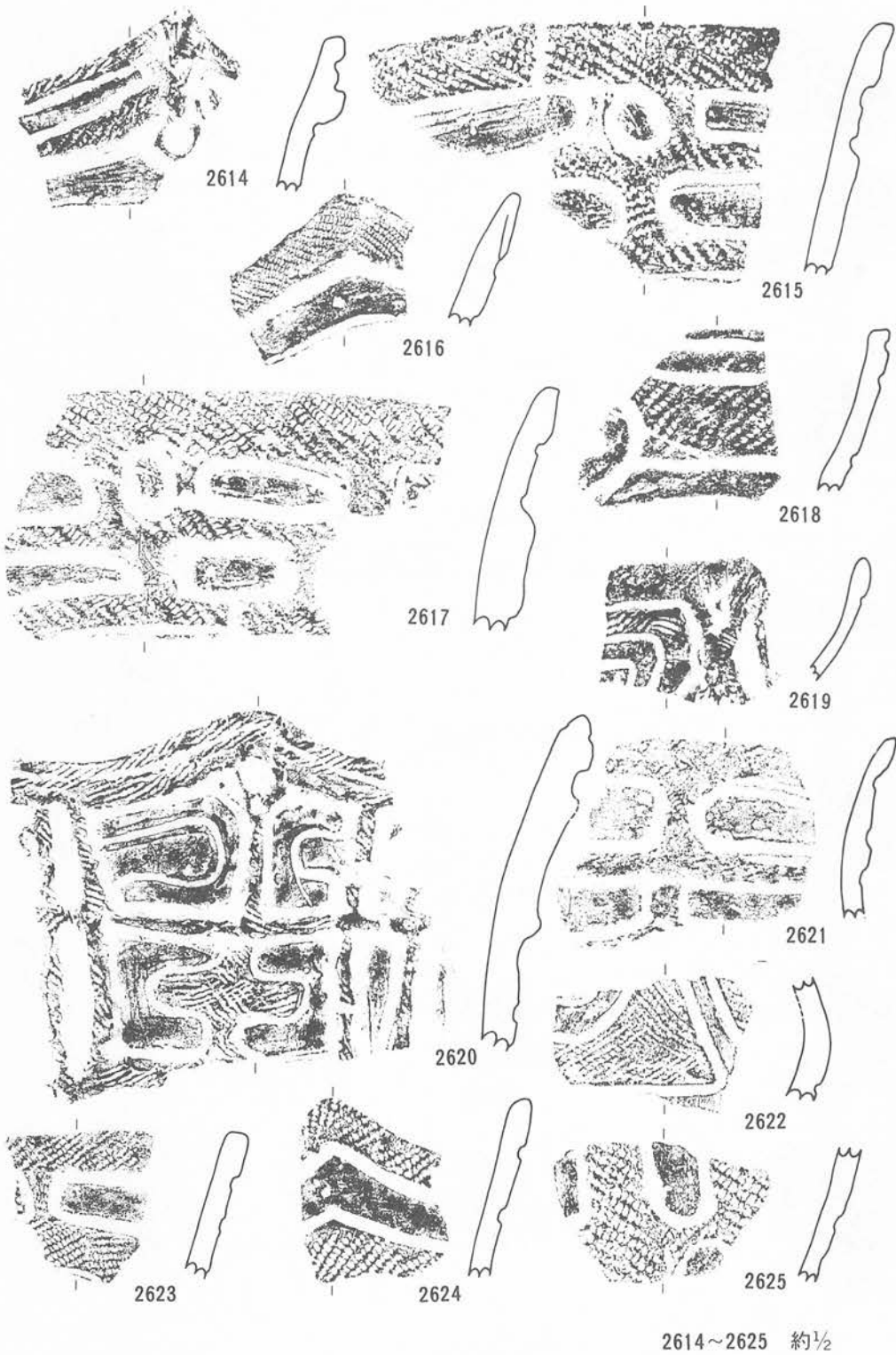
2592~2604 約 $\frac{1}{2}$

第225図 遺構外出土遺物 (遺物番号2592~2604)

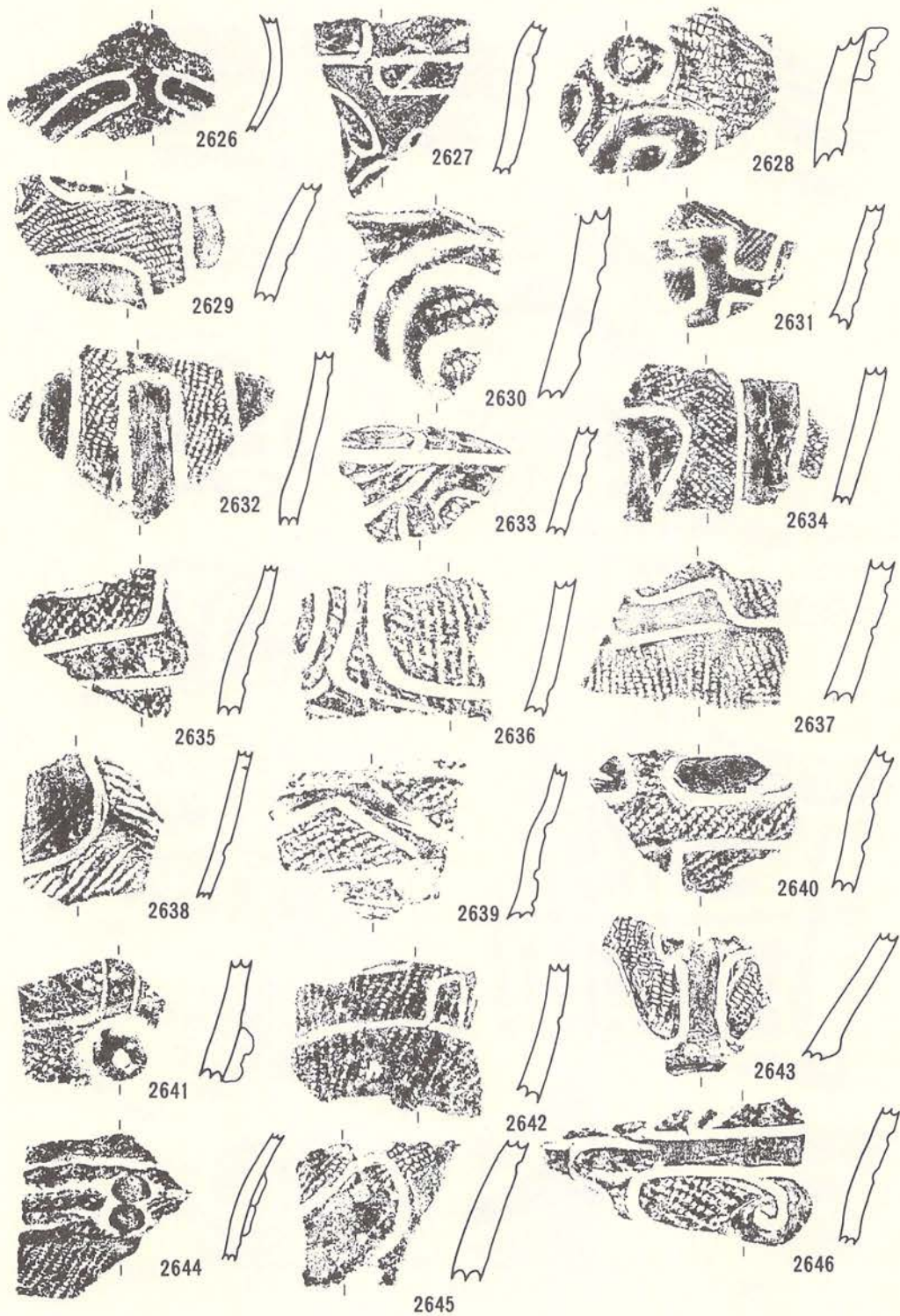


2605~2613 約 $\frac{1}{2}$

第226図 遺構外出土遺物 (遺物番号2605~2613)

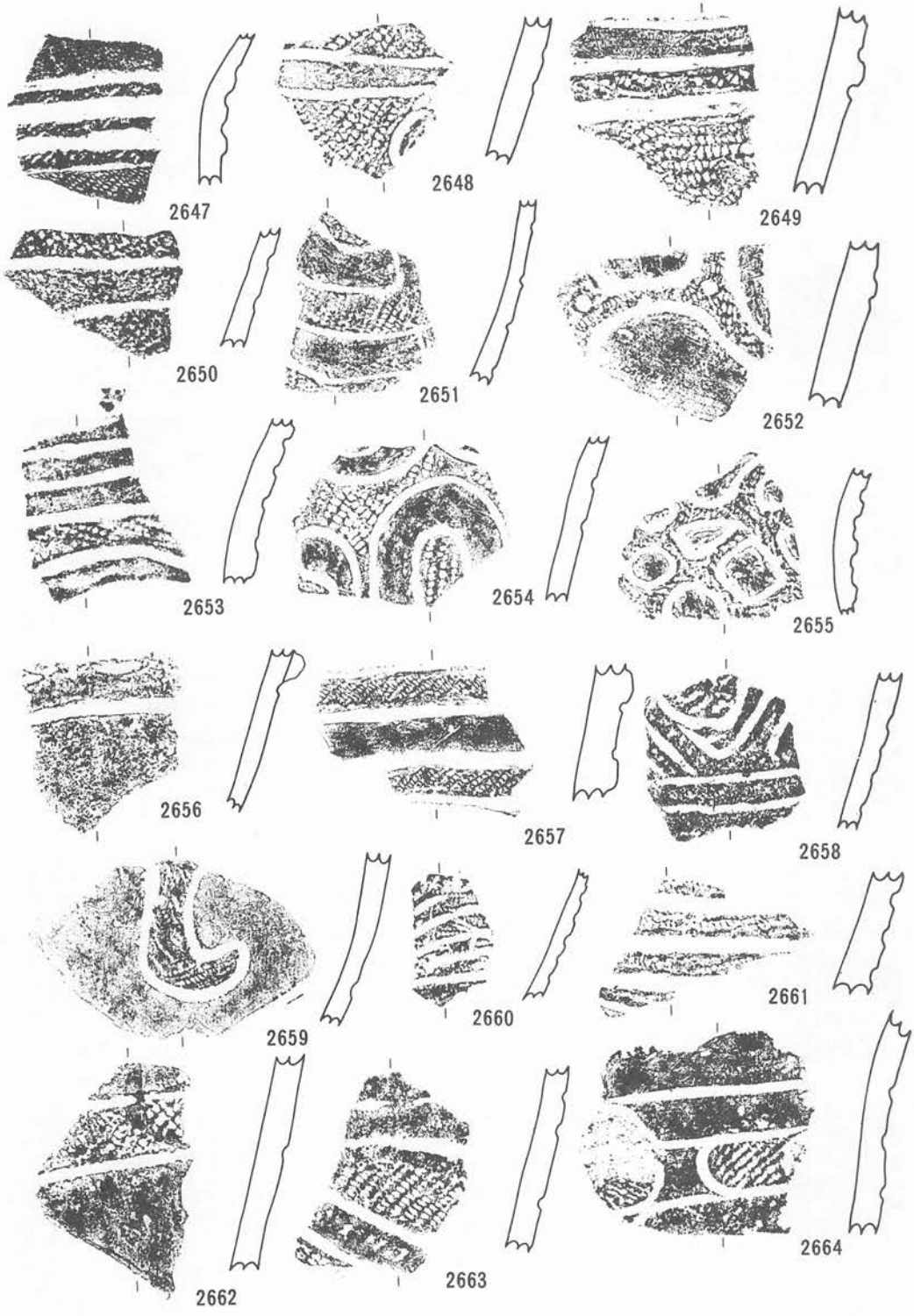


第227図 遺構外出土遺物（遺物番号2614~2625）



2626~2646 約 $\frac{1}{2}$

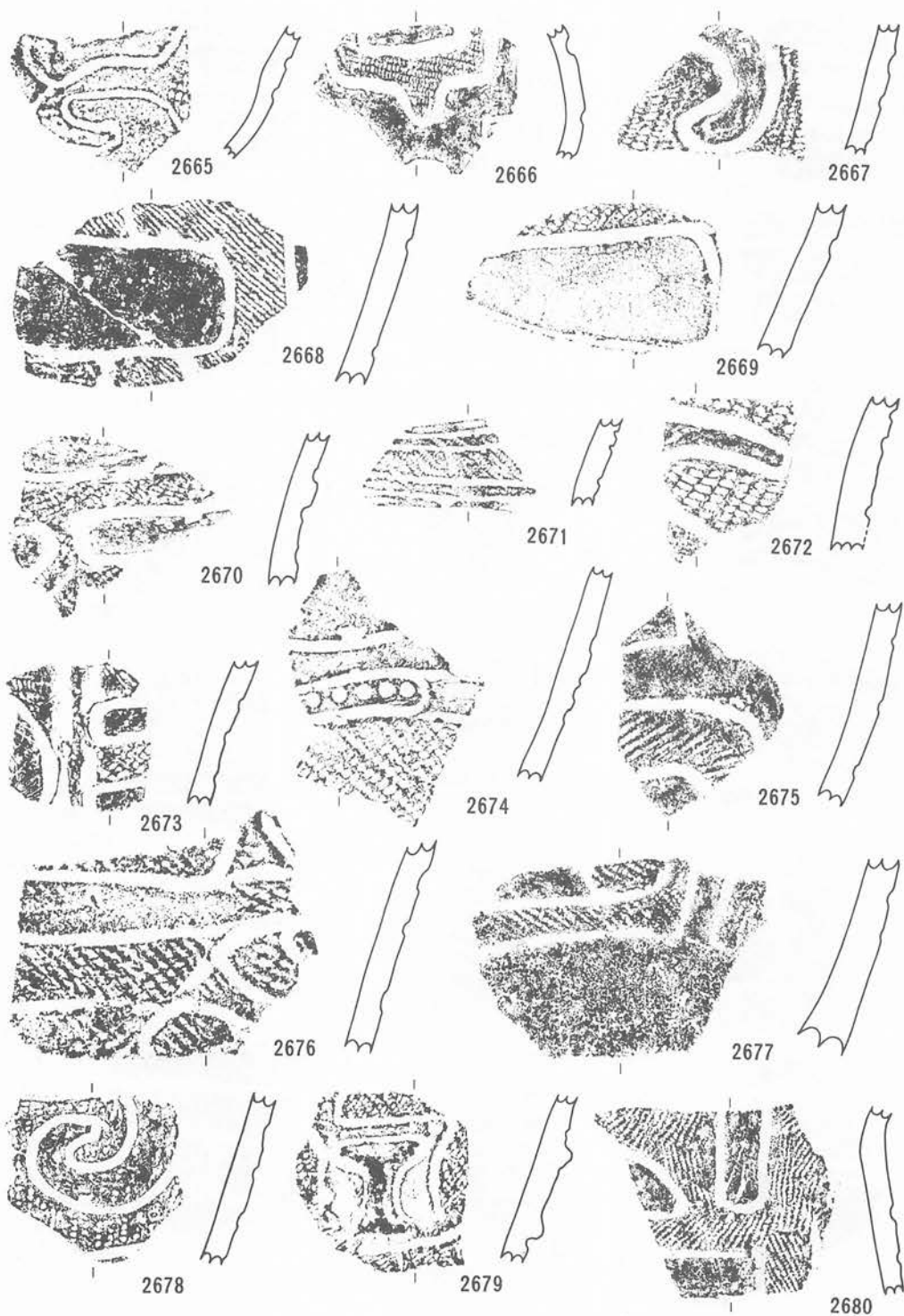
第228図 遺構外出土遺物 (遺物番号2626~2646)



2647~2664 約 $\frac{1}{2}$

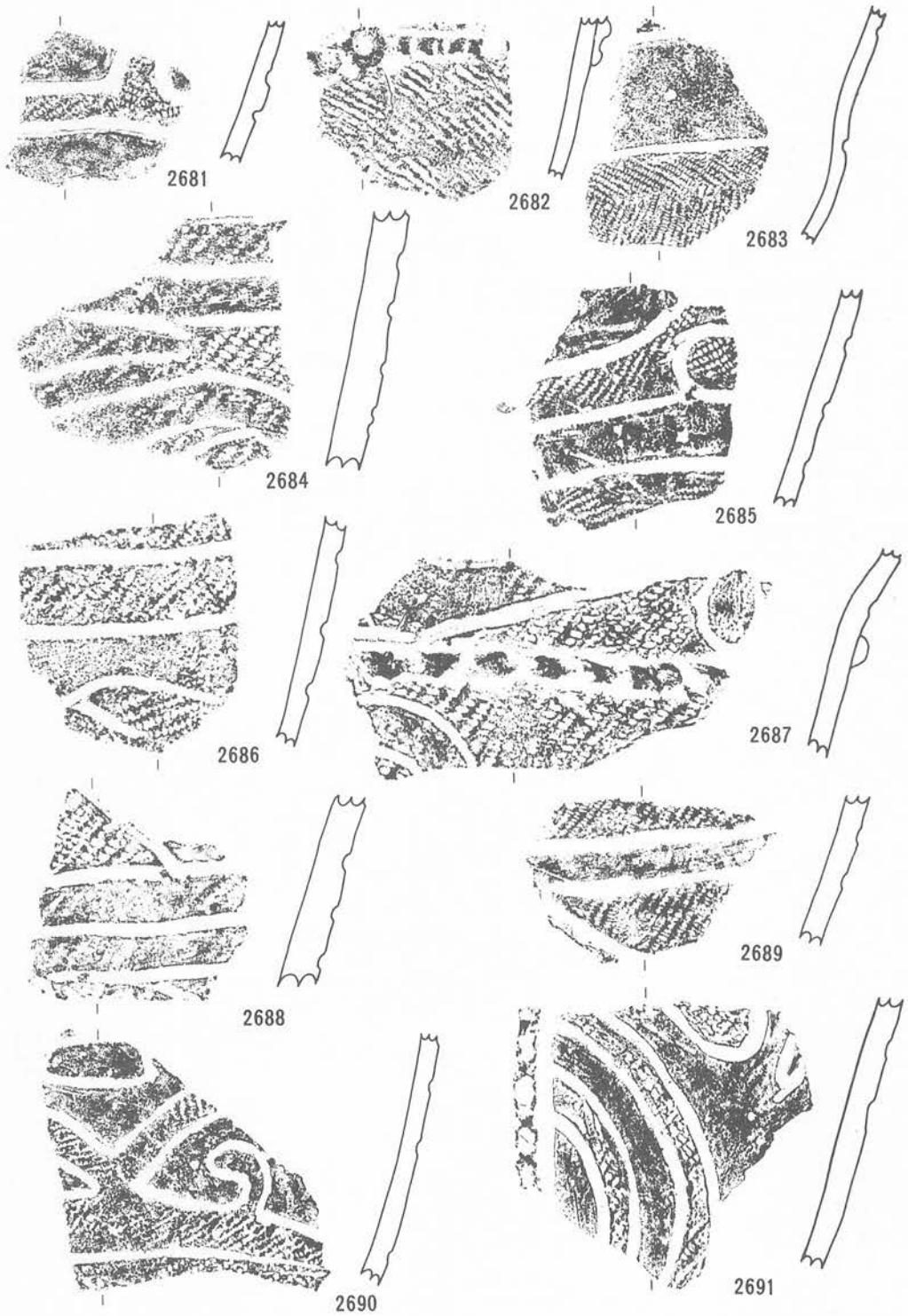
第229図 遺構外出土遺物 (遺物番号2647~2664)





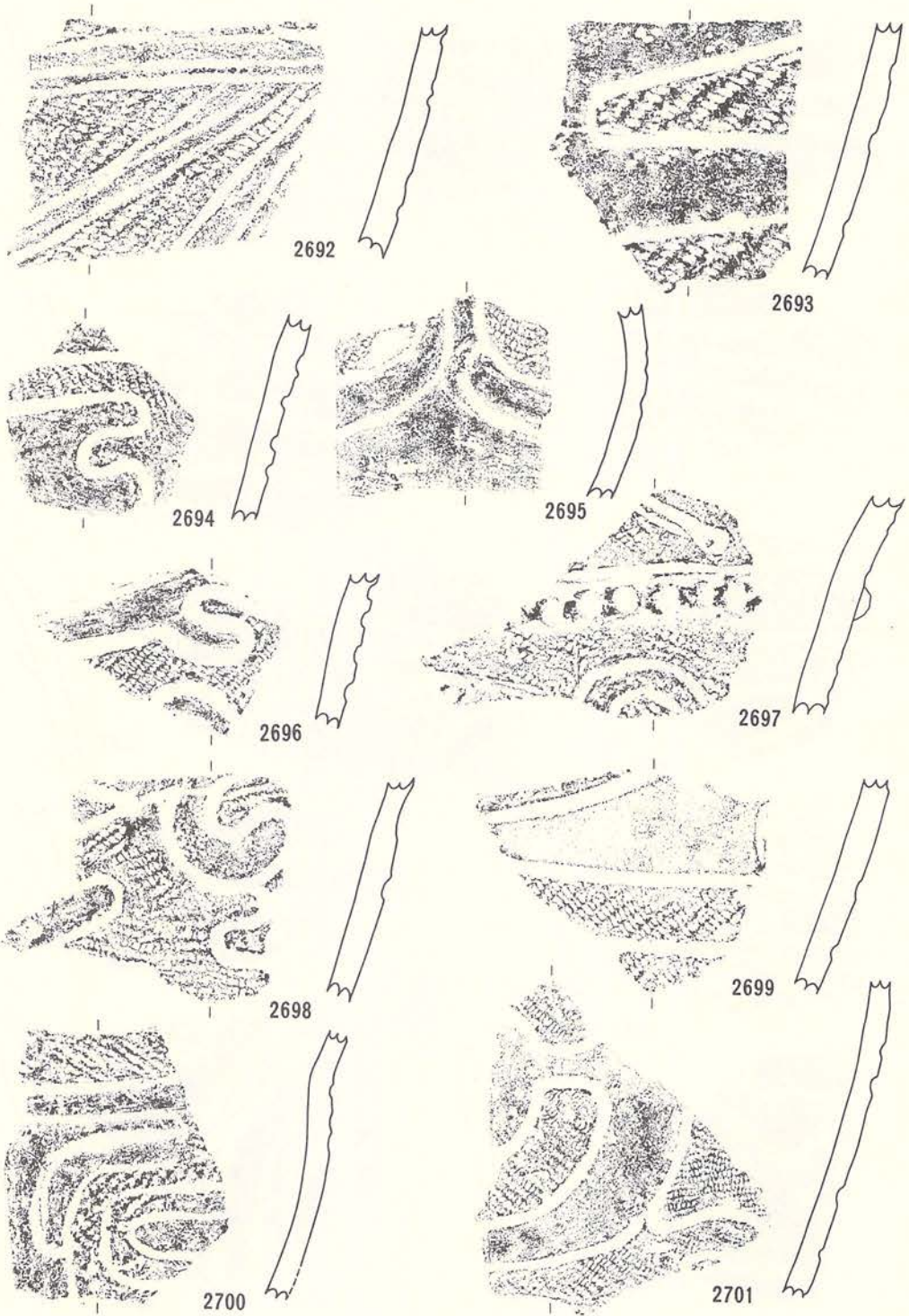
2665~2680 約 $\frac{1}{2}$

第230図 遺構外出土遺物 (遺物番号2665~2680)



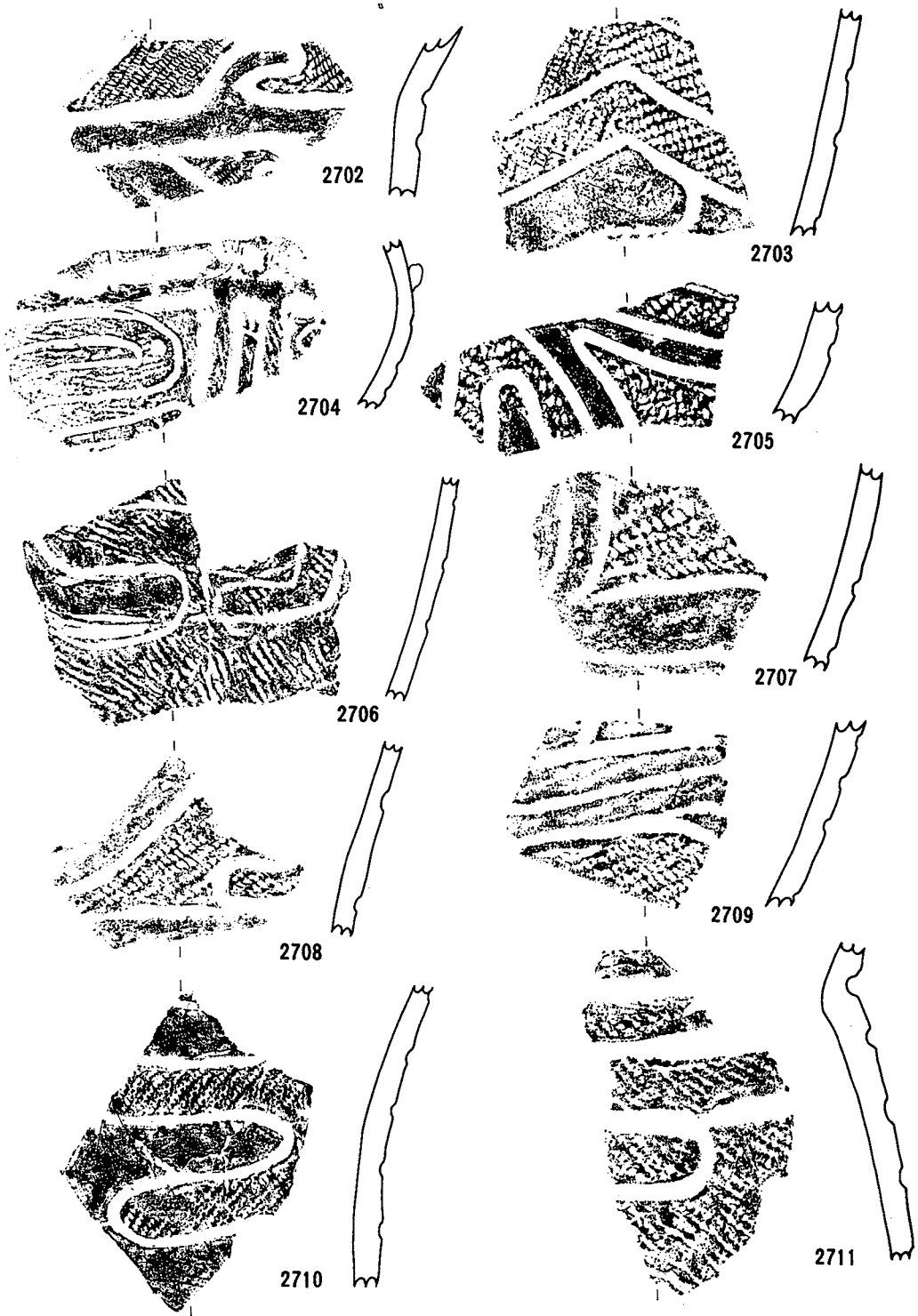
2681~2691 約 $\frac{1}{2}$

第231図 遺構外出土遺物 (遺物番号2681~2691)



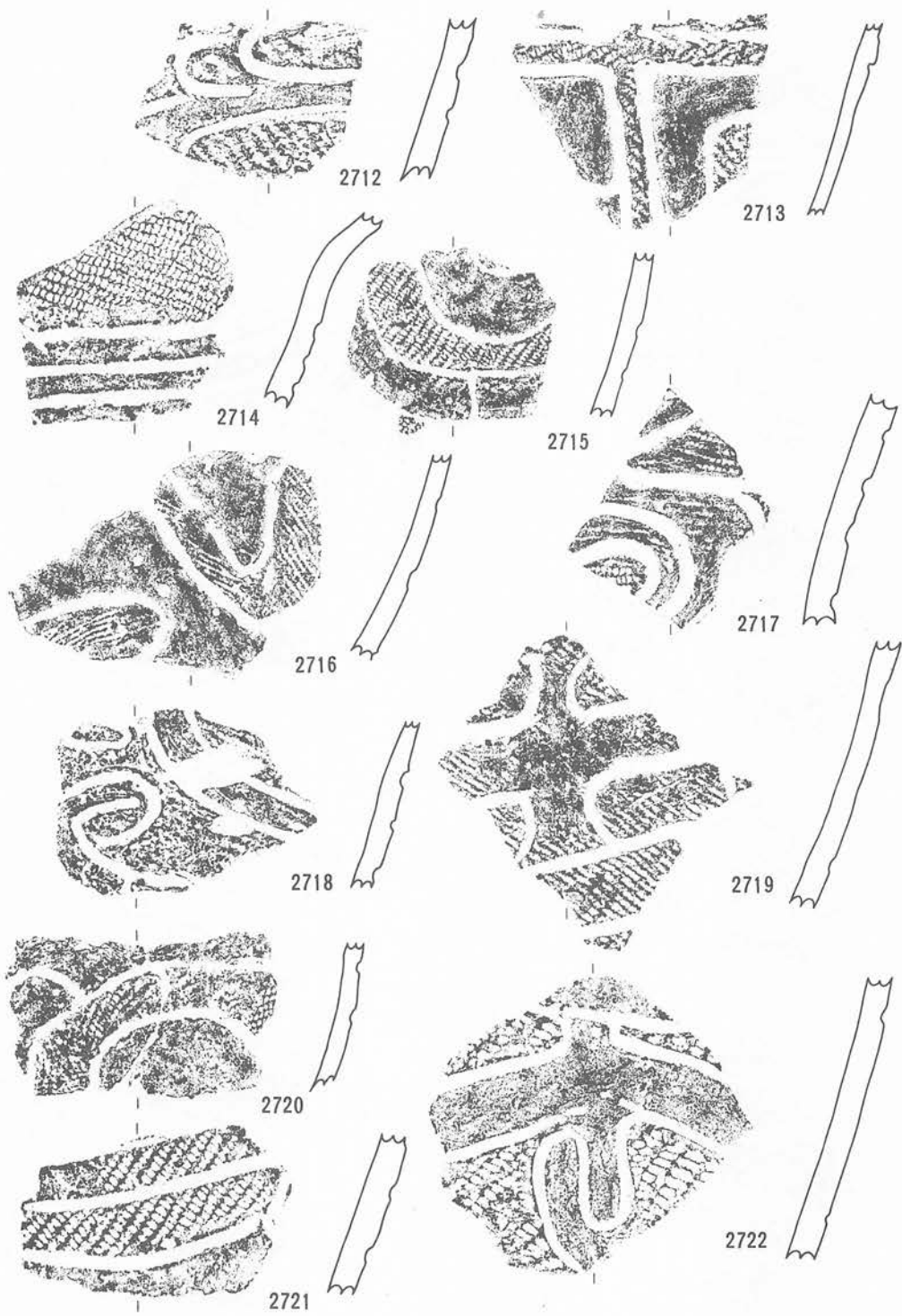
2692~2701 約 $\frac{1}{2}$

第232図 遺構外出土遺物 (遺物番号2692~2701)



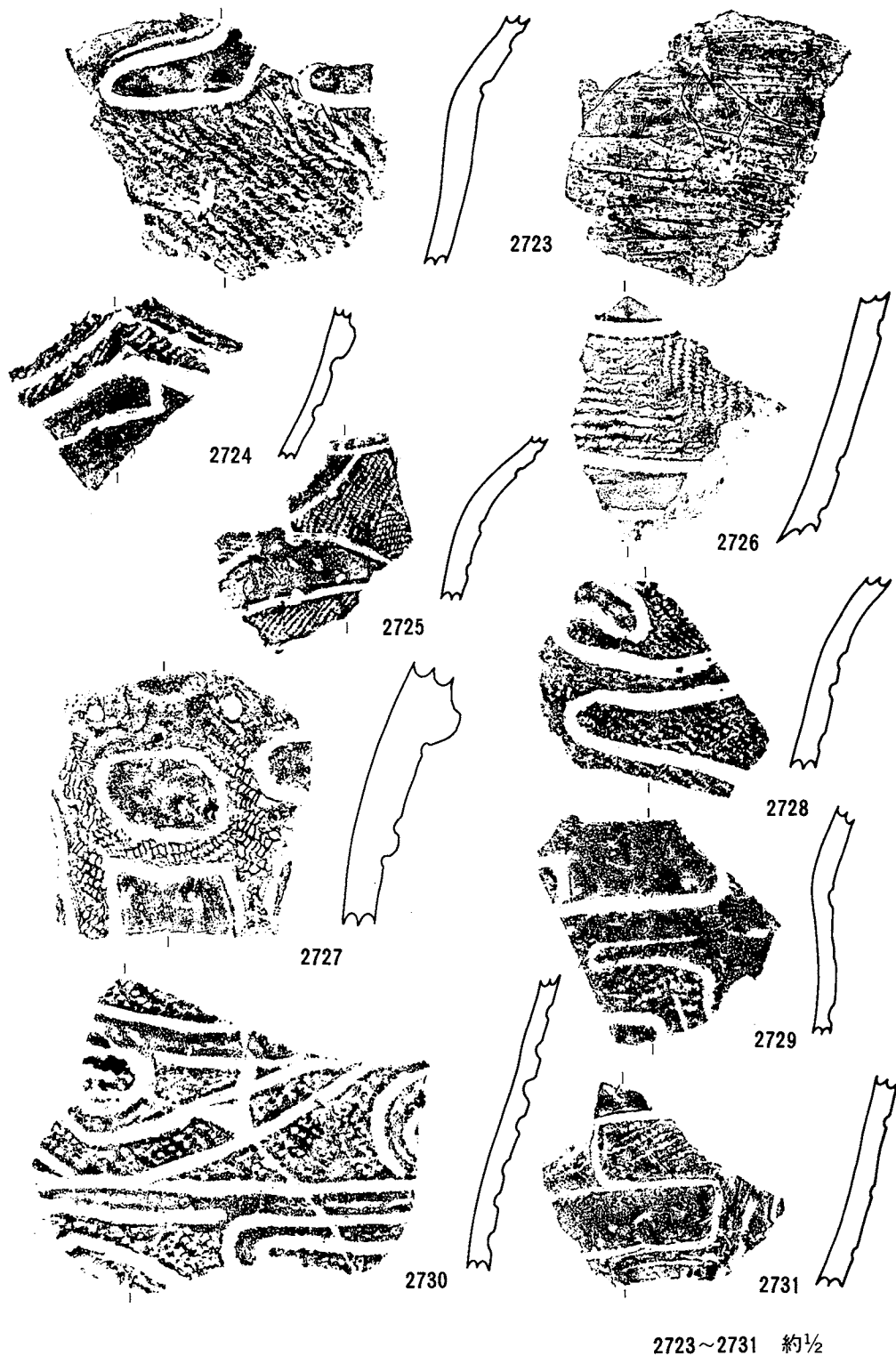
2702~2711 約 $\frac{1}{2}$

第233図 遺構外出土遺物 (遺物番号2702~2711)



2712~2722 約 $\frac{1}{2}$

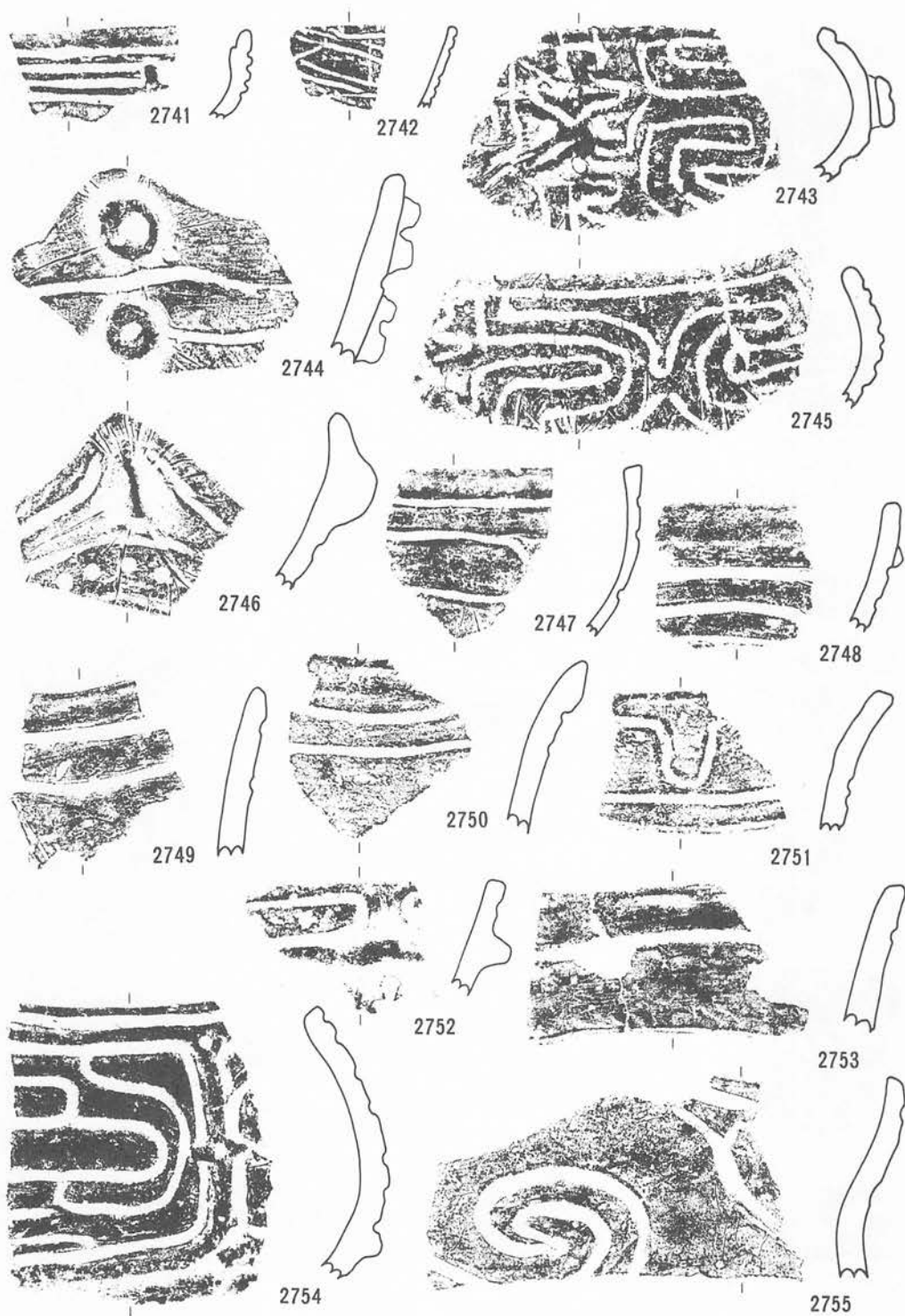
第234図 遺構外出土遺物 (遺物番号2712~2722)



第235図 遺構外出土遺物 (遺物番号2723~2731)



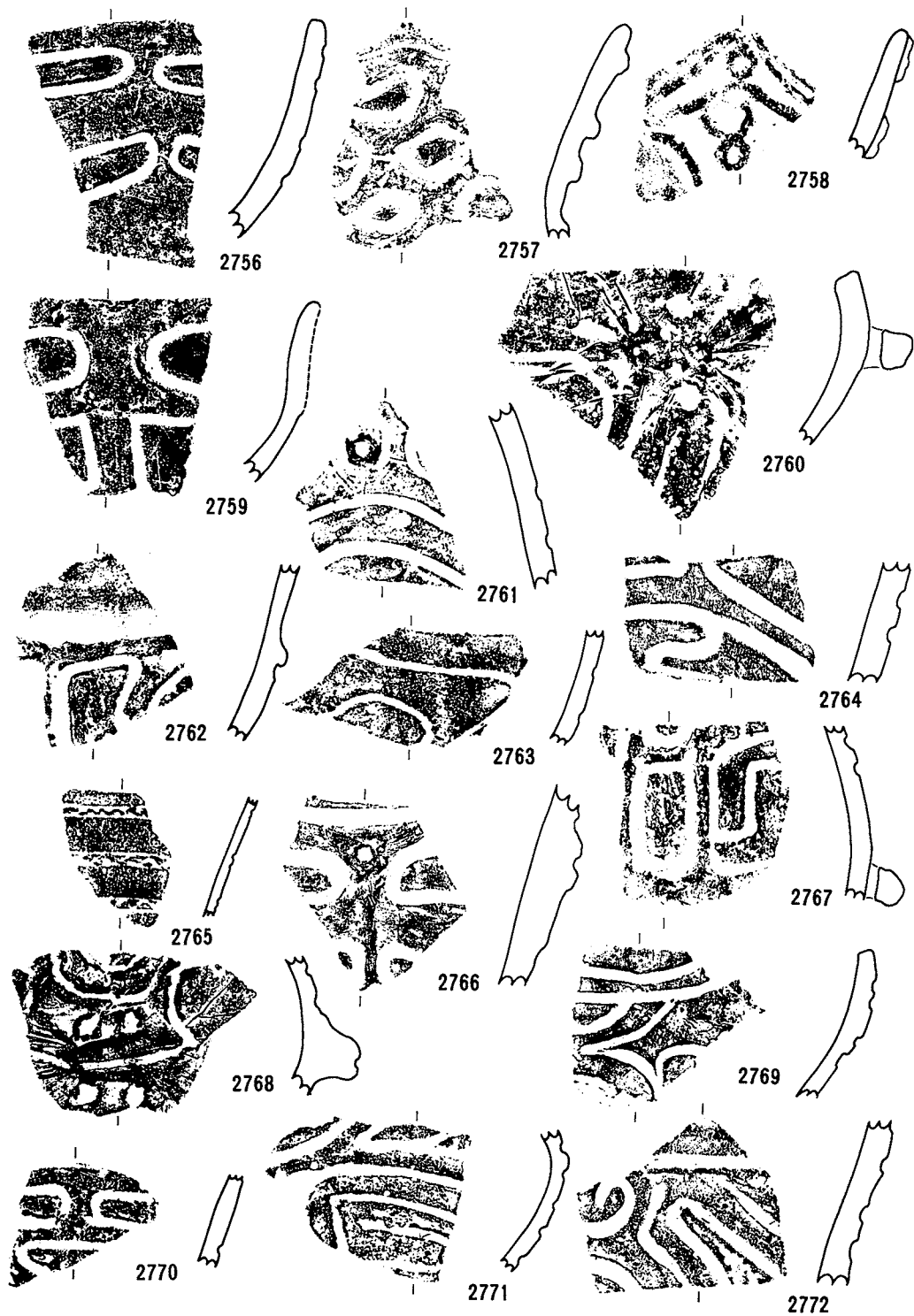
第236図 遺構外出土遺物 (遺物番号2732~2740)



2741~2755 約 $\frac{1}{2}$

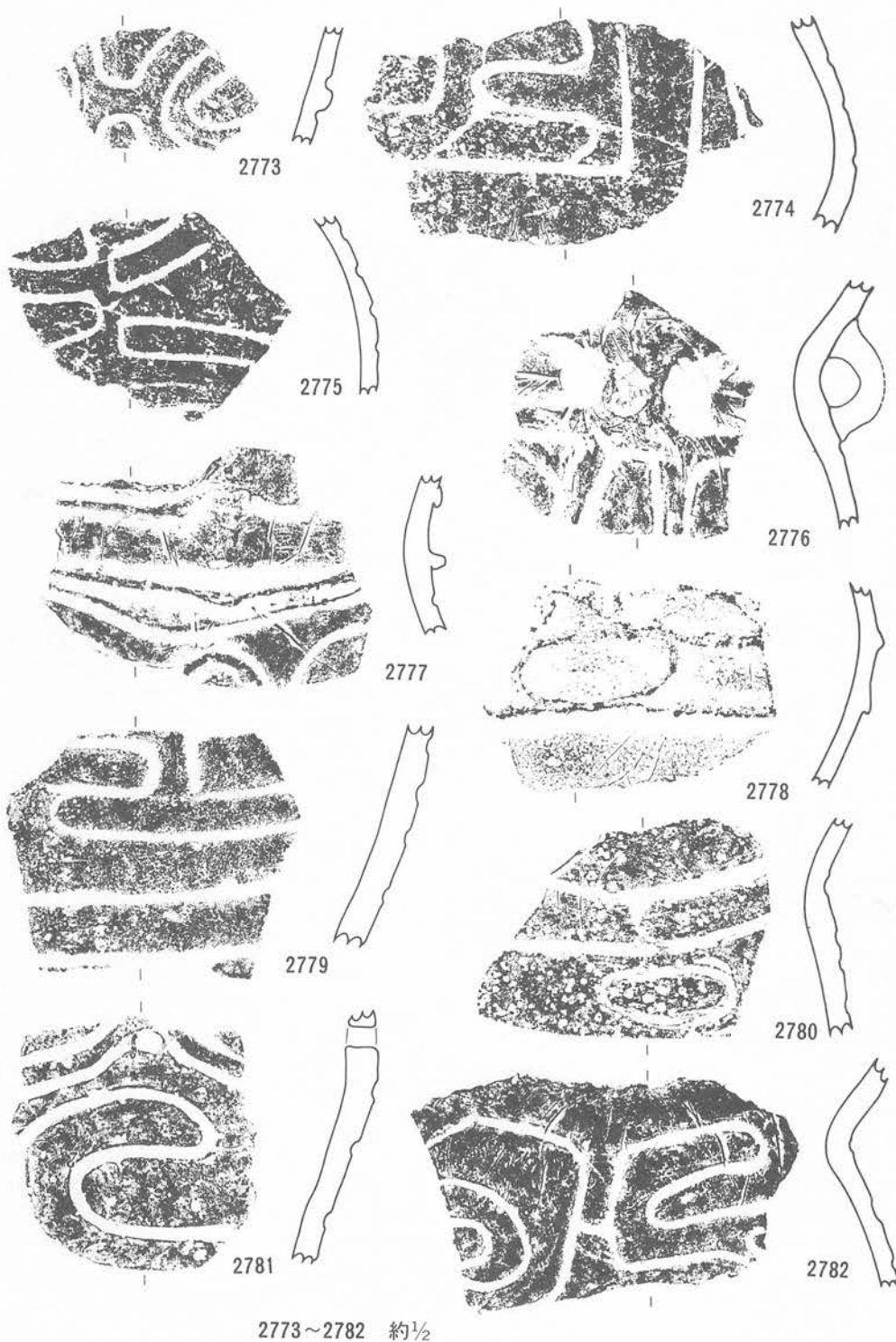
第237図 遺構外出土遺物（遺物番号2741~2755）





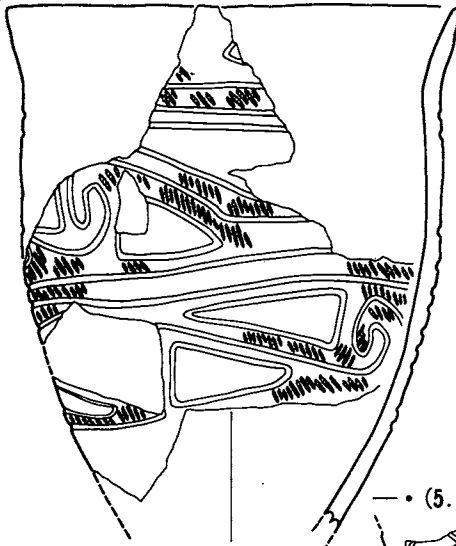
2756~2772 約½

第238図 遺構外出土遺物（遺物番号2756~2772）



第239図 遺構外出土遺物 (遺物番号2773~2782)

(24.1) ····



2783

(28.5) ····



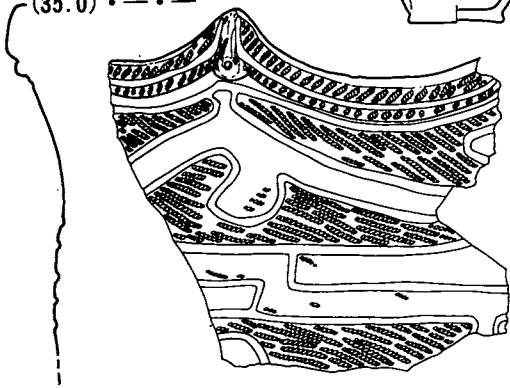
2785

··· (5.0) ···



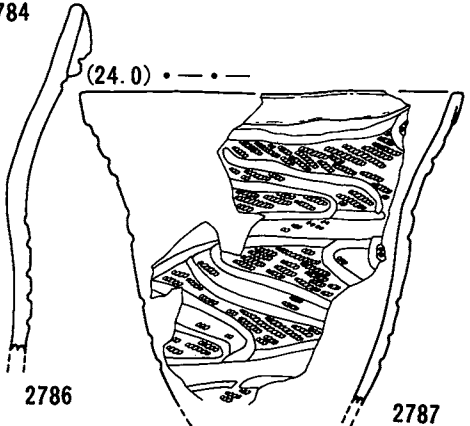
2784

(35.0) ····



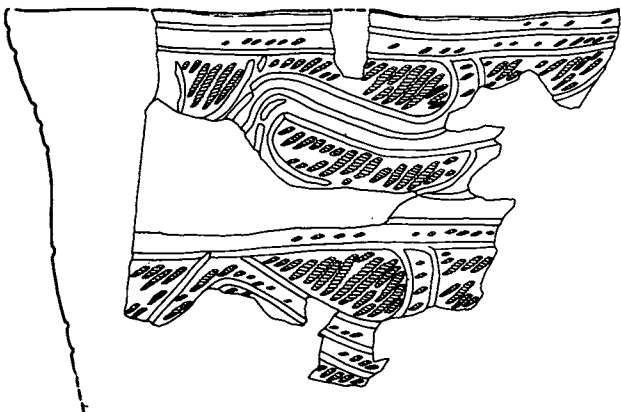
2786

(24.0) ····



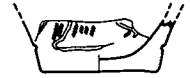
2787

(39.2) ····



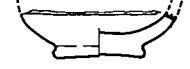
2788

··· (6.2) ···



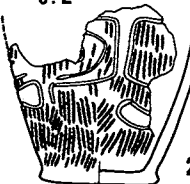
2789

··· 4.8 ···



2790

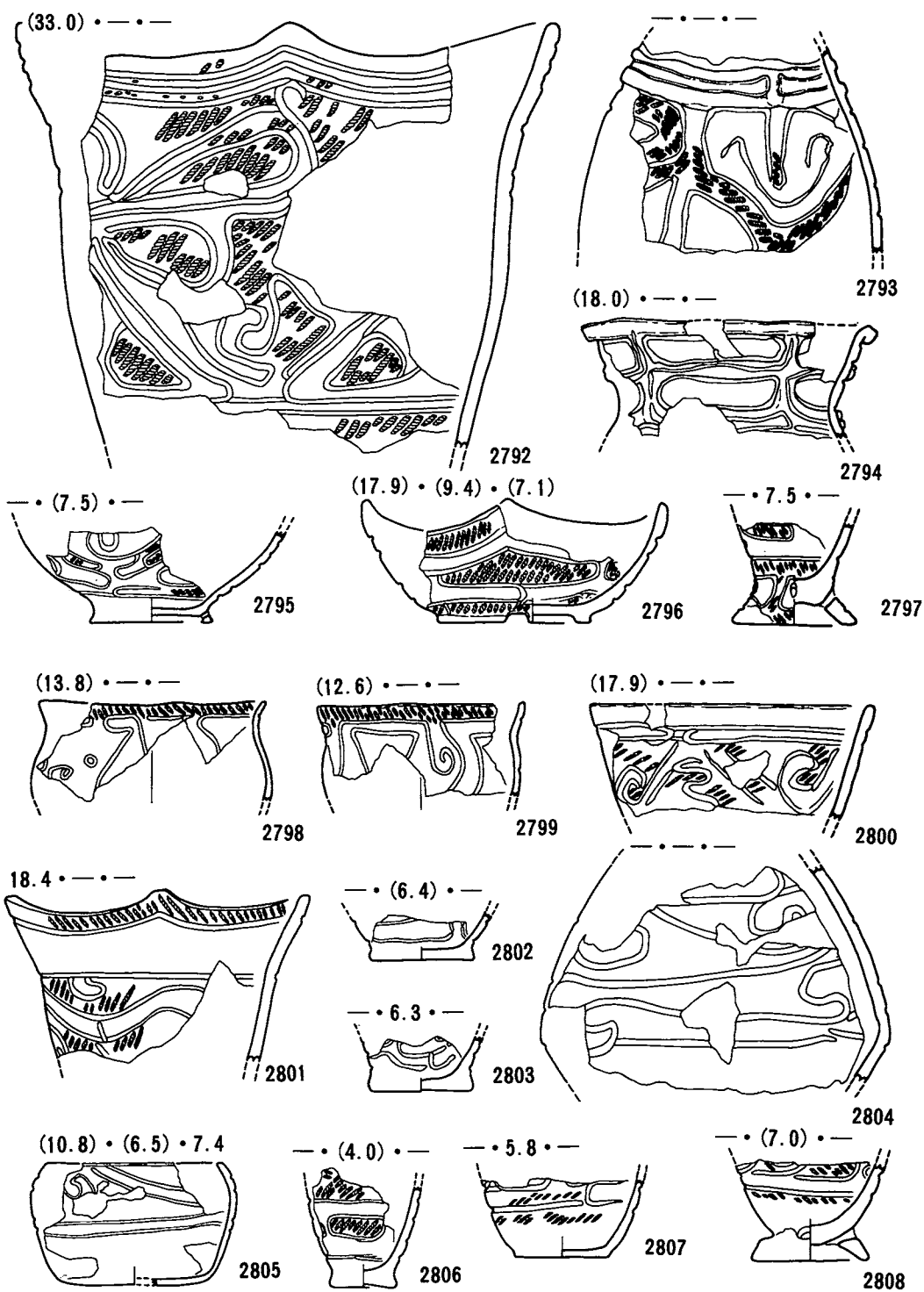
··· 6.2 ···



2791

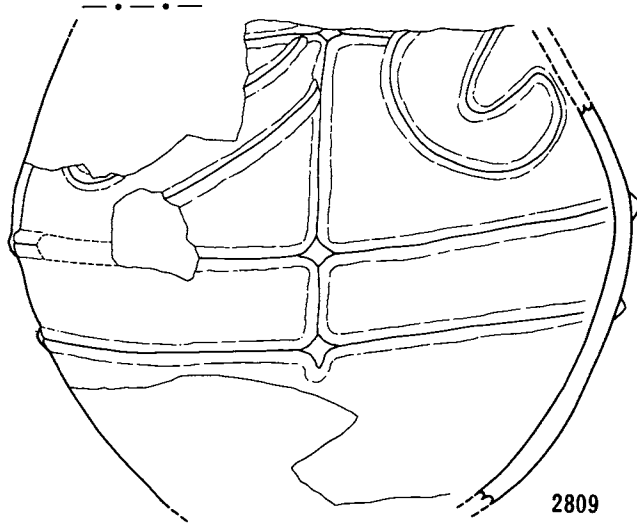
2783~2791 約¼

第240図 遺構外出土遺物 (遺物番号2783~2791)

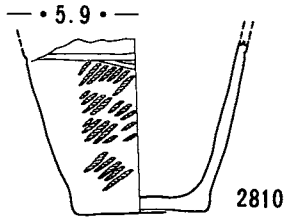


2792~2808 約 $\frac{1}{4}$

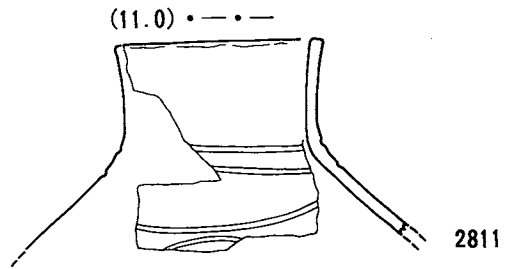
第241図 遺構外出土遺物 (遺物番号2792~2808)



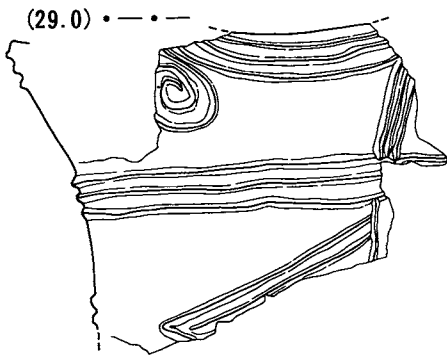
2809



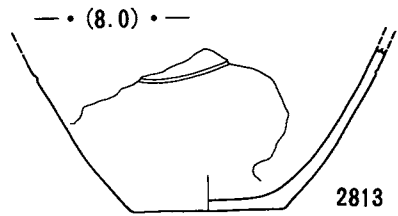
2810



2811



2812

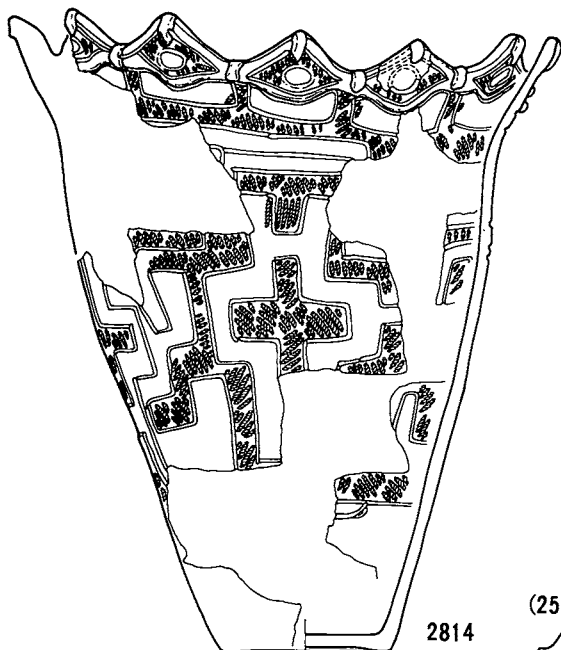


2813

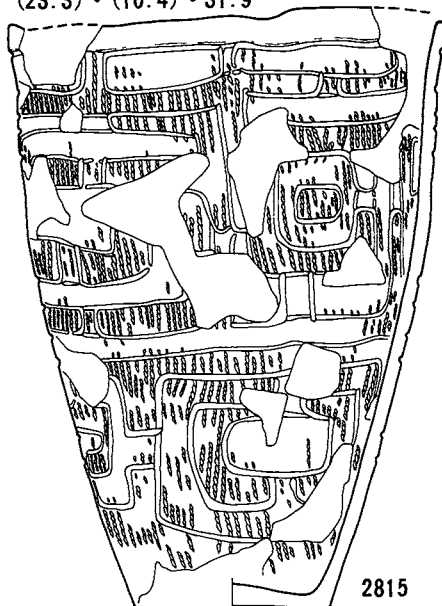
2809~2813 約 $\frac{1}{4}$

第242図 遺構外出土遺物（遺物番号2809~2813）

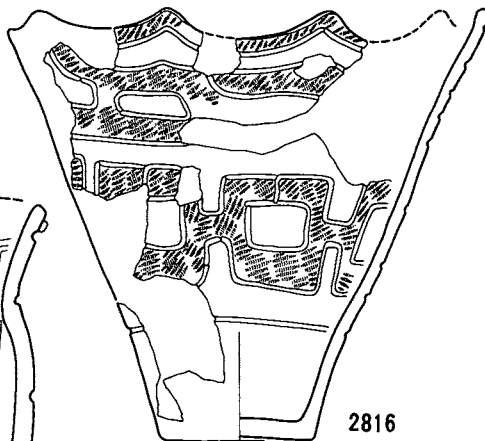
29.2 • (9.0) • 34.0



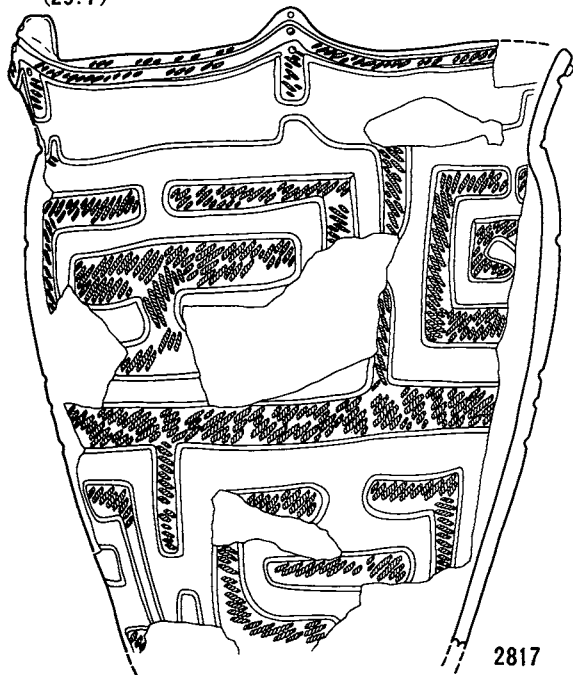
(23.3) • (10.4) • 31.9



(25.5) • 8.0 • 23.0



(29.7) • — • —

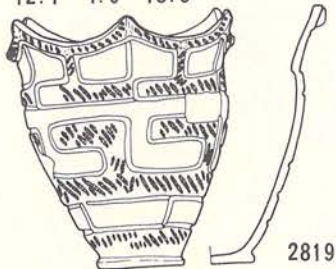


2818

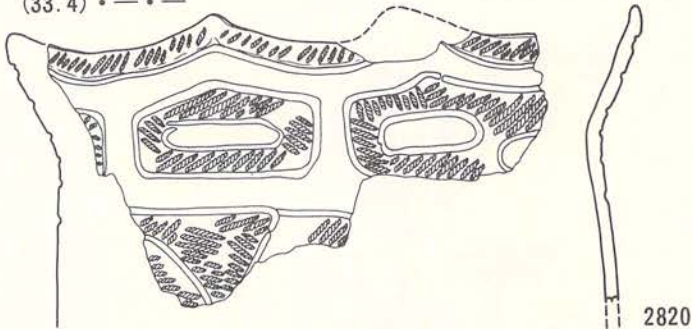
2814~2818 約¼

第243図 遺構外出土遺物 (遺物番号2814~2818)

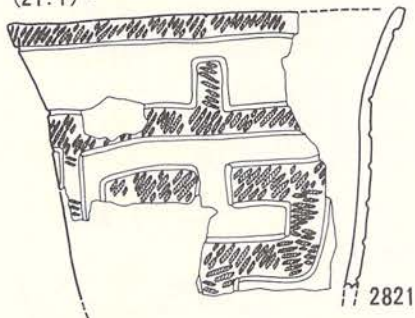
12.1 • 4.6 • 13.5



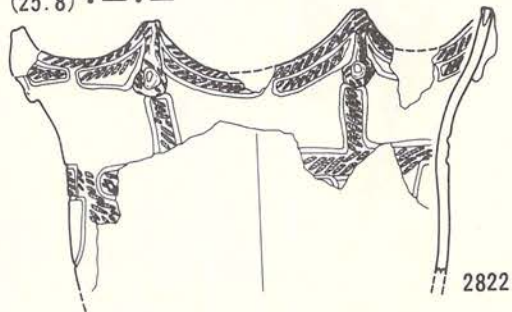
(33.4) • - - -



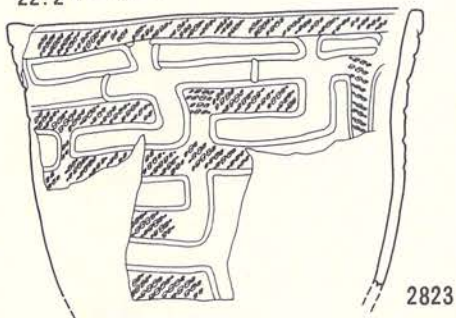
(21.1) • - - -



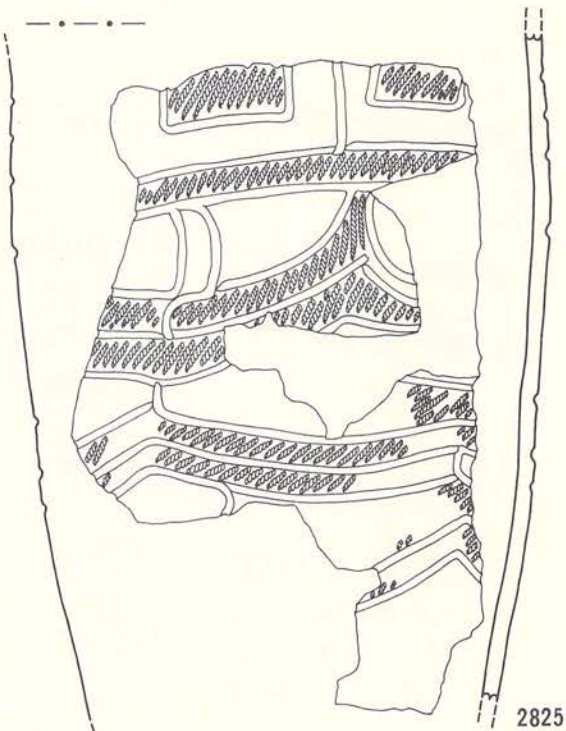
(25.8) • - - -



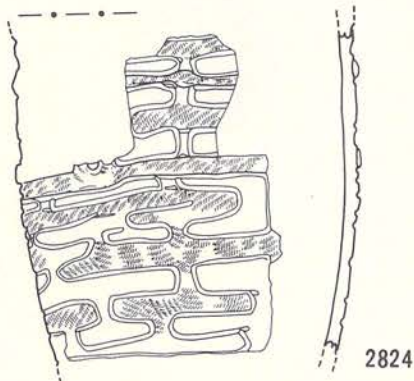
22.2 • - - -



• - - -

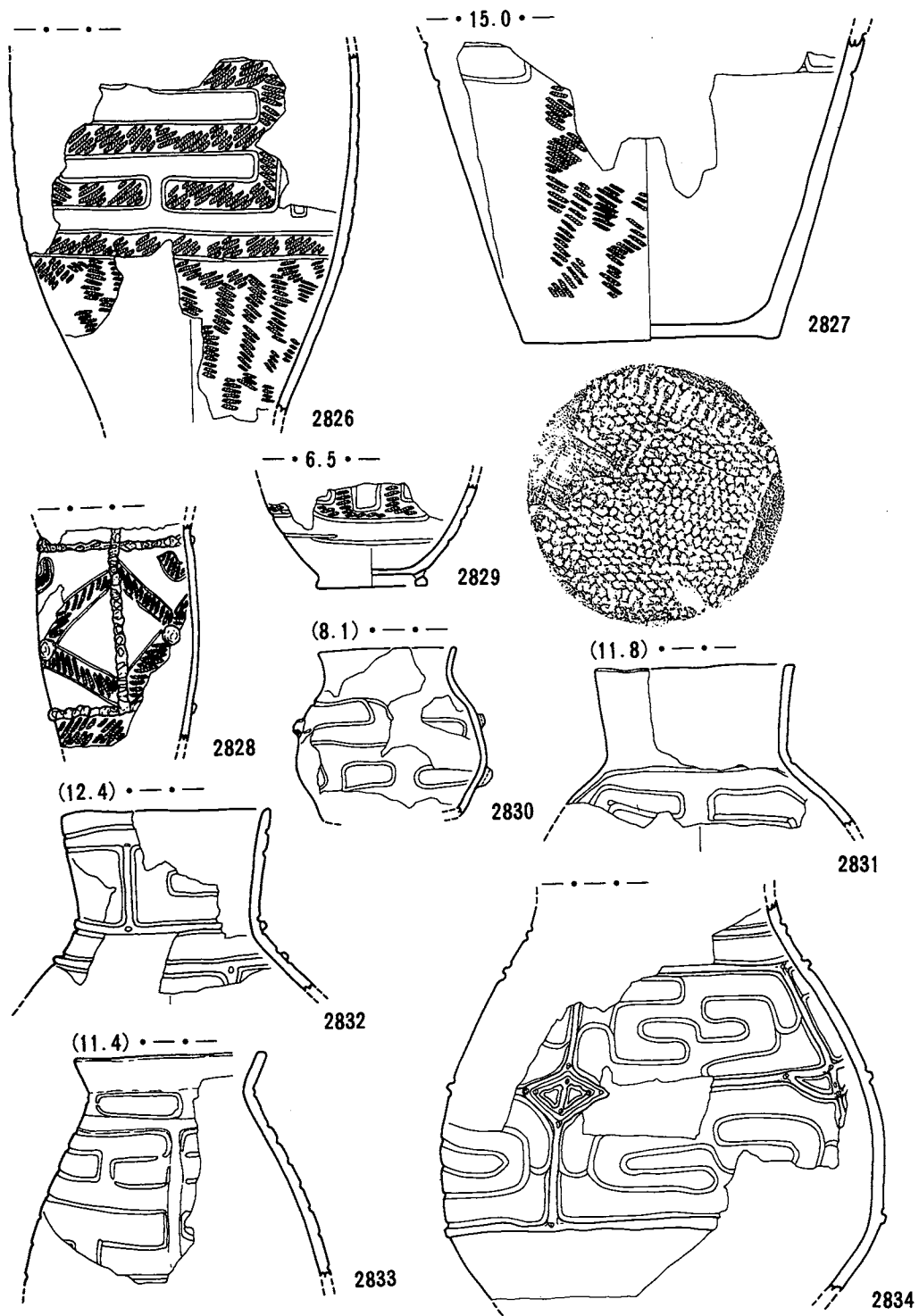


• - - -



2819~2825 約 $\frac{1}{4}$

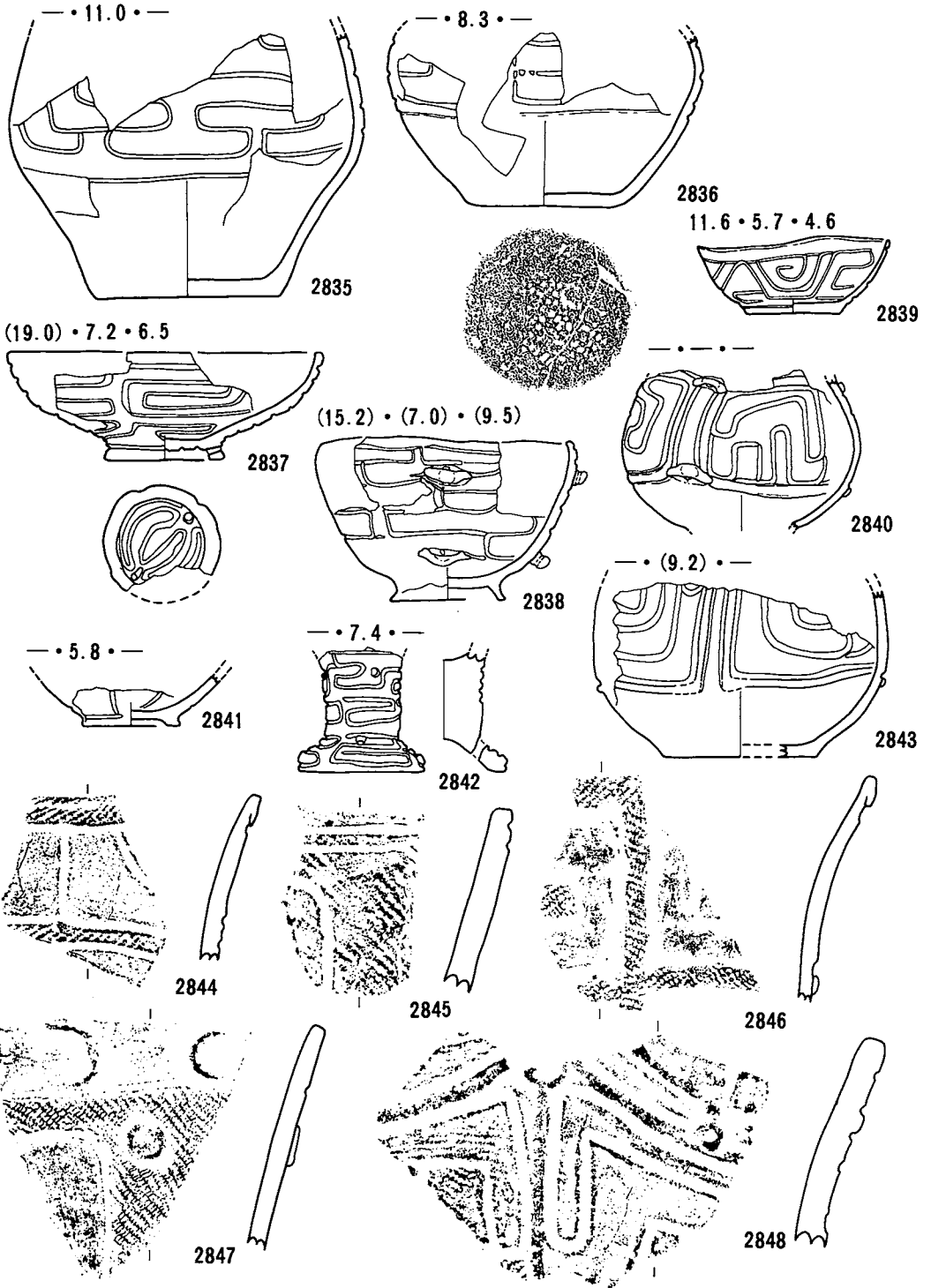
第244図 遺構外出土遺物 (遺物番号2819~2825)



2826~2834 約 $\frac{1}{4}$

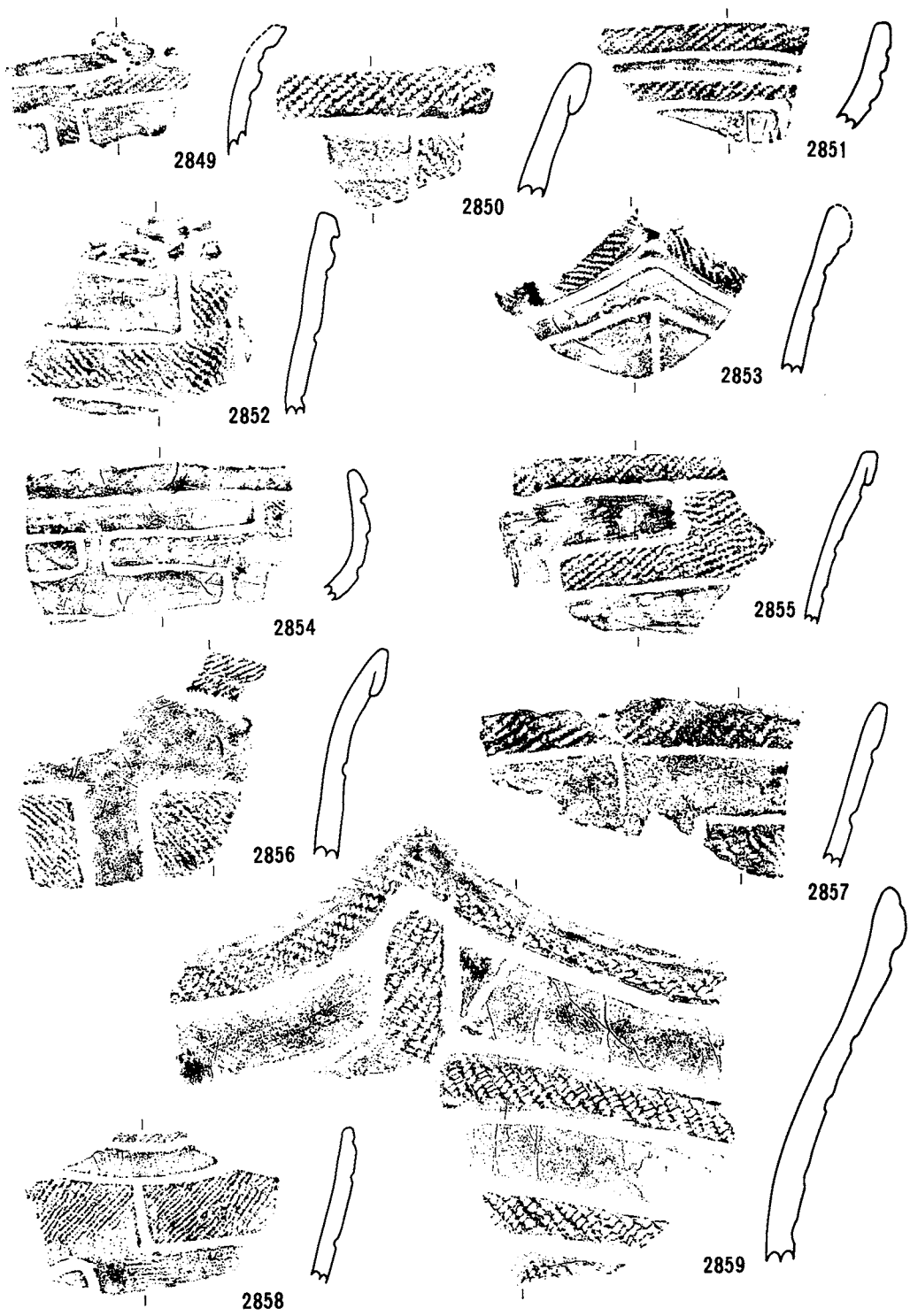
第245図 遺構外出土遺物 (遺物番号2826~2834)





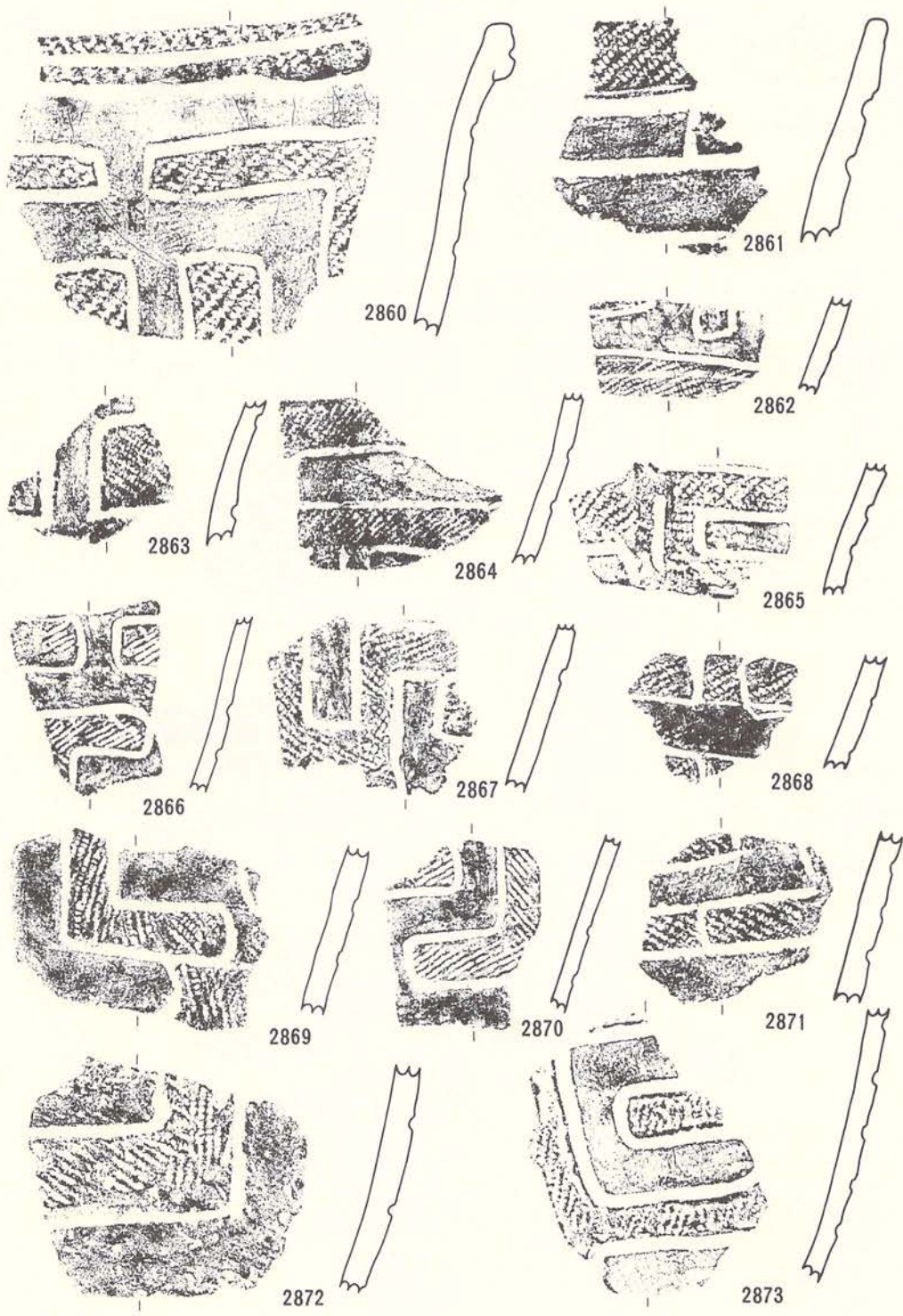
2835~2843 約 $\frac{1}{4}$   
 2844~2848 約 $\frac{1}{2}$

第246図 遺構外出土遺物 (遺物番号2835~2848)



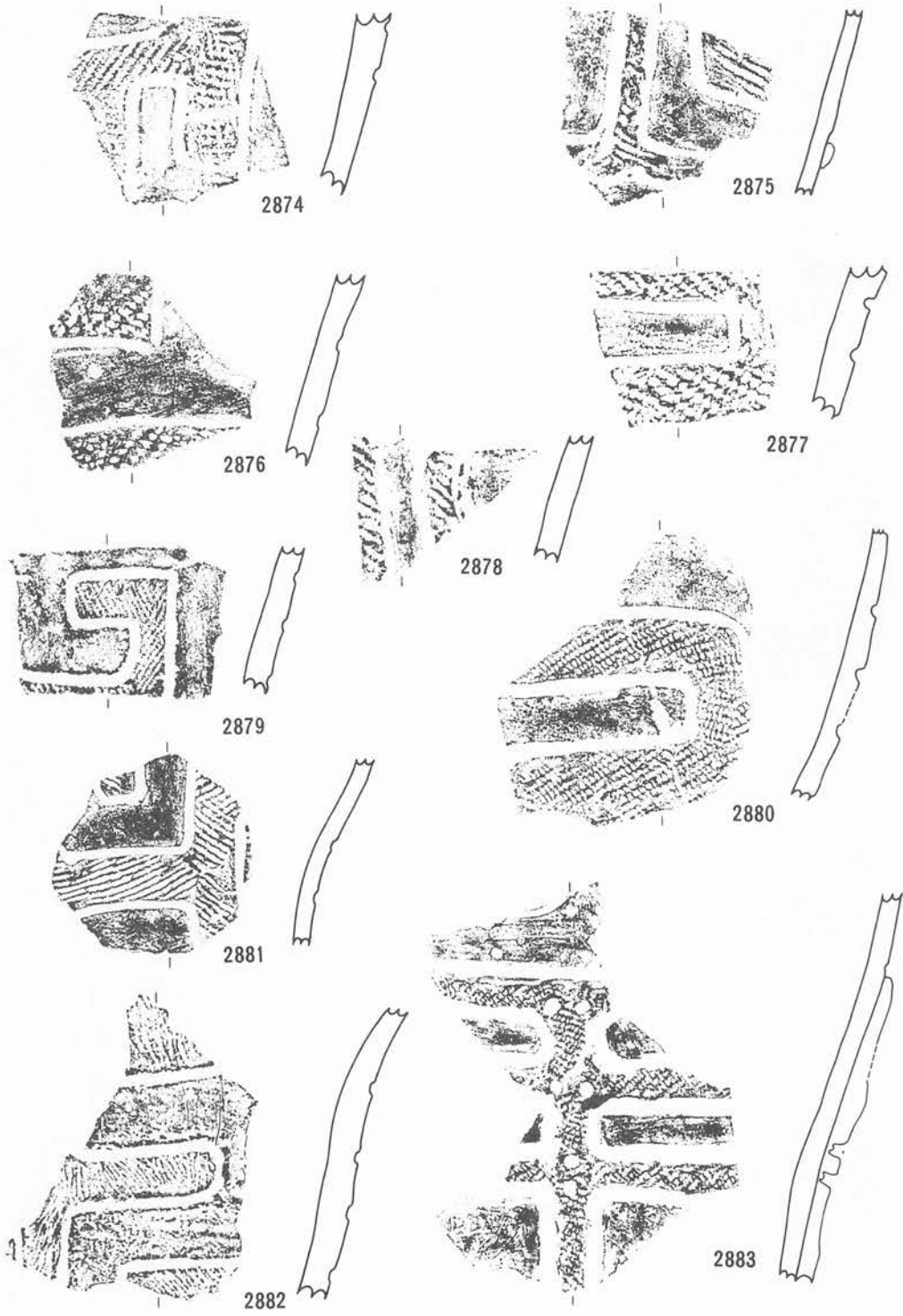
2849~2859 約 $\frac{1}{2}$

第247図 遺構外出土遺物 (遺物番号2849~2859)



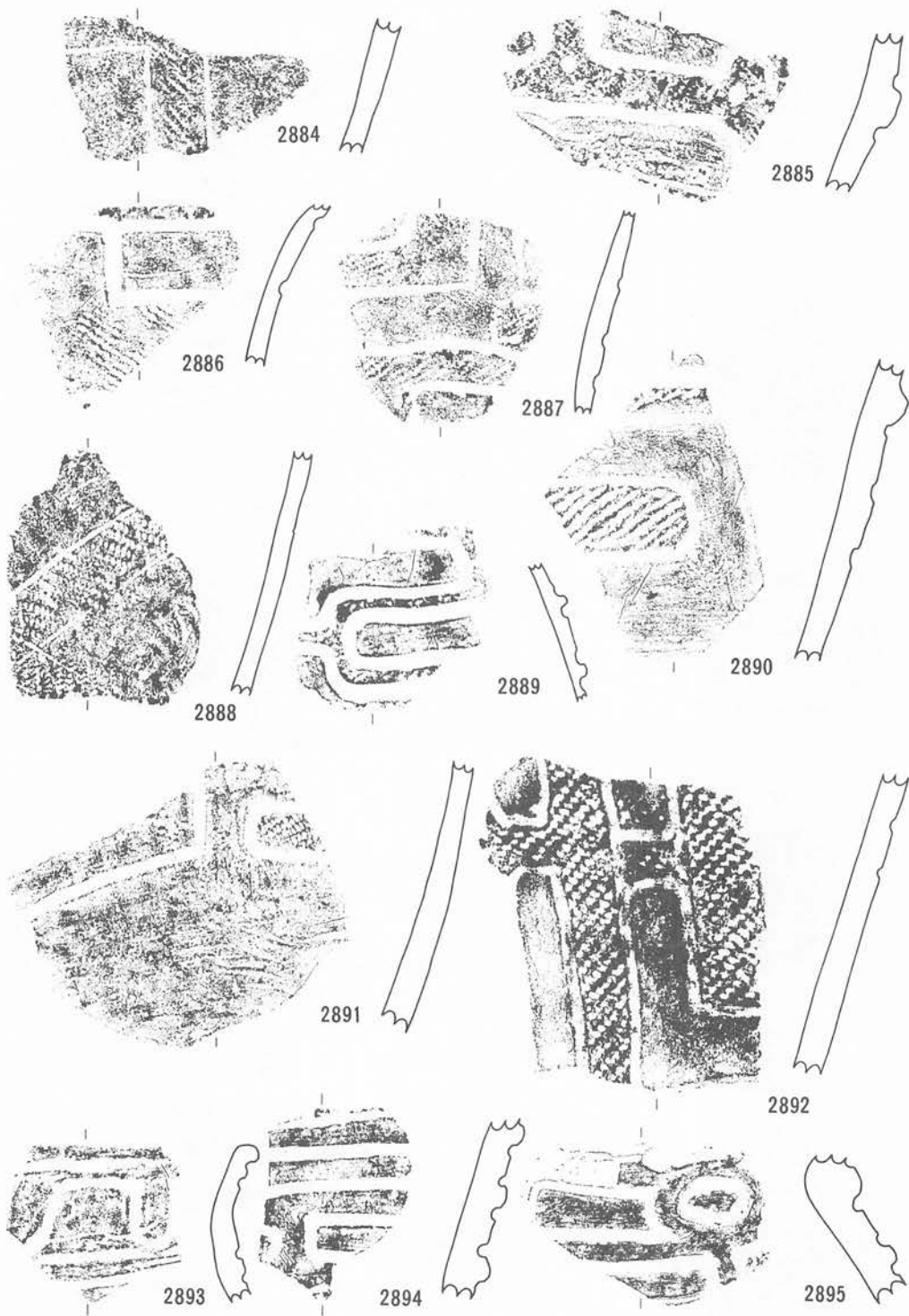
2860~2873 約½

第248図 遺構外出土遺物 (遺物番号2860~2873)



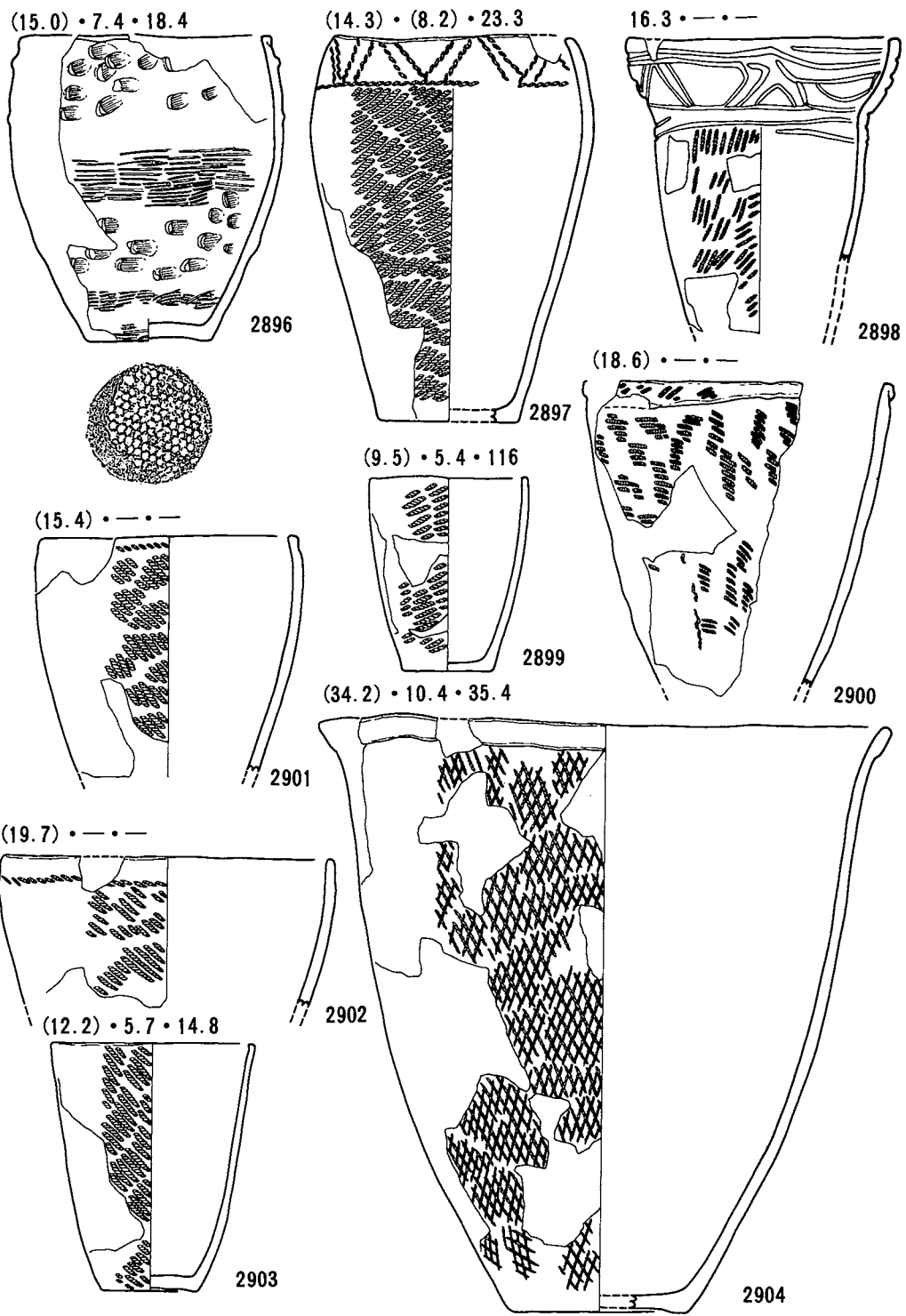
2874~2883 約 $\frac{1}{2}$

第249図 遺構外出土遺物 (遺物番号2874~2883)



2884~2895 約 $\frac{1}{2}$

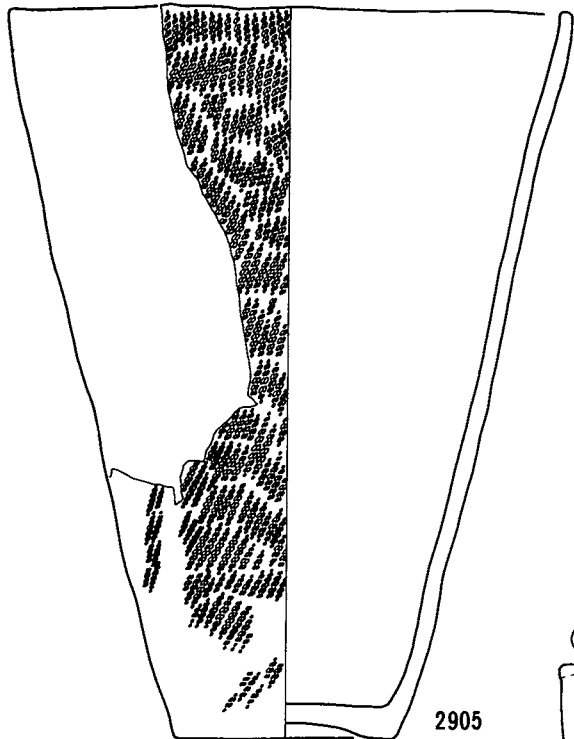
第250図 遺構外出土遺物 (遺物番号2884~2895)



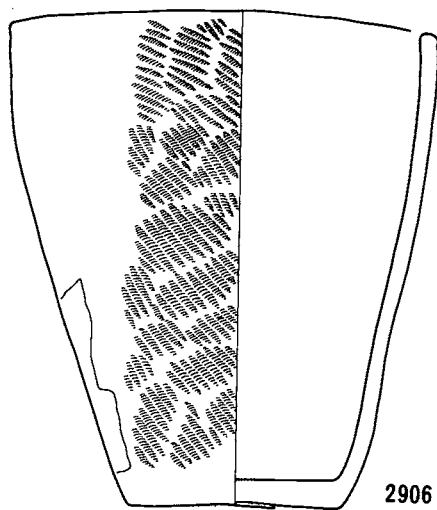
2896~2904 約 $\frac{1}{4}$

第251図 遺構外出土遺物 (遺物番号2896~2904)

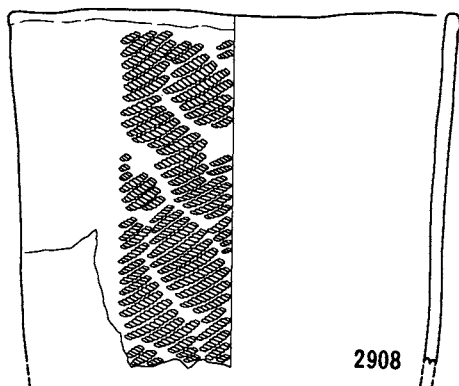
(29.8) • (11.7) • 39.0



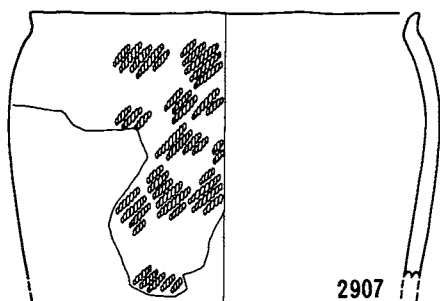
22.5 • 11.0 • 26.4



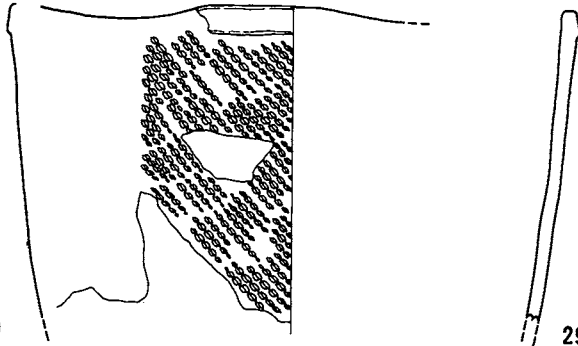
(23.8) • - - -



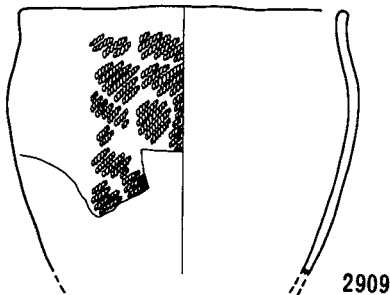
(20.7) • - - -



(30.0) • - - -



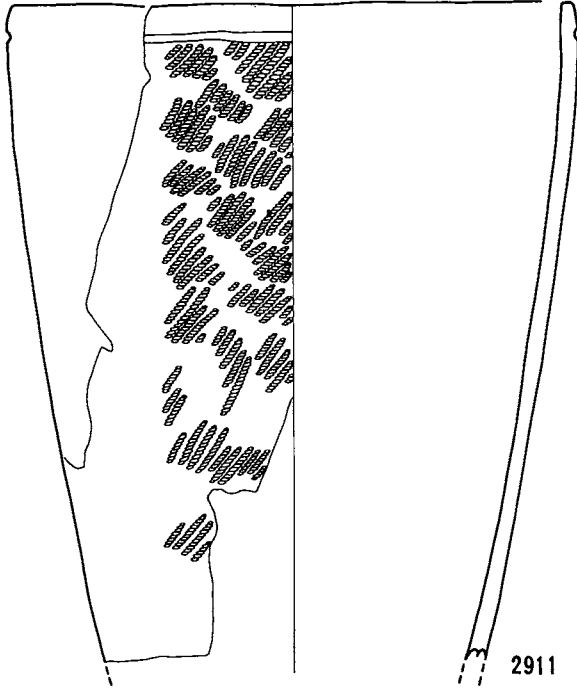
(17.2) • - - -



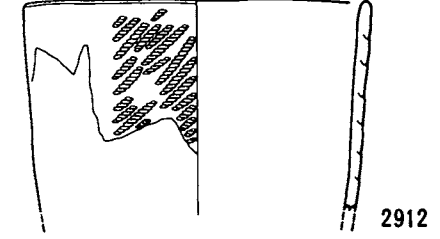
2905~2910 約¼

第252図 遺構外出土遺物 (遺物番号2905~2910)

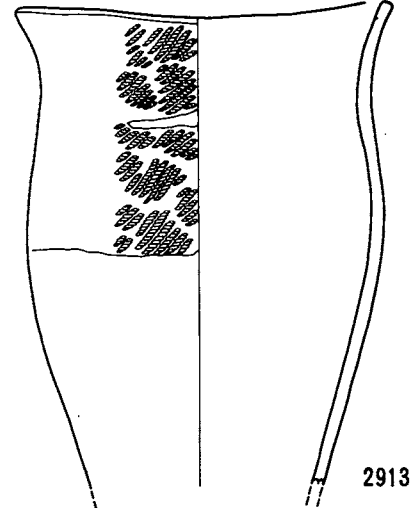
(29.8) ····



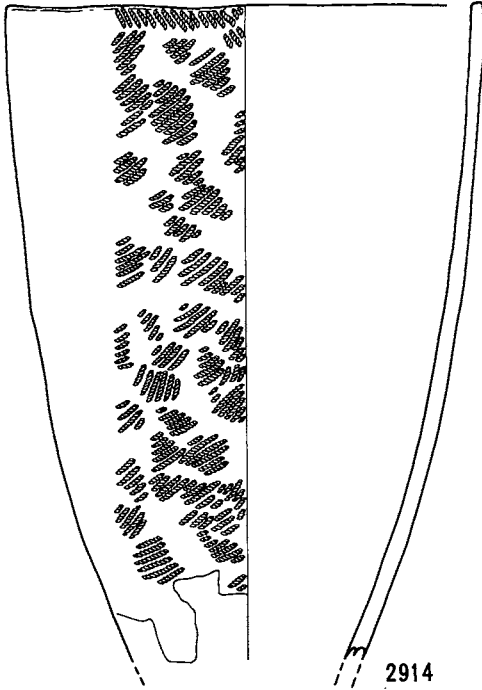
(13.5) ····



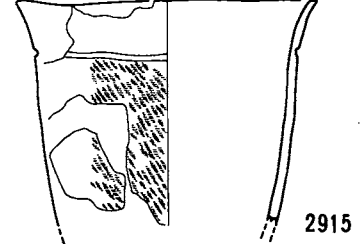
(19.7) ····



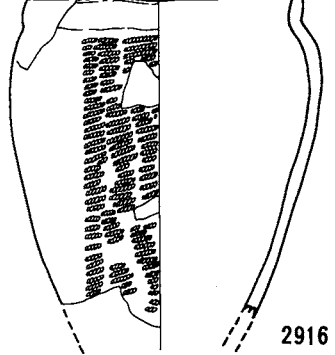
25.3 ····



(16.0) ····



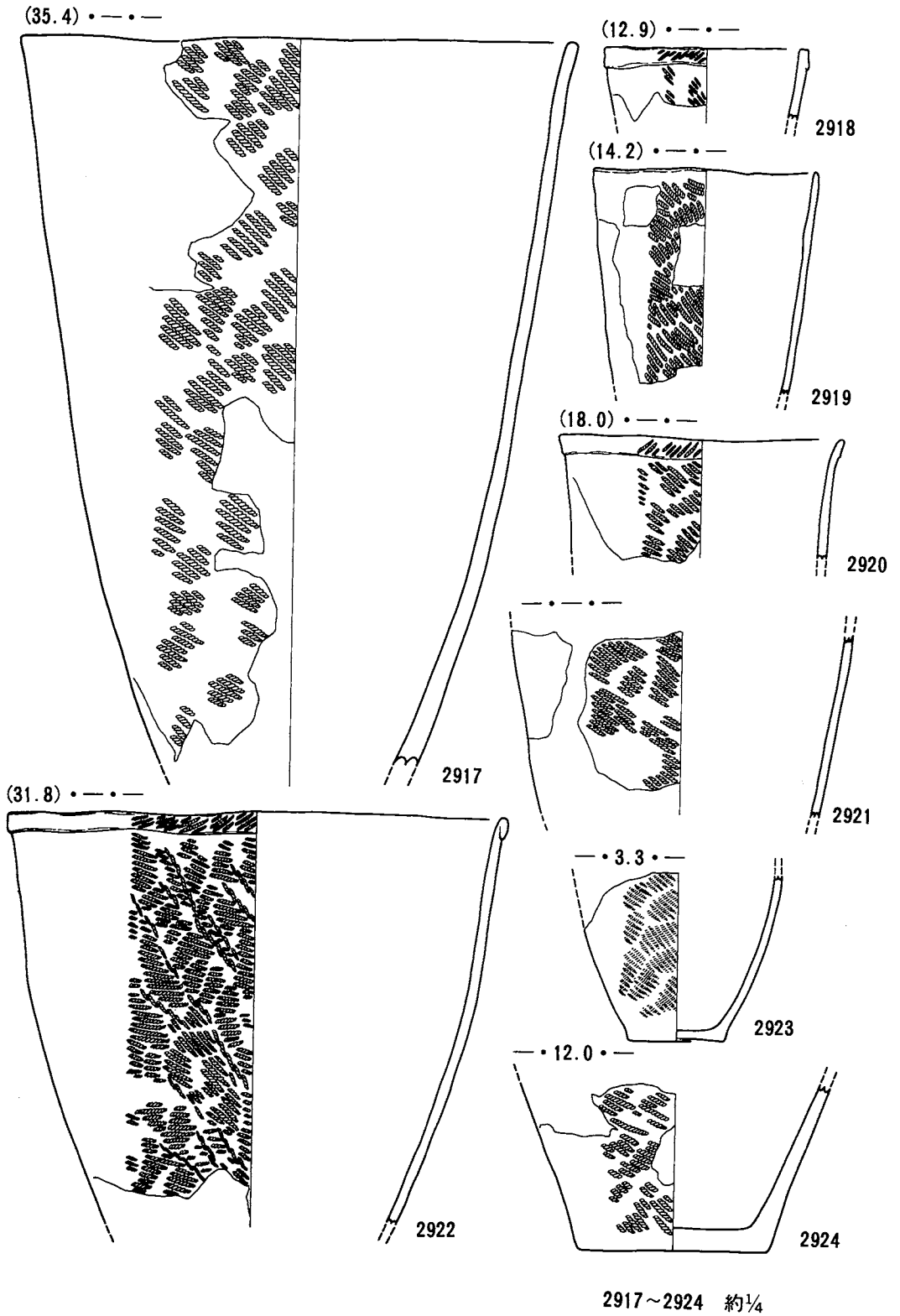
9.6 ····



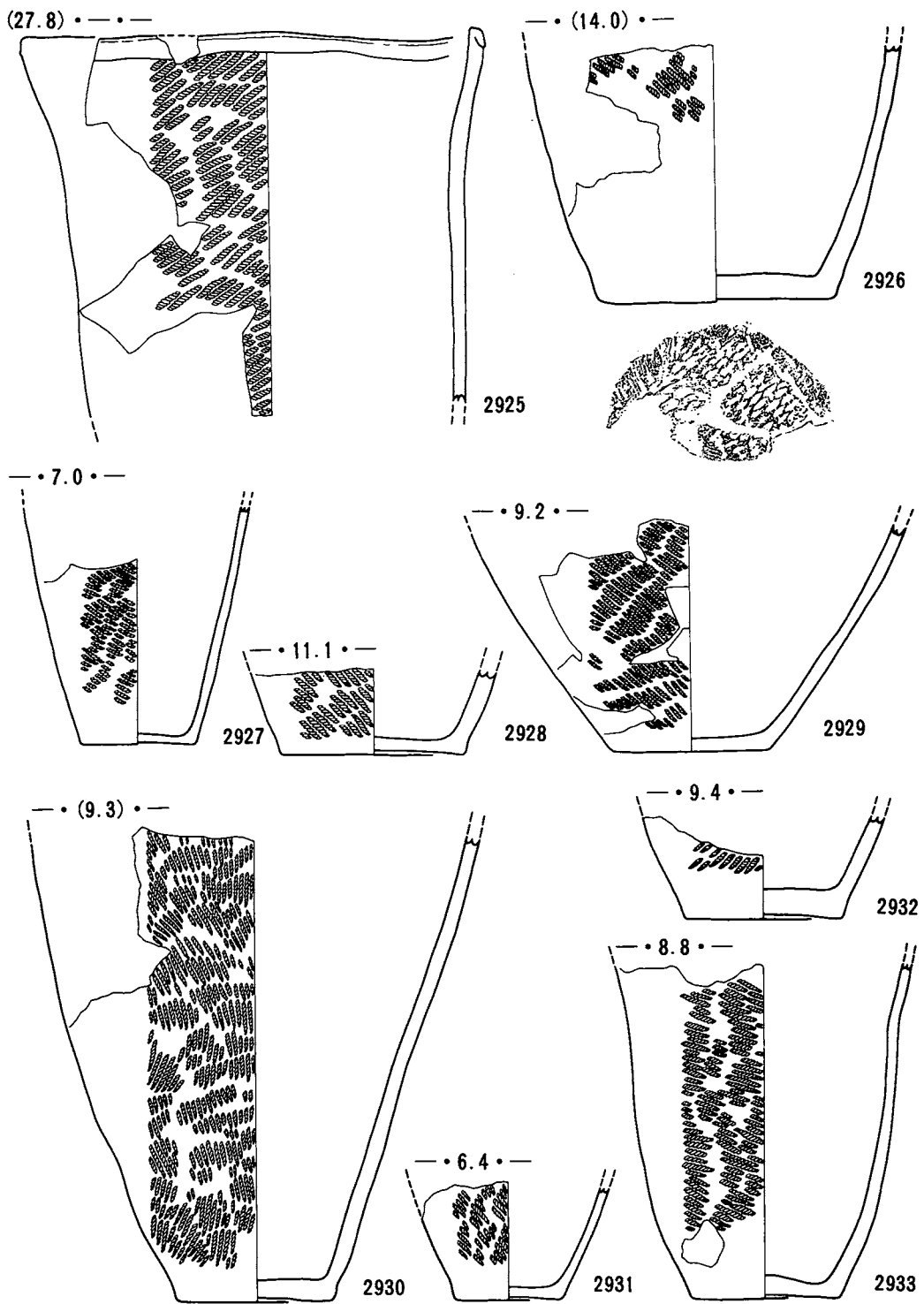
2911~2916 約¼

第253図 遺構外出土遺物 (遺物番号2911~2916)



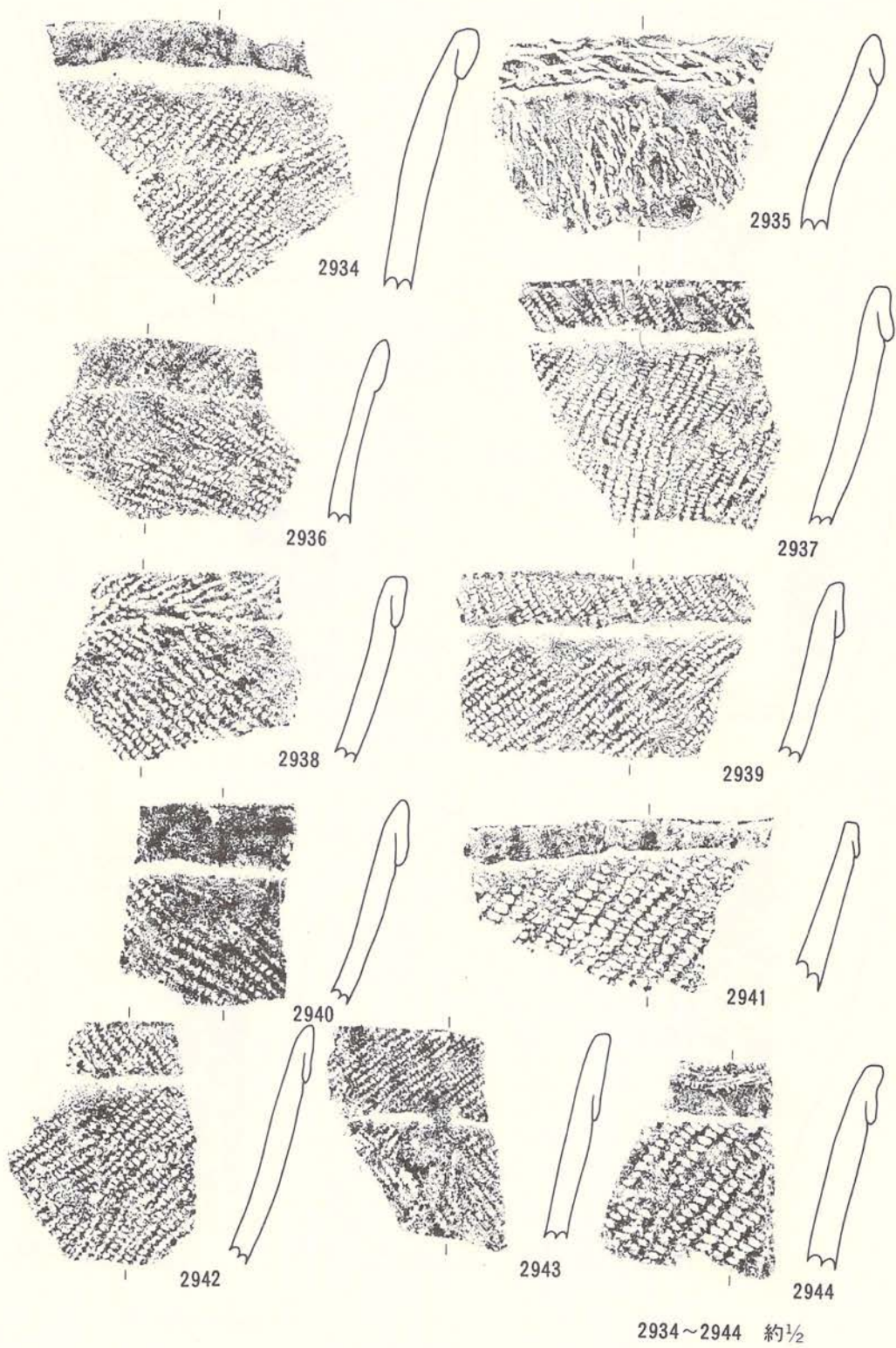


第254図 遺構外出土遺物 (遺物番号2917~2924)

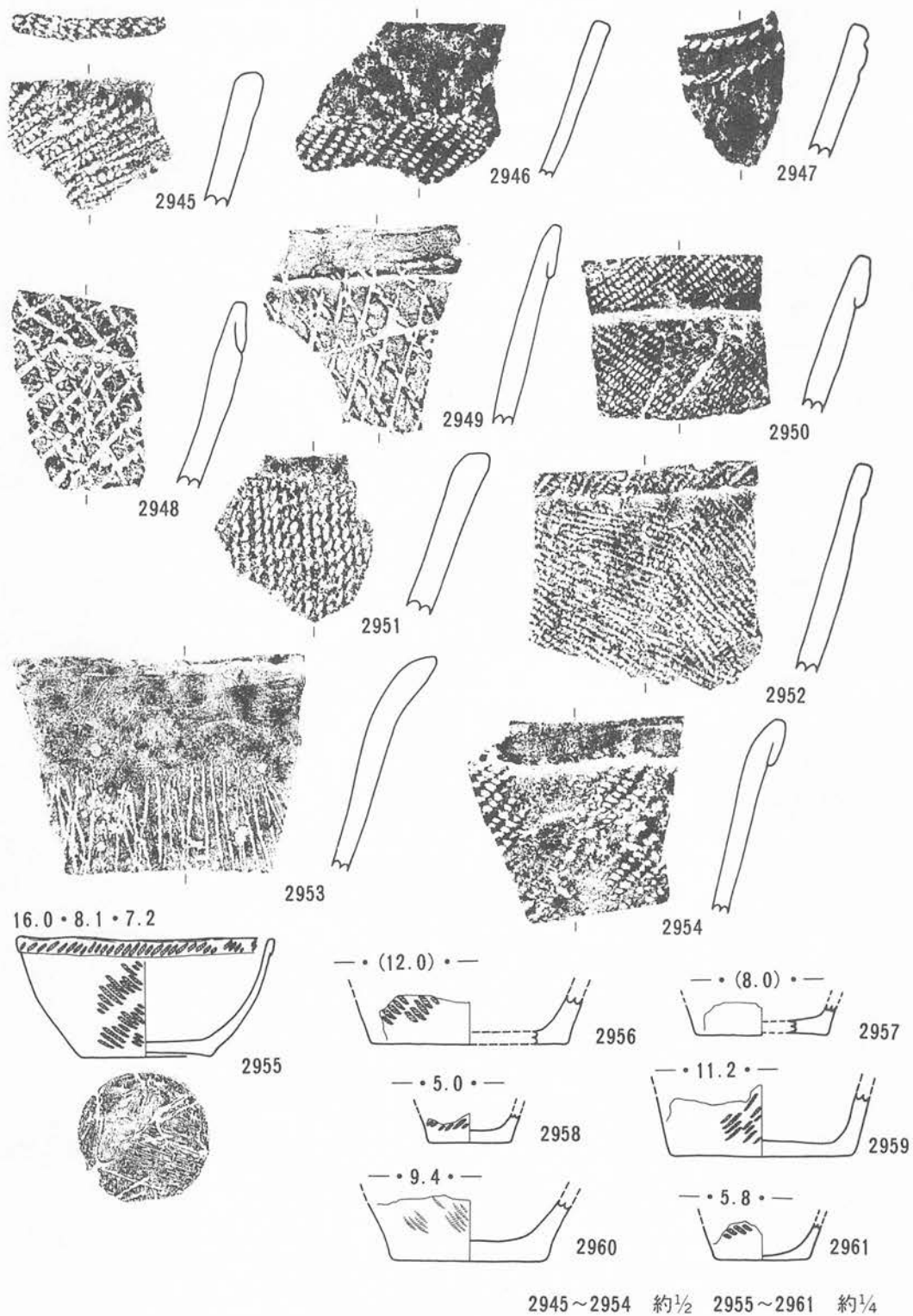


2925~2933 約 $\frac{1}{4}$

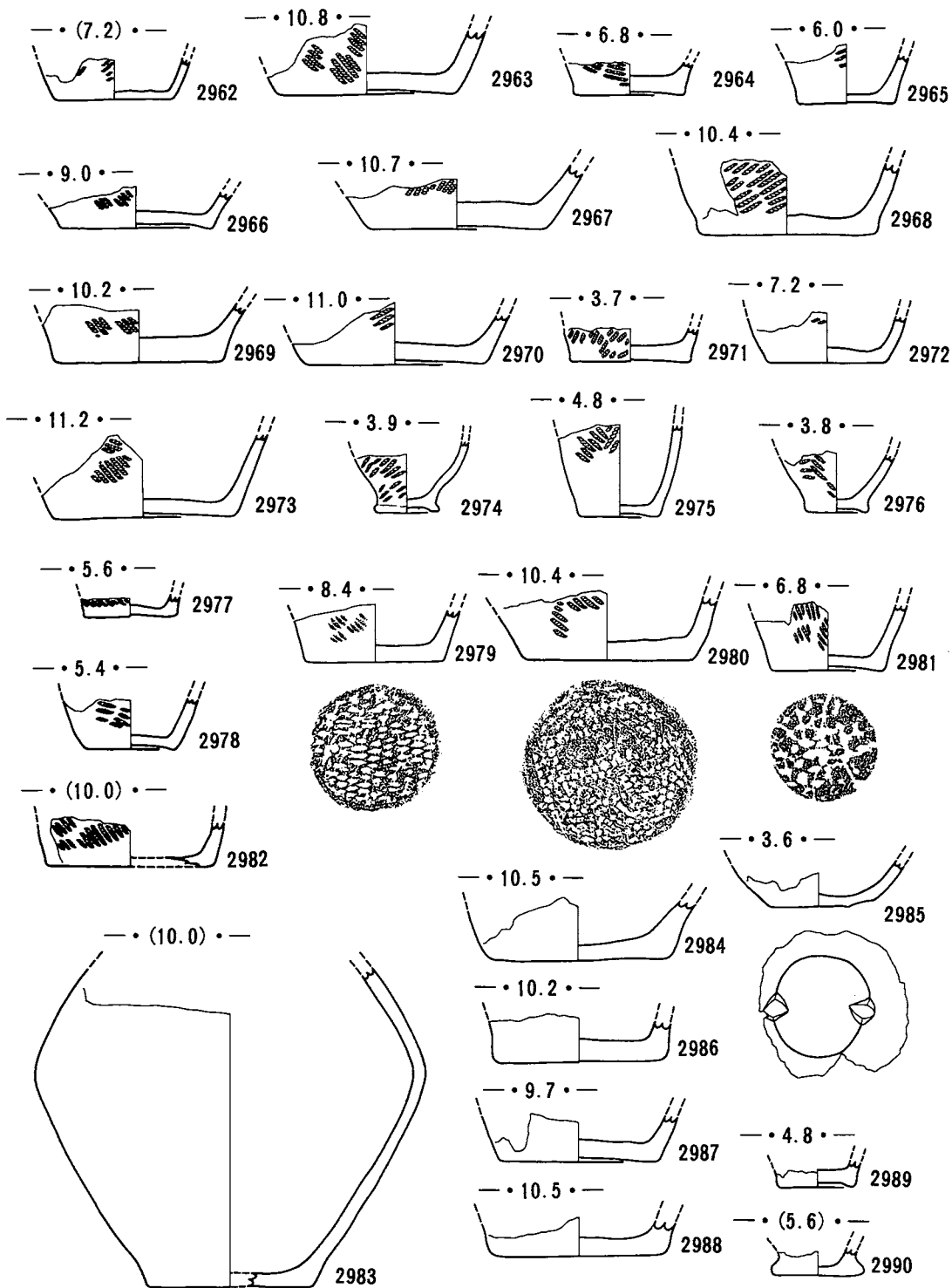
第255図 遺構外出土遺物（遺物番号2925~2933）



第256図 遺構外出土遺物 (遺物番号2934~2944)

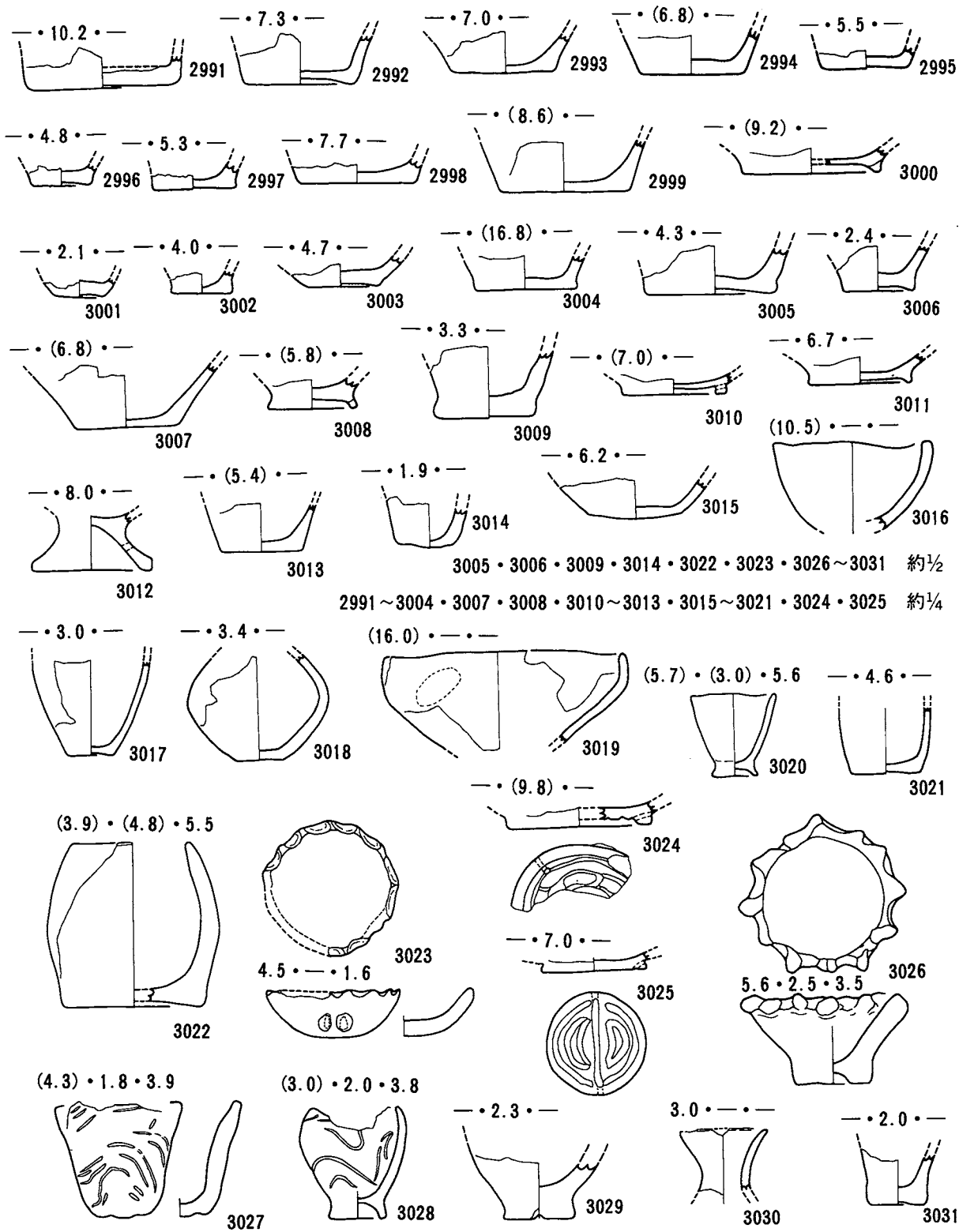


第257図 遺構外出土遺物（遺物番号2945~2961）



2962~2990 約¼

第258図 遺構外出土遺物 (遺物番号2962~2990)



第259図 遺構外出土遺物 (遺物番号2991~3031)

(6.1) · 3.5 · 2.4

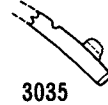
(3.7) · 2.3 · (3.9)



3032



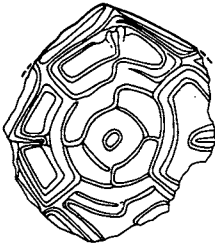
3033



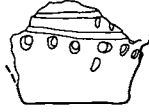
3035



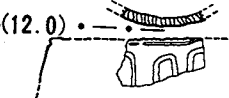
3037



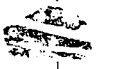
— · 2.9 · (2.7)



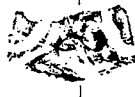
3034



3036



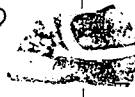
3038



3039



3040



3041

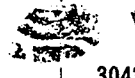


3042

(6.0) · · ·



3043



3044



3045



3046



3047



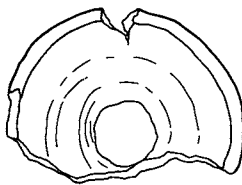
3048



3049



3050



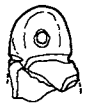
3052



3053



3051



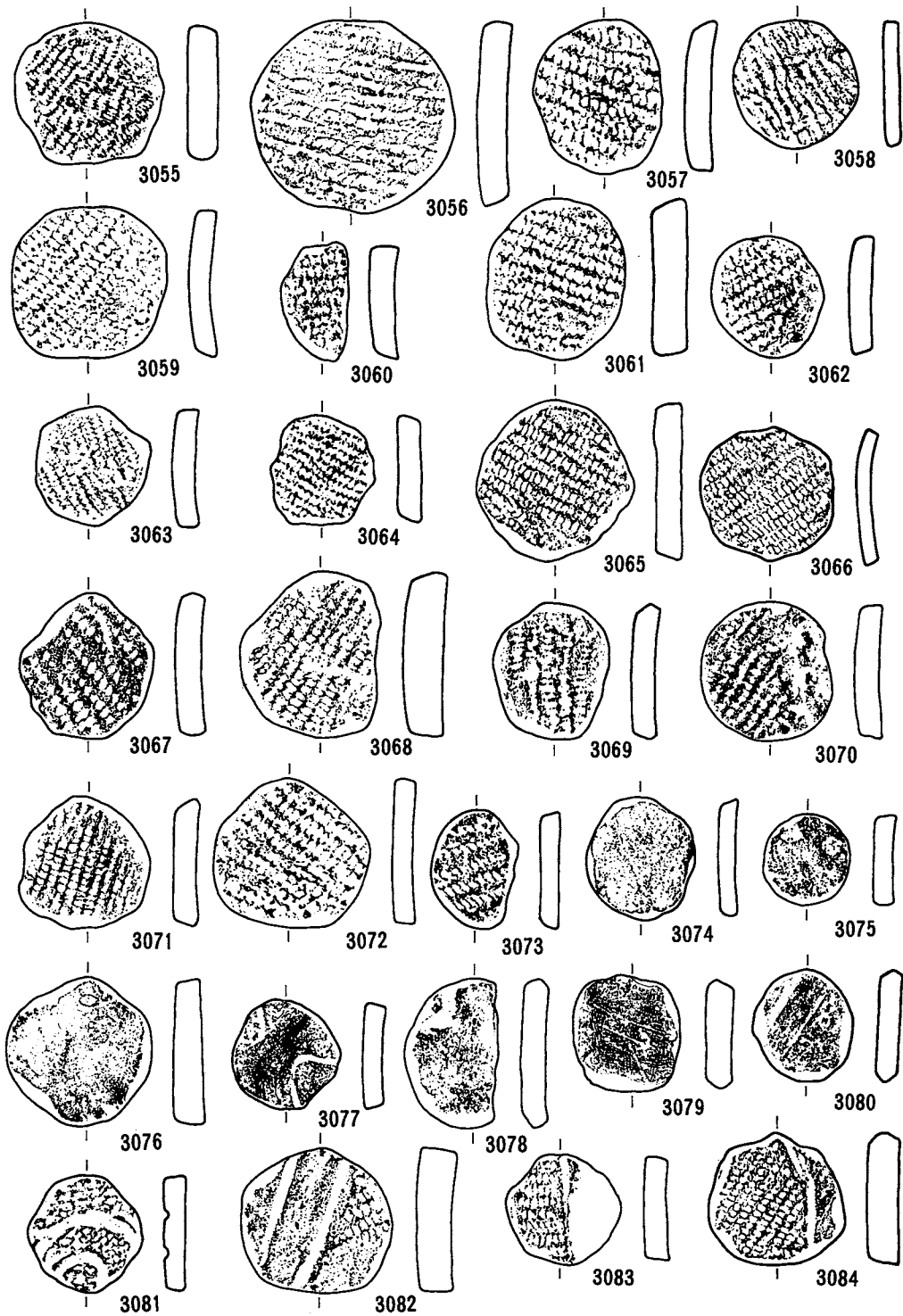
3032 ~ 3035 · 3038 ~ 3041 · 3043 ~ 3054 約 1/2

3036 · 3037 · 3042 約 1/4



3054

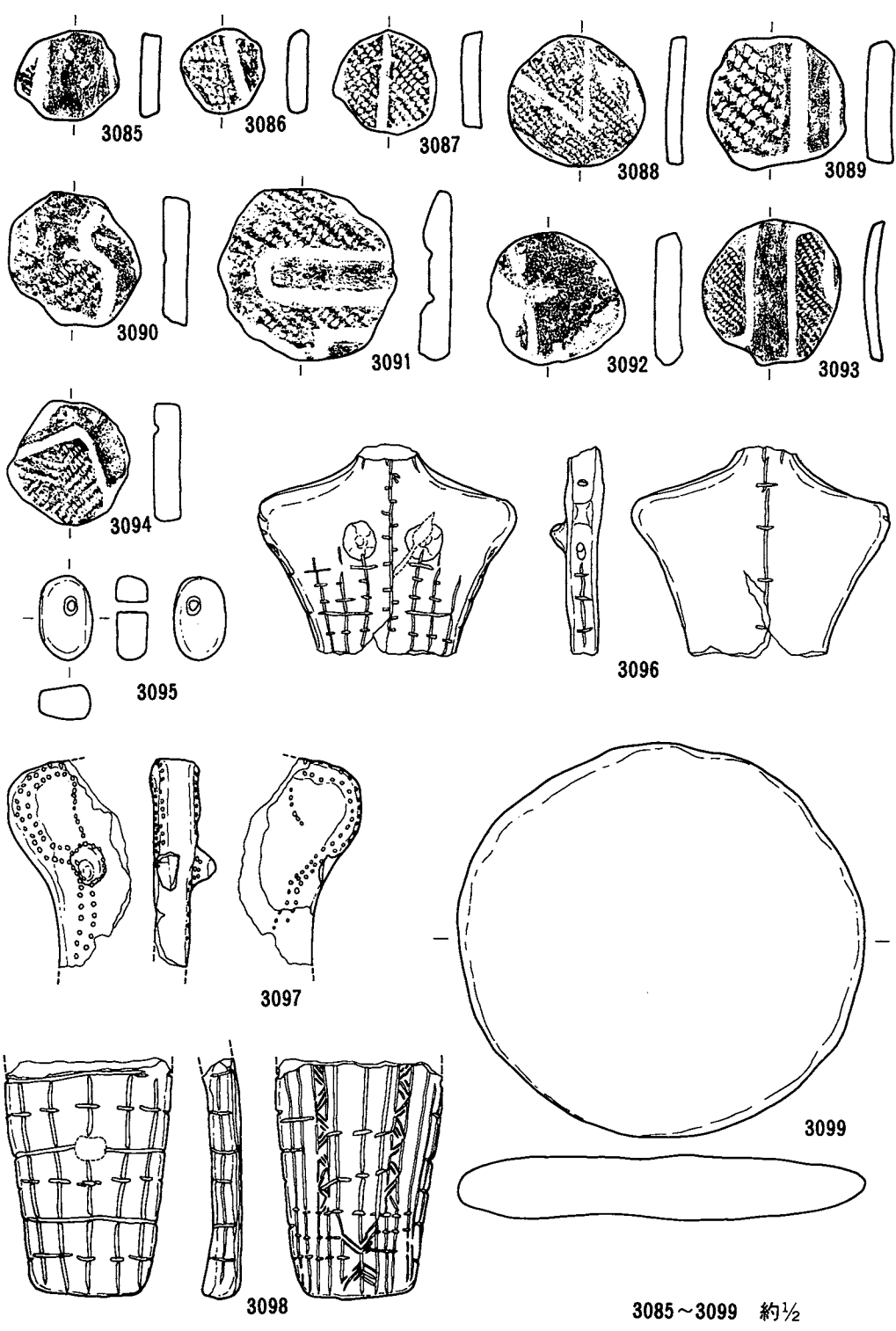
第260図 遺構外出土遺物 (遺物番号3032~3054)



3055~3084 約 $\frac{1}{2}$

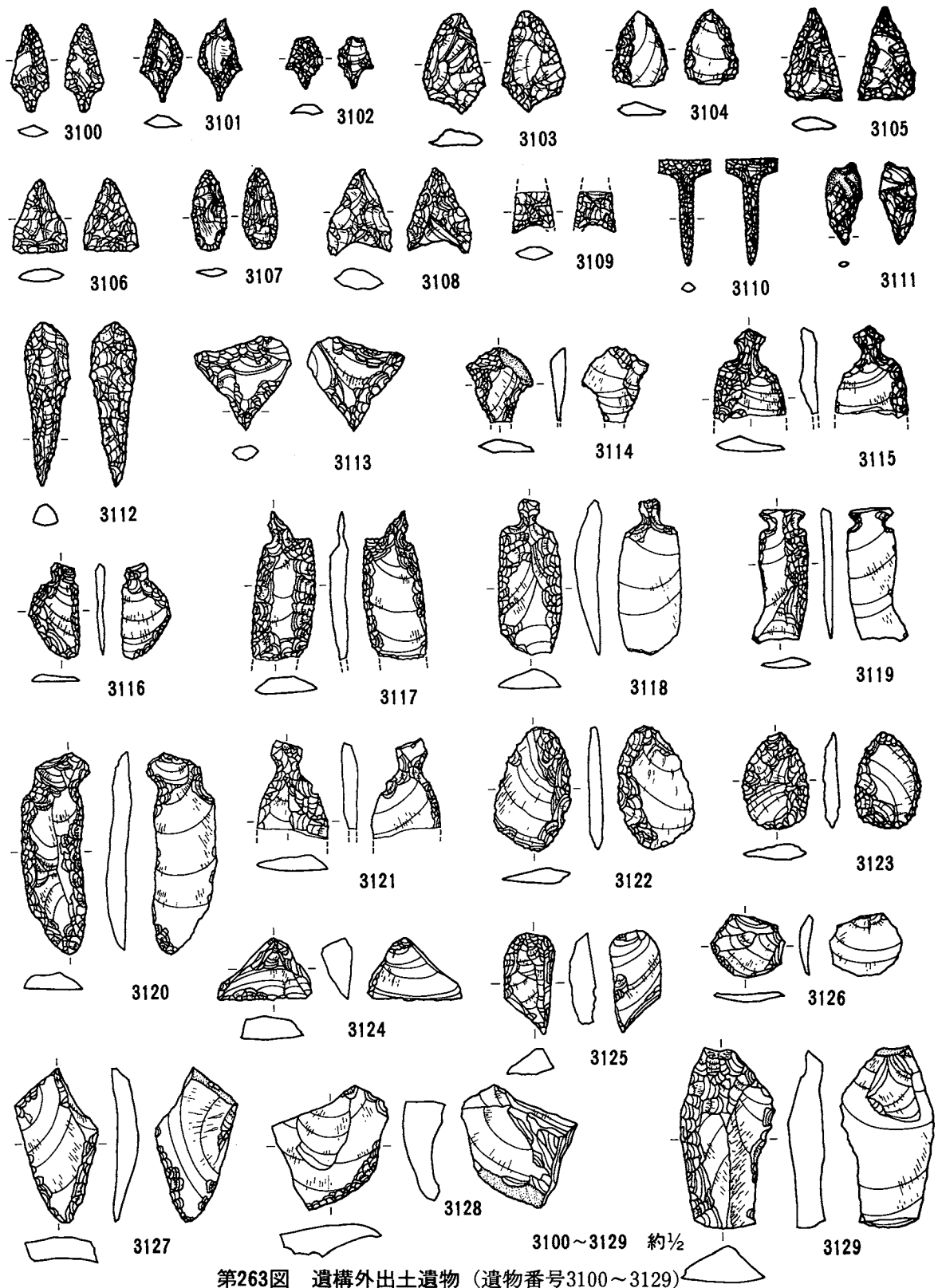
第261図 遺構外出土遺物 (遺物番号3055~3084)



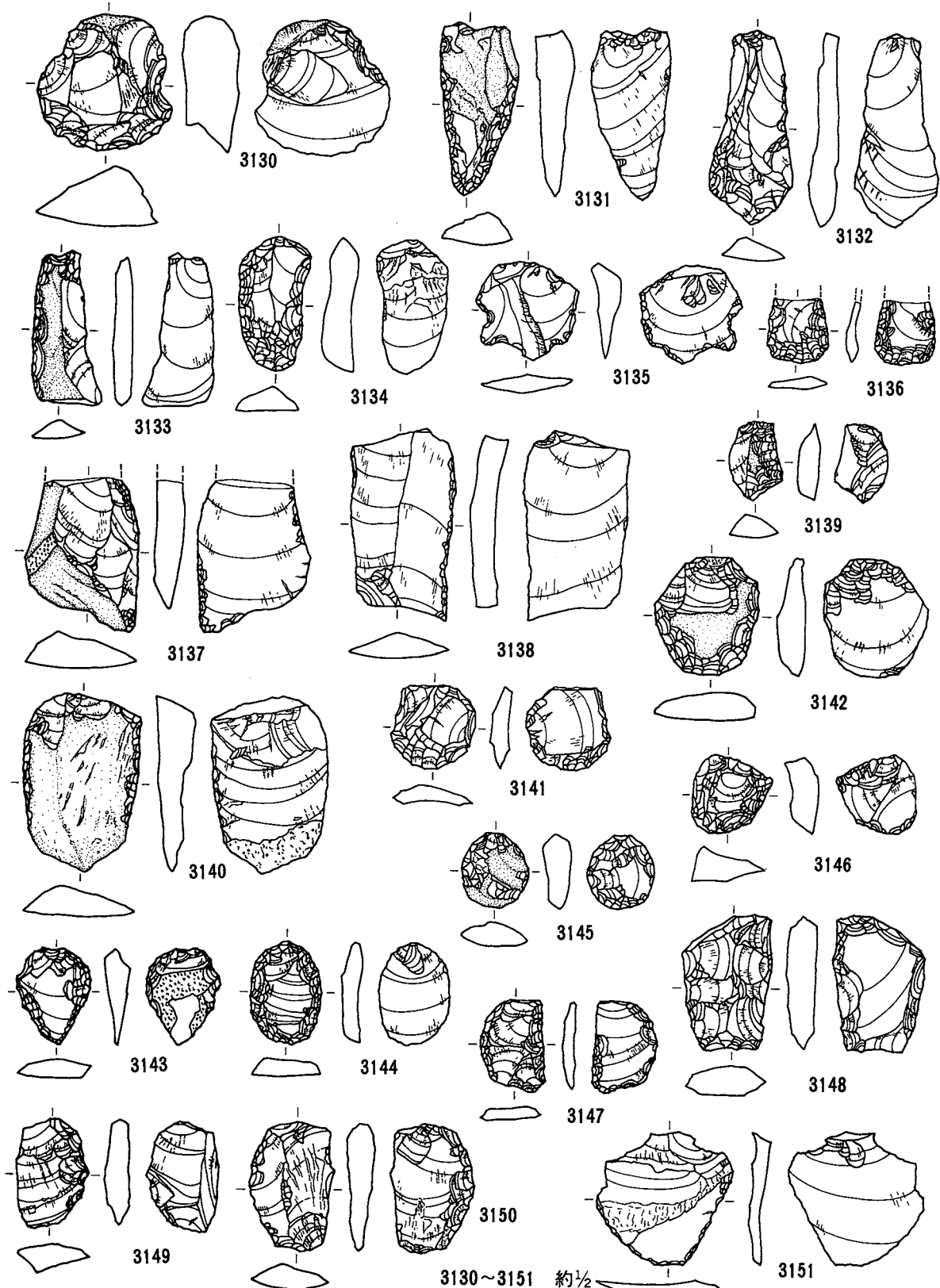


3085~3099 約 $\frac{1}{2}$

第262図 遺構外出土遺物 (遺物番号3085~3099)

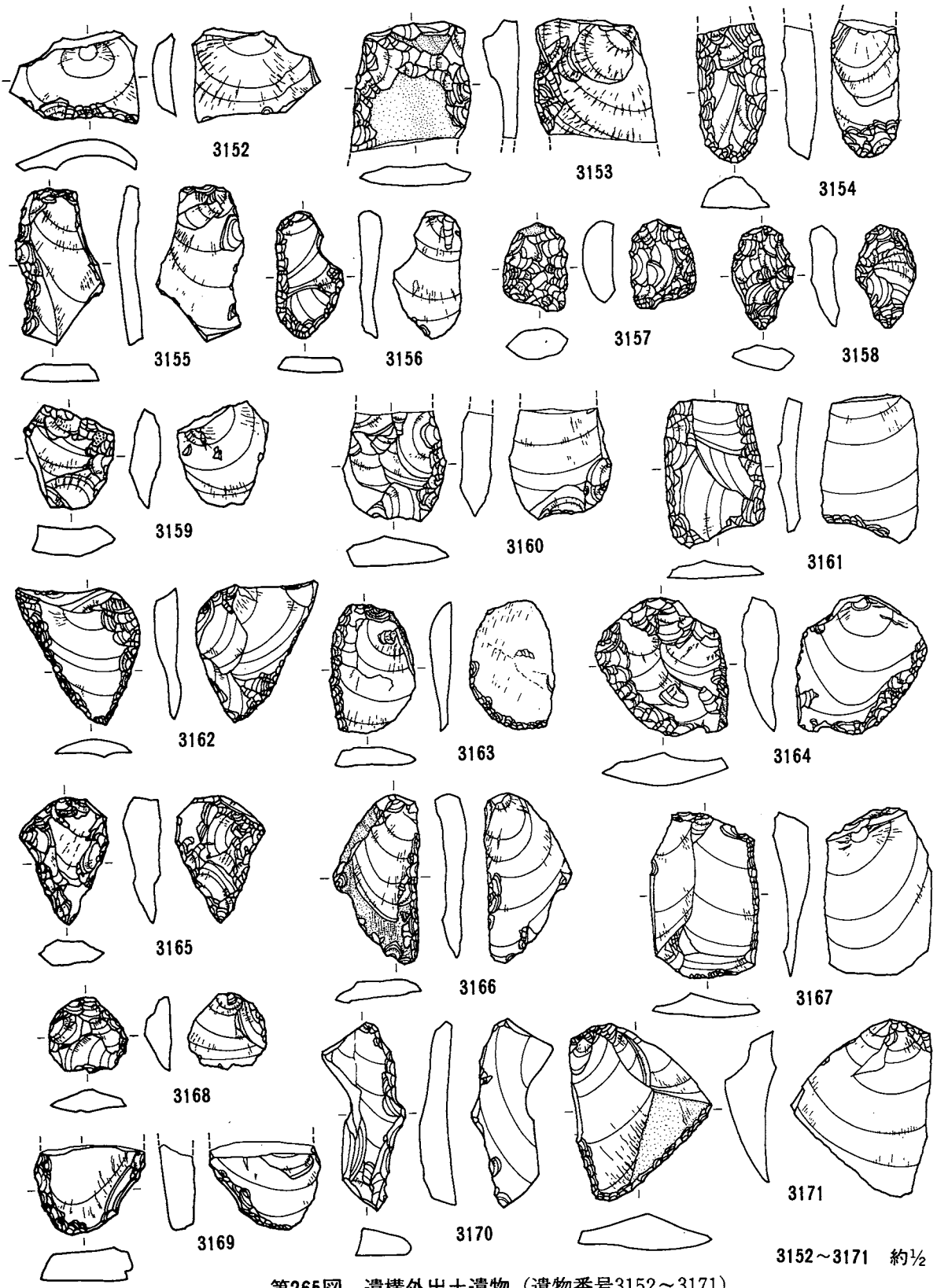


第263図 遺構外出土遺物 (遺物番号3100~3129)



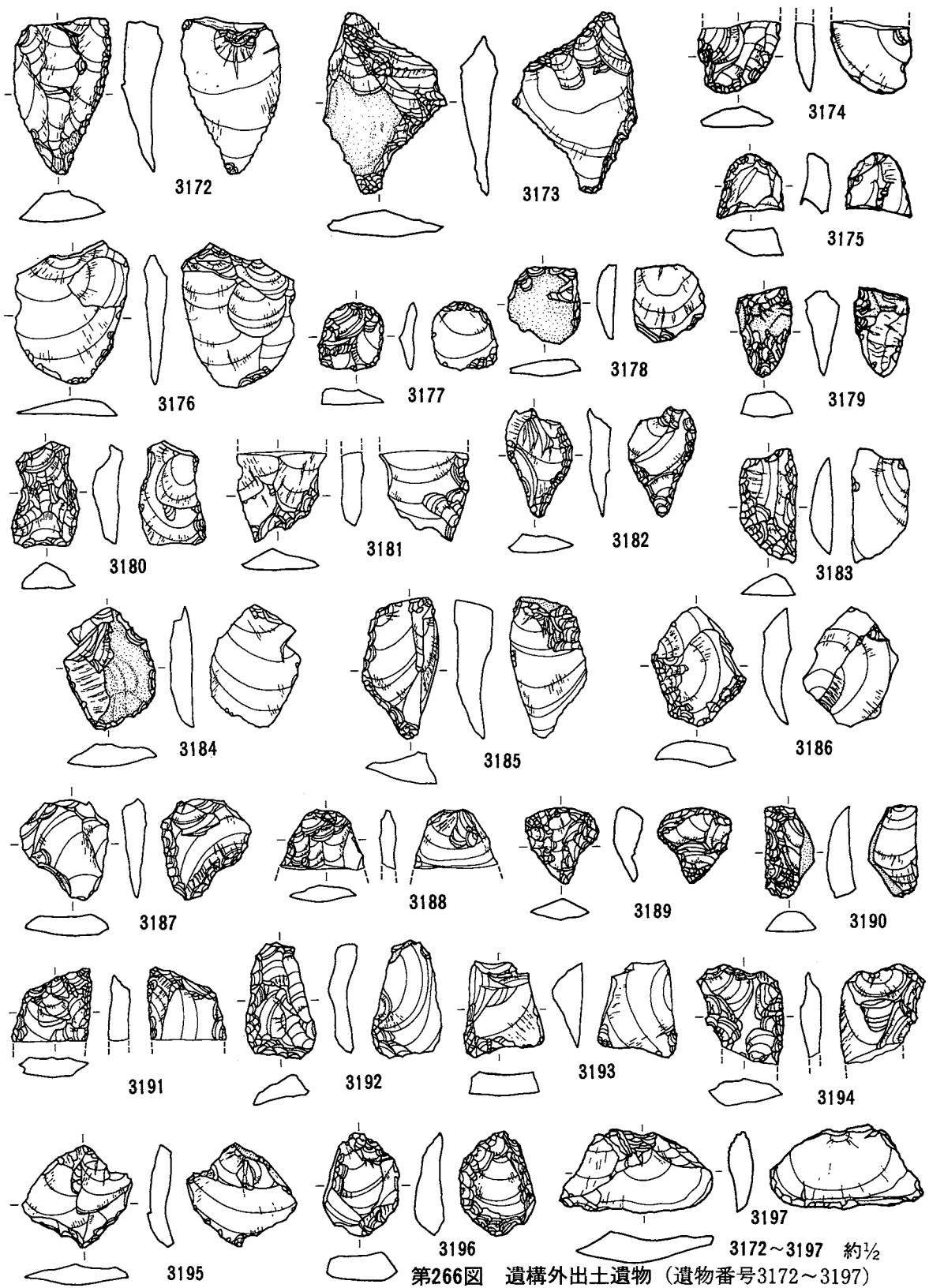
第264図 遺構外出土遺物 (遺物番号3130~3151)

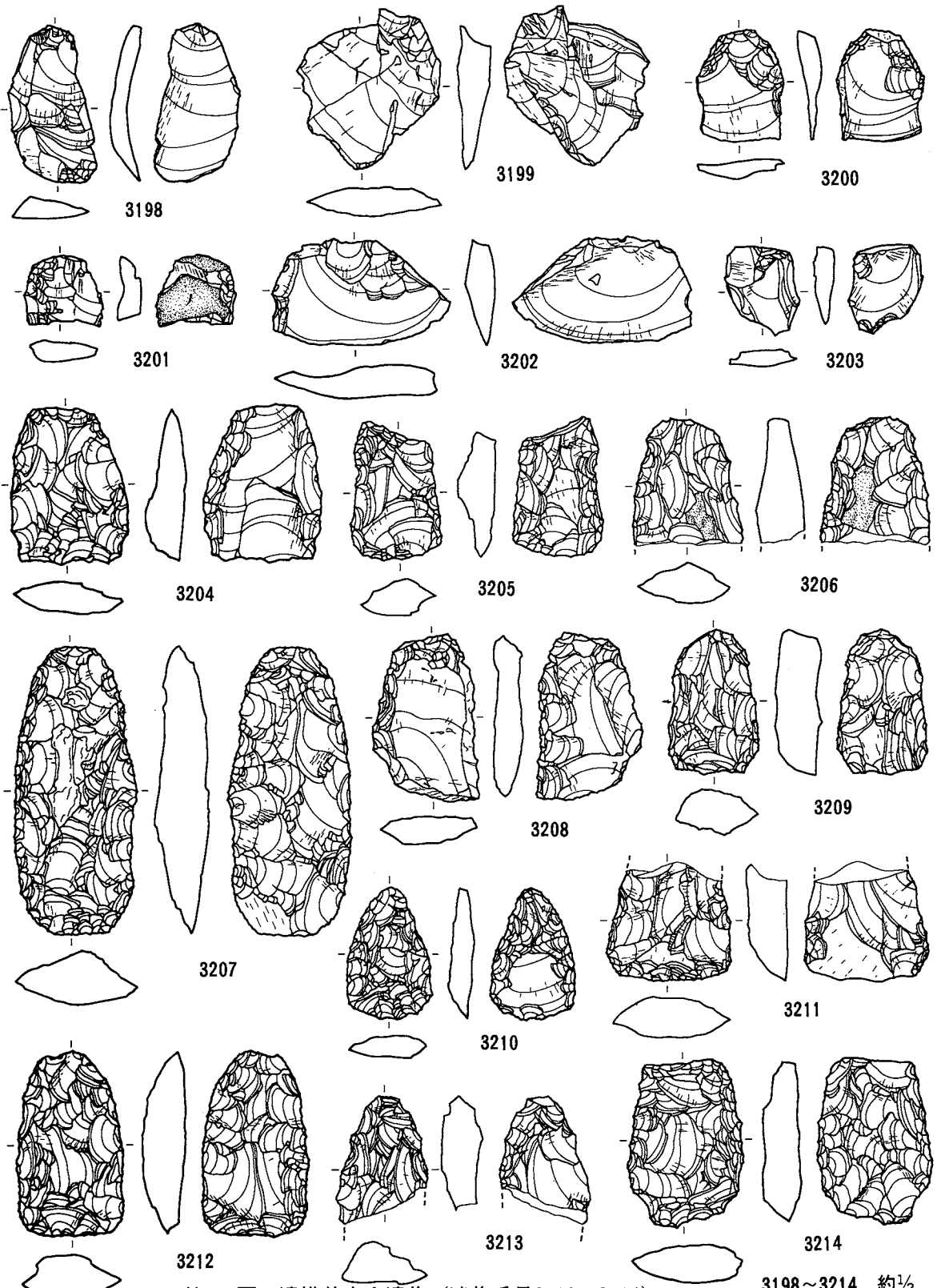
3130~3151 約 $\frac{1}{2}$



第265図 遺構外出土遺物 (遺物番号3152~3171)

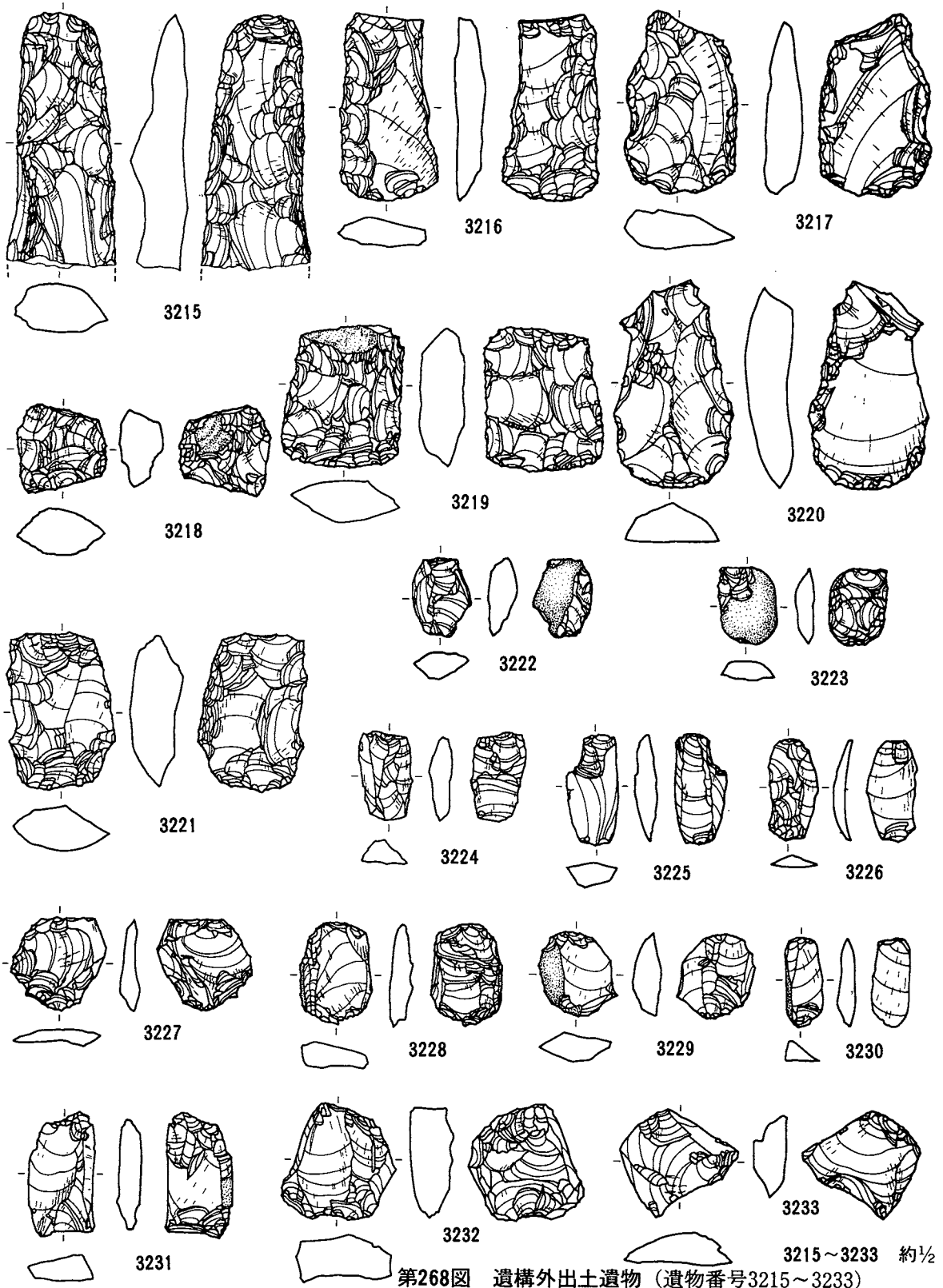
3152~3171 約 $\frac{1}{2}$



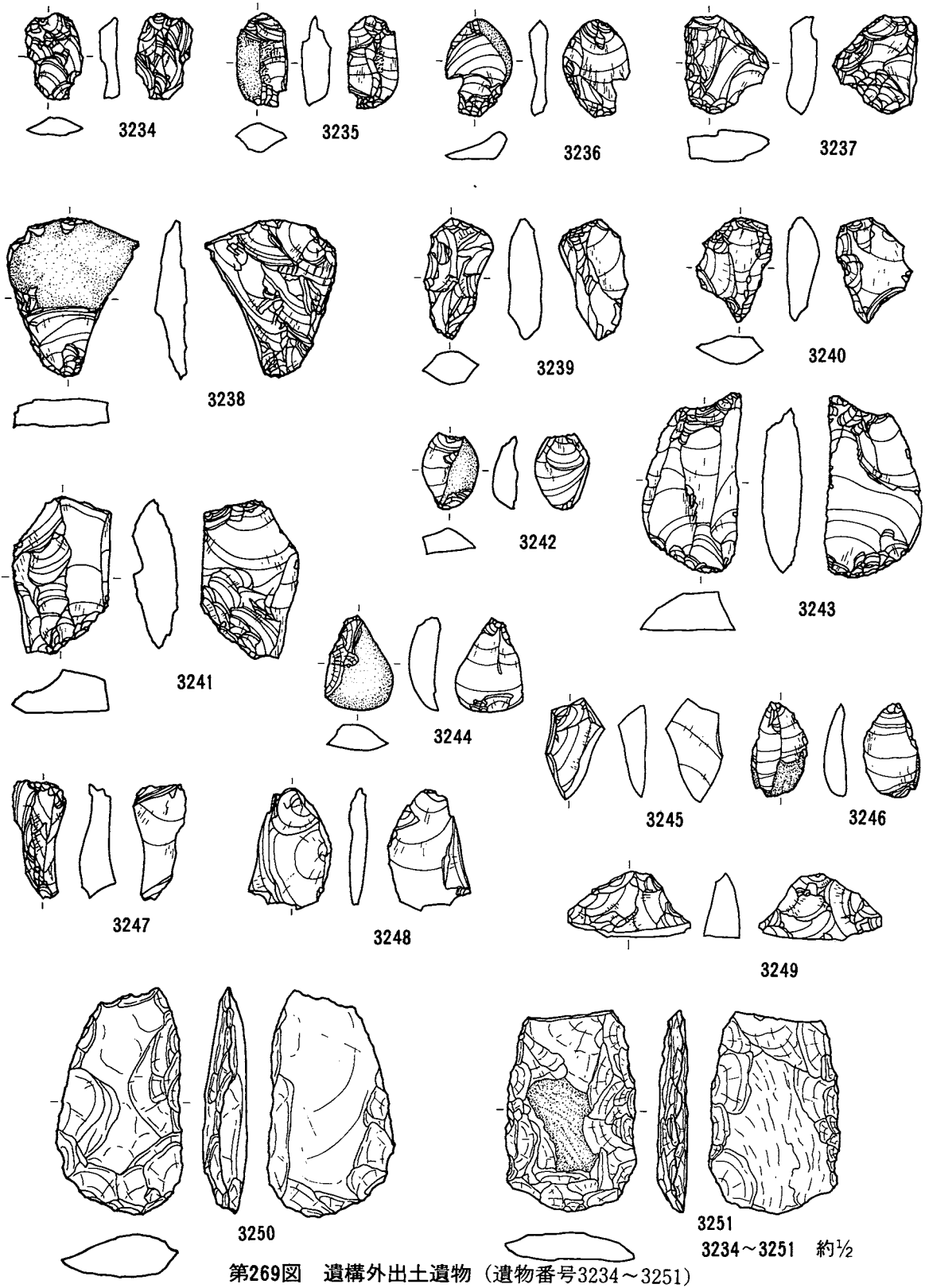


第267図 遺構外出土遺物 (遺物番号3198~3214)

3198~3214 約½



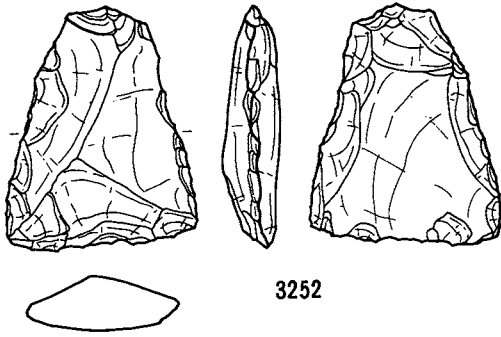
第268図 遺構外出土遺物 (遺物番号3215~3233)



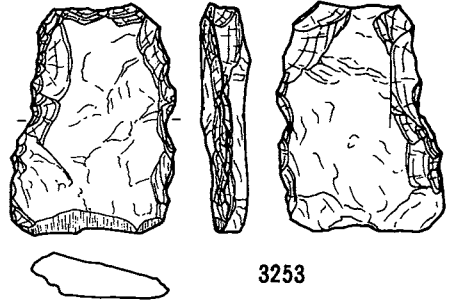
第269図 遺構外出土遺物 (遺物番号3234~3251)

3251  
3234~3251 約 $\frac{1}{2}$

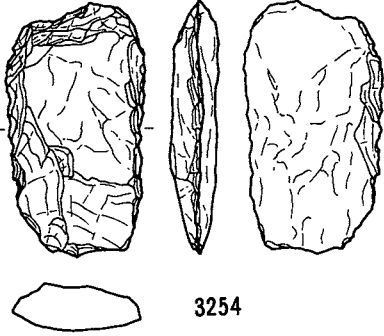




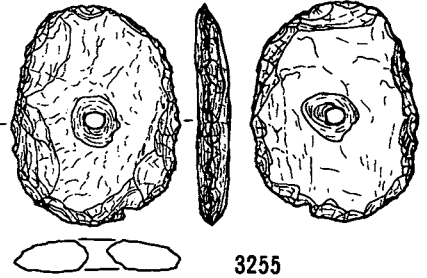
3252



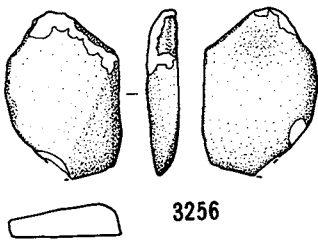
3253



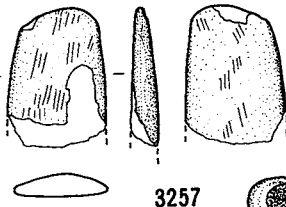
3254



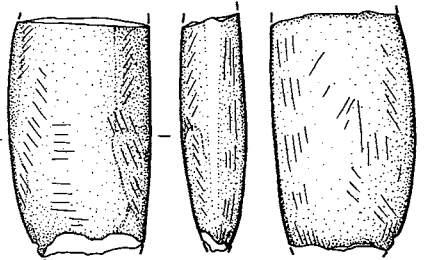
3255



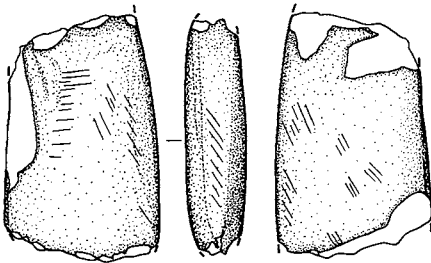
3256



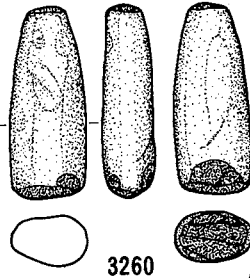
3257



3258

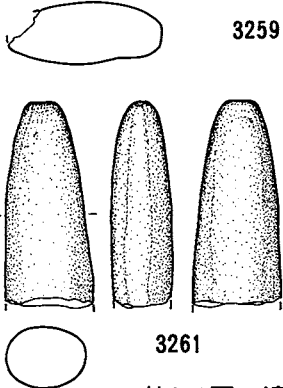


3259

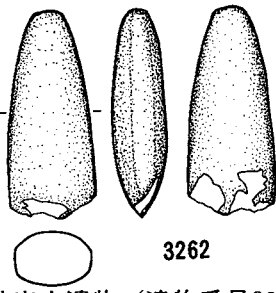


3260

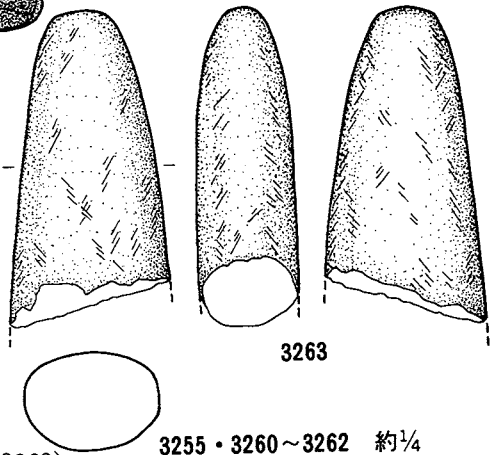
3252 ~ 3254 • 3256 ~ 3259 • 3263 約 $\frac{1}{2}$



3261



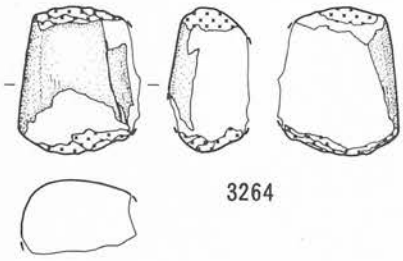
3262



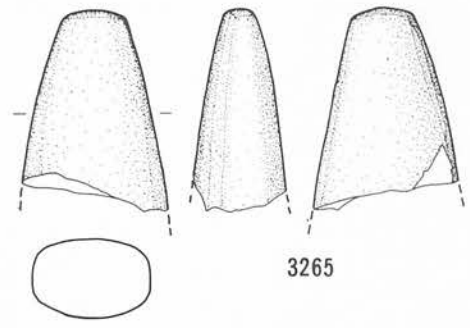
3263

3255 • 3260 ~ 3262 約 $\frac{1}{4}$

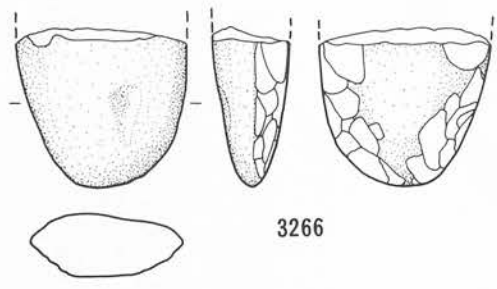
第270図 遺構外出土遺物 (遺物番号3252~3263)



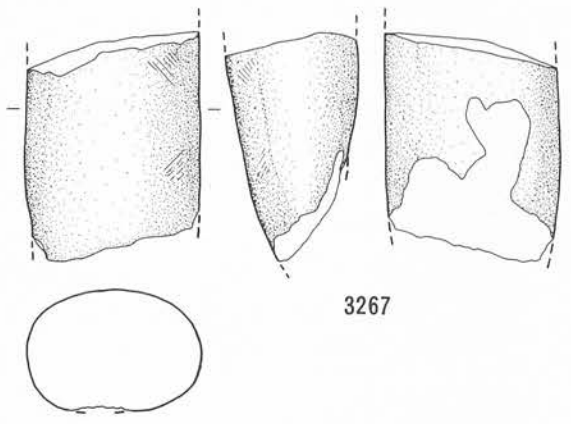
3264



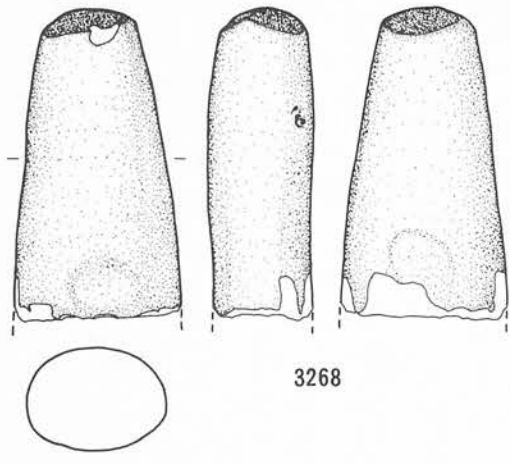
3265



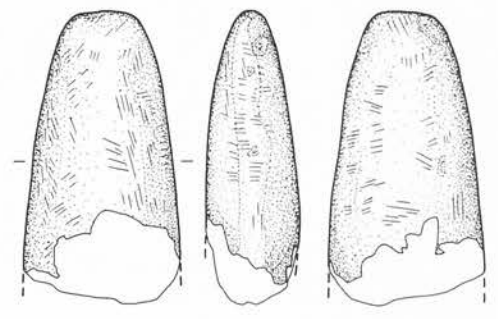
3266



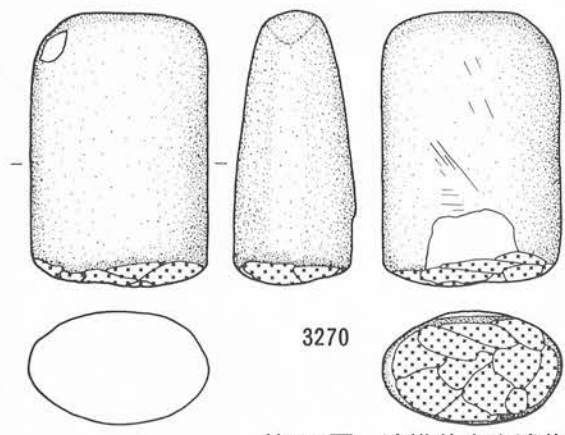
3267



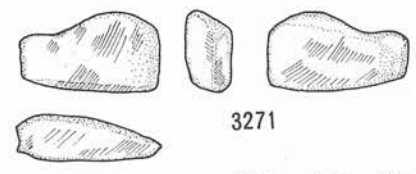
3268



3269



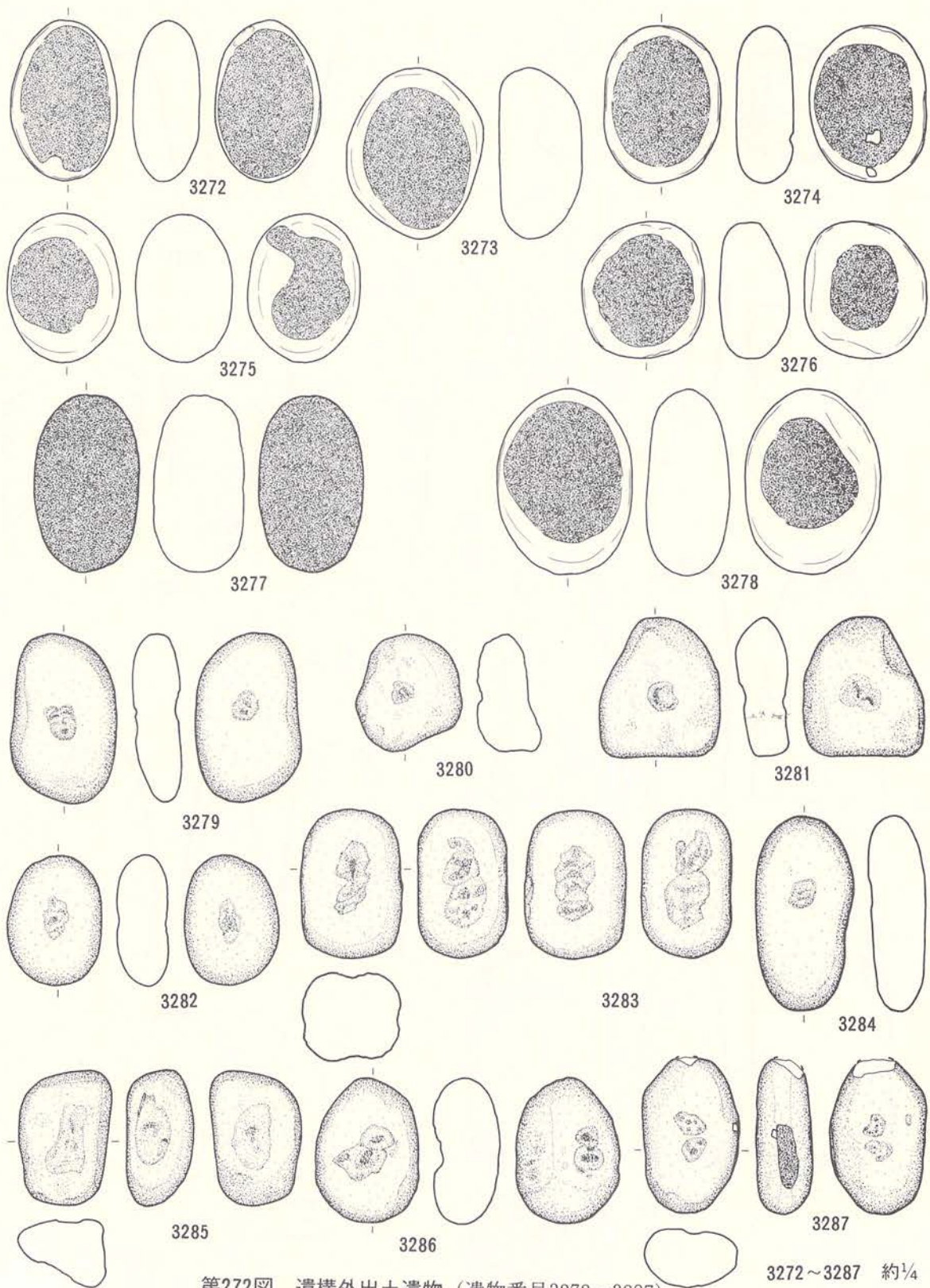
3270



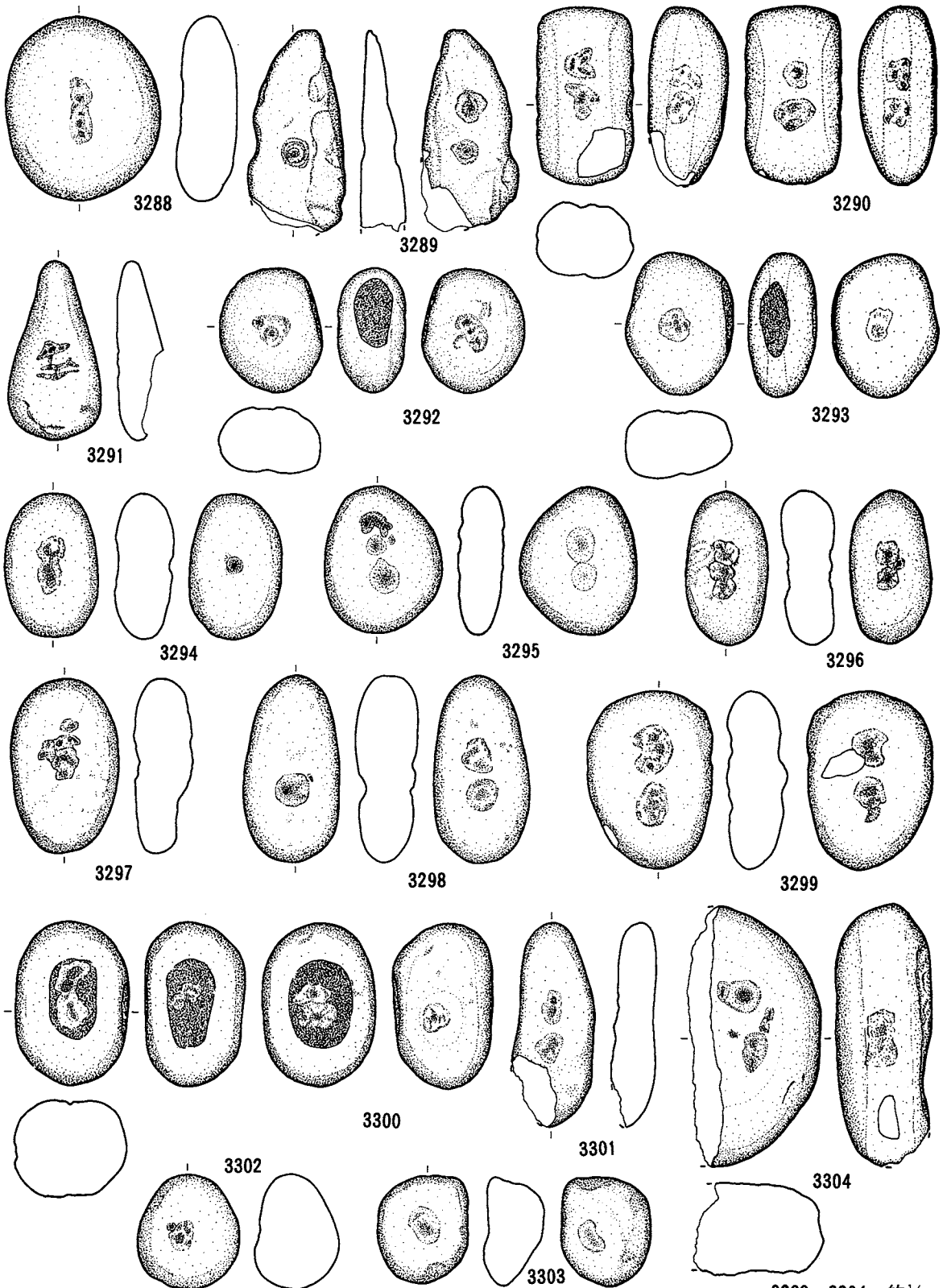
3271

3264~3271 約1/2

第271図 遺構外出土遺物 (遺物番号3264~3271)

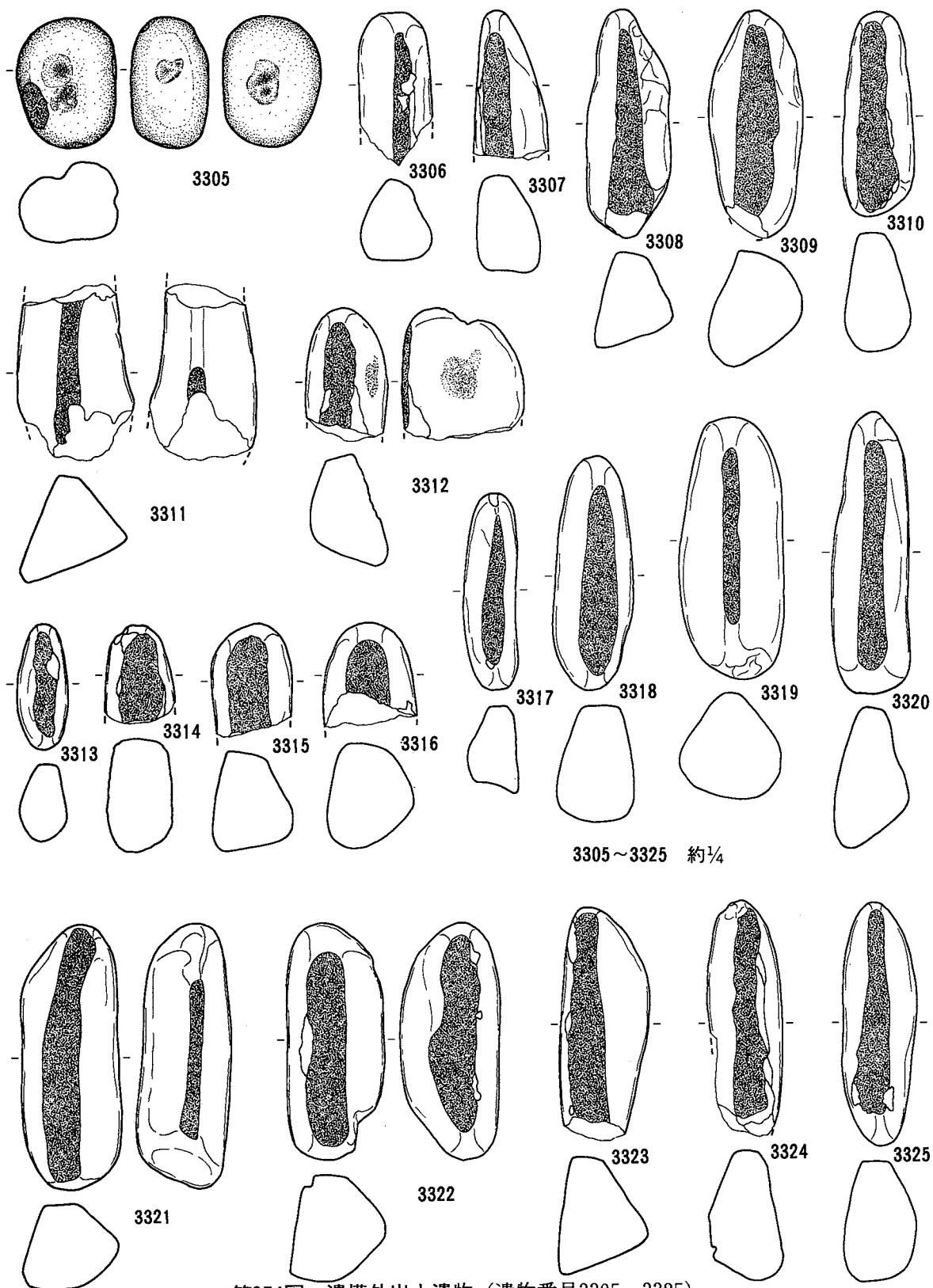


第272図 遺構外出土遺物 (遺物番号3272~3287)

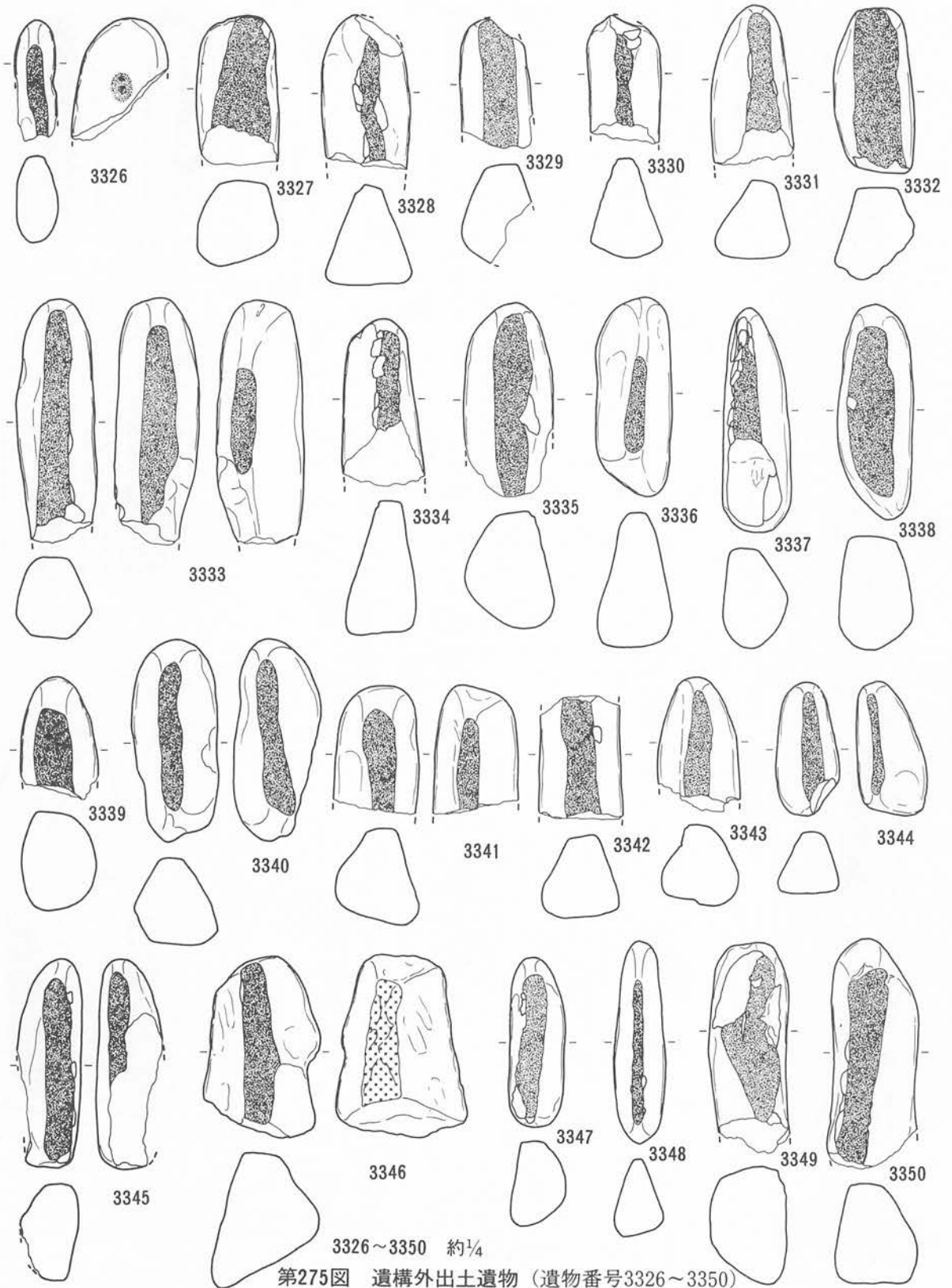


第273図 遺構外出土遺物 (遺物番号3288~3304)

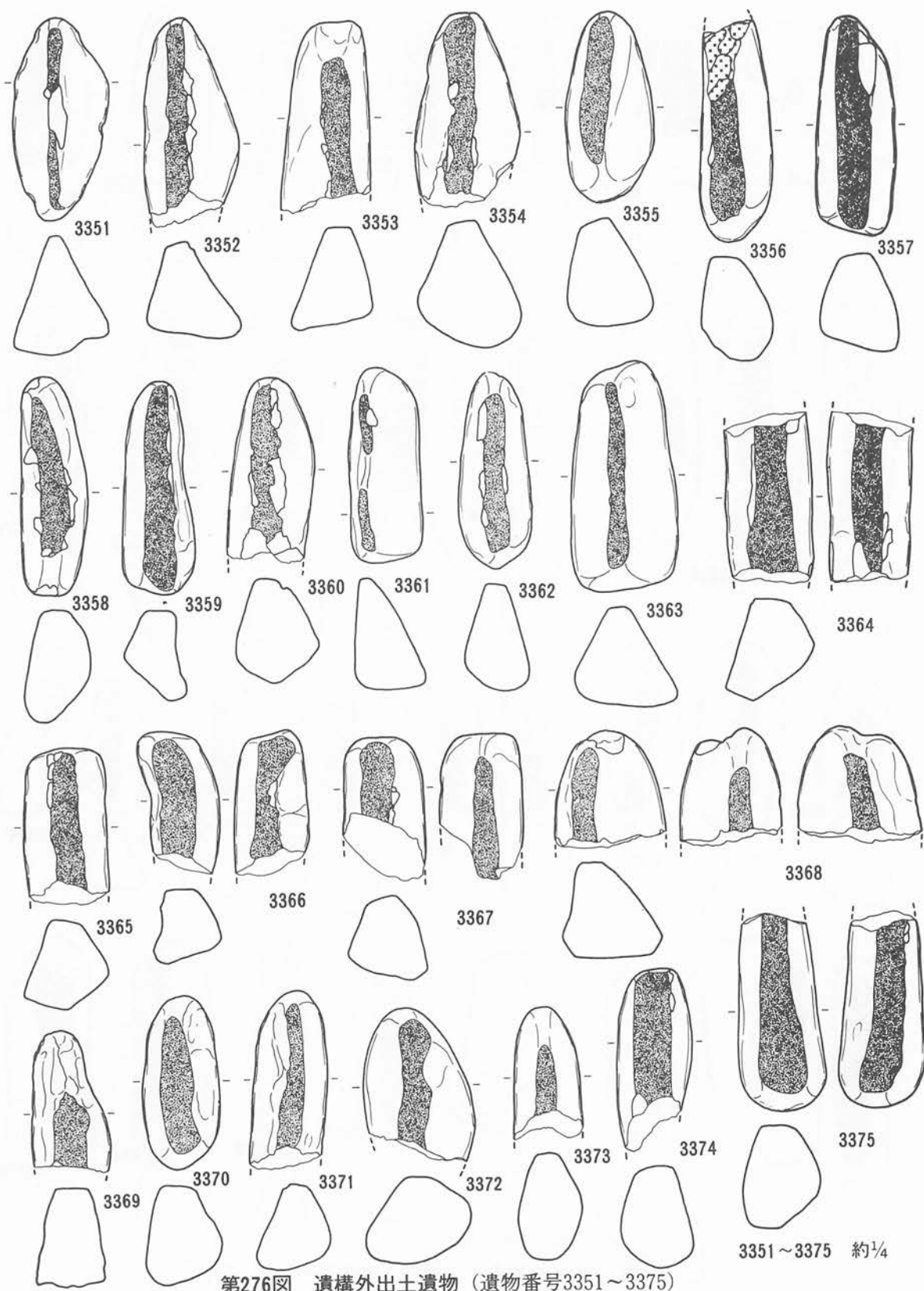
3288~3304 約 $\frac{1}{4}$



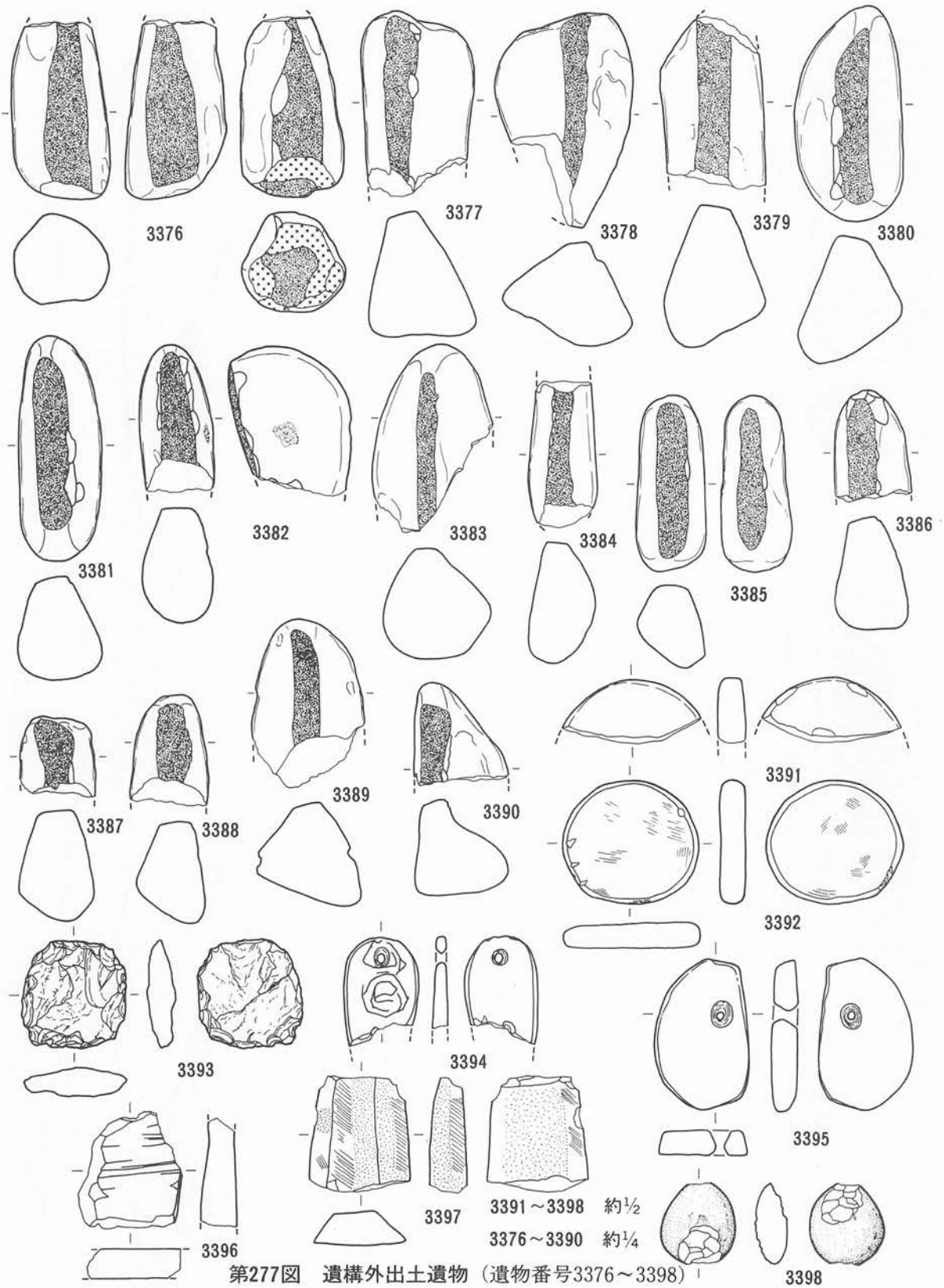
第274図 遺構外出土遺物 (遺物番号3305~3325)



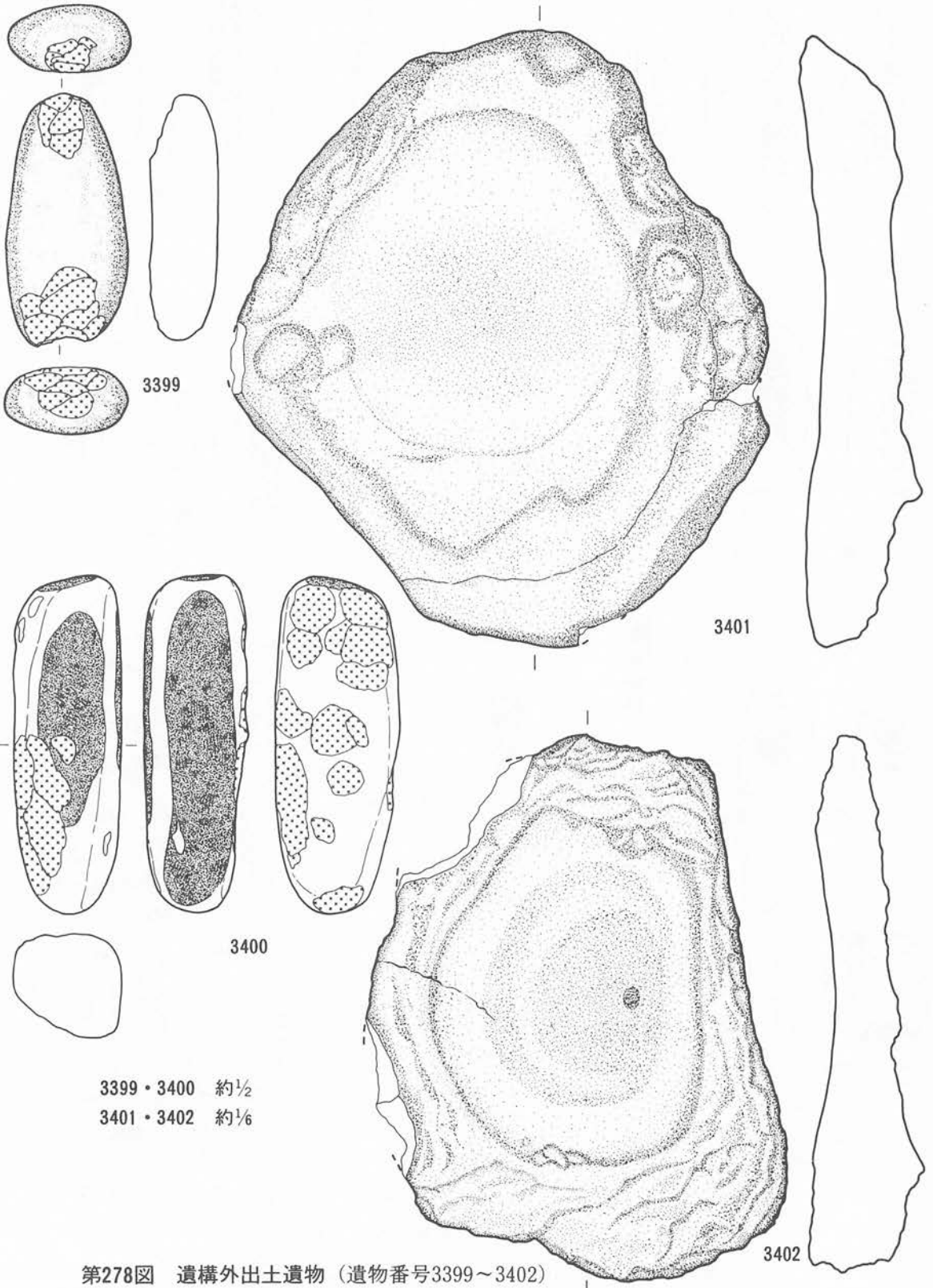
3326~3350 約¼  
 第275図 遺構外出土遺物 (遺物番号3326~3350)



第276図 遺構外出土遺物 (遺物番号3351~3375)

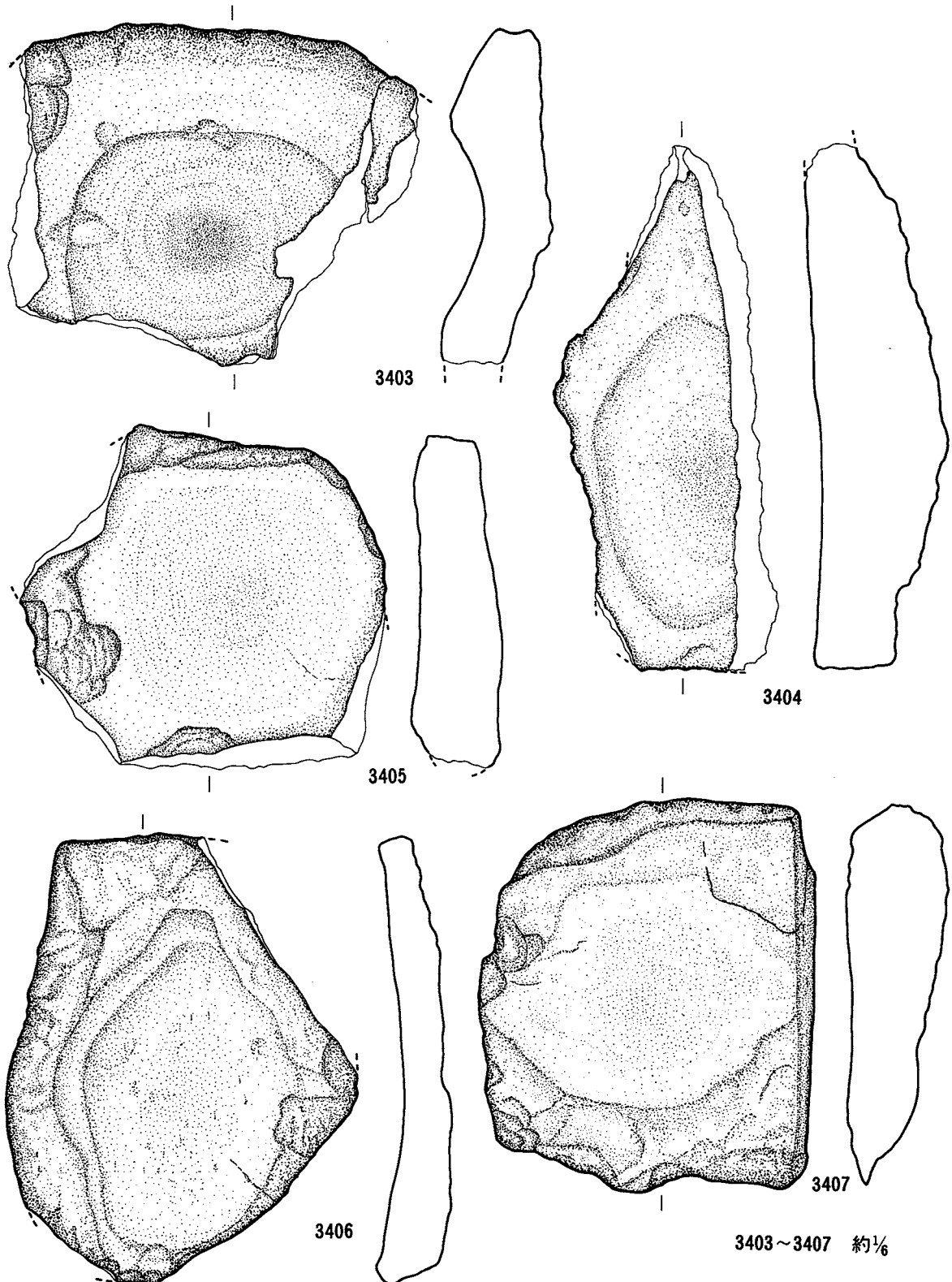




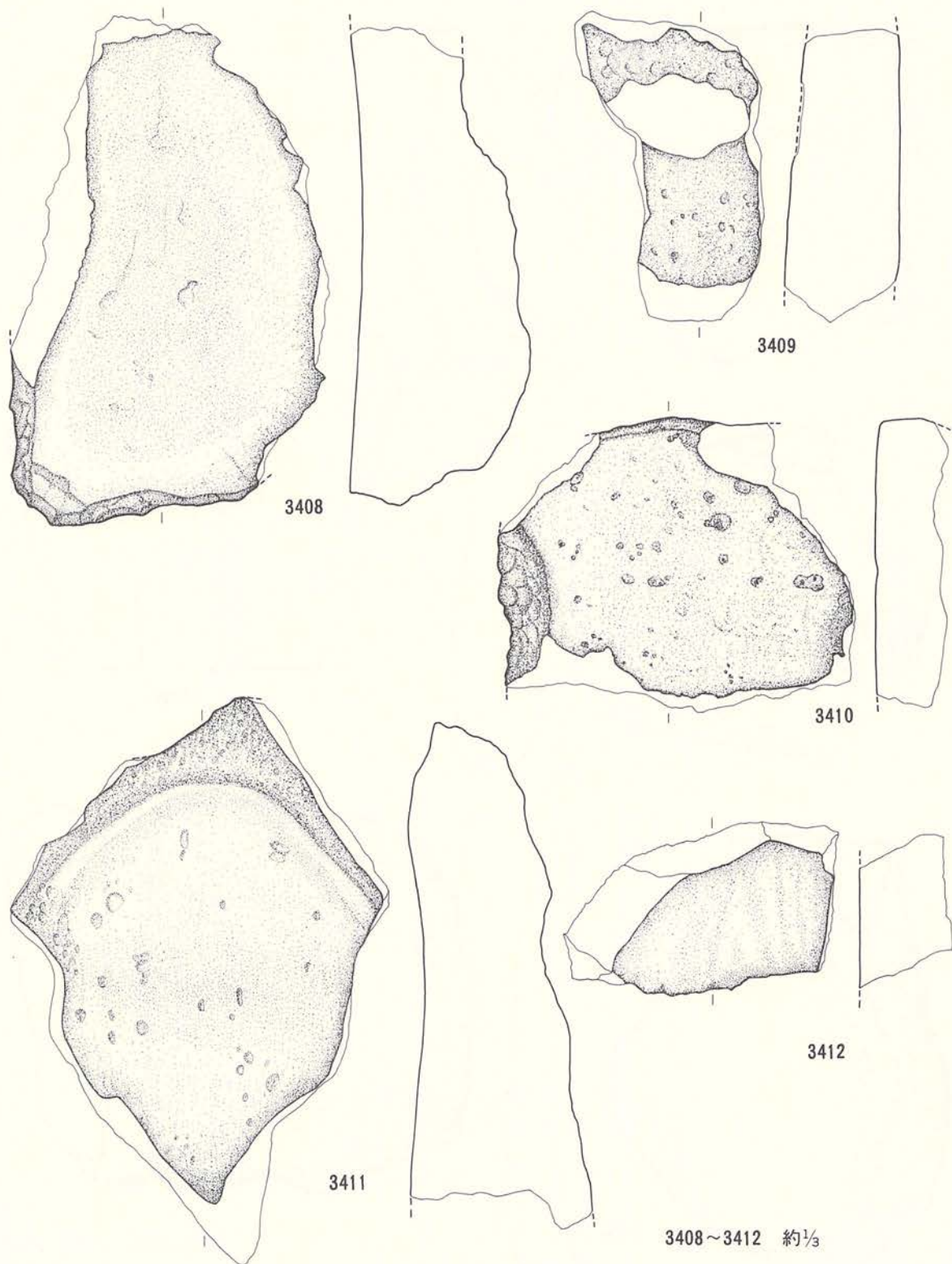


3399・3400 約 $\frac{1}{2}$   
 3401・3402 約 $\frac{1}{6}$

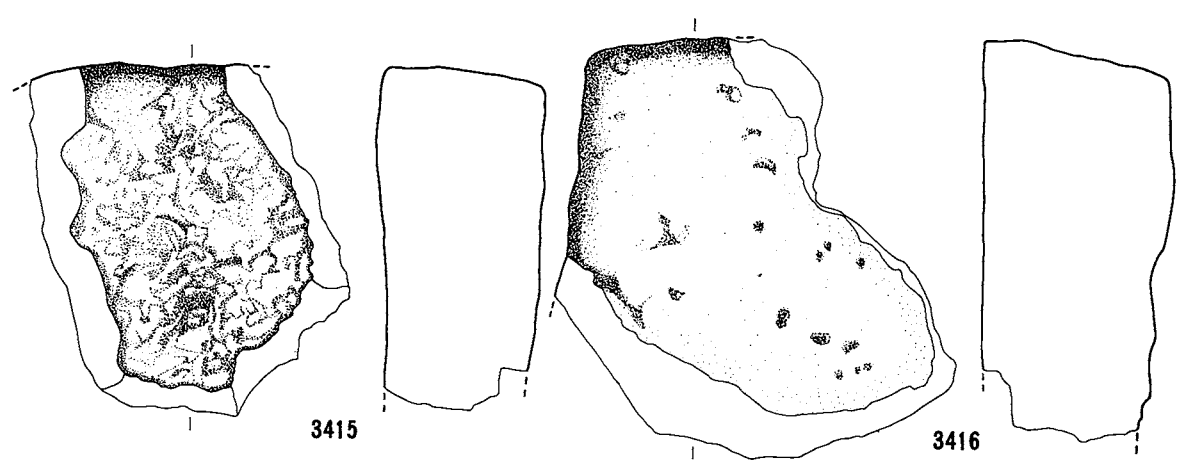
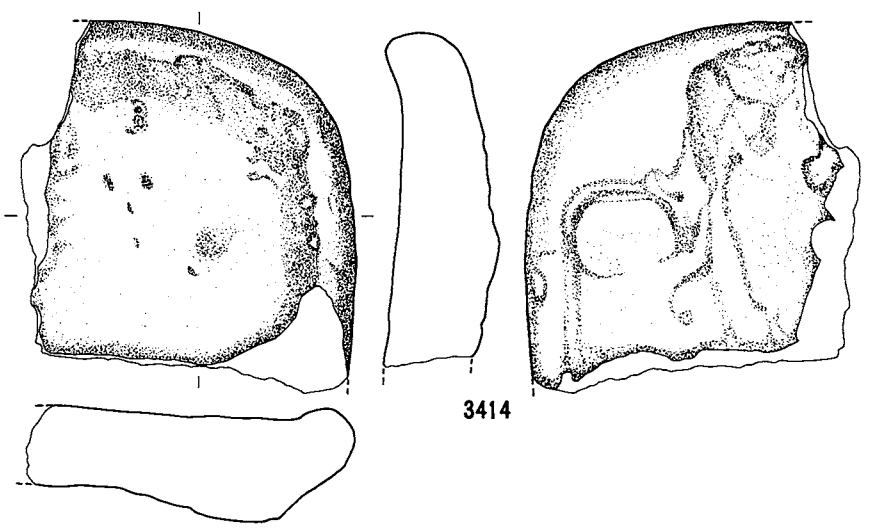
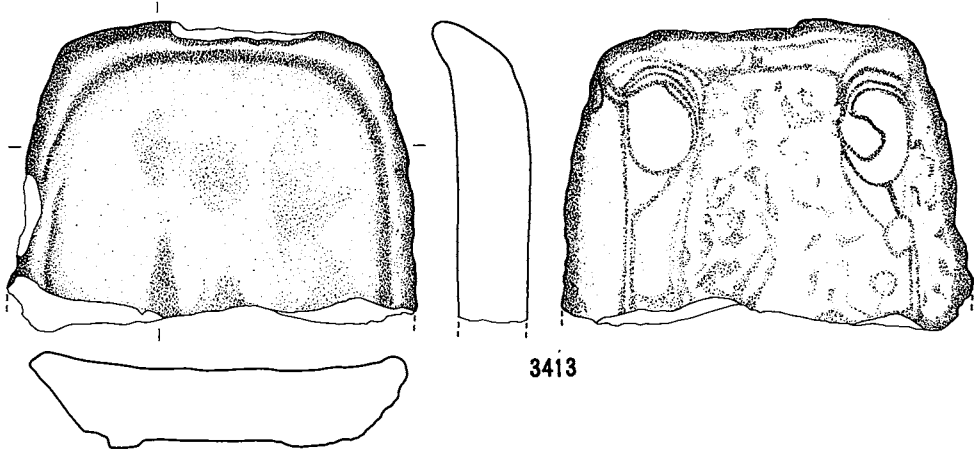
第278図 遺構外出土遺物 (遺物番号3399~3402)



第279図 遺構外出土遺物 (遺物番号3403~3407)

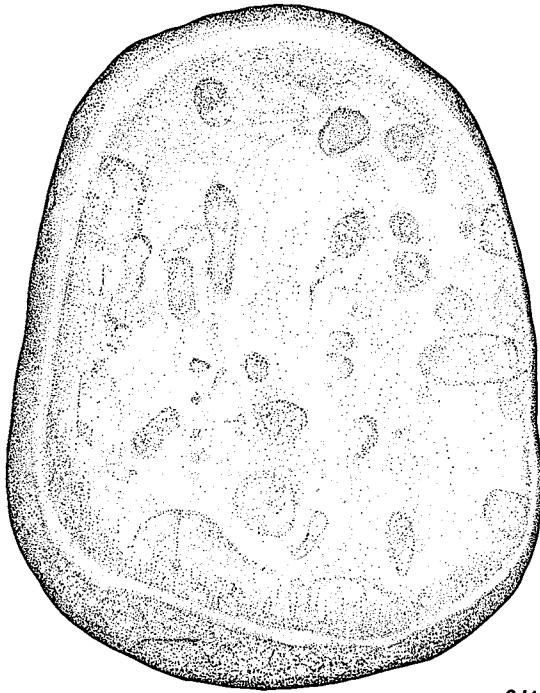


第280図 遺構外出土遺物 (遺物番号3408~3412)

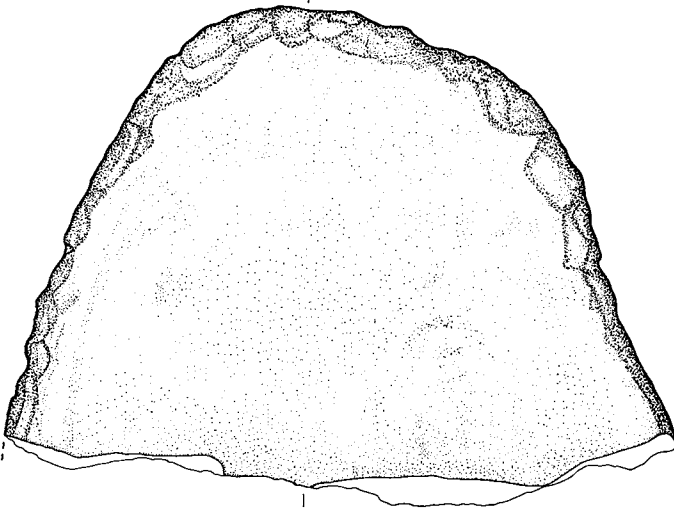


3413~3416 約 $\frac{1}{3}$

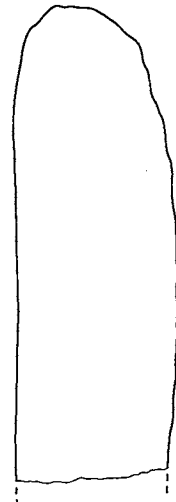
第281図 遺構外出土遺物 (遺物番号3413~3416)



3417

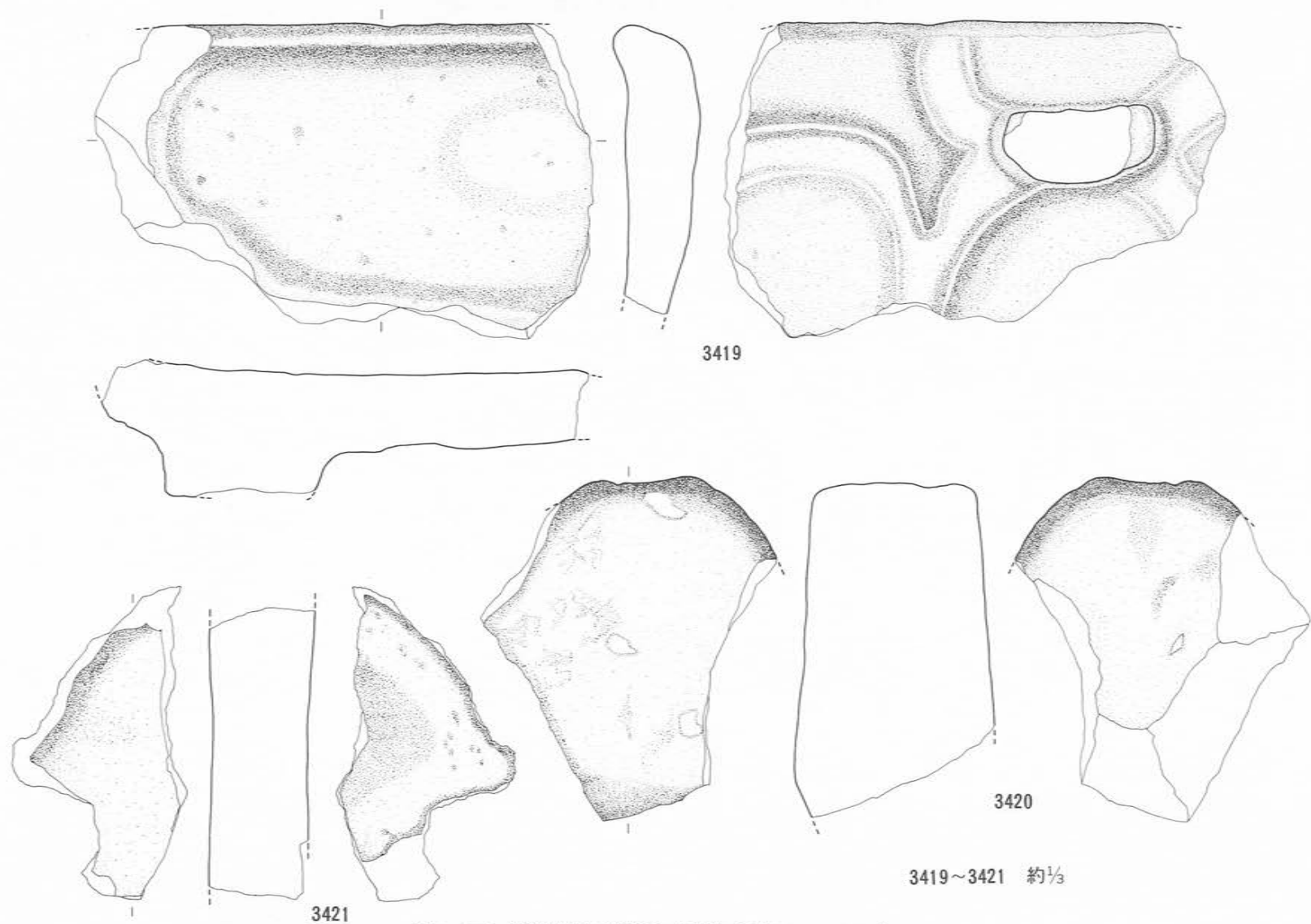


3418



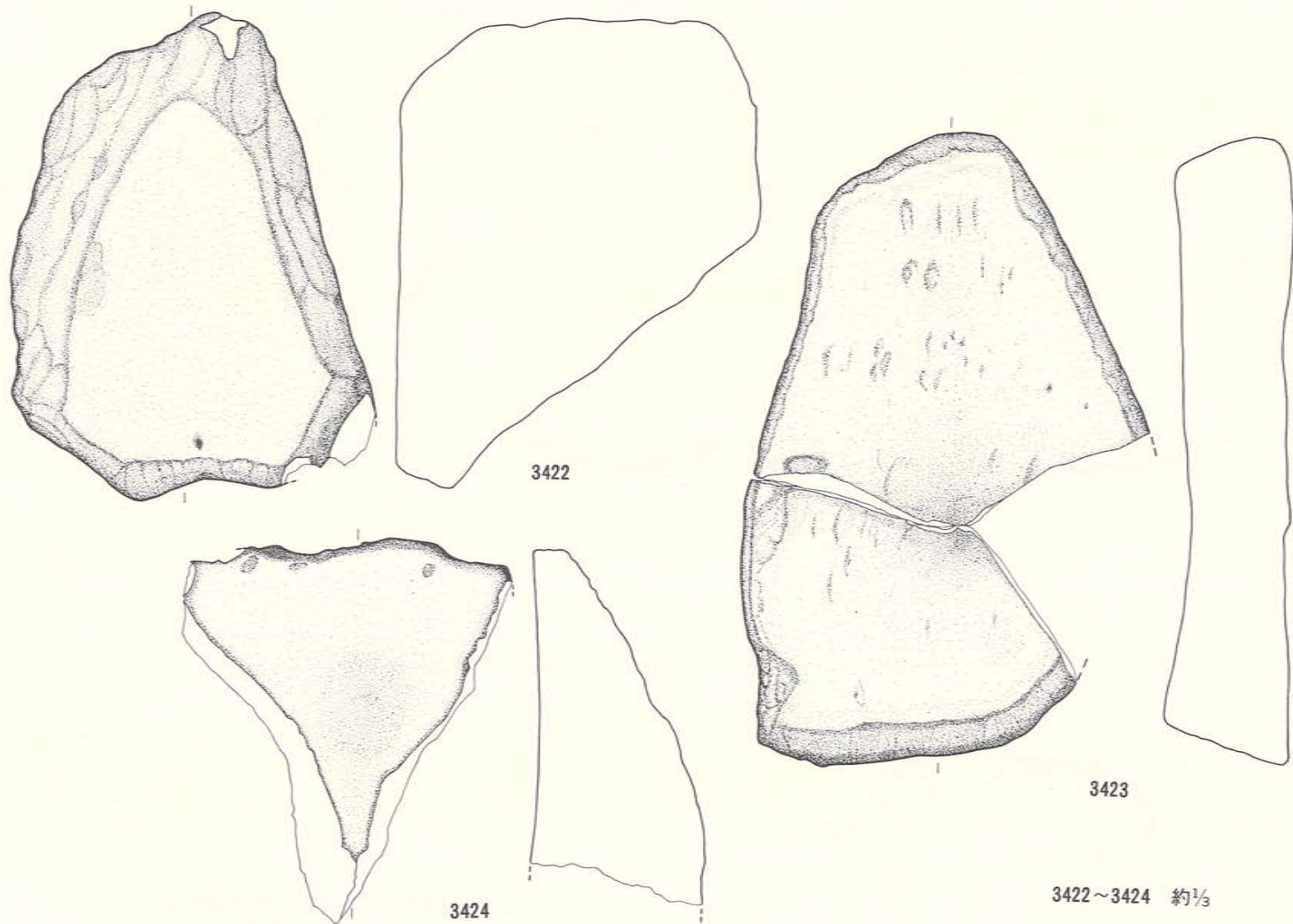
3417・3418 約 $\frac{1}{2}$

第282図 遺構外出土遺物（遺物番号3417～3418）



3419~3421 約 $\frac{1}{2}$

第283図 遺構外出土遺物 (遺物番号3419~3421)



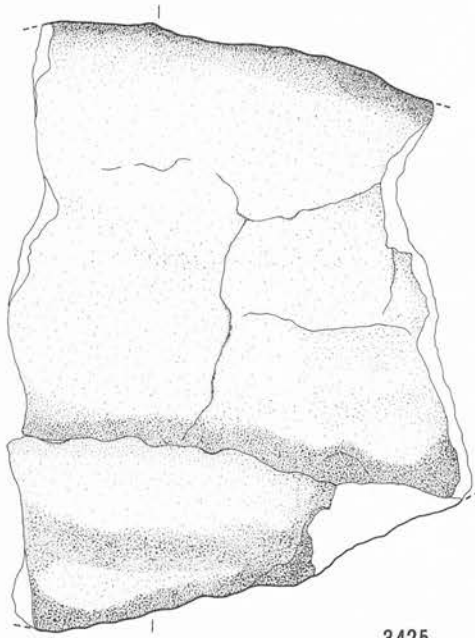
3422

3423

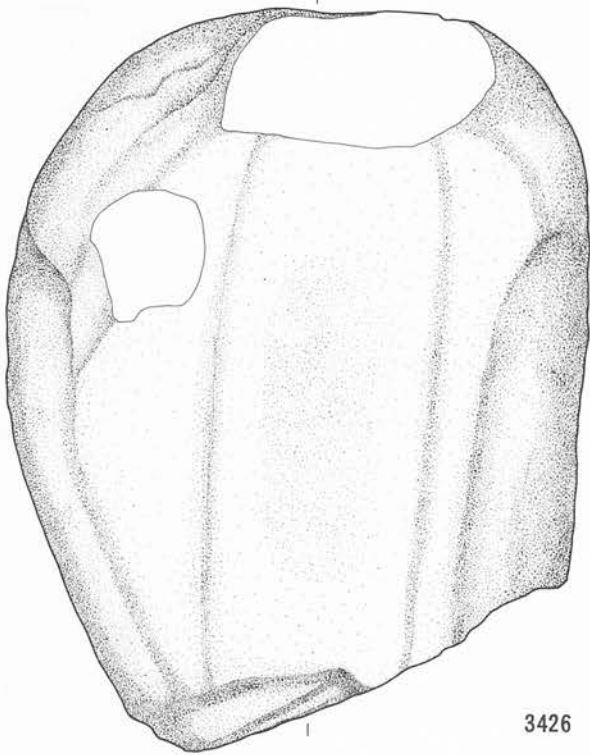
3424

3422~3424 約 $\frac{1}{3}$

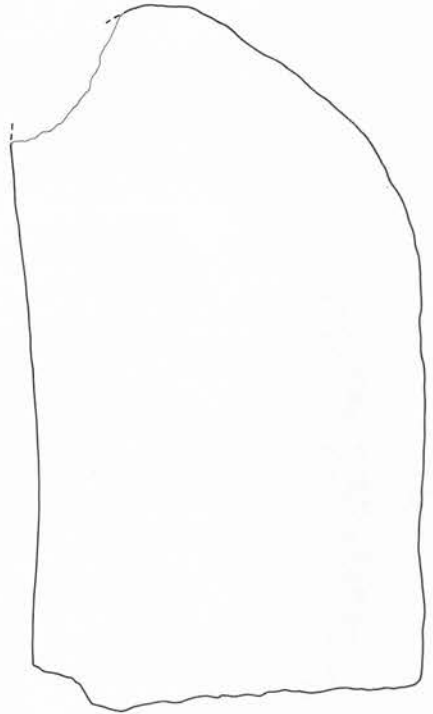
第284図 遺構外出土遺物 (遺物番号3422~3424)



3425



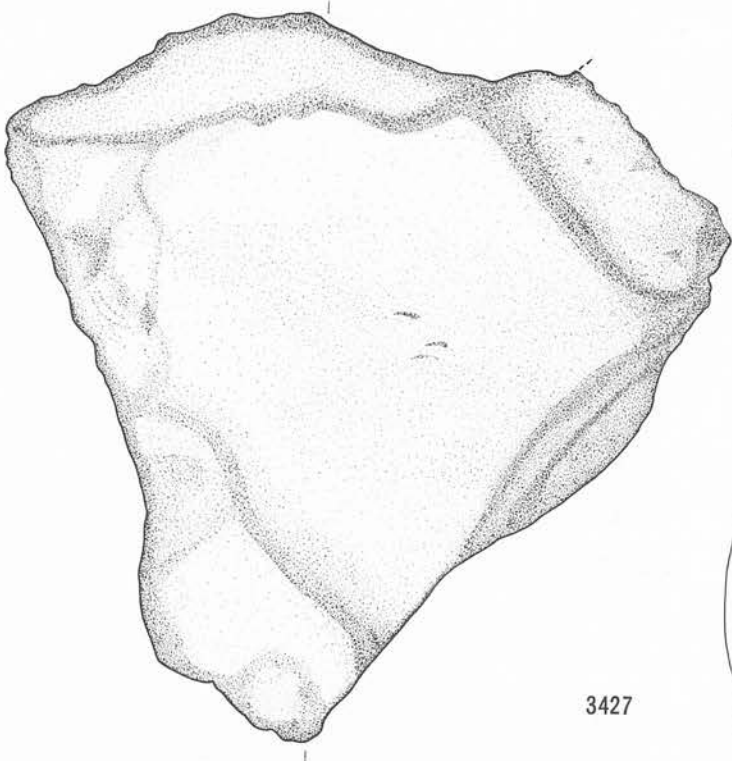
3426



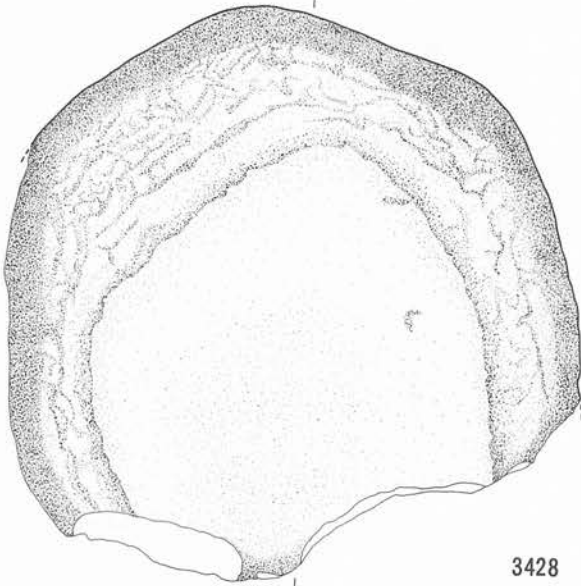
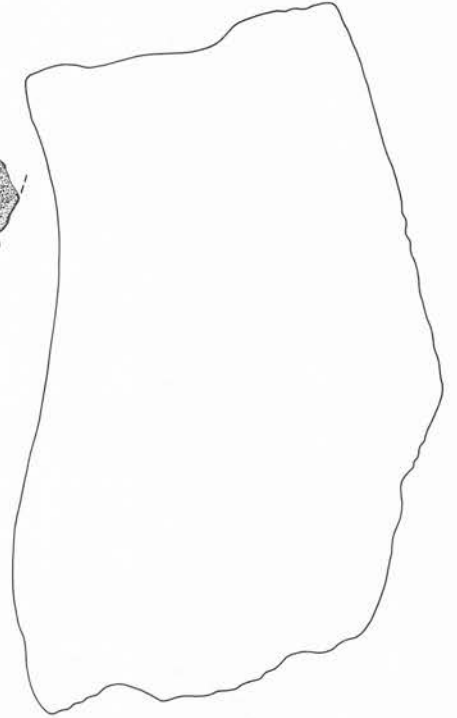
3425・3426 約 $\frac{1}{3}$

第285図 遺構外出土遺物（遺物番号3425～3426）

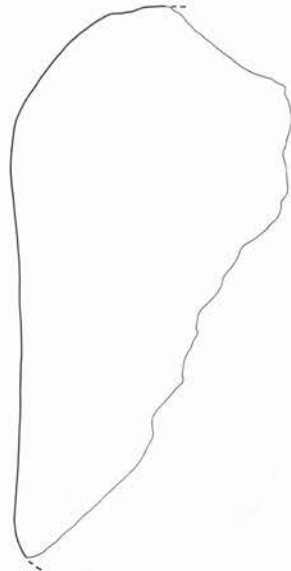




3427

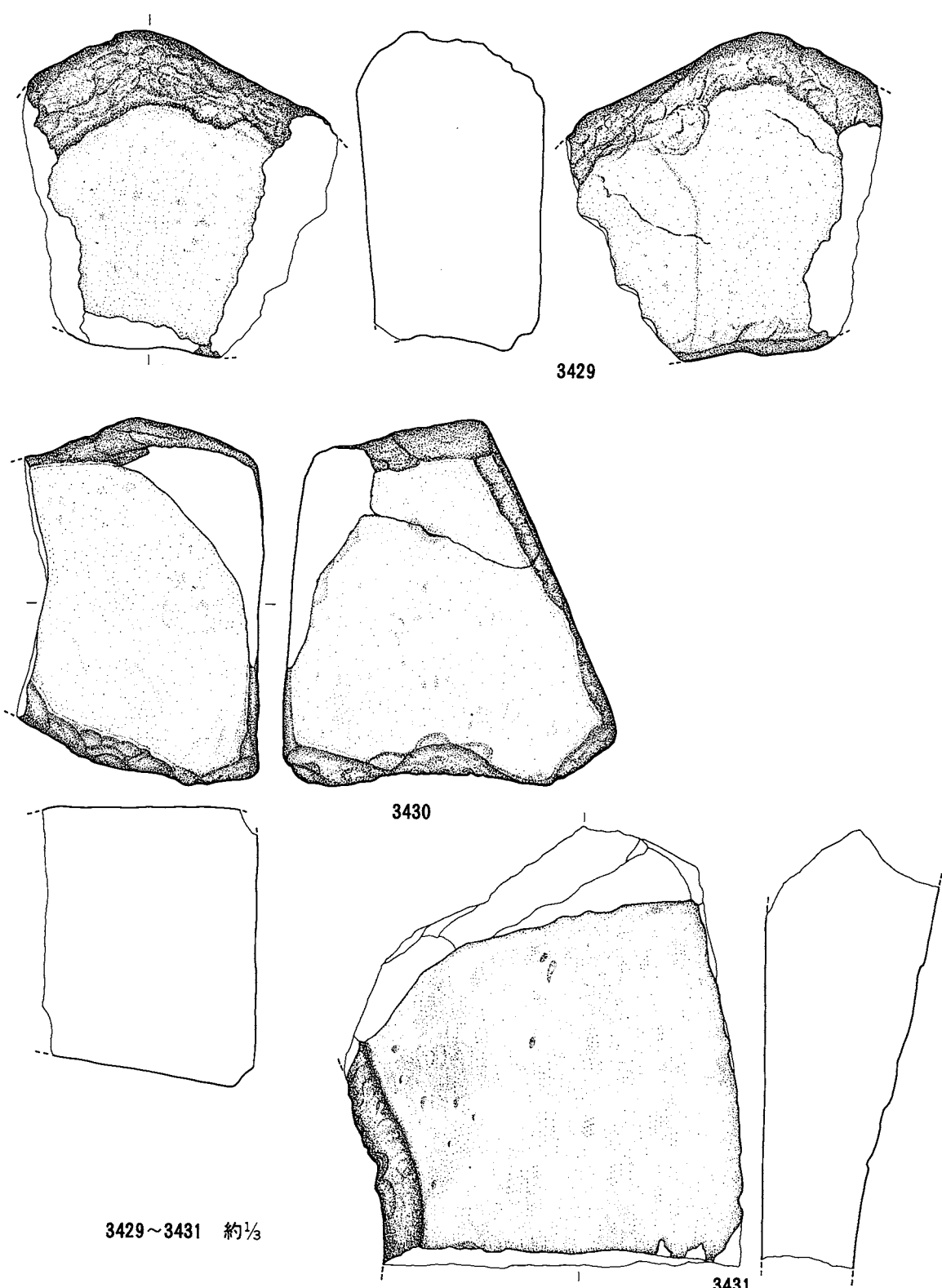


3428



3427・3428 約 $\frac{1}{3}$

第286図 遺構外出土遺物（遺物番号3427～3418）



3429~3431 約 $\frac{1}{3}$

第287図 遺構外出土遺物 (遺物番号3429~3431)

### 3. まとめ

#### (1) 検出された遺構とその時代・時期の特定について

検出された遺構は、縄文時代竪穴住居跡55棟（建て替えを含む）、弥生時代竪穴住居跡4棟住居跡状遺構1棟、ピット27基、陥し穴29基、土器埋設遺構4基、炉・焼土遺構8基、近世炭窯1基である。

縄文時代竪穴住居跡55棟を時期別にみると、早期に位置づけられるもの16棟、中期末葉に位置づけられるもの2棟、後期初頭から前葉に位置づけられるもの27棟、時期を特定できかねるが占地・形状・周辺からの出土遺物から後期初頭から前葉に位置づけられると思われるもの8棟、中期末葉に位置づけられると思われるもの1棟、早期に位置づけられると思われるもの2棟である。

住居跡状遺構は縄文時代後期初頭から前葉に位置づけられる。

ピットと陥し穴の時期については、底面からの出土遺物を欠き特定はできないが、周辺に構築されている竪穴住居跡の時期から推定して、縄文時代早期か、中期末葉、後期初頭から前葉のいずれかに位置づけられるものと思われる。

#### (2) 縄文時代早期の住居跡と伴出土器について

縄文時代早期の竪穴住居跡は合計16棟（建て替えを含む）検出され（該期と推定される住居跡を除く）、伴出した遺物も良好な資料が多い。以下に立地面、住居跡の特徴、土器の特徴など、項目ごとに記す。

##### ① 住居跡の立地面について

この時期に位置づけられる住居跡はGⅡ区に集中して検出された。該区は北から南に舌状に張り出す尾根にあたり、この尾根筋とその南西斜面の半径約23cmのほぼ円形の範囲内にすっぽりとはいる形に分布する。この“まとまり”は、後述の如く切り合い関係等から数時期に分けられ、数棟を一単位とする集落跡であることはほぼ間違いないところである。

この集落がこの尾根筋の狭い範囲に限定されていることは、どのような理由によるものなのか興味深いものがある。

##### ② 住居跡の特徴について

###### ① 形状について

形状は円形から楕円形を呈するものが13棟、隅丸方形を呈するものが3棟である。隅丸方形を呈する3棟の住居跡（GⅡe10住、GⅡg9住、HⅢb1住）は、GⅡ区とGⅢ区の境界付近にあたる斜面下方に位置し、円形から楕円形を呈する住居跡とは若干占地を異

にする傾向がみられる。

#### ㊤ 規模について

開口部の直径が計測できる住居跡とそれが推定できる住居跡、計14棟の規模についてその偏りをみると、径2.3～3.4mのやや小型の住居跡は6棟、径3.6～4.5mの中型の住居跡は4棟、径5～5.5mのやや大型の住居跡は4棟と、ほぼ3段階に大別される。地形面からこれらを見ると、やや大型の住居跡は緩斜面に、小型から中型の住居跡は前者の面よりきつい勾配の斜面に構築されている。

注) 開口部の直径は、最大と最小径の平均値で、また隅丸方形の住居跡は最大辺と最小辺の平均値で集計をおこなった。隅丸方形の3棟の住居跡はいずれも辺3m前後の規模であり、小型の住居跡6棟の中に集計されている。

#### ㊦ 炉の形状とその位置、床面の状況

炉は地床炉で、その形状はほぼ斜面に沿って細長く分布するものが一般的である。また炉が2ヶ所に認められる住居跡も2棟存在する(GⅡc3住、GⅡg6住)。炉内部の焼成は、層として形成されるが、堅くしまった純然たる焼土は炭化物や焼土の包含される比較的やわらかい暗褐色混土の上に薄く載る程度で、後期初頭から前葉の住居跡の炉内にみられる堅くしまる焼成層厚のあり方とは若干異なる。

床面はほぼ平坦で、堅さも一定している住居跡が多い。円形から楕円形を呈する住居跡の床面は、斜面に沿って上方から下方にやや傾斜するところに特徴がみられる。

隅丸方形を呈するHⅢb1住居跡の床面は、斜面上方の西壁側に溝で仕切られた最大幅約70cmのベット状の段が設けられており、他の住居跡の床面とは異なるタイプである。

#### ③ 集落の規模、時期差について

該期の住居跡には、住居跡間の切り合い関係にあるものが3例、上下に重複しているものが3例認められる。

2棟間の切り合い関係にある3例についてみると、いずれも斜面下方の住居跡が斜面上方の住居跡を切っている(GⅠe10-2住がGⅠe10-1住を切る。GⅡe3-1住がGⅡe3-2住を切る。GⅡg6住がGⅡg5住を切る)。次に2棟間の上下に重複している3例についてみると、従来使用していた床面の上に新しい床面を構築した例(FⅡj3-1住とFⅡj3-2住)と下位の住居跡が廃絶あるいは土砂の流失等によって埋まった後に、その上面に構築している例(GⅡg1-2住とGⅡg1-3住、GⅡg5住とGⅡh5住)がみられる。特に3棟の切り合い・重複関係にある1例についてみると、斜面下方の住居跡(GⅡg6住)が斜面上方の住居跡(GⅡg5住)を切って構築し、この住居跡が廃絶あるいは土砂の流失等によって埋まった後に、その上面に住居跡(GⅡh5住)を構築している。

以上の切り合い・重複関係と遺物の比較から次のことが言えそうである。

- ① 3棟間の切り合い・重複関係から少なくとも3期の居住（建て替え）が確認できる。
- ② 切り合いの3例は、いずれも斜面下方の住居跡が斜面上方の住居跡を切っており、その位置関係に類似するものがある。また切られる住居跡と切る住居跡の規模についてみると、1例については差が認められるが、2例については差がほとんどない。これからこの3例は同時か、時間差があるにしても短期間に建て替えられた可能性が強い。
- ③ 住居跡が上下に重複する3例の時期差についても、その埋土状況や出土遺物から差があるとは思われない。

これら①・②・③と既述した大型の住居跡の占地及び隅丸方形を呈する住居跡の占地等を考え合わせると、当遺跡には少なくとも3棟から数棟を一単位とする集落が、限られた時期内に3期以上居住していたことになる。また集落一単位の構成は、やや大型の住居跡1棟に小型と中型の住居跡が数棟伴う構成となる可能性がある。

#### ④ 土器文様の特徴について

該期の土器は第1群土器とし、文様の形態等から1類～5類に類別した。そして1類の土器をさらに1類A～1類Eに細分した。これらの類別・細分した土器のうち大量に出土したのは、1類A（貝殻腹縁文主体の土器）と4類（貝殻条痕文が部分的に施文されている土器と無文の土器）である。

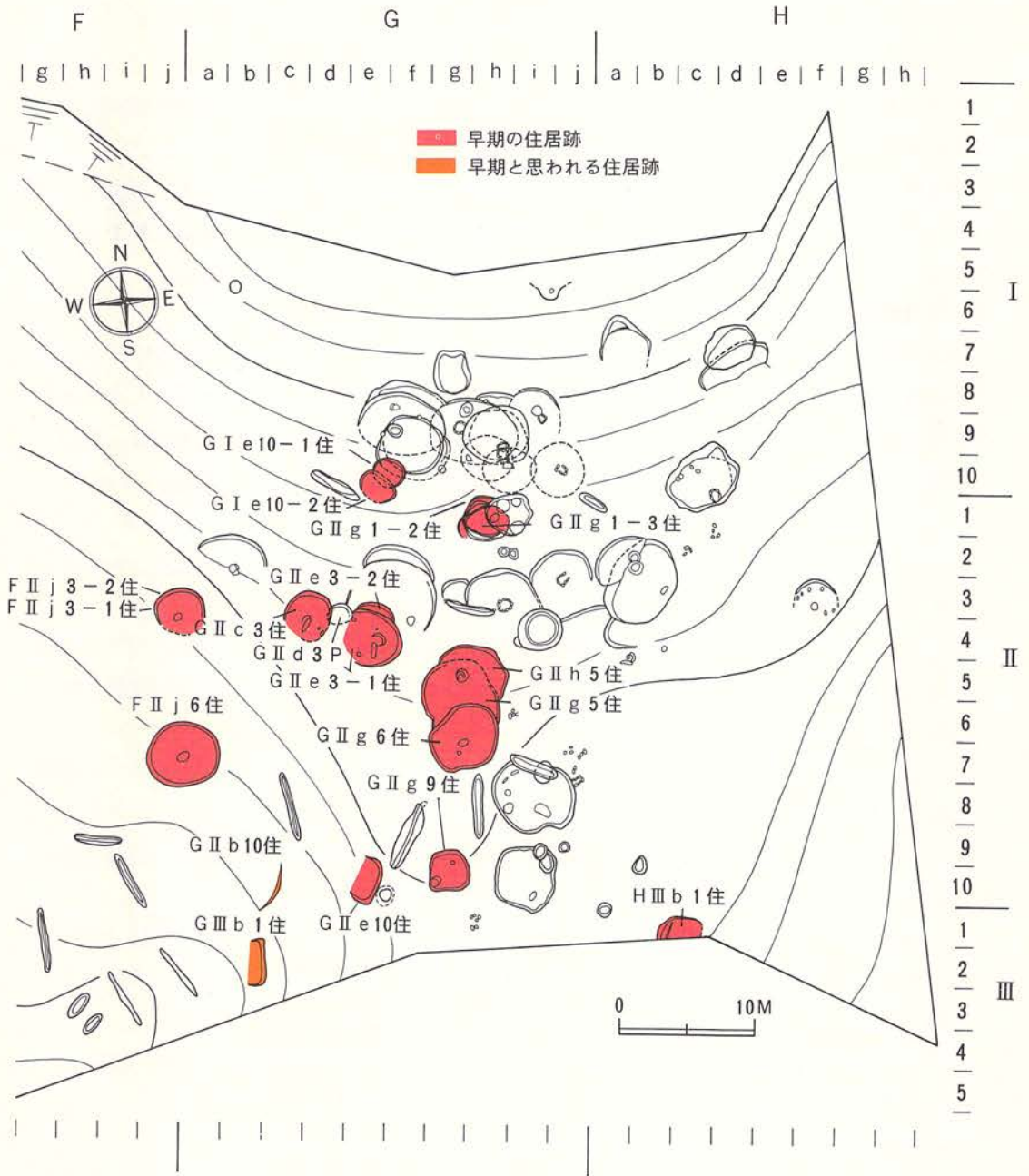
この1類Aに属する土器は、山形口縁を呈し、口唇部に刺突文か刻目を有するもので、口縁部文様帯に貝殻腹縁文を斜状・縦状・横状、特に縦位羽状・横位羽状に規則的に施文し、体部の無文とを刺突列や横直線上の腹縁文、斜状の短い腹縁文などによって区画することに特徴をもつ。

この特徴は、主に斜方向の貝殻腹縁文を全面に施文することに特徴をもつ「寺の沢式」や、貝殻腹縁連続波状文・押し引き文を全面に施文することに特徴をもつ「吹切沢式」及び短かい貝殻腹縁刺突を口縁と平行ないしは斜位に数段施文し、山形沈線が多用されることに特徴をもつ「螢沢AⅡ式」とは、若干異なるものである。

1類～5類に類別した土器のうち、2類は「物見台式」に、3類は「ムシリⅠ類」に概ね相当するものと思われる。

#### ⑤ 遺構外から出した土器の分布状況と出土層位

1類に属する土器は主にGⅡ区とFⅡ区の境界周辺及びFⅡj6住居跡とGⅡg5住居跡の間に集中して出土した。2類の属する土器はHⅡa10ピットとHⅡb9ピット及びHⅢb1住居跡を結ぶ、ごく限られた範囲に集中して出土している。また3類に属する土器はDⅡh10ピットとDⅢj4ピットの周辺部に若干まとまる形で出土し、DⅢ区、EⅢ区からまばら採集さ



第288図 縄文時代早期住居跡の占地

れた。

このように1類、2類、3類に類別される土器が、それぞれ分布範囲を異にする傾向にあることはどのような理由によるものか、興味深い。

当遺跡の土層についてみると、斜面上方から斜面下方（北側から南側）に、かなり流失していること、南部浮石は第Ⅱ層に含まれ、この層に該期の土器を包含するが、明確な層位として捉えることができないことから層位的な遺物の取り上げはできなかった。

#### ⑥ 住居跡内からの伴出土器について

遺物の多かった住居跡は16棟の住居跡の中ではやや大型にはいるFⅡj6住居跡である。この住居跡は掘り込みも深く、その埋土状態は他の住居跡に比べて最も安定しており、中央部の攪乱部を除けばほぼ単一層となる。この単一層（攪乱部を除く）から得られた土器は、類別した1類の土器を中心とする。文様別に主なものを列記すると以下のとおりとなる。

- ㊶ 山形口縁で、口唇部に刺突を有する無文の土器（151・185）。
- ㊷ 山形口縁で、口唇部に刺突を有し、口縁部文様帯に斜状の貝殻腹縁文が施文されている土器（197）。
- ㊸ 山形口縁で、口唇部に刻目・刺突を有し、口縁部文様帯に横位羽状・縦位羽状の貝殻腹縁文を施文し、体部の無文とを刺突列や横直線上の腹縁文によって区画する土器（186・201・202・217・245・264・280）。
- ㊹ 山形口縁で、口唇部に刻目を有し、口縁部に横状と縦状の（一部網目状となる）貝殻腹縁文が施文されている土器（155）。
- ㊺ 山形口縁で、口唇部に刺突を有し、口縁部文様帯の刺突列間に横位羽状の貝殻腹縁文が施文されている土器（220）。
- ㊻ 山形口縁で、口縁部文様帯に刺突列文が施文されている土器（191・209・225・250）。
- ㊼ 平縁で、口唇部に刻目を有し、口縁部文様帯に横状・斜文の条痕文が施文されている土器（189）。
- ㊽ 山形口縁で、器面は無文、口唇部と器裏に貝頂圧痕文が施文されている土器（251）。
- ㊾ 体部に貝殻腹縁連続波状文が施文されている土器（260・285）。
- ㊿ 丸底を呈し、底面まで横状の貝殻腹縁文が施文されている土器（190）。

器形は底部から口縁部に直線的に開くものと、口縁部でやや外傾するものがある。底部は砲弾形を呈するものと乳房形を呈するものがある。底部から体部へ開く角度はまちまちである。

これらの土器のうち、㊶～㊿は山形口縁を呈すること、口唇部に刻目や刺突を有すること、口縁部に文様帯をもつこと、施文具・施文方法に類似点がみられることなど、器形・文様等か

らみて共通点が多い。

㉑に列記した260の土器片は、体部に貝殻腹縁連続波状文が密に施文されることから、「吹切沢式」の特徴に似るものである。また㉒に列記した190は丸底を呈し、器形からみて特徴があるばかりでなく、横状の貝殻腹縁文を底面まで施文する手法は、口縁部に文様帯をもつことに特徴をもつ1類の土器群とは異質のものである。

### (3) 縄文時代後期初頭から前葉の住居跡と伴出土器について

縄文時代後期初頭から前葉の竪穴住居跡は計27棟検出され（該期と推定される住居跡は除く）、該期の土器も多く出土した。以下に立地面、住居跡の特徴、土器の特徴を項目ごとに略記する。

#### ① 住居跡の立地面

後期初頭から前葉の住居跡は、早期の住居跡と同様に調査区東側（G II区）の北から南側に舌状に張り出す尾根に集中して検出された。

これらの住居跡は、尾根筋とその南東斜面に偏る傾向がみられ、尾根筋から南西斜面に偏る傾向にある早期住居跡の占地とは斜面を異にする。

#### ② 住居跡の特徴について

##### ① 形状・規模について

形状は円形から楕円形を呈するものが大半を占めるが、隅丸方形から隅丸長方形を呈するものとみられる。規模は開口部の計測で、最小の住居跡で直径約3.4m、最大の住居跡で6.6mである。総じて4mから5m前後の住居跡が多い。

##### ② 炉の形態について

炉には石囲い炉と地床炉の2形態がみられる。石囲い炉は石を方形状に囲むもの（G II b 2住）、石と土器片を楕円状に囲むもの（G II j 8住）、粘土ですり鉢状に囲むもの（H II f 3住）とに大別される。地床炉にはその中央部に土器を横位から斜位に埋設しているものが多くみられ（G I e 9-1住、G I h 10-1住、G II f 2-1住、G II i 7住、G II j 7住、H II a 2-2住）、その構造形態に特徴がある。

#### ③ 切り合い関係

該期の住居跡は、早期の住居跡と同様に同時期住居跡間の切り合いが認められる。この切り合う住居跡間の位置関係をみると、斜面下方の住居跡が斜面上方の住居跡を切っている例（G II f 2-1住がG II f 2-2住を切る）、斜面にむかって左右に切り合う例（G I h 10-1住とG II i 9住）と斜面下方の住居跡が廃絶あるいは土砂で埋まった後にその斜面上方に構築する例（H I C 7-2住の上方にH I C 7-1住が、H II a 2-2住の上方にH II a 2-1住が



構築されている)がある。この後者の例はH区の急斜面にみられる。また3棟間の切り合い関係から、少なくとも3期の居住(建て替え)が確認できる。

#### ④ 土器文様の特徴について

該期の土器は第Ⅳ群土器として、文様の形態・手法、器形、器種等から1類～9類に類別したが、これらのうち最も多く出土した1類～3類の土器について略記する。

1類の土器は単節斜縄文を地文とし、「S」・「逆S」字や蛇行文を充填文とする三角形の沈線区画文が施文される土器である。2類の土器は文様の構成としては1類とほぼ変化はないものの初歩的な磨消方法がみられ、一単位の三角形の沈線区画文が大きく描かれたり、「S」や「逆S」字の充填文様が大きく描かれる傾向にある土器である。3類の土器は方形から長方形の沈線区画文が施文され、磨消方法が多用されている土器である。

これらのうち3類は十腰内Ⅰ式にはほぼ相当するもの、2類と1類は十腰内Ⅰ式に先行する土器と思われる。しかしGⅡf2-1住居跡の床面と炉内から出土した土器は、2類～3類の土器で、共伴する形で出土している。このことから考えると、1類、2類の土器は3類の土器にやや先行するか、あるいは文様変遷の過渡期にあたり、一部共伴する時期があるものなのか、いずれにせよ3類の土器群とあまり時期差のない土器群と思われる。

#### 〈参考・引用文献〉

- 江坂 輝弥 1950 「青森県下北群東通村尻屋物見台遺跡調査報告」考古学雑誌36-4  
〃 1955 「青森県下北群吹切沢遺跡」日本考古学年報3  
〃 1955 「青森県下北群ムシリ遺跡」日本考古学年報3  
名久井文明 1974 「北日本縄文式早期編年に関する一試考」考古学雑誌 第60巻 第3号  
〃 1982 「貝殻文尖底土器」縄文文化の研究 第3巻 雄山閣  
庄内 昭男 1983 「施文原体 貝殻文」縄文文化の研究 第5巻 雄山閣  
須藤 隆 1985 「東北地方における縄文集落の研究」東北大学考古学研究報告1

- 二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 長瀬B遺跡、岩埋文センター文化財調査報告書第36集  
吠屋敷Ⅰaの遺跡発掘調査報告書 岩埋文センター文化財調査報告書第61集  
江刺家遺跡発掘調査報告書 岩埋文センター文化財調査報告書第70集  
平船Ⅲ遺跡発掘調査報告書 岩埋文センター文化財調査報告書第76集  
小井田Ⅲ遺跡発掘調査報告書 岩埋文センター文化財調査報告書第85集  
五庵Ⅰ遺跡発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告 第97集

駒板遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第98集
馬場野Ⅱ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第99集
安比内Ⅰ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第106集
沼久保遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第109集
桂平遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第110集
広沖遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第111集
五庵Ⅲ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第112集
岩手県埋蔵文化財発掘調査略報	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第115集
親久保Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第116集
集		
青ノ久保遺跡発掘調査報告書	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告	第118集

三宅徹也・葛西 励 1979 「螢沢遺跡」青森市螢沢遺跡発掘調査団

中村良幸 1979 「立石遺跡」大迫教育委員会

江坂輝彌 1988 「縄文土器文化初頭の石器の特質」月刊考古学ジャーナル2 No.287

ニュー・サイエンス社

表1 竪穴住居跡一覧表(1)

No	住居跡名	規模 m ( )は推定値	形状 ( )は推定	炉		出土遺物	時期
				形態	位置		
1	D I h 9	(径3)	(円形)	地床炉	床面中央部	石器1点	後期初頭 ～前葉
2	D I i 6-1	(径4.8前後)	(円形)	石囲い炉	ほぼ中央	} 石器6点、石器14点	後期初頭 ～前葉
3	D I i 6-2	(径4.8前後)	(円形)	地床炉	中央		後期初頭 ～前葉
4	D I i 6-3	(径4.8前後)	(円形)	—	—		後期初頭 ～前葉
5	D I I d 10	開口部径3.4×3.27 床面部径3.18×3.1	円形	複式炉	南西部	土器3点、石器2点	中期末葉
6	D I I g 3	径4前後	(円形)	地床炉	ほぼ中央部	石器1点	後期初頭 ～前葉
7	E I h 7	(径4)	(円形)	石囲い炉	(中央部)	土器1点、石器96点	後期初頭 ～前葉
8	F I I j 3-1	開口部径3.6 床面部径3.4	円形	地床炉	やや南側	} 土器17点、石器5点	早期
9	F I I j 3-2	開口部径3.6 床面部径3.4	円形	地床炉	やや南側		早期
10	F I I j 6	開口部径4.6×5.3 床面部径4.4×5.0	楕円形	地床炉	やや南側	土器152点、石器18点	早期
11	G I e 8-1	長軸径6	楕円形	—	—	} 土器39点、石器11点	後期初頭 ～前葉
12	G I e 8-2	(径6.3×4.3)	(楕円形)	—	—		後期初頭 ～前葉
13	G I e 9-1	径4.4×4.2	円形	地床炉	南東	} 土器88点、石器24点 土製品2点	後期初頭 ～前葉
14	G I e 9-2	径4.4×4.5	隅丸方形に近い円形	—	—		後期初頭 ～前葉
15	G I e 10-1	(径2.3)	円形	—	炉南側	土器1点	早期
16	G I e 10-2	床面部径2.55×2.0	楕円形	地床炉	南東部	—	早期
17	G I g 7	開口部辺2.5×3.0 床面部辺2.2×2.6	不整長方形	—	—	土器4点	後期初頭 ～前葉
18	G I g 9	(径6.35×4.35)	(楕円形)	炉1石囲い炉 炉2(石囲い炉)	やや北側 南西部	土器60点、土製品3点 土偶2点、石器24点	弥生
19	G I h 8	—	円形か楕円形	—	—	土器片5点、土製品1点	後期初頭 ～前葉
20	G I h 9-1	床面部径4.15×3.85	円形	複式炉	南端	土器58点、土製品2点 土偶破片1点、石器23点	中期末～ 後期初頭
21	G I h 9-2	(床面部径4.3×3.8)	円形	複式炉	南端	土器2点	中期末～ 後期初頭
22	G I h 10-1	(径3.9×3.5)	(円形)	地床炉	中央部	} 土器21点 石器3点	中期末～ 後期初頭
23	G I h 10-2	—	(円形か楕円形)	—	—		中期末～ 後期初頭
24	G I i 8	径3.6	(円形)	石囲い炉	南東部	土器37点、石器8点 土製品2点	後期初頭 ～前葉
25	G I i 9	(径5前後)	(円形)	石囲い炉	中央	土器17点、石器4点 土製品1点	後期初頭 ～前葉

表2 竪穴住居跡一覧表(2)

No.	住居跡名	規模 m ( )は推定値	形状 ( )は推定	炉		出土遺物	時期
				形態	位置		
26	G II b 2	開口部径5.2 床面部径5.0	円形	石囲い炉	ほぼ中央部	土器9点	後期初頭 ～前葉
27	G II b 10	—	(方形から長方形)	—	—		早期?
28	G II c 3	開口部径3.4×3.8 床面部径3.4×3.5	円形	地床炉	やや南側と南東 壁寄りの2ヶ所	土器24点、石器7点	早期
29	G II e 3-1	開口部径4.1×4.7 床面部径3.9×4.5	楕円形	地床炉	やや南側	土器50点、土製品1点 石器4点	早期
30	G II e 3-2	—	ほぼ円形	—	—	土器9点	早期
31	G II e 10	(辺3.2前後)	不整形	—	—	土器6点	早期
32	G II f 2-1	開口部径6.6 床面部径6.4	円形	地床炉	南東寄り	土器87点、土製品8点 石器79点	後期初頭 ～前葉
33	G II f 2-2	開口部径5.6前後	円形	—	—	土器26点、土製品1点 石器2点	後期初頭 ～前葉
34	G II g 1-1	開口部辺3.0 床面部辺2.8前後	ほぼ方形	—	—	土器11点	後期初頭 ～前葉
35	G II g 1-2	—	円形	—	—	土器7点、石器1点	早期
36	G II g 1-3	(開口部径2.7×3.3前後)	楕円形	地床炉	やや南側	石器1点	早期
37	G II g 3	開口部径5.5 床面部径5.3	円形	石囲い炉	ほぼ中央部	土器40点、土製品2点 石器3点	弥生
38	G II g 5	(開口部径5.3×5.5前後)	楕円形	—	—	土器21点、石器10点	早期
39	G II g 6	開口部径4.4×5.2 床面部径4.1×4.9	楕円形	地床炉	南西寄りと 南寄りの2基	土器53点、石器23点	早期
40	G II g 9	開口部辺2.9×3.1 床面部辺2.6×2.9	方形	地床炉	北側	土器42点、石器9点	早期
41	G II h 1	開口部径3.1×3.4 床面部径2.7×3.1	不整形	—	—	土器22点、石器4点	後期初頭 ～前葉
42	G II h 5	(開口部径5前後)	円形	地床炉	やや東側	土器37点、石器5点	早期
43	G II h 9	開口部辺4.3×4.5 床面部辺3.7×4.0	ほぼ隅丸方形	石囲い炉	南側	土器37点、土製品1点 石器9点	後期初頭 ～前葉
44	G II i 2	開口部径4.5前後)	円形	石囲い炉	ほぼ中央部	土器24点、石器2点	弥生
45	G II i 7	開口部径5.4×6.4 床面部径5.1×6.2	楕円形	地床炉	南東寄り	土器58点、土製品1点 石器16点	後期初頭 ～前葉
46	G II j 4	—	(方形から隅丸方形)	—	—	土器1点、土偶1点 石器1点	後期初頭 ～前葉
47	G II j 7	—	—	地床炉	—	土器1点、石器2点	後期初頭 ～前葉
48	G II j 8	—	—	石囲い炉	—	土器1点	後期初頭 ～前葉
49	G III b 1	—	(方形から長方形)	—	—		早期?
50	H I a 6	開口部辺3.7 床面部辺3.4	不整形	地床炉	東壁寄り	土器19点、石器1点	後期初頭 ～前葉

表 3 竪穴住居跡一覧表(3)

No	住居跡名	規模 m ( )は推定値	形状 ( )は推定	炉		出土遺物	時期
				形態	位置		
51	H I c 7-1	開口部径3.9 床面部径3.5	不整形円形	石囲い炉	やや南西寄り	土器76点、石器9点 土製品8点、石製品2点	後期初頭 ～前葉
52	H I c 7-2	辺4.8	(不整形方形)	—	—	土器5点、石器3点	後期初頭 ～前葉
53	H I c 10	開口部径4.2 床面部径4.0	楕円形	石囲い炉	やや南東寄り	土器36点、土製品4点 石器12点	後期初頭 ～前葉
54	H II a 2-1	(開口部径4.7前後)	(円形から隅丸方形)	地床炉	やや南西	土器5点、石器2点	後期初頭 ～前葉
55	H II a 2-2	開口部径6.1 床面部径5.9	楕円形	地床炉	南東寄り	土器25点、土製品1点 石器8点	後期初頭 ～前葉
56	H II a 3	—	(方形)	—	—	土器12点、石器6点	後期初頭 ～前葉
57	H II a 5	—	—	石囲い炉	—	土器8点、石器3点	弥生
58	H II f 3	(開口部径3.4前後)	(円形)	—	—	土器16点	後期初頭 ～前葉
59	H III b 1	径2.8	(隅丸方形)	—	—	土器25点	早期
60	G II g 3 住居跡状遺構	—	ほぼ円形	—	—	土器8点	後期初頭 ～前葉

表4 ピット一覧表

No	遺構名	平面形	断面形	規模 (cm)			出土遺物
				開口部	底部	深さ	
1	D I d 7	不整形	フラスコ状	75	118	137	
2	D I e 10	楕円形	ビーカー状	220×300	220×300	160	
3	D I g 6	やや不整形	フラスコ状	115	130	30	
4	D II e 3	やや不整形	〃	85×95	135	100	
5	D II e 8-1	円形	ビーカー状	70	55	35	
6	〃 - 2	やや不整形	〃	60	90	50	
7	D II f 9	楕円形	フラスコ状	90×108	150	70	
8	D II h 6	円形	皿状	185	175	20	
9	D II h 10	〃	フラスコ状	190	175	95	石器1点
10	D II i 8	〃	〃	110	135	45	
11	D III a 9	〃	〃	135	145	30	
12	D III f 4	卵形	〃	70×100	130	90	
13	D III j 4	円形	皿状	165×195	155×180	15	土器1点
14	E I e 10	〃	〃	110	95	15	
15	E II e 1	楕円形	〃	80×150	60×(120)	20	
16	G I b 6	やや不整形	ビーカー状	90×100	65×90	25	
17	G II d 3	円形	〃	推定 105	推定 120	推定 60	
18	G II e 10	〃	フラスコ状	90	100	28	
19	G II h 2-1	〃	ビーカー状	80	60	40	
20	〃 - 2	〃	〃	65	60	35	
21	G II i 7	〃	フラスコ状	100	118	60	土器7点
22	G II i 9	〃	皿状	115	95	25	
23	G II j 9	〃	ビーカー状	55	35	20	
24	H II a 2-1	〃	〃	100	85	30	土器2点
25	〃 - 2	〃	〃	65	45	30	土器1点
26	H II a 10	〃	〃	105	20×45	150	土器4点、石器1点
27	H II b 9	やや不整形	皿状	105×125	90×125	15	

表5 陥し穴一覧表(1)

No.	遺構名	平面形	断面形	規模 (cm)			出土遺物
				開口部	底部	深さ	
1	D I g 9	溝状	Y字状	長径×短径 223×1.03	163×19	106	土器1点
2	D III g 5	(隅丸長方形)	U字状	230×65~80	208×27	124	
3	D III i 5	(長円形)	逆台形	260×118	240×45	146	土器6点、石器1点
4	D III j 5	( " )	"	290×94	263×33	132	土器2点、石器1点 石製品1点
5	E I f 9	溝状(長円形)	V字状	404×50	440×8~17	120	
6	E I i 10-1	溝状	U字状	332×25	310×8~16	95	土器10点
7	" -2	"	V字状	345×30	335×5	108	
8	E I j 10	"	U字状	423×14	427×8	80	土器6点
9	E II b 5	"	Y字状	543×78	613×20	121	土器1点
10	E II h 7	"	V字状	307×17	311×6	67	
11	E II i 7	"	"	390×24	377×7	56	
12	E III i 1	"	U字状	418×23	405×7	54	
13	E III i 3	"	"	376×35	376×19	50	
14	F I a 6	"	"	385×32 (368×18)	354×9	67	
15	F I a 9	"	"	405×58	450×12	128	
16	F II h 9	"	"	348×32	362×18	70	
17	F II i 9	"	"	420×46	415×12	78	
18	F III g 1	"	"	408×30	392×8	90	
19	F III h 3	隅丸長方形 あるいは長円形	逆台形	195×80	151×45		
20	F III i 3	溝状	V字状	468×13~28	462×8	70	
21	F III i 4	隅丸長方形	逆台形	181×81	135×50	82	
22	F III j 2	溝状	V字状	452×18	446×5~7	65	
23	G I d 10	"	Y字状	410×64	360×12~20	118	
24	G II c 7	"	U字状	490×19	488×6~9	72	土器3点
25	G II f 8	ダルマ状	"	475×88	525×8	141	土器25点、土偶1点

表6 陥し穴一覧表(2)

No.	遺構名	平面形	断面形	規模 (cm)			出土遺物
				開口部	底部	深さ	
26	G II g 3	逆S字状に 湾曲する溝状	V字状	383×48~54	413×11	102	土器1点
27	G II h 7	溝状	U字状	446×43~55	449×7~12	122	土器13点
28	G II i 7	〃	U字状あるいは V字状	394×44	388×15~20	150	土器4点、土製品1点 石器3点
29	G II j 1	〃	V字状あるいは Y字状	276×45~77	283×20	120	



表7 石器計測一覧表(1)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1	9	79	D I h 9住	床面相当	磨石併凹石	9.1	7.5	3.2	225.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
8	11	"	D I i 6住	床面	剥片石器	3.1	3.98	0.97	8.8	玉髓	
9	"	"	"	"	"	3.95	3.9	0.65	7.8	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
10	"	"	"	"	"	3.8	3.15	0.95	10.4	玉髓	
11	"	"	"	"	"	3.15	4.55	0.9	9.85	流紋岩	
12	"	"	"	"	楔形石器	3.1	2.55	0.5	3.35	チャート	北上山地、古生界
13	"	"	"	"	剥片石器	3.75	4.0	1.1	12.45	玉髓	
14	"	"	"	"	"	4.7	4.3	0.9	17.35	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
15	"	"	"	"	"	2.8	1.7	0.6	3.75	チャート	北上山地、古生界
16	"	"	"	"	"	4.2	4.6	0.8	11.15	玉髓	
17	"	"	"	"	"	3.15	5.0	0.95	11.4	"	
18	"	"	"	"	"	2.85	3.0	0.8	4.5	"	
19	"	"	"	"	"	4.5	4.7	1.0	15.95	"	
20	"	"	"	"	"	4.3	2.5	1.35	8.55	"	
21	"	"	"	"	棒状擦石	(9.2)	5.35	8.11	545.0	輝石安山岩	擦面(4.94)×1.86cm 5.20×1.80cm
25	13	80	D I I d 10住	周辺	磨石併凹石	10.5	6.1	3.95	360.0	"	奥羽山地、新第三系中新統
26	"	"	"	埋土上位	剥片石器	2.7	4.5	0.9	9.9	細砂質凝灰岩	"
27	14	"	D I I g 3住	柱穴	棒状擦石	(7.7)	6.6	7.19	475.0	輝石安山岩	擦面(5.40)×3.15cm (3.90)×2.10cm
29	15	"	E I h 7住	床面相当	楔形石器	3.15	1.3	0.9	4.75	チャート	北上山地、古生界
30	"	"	"	"	"	3.2	1.5	1.1	4.95	"	"
31	"	"	"	"	"	2.85	2.35	0.9	4.1	"	"
32	"	"	"	"	"	2.22	1.24	0.64	2.15	"	"
33	"	"	"	"	"	2.55	1.58	0.47	2.15	"	"
34	"	"	"	"	"	2.75	1.8	0.6	3.05	"	"
35	"	"	"	"	"	3.15	1.5	0.8	3.4	"	"

表8 石器計測一覧表(2)

遺物 番号	図版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)		
36	15	80	E I h 7住	焼土	楔形石器	3.53	1.17	0.83	4.2	チャート	北上山地、古生界
37	"	"	"	"	"	3.5	1.95	0.85	6.3	"	"
38	"	"	"	"	"	3.05	1.5	1.0	4.05	"	"
39	"	"	"	"	"	2.8	2.5	1.2	6.7	"	"
40	"	"	"	"	"	3.5	2.1	1.1	8.55	"	"
41	16	"	"	"	"	2.7	1.3	0.9	3.35	"	"
42	"	"	"	"	"	2.44	2.3	0.91	5.2	"	"
43	"	"	"	"	"	2.75	1.95	0.9	3.45	"	"
44	"	"	"	焼土付近	"	2.75	1.95	1.15	5.2	"	"
45	"	"	"	焼土	"	3.8	1.15	0.9	3.6	"	"
46	"	"	"	"	"	2.5	2.76	1.12	6.25	"	"
47	"	"	"		剥片石器	3.0	2.24	1.15	6.5	"	"
48	"	"	"	焼土	"	3.55	1.75	1.0	5.15	"	"
49	"	"	"	"	"	1.5	1.5	0.65	1.5	"	"
50	"	"	"	"	"	2.25	1.47	0.55	1.4	"	"
51	"	"	"	"	"	2.0	1.85	0.35	0.85	"	"
52	"	"	"	"	"	3.25	2.7	0.5	5.4	"	"
53	"	"	"	"	"	2.36	1.3	0.3	0.95	"	"
54	"	"	"	"	"	2.2	1.45	0.45	1.0	"	"
55	"	"	"	"	"	1.4	2.0	0.5	2.25	"	"
56	"	"	"	焼土	"	2.2	1.95	0.7	2.3	"	"
57	"	"	"		"	2.5	1.55	0.7	2.15	"	"
58	"	"	"	焼土	"	2.55	1.7	0.6	3.65	"	"
59	"	"	"	"	"	2.6	1.6	0.5	2.95	細砂質凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
60	"	"	"	"	"	2.6	1.3	0.3	1.05	チャート	北上山地、古生界

表9 石器計測一覧表(3)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出土地点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
61	16	80	E I h 7住	床面相当	剥片石器	3.0	1.3	0.55	1.35	チャート	北上山地・古生界
62	"	"	"	"	"	2.6	2.1	0.6	2.85	"	"
63	"	"	"	"	"	2.2	2.7	1.1	3.8	"	"
64	"	81	"	"	"	2.5	2.1	0.5	2.8	"	"
65	"	"	"	"	"	2.7	1.3	0.3	1.25	"	"
66	"	"	"	"	"	2.1	1.05	0.2	0.7	"	"
67	"	"	"	"	"	2.3	1.7	0.5	2.0	"	"
68	"	"	"	"	"	2.0	2.15	0.9	4.3	"	"
69	"	"	"	"	"	1.8	1.8	0.5	1.95	"	"
70	"	"	"	"	"	2.65	1.0	0.5	1.05	"	"
71	"	"	"	"	"	3.0	1.05	0.4	1.25	"	"
72	"	"	"	"	"	2.1	1.0	0.5	1.25	"	"
73	"	"	"	"	"	2.8	1.0	0.5	1.15	"	"
74	"	"	"	"	"	2.75	1.3	0.35	1.3	"	"
75	"	"	"	"	"	3.38	0.92	0.4	0.9	"	"
76	"	"	"	"	"	3.23	1.49	0.76	2.85	"	"
77	"	"	"	"	"	3.7	1.5	0.6	2.15	"	"
78	"	"	"	"	"	3.9	1.0	0.7	1.4	"	"
79	"	"	"	"	"	4.0	1.1	1.0	4.6	"	"
80	"	"	"	"	"	4.2	1.48	0.6	3.35	"	"
81	17	"	"	"	"	1.81	1.51	0.56	1.6	"	"
82	"	"	"	"	"	1.96	1.2	0.74	1.9	"	"
83	"	"	"	"	"	2.0	1.6	0.55	1.15	"	"
84	"	"	"	"	"	1.5	2.7	0.55	1.85	"	"
85	"	"	"	"	"	2.2	1.6	0.4	1.45	"	"

表10 石器計測一覧表(4)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重さ(g)		
86	17	81	E I h 7 住	床面相当	剝片石器	2.2	1.6	0.55	1.75	チャート	北上山地、古生界
87	"	"	"	"	"	2.3	1.7	0.4	1.15	"	"
88	"	"	"	"	"	2.1	1.35	0.5	1.4	"	"
89	"	"	"	"	"	2.2	1.4	0.35	1.1	"	"
90	"	"	"	"	"	3.3	1.5	1.2	4.0	"	"
91	"	"	"	"	"	2.3	1.2	0.25	0.65	"	"
92	"	"	"	"	"	2.25	1.3	0.65	1.65	"	"
93	"	"	"	"	"	2.2	1.7	0.3	0.85	"	"
94	"	"	"	"	"	2.4	2.2	0.35	1.75	"	"
95	"	"	"	"	"	2.0	1.9	0.35	1.3	"	"
96	"	"	"	"	"	2.6	1.15	0.65	1.5	"	"
97	"	"	"	"	"	2.42	0.75	0.47	0.65	"	"
98	"	"	"	"	"	2.6	1.5	0.6	1.6	"	"
99	"	"	"	"	"	2.29	1.7	0.56	1.9	"	"
100	"	"	"	"	"	2.45	2.25	0.7	3.15	"	"
101	"	"	"	"	"	2.6	1.15	0.6	1.6	"	"
102	"	"	"	"	"	2.4	1.6	1.0	4.4	"	"
103	"	"	"	"	"	1.75	2.6	0.45	1.55	"	"
104	"	"	"	"	"	2.25	1.3	0.35	0.75	"	"
105	"	"	"	"	"	2.3	1.85	0.4	1.5	"	"
106	"	"	"	"	"	2.44	1.55	0.7	3.9	"	"
107	"	"	"	"	"	2.7	1.8	1.1	5.4	"	"
108	"	"	"	"	"	3.3	1.3	1.05	4.55	"	"
109	"	"	"	"	"	2.7	1.8	0.15	0.65	"	"
110	"	"	"	"	"	2.95	1.6	0.45	2.15	"	"

表11 石器計測一覧表(5)

遺物 番号	図版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
111	17	81	E I h 7住	床面相当	剥片石器	3.0	1.2	0.8	3.15	チャート	北上山地、古生界
112	"	"	"	"	"	3.54	0.88	0.64	1.35	"	"
113	"	"	"	"	"	4.94	1.97	1.3	9.45	"	"
114	"	"	"	"	"	6.1	1.7	0.9	11.4	"	"
115	"	"	"	"	"	2.15	1.75	0.3	0.75	"	"
116	"	"	"	"	"	2.65	1.5	0.55	2.2	"	"
117	"	"	"	"	"	2.9	1.0	0.8	2.7	"	"
118	"	"	"	"	"	2.2	1.8	0.86	3.35	"	"
119	"	"	"	"	"	2.96	1.0	0.52	1.35	"	"
120	"	"	"	"	"	2.9	1.2	0.4	1.2	"	"
121	"	"	"	"	"	2.8	1.35	0.55	1.05	"	"
122	"	"	"	"	"	2.38	1.83	0.49	1.75	"	"
123	"	"	"	"	"	2.65	1.6	1.1	4.65	"	"
124	"	82	"	"	棒状擦石 痕と敲技痕 の認められ る石器。	13.3	5.9	8.14	1015.0	輝石安山岩	擦面 8×2.3cm
142	20	"	F II j 3-1住	床面	石篋	5.67	3.28	1.4	27.1	粘板岩	北上山地、古生界
143	"	"	"	"	石皿	13.0	10.6	7.25	1205.0	角閃黒雲母花崗岩	北上山地、古生界
144	"	"	"	"	"	13.0	11.4	5.1	610.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
145	"	"	"	埋土	棒状擦石	(12.95)	7.0	7.65	840.0	"	擦面(10.04)×2cm
146	"	"	"	"	棒状擦石	11.28	5.8	7.25	755.0	"	1.擦面10.02×3.16cm 2.擦面9.16×3.24cm
299	32	90	F II j 6住	"	石鏃	2.45	1.42	0.43	1.4	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
300	"	"	"	"	搔器	2.83	1.5	0.6	2.2	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
301	"	"	"	"	"	4.75	2.81	1.1	9.35	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
302	"	"	"	"	"	3.3	3.5	1.0	7.75	"	"
303	"	"	"	"	"	3.4	3.1	0.6	9.9	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
304	"	"	"	"	"	4.2	2.55	0.85	11.5	"	"

表12 石器計測一覧表(6)

遺物 番号	図版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)		
305	32	90	F I j 6住	1層上位	掻器	5.7	2.1	0.91	7.1	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
306	"	"	"	1層下位	剥片石器	2.35	3.2	0.6	4.35	硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
307	"	"	"	1層中位	"	2.6	2.0	0.75	5.5	凝灰質珪質泥岩	"
308	"	"	"	埋土	"	3.1	3.05	1.0	6.2	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地、古生界
309	"	"	"	床面攪乱内	"	5.3	5.1	1.3	19.1	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
310	"	"	"	南壁床直上	磨製石斧	13.11	5.13	2.08	190.0	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
311	"	"	"	1層下位	棒状擦石	(9.8)	6.6	6.85	430.0	輝石安山岩	擦面(9.2)×3.0cm
312	"	"	"	埋土	"	(9.87)	7.0	6.83	665.0	"	" (9.23)×2.17cm (3.85)×1.80cm
313	"	"	"	"	"	(12.9)	5.35	8.16	835.0	"	" (10.2)×2.6cm
314	"	"	"	床面	"	14.1	3.76	7.08	565.0	"	" 10.00×1.40cm 8.30×1.80cm
315	"	"	"	"	"	(16.1)	5.2	7.09	930.0	"	" (14.40)×2.60cm
316	"	"	"	"	"	16.3	7.3	9.33	1360.0	"	" 13.30×1.60cm
356	36	92	G I e 8住	埋土	楔形石器	2.6	1.7	0.8	3.7	チャート	北上山地、古生界
357	"	"	"	埋土下位	"	3.5	2.6	1.0	8.85	"	"
358	"	"	"	埋土上位	剥片石器	3.75	3.6	0.8	10.75	粘板岩ホルンフェルス	"
359	"	"	"	"	"	2.1	1.6	1.1	2.6	輝緑凝灰岩質チャート	"
360	"	"	"	"	"	4.1	2.7	1.0	7.2	チャート	"
361	"	"	"	埋土下位	"	3.11	4.34	1.72	20.5	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
362	"	"	"	埋土	楔形石器	3.6	1.9	1.1	7.6	チャート	北上山地、古生界
363	"	"	"	"	剥片石器	3.6	2.6	0.5	4.25	"	"
364	"	"	"	"	"	4.65	3.5	1.15	23.25	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
365	"	"	"	"	"	3.7	2.75	1.1	11.35	チャート	北上山地、古生界
366	"	"	"	"	"	4.1	3.4	0.9	13.9	"	"
457	43	96	G I e 9住	焼土下	楔形石器	2.45	1.9	0.6	2.4	"	"
458	"	"	"	埋土	石筥	6.1	3.8	1.6	36.85	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統

表13 石器計測一覧表(7)

遺物 番号	図 実測	版 写真	遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
						長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
459	43	96	G I e 9住	柱穴	剥片石器	4.8	2.2	1.0	7.05	チャート	北上山地、古生界
460	"	"	"	投入焼内	楔形石器	4.1	2.05	1.0	9.15	チャート	"
461	"	"	"	"	剥片石器	2.55	2.3	0.5	2.15	"	"
462	"	"	"	"	"	3.0	2.3	0.7	4.4	"	"
463	"	"	"	"	楔形石器	3.5	2.1	0.9	5.75	"	"
464	"	"	"	"	"	3.7	1.7	1.2	6.3	"	"
465	"	"	"	埋土	"	3.0	2.2	0.9	6.4	"	"
466	"	"	"	埋土下位	"	3.05	2.1	0.7	5.55	"	"
467	"	"	"	埋土	"	3.2	2.1	0.7	3.55	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
468	"	"	"	"	"	2.77	2.29	0.94	5.95	チャート	北上山地、古生界
469	"	"	"	埋土下位	"	2.9	2.2	0.7	7.15	"	"
470	"	"	"	埋土	剥片石器	2.9	1.75	0.4	1.2	"	"
471	"	"	"	埋土下位	"	2.64	2.13	0.47	2.15	"	"
472	"	"	"	"	"	3.6	2.0	0.7	4.6	"	"
473	44	"	"	"	"	4.75	2.55	1.1	13.25	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
474	"	"	"	埋土	"	3.2	3.3	1.1	10.45	チャート	北上山地、古生界
475	"	97	"	埋土下位	磨製石斧	(10.75)	4.15	2.9	180.0	輝石玢岩	"
476	"	96	"	埋土下位	凹石	(10.1)	6.1	3.8	345.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
477	"	"	"	埋土上位	石製装飾品	4.0	2.15	0.45	4.7	細砂質凝灰岩	雫石南部、中新統
478	"	"	"	検出面	棒状擦痕	15.2	4.56	6.21	635.0	輝石安山岩	擦面12.3×10cm
479	"	"	"	"	"	(7.3)	3.19	5.61	185.0	"	擦面(6.3)×1.3cm
480	"	97	"	検出面	"	13.2	10.4	4.7	915.0	"	擦面8.1×1.5cm
551	52	99	G I g 9住	床面	搔器	3.65	4.1	1.3	18.35	玉髓	
552	"	"	"	"	剥片石器	4.2	2.6	1.1	13.3	チャート	北上山地、古生界
553	"	"	"	"	"	3.6	2.4	1.0	4.65	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統

表14 石器計測一覧表(8)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
554	52	99	G I g 9住	埋土上位	剥片石器	3.2	1.8	1.1	7.1	チャート	北上山地、古生界
555	"	"	"	"	搔器	2.9	3.95	1.0	13.95	"	"
556	"	100	"	"	"	3.8	2.4	1.0	7.55	細砂質凝灰岩	雫石西南部、新第三系中新統
557	"	"	"	埋土	剥片石器	4.1	3.9	1.2	16.25	粘板岩	北上山地、古生界
558	"	"	"	"	"	2.24	1.82	0.67	2.3	"	"
559	"	"	"	"	"	2.45	1.55	0.8	2.55	"	"
560	"	"	"	"	"	3.07	2.56	1.01	6.9	"	"
561	"	"	"	"	"	3.2	3.2	0.65	6.35	"	"
562	"	"	"	"	"	4.1	2.7	1.1	8.8	"	"
563	"	"	"	"	"	2.3	1.3	0.6	2.35	"	"
564	"	"	"	"	"	2.55	2.55	1.5	8.65	"	"
565	"	"	"	埋土	"	3.5	2.0	0.9	4.1	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
566	"	"	"	埋土上位	"	4.1	2.5	1.35	7.65	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
567	"	"	"	埋土	"	2.2	1.7	0.5	1.95	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
568	"	"	"	埋土上位	"	3.1	2.0	1.0	5.9	チャート	北上山地、古生界
569	"	"	"	埋土	"	3.45	1.3	0.5	2.25	"	"
570	"	"	"	埋土上位	"	4.4	2.2	1.2	7.2	細砂質凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
571	"	"	"	埋土	"	3.25	3.35	0.95	11.15	輝緑凝灰質チャート	北上山地、古生界
572	"	"	"	埋土上位	"	3.7	3.4	1.15	9.05	細砂質凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
573	"	"	"	埋土	凹石	6.38	6.38	3.44	165.0	輝石安山岩	"
574	"	"	"	床面	磨製石斧	12.7	4.8	2.65	250.0	輝石珪岩	北上山地、古生界
642	58	103	G I h 9-1住	"	搔器	4.0	2.77	1.13	14.55	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
643	"	"	"	埋土上位	"	(3.42)	(3.5)	0.68	6.7	凝灰質珪質泥岩	"
644	"	"	"	柱穴	剥片石器	2.7	3.3	0.7	3.85	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地、古生界
645	"	"	"	埋土上位	搔器	4.25	2.8	1.0	12.15	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統



表15 石器計測一覧表(9)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
646	58	103	GI h9-1住	埋土	搔器	5.2	1.8	0.9	9.45	チャート	北上山地、古生界
647	"	"	"	埋土上部	"	4.38	2.80	0.95	12.9	珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
648	"	"	"	埋土	"	3.14	3.83	1.08	12.1	凝灰質珩質泥岩	"
649	59	"	"	埋土	"	4.01	3.37	0.96	15.6	"	"
650	"	"	"	埋土上部	"	4.02	1.83	0.94	5.4	珩質泥岩	"
651	"	"	"	埋土上位	剥片石器	2.1	3.65	0.75	3.5	細砂質凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
652	"	"	"	—	"	3.0	1.85	0.7	3.5	凝灰質珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
653	"	"	"	埋土上位	"	2.6	1.90	0.55	1.3	細砂質凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
654	"	"	"	"	"	4.6	2.95	1.3	12.25	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地、古生界
655	"	"	"	"	"	4.5	2.15	0.5	3.6	硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
656	"	"	"	埋土	"	2.77	1.87	0.73	2.4	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
657	"	"	"	"	"	3.01	2.19	0.47	3.35	珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
658	"	"	"	—	"	3.0	2.26	1.05	7.2	凝灰質珩質泥岩	"
659	"	"	"	—	"	3.35	2.95	0.45	3.4	"	"
660	"	"	"	埋土上位	"	3.45	3.15	1.1	8.0	"	"
661	"	104	"	埋土下位	"	3.85	2.4	0.45	2.6	細砂質凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
662	"	"	"	埋土上位	"	3.25	2.5	1.15	5.95	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地、古生界
663	"	"	"	埋土	磨製石斧	(10.75)	4.75	3.15	240.0	輝石玢岩	"
664	"	"	"	埋土上位	石篋	6.9	4.38	1.2	44.2	粘板岩	"
688	64	105	GI h10-12住	—	剥片石器	2.0	2.5	0.6	1.1	輝緑凝灰岩質チャート	"
689	"	"	"	埋土	"	4.33	2.53	1.08	9.3	チャート	"
690	"	"	"	検出面	"	4.2	1.92	0.47	3.3	細砂質凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
730	67	107	GI i 8 住	埋土	石鏃	2.85	0.7	0.85	0.65	粘板岩ホルンフェルス	北上山地、古生界
731	"	"	"	埋土	剥片石器	1.7	2.65	0.9	2.6	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
732	"	"	"	埋土	"	2.1	2.55	0.6	3.3	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統

表16 石器計測一覧表(10)

遺物 番号	版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
733	67	107	G I i 8住	埋土	磨製石斧	6.9	1.6	1.1	18.75	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
734	"	"	"	埋土	剥片石器	4.8	2.1	0.8	6.4	硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
735	"	"	"	埋土	"	2.75	1.5	0.75	1.6	輝緑凝灰質チャート	北上山地、古生界
736	"	"	"	埋土	搔器	4.8	3.7	1.2	23.0	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
737	"	"	"	埋土	磨石	11.04	10.66	6.09	1070.0	輝石安山岩	奥羽山地
756	69	108	G I i 9住	埋土	剥片石器	3.6	2.0	1.4	6.8	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
757	"	"	"	埋土	"	4.7	2.43	1.36	11.6	玻璃質流紋岩	"
758	"	"	"	"	"	2.08	1.96	0.7	2.35	細砂質凝灰岩	"
759	"	"	"	埋土	"	2.5	2.3	0.5	2.8	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
793	74	109	G II c 3住	埋土	石鏃	3.65	1.2	0.45	1.6	粘板岩ホルンフェルス	北上山地、古生界
794	"	"	"	埋土	縦型石匙	(5.9)	1.7	0.8	8.3	粘板岩	"
795	"	"	"	埋土	"	7.4	1.8	0.8	10.7	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
796	"	"	"	床面直上	棒状擦石	17.0	4.95	8.61	1035	輝石安山岩	擦面14.8×2.2cm
797	"	"	"	埋土	"	(13.7)	5.53	8.45	970	"	擦面(12.8)×2.4cm
798	"	"	"	埋土	石皿	61.5	24.7	14.8	18000.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
799	"	"	"	"	棒状擦石	9.3	4.54	8.205	470.0	輝石安山岩	擦面6.8×2.1cm
851	79	112	G II e 3-1住	"	磨製石斧	(9.6)	4.8	2.2	140.0	凝灰質千枚岩	北上山地、古生界
852	"	"	"	埋土	打製石斧	10.65	5.4	1.5	95.0	粘板岩	"
853	"	"	"	"	棒状擦石	14.1	4.8	8.35	820.0	硬砂岩	擦面12.8×1.85cm
854	"	"	"	埋土下部	"	13.8	5.88	5.76	580.0	輝石安山岩	擦面12.75×1.15cm
965	87	117	G II f 2-1住	埋土	搔器	3.36	2.13	1.32	8.5	チャート	北上山地、古生界
966	"	"	"	床面一括	楔形石器	2.3	1.9	0.9	4.55	"	"
967	"	"	"	埋土	"	2.75	2.6	1.4	8.5	"	"
968	"	"	"	床面一括	石筥	(3.9)	3.5	1.4	24.55	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
969	"	"	"	"	楔形石器	1.8	2.3	0.7	3.05	チャート	北上山地、古生界

表17 石器計測一覧表(11)

遺物 番号	図版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)		
970	87	117	GⅡf2-1住	床面一括	楔形石器	2.8	2.4	1.0	7.3	チャート	北上山地、古生界
971	"	"	"	"	"	3.5	2.0	0.9	5.7	"	"
972	"	118	"	"	"	3.4	2.4	1.3	9.4	"	"
973	"	"	"	"	"	2.9	1.75	1.05	4.45	"	"
974	"	"	"	"	"	3.6	2.5	0.9	6.9	"	"
975	"	"	"	"	"	3.35	2.1	1.2	8.55	"	"
976	"	"	"	"	"	2.65	2.2	1.25	6.5	"	"
977	"	"	"	"	"	2.5	2.31	0.87	5.5	"	"
978	"	"	"	"	"	3.6	2.1	0.9	6.8	"	"
979	"	"	"	"	"	3.3	2.1	1.2	6.65	"	"
980	"	"	"	"	"	2.6	2.2	1.1	6.3	"	"
981	"	"	"	"	"	3.0	3.1	1.3	8.4	"	"
982	88	"	"	"	剥片石器	1.5	1.6	0.6	1.3	"	"
983	"	"	"	"	"	2.0	1.1	0.7	2.05	"	"
984	"	"	"	"	"	2.78	2.31	0.86	4.00	"	"
985	"	"	"	"	"	2.88	1.97	0.82	3.75	"	"
986	"	"	"	"	"	2.64	1.3	0.78	2.15	"	"
987	"	"	"	"	"	2.1	2.0	1.0	4.65	"	"
988	"	"	"	"	"	2.16	2.55	0.82	3.25	"	"
989	"	"	"	"	"	3.4	1.24	0.8	2.35	流紋岩質極細粒凝 灰岩	奥羽山地新第三系 中新統
990	"	"	"	"	"	3.12	1.50	0.72	3.65	チャート	北上山地、古生界
991	"	"	"	"	"	2.77	2.2	0.62	2.4	"	"
992	"	"	"	"	"	2.7	2.3	1.2	5.75	"	"
993	"	"	"	"	"	1.45	2.4	0.5	1.15	"	"
994	"	"	"	埋土	"	2.85	2.15	0.65	5.1	"	"

表18 石器計測一覧表(12)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
995	88	118	GIf2-1住	床面一括	剥片石器	2.0	2.8	1.0	3.7	チャート	北上山地、古生界
996	"	"	"	"	"	1.9	2.2	0.3	1.2	"	"
997	"	"	"	"	"	2.3	1.7	0.4	1.6	"	"
998	"	"	"	"	"	2.5	1.85	0.9	2.95	"	"
999	"	"	"	"	"	2.4	2.2	1.0	4.45	"	"
1,000	"	"	"	"	"	3.2	1.7	0.3	1.9	"	"
1,001	"	"	"	"	"	3.3	2.4	1.25	7.6	"	"
1,002	"	"	"	"	"	2.65	2.6	1.0	6.75	"	"
1,003	"	"	"	"	"	3.8	2.1	1.2	7.35	"	"
1,004	"	"	"	"	"	3.85	2.2	0.85	3.8	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,005	"	"	"	"	"	4.62	3.16	1.55	13.35	輝緑凝灰質チャート	北上山地、古生界
1,006	"	"	"	"	"	3.2	2.15	0.85	5.4	チャート	"
1,007	"	"	"	"	"	3.5	1.65	0.8	3.25	"	"
1,008	"	"	"	"	"	3.64	2.56	1.1	9.0	"	"
1,009	"	"	"	"	"	3.0	4.1	0.7	4.8	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,010	"	"	"	"	"	3.1	1.8	1.1	4.0	チャート	北上山地、古生界
1,011	"	"	"	"	"	3.4	1.70	0.95	4.7	"	"
1,012	"	"	"	埋土	石鏃	(2.9)	1.25	0.3	0.95	"	"
1,013	"	"	"	"	"	2.8	0.95	0.34	0.45	"	"
1,014	"	"	"	"	"	2.5	0.8	0.3	0.55	"	"
1,015	"	"	"	"	"	(1.6)	1.0	0.26	0.3	"	"
1,016	"	119	"	"	槌器	4.15	3.2	1.03	14.4	珪質泥岩	平石西部、新第三系中新統
1,017	"	"	"	"	"	4.41	2.72	1.04	11.95	凝灰質珪質泥岩	"
1,018	"	"	"	"	"	1.85	1.9	0.7	3.3	チャート	北上山地、古生界
1,019	"	"	"	"	"	2.7	3.4	0.9	7.1	"	"

表19 石器計測一覧表(13)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1,020	88	119	G II f2-1住	埋土	搔器	4.0	2.4	0.7	5.8	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,021	"	"	"	"	楔形石器	2.2	2.6	1.15	6.6	チャート	北上山地、古生界
1,022	"	"	"	"	"	3.2	2.4	1.35	9.45	凝灰質珪泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,023	"	"	"	"	"	3.4	3.15	1.1	8.9	チャート	北上山地、古生界
1,024	"	"	"	"	"	3.15	2.35	0.8	5.5	"	"
1,025	"	"	"	"	"	3.4	2.8	0.9	9.25	"	"
1,026	89	"	"	"	"	5.8	4.5	2.0	53.7	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,027	"	"	"	"	"	3.3	1.5	1.1	5.55	チャート	北上山地、古生界
1,028	"	"	"	"	"	3.15	2.0	0.9	6.95	"	"
1,029	"	"	"	"	"	3.15	1.9	1.1	6.15	"	"
1,030	"	"	"	"	"	2.55	1.75	0.8	4.5	"	"
1,031	"	"	"	"	"	3.6	2.1	0.95	9.15	"	"
1,032	"	"	"	"	"	2.6	2.4	0.8	5.5	"	"
1,033	"	"	"	"	"	3.0	2.3	0.6	4.65	"	"
1,034	"	"	"	"	剥片石器	6.45	3.55	1.0	20.8	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,035	"	"	"	"	"	2.3	1.85	0.85	3.9	チャート	北上山地、古生界
1,036	"	"	"	"	"	2.4	1.6	0.6	2.05	"	"
1,037	"	"	"	"	"	3.3	4.1	1.15	15.4	"	"
1,038	"	"	"	"	"	2.2	3.05	1.2	7.1	"	"
1,039	"	"	"	"	"	2.35	1.95	0.5	2.15	"	"
1,040	"	"	"	"	"	2.3	1.75	0.6	2.1	"	"
1,041	"	"	"	"	"	3.75	2.2	0.6	5.25	"	"
1,042	"	"	"	"	"	2.95	2.7	0.7	4.25	"	"
1,043	"	"	"	"	"	3.35	1.8	0.5	2.0	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,070	90	121	G II f2-2住	"	磨製石斧	(6.75)	(3.15)	2.05	47.8	輝石珪岩	北上山地、古生界

表20 石器計測一覧表(14)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
1,072	90	121	G II f2-2住	埋土	剥片石器	4.15	4.06	0.78	20.2	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,091	93	"	G II g1-2住	床面	石皿	(35.5)	(25.85)	9.5	5000.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,092	94	"	G II g1-3住	床面	棒状擦石	13.0	7.05	8.51	1065.0	"	擦面8.9×3.5cm
1,135	97	123	G II g 3住	埋土	搔器	3.5	4.5	1.3	19.35	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,136	"	"	"	"	石錐	5.2	1.4	0.3	4.8	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,137	"	"	"	床面	搔器	5.1	5.15	0.9	28.95	凝灰質珪質泥岩	"
1,159	100	124	G II g 5住	床面	剥片石器	3.8	2.7	1.2	6.45	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,160	"	"	"	床面	"	2.3	2.8	1.1	4.1	松脂岩	奥羽山地、中新統
1,161	"	"	"	埋土	石筥	5.5	3.4	1.25	28.5	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,162	"	"	"	"	打製石斧	6.7	4.5	1.4	35.75	凝灰質千枚岩	北上山地、古生界
1,163	"	"	"	"	搔器	(4.26)	(3.17)	0.8	8.5	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,164	"	"	"	"	剥片石器	4.86	2.69	1.65	12.75	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,165	"	"	"	埋土	"	3.21	1.85	1.01	3.45	"	"
1,166	"	"	"	"	"	2.93	4.14	1.35	8.1	"	"
1,167	"	"	"	"	その他の石器	10.0	5.3	2.3	150.0	細砂質凝灰岩	雫石西南部、新第三系中新統
1,168	"	125	"	"	棒状擦石	13.9	6.63	6.4	740.0	輝石安山岩	擦面12.27×3.46cm
1,223	103	127	G II g 6住	埋土下位	剥片石器	3.1	2.4	0.6	2.15	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,224	"	"	"	"	"	3.3	3.5	1.7	10.0	"	"
1,225	"	"	"	埋土	搔器	3.03	3.0	0.91	7.8	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,226	"	"	"	埋土	石錐	2.99	1.44	0.59	1.55	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,227	"	"	"	"	縦型石匙	(3.0)	2.4	0.8	4.45	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,228	"	"	"	床面	棒状擦石	(11.6)	5.45	8.22	730.0	凝灰質硬砂岩	擦面(9.19)×1.8cm
1,229	"	"	"	"	"	14.5	4.8	6.4	660.0	輝石安山岩	擦面12.41×1.98cm
1,230	"	"	"	"	"	(14.38)	5.44	7.15	800.0	"	擦面(13.43)×2.69cm
1,231	"	"	"	床面	棒状擦石	16.1	5.1	7.6	865.0	"	擦面12.6×2.6cm

表21 石器計測一覧表(15)

遺物番号	図版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)		
1,232	103	127	G II g 6 住	埋土下位	石匙(縦型)	(2.9)	1.65	0.55	2.75	粘板岩	北上山地、古生界
1,233	"	"	"	埋土	" "	(3.9)	1.9	0.4	3.55	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,234	"	"	"	"	撮器	2.75	3.75	1.0	5.5	流紋質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,235	"	"	"	"	"	(2.41)	3.47	0.78	5.6	凝灰質珪泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,236	104	"	"	"	"	2.72	1.32	0.58	1.55	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,237	"	"	"	"	"	(3.31)	(2.14)	0.84	2.95	"	"
1,238	"	"	"	"	"	(5.21)	2.46	0.61	7.25	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
1,239	"	"	"	"	剥片石器	3.7	3.4	1.5	11.9	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,240	"	128	"	"	"	3.3	1.6	1.0	2.85	"	"
1,241	"	"	"	床面	"	3.4	2.15	1.65	5.75	"	"
1,242	"	"	"	埋土	"	3.6	3.0	1.5	10.4	"	"
1,243	"	"	"	"	棒状擦石	(16.9)	6.4	6.41	1040.0	輝石安山岩	擦面 ①(10.35)×3.50cm ②(13.90)×2.85cm ③(13.8)×2.20cm
1,244	"	"	"	埋土下位	"	13.9	6.71	6.07	800.0	花崗斑岩	擦面 ①11.5×23.0cm ②7.7×1.8cm ③11.5×1.8cm
1,245	"	"	"	床面	"	17.2	5.74	8.3	1285.0	輝石安山岩	擦面15.70×2.10cm
1,288	108	130	G II g 9 住	"	"	13.8	3.85	0.67	540.0	硬砂岩	擦面11.30×1.80cm
1,289	"	"	"	埋土	"	17.7	9.3	5.8	1335.0	輝石安山岩	擦面15.90×2.20cm
1,290	"	"	"	埋土下位	"	15.3	5.8	8.01	920.0	"	擦面13.0×2.9cm
1,291	"	"	"	埋土	石篋	4.51	3.14	1.63	21.85	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,292	"	"	"	埋土	石鏝	(3.4)	(0.9)	0.35	1.05	凝灰質珪質泥岩	"
1,293	"	"	"	埋土	剥片石器	3.9	2.45	1.15	7.8	粘板岩	北上山地、古生界
1,294	"	"	"	埋土	"	6.8	2.3	1.4	15.8	松脂岩	奥羽山地、中新統
1,295	"	"	"	埋土	石篋	5.8	3.55	1.25	30.75	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,296	"	"	"	埋土	撮器	4.7	2.6	1.0	10.4	硬質泥岩	"
1,319	110	131	G II h 1 住	埋土	石鏝	3.6	3.3	0.7	9.55	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1.320	"	"	"	"	石匙(縦型)	3.2	2.2	0.65	4.3	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統

表22 石器計測一覧表(6)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1,321	110	131	GⅡh1住	埋土	撿器	3.25	2.47	0.55	5.25	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,322	"	"	"	"	剥片石器	2.8	2.9	1.1	8.6	チャート	北上山地、古生界
1,360	113	133	GⅡh5住	"	撿器	(4.1)	2.6	0.7	9.05	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,361	"	"	"	"	剥片石器	3.4	1.8	1.0	3.8	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,362	"	"	"	"	"	3.2	2.15	1.15	4.9	"	"
1,363	"	"	"	"	"	4.2	3.5	1.1	11.35	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,364	"	"	"	床面	石皿	39.3	(27.8)	12.2	18500.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,403	116	135	GⅡh9住	"	凹石	9.7	7.88	4.65	495.0	"	"
1,404	"	"	"	"	棒状擦石	(14.1)	6.27	7.23	850.0	"	擦面(7.00)×2.80cm (5.80)×1.50cm
1,405	"	"	"	埋土	"	(10.7)	3.49	6.53	310.0	"	擦面(8.65)×1.75cm
1,406	"	"	"	"	石筥	2.9	2.05	0.9	6.0	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,407	"	"	"	"	撿器	3.59	4.68	1.02	15.8	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
1,408	"	"	"	"	"	3.0	1.6	0.9	4.1	チャート	"
1,409	"	"	"	"	"	3.7	1.4	0.7	3.0	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,410	"	"	"	"	剥片石器	3.06	2.21	0.51	3.65	硬質泥岩	"
1,411	"	"	"	"	その他の石器	10.32	6.67	1.77	150.0	粘板岩	北上山地、古生界
1,436	118	136	GⅡi2住	炉構成礫	磨石	9.3	8.50	3.8	450.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,437	"	"	"	"	棒状擦石	16.4	4.70	8.2	1125.0	硬砂岩	擦面14.90×2.40cm 擦面 5.50×1.70cm
1,497	122	139	GⅡi7住	床面	剥片石器	1.95	1.64	0.5	1.3	チャート	北上山地、古生界
1,498	"	"	"	"	"	2.62	2.0	0.75	2.9	硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,499	"	"	"	"	撿器	4.46	3.02	1.22	15.05	凝灰質珪質泥岩	"
1,500	"	"	"	"	石皿	(13.36)	(13.70)	6.2	1050.0	石英安山岩質凝灰岩	二戸市、新第三系
1,501	"	"	"	"	石鏃	3.4	2.3	0.8	5.6	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,502	"	"	"	"	石匙(縦型)	7.1	2.9	1.8	19.1	珪質泥岩	"
1,503	123	"	"	"	石皿	22.8	24.5	8.9	86000.0	石英安山岩質凝灰岩	二戸市、新第三系



表23 石器計測一覧表(17)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重さ(g)		
1,504	123	139	G II i 7住	埋土	搔器	3.3	1.3	0.55	2.05	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
1,505	"	"	"	埋土	"	3.6	2.8	1.5	11.85	チャート	"
1,506	"	"	"	"	打製石斧	7.3	4.2	1.0	51.0	粘板岩	"
1,507	"	"	"	床面	石皿	(31.3)	22.0	15.9	12500.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,508	"	"	"	埋土	剥片石器	2.6	2.45	0.9	4.65	チャート	北上山地、古生界
1,509	"	"	"	"	"	2.6	1.95	0.65	3.2	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,510	"	"	"	"	"	4.48	3.02	0.77	7.65	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,511	"	140	"	"	"	5.8	2.95	1.9	21.65	白色細粒凝灰岩	二戸一帯、新第三系
1,512	"	"	"	床面	石製品ハンマー(その他)	21.0	7.4	7.15	1920.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,515	124	"	G II j 4住	埋土	剥片石器	5.58	3.3	1.4	19.25	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,517	125	"	G II j 7住	焼土	石鏃	2.28	1.33	0.33	0.75	"	"
1,518	"	"	"	"	石篋	4.15	2.7	1.2	13.3	珪質泥岩	"
1,539	129	141	H I a 6住	柱穴埋土	石匙(縦型)	(6.39)	2.57	6.7	8.75	粘板岩	北上山地、古生界
1,625	135	144	H I c 7-1住	埋土	搔器	3.5	2.9	1.2	10.4	チャート	北上山地、古生界
1,626	"	"	"	"	"	2.5	2.2	1.1	4.9	チャート	北上山地、古生界
1,627	"	"	"	埋土上位	剥片石器	3.0	2.85	0.85	4.85	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,628	"	"	"	埋土	"	3.9	3.2	0.9	9.2	チャート	北上山地、古生界
1,629	"	"	"	"	"	3.8	3.8	1.1	15.35	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,630	"	"	"	"	"	4.0	2.7	1.35	11.45	"	"
1,631	"	"	"	"	"	3.55	2.5	1.1	2.9	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地、古生界
1,632	"	145	"	埋土	石製裝飾品	(4.0)	2.2	0.7	4.35	細砂質凝灰岩	雫石西南部、新第三系中新統
1,633	"	"	"	"	磨製石斧	11.9	4.95	2.35	170	輝石珩岩	北上山地、古生界
1,634	"	"	"	床面直上	石皿	(28.8)	18.2	12.2	9000	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,635	"	"	"	埋土	円盤状石製品	3.7	3.4	1.4	15.95	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地、古生界
1,641	"	"	H I c 7-2住	埋土	搔器	3.54	2.66	1.43	11.5	チャート	北上山地、古生界

表24 石器計測一覧表(18)

遺物 番号	版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)		
1,642	135	145	HIc7-2住	埋土	搔器	4.0	1.7	1.0	6.05	チャート	北上山地、古生界
1,643	"	"	"	埋土	石皿	(40.7)	(35.1)	9.1	16500	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,684	138	147	HIc10住	埋土	楔形石器 (打撃痕、剥離痕が認められる)	2.7	2.1	1.0	5.9	チャート	北上山地、古生界
1,685	"	"	"	埋土	剥片石器	2.29	2.7	0.8	3.2	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,686	"	"	"	埋土	石錐	2.69	1.0	0.51	1.65	チャート	北上山地、古生界
1,687	"	"	"	"	"	4.0	1.3	0.8	2.4	"	"
1,688	"	"	"	"	搔器	3.55	2.2	0.8	5.8	珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,689	"	"	"	埋土	"	3.56	2.89	1.09	10.2	チャート	北上山地、古生界
1,690	"	"	"	埋土下部	"	3.4	6.2	1.0	23.5	凝灰質珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,691	"	"	"	埋土	剥片石器	2.4	2.9	0.45	2.2	"	"
1,692	"	"	"	"	"	4.85	2.6	1.0	11.55	珩質泥岩	"
1,693	"	"	"	埋土	磨製石斧	(3.85)	4.5	(2.5)	53.25	輝石玢岩	北上山地、古生界
1,694	"	"	"	"	凹石	8.5	7.55	4.2	370	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,695	"	"	"	"	"	10.85	7.9	6.0	800	"	"
1,701	139	"	HIa2-1住	"	石鏃	2.5	1.1	0.6	1.2	凝灰質珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,702	"	"	"	"	搔器	2.9	1.6	0.95	3.75	チャート	北上山地、古生界
1,729	142	148	HIa2-2住	床面直上	石皿(台付の欠損したもの)	(16.7)	(14.1)	6.5	2000.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,730	"	"	"	埋土	石鏃	(2.3)	0.8	0.3	0.55	チャート	北上山地、古生界
1,731	"	"	"	床面直上	剥片石器	4.2	3.5	0.7	7.45	"	"
1,732	143	149	"	埋土	石錐	2.1	1.7	0.4	2.4	"	"
1,733	"	"	"	"	楔形石器	2.75	2.15	1.1	6.0	"	"
1,734	"	"	"	埋土	"	2.45	1.7	1.0	3.75	"	"
1,735	"	"	"	埋土	剥片石器	2.17	1.64	0.77	2.05	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,736	"	"	"	埋土	"	3.44	1.83	0.82	3.55	チャート	北上山地、古生界
1,749	"	"	HIa3住	埋土	石篋	9.4	3.6	2.2	85.0	粘板岩	"

表25 石器計測一覧表(19)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
1,750	143	149	H II a 3住	埋土	搔器	3.69	2.59	0.86	6.2	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,751	"	"	"	"	"	4.35	3.53	0.6	9.45	珪質泥岩	"
1,752	"	"	"	"	剥片石器	4.12	5.01	1.44	30.8	珪質粘板岩	北上山地、古生界
1,753	"	"	"	"	"	4.08	2.44	1.08	8.15	硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,754	"	"	"	"	その他敲き石(ハンマー)	6.1	4.4	3.0	110.0	細砂質凝灰岩	雫石西南部、新第三系中新統
1,763	144	150	H II a 5住	床面相当	石錐	3.9	2.3	0.5	4.6	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,764	"	"	"	埋土	搔器	3.53	2.85	0.53	6.15	硬質泥岩	"
1,765	"	"	"	"	棒状擦石	11.15	8.5	3.15	440.0	輝石安山岩	擦面 ①2.55×6.55cm ②6.30×0.95cm
1,822	150	152	G II h 6焼土	—	剥片石器	4.0	1.75	1.2	8.1	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,823	"	"	"	—	"	5.9	4.2	1.9	35.8	"	"
1,824	"	"	"	—	"	3.1	3.2	1.6	11.05	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
1,826	159	"	D II h 10 ビット	埋土上位	"	4.6	5.9	1.6	44.35	細砂質凝灰岩	"
1,842	160	153	H II a 10 ビット	—	石篋	(3.5)	2.7	1.5	16.6	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,846	163	"	G I g 10 土器埋設遺構	—	剥片石器	4.2	3.6	0.9	10.55	凝灰質珪質泥岩	"
1,856	171	154	D III i 5 陥し穴	埋土	棒状擦石	(9.6)	7.8	6.03	560.0	輝石安山岩	擦面(8.0)×1.7cm
1,857	"	"	"	埋土	磨石	13.9	9.6	5.1	960.0	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
1,860	172	"	D III i 5 陥し穴	埋土	搔器	3.7	2.3	1.1	7.8	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,861	"	"	"	"	"	3.85	3.6	1.0	15.7	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
1,862	"	"	"	埋土上位	剥片石器	3.9	4.35	0.95	14.05	珪質粘板岩	"
1,863	"	"	"	埋土	円盤状石製品	5.2	5.0	1.6	60.0	細砂質凝灰岩	雫石西南部、新第三系中新統
1,949	176	157	G II i 7-1 陥し穴	—	楔形石器	4.4	3.4	1.0	13.35	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
1,950	"	"	"	—	剥片石器	3.6	2.1	0.8	4.9	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地、古生界
1,951	"	"	"	—	"	2.4	2.1	0.5	1.9	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統

表26 石器計測一覧表(20)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重さ(g)		
3,100	263	217		GⅡ粗掘	石鏃	2.9	1.25	0.35	1.1	チャート	北上山地、古生界
3,101	"	"		HⅡ粗掘	"	2.7	1.3	0.4	1.6	珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,102	"	"		HⅡd5粗掘	"	1.75	1.15	0.3	0.65	チャート	北上山地、古生界
3,103	"	"		HⅠf6包含層	"	3.4	2.12	0.6	3.4	"	"
3,104	"	"		HⅡ区粗掘	"	2.54	1.84	0.46	1.9	珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,105	"	"		HⅡ区粗掘	"	3.1	1.95	0.46	2.45	"	"
3,106	"	"		GⅡ粗掘	"	2.5	1.8	0.4	1.6	チャート	北上山地、古生界
3,107	"	"		DⅢg2粗掘	"	2.75	1.2	0.35	1.3	黒燧石	
3,108	"	"		GⅡc~e7~9だめ押し	"	2.8	2.1	0.85	2.95	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,109	"	"		GⅡc~e7~9だめ押し	"	(1.3)	1.4	0.4	0.45	玻璃質流紋岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,110	"	"		HⅠe6粗掘	石錐	3.6	1.8	0.4	1.1	チャート	北上山地、古生界
3,111	"	"		HⅡ区粗掘	"	2.67	1.2	0.2	2.65	"	"
3,112	"	218		GⅡ区粗掘	"	5.5	1.5	0.9	6.7	珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,113	"	"		HⅡb4粗掘	"	3.1	3.2	1.0	7.7	凝灰質珩質泥岩	"
3,114	"	"		HⅡi6粗掘	"	(2.52)	2.18	0.5	2.25	チャート	北上山地、古生界
3,115	"	"		FⅡ耕作土	石匙	(3.09)	2.43	0.6	3.25	玉髓	
3,116	"	"		DⅢi5粗掘	"	3.15	1.73	0.27	1.6	凝灰質珩質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,117	"	"		FⅡ耕作土	"	4.93	2.07	1.03	7.15	凝灰質硬質泥岩	"
3,118	"	"		GⅡc~e7~9粗掘	"	5.2	2.1	0.7	6.85	凝灰質珩質泥岩	"
3,119	α	"		GⅡc~e7~9粗掘	"	4.3	1.6	0.3	2.7	"	"
3,120	"	"		HⅡ粗掘	"	6.71	2.09	0.72	10.7	珩質泥岩	"
3,121	"	"		HⅡ区粗掘	"	(2.9)	2.3	0.5	3.4	凝灰質珩質泥岩	"
3,122	"	"		HⅢ区粗掘	搔器、削器	4.13	2.4	0.7	5.6	"	"
3,123	"	"		HⅠ区粗一括	"	3.21	2.2	0.5	3.5	珩質泥岩	"
3,124	"	"		HⅠe5包含層	"	2.1	3.13	1.04	4.65	チャート	北上山地、古生界

表27 石器計測一覧表(21)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,125	263	218		G II区粗掘	搔器、削器	3.36	1.69	0.84	4.7	チャート	北上山地、古生界
3,126	"	"		D III j 4粗掘	"	2.1	2.4	0.3	1.5	"	"
3,127	"	"		G I表土	"	5.22	2.76	0.86	11.65	"	"
3,128	"	"		"	"	4.17	3.86	1.42	17.8	玉髓	
3,129	"	"		F II南部浮石上面	"	6.1	3.13	1.24	21.85	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,130	264	"		D III i 5粗掘	"	4.6	4.5	2.0	39.85	"	"
3,131	"	"		H II f 1粗掘	"	5.8	2.8	1.3	19.75	"	"
3,132	"	"		H II d 5粗掘	"	6.55	2.82	0.96	14.15	チャート	北上山地、古生界
3,133	"	"		H I d 9粗掘下位	"	5.2	2.35	0.65	7.1	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,134	"	"		H I f 5包含層下部	"	4.5	2.1	1.0	10.85	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
3,135	"	"		H II区2層下位(東谷)	"	3.42	3.5	0.93	6.9	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,136	"	"		D II d 9住周辺	"	(2.17)	2.08	0.5	2.4	チャート	北上山地、古生界
3,137	"	219		E III a 5	"	(5.2)	3.8	1.3	24.9	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,138	"	"		G II耕作土	"	6.44	3.17	1.0	22.7	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,139	"	"		G II区粗掘	"	2.55	1.76	0.87	3.25	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,140	"	"		"	"	5.9	3.8	1.2	30.1	珪質泥岩	"
3,141	"	"		H II粗掘	"	2.7	2.75	0.6	7.5	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,142	"	"		G I区粗掘	"	4.0	3.5	0.9	16.25	チャート	北上山地、古生界
3,143	"	"		G II c~e 7~9だめ押し	"	3.2	2.3	0.85	4.6	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,144	"	"		E I区粗掘	"	3.44	2.35	0.68	7.65	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,145	"	"		H II d 1粗掘2層下位	"	2.5	2.25	0.95	5.65	チャート	北上山地、古生界
3,146	"	"		G II区粗掘	"	2.7	2.6	1.2	5.55	輝緑凝灰岩質チャート	"
3,147	"	"		D III h 3粗掘	"	3.1	2.18	0.45	3.95	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,148	"	"		H II粗掘	"	4.5	2.98	1.0	18.8	珪質泥岩	"
3,149	"	"		D III j 5粗掘	"	3.8	2.4	0.9	8.2	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統

表28 石器計測一覧表(2)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,150	264	219		D II g 9	槌器、削器	4.4	2.8	0.95	11.35	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,151	"	"		G II区粗掘	"	4.45	4.1	0.55	11.25	硬質泥岩	"
3,152	265	"		H II粗掘	"	2.7	4.3	0.75	13.5	凝灰質珪質泥岩	"
3,153	"	"		G II粗掘下	"	(4.0)	3.8	1.2	23.5	"	"
3,154	"	"		D II区粗掘	"	(4.64)	2.31	1.12	16.2	"	"
3,155	"	"		E II トレン チ	"	5.35	2.82	0.67	12.55	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
3,156	"	"		H I e 5~6 包含層	"	4.3	2.25	0.8	8.1	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,157	"	"		G I粗掘	"	3.0	2.01	1.02	9.05	チャート	北上山地、古生界
3,158	"	"		E II g 粗掘	"	3.46	2.06	0.91	6.5	"	"
3,159	"	"		G I区粗掘	"	3.6	3.1	1.1	11.9	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,160	"	220		H II区2層 下位(東谷)	"	(3.7)	3.5	1.0	15.55	"	"
3,161	"	"		G II区 c~ f 7~9だ め押し	"	4.45	3.25	0.65	16.3	硬質泥岩	"
3,162	"	"		H II区粗掘	"	4.8	3.5	0.9	16.6	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
3,163	"	"		G I表土	"	4.39	2.91	0.66	10.9	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,164	"	"		G II区粗掘	"	4.56	4.55	1.2	23.5	"	"
3,165	"	"		H II a, b 3・4粗掘 下位	"	4.4	3.0	1.2	13.85	チャート	北上山地、古生界
3,166	"	"		H II e 6粗 掘下位(2 層下位)	"	5.72	2.88	1.05	12.9	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,167	"	"		H II区粗掘	"	5.6	3.5	1.1	20.9	"	"
3,168	"	"		F I 6 c 8 ~9粗掘	"	2.61	2.64	0.86	5.4	"	"
3,169	"	"		H I e 5・ 6包含層	"	(3.0)	3.8	1.2	17.7	"	"
3,170	"	"		H I f 5 包含層下部	"	6.3	2.3	1.2	14.1	流紋岩質極細粒凝 灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,171	"	"		H II d 6 粗掘下位	"	6.1	4.8	1.6	33.55	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,172	266	"		H I区粗掘	"	5.22	3.22	1.23	18.7	硬質泥岩	"
3,173	"	"		G II h 7 上層下位	"	6.1	4.12	1.23	21.15	珪質泥岩	"
3,174	"	"		G II区粗掘	"	(2.2)	2.7	0.7	4.45	凝灰質珪質泥岩	"

表29 石器計測一覧表(23)

遺物 番号	図版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,175	266	220		G I 粗掘	搔器、削器	2.02	2.17	0.95	4.8	鉄石英	
3,176	"	"		G I g 7 粗掘	"	4.8	3.8	0.7	9.8	凝灰質珪泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,177	"	"		H II d 2 粗掘下位	"	2.36	2.13	0.72	2.95	"	"
3,178	"	"		H II f 1 粗掘下位	"	2.62	2.43	0.58	4.6	チャート	北上山地、古生界
3,179	"	"		G I h 6 粗掘	"	3.0	1.9	1.0	5.15	輝緑凝灰岩質チャート	"
3,180	"	"		G I g 7 粗掘	"	3.5	2.3	0.9	6.15	凝灰質珪泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,181	"	221		G II e 3 だめ押し	"	(2.91)	3.0	0.81	6.7	"	"
3,182	"	"		"	"	3.7	2.2	0.7	4.65	"	"
3,183	"	"		H II 区粗掘	"	3.8	1.95	0.8	5.6	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
3,184	"	"		H II 区粗掘	"	4.1	2.9	0.7	9.6	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,185	"	"		H II c 2 d 2 2層下位	"	4.9	2.5	1.4	12.4	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,186	"	"		H II d 6 粗掘	"	4.0	3.3	1.1	9.5	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,187	"	"		H II c 2・d 2 粗掘下位	"	3.4	3.0	0.7	6.15	凝灰質珪質泥岩	"
3,188	"	"		G I 区粗掘	"	(2.0)	2.79	0.61	3.4	珪質泥岩	"
3,189	"	"		G II 区粗掘	"	2.54	2.5	1.1	4.65	チャート	北上山地、古生界
3,190	"	"		H I 区粗掘	"	3.1	1.6	1.02	5.3	"	"
3,191	"	"		H II c 3-II 層下位	"	(2.44)	2.6	0.8	6.95	チャート質粘板岩	"
3,192	"	"		H II e 3・4 粗掘下位	"	3.9	2.4	1.2	8.55	チャート	"
3,193	"	"		G I 区粗掘	"	3.2	2.7	1.0	8.9	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,194	"	"		G II 区粗掘	"	(3.54)	2.92	0.98	7.9	珪質泥岩	雫石西部新第三系中新統
3,195	"	"		H II d 5 粗掘	"	3.5	3.8	0.7	8.45	チャート質粘板岩	北上山地、古生界
3,196	"	"		G II f 5 区粗掘	"	3.54	2.55	1.0	7.25	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,197	"	"		H II ~ III 粗掘	"	2.84	5.06	0.9	13.55	玉髓	
3,198	267	"		G II 区粗掘	"	5.14	2.52	0.75	10.25	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,199	"	"		D III h 3 粗掘	"	4.82	4.85	1.05	23.9	チャート質粘板岩	北上山地、古生界

表30 石器計測一覧表(24)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,200	267	221		GⅡ区粗掘	掻器、削器	3.7	2.92	0.7	6.3	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,201	"	"		GⅡg7粗掘	"	2.2	2.5	0.7	5.6	チャート	北上山地、古生界
3,202	"	"		DⅢj3粗掘	"	3.55	5.82	1.08	21.8	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,203	"	"		GⅡf5粗掘	"	2.91	2.26	0.65	5.3	硬質泥岩	"
3,204	"	"		DⅢf1粗掘	石筥	5.3	3.95	1.4	28.5	凝灰質硬質泥岩	"
3,205	"	"		FⅡ耕作土	"	4.65	3.0	1.3	15.5	"	"
3,206	"	"		GⅡ区粗掘	"	(4.3)	3.6	1.75	23.45	粘板岩	北上山地、古生界
3,207	"	222		DⅢh1粗掘	"	10.2	4.0	1.9	70.0	粘板岩ホルンフェルス	"
3,208	"	"		GⅡ区2層下位	"	5.6	3.5	1.3	26.8	チャート	"
3,209	"	"		EⅢa5粗掘	"	4.7	3.0	1.3	22.75	粘板岩ホルンフェルス	"
3,210	"	"		GⅡ区eh7~9だめ押し	"	4.4	2.9	0.8	10.15	珪質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,211	"	"		DⅢg3粗掘	"	(3.85)	4.1	1.4	27.0	凝灰質硬質泥岩	"
3,212	"	"		GⅡc~e7~9だめ押し	"	6.24	3.6	1.52	36.6	珪質泥岩	"
3,213	"	"		DⅠg9粗掘	"	(4.0)	2.9	1.4	16.75	凝灰質硬質泥岩	"
3,214	"	"		GⅡ区eh7~9だめ押し	"	5.67	3.9	1.39	32.15	"	"
3,215	268	"		DⅢi1粗掘	"	(8.4)	3.6	1.7	59.5	"	"
3,216	"	"		GⅡc~e7~9だめ押し	"	6.3	3.24	1.0	24.1	粘板岩	北上山地、古生界
3,217	"	"		GⅡ区粗掘	"	6.1	3.6	1.2	29.8	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,218	"	"		GⅡf5粗掘	"	3.0	3.0	1.5	9.95	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,219	"	"		GⅡ区粗掘	"	4.7	3.9	1.4	35.4	凝灰質硬質泥岩	雫石西部、新第三系中新統
3,220	"	"		DⅢi1粗掘	"	6.88	4.0	1.3	40.8	珪質泥岩	"
3,221	"	223		GⅡ区粗掘	"	5.3	3.55	1.7	34.0	"	"
3,222	"	"		GⅠ区粗掘	楔形石器	2.65	1.9	1.0	4.85	チャート	北上山地、古生界
3,223	"	"		HⅠ区粗掘	"	2.75	1.9	0.7	4.1	"	"
3,224	"	"		GⅡh6粗掘	"	2.95	1.7	0.85	4.2	"	"



表31 石器計測一覧表(25)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出土地点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,225	268	223		H I e 5包 含層	楔形石器	3.7	1.7	0.9	5.35	チャート	北上山地、古生界
3,226	"	"		H I b c 8-9区粗 掘下位	"	3.35	1.65	0.4	2.7	"	"
3,227	"	"		H I e 5包 含層	"	3.05	3.25	0.65	5.65	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三 系中新統
3,228	"	"		"	"	3.4	2.45	0.95	8.9	チャート	北上山地、古生界
3,229	"	"		E I 区粗掘	"	2.85	2.4	1.0	7.25	"	"
3,230	"	"		H I e 5・ 6包含層	"	3.0	1.25	0.8	3.25	"	"
3,231	"	"		G II 区粗掘	"	4.3	2.2	0.9	7.65	"	"
3,232	"	"		G II g 7粗掘	"	3.91	3.82	1.45	21.35	輝緑凝灰岩質チ ャート	"
3,233	"	"		H I 区粗掘	"	3.6	3.93	1.27	11.8	チャート	"
3,234	269	"		H II 区粗掘	"	2.9	1.85	0.7	3.6	"	"
3,235	"	"		H II b 1 区粗掘下位	"	3.1	1.65	1.0	5.95	"	"
3,236	"	"		H I e 5 包含層	"	3.25	2.25	0.8	4.5	"	"
3,237	"	"		D III 区粗掘	"	3.3	2.8	0.95	9.2	凝灰質珪質泥岩	雫石西部、新第三 系中新統
3,238	"	"		H II e 3・ 4粗掘下位 (2層下位)	"	5.3	4.4	0.9	20.35	チャート	北上山地、古生界
3,239	"	"		D III j 5粗掘	"	4.1	2.1	1.2	8.2	流紋岩質極細粒凝 灰岩	奥羽山地、新第三 系中新統
3,240	"	"		E II h 1粗掘	"	3.55	2.3	1.1	8.7	珪質泥岩	雫石西部、新第三 系中新統
3,241	"	"		G I 区粗掘	"	5.4	3.3	1.4	19.85	流紋岩質極細粒凝 灰岩	奥羽山地、新第三 系中新統
3,242	"	"		G II 区粗掘	"	2.56	1.71	0.9	4.5	チャート	北上山地、古生界
3,243	"	"		G I 区粗掘	"	6.2	3.3	1.3	21.15	流紋岩質極細粒凝 灰岩	奥羽山地、新第三 系中新統
3,244	"	"		H I e 5~ 6包含層	"	3.2	2.3	1.0	6.5	チャート	北上山地、古生界
3,245	"	"		G II f 5粗掘	剥片石器	3.46	1.79	0.9	3.3	流紋岩質極細粒凝 灰岩	奥羽山地、新第三 系中新統
3,246	"	"		H I e 5 包含層	"	3.21	1.88	0.83	5.25	チャート	北上山地、古生界
3,247	"	"		E I 焼土付近	"	3.93	1.79	1.12	6.25	"	"
3,248	"	"		H II d 5粗掘	"	4.1	2.8	0.6	6.95	輝緑凝灰岩質チ ャート	"
3,249	"	"		G II f 5粗掘	"	2.24	4.08	1.16	9.9	珪質泥岩	雫石西部、新第三 系中新統

表32 石器計測一覧表(26)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,250	269	224		G II i・j 5・6、八戸 相当直上	打製石斧	7.64	4.23	1.47	54.8	粘板岩ホルンフェ ンス	北上山地、古生界
3,251	"	"		F II 耕作土	"	6.8	4.25	0.95	36.35	"	"
3,252	270	"		G II 区粗掘	"	6.5	5.1	1.55	48.75	"	"
3,253	"	"		F II 耕作土	"	6.0	4.35	1.2	38.25	粘板岩	"
3,254	"	"		"	"	6.78	3.65	1.18	38.1	"	"
3,255	"	"		"	環状石斧	11.8	9.0	1.8	250.0	"	"
3,256	"	"		D II g10粗掘	磨製石斧	4.45	3.0	0.85	9.7	凝灰質粘板岩	"
3,257	"	"		H II d 6 粗掘下位	"	3.6	2.6	0.7	16.8	砂質粘板岩	"
3,258	"	"		H II d~g 8トレンチ 3層	"	(6.3)	3.7	1.7	80.0	輝石珒岩	"
3,259	"	"		G I 表土	"	6.4	4.1	1.6	90.0	砂質粘板岩	"
3,260	"	"		G II 区粗掘	"	10.4	4.1	2.7	210.0	凝灰質硬砂岩	"
3,261	"	225		H I 区粗掘	"	(11.0)	4.8	3.2	280.0	輝石珒岩	"
3,262	"	"		D III j 5粗掘	"	11.3	4.7	2.9	230.0	"	"
3,263	"	"		G I 表土	"	(8.4)	4.25	2.65	130.0	"	"
3,264	271	"		H II 区粗掘	"	3.9	3.05	1.92	39.5	砂質粘板岩	"
3,265	"	"		"	"	(5.4)	3.9	2.45	70.0	凝灰質硬砂岩	"
3,266	"	"		G II 区粗掘下	"	(4.3)	4.6	2.1	50.0	"	"
3,267	"	"		G III 粗掘	"	(6.1)	4.66	3.53	145.0	輝石珒岩	"
3,268	"	"		G II 粗掘	"	(8.3)	4.5	2.85	190.0	"	"
3,269	"	226		G II h 6粗掘	"	(7.7)	4.15	2.4	125.0	凝灰質粘板岩	"
3,270	"	"		G I 表土	"	7.3	4.7	3.1	190.0	凝灰質硬砂岩	"
3,271	"	"		H II b 1 中掘上位	砥石	2.1	3.8	1.2	9.1	砂岩	二戸郡一帯、新第 三系
3,272	272	"		D II 表土	磨石	10.86	7.1	4.54	470.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三 系中新統
3,273	"	"		G II~G III f・g 8-1 ため押し	"	11.5	9.2	5.5	885.0	"	"
3,274	"	"		D III g 5粗掘	"	10.65	7.9	3.9	470.0	"	"

表33 石器計測一覧表(27)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出土地点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
3,275	272	226		H II区粗掘	磨石	10.0	7.6	6.7	750.0	硬砂岩	北上山地、古生界
3,276	"	"		G II区粗掘	"	9.3	8.3	4.8	550.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,277	"	"		H II区粗掘	"	12.0	7.04	6.1	850.0	角閃黒雲母花崗岩	北上山地、中生界
3,278	"	"		H II d 5粗掘	"	12.75	9.1	5.6	880.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,279	"	"		D II表土	凹石	11.5	7.2	3.4	380.0	"	"
3,280	"	"		"	"	7.9	7.17	4.1	290.0	"	"
3,281	"	"		D III i 3粗掘	"	9.4	8.1	3.5	335.0	"	"
3,282	"	"		D II g 3粗掘	"	8.85	6.4	3.5	315.0	"	"
3,283	"	227		G I粗掘	"	10.0	6.9	6.0	640.0	"	"
3,284	"	"		D II表土	"	13.3	6.7	3.8	520.0	"	"
3,285	"	"		D III d 4粗掘	"	9.1	6.0	4.65	330.0	"	"
3,286	"	"		G II区粗掘下	"	9.9	7.0	4.4	390.0	"	"
3,287	"	"		"	"	(10.56)	6.52	3.92	360.0	"	"
3,288	273	"		G II粗掘	"	12.3	10.4	4.1	645.0	"	"
3,289	"	"		D II表土	"	(13.5)	6.52	3.3	280.0	粘板岩	北上山地、古生界
3,290	"	"		G II粗掘	"	11.9	6.5	5.3	610.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,291	"	"		D V i 5	"	11.9	6.25	3.0	310.0	凝灰質硬砂岩	北上山地、古生界
3,292	"	"		G II区2層下位	"	8.35	6.75	4.45	300.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,293	"	"		H I区粗掘	"	9.5	7.16	4.54	450.0	"	"
3,294	"	"		"	"	9.61	6.25	3.96	350.0	"	"
3,295	"	"		G II g 7八戸上位	"	9.7	7.8	3.0	320.0	"	"
3,296	"	"		H II b 1粗掘下位	"	10.2	5.5	3.6	275.0	"	"
3,297	"	"		H II区粗掘	"	11.6	7.2	3.7	420.0	"	"
3,298	"	"		"	"	12.5	6.4	4.15	410.0	"	"
3,299	"	"		D III d 2粗掘	"	11.8	8.35	4.0	510.0	"	北上山地、新第三系中新統

表34 石器計測一覧表(2)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
3,300	273	228		H I区粗掘	凹石	11.0	7.6	6.55	780.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,301	"	"		DⅢj4粗掘	"	13.7	5.4	2.9	245.0	"	"
3,302	"	"		GⅡ区粗掘	"	7.8	6.85	5.7	360.0	"	"
3,303	"	"		HⅡ区粗掘	"	7.9	6.1	4.0	220.0	"	北上山地、新第三系中新統
3,304	"	"		HⅡ~Ⅲ3層	"	17.5	—	6.4	1285.0	"	奥羽山地、新第三系中新統
3,305	274	"		HⅡ区粗掘	"	8.76	6.76	5.31	465.0	"	"
3,306	"	"		GⅡ耕作土	棒状擦石	(10.5)	4.9	5.75	380.0	"	擦面(9.0)×1.2cm
3,307	"	"		FⅡ耕作土下	"	(10.2)	5.07	6.65	515.0	硬砂岩	擦面(8.49)×1.83cm
3,308	"	"		GⅡ耕作土	"	15.6	5.64	8.06	820.0	"	擦面12.6×3.0cm
3,309	"	"		FⅡ耕作土	"	(15.5)	5.83	7.6	910.0	輝石安山岩	擦面(12.9)×2.9cm
3,310	"	"		GⅡ耕作土	"	13.91	4.74	8.03	790.0	硬砂岩	擦面12.72×2.74cm
3,311	"	"		FⅡ耕作土	"	(12.0)	8.9	6.45	795.0	輝石安山岩	擦面(9.6)×1.6cm (2.4)×1.2cm
3,312	"	"		DⅡ表土	"	(8.6)	4.81	8.11	435.0	"	擦面(7.22)×2.03cm
3,313	"	"		GⅡ区粗掘	"	8.5	3.32	5.18	200.0	"	擦面7.1×1.4cm
3,314	"	"		DⅠ表土	"	(6.61)	4.9	7.7	345.0	"	擦面(5.93)×3.0cm
3,315	"	"		FⅠ耕作土	"	(6.59)	5.61	6.72	400.0	輝石玢岩	擦面(6.5)×2.82cm
3,316	"	"		DⅠ表土	"	(7.1)	6.6	7.2	345.0	輝石安山岩	擦面(4.5)×3.0cm
3,317	"	"		EⅡ区耕作土	"	13.2	3.7	6.45	520.0	"	擦面9.65×1.6cm
3,318	"	"		GⅡ区粗掘	"	15.8	5.4	8.68	1035.0	"	擦面12.8×2.5cm
3,319	"	"		FⅡ耕作土	"	17.8	7.2	6.75	1295.0	硬砂岩	擦面12.0×1.2cm
3,320	"	"		DⅡ表土	"	19.1	5.2	9.51	1395.0	輝石安山岩	擦面15.5×2.0cm
3,321	"	"		GⅡ区粗掘	"	17.9	6.21	6.1	1090.0	"	擦面16.4×2.5cm 10.8×1.2cm
3,322	"	"		"	"	16.0	6.6	8.05	1215.0	凝灰質硬砂岩	擦面12.2×2.75cm 13.3×3.25cm
3,323	"	"		GⅡc~e 7~9だめ 押し	"	(15.09)	6.11	8.25	940.0	輝石安山岩	擦面(14.2)×2.5cm
3,324	"	"		GⅢ区粗掘	"	(16.0)	5.1	11.4	1070.0	"	擦面(14.3)×2.3cm

表35 石器計測一覧表(29)

遺物 番号	図版		遺構名	出土地点	器種	計測値				石質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,325	274	228		G II g10 だめ押し	棒状擦石	16.55	5.0	9.01	1070.0	硬砂岩	擦面13.85×2.45cm
3,326	275	"		D II 表土	"	(8.2)	2.7	5.38	165.0	輝石安山岩	擦面(6.2)×1.2cm
3,327	"	"		F II 耕作土	"	(10.1)	5.6	5.75	570.0	"	擦面(8.0)×4.0cm
3,328	"	"		H II e 2 粗掘下位	"	(10.6)	5.9	7.37	600.0	花崗斑岩	擦面(8.5)×1.35cm
3,329	"	229		G II 区粗掘下	"	(8.71)	4.98	—	305.0	輝石安山岩	擦面(8.7)×2.32cm
3,330	"	"		D III d 4 粗掘	"	(9.7)	4.9	6.9	400.0	"	擦面(6.25)×1.2cm
3,331	"	"		F I 耕作土	"	(10.8)	5.3	5.57	445.0	"	擦面(8.2)×2.4cm
3,332	"	"		G II 耕作土	"	11.1	5.5	6.2	405.0	"	擦面10.6 ×3.1cm
3,333	"	"		D II 表土	"	(16.7)	5.2	5.69	720.0	"	擦面(14.7)×2.3cm 13.5 ×2.6cm 7.1 ×1.8cm
3,334	"	"		F II 表採	"	(10.4)	5.5	9.09	700.0	"	擦面(6.9)×1.5cm
3,335	"	"		G II 耕作土	"	(13.12)	6.07	8.02	840.0	"	擦面12.39 ×2.6cm
3,336	"	"		E I d 10	"	13.5	4.98	9.28	1035.0	硬砂岩	擦面6.5×1.36cm
3,337	"	"		G II e 7・ 8だめ押し	"	15.1	4.5	7.01	665.0	"	擦面(7.4)×1.9cm
3,338	"	"		F II 耕作土	"	14.5	5.2	7.75	980.0	凝灰質硬砂岩	擦面11.5 ×3.2cm
3,339	"	"		G II e 7・ 8だめ押し	"	(8.4)	5.17	7.05	415.0	輝石安山岩	擦面(5.8)×2.5cm
3,340	"	"		D III 耕作土	"	13.6	5.9	6.4	630.0	"	擦面10.1 ×2.55cm 9.85 ×2.0cm
3,341	"	"		D III 区粗掘	"	(8.8)	6.25	6.38	495.0	"	擦面(7.0)×2.2cm (6.2)×1.5cm
3,342	"	"		G II g10 だめ押し	"	(8.5)	5.7	5.55	425.0	硬砂岩	擦面(8.2)×2.3cm
3,343	"	"		G II e 7・ 8だめ押し	"	(9.2)	5.55	5.94	380.0	輝石安山岩	擦面(7.2)×1.8cm
3,344	"	"		G II g10 だめ押し	"	9.1	4.32	4.48	220.0	"	擦面(7.5)×1.5cm 6.9 ×0.9cm
3,345	"	"		D III 耕作土	"	14.4	4.35	6.8	590.0	"	擦面12.5 ×2.0cm (8.0)×2.0cm
3,346	"	"		G II 区粗掘	"	12.4	6.55	10.6	1105.0	"	擦面11.0 ×2.5cm
3,347	"	"		G II 区粗掘	"	11.6	3.6	5.65	405.0	"	擦面9.7×1.65cm
3,348	"	"		D II 表土	"	12.9	3.6	5.7	340.0	"	擦面9.85 ×0.7cm
3,349	"	"		G II e 7・ 8だめ押し	"	(14.5)	5.2	8.18	875.0	"	擦面(11.3)×3.4cm

表 36 石器計測一覧表(30)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
3,350	275	229		G II 粗	棒状擦石	15.7	5.75	7.0	1030.0	輝石安山岩	擦面13.4×2.70cm
3,351	276	"		G II e 7・ 8だめ押し	"	13.8	6.55	8.9	710.0	硬砂岩	擦面4.3×1.10cm 5.4×0.75cm
3,352	"	"		G II g 10 だめ押し	"	(14.3)	6.5	6.25	745.0	"	擦面(12.5)×1.7cm
3,353	"	"		G II 区粗掘	"	(11.9)	5.65	6.70	855.0	輝石安山岩	擦面(9.5)×1.9cm
3,354	"	"		"	"	(13.3)	6.52	9.10	1065.0	凝灰質硬砂岩	擦面(12.0)×2.2cm
3,355	"	"		"	"	13.1	6.0	7.65	735.0	輝石安山岩	擦面 10.1 ×1.9cm
3,356	"	"		G II 区粗掘	"	(15.2)	5.05	7.24	870.0	"	擦面(9.66)×2.5cm
3,357	"	"		G II 区粗掘	"	15.2	5.6	6.27	735.0	"	擦面 14.4 ×2.4cm
3,358	"	230		G II j 6 粗掘下位	"	14.75	4.7	8.75	800.0	"	擦面 10.4 ×2.0cm
3,359	"	"		H III a 1粗掘	"	14.45	5.3	6.45	610.0	花崗斑岩	擦面 13.9 ×2.3cm
3,360	"	"		G II 区 2層 下位	"	(12.70)	5.75	7.5	660.0	輝石安山岩	擦面(10.8)×2.1cm
3,361	"	"		H II 区粗掘	"	13.4	5.0	7.9	770.0	"	擦面4.1×0.8cm 4.3×0.9cm
3,362	"	"		D III i 5粗掘	"	13.5	5.05	7.53	590.0	"	擦面9.9×1.7cm
3,363	"	"		H II 区粗掘	"	15.7	7.48	8.4	1200.0	"	擦面12.8×1.5cm
3,364	"	"		G II 区粗掘	"	(11.82)	6.0	7.05	735.0	"	擦面(10.02)×3.34cm (10.22)×2.05cm
3,365	"	"		G II 区粗掘	"	(10.72)	5.81	5.94	575.0	"	擦面(9.4)×2.25cm
3,366	"	"		F II 耕作土	"	(9.25)	4.92	4.8	380.0	"	擦面(7.8)×2.5cm (7.85)×2.6cm
3,367	"	"		G II c~e 7~9だめ 押し	"	(10.00)	5.5	5.6	390.0	"	擦面(5.4)×2.3cm (8.4)×1.75cm
3,368	"	"		D III 耕作土	"	(7.4)	7.6	7.14	570.0	"	擦面(5.5)×1.7cm (5.3)×1.8cm (4.5)×1.6cm
3,369	"	"		G II f 5 粗掘	"	(9.2)	5.32	6.95	390.0	"	擦面(5.05)×2.45cm
3,370	"	"		D III i 5粗掘	"	11.9	5.3	7.07	680.0	"	擦面 9.3 ×2.4cm
3,371	"	"		"	"	(12.3)	5.16	6.4	455.0	"	擦面(10.1)×2.7cm
3,372	"	"		D III h 5粗掘	"	(9.84)	6.23	6.10	625.0	"	擦面(8.9)×2.2cm
3,373	"	"		G III 区粗掘	"	(9.0)	4.75	7.55	460.0	"	擦面(4.9)×1.5cm
3,374	"	"		G II c~e 7~9だめ 押し	"	(12.5)	5.04	7.31	600.0	"	擦面(9.1)×2.6cm

表37 石器計測一覧表(31)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,375	276	230		GⅡ区2層 下位	棒状擦石	(13.49)	6.0	7.34	785.0	輝石安山岩	擦面(12.33)×3.34cm (11.74)×2.68cm
3,376	277	"		GⅡ区粗掘	"	(11.3)	6.45	6.4	805.0	"	擦面(12 )×3cm (10.7)×3.7cm (9.9)×3.5 (4)×4.1cm
3,377	"	"		"	"	(12.7)	7.73	8.77	1215.0	"	擦面(11.2)×2.2cm
3,378	"	"		"	"	(14.6)	8.7	7.1	950.0	硬砂岩	擦面(11.7)×1.8cm
3,379	"	"		"	"	(11.8)	7.0	9.7	1030.0	輝石安山岩	擦面(10)×2.4cm
3,380	"	"		GⅡe3 だめ押し	"	14.7	6.4	7.35	1110.0	"	擦面 12 ×2.2cm
3,381	"	"		GⅡ区粗掘	"	15.5	5.7	6.95	985.0	"	擦面 11.9 ×2.3cm
3,382	"	231		HⅡe2 粗掘下位	"	(10.01)	5.04	7.78	585.0	"	擦面( 7.66)×2.39cm
3,383	"	"		GⅢ区粗掘	"	(12.8)	—	7.72	695.0	"	擦面(11.7)×1.4cm
3,384	"	"		DⅢh5粗掘	"	(9.95)	4.3	8.37	570.0	"	擦面( 8.09)×2.08cm
3,385	"	"		DⅠ区粗掘	"	12.1	4.73	5.86	475.0	"	擦面1 10.6×2.1cm 2 9.7×2.0cm
3,386	"	"		GⅡg10 だめ押し	"	(7.5)	5.2	7.5	445.0	"	擦面( 6.8)×1.9cm
3,387	"	"		GⅡ区粗掘下	"	(5.6)	5.4	8.72	370.0	"	擦面( 4.7)×2.2cm
3,388	"	"		"	"	(7.6)	5.83	7.32	420.0	"	擦面( 5.4)×2.45cm
3,389	"	"		"	"	(11.5)	7.75	6.92	750.0	凝灰質硬砂岩	擦面( 7.9)×2.0cm
3,390	"	"		GⅡ区粗掘	"	(7.1)	6.3	6.97	350.0	輝石安山岩	擦面( 5.4)×2.0cm
3,391	"	"		HⅡe5 粗掘下位	円盤状石製品	(2.2)	4.55	1.0	8.75	白色細粒凝灰岩	二戸一帯、新第三系
3,392	"	"		GⅡ区粗掘	"	4.2	4.6	0.9	13.25	"	"
3,393	"	"		FⅠ区粗掘	"	3.65	3.4	0.95	14.95	粘板岩	北上山地、古生界
3,394	"	"		HⅡf1粗 掘下位(2 層下位)	石製装飾品	3.1	2.5	0.55	4.9	細砂質凝灰岩	雫石西南部、新第三系中新統
3,395	"	"		HⅠf5包 含層下部	"	5.16	3.22	0.87	17.0	白色細粒凝灰岩	二戸一帯、新第三系
3,396	"	"		DⅠ表土	条痕擦痕の 認められる 石器	4.0	3.5	1.25	100.0	"	"
3,397	"	"		GⅡ区粗掘	"	3.9	3.4	1.2	14.1	"	"
3,398	"	"		DⅢef 2粗掘	両端に打撃 痕の認めら れる石器	2.78	2.51	1.09	9.5	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,399	278	"		HⅡ区粗掘	敲打痕の認 められる石器	8.3	4.1	2.2	100.0	"	"

表38 石器計測一覧表(32)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(m)	幅 (m)	厚さ(m)	重さ(g)		
3,400	278	231		HⅡ区粗掘	敲打痕の認められる石器	11.25	3.5	3.3	200.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,401	"	232		DⅢ区粗掘	石皿	62.5	54.2	13.0	43000.0	"	"
3,402	"	"		GⅡ区粗掘	"	55.0	42.3	11.7	26500.0	"	"
3,403	279	"		"	"	34.2	40.8	12.1	16000.0	"	"
3,404	"	"		"	"	52.3	21.2	13.3	15500.0	"	"
3,405	"	"		"	"	34.1	36.0	8.7	13000.0	"	"
3,406	"	"		"	"	44.8	34.8	6.3	11000.0	"	"
3,407	"	"		"	"	39.2	33.2	10.7	20500.0	"	"
3,408	280	"		DⅠ表土	"	24.5	15.5	8.4	4500.0	"	"
3,409	"	"		GⅡ表土	"	14.8	8.2	5.6	950.0	"	"
3,410	"	"		"	"	14.55	17.5	3.45	1330.0	"	"
3,411	"	"		DⅡ区粗掘	"	28.2	18.7	9.5	4000.0	"	"
3,412	"	"		DⅢh2粗掘	"	7.6	13.1	4.6	635.0	"	"
3,413	281	233		GⅡ区粗掘	"	(12.4)	16.5	3.7	1035.0	"	"
3,414	"	"		"	"	14.8	13.1	4.2	1035.0	硬砂岩	北上山地、古生界
3,415	"	"		HⅡ区粗掘	"	14.3	11.2	7.0	1750.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,416	"	"		"	"	16.8	14.8	7.6	2600.0	"	"
3,417	282	"		GⅡ区粗掘	"	27.2	21.5	5.8	4500.0	"	"
3,418	"	"		HⅡ区粗掘	"	(20.0)	—	6.5	4000.0	"	"
3,419	283	"		HⅡb5Ⅱ層下位	"	15.5	24.0	3.7	1820.0	石英安山岩質凝灰岩	二戸市、新第三系
3,420	"	"		GⅡ区粗掘	"	16.8	12.2	9.5	3000.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,421	"	"		"	"	15.5	8.6	5.2	710.0	凝灰質砂岩	二戸郡一帯、鮮新統
3,422	284	"		"	"	23.6	17.6	17.2	7500.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,423	"	"		GⅡd2粗掘	"	30.9	18.7	6.9	1500.0	凝灰質砂岩	二戸郡一帯、鮮新統
3,424	"	"		GⅡ区粗掘	"	17.1	15.7	8.5	1655.0	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統



表39 石器計測一覧表(33)

遺物 番号	図 版		遺 構 名	出 土 地 点	器 種	計 測 値				石 質	生成年代・その他
	実測	写真				長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
3,425	285	233		G II区粗掘	石皿	24.5	—	6.8	4500	輝石安山岩	奥羽山地、新第三系中新統
3,426	"	"		"	"	29.8	23.0	15.6	14500		"
3,427	286	234		"	"	29.1	27.8	15.8	15000	"	"
3,428	"	"		"	"	22.3	22.9	12.1	6000	"	"
3,429	287	"		H II区粗掘	"	16.0	15.3	8.0	3000	"	"
3,430	"	"		H II区粗掘	"	18.1	10.6	13.8	5500	"	"
3,431	"	"		G II区粗掘	"	21.6	18.9	8.1	3500	細粒凝灰岩	二戸市、中新統

## V <sup>おお</sup> <sup>た</sup> 太 田 遺 跡

所 在 地 二戸市福田字野場塚1ほか  
委 託 者 日本道路公団仙台建設局 一戸工事事務所  
発掘調査期間 昭和61年4月14日～5月10日  
調査対象面積 890㎡  
発掘調査面積 890㎡  
遺跡番号・略号 JE18-2287・OT-86  
調査担当者 石川長喜・田鎖壽夫  
協力機関 二戸市教育委員会

## 1. 調査の結果

調査区域は東西約50m、南北約20mの890㎡である。現状は畑地及び土捨場で、標高250mほどである。

調査の結果、調査区の中央と東側から埋没した谷を確認した以外に遺構の検出はなかった。中央の埋没谷は崩落したとみられる風化土に被われた谷頭で、幅が8m、深さが2.5m以上の急激に落ちる深い谷である。東側の谷は道路北側から調査区東端に続く幅7m、深さ1.3mほどの浅い谷であった。

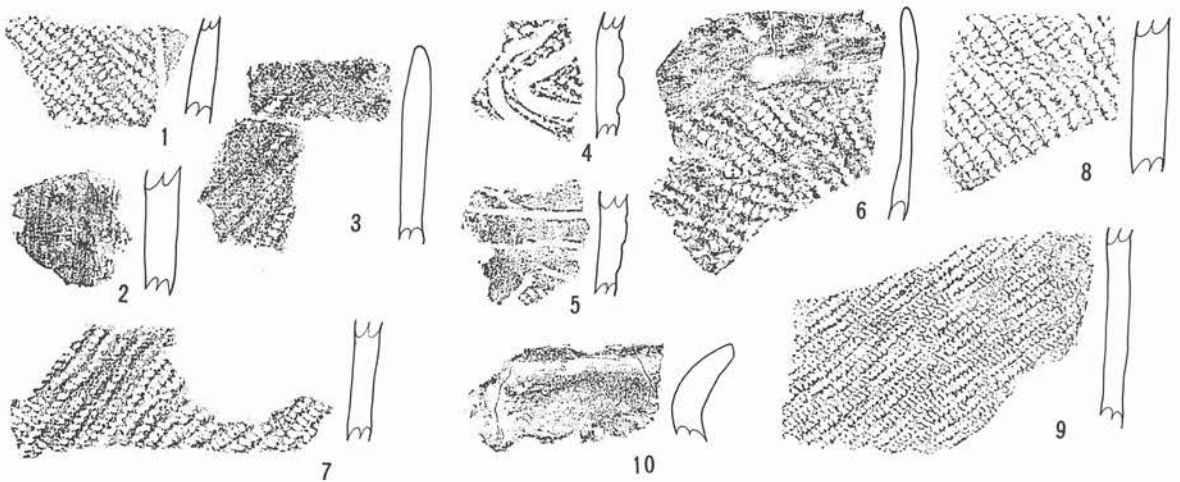
発見された遺物は縄文土器54点、土師器1点、陶磁器2点で、主に東側の埋没谷の埋土から発見されたものである。

縄文土器はいずれも破片で、器形の捉えられるものはない。1・2は縦方向の磨消帯をもち、4・5は直線あるいは曲線で区画された磨消帯をもつ。3・6～9はRL、LRの単節斜行縄文である。このうち6・8は口縁部破片で、6は口縁部に無文帯をもつ。これらの土器は破片のため断定できないが中期～後期に属するものようである。

土師器10は甕の口縁部破片である。若干歪んでいるがロクロ成形されている。陶磁器は紅皿の一部分である。

## 2. まとめ

本調査では、遺構が検出されなかったが、埋没谷から流入した縄文土器等が発見されており、調査範囲外の高位面に遺跡の主体があったものと推定される。



第289図 太田遺跡出土遺物

---

---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第123集

## 馬立 I ・ 太田遺跡発掘調査報告書

東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査

(第1分冊)

印刷 昭和63年3月25日

発行 昭和63年3月30日

発行 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020 岩手県紫波郡都南村大字下飯岡11-185

電話 (0196) 38-9001~2

印刷 川嶋印刷株式会社

〒020 盛岡市中央通2-3-10

電話 (0196) 51-5373